

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第210集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第38集

なが ね あ づ ぼ
長根安坪遺跡

——縄文～平安時代集落・安坪古墳群の調査——

1997

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県教育委員会

日本道路公団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第210集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第38集

なが ね あ づ ぼ
長根安坪遺跡

——縄文～平安時代集落・安坪古墳群の調査——

1 9 9 7

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群 馬 県 教 育 委 員 会

日 本 道 路 公 団



序

関越自動車道藤岡ジャンクションから分岐して長野県に向かう上信越自動車道は、平成8年11月に長野市まで開通するところとなりました。この高速自動車道は、群馬西部の藤岡市から富岡市にかけては鑛川が形成した河岸段丘と、それに連なる穏やかな丘陵上を走り、ドライバーの人々に美しい「甘楽の谷」の景観を楽しませています。

この甘楽の谷の丘陵上には、古代からの数多くの人々の営みを知ることができます。本報告書による多野郡吉井町の長根安坪遺跡も数多くの古墳が分布し、安坪古墳群として知られています。

発掘調査では古墳や方形周溝墓とよぶ墳墓、縄文時代から平安時代に至るまでの数多くの住居跡など明らかにされ、地域の歴史を解明する上で貴

重な資料を得ることができました。

その成果を収録した本書の刊行されたことにより、研究者をはじめ、地域の社会教育・学校教育に活用され、この地域の歴史解明の一助になれば幸いに存じます。

また、発掘調査・整理事業を行うにあたって、日本道路公団・群馬県教育委員会・吉井町教育委員会をはじめとして、関係された諸機関の皆様の暖かいご援助・ご協力に厚く感謝し、序といたします。

1997(平成9)年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之





長根安坪遺跡は、群馬県多野郡吉井町大字長根に所在する。多野郡吉井町は、その北部を安中市および高崎市に隣し、東部から南方にかけて藤岡市と接し、西方には甘楽町と富岡市に接している。そして町の中心部を鏡川が西から東に蛇行しつつ緩やかに流れ、その南北両側には河岸段丘が形成されている。

当遺跡北方2.6kmの所を東流している鏡川は、上信国境に連なる荒船山・八風山に源を発し、西牧川・南牧川となって下仁田町の川井付近で合流し鏡川となる。そして、さらに東流しつつ小河川を集めながら吉井町で大沢川・矢田川・土合川などの支流を合わせ、高崎市倉賀野付近で利根川の支流の鳥川と合流する。この地域における分水界は南北幅およそ18.7km、東西幅41.5kmである。この鏡川流域は「かぶらの谷」と通称されており、右岸下流域と左岸の一部に河岸段丘が確認される。河岸段丘は、上位段丘面と下位段丘面とで構成されており、特に右岸に発達している。

当遺跡は、その鏡川的作用によって形成された長根(165~190m)段丘と呼ばれる上位段丘上に所在する。河床よりの比高60mもあり、多胡段丘との崖の差25mほどである。





J-3号住居跡遺物出土状況

長根安坪遺跡検出の遺構群

J—は縄文時代

Y—は弥生時代

H—は古墳時代～平安時代を表示



3号墳



2号墳裏込被覆状況

Y-1号住居跡



Y-1号住居跡遺物出土状況



J-7号住居跡遺物出土状況



弧状列石



列石下土坑



方形周溝墓群



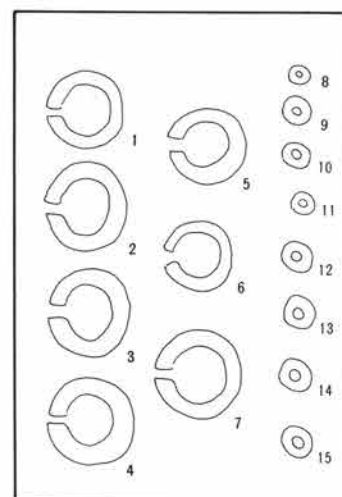
H-5号住居跡

第140・141号土坑



14号土坑





1. 2号墳玄室内(第221図12)
2. 2号墳玄室内(第221図13)
3. 2号墳石室内(第221図14)
4. 3号墳石室内(第228図3)
5. 3号墳石室内(第228図4)
6. 3号墳石室内(第228図5)
7. 3号墳石室内(第228図6)
8. 2号墳石室床面(第221図18)
9. 2号墳石室床面(第221図21)
10. 2号墳石室床面(第221図20)
11. 2号墳石室床面(第221図22)
12. 2号墳石室内(第221図19)
13. 2号墳石室内(第221図15)
14. 2号墳石室内(第221図17)
15. 2号墳石室床面(第221図16)



〔編集〕

菊池 実

〔執筆者〕

平野進一 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団)

石塚久則 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団)

友廣哲也 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団)

パリオ・サーヴェイ株式会社

中野寛子 (株式会社ズコーシャ)

福島道広 (株式会社ズコーシャ)

長田正宏 (株式会社ズコーシャ)

中野益男 (帯広畜産大学)

菱田 量 (パレオ・ラボ)

藤根 久 (パレオ・ラボ)

宮崎重雄 (群馬県立大間々高等学校)

菊池 実

〔写真撮影〕

佐藤元彦 (遺物写真 群馬県埋蔵文化財調査事業団
主任技師)

シン航空写真株式会社 (航空写真)

国際航業株式会社 (航空写真)

遺構写真は現場担当者が撮影

〔測量・トレース〕 〔打製石斧実測・トレース〕

株式会社 測研 有限会社 アルカ

〔保存科学〕

関 邦一 (群馬県埋蔵文化財調査事業団主任技師)

土橋まり子 (// 非常勤嘱託員)

小材 浩一 (// 補助員)

小沼 恵子 (// 補助員)

萩原 妙子 (// 補助員)

〔器械実測班〕

長沼久美子 伊藤 淳子 岩渕 節子 萩原 光枝

立川千栄子 千代谷和子 南雲 富子 光安 文子

〔整理補助員〕

佐藤美代子 田村 栄子 高橋とし子 藤井 文江

矢野 純子 酒井 史恵 都丸美奈子 鶴岡真希子

阿久津久子

〔事務 調査時〕

関越道上越線調査事務所長

井上 信

総括次長 片桐 光一

次 長 原田 恒弘 (昭和62年度)

// 徳江 紀 (昭和63年度)

庶務課

主 任 国定 均 (昭和63年度)

庶務課臨時職員

山崎 郁雄 神戸市四郎 町田 康子

本城 美樹

〔事務 整理時〕

常務理事 中村 英一 (平成6・7年度)

// 菅野 清 (平成8年度)

事務局長 近藤 功 (平成6年度)

// 原田 恒弘 (平成7・8年度)

管理部長 蜂巢 実 (平成6～8年度)

調査研究部長 神保 侑史 (平成6～8年度)

// 赤山 容造 (平成8年度)

調査研究第2課長

岸田 治男 (平成6・7年度)

調査研究第1課長

平野 進一 (平成8年度)

総務課長 小淵 淳

総務係長 笠原 秀樹

主任 須田 朋子

主事 宮崎 忠司

経理係長 国定 均

主任 吉田 有光

主任 柳岡 良宏

主事 高橋 定義 (平成6・7年度)

非常勤嘱託 大澤 友治

吉田恵子・松井美智代・内山佳子・星野美智子・羽

鳥京子・菅原淑子・若田誠・山口陽子・佐藤美佐子

〔発掘調査従事者 敬称略〕

秋山いね子 浅香重作 浅香春造 新井英子 新井

菊江 新井重雄 新井初五郎 新井種次 新井ミツ

新井美代 安藤セン 安藤ハツ江 飯塚静枝 飯塚

なつ 飯塚豊作 飯塚りき 飯間操 井田松寿 井

上静江 井野口久代 岩井英治 岩井幸雄 岩井み

ち子 上原一夫 浦辺重代 江原秋枝 江原恵子

太田順子 小笠原直子 小柏きみ子 岡村クワ 笠

原正五 清塚恵美子 大野かつ子 加藤あい子 金

田エミ子 金田和子 金田キヨ子 金田匡子 金田

すみ子 加部幸子 神山青示 川崎昇 工藤博子

久保みち子 熊井戸和子 熊崎ミト 黒澤利次 黒

澤富久子 黒澤広 小林和子 小林忠男 小林延子

斎藤隆男 斎藤はつ江 斎藤リン 斎藤吉江 酒井

八郎 左堀利政 設楽う志 設楽とめ 設楽弘子

設楽まつ江 設楽光子 篠崎かほる 篠原京子 清

水きよ子 鈴木金雄 鈴木ふじ江 鈴木みや 砂賀

守一 関口治郎 関口とみ子 関口正雄 清水道雄

神宮儀一 神宮政江 高木甚三郎 高木とり 谷川

あさ子 高間幸子 高間まき 高橋栄子 高橋加市

田中富子 田村梅之祐 田村嘉三郎 田村かめ 田

村ふみ 登坂正 長岡あや子 長岡三郎 中野セツ

中野初次郎 中野利一 中野利太郎 中村奈津 中

村保男 西カメ子 野口栄一 野口勝巳 野口たか

かね 野口初枝 橋本メ雄 福田亥十郎 福田一男

布瀬川千代松 布瀬川なつ子 保坂佳津美 堀口巖

真下昭 真下ちる 真下泰 増田道雄 牧野マサ江

松井晶子 松井昭子 松井シズ江 松井留男 松井

洋子 丸澤君枝 宮崎ふく 宮田本春 宮前美恵子

森千代子 森平文男 森平玲子 山崎章子 山崎和

子 山崎甲子郎 山崎文輝 山崎米子 山田けさ子

山田茂樹 山田タケ 山田長治 吉田篤 吉田さく

渡辺一女 渡辺武江

〔例言・凡例〕

例 言

1. 本書は、関越自動車道(上越線)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書に所収の遺跡名と発掘調査地の所在地番は以下のとおりである。
長根安坪(ながねあづば)遺跡
多野郡吉井町長根字安坪・西場脇 他
3. 発掘した遺跡の調査期間と調査面積は以下のとおりである。
1988(昭和63)年1月5日～1989(平成元)年2月28日
面積 17,538㎡
4. 発掘調査は日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
5. 実際の調査にあたっては、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された関越道上越線調査事務所(多野郡吉井町南陽台3-15-8所在)が担当した。
調査担当者は以下のとおりである。
依田 治雄(昭和62年度)
菊池 実(昭和62・63年度)
飯塚 聡(昭和62年度)
綿貫鋭次郎(昭和63年度)
亀山 幸弘(昭和63年度)
田口 政美(昭和63年度)
6. 出土遺物の整理作業・報告書作成期間は以下のとおりである。
1994(平成6)年4月1日～1996(平成8)年12月16日までの2年9ヵ月。
整理担当者 菊池 実(専門員)
7. 本文執筆は菊池を中心に各執筆者間で協議して行い、本文執筆の文責については目次に記した。
8. 当遺跡の内容をより詳細に浮き彫りする意図で、次の各位に資料の分析・測定を依頼し、その分析・測定結果の玉稿を賜った。
重鉍物分析・軽鉍物分析及び屈折率測定
パリノ・サーヴェイ株式会社
残存脂肪分析 中野寛子(株式会社 ズコーシャ)
福島道広(株式会社 ズコーシャ)
長田正宏(株式会社 ズコーシャ)
中野益男(帯広畜産大学)

弥生土器および須恵器の化学分析

菱田 量・藤根 久(パレオ・ラボ)

人骨・歯の鑑定

宮崎重雄(県立大間々高等学校)


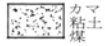





石材鑑定

陣内主一(県立自然科学資料館)

9. 発掘調査および出土遺物整理にあたっては、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。(敬称略)
吉井町教育委員会・甘楽町教育委員会・緑川順・陣内主一・藤根久・石塚久則・石部正志・今井堯・小田沢佳之・金井安子・菊池誠一・桐生直彦・小宮俊久・十菱駿武・勅使河原彰・時枝務・角張淳一
10. 出土遺物・函面・写真・記録等の資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 本書中の遺構番号は、発掘調査時に付したものをそのまま使用している。ただし、Y-4号住居跡については、整理作業の結果、H-48号住居跡に変更。
2. 本書の遺構・遺物挿図の指示は次のとおりである。
 - (1) 挿図縮尺
竪穴住居跡・掘立柱建物跡……1/60
土壌・屋外埋設土器 ……1/40
方形周溝墓・古墳 ……1/100
土器実測図 ……1/3, 1/4, 1/6
石器実測図 ……2/3, 1/3, 1/4, 1/6
鉄器実測図 ……1/2, 1/3, 1/4
全体図 ……1/800
付図 ……1/700
 - (2) 遺構図の方位記号は国家座標の北を表している。座標系は国家座標第IX系である。
 - (3) 水糸レベルは標高を示す。
 - (4) 遺物番号は本文、挿図、表と一致する。
 - (5) 挿図中のスクリーントーンの指示は、次のとおりである。

	表土		カマド 粘土 煤		焼土		ローム ブロック
	内黒		漆		磨面		
 - (6) 色調については、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、新版標準土色帖(1976)に基づいている。また、古墳出土のガラス玉については武井邦彦著『日本色彩事典』(1978)によった。
3. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の5万分の1(「富岡」「高崎」)地形図を使用した。

目次

本文目次

插图目次

長根安坪遺跡調査報告書目次

序文

口絵

例言・凡例

序章 調査の経過 (平野進一・菊池 実)

- 〔1〕 調査に至る経緯…… 2
- 〔2〕 調査の経過 (日誌) …… 3
- 〔3〕 調査の方法…… 5

1章 遺跡の立地と環境 (菊池 実)

- 〔1〕 位置と地理的環境…… 8
- 〔2〕 歴史的環境……10

2章 縄文時代の遺構と遺物 (菊池 実)

- 〔1〕 竪穴住居跡
 - J-1号住居跡……19 J-2号住居跡……20 J-3号住居跡……23
 - J-4号住居跡……33 J-5号住居跡……35 J-6号住居跡……45
 - J-7号住居跡……48 J-8号住居跡……51 J-9号住居跡……54
 - J-10号住居跡……55 J-11号住居跡……56 J-12号住居跡……57
- 〔2〕 列石・配石遺構
 - 1号配石(列石下土壇)……60
 - 2号配石……72
- 〔3〕 屋外埋設土器……73
- 〔4〕 土坑……75～106
 - 18号・19号・21号・24号・27号・30号・31号・39号・43号・45号・46号・49号・
 - 51号～55号・57号・58号・63号・67号・69号・71号～73号・75号・76号・78号・
 - 79号・96号・97号・101号・106号～112号・117号・118号・121号～123号・133号・
 - 138号・147号・157号・160号～167号・169号～171号・177号～179号・181号・182
 - 号・184号・187号・188号・193号～195号・199号・202号～209号・211号・212号・
 - 214号・215号・217号～219号・220号～222号・225号～227号・229号～255号

3章 弥生時代の遺構と遺物 (菊池 実)

〔1〕 竪穴住居跡

Y-1号住居跡……109	Y-2号住居跡……115	Y-3号住居跡……118
Y-5号住居跡……120	Y-6号住居跡……128	Y-7号住居跡……132
Y-8号住居跡……134	Y-9号住居跡……140	Y-10号住居跡……143
Y-11号住居跡……146	Y-12号住居跡……148	Y-13号住居跡……151
Y-14号住居跡……154	Y-15号住居跡……158	Y-17号住居跡……160
Y-18号住居跡……163	Y-19号住居跡……168	Y-20号住居跡……170
Y-21号住居跡……171	Y-22号住居跡……172	Y-23号住居跡……176
Y-24号住居跡……180	Y-25号住居跡……184	Y-26号住居跡……188
Y-27号住居跡……190	Y-28号住居跡……194	Y-30号住居跡……198
Y-31号住居跡……199	Y-32号住居跡……201	Y-33号住居跡……207
Y-34号住居跡……212	Y-35号住居跡……215	Y-37号住居跡……216
Y-38号住居跡……218		

〔2〕 土坑……219～237

14号・15号・20号・74号・22号・62号・84号・103号・125号～127号・139号・
140号・141号・198号・216号・246号・256号

4章 古墳・奈良・平安時代の遺構と遺物 (菊池 実)

〔1〕 方形周溝墓

1号方形周溝墓……242	2号方形周溝墓……242	3号方形周溝墓……243
4号方形周溝墓……246	5号方形周溝墓……248	6号方形周溝墓……248
7号方形周溝墓……252	8号方形周溝墓……253	9号方形周溝墓……255
10号方形周溝墓……256	11号方形周溝墓……258	12号方形周溝墓……259
13号方形周溝墓……261	14号方形周溝墓……262	

〔2〕 古墳

1号墳……266	2号墳……270	3号墳……280
4号墳……289	5号墳……289	6号墳……291
7号墳……295	8号墳……297	9号墳……303
10号墳……305	11号墳……307	12号墳……311
13号墳……315	14号墳……317	15号墳……317

〔3〕 竪穴住居跡

H-1号住居跡～H-10号住居跡……325～352
H-11号住居跡～H-20号住居跡……352～379

H-21号住居跡～H-30号住居跡……379～398
H-31号住居跡～H-40号住居跡……399～422
H-41号住居跡～H-51号住居跡……422～444

〔4〕 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡…445	2号掘立柱建物跡…445	3号掘立柱建物跡…445
4号掘立柱建物跡…445	5号掘立柱建物跡…445	6号掘立柱建物跡…445
7号掘立柱建物跡…446	8号掘立柱建物跡…446	9号掘立柱建物跡…446
10号掘立柱建物跡…446	11号掘立柱建物跡…446	12号掘立柱建物跡…446
13号掘立柱建物跡…454	14号掘立柱建物跡…453	

5章 近世・時期不明の遺構と遺物 (菊池 実)

〔1〕 土坑……458～463
17号・25号・28号・34号・35号・102号・129号・131号・124号
近世畠……464

6章 自然科学的分析

〔1〕 長根安坪遺跡試料重鉍物分析・軽鉍物分析及び屈折率測定報告……467
パリノ・サーヴェイ株式会社

〔2〕 長根安坪遺跡の土壌に残存する脂肪について……475
中野寛子(株式会社ズコーシャ)
福島道広()
長田正宏()
中野益男(帯広畜産大学)

〔3〕 長根安坪遺跡出土弥生赤彩土器および須恵器の科学分析……485
菱田 量・藤根 久(パレオ・ラボ)

〔4〕 長根安坪遺跡出土の主に人歯について ……501
宮崎重雄(県立大間々高等学校)

7章 まとめ

〔1〕 縄文時代中期の遺構群について……510
菊池 実

〔2〕 弥生時代中期の土坑群について……514
菊池 実

〔3〕 弥生時代後期の住居跡について……518
菊池 実

〔4〕 長根安坪遺跡の周溝墓……522
友廣哲也

〔5〕 安坪古墳群の概要……524
石塚久則

〔6〕 古墳時代から平安時代の集落について……528
菊池 実

PLATES (PL.1～PL.150)

別添資料

挿 図 目 次

- 第1図 グリッド設定図
第2図 吉井町附近の河岸段丘分布図
第3図 上・鍋川流域の地質図 下・調査地周辺土性縦断面図
第4図 長根安坪遺跡と周辺遺跡
第5図 標準土層
第6図 長根安坪遺跡全体図
第7図 縄文中期住居跡と土坑の分布
第8図 J-1号住居跡
第9図 J-1号住居跡出土遺物
第10図 J-2号住居跡
第11図 J-2号住居跡出土土器
第12図 J-2号住居跡出土土器
第13図 J-3号住居跡
第14図 J-3号住居跡遺物分布
第15図 J-3号住居跡出土土器(1)
第16図 J-3号住居跡出土土器(2)
第17図 J-3号住居跡出土土器(3)
第18図 J-3号住居跡出土土器(4)
第19図 J-3号住居跡出土土器(5)
第20図 J-3号住居跡出土土器
第21図 J-4号住居跡
第22図 J-4号住居跡出土遺物
第23図 J-5号住居跡
第24図 J-5号住居跡遺物分布
第25図 J-5号住居跡出土土器(1)
第26図 J-5号住居跡出土土器(2)
第27図 J-5号住居跡出土土器(3)
第28図 J-5号住居跡出土土器(4)
第29図 J-5号住居跡出土土器
第30図 J-6号住居跡
第31図 J-7号住居跡出土遺物
第32図 J-7号住居跡
第33図 J-7号住居跡出土遺物(1)
第34図 J-7号住居跡出土遺物(2)
第35図 J-8号住居跡
第36図 J-8号住居跡出土土器
第37図 J-9号住居跡
第38図 J-10号住居跡
第39図 J-11号住居跡
第40図 J-12号住居跡
第41図 J-12号住居跡出土遺物
第42図 1号配石(列石)
第43図 1号配石(列石)遺物分布図
第44図 1号配石(列石)下土壌(1~5号)
第45図 1号配石(列石)下土壌(6号)
第46図 1号配石(列石)下土壌(7~13号)
第47図 1号配石(列石)下土壌(14・15号)
第48図 1号配石(列石)出土土器(1)
第49図 1号配石(列石)出土土器(2)
第50図 1号配石(列石)出土土器(3)
第51図 1号配石(列石)出土土器(1)
第52図 1号配石(列石)出土土器(2)
第53図 2号配石と出土土器
第54図 2号配石と出土土器
第55図 屋外埋設土器(1・3・4号)
第56図 縄文土坑(18・19・21・24・27号)
第57図 縄文土坑(30・31・39・43・45・46・49・51号)
第58図 縄文土坑(52~55・57・58・67・69・71号)
第59図 縄文土坑(72・73・75・76・78・79・96号)
第60図 縄文土坑(97・101・106~110号)
第61図 縄文土坑(111・112・117・118・121~123・133号)
第62図 縄文土坑(138・147・157・160~165号)
第63図 縄文土坑(166・167・169~171・177・178号)
第64図 縄文土坑(179・181・182・184・187・188・193・195号)
第65図 縄文土坑(199・202~209号)
第66図 縄文土坑(211・212・214・215・218・219・222号)
第67図 縄文土坑(217・220・221・225~227・229~232号)
第68図 縄文土坑(233~240号)
第69図 縄文土坑(241~250号)
第70図 縄文土坑(251~255号)
第71図 縄文土坑(18・19・24・27・30・31・39・43・45・51~53・67号)出土遺物
第72図 縄文土坑(72・73・75・76号)出土遺物
第73図 縄文土坑(76・78・79・106・138・157・170・171・179号)出土遺物
第74図 縄文土坑(188・193・199・202・208・209・211・215・218・219号)出土遺物
第75図 縄文土坑(220・221・232~235・184・214・217号)出土遺物
第76図 弥生中期土坑と後期住居跡の分布
第77図 Y-1号住居跡
第78図 Y-1号住居跡遺物分布
第79図 Y-1号住居跡出土遺物(1)
第80図 Y-1号住居跡出土遺物(2)
第81図 Y-1号住居跡出土遺物(3)
第82図 Y-2号住居跡
第83図 Y-2号住居跡遺物分布
第84図 Y-2号住居跡出土遺物(1)
第85図 Y-2号住居跡出土遺物(2)
第86図 Y-3号住居跡と出土遺物
第87図 Y-5号住居跡
第88図 Y-5号住居跡出土遺物(1)
第89図 Y-5号住居跡遺物分布
第90図 Y-5号住居跡出土遺物(2)
第91図 Y-5号住居跡出土遺物(3)
第92図 Y-5号住居跡出土遺物(4)
第93図 Y-6号住居跡
第94図 Y-6号住居跡遺物分布
第95図 Y-6号住居跡出土遺物(1)
第96図 Y-6号住居跡出土遺物(2)
第97図 Y-7号住居跡と出土遺物(1)
第98図 Y-7号住居跡出土遺物(2)
第99図 Y-8号住居跡
第100図 Y-8号住居跡遺物分布
第101図 Y-8号住居跡出土遺物(1)
第102図 Y-8号住居跡出土遺物(2)
第103図 Y-9号住居跡
第104図 Y-9号住居跡遺物分布
第105図 Y-9号住居跡出土遺物
第106図 Y-10号住居跡と出土遺物(1)
第107図 Y-10号住居跡出土遺物(2)
第108図 Y-11号住居跡
第109図 Y-11号住居跡出土遺物
第110図 Y-12号住居跡
第111図 Y-12号住居跡出土遺物(1)
第112図 Y-12号住居跡出土遺物(2)
第113図 Y-13号住居跡と遺物分布
第114図 Y-13号住居跡出土遺物
第115図 Y-14号住居跡
第116図 Y-14号住居跡遺物分布
第117図 Y-14号住居跡出土遺物
第118図 Y-15号住居跡

第119図	Y-15号住居跡出土遺物	第181図	弥生土坑(20・22・62・63・74号)出土遺物
第120図	Y-17号住居跡	第182図	弥生土坑(84・103号)出土遺物
第121図	Y-17号住居跡遺物分布	第183図	弥生土坑(126・127・140号)出土遺物
第122図	Y-17号住居跡出土遺物(1)	第184図	弥生土坑(140・141号)出土遺物
第123図	Y-17号住居跡出土遺物(2)	第185図	弥生土坑(141・198号)出土遺物
第124図	Y-18号住居跡	第186図	弥生土坑(216号)出土遺物 ※194号は縄文
第125図	Y-18号住居跡遺物分布	第187図	方形周溝墓の分布
第126図	Y-18号住居跡出土遺物(1)	第188図	1号方形周溝墓
第127図	Y-18号住居跡出土遺物(2)	第189図	1号方形周溝墓出土遺物
第128図	Y-19号住居跡と出土遺物	第190図	2号方形周溝墓
第129図	Y-20号住居跡	第191図	3号方形周溝墓
第130図	Y-21号住居跡	第192図	3号方形周溝墓出土遺物
第131図	Y-21号住居跡出土遺物	第193図	4号方形周溝墓
第132図	Y-22号住居跡	第194図	4号方形周溝墓出土遺物
第133図	Y-22号住居跡遺物分布	第195図	5号方形周溝墓出土遺物
第134図	Y-22号住居跡出土遺物(1)	第196図	5号方形周溝墓
第135図	Y-22号住居跡出土遺物(2)	第197図	6号方形周溝墓
第136図	Y-23号住居跡と出土遺物(1)	第198図	6号方形周溝墓出土遺物
第137図	Y-23号住居跡遺物分布	第199図	7号方形周溝墓
第138図	Y-23号住居跡出土遺物(2)	第200図	8号方形周溝墓
第139図	Y-23号住居跡出土遺物(3)	第201図	9号方形周溝墓
第140図	Y-24号住居跡	第202図	9号方形周溝墓出土遺物
第141図	Y-24号住居跡遺物分布	第203図	10号方形周溝墓
第142図	Y-24号住居跡出土遺物(1)	第204図	10号方形周溝墓
第143図	Y-24号住居跡出土遺物(2)	第205図	11号方形周溝墓
第144図	Y-24号住居跡出土遺物(3)	第206図	12号方形周溝墓出土遺物
第145図	Y-25号住居跡	第207図	12号方形周溝墓
第146図	Y-25号住居跡遺物分布	第208図	12号方形周溝墓
第147図	Y-25号住居跡出土遺物	第209図	13号方形周溝墓
第148図	Y-26号住居跡	第210図	14号方形周溝墓
第149図	Y-26号住居跡出土遺物	第211図	1号墳全体図
第150図	Y-27号住居跡	第212図	1号墳
第151図	Y-27号住居跡遺物分布	第213図	1号墳出土遺物
第152図	Y-27号住居跡出土遺物	第214図	2号墳全体図
第153図	Y-28号住居跡	第215図	2号墳
第154図	Y-28号住居跡遺物分布	第216図	2号墳石室
第155図	Y-28号住居跡出土遺物(1)	第217図	2号墳石室
第156図	Y-28号住居跡出土遺物(2)	第218図	2号墳石室内出土遺物
第157図	Y-30号住居跡	第219図	2号墳礫地形
第158図	Y-31号住居跡と出土遺物	第220図	2号墳出土遺物(1)
第159図	Y-32号住居跡出土遺物(1)	第221図	2号墳出土遺物
第160図	Y-32号住居跡と出土遺物(2)	第222図	3号墳全体図
第161図	Y-32号住居跡遺物分布	第223図	3号墳
第162図	Y-32号住居跡出土遺物(3)	第224図	3号墳石室
第163図	Y-32号住居跡出土遺物(4)	第225図	3号墳石室
第164図	Y-33号住居跡	第226図	3号墳石室内遺物出土状況
第165図	Y-33号住居跡遺物分布	第227図	3号墳礫地形
第166図	Y-33号住居跡出土遺物(1)	第228図	3号墳出土遺物
第167図	Y-33号住居跡出土遺物(2)	第229図	4号墳
第168図	Y-34号住居跡	第230図	5号墳
第169図	Y-34号住居跡出土遺物	第231図	6号墳出土遺物(1)
第170図	Y-35号住居跡	第232図	6号墳出土遺物(2)
第171図	Y-35号住居跡出土遺物	第233図	6号墳
第172図	Y-37号住居跡	第234図	7号墳と出土遺物
第173図	Y-37号住居跡出土遺物	第235図	7号墳
第174図	Y-38号住居跡	第236図	8号墳
第175図	弥生土坑(14・15・20・74号) ※194号は縄文	第237図	8号墳出土遺物(1)
第176図	弥生土坑(74・22・62・84号) ※63号は縄文	第238図	8号墳
第177図	弥生土坑(103・124・125・126号) ※124号は時期不明	第239図	8号墳出土遺物(2)
第178図	弥生土坑(127・139・140・141号)	第240図	9号墳と出土遺物
第179図	弥生土坑(198・216・256号)	第241図	9号墳
第180図	弥生土坑(14・15・20号)出土遺物	第242図	10号墳出土遺物

- 第243図 10号墳
 第244図 11号墳と出土遺物(1)
 第245図 11号墳出土遺物(2)
 第246図 11号墳
 第247図 12号墳
 第248図 12号墳出土遺物
 第249図 12号墳
 第250図 13号墳
 第251図 13号墳
 第252図 14号墳
 第253図 15号墳
 第254図 14号墳
 第255図 15号墳出土遺物
 第256図 古墳～平安時代の住居跡分布
 第257図 H-1号住居跡
 第258図 H-1号住居跡掘り方とカマド
 第259図 H-1号住居跡出土遺物(1)
 第260図 H-1号住居跡出土遺物(2)
 第261図 H-2号住居跡
 第262図 H-2号住居跡出土遺物(1)
 第263図 H-2号住居跡出土遺物(2)
 第264図 H-3号住居跡
 第265図 H-3号住居跡掘り方とカマド
 第266図 H-3号住居跡出土遺物
 第267図 H-4号住居跡
 第268図 H-4号住居跡掘り方
 第269図 H-4号住居跡出土遺物
 第270図 H-5号住居跡
 第271図 H-5号住居跡掘り方
 第272図 H-5号住居跡出土遺物(1)
 第273図 H-5号住居跡出土遺物(2)
 第274図 H-6号住居跡と出土遺物
 第275図 H-7号住居跡
 第276図 H-7号住居跡出土遺物
 第277図 H-8号住居跡
 第278図 H-8号住居跡掘り方
 第279図 H-8号住居跡出土遺物
 第280図 H-9号住居跡
 第281図 H-9号住居跡出土遺物
 第282図 H-10号住居跡と掘り方
 第283図 H-10号住居跡出土遺物
 第284図 H-11号住居跡と掘り方
 第285図 H-11号住居跡出土遺物
 第286図 H-12号住居跡
 第287図 H-12号住居跡(カマド・掘り方)と出土遺物
 第288図 H-13号住居跡
 第289図 H-13号住居跡(カマド・掘り方)と出土遺物
 第290図 H-13号住居跡出土遺物
 第291図 H-14号住居跡と出土遺物
 第292図 H-14号住居跡掘り方
 第293図 H-15号住居跡と出土遺物
 第294図 H-16号住居跡
 第295図 H-16号住居跡出土遺物
 第296図 H-17号住居跡
 第297図 H-17号住居跡カマド
 第298図 H-17号住居跡出土遺物(1)
 第299図 H-17号住居跡出土遺物(2)
 第300図 H-16・17号住居跡掘り方
 第301図 H-18号住居跡
 第302図 H-18号住居跡カマド・掘り方
 第303図 H-18号住居跡出土遺物
 第304図 H-19号住居跡
 第305図 H-19号住居跡カマド・掘り方
 第306図 H-19号住居跡出土遺物
 第307図 H-20号住居跡カマド
 第308図 H-20号住居跡
 第309図 H-20号住居跡掘り方
 第310図 H-20号住居跡出土遺物(1)
 第311図 H-20号住居跡出土遺物(2)
 第312図 H-21号住居跡と出土遺物
 第313図 H-22号住居跡
 第314図 H-23号住居跡と出土遺物
 第315図 H-24号住居跡
 第316図 H-24号住居跡出土遺物
 第317図 H-25号住居跡カマド
 第318図 H-25号住居跡
 第319図 H-25号住居跡掘り方
 第320図 H-25号住居跡出土遺物(1)
 第321図 H-25号住居跡出土遺物(2)
 第322図 H-25号住居跡出土遺物(3)
 第323図 H-26号住居跡と出土遺物
 第324図 H-27号住居跡
 第325図 H-27号住居跡出土遺物
 第326図 H-28号住居跡
 第327図 H-28号住居跡カマド
 第328図 H-28号住居跡出土遺物
 第329図 H-29号住居跡
 第330図 H-29号住居跡掘り方と出土遺物
 第331図 H-30号住居跡
 第332図 H-31号住居跡
 第333図 H-31号住居跡掘り方
 第334図 H-31号住居跡出土遺物(1)
 第335図 H-31号住居跡出土遺物(2)
 第336図 H-32・33号住居跡遺物分布
 第337図 H-32・33号住居跡
 第338図 H-32号住居跡出土遺物(1)
 第339図 H-32号住居跡出土遺物(2)
 第340図 H-34号住居跡
 第341図 H-34号住居跡カマド・掘り方
 第342図 H-34号住居跡出土遺物(1)
 第343図 H-34号住居跡出土遺物(2)
 第344図 H-35号住居跡
 第345図 H-35号住居跡掘り方
 第346図 H-35号住居跡出土遺物(1)
 第347図 H-35号住居跡出土遺物(2)
 第348図 H-36号住居跡
 第349図 H-36号住居跡掘り方
 第350図 H-36号住居跡出土遺物(1)
 第351図 H-36号住居跡出土遺物(2)
 第352図 H-37号住居跡
 第353図 H-37号住居跡出土遺物
 第354図 H-38号住居跡
 第355図 H-38号住居跡掘り方
 第356図 H-38号住居跡出土遺物
 第357図 H-39号住居跡
 第358図 H-40号住居跡と出土遺物(1)
 第359図 H-40号住居跡出土遺物(2)
 第360図 H-41号住居跡と掘り方
 第361図 H-41号住居跡出土遺物
 第362図 H-42号住居跡
 第363図 H-42号住居跡掘り方
 第364図 H-42号住居跡出土遺物(1)
 第365図 H-42号住居跡出土遺物(2)
 第366図 H-43号住居跡

第367図 H-43号住居跡出土遺物
第368図 H-45号住居跡
第369図 H-46号住居跡
第370図 H-47号住居跡
第371図 H-47号住居跡出土遺物
第372図 H-49号住居跡
第373図 H-50号住居跡
第374図 H-50号住居跡
第375図 H-51号住居跡
第376図 H-51号住居跡カマド・貯蔵穴
第377図 H-51号住居跡出土遺物(1)
第378図 H-51号住居跡出土遺物(2)
第379図 H-51号住居跡出土遺物(3)
第380図 H-48号住居跡
第381図 H-48号住居跡遺物分布
第382図 H-48号住居跡出土遺物
第383図 1号掘立柱建物跡
第384図 3号掘立柱建物跡

第385図 2号掘立柱建物跡
第386図 4号掘立柱建物跡
第387図 5号掘立柱建物跡
第388図 6号掘立柱建物跡
第389図 7号掘立柱建物跡
第390図 8号掘立柱建物跡
第391図 9号掘立柱建物跡
第392図 10号掘立柱建物跡
第393図 11号掘立柱建物跡
第394図 12号掘立柱建物跡
第395図 14号掘立柱建物跡
第396図 13号掘立柱建物跡
第397図 その他の時期の土坑 (17・25・28・34号)
第398図 その他の時期の土坑 (35・102・129・131号)
第399図 その他の時期の土坑 (1号集石)
第400図 出土銭貨
第401図 近世畠

[1]

図1 長根安坪遺跡のテフラ分析試料の層位
表1 試料番号1-5の重鉍物組成
表2 長根安坪遺跡のテフラの屈折率
表3 試料番号6-10の軽鉍物組成
図2 試料番号1-5の重鉍物組成ダイヤグラム
図3 試料番号6-10の軽鉍物組成ダイヤグラム

[2]

図1-1 1号配石(列石)
図1-2 土壇①および②内外からの土壇試料採取地点
図1-3 土壇⑤および⑥内外からの土壇試料採取地点
表1 土壇試料の残存脂肪抽出量
表2 土壇試料に分布するコレステロールとシテステロールの割合
図2-1 土壇①の土壇試料に残存する脂肪の脂肪酸組成
図2-2 土壇②の土壇試料に残存する脂肪の脂肪酸組成
図2-3 土壇⑤の土壇試料に残存する脂肪の脂肪酸組成
図2-4 土壇⑥の土壇試料に残存する脂肪の脂肪酸組成

図3-1 土壇①の土壇試料に残存する脂肪のステロール組成
図3-2 土壇②の土壇試料に残存する脂肪のステロール組成
図3-3 土壇⑤の土壇試料に残存する脂肪のステロール組成
図3-4 土壇⑥の土壇試料に残存する脂肪のステロール組成
図4 土壇試料に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図
図5 土壇試料に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

[3]

表1 弥生土器および須恵器
図1 弥生土器赤色顔料の蛍光X線スペクトル
表2 弥生後期赤彩土器および須恵器胎土の粒子組成表
図2 弥生後期赤彩土器および須恵器胎土の粒子組成図
表3 胎土中粒子に関する相関行列の固有値・固有ベクトルおよび寄与率・累計寄与率
図3 弥生後期赤彩土器および須恵器胎土の第1-第2主成分散布図
図版1. 土器胎土中の粒子顕微鏡写真
図版2. 土器胎土中の粒子顕微鏡写真

序章 調査の経過



現場の除雪作業

〔1〕

調査に至る経緯

関越自動車道上越線（上信越自動車道）は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道である。路線は東京都練馬～群馬県藤岡市まで関越自動車道新潟線と併用し、群馬西部の藤岡J Cから藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・妙義町・松井田町・下仁田町を経て長野県佐久市に至り、長野県内を通過して新潟県上越市までの約280kmに及んでいる。

平成5年3月に藤岡インターから佐久インター間が開通したが、その間は約69kmである。この上越線建設事業にかかわり多くの遺跡が発掘調査されたが、調査の経緯について要約すると次のとおりである。

（1）路線の決定

昭和47年、関越自動車道上越線（群馬県藤岡市～長野県佐久市間）の基本計画が策定され、同54年に建設大臣から日本道路公団へ施行命令が行われている。昭和56年、藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町・松井田町（東部）の路線が発表され、同57年に松井田町・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。

（2）発掘調査に至る経過

昭和49年度

群馬県教育委員会（以下県教委）は県企画部幹線交通対策課に対して、路線文化財保護法の遵守、指定文化財をさける等、文化財に関係する事項について協議を行った。

昭和55年度

県教委文化財保護課は路線及びその周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を実施した。その結果は同年3月藤岡市～松井田町間、同年11月に松井田町～下仁田町間の包蔵地としてまとめ、群馬県（企画部交通対策課）から「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として報告した。

昭和59年度

建設事業の具体化に伴い、日本道路公団から埋蔵

文化財の取り扱いについての依頼を受けた県教委文化財保護課は路線内の詳細な分布調査を行った。

昭和60年度

県教委文化財保護課は分布調査の結果に基づき、包蔵地を濃い分布地、淡い分布地、試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査想定面積を約100万㎡、55遺跡とする回答を日本道路公団に行った。また、調査の基本方針を次のように策定した。

①発掘調査は昭和61～66年の6年間とする。後に昭和65年度（平成2年）の5年間に変更した。

②発掘調査の中核機関となる財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が藤岡市～富岡市の約76万㎡を担当し、他の22万㎡は関係市町村で調査会を組織し対応するものとする。

③埋文事業団は発掘調査の円滑化を図るため上越線調査事務所を開設し、整理事業も合わせて行うものとする。

なお、調査の実施にあたり、日本道路公団と県教委は年度毎に委託契約を締結する。県教委はそれを受けて埋文事業団、関係市町村の遺跡調査会に対して再委託契約を締結するものとした。

（3）発掘調査の実施

昭和61年4月、群馬県埋蔵文化財調査事業団は、多野郡吉井町南陽台に「上越線調査事務所」を開所した。発掘調査にあたり当初は4班15人体制としたが、その後、逐次調査体制の拡充・整備につとめ、最終年度にあたる平成2年には12班45人体制に増員している。その中で安坪遺跡の発掘調査は、昭和63年1月から平成元年2月28日の1年2ヶ月にわたり実施するところとなった。

〔2〕

調査の経過(日誌)

1988(昭和63)年

- 1月18日 本日から調査を開始。発掘区の設定。
 1月19日～22日 バックホーにて抜根作業と表土剥ぎ作業。事務所南側調査区で住居跡等を確認。
 1月25日～29日 バックホーによる表土剥ぎ作業と遺構確認作業を継続する。
 1月30日 神保富士塚遺跡にて調査課会議。
 2月1日～5日 バックホーによる表土剥ぎ作業と遺構確認作業。縄文住居跡と古墳の周堀確認。1号方形周溝墓の調査開始。
 2月8日～12日 弥生住居跡と1号・2号方形周溝墓の調査継続。
 2月15日～19日 検出した縄文住居跡については、J-番号を付し、同様に弥生住居跡をY-、古墳～平安住居跡をH-とした番号を付けた。Y-1・2号住居跡、H-1～6号住居跡の調査。
 2月22日～26日 依田治雄・飯塚聡両名現場に復帰。J-1号住居跡、Y-1～3号住居跡、H-1～8号住居跡、1・2号方形周溝墓調査。
 2月27日 当事務所にて調査課会議。
 2月29日 Y-3号住居跡、H-3～8号住居跡、3号方形周溝墓の調査。
 3月1日～5日 土器洗いと注記作業。実績報告書の作成。
 3月7日～11日 縄文配石遺構の掘り下げ、Y-1・2号住居跡、H-3～5・11～18号住居跡、1～3号方形周溝墓の調査。
 3月14日～19日 J-1・2号住居跡、配石、Y-1・2号住居跡、H-1～8・11～20号住居跡、土坑1～7号調査。
 3月24日 昭和62年度最終作業日につき、調査地域の清掃、後片付け等を行う。
- ### 1988(昭和63)年度
- 4月13日 調査準備のための諸作業を行う。今年度の担当は綿貫・菊池・亀山の3名である。
 4月14日～16日 バックホーによる表土剥ぎ作業。
 4月18日～22日 表土剥ぎ作業と遺構確認作業。昨年度調査区の精査。
 4月25日～28日 2号配石遺構、Y-7号住居跡、1・3号方形周溝墓、H-1・2・4・8号住居跡、1号墳の表土除去。
 5月2日・6日 1号墳写真撮影。
 5月9日～11日 作業員に対する労働安全衛生講話。3号方形周溝墓、1号墳調査。D区西端の掘り下げ。
 5月16日～20日 C区担当は菊池、D区担当は綿貫・亀山で調査を行う。C区の調査は3号方形周溝墓、1号墳・4号墳。D区は攪乱土坑、近世の畠跡の調査。

- 5月23日～27日 作業員の健康診断。C区の調査はY-6号住居跡、3号方形周溝墓、1号墳。D区は遺構確認を中心に5号墳の周堀と14・15号土坑の調査を行う。
 5月30日～6月3日 C区-縄文中期の住居跡を検出。Y-5・6号住居跡、1号墳の調査。D区-5・7号墳の周堀、15号土坑の調査。
 6月6日～10日 C区-Y-9号住居跡、1・8号墳調査。D区-H-27号住居跡、5・7・9号墳周堀、15号土坑の調査。
 6月11日 白石大御堂遺跡において調査課会議。
 6月13日～17日 C区-Y-6・9号住居跡、H-29号住居跡、1・6号墳の調査。D区-H-27号住居跡、5・7・9・10号墳、14号土坑の調査。
 6月20日～24日 C区-J-3・4号住居跡、Y-13号住居跡、H-29・30号住居跡、4・6号墳の調査。D区-5・7・10号墳の周堀、1号掘立の調査。
 6月27日～7月1日 C区-J-4・5号住居跡、H-29号住居跡、6号墳の調査。D区-Y-8・14号住居跡、H-27号住居跡、9号方形周溝墓、5・7・8号墳、16～18号土坑の調査。
 7月4日～8日 C区-J-4号住居跡、Y-13号住居跡、H-5・6・10・29号住居跡、1・2・6号墳の調査。D区-Y-8・14号住居跡、H-27号住居跡、7～9号方形周溝墓、5・7・9・10号墳、17～25号土坑の調査。群馬県警刑事部科学捜査研究所法医主任の緑川順氏による人骨の鑑定と取り上げ。
 7月9日 上栗須寺前遺跡において調査課会議。
 7月11日～15日 C区-J-4号住居跡、Y-6・13号住居跡、H-29号住居跡、1・2・6号墳の調査。D区-Y-8・11・14号住居跡、H-27号住居跡、5・7・8・10号方形周溝墓、5・7・9・10号墳、18・19・22・24号土坑の調査。
 7月18日～23日 C区-J-4号住居跡、Y-6・13・17号住居跡、1～3・6号墳の調査。D区-Y-8・11・14・15号住居跡、4・8～10号方形周溝墓、5～7・9・10号墳の調査。全景写真の撮影。群馬大学歴史研究室の見学。
 7月25日～30日 C区-J-3号住居跡、Y-5～7・17・18号住居跡、H-24号住居跡、1～3号墳、30・31号土坑の調査。D区-Y-11・14・15号住居跡、4・9号方形周溝墓、7・9・10号墳、19・26～29号土坑の調査。
 8月1日～5日 C区-J-3号住居跡、1号配石(環状列石)、Y-7号住居跡、H-5号住居跡、1・2号墳、30～33・39～42号土坑の調査。D区-Y-8・11・14・15号住居跡、5・6・9号方形周溝墓、9・10号墳、28・29・35～38号土坑の調査。
 8月6日 内匠塩ノ入城遺跡において調査課会議。



B区 遺構確認作業



C区 調査風景

序章 調査の経過

8月8日～12日 C区-J-3号住居跡、1号配石、Y-7号住居跡、H-6・30号住居跡、1・4号墳の調査。D区-Y-8・11・15号住居跡、6・7号方形周溝墓、9・10号墳、27・28・36～38号土坑の調査。雨多く排水作業に追われる。

8月15日～20日 C区-Y-5号住居跡、H-24・26・30号住居跡、1・4号墳、33・43・44号土坑の調査。D区-Y-8・11・14・15号住居跡、4～7・9号方形周溝墓、9号墳、18・19・24号土坑の調査。

8月22日～27日 C区-J-3・5号住居跡、1号配石下から複数の土壌を検出。4～6号掘立を検出。雨多く排水作業に追われる。D区-J-7号住居跡、Y-8・14・15号住居跡、4～8号方形周溝墓、5・9号墳、18・19・24号土坑の調査。東京新聞記者取材。

8月29日～9月2日 C区-J-3・5・6号住居跡、1号配石下土壌、Y-7・9・17～19号住居跡、H-3・4・26号住居跡、4～6号掘立、51～53号土坑の調査。D区-J-7号住居跡、Y-8・14号住居跡、5・6号方形周溝墓、9・10号墳、18・19・50号土坑の調査。

9月3日 上越線事務所にて調査課会議。

9月5日～9日 C区-J-3・5・6号住居跡、Y-5・18・19号住居跡、H-3・4・25・26・29・30号住居跡、4号墳、6号掘立、45・46・53号土坑の調査。D区-Y-8・14・15号住居跡、H-28号住居跡、4～6・8・9号方形周溝墓、5・9・10号墳、2・3号掘立、49・54～56号土坑の調査。

9月12日～16日 C区-J-5号住居跡、1号配石下の土壌の土壌のサンプリング、Y-5・18号住居跡、H-1～5・24～26・29・31・32号住居跡、プレの試掘調査。D区-J-7号住居跡、Y-8・14・15号住居跡、4・8号方形周溝墓、5・9・10号墳、プレの試掘調査。

9月19日～24日 C区-J-8号住居跡、1号配石下土壌の土壌サンプリング、Y-5号住居跡、H-1・2・31～33号住居跡、1号墳の調査。D区-J-7号住居跡、Y-8・15号住居跡、4・5・8号方形周溝墓、5・9号墳の調査。

9月26日～30日 C区-J-8号住居跡、1号配石下土壌の土壌サンプリング、Y-5・18号住居跡、H-3・24・31～33号住居跡、53号土坑の調査。D区-Y-8・15・20号住居跡、H-28号住居跡、4号方形周溝墓、5号墳、63・64号土坑の調査。27日には作業員の故中野利太郎氏の告別式。

10月1日 内匠諏訪前遺跡において調査課会議。

10月3日～8日 B区精査。C区-J-8号住居跡、Y-5・18号住居跡、H-24・31・33号住居跡、9号掘立の調査。D区-Y-14・15号住居跡、4・5号方形周溝墓の調査。

10月9・10日 事業団10周年記念事業（野外展示）。

10月11日～14日 B・C区-J-2・6号住居跡、Y-5・6・17号住居跡、H-11～20・24・31・34～39号住居跡の調査。

10月17日～21日 B・C区-J-6・9号住居跡、Y-17号住居跡、H-11～14・17～19・34～36・39～43号住居跡、10号掘立、

25・79号土坑の調査。D区-H-41号住居跡、7・10～12号方形周溝墓、3号墳、70～72・84号土坑の調査。

10月24日～28日 B・C区-J-9号住居跡、1号屋外埋設土器、H-11～13・18・19・31～35・38・42・43号住居跡、13・85～96号土坑の調査。D区-Y-12・21号住居跡、H-27・28・41号住居跡、5・6・10～12号方形周溝墓、2・3・11号墳の調査。

10月31日～11月5日 B・C区-J-9号住居跡、H-11～14・16～20・31・33・35～39・42・43号住居跡の調査。D区-Y-12号住居跡、H-21・28・41号住居跡、10・12号方形周溝墓、3・11・12号墳の調査。

11月7日～11日 B・C区-H-12・14～17・20・35・36・38・42号住居跡、D区-Y-12・21号住居跡、H-28号住居跡、10・12号方形周溝墓、2・3・11・12号墳の調査。

11月12日 当遺跡において調査課会議。

11月14日～18日 B・C区-Y-4号住居跡（整理時にH-48号住居跡に変更）、H-9・10・15・17・20・34・36・39・40・45～47号住居跡の調査。D区-Y-12号住居跡、5・7・11～13号方形周溝墓、2・3・10～12号墳の調査。航空写真の撮影。「考古学を学ぶ会」の岩沢五夫氏他4名見学。

11月21日～25日 B・C区-Y-4号住居跡（整理時にH-48号住居跡に変更）、H-9・10・20・34・38～40・45～49号住居跡の調査。D区-Y-8・14・20・21・28号住居跡、6～8・10～12号方形周溝墓、2・3・11・12号墳の調査。

11月28日～12月2日 B・C区-Y-6・10号住居跡、H-2・7・8・25・26・38～40・45・47・49号住居跡の調査。D区-J-10号住居跡、Y-21・22・28・31号住居跡、5・6・10～13号方形周溝墓、2・3・11・12号墳の調査。B区の調査が総て終了して、道路公団・工事関係者の立ち会いのもと調査区を引き渡し。

12月3日 上越線事務所において調査課会議。

12月5日～9日 C区-Y-6・10・17・25・32号住居跡、H-2・7・8・25・26号住居跡、8号墳の調査。D区-J-10号住居跡、Y-12・28号住居跡、H-28号住居跡、5・6・10～14号方形周溝墓、2・3・12～15号墳の調査。

12月12日～16日 C区-Y-25・32・34号住居跡、H-2・7・25号住居跡、8号墳の調査。D区-Y-22・28号住居跡、H-41号住居跡、5～7・10・12号方形周溝墓、2・3・9・12・14・15号墳、土坑の調査。現場担当者の菊池と田口正美が交替。菊池は多胡蛇黒遺跡の応援へ年明けから参加。

12月17・18日 現地説明会を開催。約400名の見学者。

12月20日～26日 C区-Y-10・25・32・34号住居跡、H-2・7・25・34号住居跡、8号墳の調査。D区-Y-24号住居跡、6・7・12・14号方形周溝墓、2・3・9・11・12号墳、101～103・113～116・125～128号土坑の調査。26日をもって年内の調査を終了。

1989（昭和64・平成元年）年

1月5日～6日 本年から調査担当は綿貫・田口・亀山の三名。



D区 調査風景



古墳時代の住居跡調査

C区-Y-26号住居跡、H-51号住居跡、8号墳の調査。D区-Y-27号住居跡、14号方形周溝墓、2・3・10・11・14号墳の調査。

1月7日 南蛇井増光寺遺跡において調査課会議。

1月9日～14日 C区-J-10号住居跡、Y-24～26・32～35号住居跡、H-7・25・50・51号住居跡、2号方形周溝墓、8号墳の調査。D区-Y-22・27・28・35号住居跡、14号方形周溝墓、2・3・10・12・14・15号墳、土坑の調査。航空写真撮影。

1月16日～21日 C区-J-11号住居跡、Y-7・17・26・31～34・37号住居跡、H-50・51号住居跡、8号墳、土坑の調査。D区-Y-22・24・27～29・31・35号住居跡、14号方形周溝墓、2・3・12号墳、土坑の調査。

1月23日～28日 C区-Y-17・25・33号住居跡、H-50・51号住居跡、8号墳、土坑・掘立の調査。D区-Y-24・27・30号住

居跡、2・3・12号墳、土坑の調査。

1月30日～2月4日 C区-J-12号住居跡、Y-17・33・34号住居跡、H-50・51号住居跡、土坑の調査。D区-J-10号住居跡、Y-22・27・30・35・37号住居跡、10～12号方形周溝墓、2・3・12号墳、土坑の調査。

2月6日～3月2日 陣内先生による石材鑑定。残る遺構の調査。次の調査地である多比良遺跡へ引越し。



1号墳周堀の調査



1号墳周堀調査近景

〔3〕

調査の方法

調査対象地は、吉井町と甘楽町の境界付近で、安坪集落の北西部約290mの区間である。

①遺跡名の選定

調査は昭和62(1987)年度にC区の一部を、昭和63(1988)年度にB・C・D区の全域で実施した。遺跡名は調査当初、安坪遺跡として命名されていたが、昭和63(1988)年度からの整理事業をひかえ、上越線関連の遺跡名検討が行われた。その結果、遺跡名は大字小字名の連記を原則とすることになり、長根安坪遺跡となった。

②調査区(グリッド)の設定

調査区全域に5m四方のメッシュをかぶせられるように発掘区の南東に原点を設けた。グリッドは南東コーナーの杭をもって呼称した。北方向へ5mごとに1つつ増え、西方向は100mごとにB・C・Dという大区画を作り、その中の5mごとにa・b・cのア

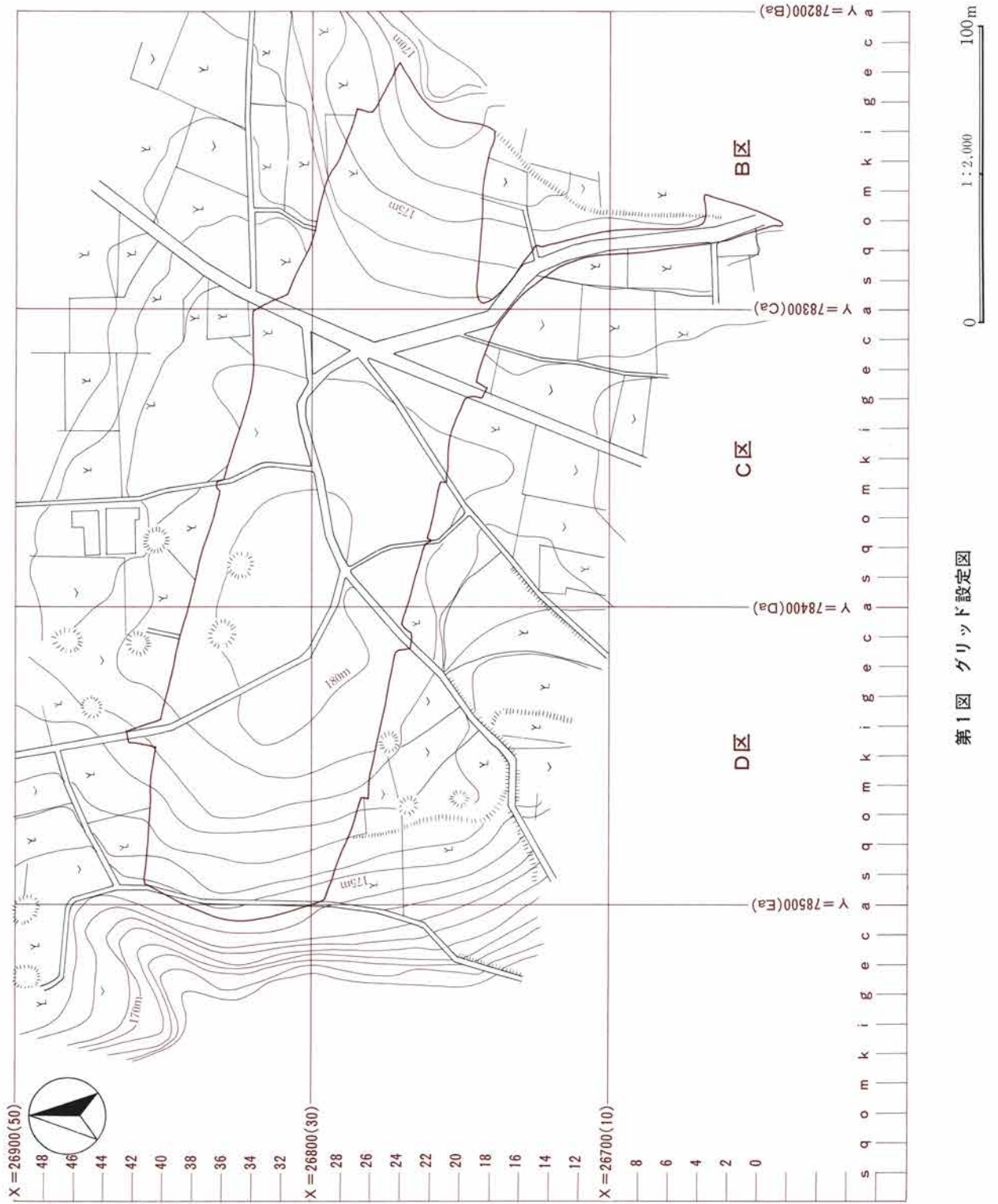
ルファベット順に20区画を設定した。グリッドの設定水準点の移動は、(株)測研が行った。

③調査手順

昭和62(1987)年度の調査は、2カ月余りであったために、C区の一部表土除去作業と検出された遺構の調査を実施した。翌年度から本格的な調査を開始したが、各時代の各種遺構や遺物の検出が予想されたために、調査担当で主務分担区域を設け発掘を進めた。B～C区を菊池が担当し、D区を綿貫・亀山がそれぞれ担当した。

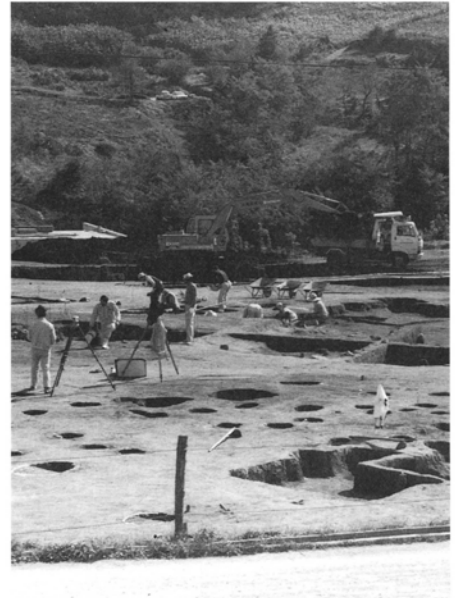
④写真撮影

遺構写真は35mm白黒フィルムとカラースライドフィルムおよび6×7を使用した。また遺跡空中写真(4×5インチ)は、シン航空写真株式会社、国際航業株式会社にそれぞれ委託した。



第1図 グリッド設定図

1章 遺跡の立地と 環境



B区の調査

〔1〕

長根安坪遺跡は、群馬県多野郡吉井町大字長根に所在（第4図）する。多野郡吉井町は、その北部を安中市および高崎市に隣接し、東部から南方にかけて藤岡市と接し、西方は甘楽町と富岡市に接している。そして町の中心部を簗川が西から東に蛇行しつつ緩やかに流れ、その南北両側には河岸段丘が形成されている。

当遺跡北方2.6kmの所を東流している簗川は、上信国境に連なる荒船山・八風山に源を發し、西牧川・南牧川となって下仁田町の川井付近で合流し簗川となる。そして、さらに東流しつつ小河川を集めながら吉井町で大沢川・矢田川・土合川などの支流を合わせ、高崎市倉賀野付近で利根川の支流の烏川と合流する。この地域における分水界は南北幅およそ18.7km、東西幅41.5kmである。この簗川流域は「かぶらの谷」と通称されており、右岸下流域と左岸の一部に河岸段丘が確認される。河岸段丘は、上位段丘面と下位段丘面とで構成されており、特に右岸に発達している。

当遺跡は、その簗川の作用によって形成された長根(165~190m)段丘と呼ばれる上位段丘上に所在(第2・3図)する。河床よりの比高60mもあり、多胡段丘との崖の差25mほどである。基盤岩石は富岡層群で上野場付近には15mの高さの頁岩の層が露出している。また上野場および下平付近の段丘崖には安山岩系・秩父系の礫層が多く露出し、安坪付近には結晶片岩の礫がよく見られる。その上に2m内外の関東ローム層が堆積している。この地に立つと南に牛伏・御荷鉾山系を背にして西に荒船山・妙義山・浅間山、北に富岡丘陵を隔て榛名山・子持山・谷川岳、北東に赤城山などの山塊が一望に見渡せる。日照度が高く、自然災害の少ない地域であり、日当たりがよく、住み心地の良い場所であるが、冬季には「浅間おろし」と呼ばれる北西の季節風が吹き荒れる。この上位段丘面が形成されたのは今から数万年

位置と地理的環境

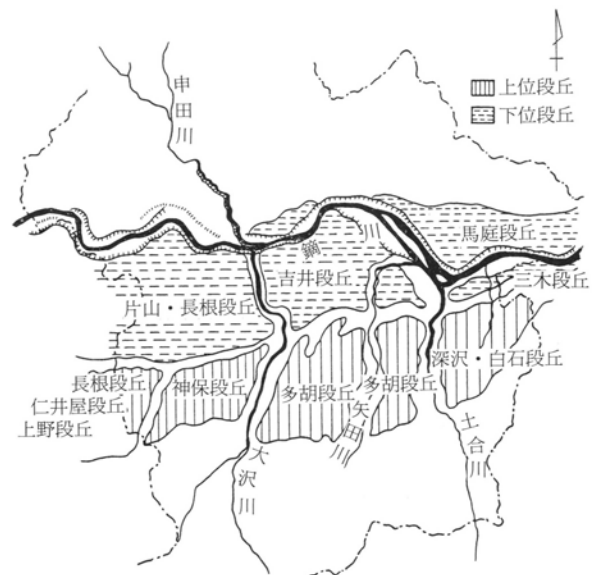
から十数万年前の洪積世末期とされ、その後浅間火山による上部ローム層が上位段丘面に堆積する頃には下位段丘面を簗川が流れていたと考えられる。

この上位段丘の地表は、簗川に向かって緩やかに傾斜しており、疎ではあるが水系がみられ、多少開析されている。地表の耕作土は、黒褐色土を呈し、桑畑・こんにゃく畑等に利用され、開析された谷地では水田耕作が営まれている。

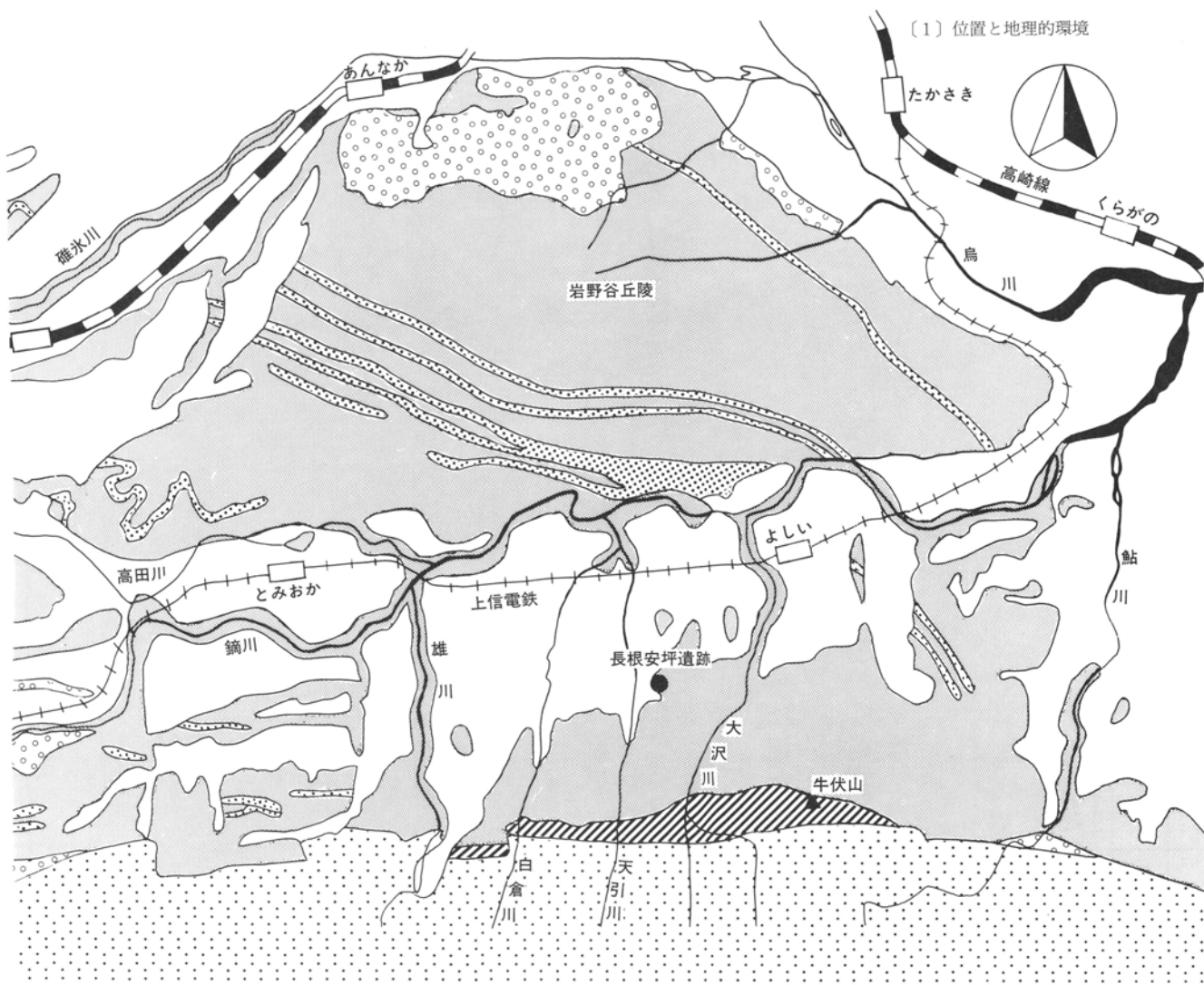
参考文献

吉井町誌編さん委員会『吉井町誌』1974

鹿沼栄輔編『長根羽田倉遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990)



第2図 吉井町附近の河岸段丘分布図

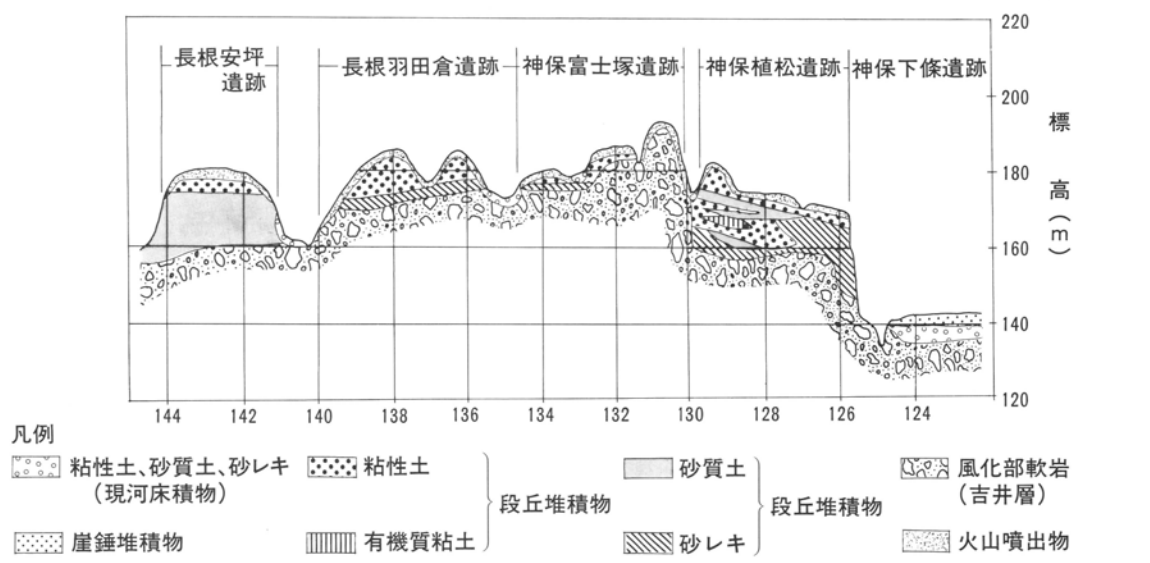


〔1〕位置と地理的環境

第四紀層 富岡層群 牛伏層
 結晶片岩 凝灰岩 その他

0 2 4km

(文献「牛伏砂岩使用古墳の研究(2)」
『研究紀要8』1991より)



凡例

粘性土、砂質土、砂レキ (現河床積物) 粘性土 砂質土 風化部軟岩 (吉井層)
 崖錘堆積物 有機質粘土 砂レキ 火山噴出物

段丘堆積物 段丘堆積物

縮尺 高さ=1:1000
距離=1:10000

第3図 上・鋤川流域の地質図 下・調査地周辺土性縦断面図

〔2〕

歴史的環境

長根安坪遺跡は鑄川の作用によって形成された長根段丘(165~190m)と呼ばれる上位段丘上に位置している。東の安坪谷を隔てた長根羽田倉遺跡が、1986(昭和61)年5月から翌年10月まで調査され、また、北側の上位段丘から下位段丘にかけて吉井町教育委員会によって、長根宿遺跡・西場脇遺跡が1986(昭和61)年11月から翌年2月まで調査されている。さらに、西に流れる天引川を隔てた天引口明塚遺跡や天引狐崎遺跡が当事業団によって調査されている。

旧石器時代

当遺跡では西を流れる天引川へ向かう緩やかな緩斜面のソフトローム層中から黒曜石の剥片10数点が出土したが、その後所在不明となり詳細不明である。天引狐崎遺跡からはAT直下の石器群が検出されている。

縄文時代

該期の遺跡は、前期~中期の集落跡が鑄川の両岸上位段丘上において検出されている。当遺跡の周辺部では、東隣の長根羽田倉遺跡から落とし穴と考えられる土坑1基、神保富士塚遺跡から前期諸磯式期の住居跡3軒と土坑10基が調査されている。神保植松遺跡では前期~中期にかけての住居跡12軒と土坑などが検出された。入野遺跡では前期住居跡1軒、黒熊遺跡群では中期住居跡1軒が調査されている。また、鑄川対岸の段丘上には中期の香炉型土器を出土した東吹上遺跡が知られている。

弥生時代

中期の土坑群は、当遺跡の他に神保富士塚遺跡から30基、神保植松遺跡からは住居跡3軒と土坑77基が検出されている。また、大字神保字稲荷山所在の稲荷山遺跡では、以前から中期の土器片などが多く採集されており、付近一帯が中期の生活域であった可能性が高い。

後期の遺跡としては、当遺跡の他に天引狐塚遺跡から住居跡40軒、神保植松遺跡から住居跡7軒が検

出されており、吉井町教育委員会の調査した黒熊遺跡群では住居跡と方形周溝墓が検出されている。

古墳時代

当遺跡周辺には安坪古墳群が築造されている。安坪古墳群は天引川東岸の丘陵上にあり、大字長根字安坪・西場脇・西原・天神森・大谷・中原にわたり分布している。昭和10年に実施された古墳調査では44基確認されている。その後、昭和36年の遺跡台帳作成時では33基、昭和46年段階では32基となり、当事業団の調査時では28基となっていた。かなりの数の古墳が消滅していった。いずれも後期の群集墳である。この安坪古墳群から約200m程離れて恩行寺古墳がある。この他に、大字神保字南高原・北山下・植松・稲荷山にわたり神保古墳群63基が築造されている。多胡古墳群91基は大字神保字志免木・東志免木・寺上および大字多胡メ木・松原・桜塚にわたる一円を占め大沢川を挟んで神保古墳群と対峙している。

集落跡としては、当遺跡と神保植松遺跡で方形周溝墓とこれとほぼ同時期の住居跡が調査されている。また神保下條遺跡では2基の小型円墳が調査され、人物、馬、太刀、盾などの形象埴輪を含む多くの埴輪が出土している。さらにこの古墳の下から検出された古墳時代前期の住居跡からは、直径約6cmの小型銅鏡が出土している。6世紀後半の集落は当遺跡の他に長根羽田倉遺跡、神保植松遺跡、折茂東遺跡、多胡蛇黒遺跡、矢田遺跡などで調査されている。

奈良・平安時代

当遺跡を含む周辺の多くの遺跡で住居跡、掘立柱建物跡、溝などが検出されている。東に隣接する長根羽田倉遺跡では69軒、神保植松遺跡でも30軒の住居跡が調査されている。矢田遺跡、多胡蛇黒遺跡などで多数検出されている。

中・近世

神保植松遺跡は室町時代の城跡であり堀や土塁が確認されている。また近世の屋敷跡も調査されている。



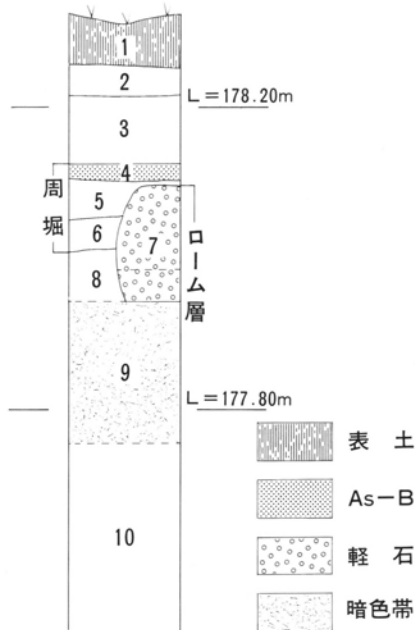
第4図 長根安坪遺跡と周辺遺跡(1:50,000)

周辺遺跡一覧表

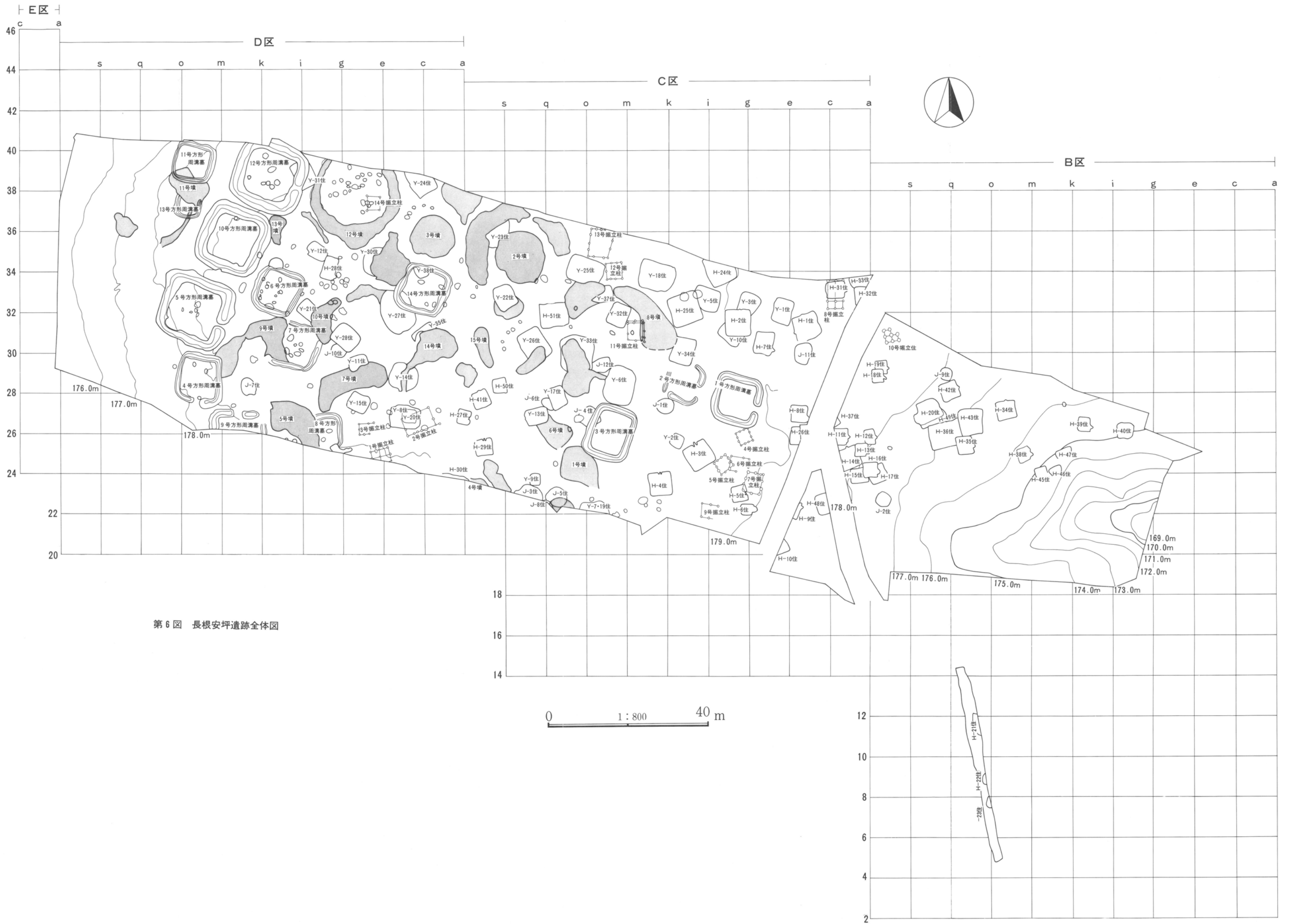
番号	遺跡名 (所在地)	遺跡の概要	文献その他
1	長根安坪遺跡 (吉井町長根)	縄文住居12軒・弥生住居34軒・方形周溝墓14基・古墳15基・古墳～平安住居49軒・掘立柱14基・土坑145基。	本書所収
2	長根羽田倉遺跡 (吉井町長根)	古墳～平安時代の住居跡133軒・掘立柱建物跡11棟・井戸11基・土坑93基・溝18条・祭祀遺構2基等。出土遺物として滑石製模造品・紡錘車等の滑石製品。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『長根羽田倉遺跡』1990
3	神保富士塚遺跡 (吉井町神保)	縄文・古墳・奈良・平安時代の住居跡。掘立柱建物跡・溝・土坑・土器集積祭祀跡等。出土遺物として石器・紡錘車・勾玉等。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『神保富士塚遺跡』1993
4	神保植松遺跡 (吉井町神保)	縄文～平安時代の住居、中世を主とした掘立柱建物跡・土壇・井戸・城の堀・古墳時代の方形周溝墓等。遺物として板碑・石臼・五輪塔・陶磁器等出土。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『神保植松遺跡』1997
5	神保下條遺跡 (吉井町神保)	5基の古墳・古墳時代前期3軒・奈良時代3軒の住居跡。中世の館跡・溝等。大量の埴輪・古墳時代前期の住居跡より鏡・鉄斧・鎌・管玉・ガラス玉等出土。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『神保下條遺跡』1992
6	多胡蛇黒遺跡 (吉井町多胡)	旧石器時代の石器・礫、古墳時代後期～平安時代の住居跡174軒・掘立柱建物跡、溝など。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『多胡蛇黒遺跡』1993
7	矢田遺跡 (吉井町矢田)	旧石器時代の石器・縄文・古墳～平安時代の住居跡、掘立柱建物跡、埋甕等。古墳～平安時代の住居が中心。「物部郷長」「八田郷」等線刻紡錘車出土。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡I～VI』1990～1996
8	多比良追部野遺跡 (吉井町多比良)	旧石器時代の石器類430点出土。縄文・古墳・平安時代の住居跡、平安時代の水田、江戸時代の溜池等。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『多比良追部野遺跡』1996
9	黒熊中西遺跡 (吉井町黒熊)	古墳～奈良・平安時代住居跡78軒、平安時代の礎石建物跡6棟、平安時代の道路遺構7条・井戸・土坑・鬼瓦・経軸端等出土。寺院跡を特色とする遺跡。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『黒熊中西遺跡(1)・(2)』1992・1994
10	天引口明塚遺跡	6世紀後半の小型円墳2基と、中世の竪穴状遺構1基が調査された。土地改良が既に行われた地区であることから、遺構の残存状態も悪く、他の時代の遺構・遺物はなかった。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『天引口明塚遺跡』1992
11	天引狐崎遺跡	台地部分と三途川の旧河道を調査。A T直下の石器群や、縄文前期～後期の遺物、弥生時代の住居約40軒、6世紀後半の古墳2基を調査。旧河道からは、古墳時代中心の木製品。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『天引狐崎遺跡』1991
12・13	天引向原遺跡 白倉下原遺跡	A T直下の環状ブロック群・弥生時代後期～平安時代の住居多数が検出。古墳時代後期の粘土採掘坑や弥生時代の寺院址も調査。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『天引向原遺跡・白倉下原遺跡』1992
14	天神I遺跡	舌状台地に挟まれた沖積地の調査。縄文時代関山式期と称名寺式期の住居が各1軒検出された。他に、古墳時代後期の住居が6軒調査された。	山武考古学研究所『天神I遺跡・天神II遺跡・西原遺跡・松葉慈学寺遺跡』1994
15	天神II遺跡	住居20軒・土坑46基・溝2条が検出された。縄文時代の住居2軒以外は古墳時代の住居である。その中で2軒の住居からは小鍛冶の痕跡が確認されている。	山武考古学研究所『天神I遺跡・天神II遺跡・西原遺跡・松葉慈学寺遺跡』1994
16	松葉慈学寺遺跡	弥生時代末期～奈良時代の住居が82軒と、平安時代の住居が1軒調査されている。縄文時代では陥穴状土坑3基と、土器・石器が検出され、有舌尖頭器の出土が特筆される。	山武考古学研究所『天神I遺跡・天神II遺跡・西原遺跡・松葉慈学寺遺跡』1994
17	西原遺跡	古墳時代初頭～中期の住居6軒と奈良・平安時代の住居24軒を調査。他に、土坑55基・焼土分布地点4ヶ所・掘立柱建物跡2棟・溝3条・中世の塚1基・縄文時代包含層1ヶ所。	山武考古学研究所『天神I遺跡・天神II遺跡・西原遺跡・松葉慈学寺遺跡』1994
18	田篠上平遺跡	古墳・奈良・平安時代。墳墓・集落。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『田篠上平遺跡』1989
19	田篠中原遺跡 (富岡市田篠)	中期末の環状列石・敷石住居跡11軒・竪穴住居跡2軒・配石遺構36基・屋外埋設土器12基・土壇22基、廃棄場所1箇所。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『田篠中原遺跡』1990
20	善慶寺早道場遺跡 (甘楽町善慶寺)	古墳～平安時代集落跡、古墳時代後期以降の集落。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『善慶寺早道場遺跡』1994
21	内匠上之宿遺跡	縄文～古墳時代、中世の集落・城跡。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『内匠上之宿遺跡』1992
22	川福遺跡 (吉井町馬庭)	奈良・平安時代の住居跡5軒・溝2条等、土器集中地点あり。8世紀前後の須恵器蓋を多く出土。	吉井町教育委員会『川福遺跡調査報告書』1986
23	多胡碑 (吉井町池)	吉井町大字池字御門に所在。日本三碑の一つに数えられる。和銅4年(711)多胡郡設置に関する記念碑とされる。	『吉井町誌』1974 『群馬県史・資料編4』1985他
24	塚原古墳群 (吉井町池)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では44基をあげている。	吉井町教育委員会『蛇塚古墳』1989

番号	遺跡名 (所在地)	遺跡の概要	文献その他
25	富岡遺跡 (吉井町岩崎)	縄文時代中期の遺物包含層。平安時代住居跡4軒、浅間B軽石の純層堆積。	吉井町教育委員会『富岡遺跡』1989
26	東吹上遺跡 (吉井町岩崎)	縄文時代前期、中期、弥生中期、後期包含層。古墳時代後期住居跡1軒、平安時代1軒。	群馬県立博物館研究報告第8集『東吹上遺跡』1973
27	本郷古墳群 (吉井町本郷)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では21基あげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
28	道六神遺跡 (吉井町本郷)	平安時代住居跡1軒、溝6条等。	吉井町教育委員会『道六神遺跡』1986
29	片山古墳群 (吉井町片山)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では7基をあげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
30	黒熊遺跡群 (吉井町黒熊)	縄文・古墳・奈良・平安時代の大集落。	吉井町教育委員会『黒熊遺跡群調査報告書』(3)(4)等1981～1985
31	祝神古墳群 (吉井町多比良)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では11基あげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
32	入野遺跡 (吉井町石神)	縄文時代前期、古墳時代前期・後期の住居跡、中世の墓墳。	吉井町教育委員会『入野遺跡』1985・1986
33	東沢遺跡 (吉井町多比良)	古墳時代後期、奈良・平安時代の住居跡。	吉井町教育委員会『東沢遺跡・折茂東遺跡』1987
34	中ノ原古墳群 (吉井町多比良)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では10基をあげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
35	椿谷戸遺跡 (吉井町矢田)	縄文時代中期、古墳前後期、奈良・平安時代の住居跡、中世土坑等。	吉井町教育委員会『椿谷戸遺跡発掘調査報告書』1989
36	柳田遺跡 (吉井町矢田)	古墳～平安時代の住居跡。	吉井町教育委員会『柳田遺跡』1989
37	山の神古墳群 (吉井町多比良)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では7基をあげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
38	川内遺跡 (吉井町吉井)	縄文時代中期の土壌、弥生～平安時代の住居跡、弥生時代の方形周溝墓。中世の井戸。	吉井町教育委員会『川内遺跡・図版編』1982
39	多胡古墳群 (吉井町多胡)	古墳時代後期を中心とした群集墳。上毛古墳総覧では91基をあげている。下條1～3号墳を含む。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
40	塩Ⅰ古墳群 (吉井町塩)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では10基をあげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
41	塩Ⅱ古墳群 (吉井町塩)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では12基をあげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
42	神保古墳群 (吉井町神保)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では63基をあげている。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
43	長根宿遺跡 (吉井町長根)	中世の溝2条検出。	吉井町教育委員会『西場脇・長根宿遺跡』1987
44	西場脇遺跡 (吉井町長根)	古墳・平安時代の住居跡、奈良時代の遺物集中地点等。	吉井町教育委員会『西場脇・長根宿遺跡』1987
45	安坪古墳群 (吉井町長根)	古墳時代後期の群集墳。上毛古墳総覧では44基をあげている。古墳群南側の一部を、長根安坪遺跡で平成元年に発掘調査。	群馬県『上毛古墳総覧』1938
46	下五反田窯跡 (吉井町多比良)	3基あったと思われ、2基発掘。1号窯は全長7mの地下式無段無階登窯、2号窯は、全長5.5mの地下式無段登窯。坏・甕・瓦・風字硯・羽釜等出土。9～10世紀。	国士館大学文学部考古学研究室『考古学研究室発掘調査報告書』1984
47	滝の前窯跡 (吉井町多比良)	窯跡あるいは灰原の一部と思われる部分が露出。坏・甕・文字瓦出土。9世紀末～10世紀前半、瓦は上野国分寺に供給されており、国分寺補修期の瓦生産窯。	『吉井町滝の前窯跡の採集遺物とその性格』『群馬文化』1989
48	末沢Ⅰ窯跡 (吉井町多比良)	2～3基あったと思われる。林道設置で一部切断されている。1基を発掘調査。窯体の北約1/2は無い。地下式無段無階登窯と思われる。蓋・坏・盤・甕・瓦・土鈴等。8世紀前半代を中心としている。	国士館大学文学部考古学研究室『考古学研究室発掘報告書』1984
49	末沢Ⅱ窯跡 (吉井町多比良)	Ⅰと同様に、道路拡張により窯体の一部が2基、灰原と思われる一個所が確認されている。	
50	下日野・金井窯跡群 (藤岡市下日野・金井)	藤岡市教育委員会により、ゴルフ場建設に先だって分布調査が行われ、地点ごとにa2・a4・c・d・f・gと表記され、発掘調査が行われた。a2地点で3基、a4地点で1基、c地点で4基、他に2～3基の窯体が存在していると思われる。d地点で1基、他に製鉄遺構3基調査、g地点で5基の計16基の窯跡が調査された。8～10世紀。	

番号	遺跡名 (所在地)	遺跡の概要	文献その他
51	南陽台窯跡群(推定)(吉井町南陽台)	南陽台団地造成に、大量の須恵器・坏・蓋・甕が出土。山間地であり集落遺跡ではなく、窯の存在が考えられる。8世紀代を中心としている。	
52	蔵城跡	中世、城館跡。	
53	白岩遺跡	縄文時代、古墳時代、包蔵地。	
54	後賀土橋	古墳時代、墳墓。	
55	後賀遺跡	縄文時代、包蔵地。	
56	庭谷城跡	中世、城館跡。	
57	相野田	古墳時代、包蔵地。	
58	諏訪谷古墳群	古墳時代、墳墓。	
59	清水入古墳群	古墳時代、墳墓。8基存在。7世紀代の築造。	
60	上の山遺跡	縄文時代、包蔵地。	
61	背谷戸遺跡	縄文時代、包蔵地。	
62	富岡城跡	中世、城館跡。	
63	妙部塚古墳	古墳時代、墳墓。	
64	星田城跡	中世、城館跡。	
65	塚原古墳群	古墳時代、墳墓、33基の円墳から成る。7世紀代の築造。	
66	天王塚古墳	古墳時代、墳墓、前方後円墳。竪穴系の主体部と考えられる。5世紀前半の築造。	
67	笹の森稲荷塚古墳	古墳時代、墳墓、周濠を持つ軸長100mの前方後円墳。両袖型横穴式石室をもつ。	
68	二日市古墳群	古墳時代、墳墓、20基程の円墳が残る。5世紀後半からの築造。	
69	久保遺跡	古墳時代、祭祀遺跡、滑石製模造品多数出土。	
70	原田篠遺跡	古墳～平安時代、集落跡。	富岡市教委 『上田篠古墳群・原田篠遺跡』 1981
71	上田篠古墳群	古墳時代、墳墓、30数基現存。	富岡市教委 『上田篠古墳群・原田篠遺跡』 1981
72	大類屋敷跡	中世、城館跡。	
73	麻場城跡	中世、城館跡。	
74	仁井屋城跡	中世、城館跡。	
75	倉内城跡	中世、城館跡。	
76	下城跡	中世、城館跡。	
77	中城跡	中世、城館跡。	
78	上野城跡	中世、城館跡。	
79	中村遺跡	縄文～古墳時代、包蔵地。	
80	熊井戸屋敷跡	中世、城館跡。	
81	善慶寺古墳群	古墳時代、墳墓、約20基現存。かつては50基以上現存。	
82	内匠城跡	中世、城館跡。	



第5図 標準土層



第6図 長根安坪遺跡全体図

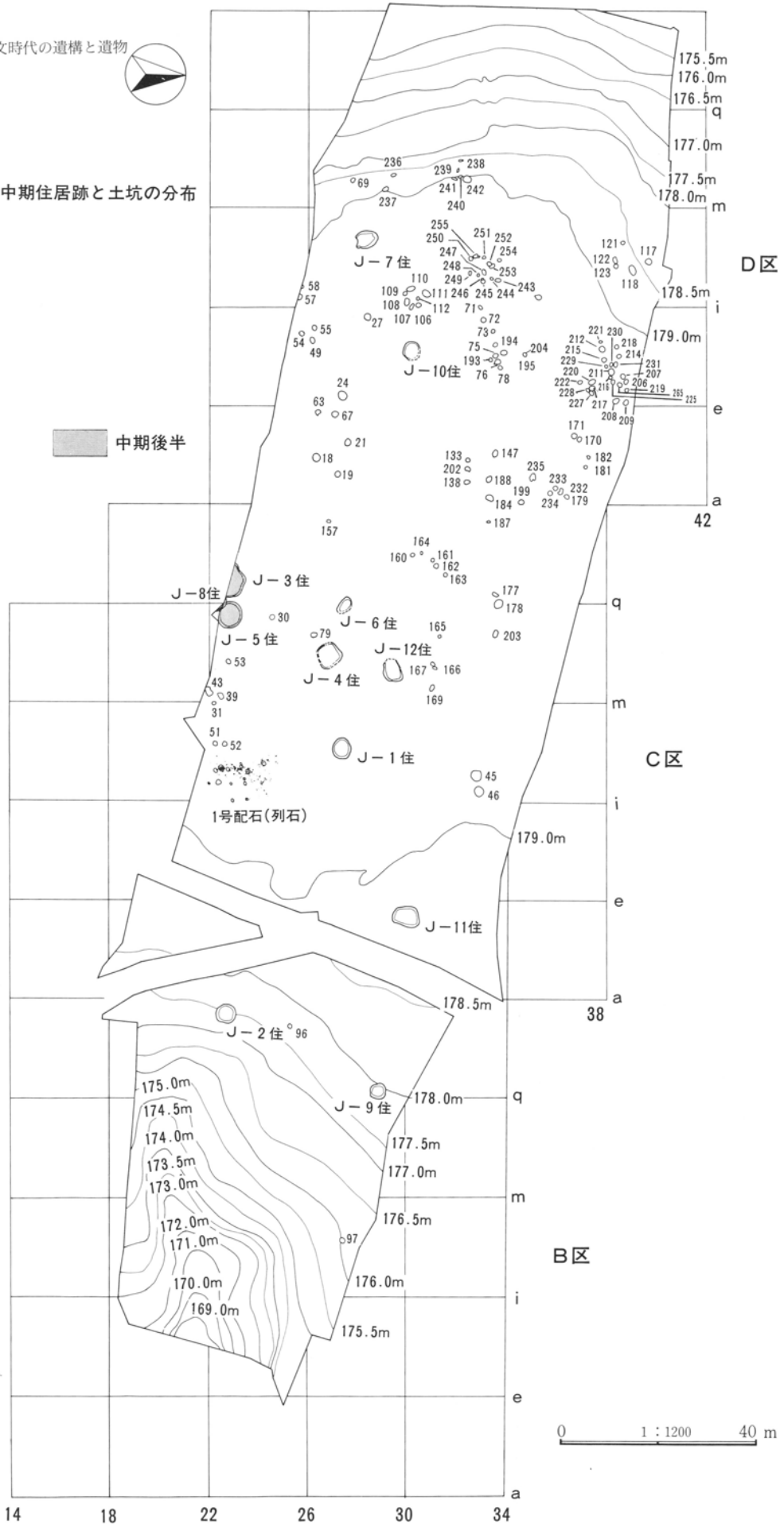
2章 縄文時代の 遺構と遺物



炉体土器の前で



第7図 縄文中期住居跡と土坑の分布



〔1〕

竪穴住居跡

J-1号住居跡 (第8・9図、PL.3・122)

位置 Cj-27、Ck-26・27グリッドにかけて検出された。J-12号住居跡の東南約14mの所に位置している。

重複 なし。2号方形周溝墓に接している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 長径4.23m、短径3.8mの楕円形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約20~30cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦で、面積は約10.9m²である。

周溝 検出できなかった。

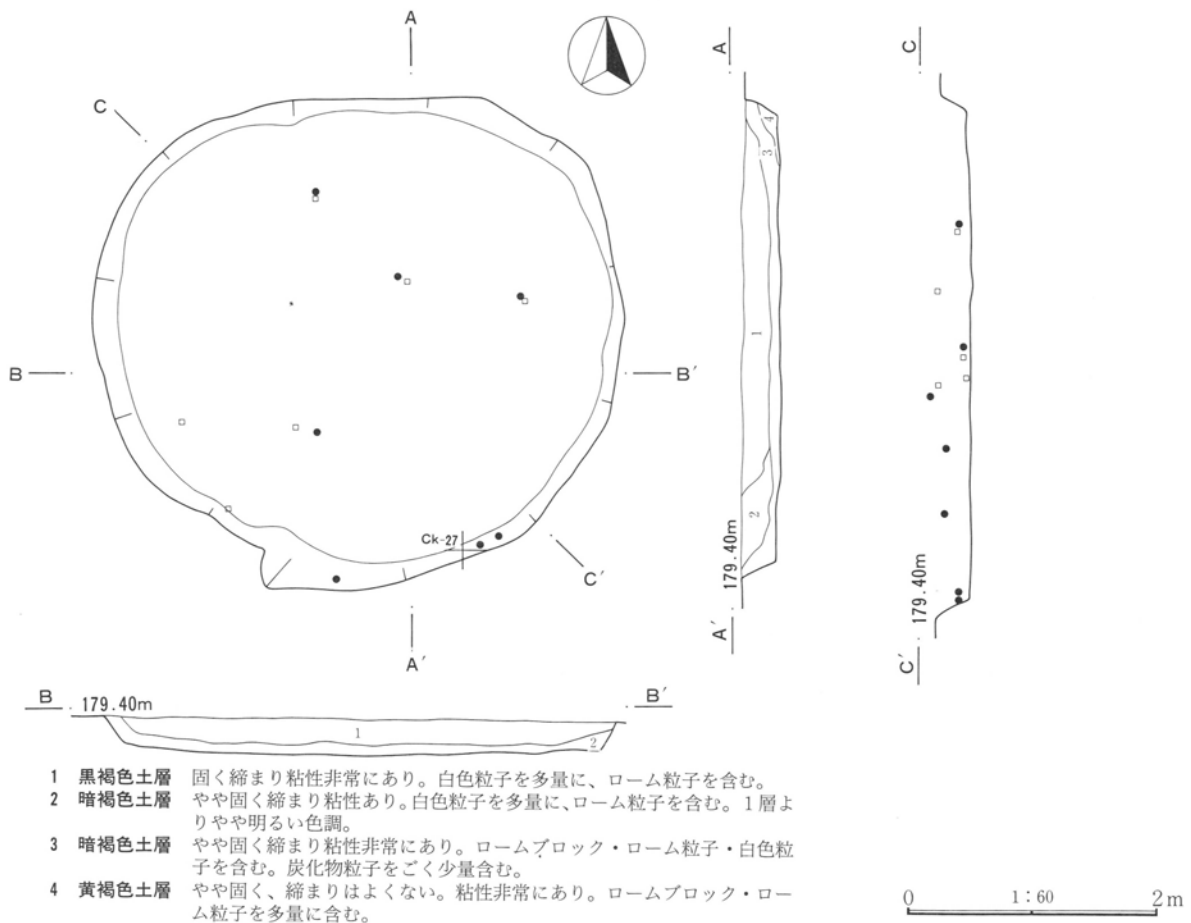
柱穴 検出できなかった。

炉 検出できなかった。床面に焼土等の痕跡は認められなかった。

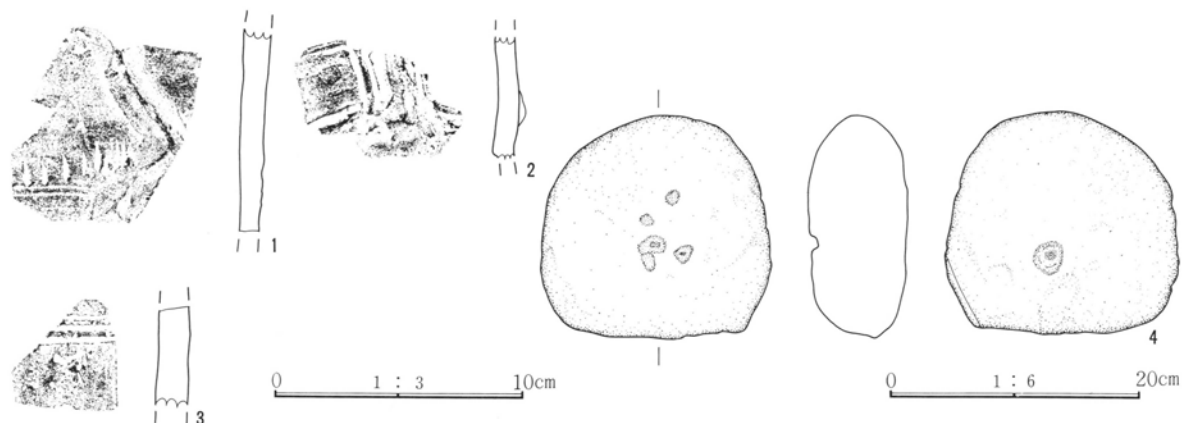
遺物 覆土から土器26点、多孔石・剥片等5点が出土している。このうち前期中葉土器片2点、中期後半土器片2点、弥生土器片2点を含んでいた。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。

備考 当住居跡からは炉と柱穴が検出されていない。このために一般的な住居に該等するのは判断に苦しむが、調査時の遺構名称にしたがって報告した。



第8図 J-1号住居跡



第9図 J-1号住居跡出土遺物

J-1号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文様 (その他)	出土状況	
9-1 122	胴部片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~10mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は黒褐色。				断面三角形の隆帯。 竹管による刺突が施されている。	覆土	
9-2 122	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~11mm。 内面の横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は暗褐色。				隆帯と半截竹管による平行沈線が施されている。	覆土	
9-3 122	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚12~13mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は褐色、内面はにぶい黄褐色。				半截竹管による平行沈線が施されている。	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)			特徴	出土状況	
9-4 122	多孔石	完形	砂岩	全長 11.9	幅 12.1	厚 5.2	重量 795	両面に小さな凹み穴が認められる。	覆土

J-2号住居跡 (第10~12図、PL.3・122)

位置 Bs-22、Bt-22・23グリッドにかけて検出された。J-1号住居跡の東南約54mの所に位置している。

重複 住居跡の北東壁を新しい溝によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

形状 長径3.6m、短径は現状で3.3mの楕円形を呈するものと思われる。

壁高 住居跡確認面より約8~12cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦で、推定面積は約9.5m²である。

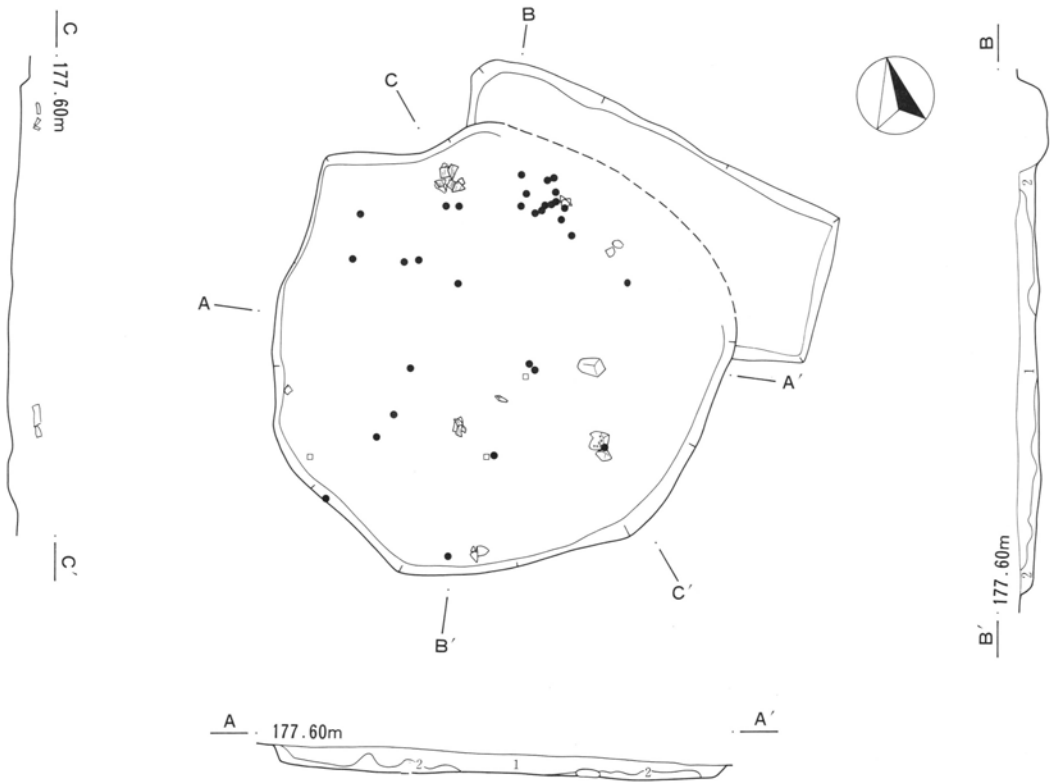
周溝 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

炉 検出できなかった。床面に焼土等の痕跡は認められなかった。

遺物 覆土から中期前半の土器187点が出土している。内訳は口縁部片14点、胴部片167点、底部片6点である。このほかに前期前半土器片1点、中期後半土器片11点、弥生土器片1点、土師器・須恵器片27点が出土している。石器・礫・剥片等は10点であり、多孔石が含まれている。

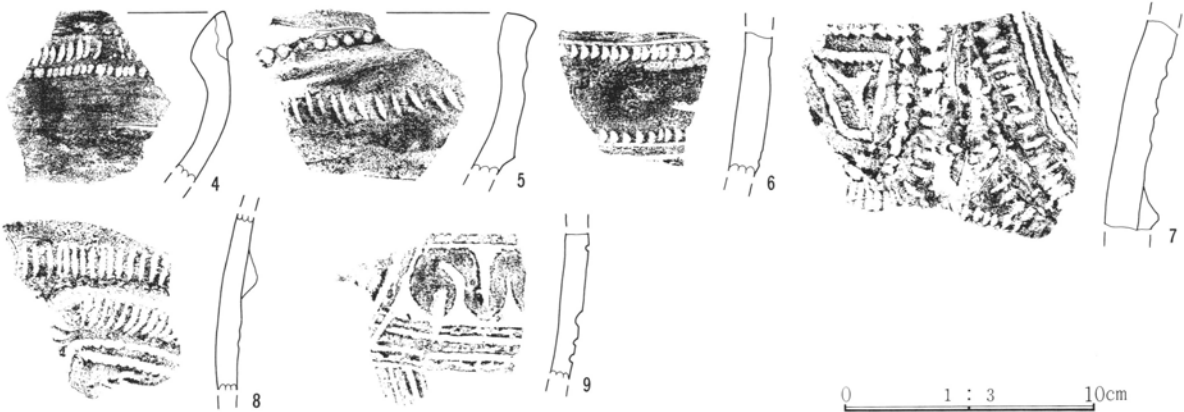
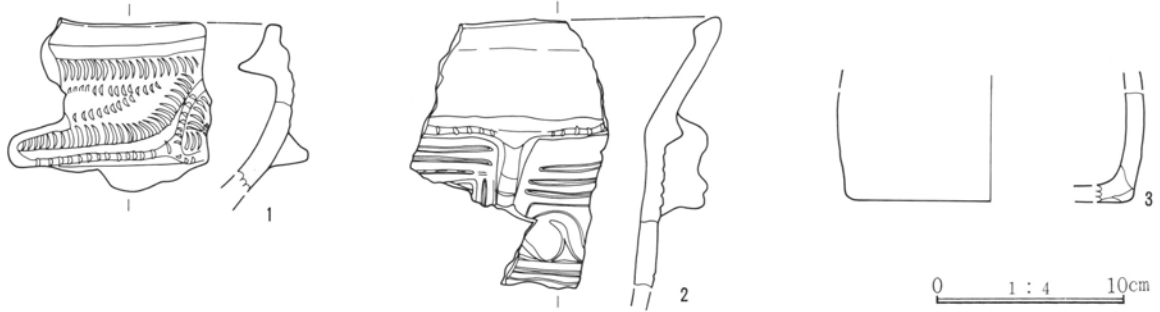
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。



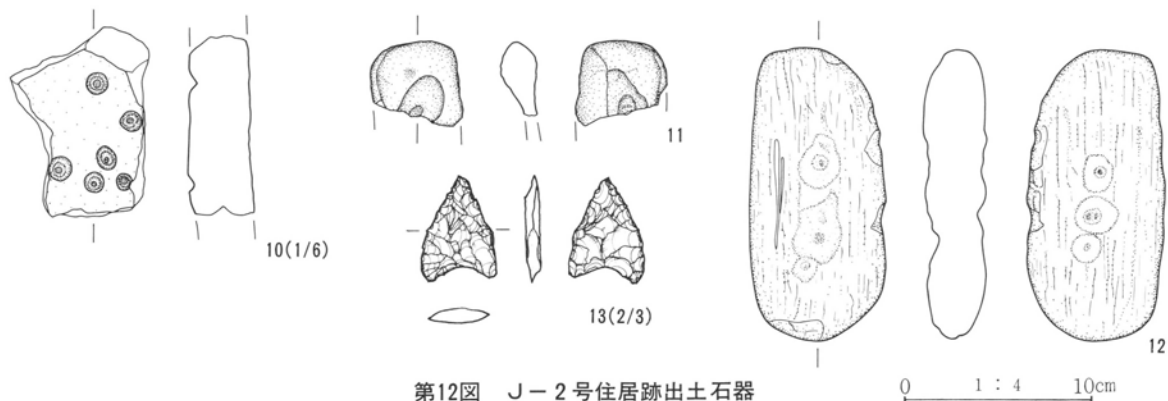
- 1 黒褐色土層 As-Aとローム粒子を含む。
- 2 茶褐色土層 粘性あまりない。ロームブロックを含む。

0 1 : 60 2m

第10図 J-2号住居跡



第11図 J-2号住居跡出土土器



第12図 J-2号住居跡出土石器

J-2号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様 (その他)	出土状況	
11-1 122	口縁部片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の内湾する口縁部片。器厚9~12mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は明褐色、内面は灰黄褐色。	隆帯による区画。 幅広の竹管による刺突が施されている。	覆土	
11-2 122	口縁部片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9~14mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は暗赤褐色。	隆帯による区画。 半截竹管による横位・縦位の平行沈線が施されている。	覆土	
11-3 122	底部片	①雲母を含む ②良	深鉢形土器の底部片。器厚8~11mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。		覆土	
11-4 122	口縁部片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9~12mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調はにぶい褐色、内面は黒褐色。	口縁部に竹管による刺突が施されている。	覆土	
11-5 122	口縁部片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の波状口縁部片。器厚9~12mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい黄褐色。	断面三角形の隆帯と幅広の竹管による刺突が施されている。	覆土	
11-6 122	口縁部片	①細粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10~13mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調はにぶい褐色。	半截竹管による平行沈線、刺突が施されている。	覆土	
11-7 122	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚13~14mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は明赤褐色、内面は褐色。	断面三角形の隆帯による区画。 幅広の竹管による刺突、ペン先状の刺突が施されている。	覆土	
11-8 122	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~9mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。	隆帯による区画。 幅広の竹管による刺突、ペン先状の刺突が施されている。	覆土	
11-9 122	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~10mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。	隆帯と半截竹管による平行沈線が施されている。	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g) 全長 幅 厚 重量	特徴	出土状況
12-10 122	多孔石	部分	砂岩	(15.2) (10.7) 5.1 (1,090)	片面に6個の凹み穴が認められる。赤化。	覆土
12-11 122	凹石	1/3	砂岩	(6.0) 7.1 3.0 (167)	両面に深い窪みを有する。	覆土
12-12 122	凹石	完形	緑泥片岩	15.5 7.2 3.2 624	両面に計6個の凹みが認められる。	覆土
12-13 122	石鏃	完形	黒曜石	1.8 1.3 0.3 1	側縁は中央部で外側に湾曲し、基部の扱りは逆U字形をなす。	覆土

J-3号住居跡 (第13~20図、PL.4・5・122・123)

位置 Cq-22・23、Cr-22・23グリッドにかけて検出された。J-5号住居跡の西約1mの所に位置している。

重複 Y-9号住居跡に接している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 路線外に住居跡が広がるために完掘することはできなかった。現状では長径7m、短径(3.6)mを測る。円形もしくは楕円形を呈するものと考えられる。

壁高 住居跡確認面より約20~25cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約18.9m²である。

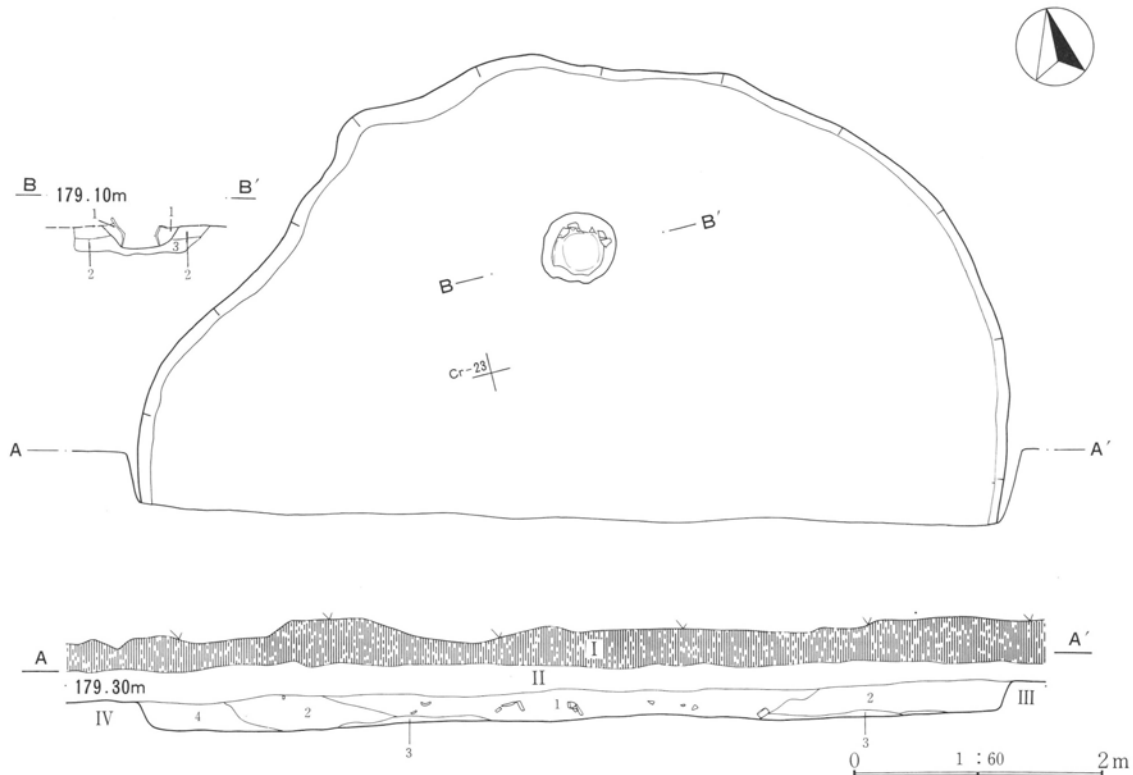
周溝 検出できなかった。

柱穴 発掘範囲内からは検出できなかった。

炉 埋甕炉である。規模は長径73cm、短径65cm、深さ20cmを測る。床面の北部に位置している。炉体土器(第15図・1)は口縁部の一部と胴下半部を欠損している。

遺物 覆土第1層から多量の遺物が出土しているが、第2~4層にかけてはほとんど出土していない。中期後半の土器を主体として、この他に前期土器片2点、中期前半土器片8点、弥生土器片57点、土師器・須恵器片13点、石皿3点、多孔石2点、凹石2点、打製石斧2点をはじめ剥片が総計15点出土している。

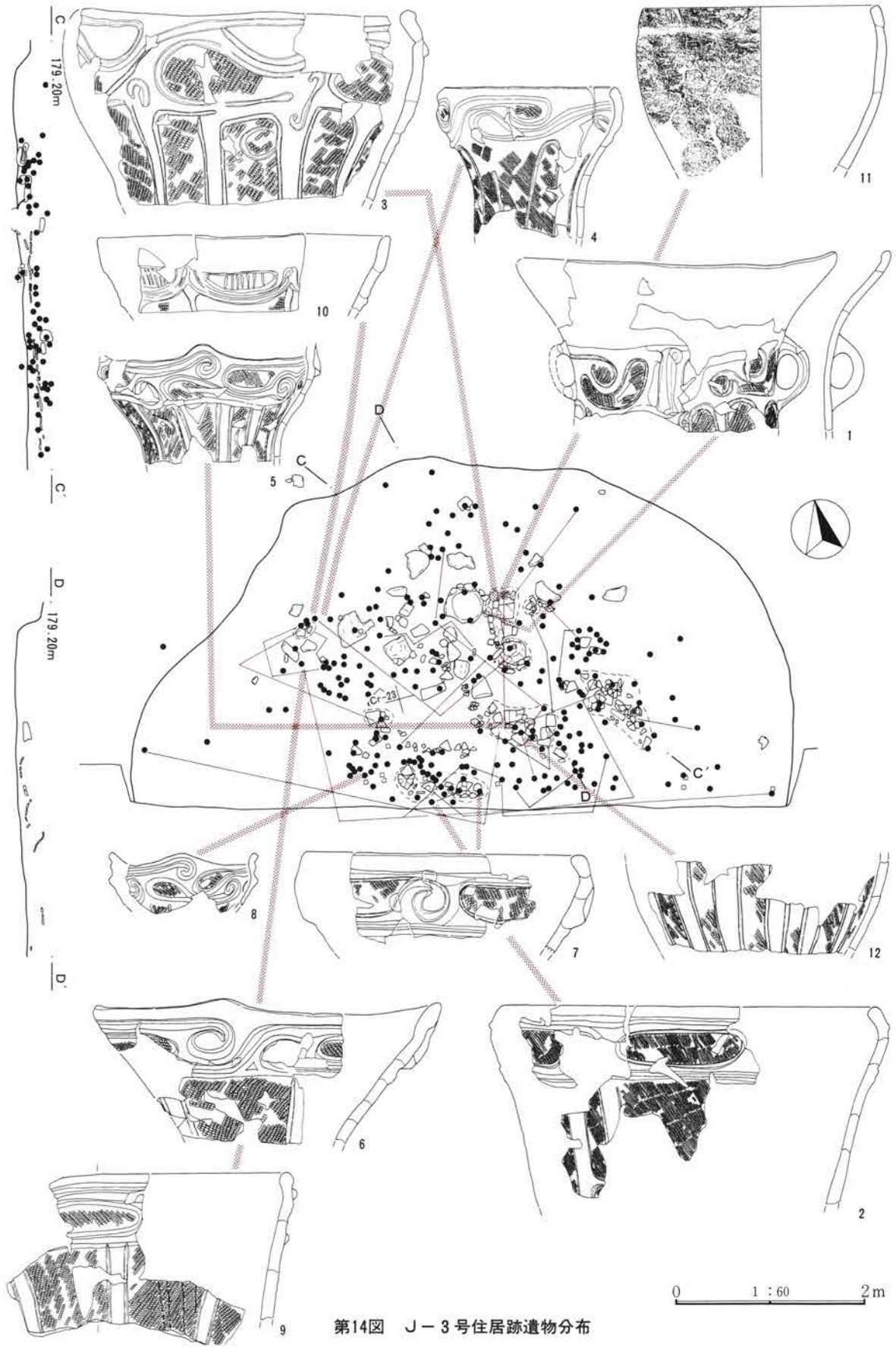
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期後半加曾利E3式土器の段階に相当する。



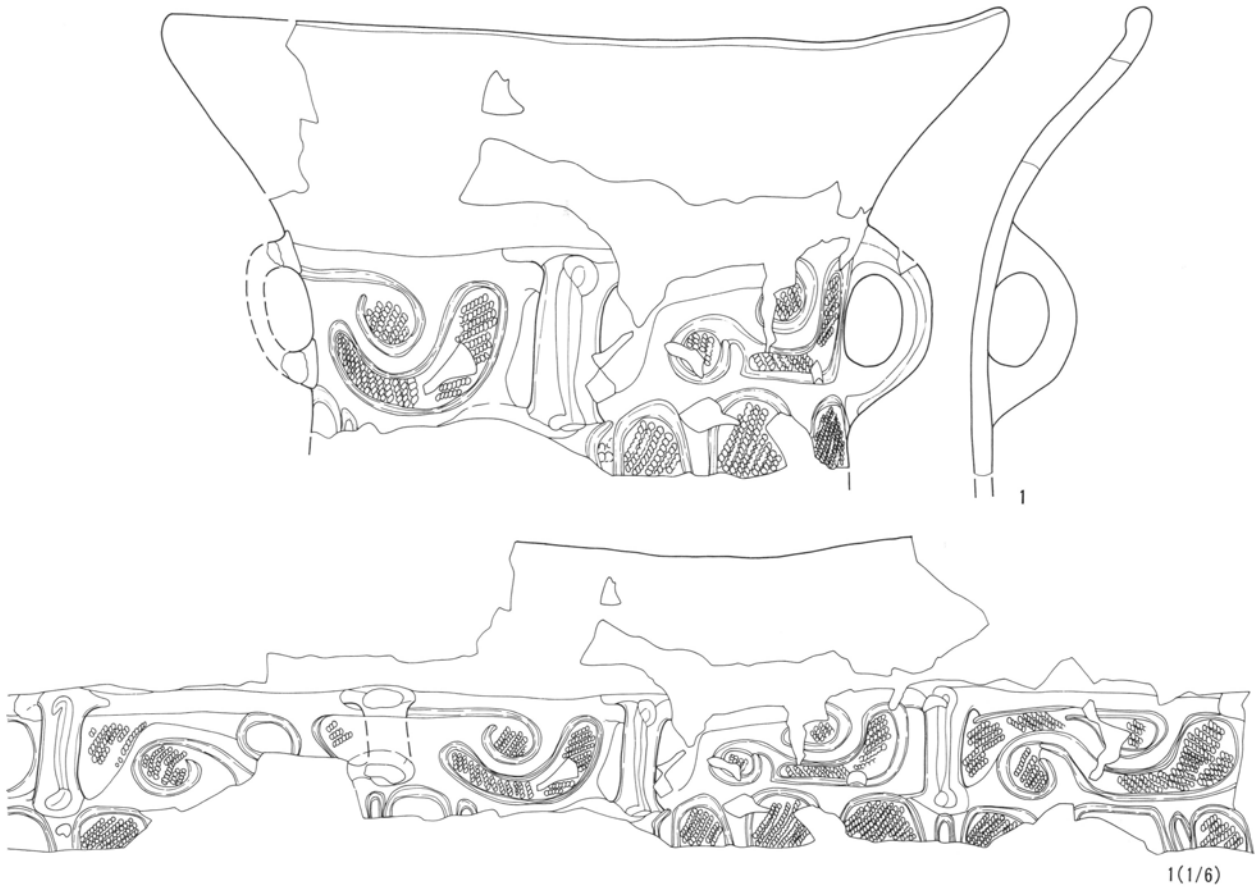
- | | |
|-----------|--|
| I 耕作土層 | やわらかくて締まり悪い。As-Aを多量に含む。 |
| II 黒褐色土層 | やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。 |
| III 茶褐色土層 | やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を含む。 |
| IV 暗褐色土層 | やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子・白色粒子を含む。 |
| 1 暗褐色土層 | 固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。多量の土器片を含んでいる。 |
| 2 暗褐色土層 | やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を含む。 |
| 3 黄褐色土層 | やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ローム粒子を多量に含む。 |
| 4 暗褐色土層 | やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ローム粒子を含む。 |

- | | |
|---------|--|
| 炉 | |
| 1 暗褐色土層 | やわらかくて粘性非常にあり。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。炭化物粒子を極少量含む。 |
| 2 黄褐色土層 | やわらかくて粘性非常にあり。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。 |
| 3 黄褐色土層 | ローム層 |

第13図 J-3号住居跡

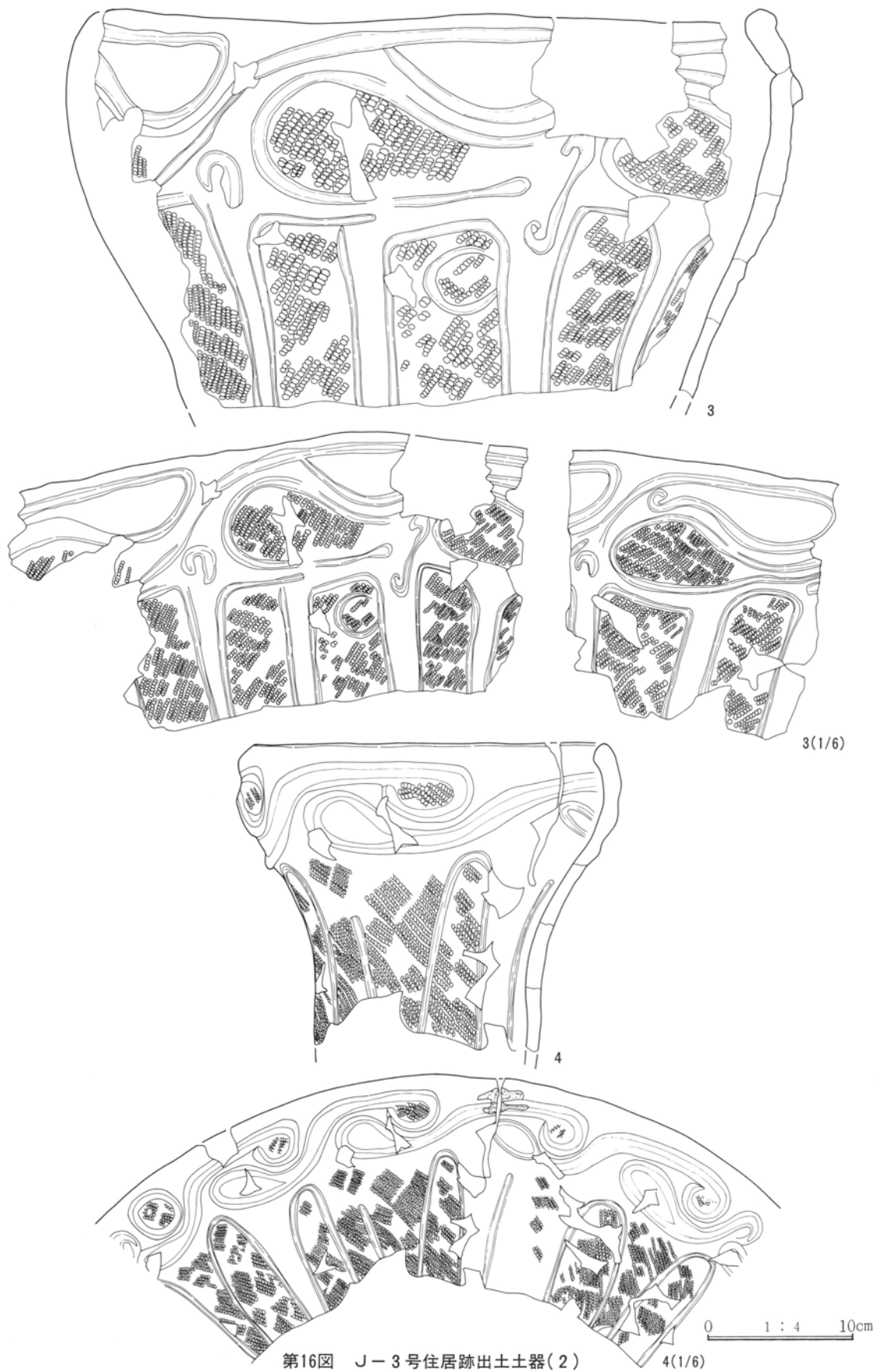


第14図 J-3号住居跡遺物分布

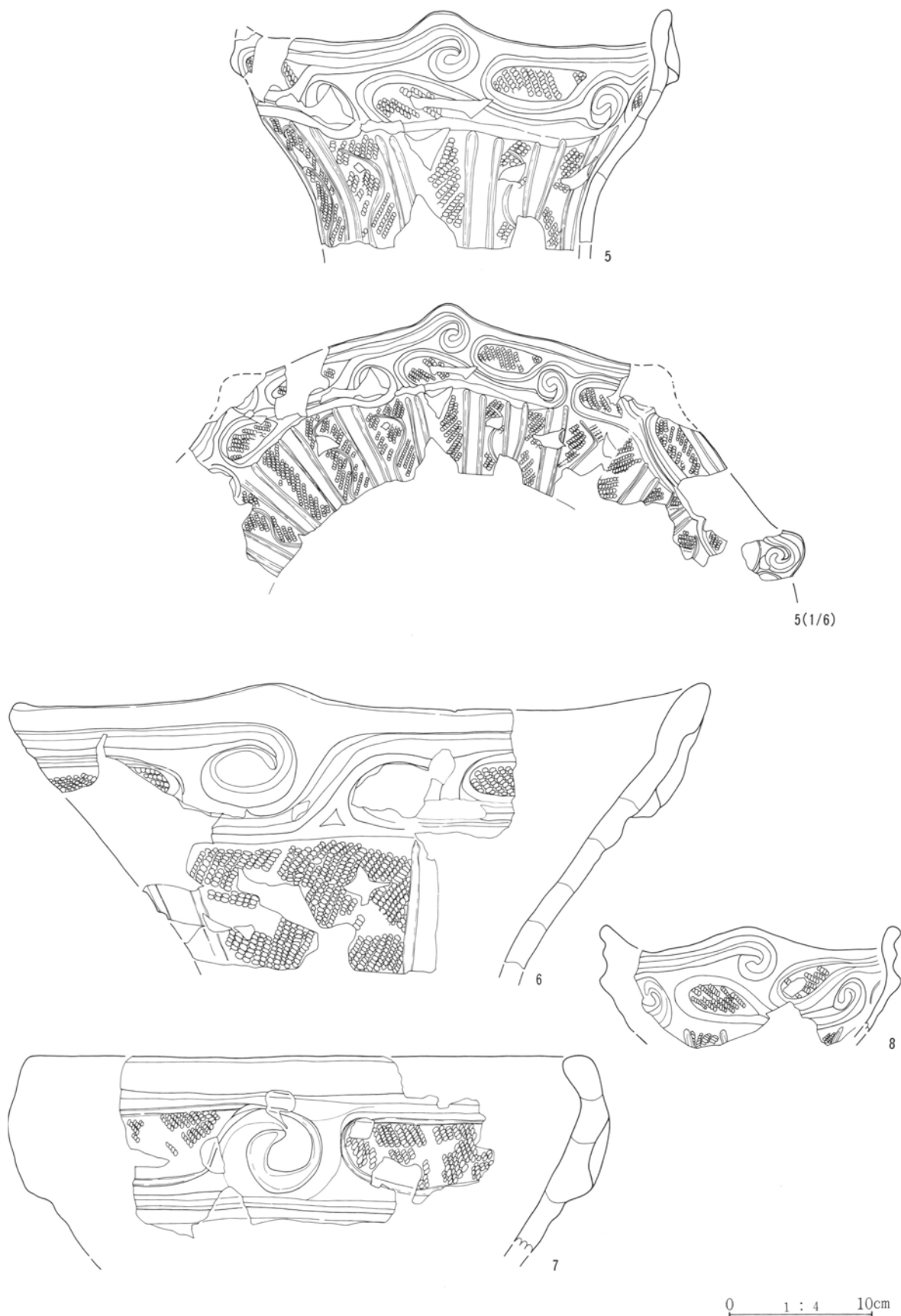


0 1 : 4 10cm

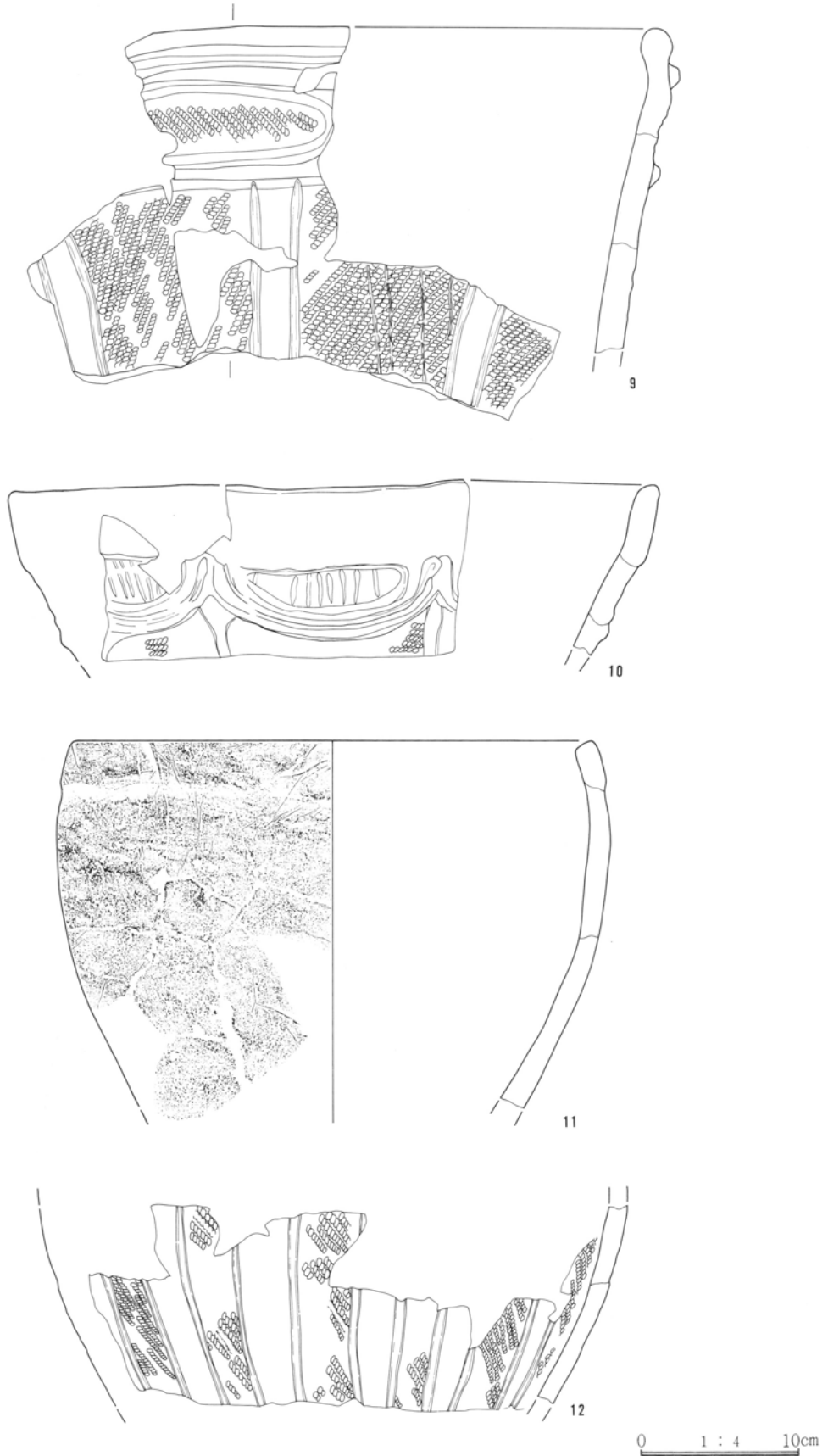
第15図 J-3号住居跡出土土器(1)



第16図 J-3号住居跡出土土器(2)



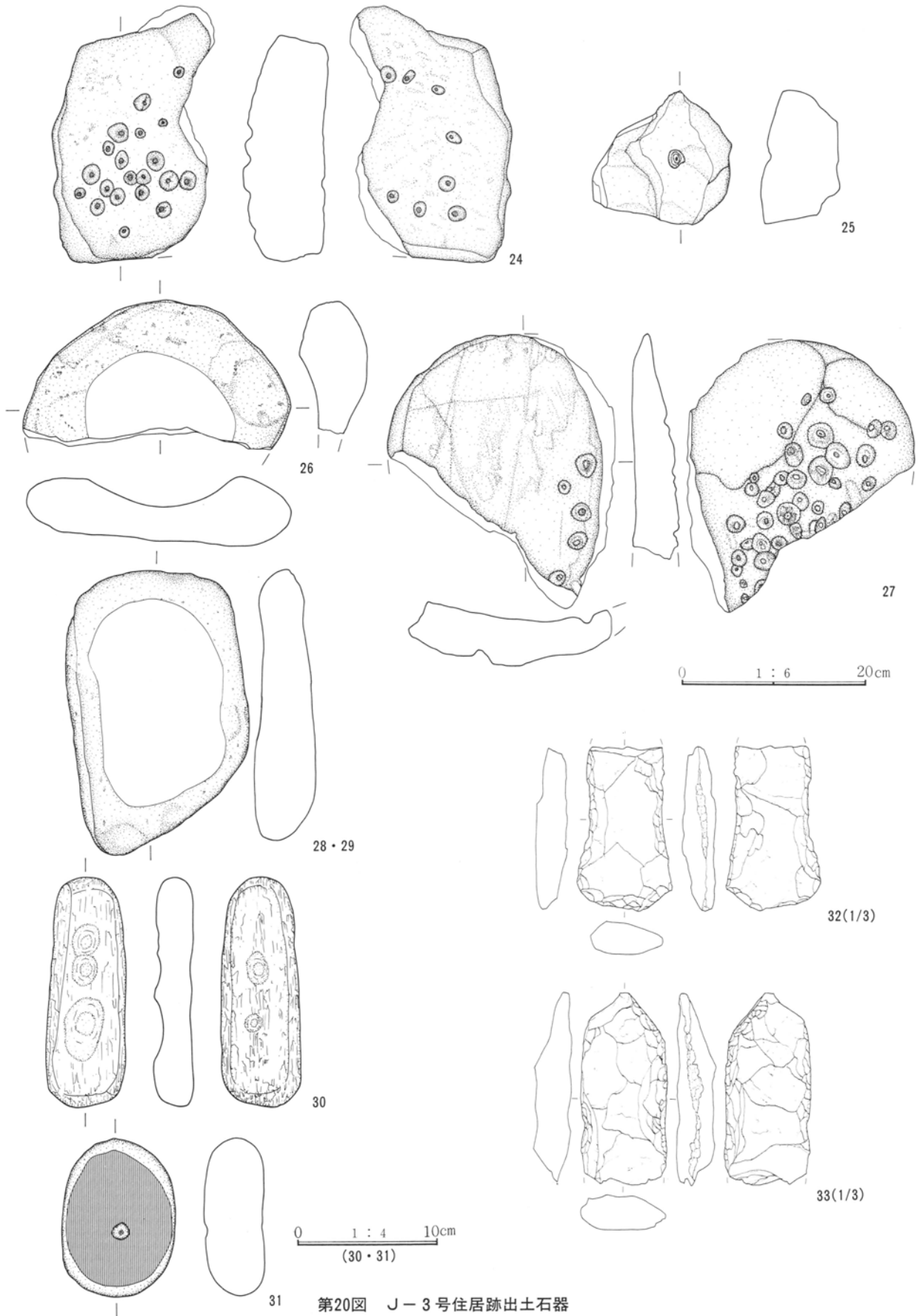
第17图 J-3号住居跡出土土器(3)



第18図 J-3号住居跡出土土器(4)



第19图 J-3号住居跡出土土器(5)



第20図 J-3号住居跡出土石器

J-3号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文 様 (その他)	出土状況
15-1 122	口縁～ 胴上半	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴下半部欠損。 内面は横方向の調整が行われている。 内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部に無文帯。胴部に4個の把手。 隆帯と沈線による区画。縄文施文。原体 はR ₁ とL ₁ 。	炉体土器
15-2 122	口縁～ 胴上半	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の口縁～胴部片。器厚13～18mm。 内面は横方向の調整が行われている。 内外面の色調はにぶい褐色。	口縁部は内湾し、隆帯と沈線による楕円 等の文様。縄文施文。原体はR ₁ 横位。 沈線を垂下している。	住居跡中 中央部
16-3 122	口縁～ 胴上半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁から胴上半部1/2。 内面は横方向の調整が行われている。 内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部に隆帯と沈線による楕円等の区画。 縄文施文。原体はL ₁ 。胴部に沈線による 区画が施されている。	炉 東 側
16-4 122	口縁～ 胴上半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部欠損。器厚8～15mm。 内面は横方向の調整が行われている。 内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部は内湾し、隆帯と沈線による渦巻 き、楕円等の文様。縄文施文。原体はR ₁ 横位。胴部に∩状の沈線。	住居跡中 中央部
17-5 122	口縁～ 胴上半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部欠損。器厚9～12mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。	口縁部は内湾し、口唇部に4単位の突起。 口縁部に隆帯と沈線による渦巻き、楕円 等の文様。縄文原体はR ₁ 。胴部沈線垂下。	住居跡中 中央部
17-6 122	口縁～ 胴上半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁～胴上半。器厚15～23mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。	口縁部に隆帯と沈線による渦巻、楕円等 の文様。縄文施文。原体はR ₁ 横・縦位。 沈線を垂下。	住居跡中 中央部
17-7 122	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の口縁部片。器厚15～21mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい褐色。	口縁部は内湾し、隆帯と沈線による渦巻 き、楕円の文様が描かれる。 縄文施文。原体はR ₁ 横位。	住居跡中 中央部
17-8 123	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁～胴上半。器厚6～10mm。 内面は横方向の丁寧なミガキが行われている。 内外面の色調は暗褐色。	内湾する波状口縁。隆帯と沈線による渦 巻き、楕円等の文様。 縄文施文。原体はR ₁ 。沈線を垂下。	住居跡中 中央部
18-9 122	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚15～19mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は褐色。	口縁部に隆帯と沈線による楕円の文様が 描かれる。縄文施文。原体はR ₁ 。両端 を他の条で縛る。沈線を垂下。	住居跡東 部
18-10 123	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②不良	深鉢形土器の口縁部片。器厚13～16mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調はにぶい黄褐色、内面は明赤褐色。	口縁部に隆帯と沈線による楕円区画、区 画内に縦位の沈線が施されている。	住居跡中 中央部
18-11 122	口縁 ～胴部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁～胴上半。器厚12～16mm。 内面は横・斜方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい褐色。	口縁部に無文帯、1条の浅い沈線を巡ら せる。 胴部は無文。	住居跡中 中央部
18-12 122	胴下半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部1/2。器厚9mm。 内面は縦方向の調整が行われている。 内外面の色調は褐色。	沈線を垂下。 縄文施文。原体はR ₁ 。	住居跡中 中央部
19-13 123	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚14～18mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調はにぶい黄色、内面はにぶい褐色。	口縁部に隆帯と沈線による渦巻き、楕円 等の文様。縄文原体はR ₁ 。胴部は沈線 を垂下し、原体L ₁ 。	覆 土
19-14 123	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12～15mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は灰黄褐色、内面はにぶい黄色。	口縁部に隆帯と沈線による楕円区画。縄 文原体はR ₁ 。胴部は沈線を垂下し、原 体はL ₁ 。	覆 土
19-15 123	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚14～19mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は褐色、内面は明赤褐色。	口縁部に隆帯と沈線による楕円等の文様。 縄文原体はL ₁ 。	覆 土
19-16 123	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚13～15mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は明赤褐色、内面は黄褐色。	口縁部に隆帯と沈線による文様。 縄文原体はR ₁ 。	覆 土
19-17 123	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚14～21mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調はオリーブ黒色、内面は明褐色。	口縁部に隆帯と沈線による文様。 縄文原体はR ₁ 。	覆 土
19-18 123	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7～9mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は赤色、内面はオリーブ黒色。	口縁部に隆帯と沈線による文様。 縄文原体はL ₁ 。	覆 土
19-19 123	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12～14mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調はにぶい褐色、内面はにぶい黄褐色。	口縁部に隆帯と沈線による文様。 刺突が施されている。	覆 土

J-3号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文 様 (その他)	出土状況	
19-20 123	胴部片	①細粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の胴部片。器厚5~6mm。 内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は黒褐色。				沈線を垂下。 縄文施文。原体はR仕。	覆 土	
19-21 123	胴部片	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚11~14mm。 内面は縦方向のミガキが行われている。 外面の色調は橙色、内面はにぶい黄褐色。				沈線を垂下。 縄文施文。原体はR仕。	覆 土	
19-22 123	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~12mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は灰黄褐色、内面は明黄褐色。				沈線を垂下。 縄文施文。原体はR仕。	覆 土	
19-23 123	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚13~15mm。 内面は縦方向のミガキが行われている。 外面の色調は黄褐色、内面は黒褐色。				沈線を垂下。 縄文施文。原体はL _R ^R _L 。	覆 土	
図番 PL	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm、g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
20-24 123	多孔石	2/3	砂 岩	23.9	(15.6)	8.7	(5,645)	両面に計28個の凹み穴が認められる。	覆 土
20-25 123	多孔石	部 分	砂 岩	(14.4)	(15.0)	8.6	(1,839)	片面に1個の凹み穴が認められる。一部焼けている。	覆 土
20-26 123	石 皿	1/2	砂 岩	(14.5)	28.6	7.3	(3,498)	楕円形で窪みは深い。	覆 土
20-27 123	石 皿	1/2	砂 岩	(24.8)	24.0	4.8	(3,688)	楕円形で両面に磨面を有する。凹み穴も両面に現状39個認められる。	覆 土
20-28・29 123	台 石	完 形	安 山 岩	30.0	19.4	6.5	6,148	両面に磨耗痕が認められる。一部焼けている。	覆 土
20-30 123	凹 石	完 形	絹 雲 母 石 墨 片 岩	16.4	5.8	2.7	517	両面に計5個の凹みが認められる。	覆 土
20-31 123	磨 石	完 形	安 山 岩	11.3	8.2	4.2	600	全面に磨耗痕と片面に敲打痕が認められる。	覆 土
20-32 123	打製石斧	先端部欠損	熱 変 成 岩	(8.6)	5.0	1.7	(72.6)	短冊型	覆 土
20-33 123	打製石斧	刃部欠損	熱 変 成 岩	(10.1)	4.6	2.0	(115.5)	短冊型	覆 土

J-4号住居跡 (第21・22図、PL.6・123・124)

位置 Cn-26・27、Co-26・27グリッドにかけて検出された。J-12号住居跡の南約9mの所に位置している。

重複 3号方形周溝墓によって住居跡の東部分を壊されている。また南西のコーナで25号土坑と重複している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 長径4.9m、短径4.8mの方形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約18~40cmで床面に達する。

壁面は焼けている。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。推定面積は約17.2m²。

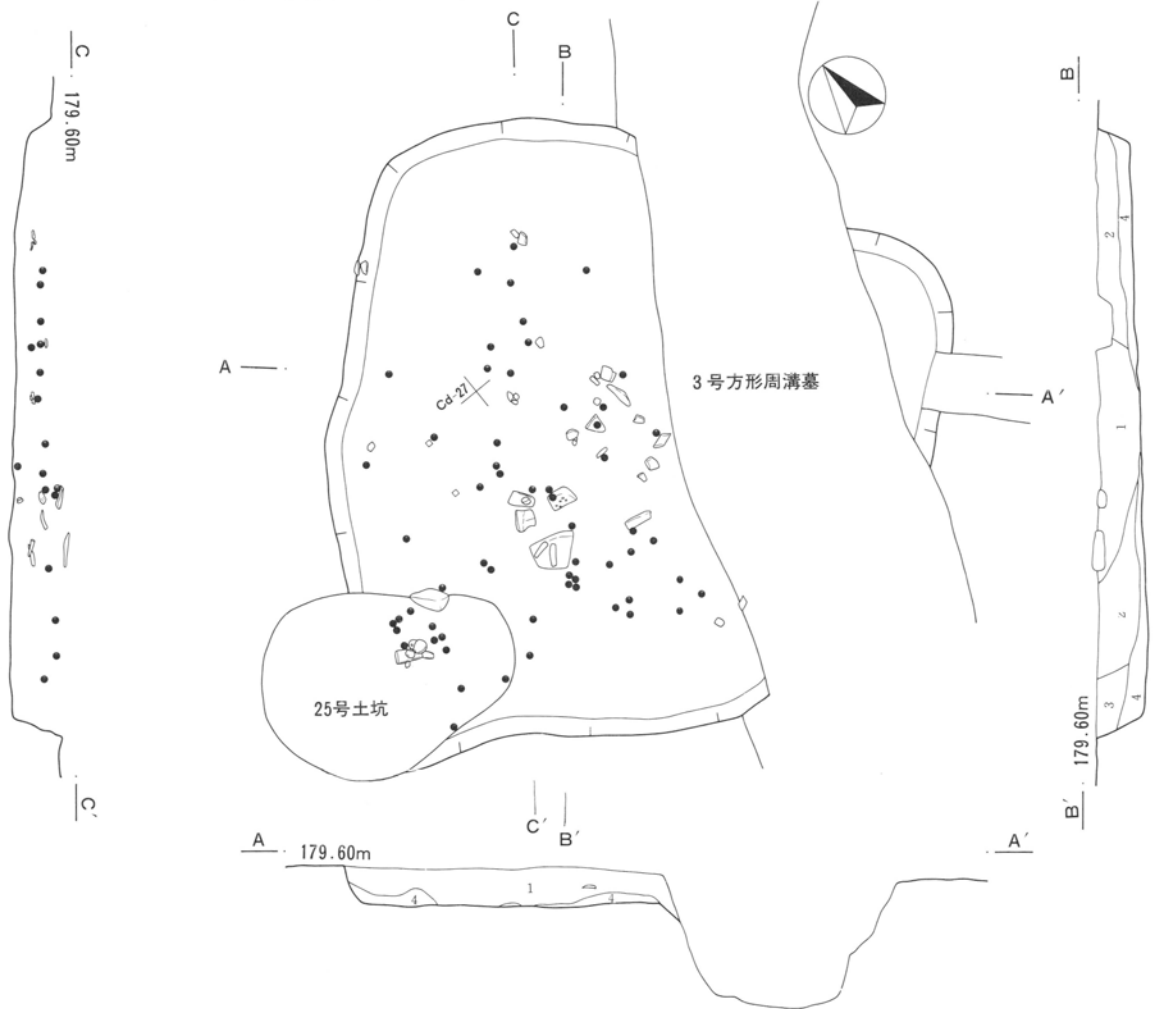
周溝 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

炉 検出できなかった。床面に焼土等の痕跡を確認することはできなかった。

遺物 覆土第1・2層にかけて出土している。中期前半の土器を主体として、口縁部片17点、胴部片154点、底部片5点が出土している。この他に前期後半土器片1点、中期後半土器片3点、弥生土器片12点、土師器片15点、石皿・多孔石・凹石・打製石斧をはじめ剥片等が総計10点出土している。

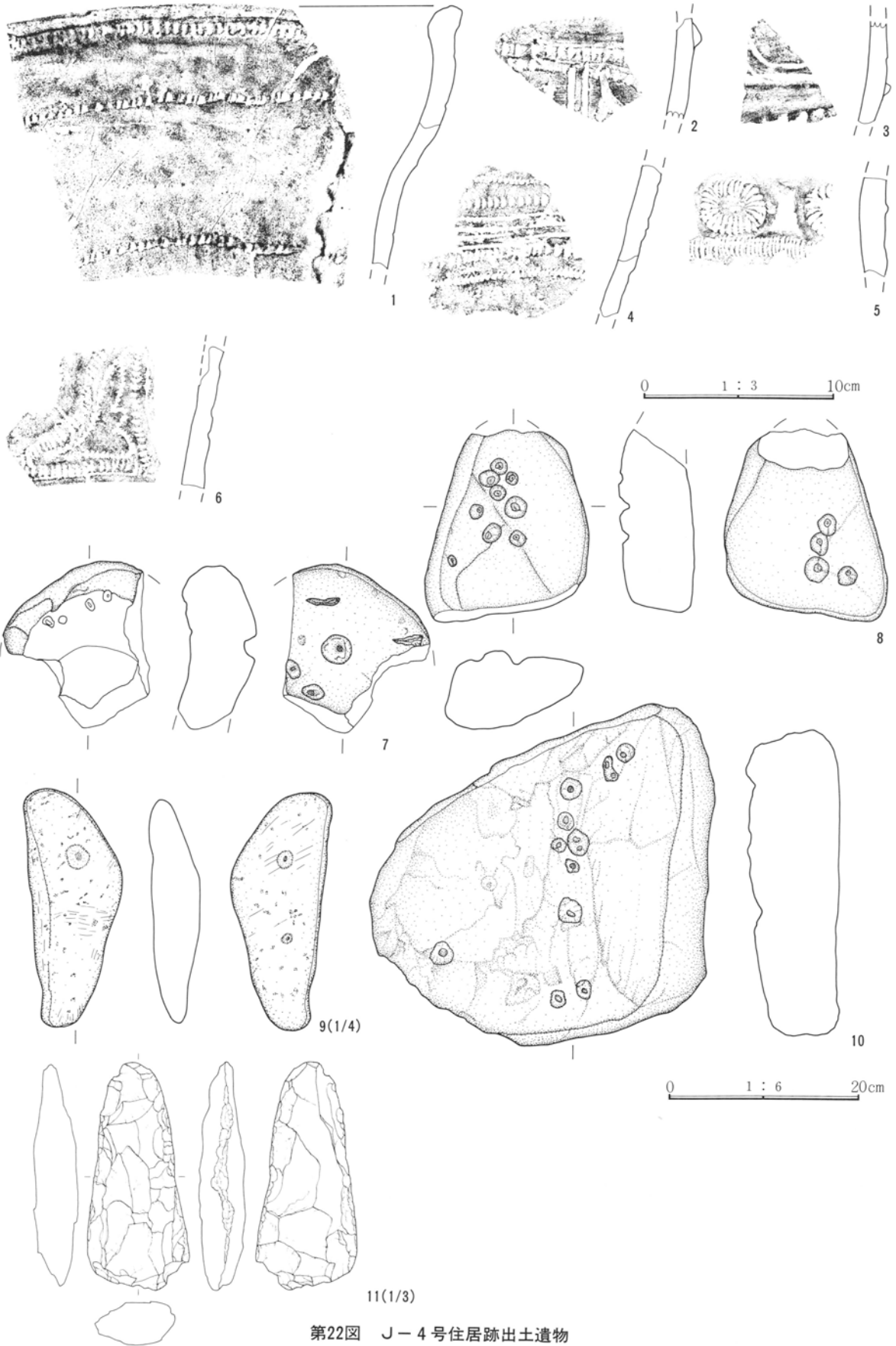
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。



- 1 暗褐色土層 固く締まり粘性少しあり。ローム粒子・白色粒子・炭化物粒子を含む。2層よりやや暗い色調。
- 2 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。白色粒子を多量に、ローム粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子・白色粒子を少量含む。
- 4 茶褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を多量に、白色粒子も含む。

0 1:60 2m

第21図 J-4号住居跡



第22図 J-4号住居跡出土遺物

J-4号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調		文 様 (その他)	出土状況			
			成形・器面調整の特徴と色調	成形・器面調整の特徴と色調					
22-1 123	口縁部 片	①中粒の砂を混入 金雲母を含む ②良	深鉢形土器の内湾する口縁部片。器厚9～15mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は灰黄褐色。		隆帯を垂下。 竹管による刺突が施されている。 外面に煤が付着している。	覆 土			
22-2 123	胴部片	①細粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9～10mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は暗褐色。		隆帯による区画。 竹管・棒状工具による刺突が施されてい る。	覆 土			
22-3 123	胴部片	①細粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9～10mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は黒褐色、内面は褐色。		断面三角形の隆帯。 沈線が施されている。	覆 土			
22-4 123	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8～11mm。 内面は縦方向のミガキが行われている。 外面の色調は赤褐色、内面は黒褐色。		半截竹管による平行沈線。 竹管と棒状工具による刺突が施されてい る。	覆 土			
22-5 123	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11～13mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は赤褐色、内面は黒褐色。		隆帯による区画。 幅広の竹管による刺突が施されている。	覆 土			
22-6 123	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8～12mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は明褐色、内面はにぶい黄褐色。		隆帯による区画。 幅広の竹管による刺突、ペン先状の刺突 が施されている。	覆 土			
図番 PL	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm, g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
22-7 124	石 皿	部 分	砂 岩	(17.3)	(14.5)	7.0	(1,611)	表面は浅い窪みと側縁に4個の凹み穴。裏面 は3個の凹み穴が認められる。	覆 土
22-8 124	多 孔 石	一部欠損	砂 岩	(19.0)	16.5	7.8	(2,702)	両面に計13個の凹み穴が認められる。	覆 土
22-9 124	凹 石	完 形	安 山 岩	16.5	6.4	3.3	524	両面に計2個の凹みが認められる。	覆 土
22-10 124	多 孔 石	完 形	砂 岩	33.0	35.0	9.7	13,450	片面に11個の凹み穴が認められる。	覆 土
22-11 124	打製石斧	完 形	熱変成岩	11.7	5.2	2.4	142.7	撥型。	覆 土

J-5号住居跡 (第23～29図、PL.6・7・124・125)

位置 Co-22・23、Cp-22・23グリッドにかけて検出された。J-3号住居跡の東約1mの所に位置している。

重複 1号墳下から検出された。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長径5m、短径4.8mの円形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約4～16cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約17.8㎡である。

周溝 検出できなかった。

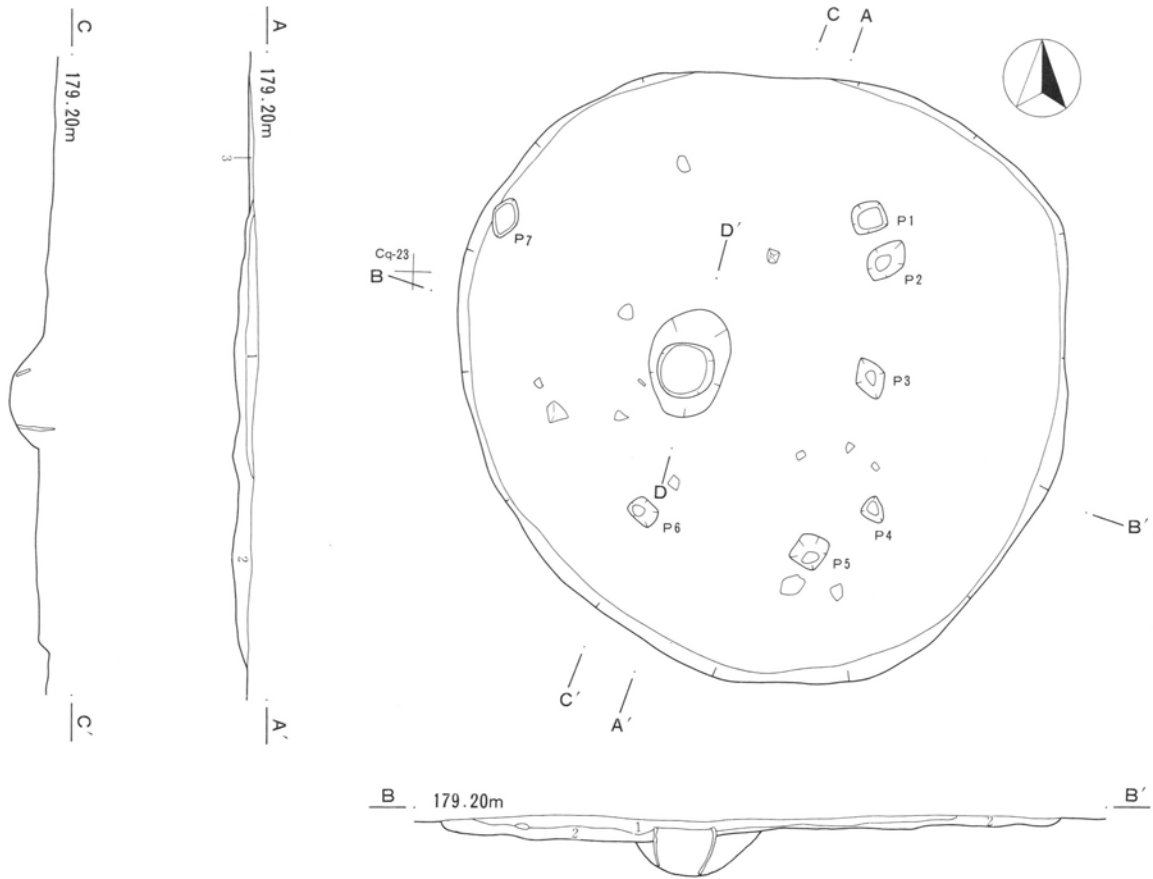
柱穴 ピット7個が検出された。P1は長径27cm、短径24cm、深さ20cm。P2は長径36cm、短径25cm、深さ28cm。P3は長径25cm、短径23cm、深さ26cm。P4

は長径20cm、短径17cm、深さ17cm。P5は長径27cm、短径25cm、深さ38cm。P6は長径25cm、短径17cm、深さ29cm。P7は長径25cm、短径20cm、深さ23cmである。

炉 埋甕炉である。規模は長径88cm、短径62cm、深さ20cmを測り、壁面は焼けている。覆土は3層に分かれた。床面の中央西側に寄っている。炉体土器は胴下半部を欠損している。

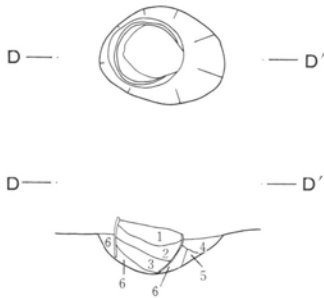
遺物 覆土第1層から多量の遺物が出土している。第2層からの出土は極少量であった。中期後半の土器を主体とし、この他に中期前半土器片18点、弥生土器片36点、多孔石3点、石皿2点、凹石3点をはじめ剥片等総計54点出土している。

時期 炉体土器から判断すると、当住居跡は縄文時代中期後半加曽利E3式土器の段階である。



- 1 黒褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームを多量に含む。

炉



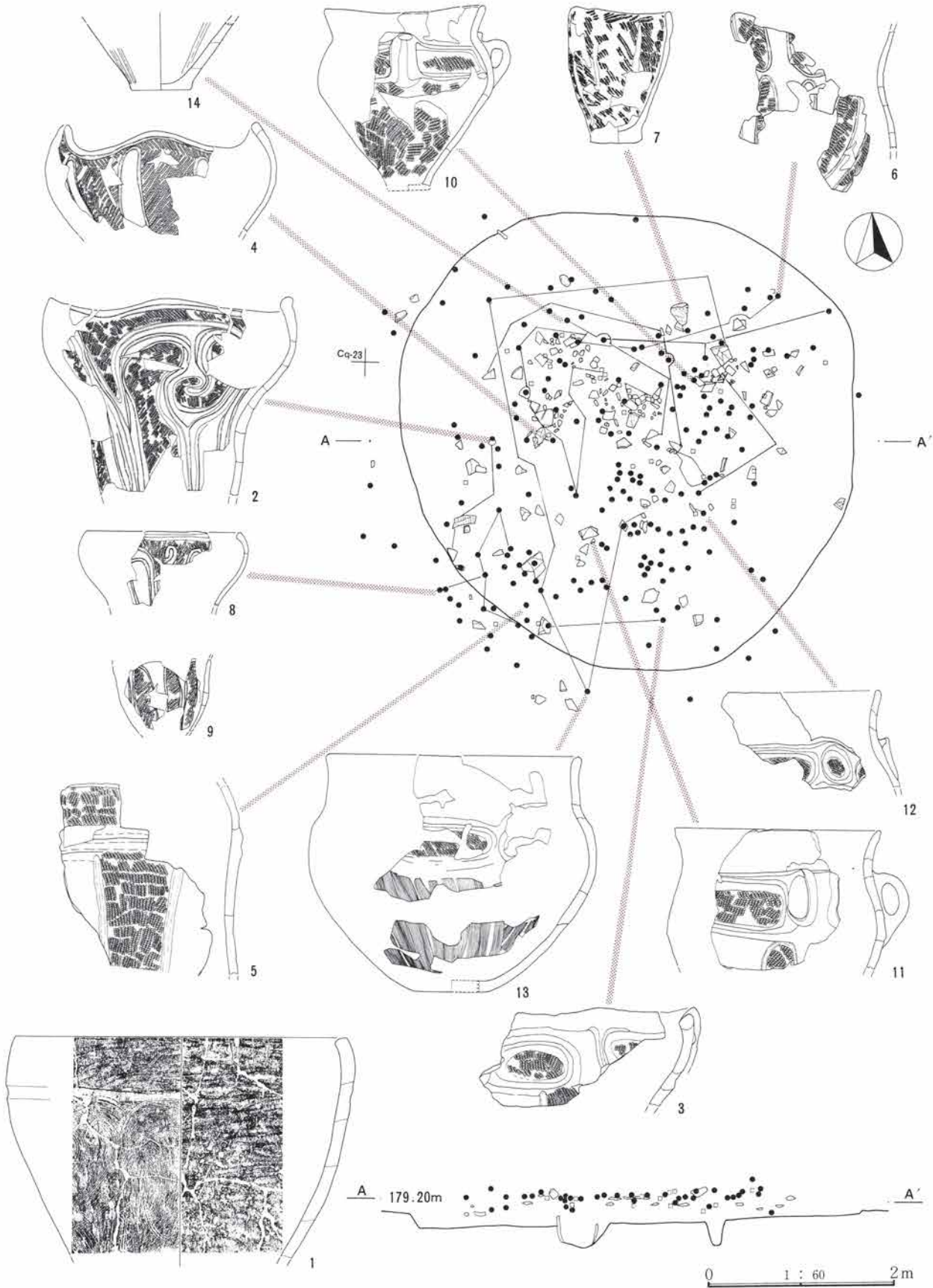
- 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土層 やわらかくて粘性非常にあり。ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を多量に、焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 5 黄褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ローム粒子・焼土粒子を多量に炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ローム粒子・焼土粒子を多量に含む。

第23図 J-5号住居跡

0 1 : 60 2m

J-5号住居跡遺物観察表

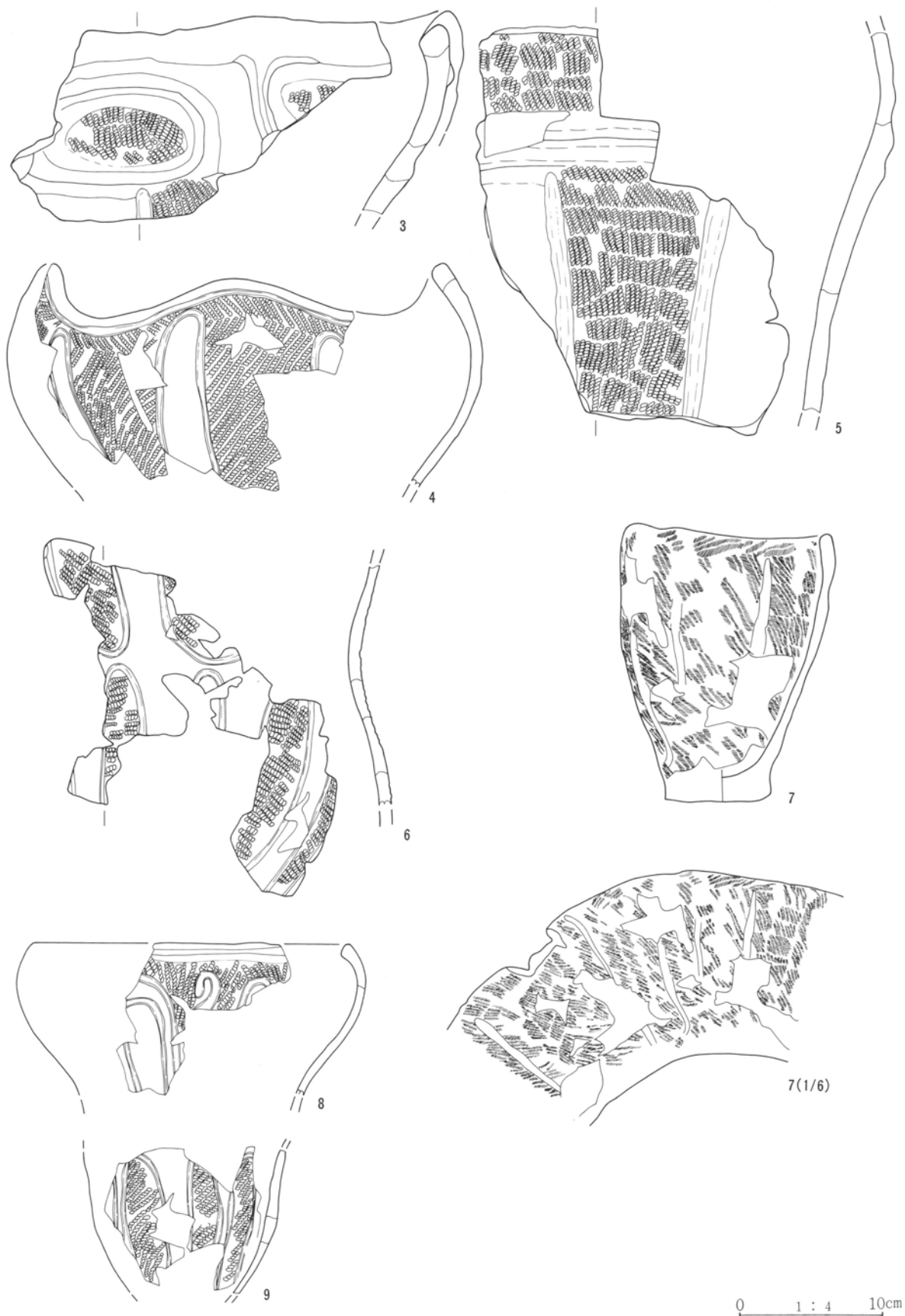
図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様 (その他)	出土状況
25-1 124	口縁～ 胴部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部欠損 内面は横方向の調整が行われている。 内外面の色調はにぶい黄橙色。	口縁部に無文体をおき、幅広の沈線を1条巡らせる。胴部は三本一単位の条線による文様が描かれる。	炉体土器
25-2 124	口縁～ 胴部	①細粒の砂を混入 ②良	口縁部は内湾し、波状を呈する。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。	口唇部に1条の沈線を巡らせる。 胴部は隆帯と沈線による区画。 縄文原帯はR(横・縦転がし)。	住居跡西部
26-3 124	口縁部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の内湾する口縁部片。器厚15～18mm。内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい黄橙色。	口縁部は隆帯による楕円区画。 縄文施文。原体はR(横・縦転がし)。	住居跡南部



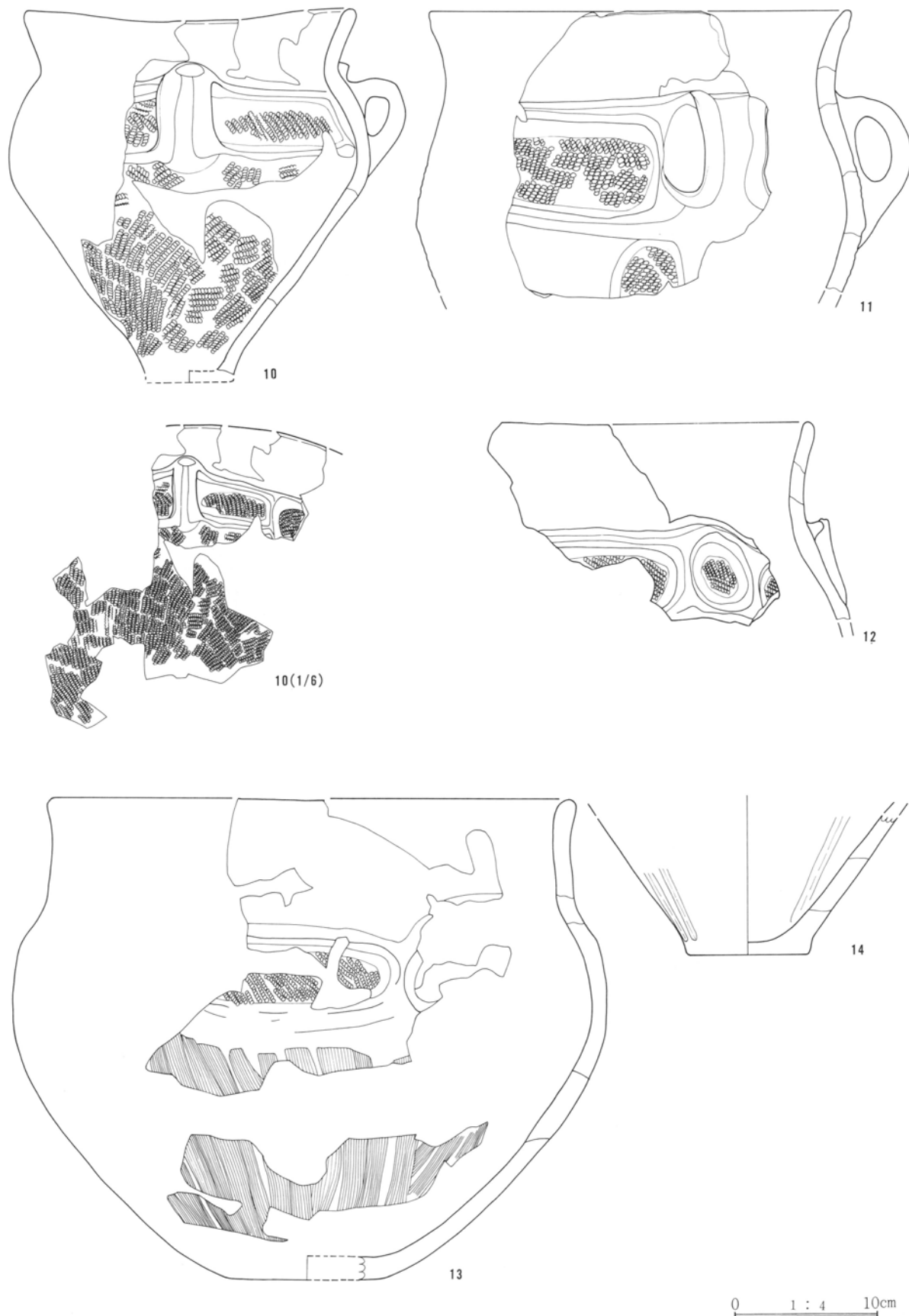
第24图 J-5号住居跡遺物分布



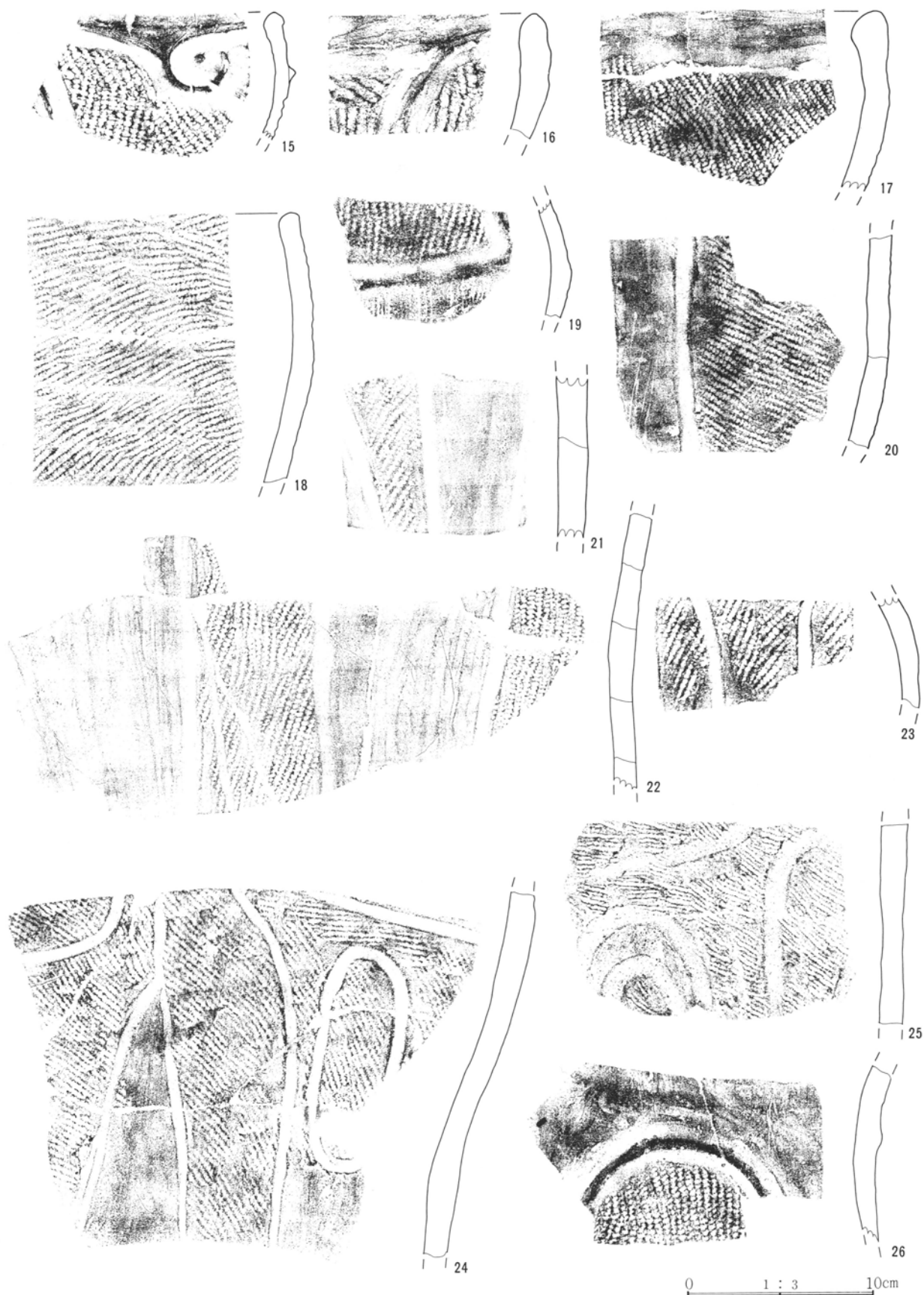
第25図 J-5号住居跡出土土器(1)



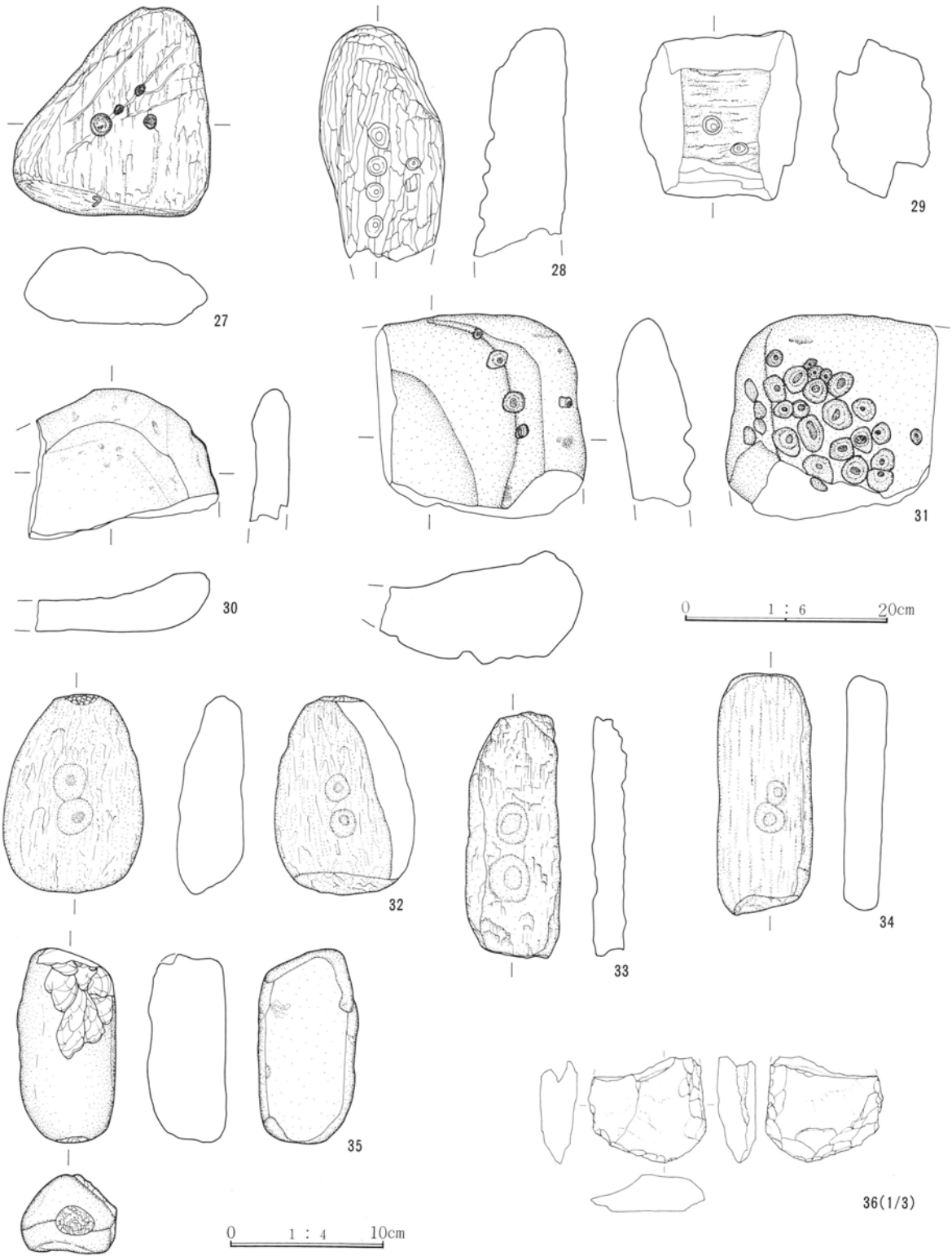
第26图 J-5号住居跡出土土器(2)



第27図 J-5号住居跡出土土器(3)



第28图 J-5号住居跡出土土器(4)



第29図 J-5号住居跡出土石器

J-5号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文 様 (その他)	出土状況
26-4 124	口縁部	①中粒の砂を混入 ②不良	深鉢形土器の内湾する波状口縁部片。器厚7～14mm。内面は横方向の調整が行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口唇部に無文帯をおいて、1条の沈線を巡らせる。以下、縄文施文。原体はR ₁ 横・縦位。∟状の沈線。	住居跡中央部
26-5 124	口縁部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器のやや内湾する口縁部片。器厚10～15mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部は隆帯による区画。胴部は沈線を垂下。縄文原体はR ₁ 横・縦位。	住居跡南西部
26-6 124	胴部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴上半～下半部。器厚8mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい褐色。	沈線によるU字、∟状の文様。縄文施文。原体はL ₁ 縦転がし。	住居跡北部
26-7 124	胴部一部欠損	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器のほぼ完形品。器厚5～10mm。内面は横方向のミガキが行われている。外面の色調はにぶい黄褐色、内面はにぶい褐色。	縄文施文。原体はL ₁ 横。器面は柔軟で押圧が強い。沈線を垂下している。	住居跡北部
26-8 124	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の内湾する口縁部片。器厚6～10mm。内面は横ミガキが行われている。内外面の色調は褐色。	縄文施文。原体はR ₁ 横・縦転がし。口唇部に1条の沈線。以下、沈線による文様。	住居跡南西部
26-9 124	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚5～7mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	∟状の沈線を垂下。縄文施文。原体はR ₁ 縦転がし。	住居跡南西部
27-10 124	口縁部欠損	①中粒の砂を混入 ②良	両耳壺の口縁～底部片。器厚8～12mm。内面は横・縦方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部に幅広い無文帯。肩部は隆帯による楕円区画、橋状把手をもつ。縄文施文。原体はR ₁ 横・縦位。	住居跡中央部
27-11 124	口縁～胴部	①中粒の砂を混入 ②良	両耳壺の口縁～胴部片。器厚10～13mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部に幅広い無文帯。肩部は隆帯による楕円区画、橋状把手をもつ。縄文施文。原体はR ₁ 横・縦位。	住居跡中央部
27-12 124	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②良	浅鉢形土器の口縁部片。器厚10mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部に幅広い無文帯。隆帯による楕円・円形の区画。縄文施文。原体はR ₁ 横。胴部は条線。	住居跡東南部
27-13 124	口縁～底部	①中粒の砂を混入 ②良	両耳壺の口縁～底部片。器厚12～14mm。内面は横方向の調整、炭化物が付着。内外面の色調はにぶい赤褐色。	口縁部に幅広い無文帯。肩部は隆帯による楕円区画。縄文施文。原体はR ₁ 横位。胴部は縦位の条線が施されている。	覆土
27-14 124	底部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。底径8.5cm。内面は荒れている。内外面の色調は灰黄褐色。	隆帯を垂下している。底面は磨耗している。	住居跡北部
28-15 125	口縁部片	①粗粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚6～10mm。内面は横方向の調整が行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部は内湾する。隆帯と沈線による渦巻等の文様。縄文施文。原体はR ₁ 横。	覆土
28-16 125	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚11～16mm。内面は横方向の調整が行われている。外面の色調は黒褐色、内面は暗灰黄色。	口縁部は内湾する。隆帯と沈線による文様。縄文施文。原体はL ₁ 横。	覆土
28-17 125	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12～20mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部に楕円区画。縄文施文。原体はR ₁ 横。	覆土
28-18 125	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12～14mm。内面は横方向のミガキが行われている。外面の色調はにぶい黄褐色、内面は暗灰黄色。	口縁部は内湾する。縄文施文。原体はL ₁ 横。土器面は柔軟で押圧強い。	覆土
28-19 125	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②不良	深鉢形土器の胴部片。器厚8～11mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄色。	隆帯と沈線による楕円区画。縄文施文。原体はR ₁ 横。胴部は条線。	覆土
28-20 125	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11～13mm。内面は横方向のミガキが行われている。外面の色調はにぶい黄褐色、内面は黄褐色。	沈線を垂下。縄文施文。原体はL ₁ 縦転がし。	覆土
28-21 125	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚14～16mm。内面は縦方向のミガキが行われている。外面の色調は明黄褐色、内面は暗灰黄色。	沈線を垂下。縄文施文。原体はR ₁ 横縦転がし。内面は炭化物が付着している。	覆土
28-22 125	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11～14mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調は、にぶい黄褐色。	沈線を垂下。縄文施文。原体はR ₁ 横。	覆土

J-5号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文 様 (その他)	出土状況	
28-23 125	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~11mm。 内面は横方向のミガキが行われている。外面 の色調はにぶい黄褐色、内面はにぶい黄色。				沈線による文様。 縄文施文。原体はR(縦転がし)。	覆 土	
28-24 125	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚12~14mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は明褐色、内面はにぶい黄褐色。				沈線による文様。 縄文施文。原体はR(縦・横転がし)。 土器面は柔軟で押圧が強い。	覆 土	
28-25 125	胴部片	①粗粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~13mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は明赤褐色、内面は黄褐色。				沈線による文様。 縄文施文。原体はL(横か)。 土器面は柔軟で押圧が強い。	覆 土	
28-26 125	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~14mm。 内面は横方向の調整が行われている。外面の 色調はにぶい黄褐色、内面はにぶい黄橙色。				隆帯と沈線による文様。 縄文施文。原体はR(縦)。 器面に炭化物が付着している。	覆 土	
図番 PL	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm、g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
29-27 125	多孔石	完 形	絹雲母緑泥片 岩	20.5	18.0	7.0	4,031	片面に4個の凹み穴が認められる。	覆 土
29-28 125	多孔石	2/3	絹雲母石墨片 岩	(22.9)	12.0	6.2	(3,418)	片面に5個の凹み穴が認められる。直線状に 配されている。	覆 土
29-29 125	多孔石	部 分	点紋緑泥片岩	(15.7)	(16.0)	9.7	(3,695)	片面に2個の凹み穴が認められる。焼けてい る。	覆 土
29-30 125	石 皿	部 分	砂 岩	(18.3)	(13.6)	5.1	(1,208)	窪みは浅い。裏面に凹み穴1個が認められる。	覆 土
29-31 125	石 皿	1/4	砂 岩	(20.0)	(20.0)	10.3	(3,799)	長方形を呈すると思われる。表面の窪みは2段。 裏面には27個の凹み穴。表面にも4個の凹み穴。	覆 土
29-32 125	凹 石	一部欠損	点紋絹雲母石 墨片岩	13.0	8.7	3.8	(801)	両面に計4個の凹みが認められる。一部焼け ている。	覆 土
29-33 125	凹 石	完 形	点紋絹雲母石 墨片岩	15.5	5.8	1.8	396	片面に2個の凹みが認められる。	覆 土
29-34 125	凹 石	完 形	絹雲母石墨片 岩	15.7	6.0	2.6	494	片面に2個の凹みが認められる。一部焼けて いる。	覆 土
29-35 125	敲 石	完 形	安 山 岩	12.5	6.4	5.0	680	敲打痕が認められる。	覆 土
29-36 125	打製石斧	刃 部	熱 変 成 岩	(5.1)	5.6	1.9	(52.8)	短冊型。	覆 土

J-6号住居跡 (第30・31図、PL.8・125)

位置 Cp-26・27、Cq-27グリッドにかけて検出された。J-4号住居跡の北西約7mの所に位置している。

重複 Y-13号住居跡・Y-17号住居跡によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長径4m、短径3.1mの楕円形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約20~40cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦で、面積は約8.6㎡である。

周溝 検出できなかった。

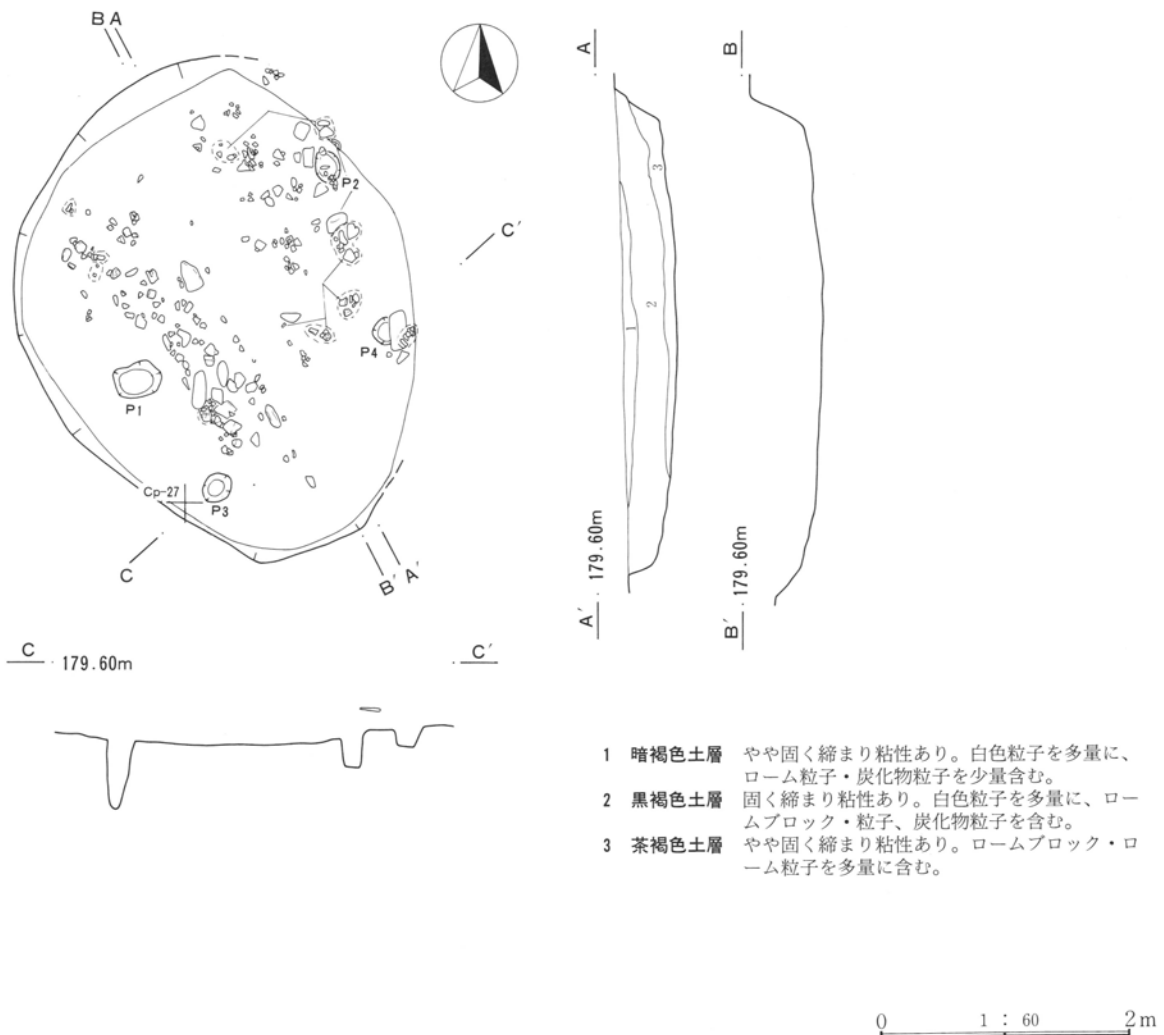
柱穴 総計4個のピットを検出した。P1は長径36

cm、短径26cm、深さ30cm。P2は長径25cm、短径20cm、深さ20cm。P3は長径25cm、短径22cm、深さ55cm。P4は長径23cm、短径20cm、深さ30cmである。

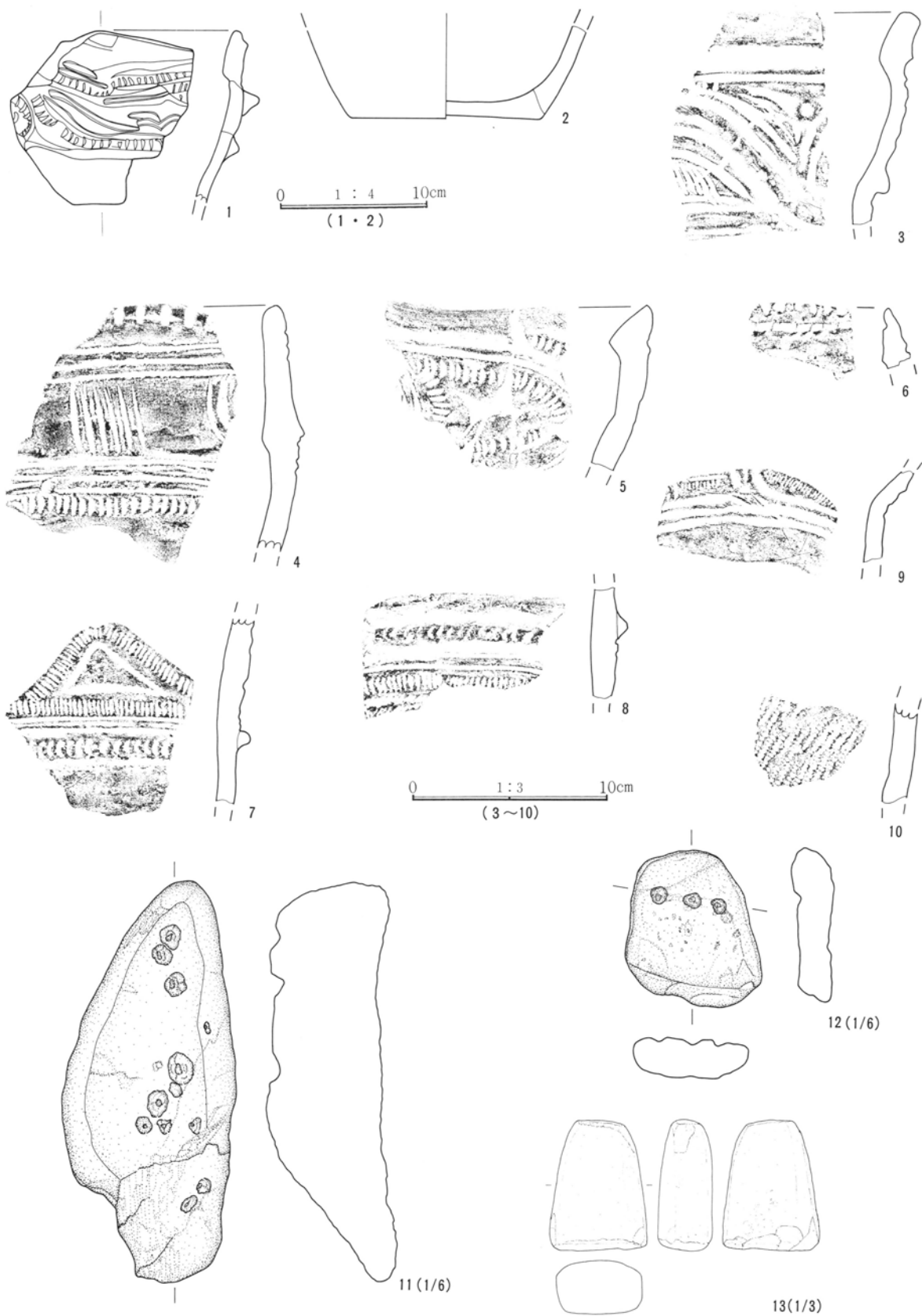
炉 検出できなかった。床面に焼土等の痕跡を確認することはできなかった。

遺物 覆土第1層から2層にかけて出土しているが、第3層からはほとんど出土していない。中期前半の土器を主体とし、口縁部片30点、胴部片148点、底部片10点である。この他に前期前半の土器片3点、前期後半の土器片1点、中期後半の土器片1点、弥生土器片1点、土師器片4点、多孔石・礫・剥片等10点が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。



第30図 J-6号住居跡



第31図 J-6号住居跡出土遺物

J-6号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文 様 (その他)	出土状況	
31-1 125	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の口縁部片。器厚8~14mm。 内面は横方向のミガキ、荒れている。 内外面の色調は明赤褐色。				口縁部に環状の突起を付す。 沈線、半截竹管による刺突が施されてい る。	覆 土	
31-2 125	底部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の底部片。底径12.2cm。 内面はやや丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は赤褐色。				底面は磨耗している。	覆 土	
31-3 125	口縁部 片	①細粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7~17mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は黒褐色。				隆帯による区画。 棒状工具による沈線が施されている。	覆 土	
31-4 125	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚11~22mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は暗褐色。				口唇部に刻み、断面三角形による区画。 半截竹管による平行沈線。 幅広の竹管による刺突が施されている。	覆 土	
31-5 125	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の波状口縁部片。器厚11~12mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は褐色。				半截竹管による楕円区画。 幅広の竹管による刺突が施されている。	覆 土	
31-6 125	口縁部 片	①中粒の砂を混入 金雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7~15mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調はにぶい褐色。				口唇部に刻み。 結節沈線が施されている。	覆 土	
31-7 125	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~14mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は褐色。				隆帯による区画。 幅広の竹管による刺突、ペン先状の刺突 が施されている。	覆 土	
31-8 125	胴部片	①細粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~18mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は褐色。				隆帯による区画。 半截竹管による刺突、ペン先状の刺突が 施されている。外面に煤が付着。	覆 土	
31-9 125	胴部片	①雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~9mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は明褐色、内面はにぶい黄褐色。				沈線と竹管による刺突が施されている。	覆 土	
31-10 125	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11~12mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は黒褐色。				縄文施文。原体はLⅡ。	覆 土	
図番 PL	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm, g)				特 徴	出土状況
31-11 125	多 孔 石	完 形	砂 岩	40.0	17.2	11.6	8,445	片面に11個の凹み穴が認められる。	覆 土
31-12 125	多 孔 石	完 形	砂 岩	15.7	13.7	4.0	1,120	片面に4個の凹み穴が認められる。	覆 土
31-13 125	磨製石斧	略完形	輝 緑 岩	6.5	4.8	2.7	164.4	折れ面に擦りがのっている。	覆 土

J-7号住居跡 (第32~34図、PL.9・125・126)

位置 Dk-27・28、Dl-28グリッドにかけて検出された。J-10号住居跡の南西約20mの所に位置している。

重複 土坑と重複している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 長径4.3m、短径3.7mの楕円形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約18~30cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦で、面積は約7.4㎡である。

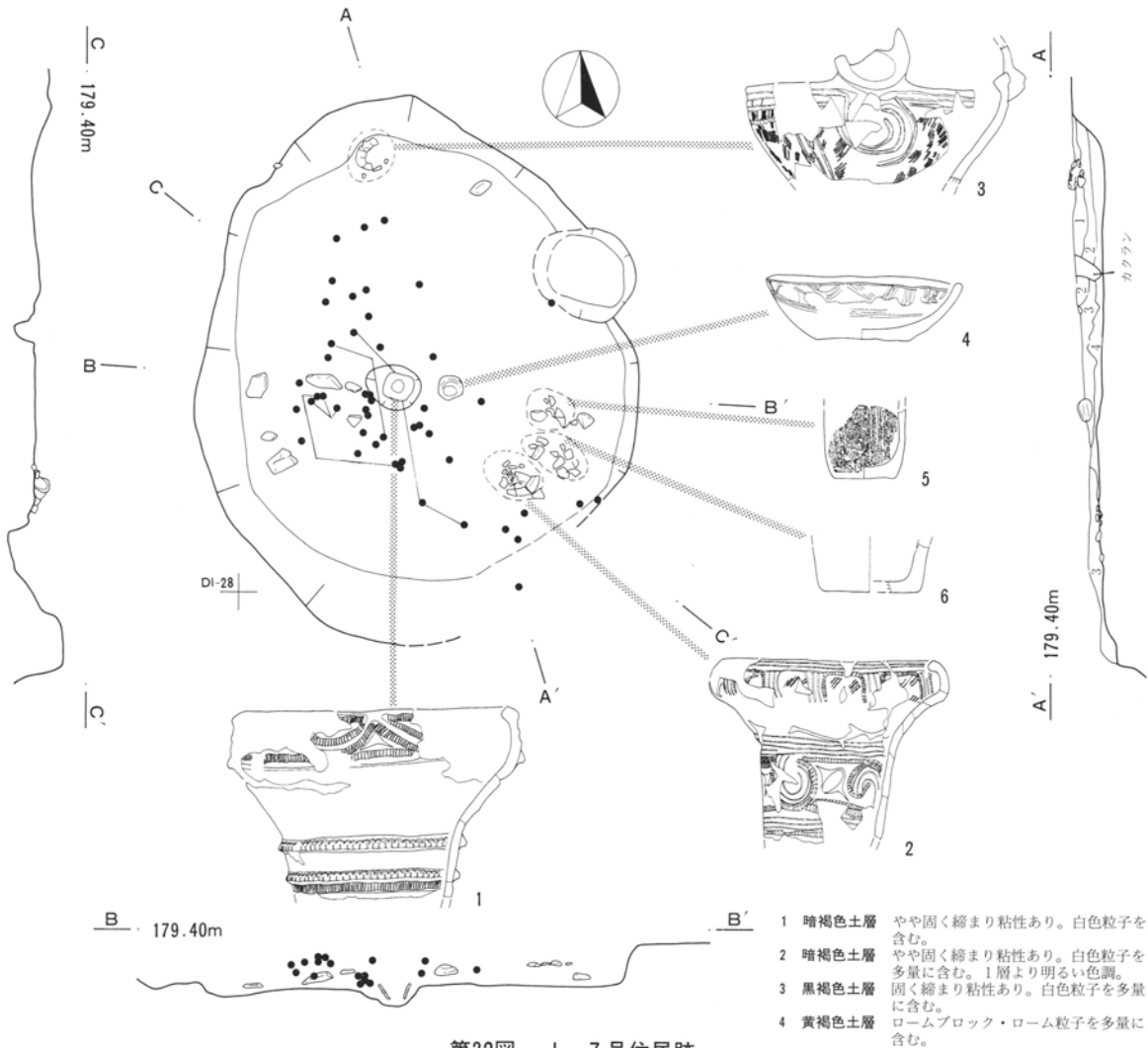
周溝 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

炉 埋甕炉である。規模は長径46cm、短径38cm、深さ14cmである。炉体土器 (第33図・1) は胴下半部を欠損している。

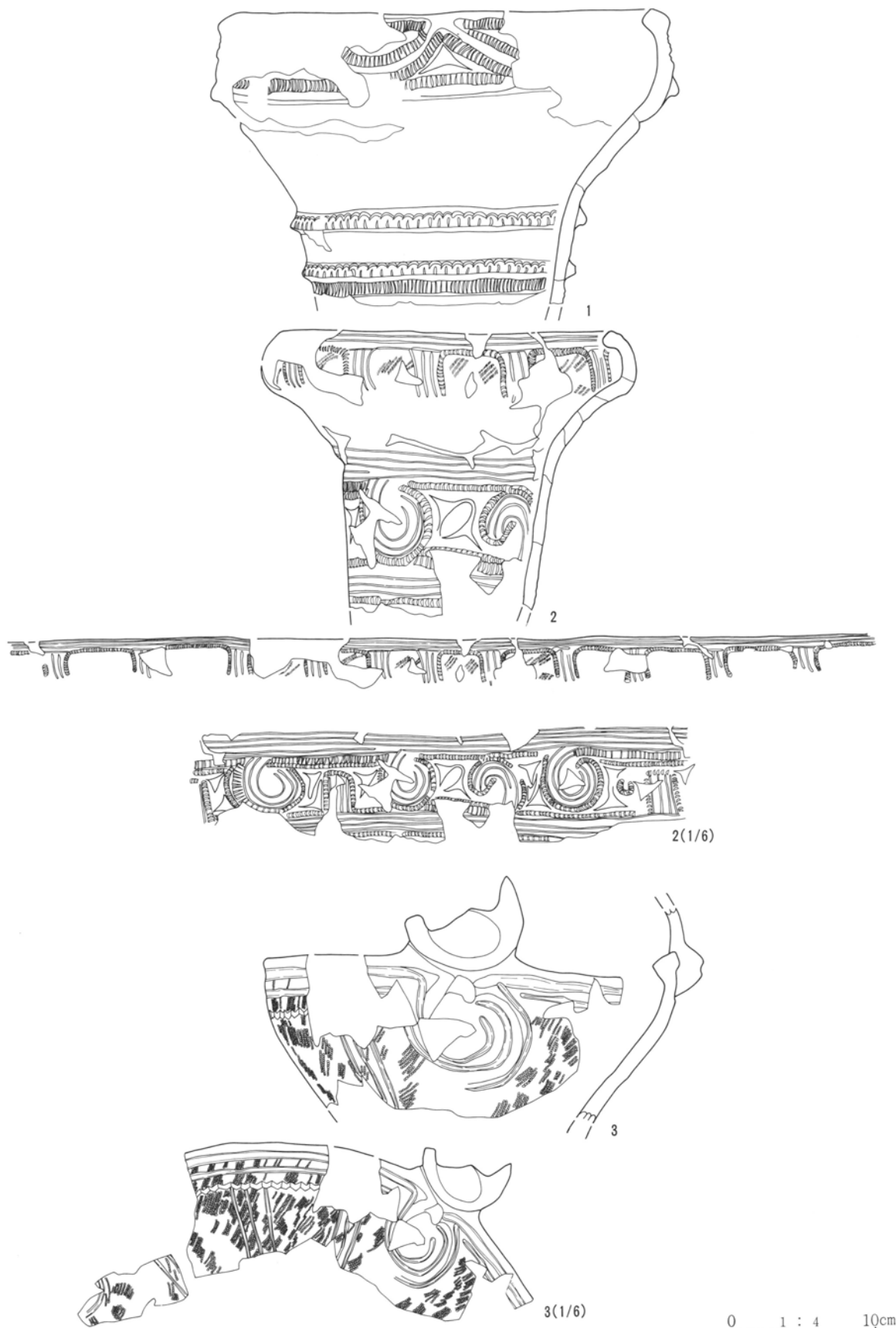
遺物 覆土第1層から第3層にかけて出土している。第2層の住居跡中央部付近から浅鉢が逆位状態で出土した。注意すべき出土状態である。中期前半の土器を主体とし、口縁部片15点、胴部片157点、底部片9点が出土している。この他に前期中葉の土器片1点、土師器片1点、凹石1点、礫・剥片等10点が出土している。

時期 炉体土器と出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。

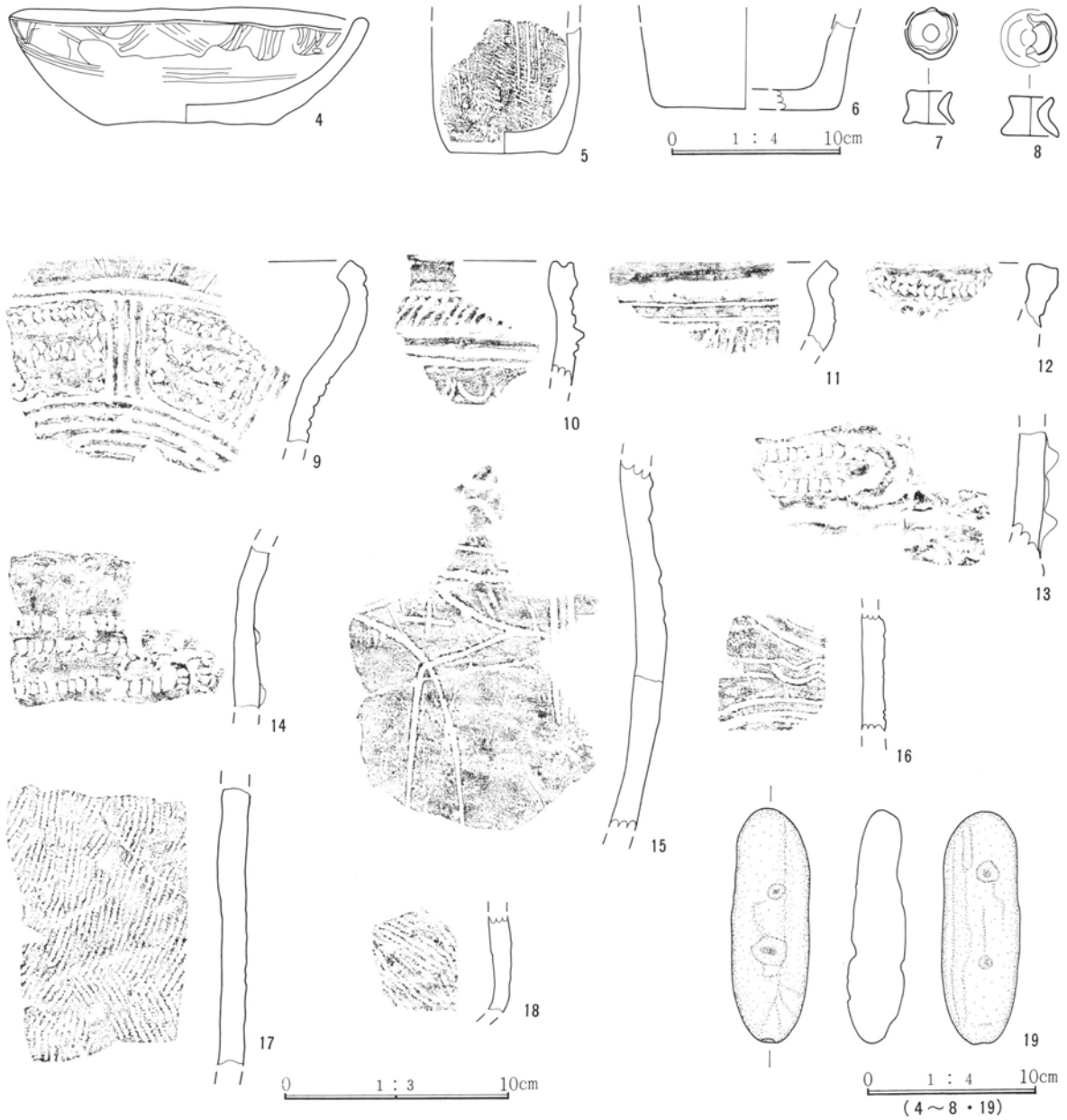


第32図 J-7号住居跡

0 1:60 2m



第33图 J-7号住居跡出土遺物(1)



第34図 J-7号住居跡出土遺物(2)

J-7号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様 (その他)	出土状況
33-1 125	口縁～ 胴上半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部と胴下半部欠損。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は赤褐色。	口縁部は隆帯による区画。幅広の竹管による刺突。胴部に2条の隆帯が巡り、竹管による刺突が施されている。	炉体土器 内面に煤が付着
33-2 125	口縁～ 胴部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部欠損。 内面は横・縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。	口縁部に半截竹管による横位・縦位の平行沈線、竹管による刺突、縄文原体はL位。胴部は半截竹管横位区画。竹管による刺突。	住居跡南東部 内面煤付着
33-3 125	口縁～ 胴上半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁～胴上半1/2。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は赤褐色。	口縁部に把手。縄文施文、原体はR位。縦転がし。棒状工具による横位・縦位・山形の沈線が施されている。	住居跡北壁
34-4 125	底部	①雲母・片岩を含む ②良	浅鉢形土器。口縁部は欠損し、磨耗している。 内面は横方向の非常に丁寧な調整。 外面の色調はにぶい赤褐色、内面は黒褐色。	棒状工具による横・縦・斜位の沈線が施されている。 外面は剝落している。	炉東側逆位

J-7号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文 様 (その他)	出土状況	
34-5 126	底部片	①雲母片を含む ②良	深鉢形土器の底部片。底径6.6cm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。				半截竹管による平行沈線を垂下。 縄文施文。原体はLⅠ。	住居跡東部	
34-6 126	底部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の底部1/3。 内面は粗い調整が行われている。 外面の色調はにぶい褐色、内面は黒褐色。				底面は磨耗している。 内面に炭化物が付着している。	住居跡東部	
34-7 126	耳 栓	①細粒の砂を混入 ②良	ほぼ完形。 内面は丁寧なミガキ、赤色塗彩の痕跡。 内外面の色調は灰赤色。				幅2.0cm、長さ3.0cm。	土器(4) 内	
34-8 126	耳 栓	①細粒の砂を混入 ②良	1/2残存。 内面はミガキ、赤色塗彩の痕跡。 内外面の色調は灰赤色。				幅(2.3)cm、長さ3.0cm。	土器(4) 内	
34-9 126	口縁部 片	①粗粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の内湾する口縁部片。器厚9~11mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。				半截竹管による横位・縦位の平行沈線による区画。区画内を竹管による刺突が施されている。	覆 土	
34-10 126	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10~15mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は赤褐色。				半截竹管による横位の沈線、斜位の刺突が施されている。	覆 土	
34-11 126	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9~10mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。				半截竹管による平行沈線、刺突、ペン先状の刺突が施されている。	覆 土	
34-12 126	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9~11mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は褐色、内面は灰黄色。				隆帯と竹管による刺突が施されている。	覆 土	
34-13 126	底部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。器厚12~19mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は橙色、内面は黒褐色。				隆帯による楕円区画。 竹管による刺突が施されている。 内面に煤が付着している。	覆 土	
34-14 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~14mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は明褐色、内面は暗褐色。				隆帯による区画。 竹管による刺突が施されている。	覆 土	
34-15 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~14mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は褐色、内面はにぶい黄褐色。				縄文施文。原体はLⅠ。押圧は弱い。 棒状工具の沈線による文様が描かれている。	覆 土	
34-16 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~10mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は橙色、内面はにぶい黄褐色。				半截竹管による平行・波状の沈線が施されている。	覆 土	
34-17 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚6~9mm。 内面は縦方向のミガキが行われている。 外面の色調は黒褐色、内面は明褐色。				縄文施文。原体はRⅠ(縦・横転がし)。	覆 土	
34-18 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~12mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は明赤褐色、内面はにぶい黄褐色。				縄文施文。原体はLⅠ。	覆 土	
図番 PL	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm、g)				特 徴	出土状況
34-19 126	凹 石	完 形	砂 岩	13.6	4.6	3.3	227	両面に計4個の凹みが認められる。	覆 土

J-8号住居跡 (第35・36図、PL.10・126)

位置 Cp・Cq-22グリッドにかけて検出された。1号墳の墳丘下から検出され、また路線外に遺構が延びているために完掘することはできなかった。

重複 1号墳と、またJ-5号住居跡と接している。

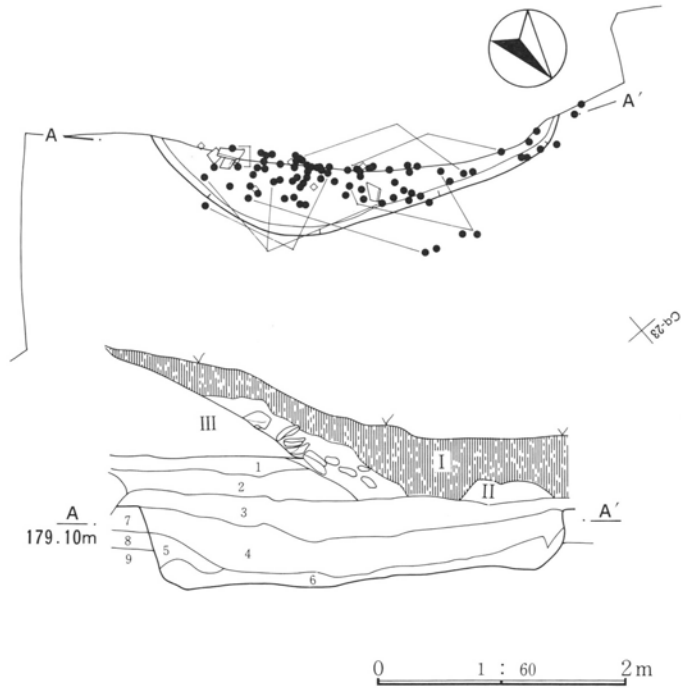
覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 完掘できなかったために不明であるが、楕円形を呈するものであろう。

壁高 墳丘下のために比較的良好的な残存である。住居跡確認面より約48cm~64cmで床面に達する。

床面 やや凹凸が認められる。壁際でもあるために軟弱である。

周溝 検出できなかった。



第35図 J-8号住居跡

- I 表土層
- II 墳丘崩落土
- III 1号墳填丘
- 1 黒色土層 固く締まり粘性非常にあり。
- 2 黒褐色土層 やや固く粘性非常にあり。炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。縄文土器片を少量含む。
- 4 黒褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。土器片を多量に含む。
- 5 暗褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を多量に、炭化物粒子も含む。
- 6 黄褐色土層 やわらかくて締まり良い。粘性非常にあり。ロームを多量に含む。
- 7 黒褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 9 ローム層

柱穴 調査範囲内からは検出できなかった。

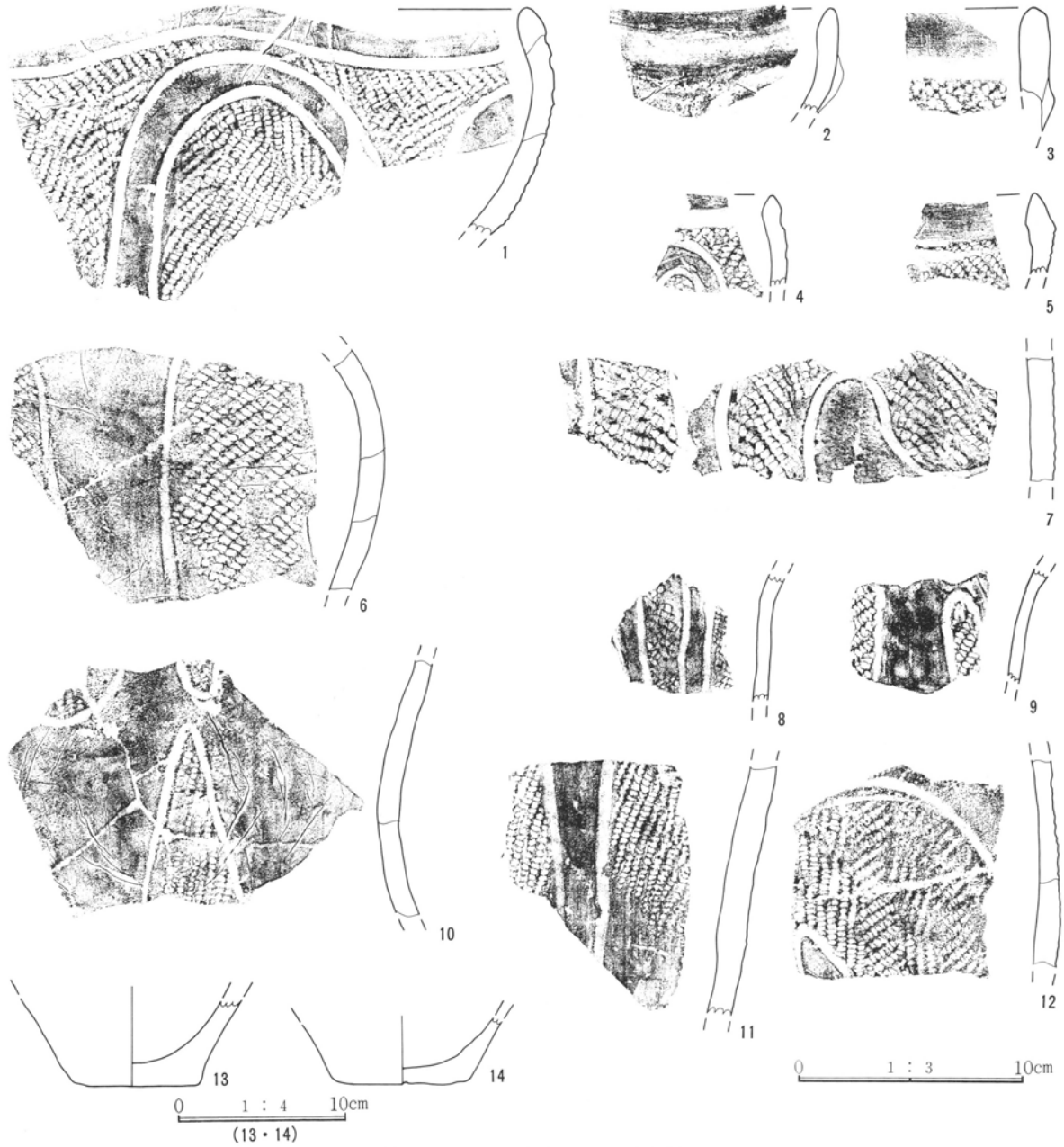
炉 調査範囲内からは検出できなかった。

遺物 覆土上層から土器片が多量に出土している。中期後半土器を主体とし、口縁部片131点、胴部片104点が出土している。この他に中期前半の土器片22点、土師器・須恵器片18点、礫・剥片6点である。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期後半加曾利E 4式土器の段階に相当する。

J-8号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
36-1 126	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の波状口縁部片。器厚11mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部は内湾し、胴部で括れる。口唇部に狭い無文帯、1条の沈線。胴上に沈線区画。縄文原形はR仕。	覆土
36-2 126	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7~9mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調はにぶい黄色。	口縁部に隆帯と沈線による文様。縄文施文。原形はL仕。	覆土
36-3 126	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚14mm。内面は横方向の調整が行われている。内外面の色調はにぶい黄橙色。	縄文施文。原形はL仕。	覆土
36-4 126	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の口縁部片。器厚6~9mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調は灰黄褐色。	沈線による文様。縄文施文。原形はR仕。	覆土
36-5 126	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7~12mm。内面は横方向の調整が行われている。内外面の色調はにぶい褐色。	口縁部は内湾。口唇部に狭い無文帯をおき、1条の微隆起。縄文施文。原形はR仕。	覆土
36-6 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~11mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調は暗褐色。	沈線による文様。縄文施文。原形はR仕。	覆土
36-7 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11mm。内面は横方向のミガキが行われている。外面の色調は黒褐色、内面はにぶい黄色。	沈線による文様。縄文施文。原形はL仕。	覆土
36-8 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚6mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調は褐色。	沈線による文様。縄文施文。原形はL仕。内面に炭化物付着。	覆土
36-9 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚5~7mm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調は灰黄褐色。	沈線による文様。縄文施文。原形はR仕。	覆土
36-10 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9mm。内面は横方向の調整が行われている。内外面の色調はにぶい黄褐色。	沈線による「V」・「U」字状の文様。縄文施文。原形はR仕。内面に炭化物付着。	覆土



第36図 J-8号住居跡出土土器

J-8号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様 (その他)	出土状況
36-11 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~12mm。 内面は縦方向のミガキが行われている。 外面の色調は橙色、内面はにぶい黄橙色。	沈線を垂下。 縄文施文。原体はR仕。	覆土
36-12 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~10mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は褐色、内面はにぶい黄褐色。	沈線による文様。 縄文施文。原体はR仕。	覆土
36-13 126	底部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。底径8cm。 内面は粗い調整が行われている。 内外面の色調はにぶい黄橙色。	底面周辺ミガキ。	覆土
36-14 126	底部片	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の底部片。底径7.8cm。 内面は粗い調整が行われている。 内外面の色調はにぶい黄橙色。	底面磨耗。	覆土

J-9号住居跡 (第37図、PL.10・126)

位置 Bp-28・29、Bq-28・29グリッドにかけて検出された。J-2号住居跡の北東約32mの所に位置している。

重複 なし。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長径3.06m、短径2.86mの楕円形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約20~40cmで床面に達する。床面から段差をもってゆるやかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約4.6m²である。

周溝 検出できなかった。

柱穴 ピット4個が検出された。それぞれのピットの深さは、P1・20cm、P2・25cm、P3・23cm、P4・25cmである。

炉 床面からは焼土等の痕跡は全く認められなかった。

遺物 覆土第1層から遺物が出土している。

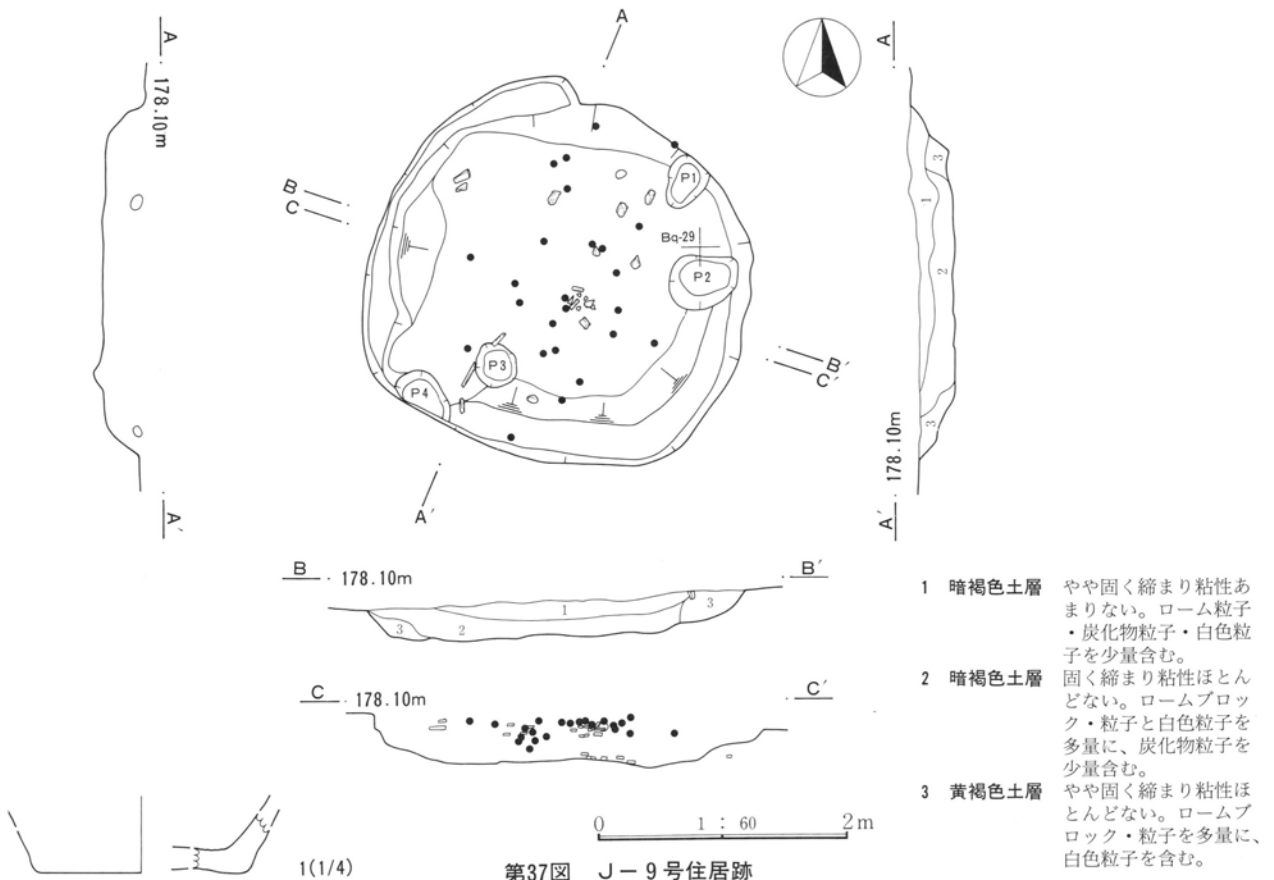
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は縄文時代中期の段階に相当する。

J-9号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様 (その他)	出土状況
37-1 126	底部片	①雲母片を含む ②良	深鉢形土器の底部片。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調はにぶい黄褐色、内面は灰白色。	底面は磨耗している。	覆土

J-10号住居跡遺物観察表

38-1 126	口縁部片	①細粒の砂を混入 雲母を含む ②非常に良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7mm。 内面は横ミガキが行われている。 内外面の色調は暗褐色。	隆帯による区画。 幅広の竹管による刺突、ペン先状の刺突が施されている。	覆土
38-2 126	胴部片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~11mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は暗褐色。	断面三角形の隆帯が施されている。	覆土



J-10号住居跡 (第38図、PL.10・126)

位置 Df-29・30、Dg-29・30グリッドにかけて検出された。J-7号住居跡の北東約20mの所に位置している。

重複 Y-28号住居跡によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

形状 長径3.8m、短径3.5mの不正円形を呈する。面積は約8.5㎡である。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

柱穴 床面からピット1個を検出した。長径24cm、短径18cm、深さ16cmである。

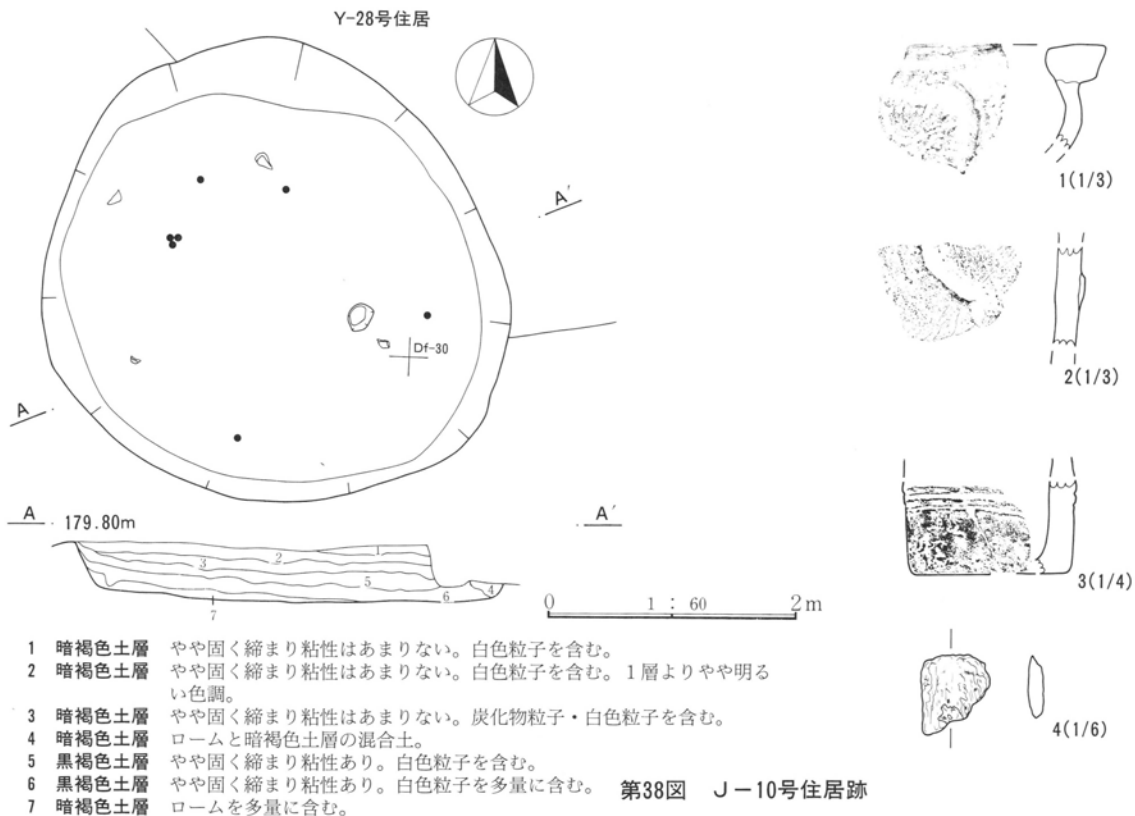
炉 床面に焼土等の痕跡は全く認められなかった。

遺物 覆土から中期前半の土器が少量出土している。口縁部片4点、胴部片7点であり、この他に礫・剥片等が出土している。

時期 出土遺物から判断して、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。

J-10号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文様 (その他)	出土状況	
38-3 126	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。器厚10~17mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。				半截竹管による横位の平行沈線が施されている。	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)			特徴	出土状況	
38-4 126	多孔石	部分	緑泥片岩	全長 (5.4)	幅 (5.5)	厚 (1.2)	重量 (52)	片面に1個の凹み穴が認められる。	覆土



J-11号住居跡 (第39図、PL.11・126)

位置 Cc-29・30、Cd-29・30グリッドにかけて検出された。J-9号住居跡の西約32mの所に位置している。

重複 なし。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長径5.5m、短径4.1mの楕円形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約4～8cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦で、面積は約19.2㎡である。

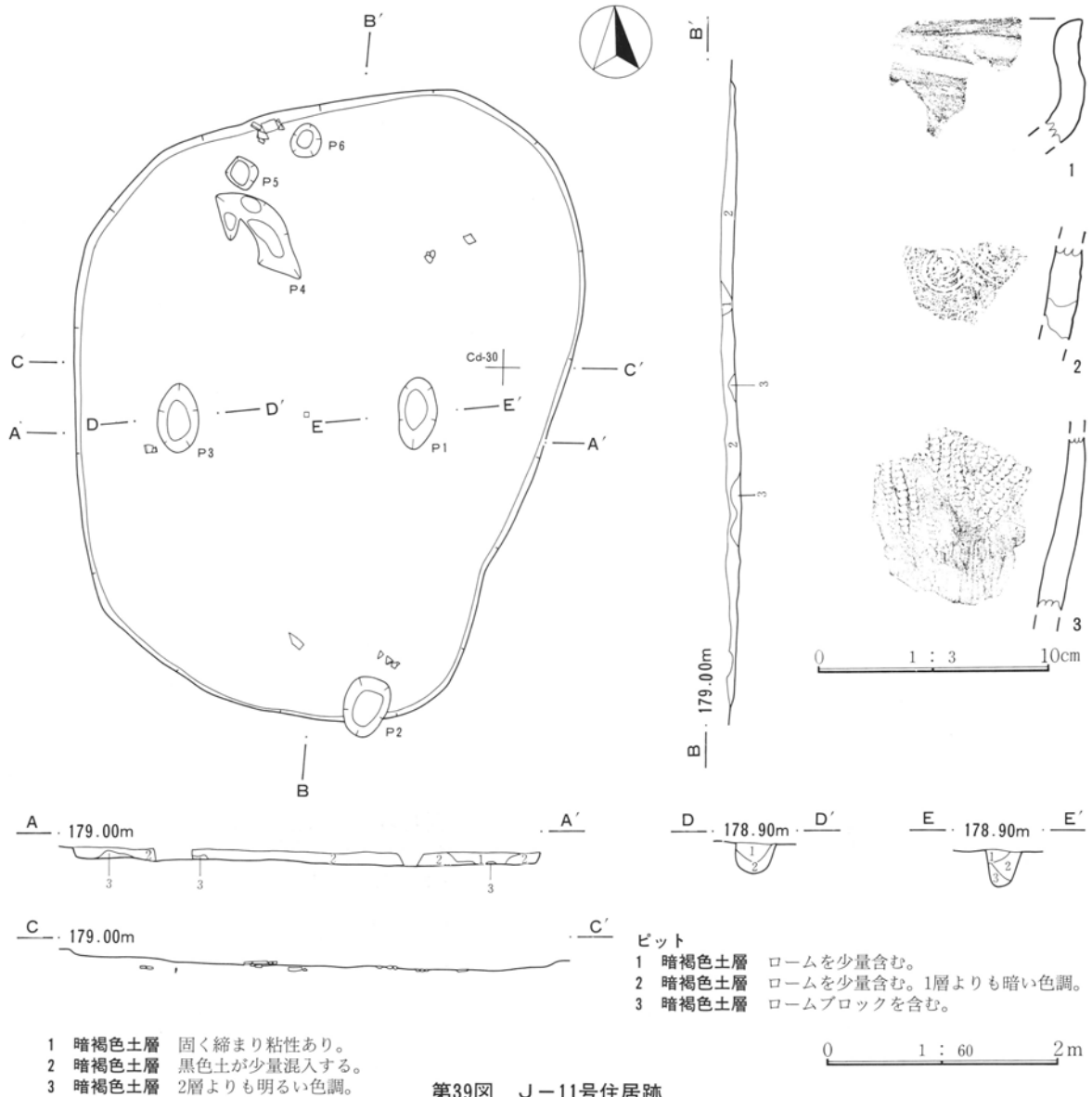
周溝 検出できなかった。

柱穴 床面からピット6個を検出した。それぞれの深さは、P1・39cm、P2・18cm、P3・25cm、P4・23cm、P5・17cm、P6・21cmである。

炉 床面から焼土等の痕跡は認められなかった。

遺物 床面から少量の遺物が出土している。中期前半の土器を主体に、口縁部片1点、胴部片10点、底部片1点である。この他に前期後半土器片1点、弥生土器片2点、土師器・須恵器片10点、礫・剥片等5点が出土している。

時期 出土遺物から判断して、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。



第39図 J-11号住居跡

J-11号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
39-1 126	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚11mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は褐灰色、内面はにぶい黄橙色。	口縁部に隆帯と沈線による文様。	覆土
39-2 126	胴部片	①粗粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚13mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は黄褐色、内面はにぶい黄色。	半截竹管による渦巻状の文様等が施文されている。	覆土
39-3 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の胴部片。器厚6~10mm。 内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。	縄文施文。 原体はR仕。 底部近くに縦方向のミガキが行われている。	覆土

J-12号住居跡(第40・41図、PL.11・126)

位置 Cm・Cn-29グリッドにかけて検出された。J-4号住居跡の北北東約8mの所に位置している。

重複 8号墳周堀と接している。また新しい土坑により床面中央部が壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 長径4.7m、短径3.5mの楕円形を呈する。

壁高 住居跡確認面より約12~30cmで床面に達する。床面からゆるやかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦で、面積は約12.5㎡である。

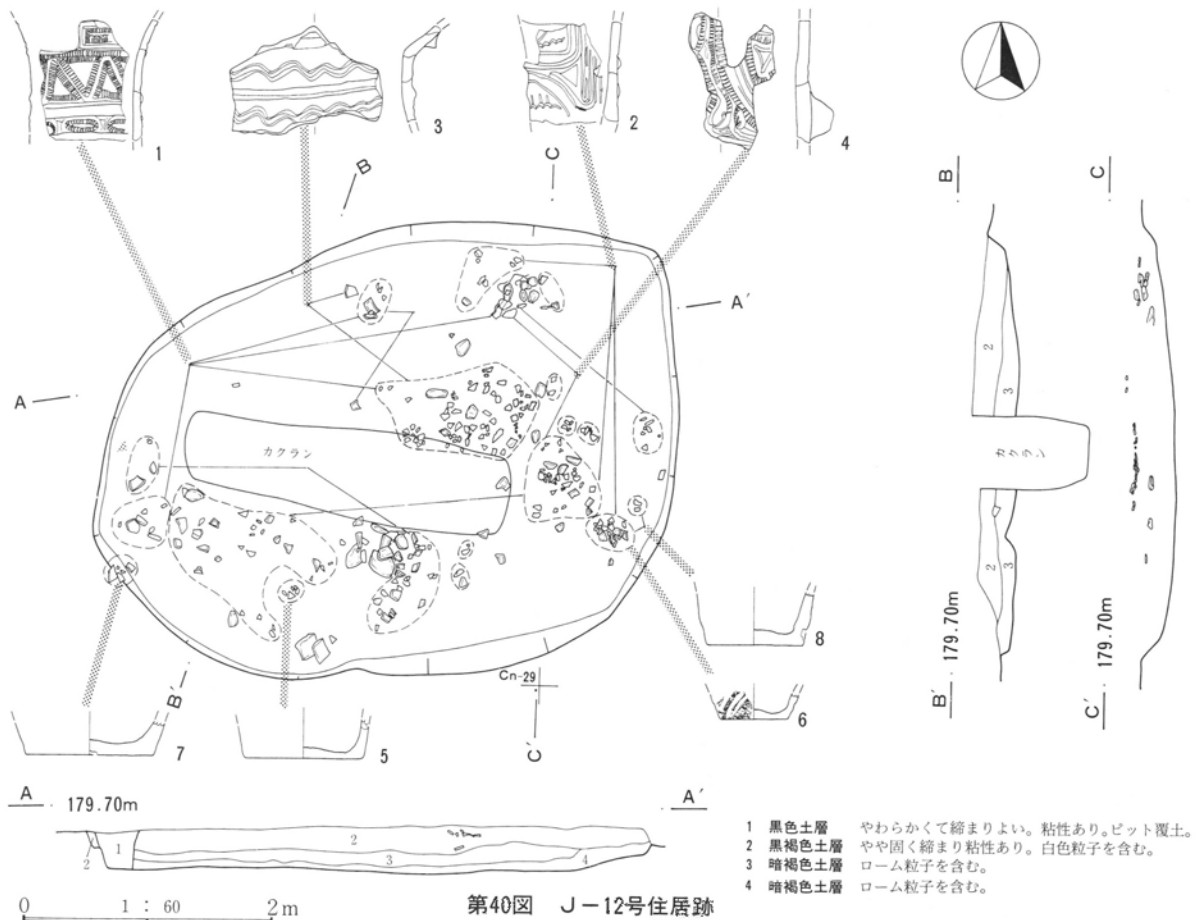
周溝 検出できなかった。

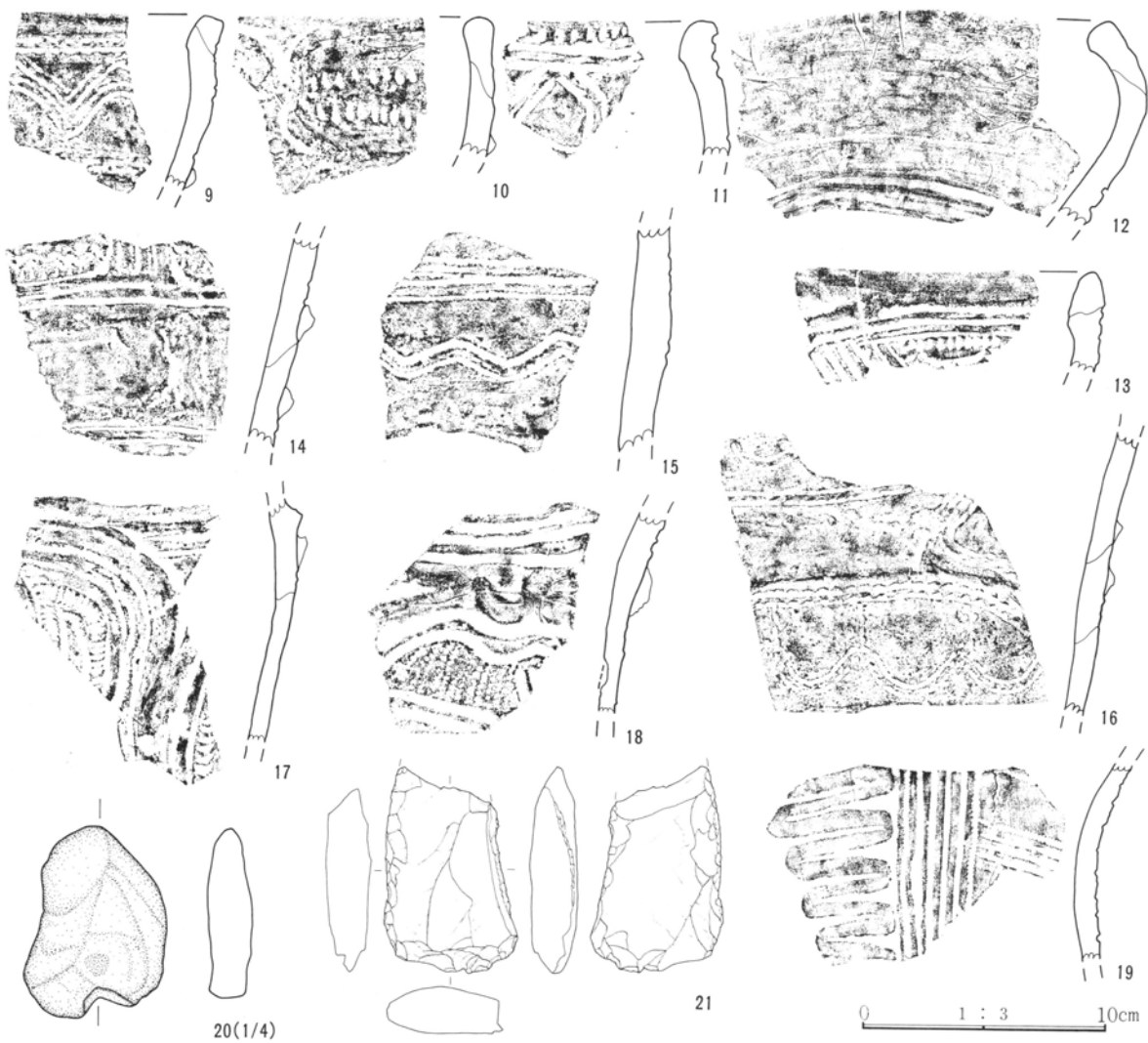
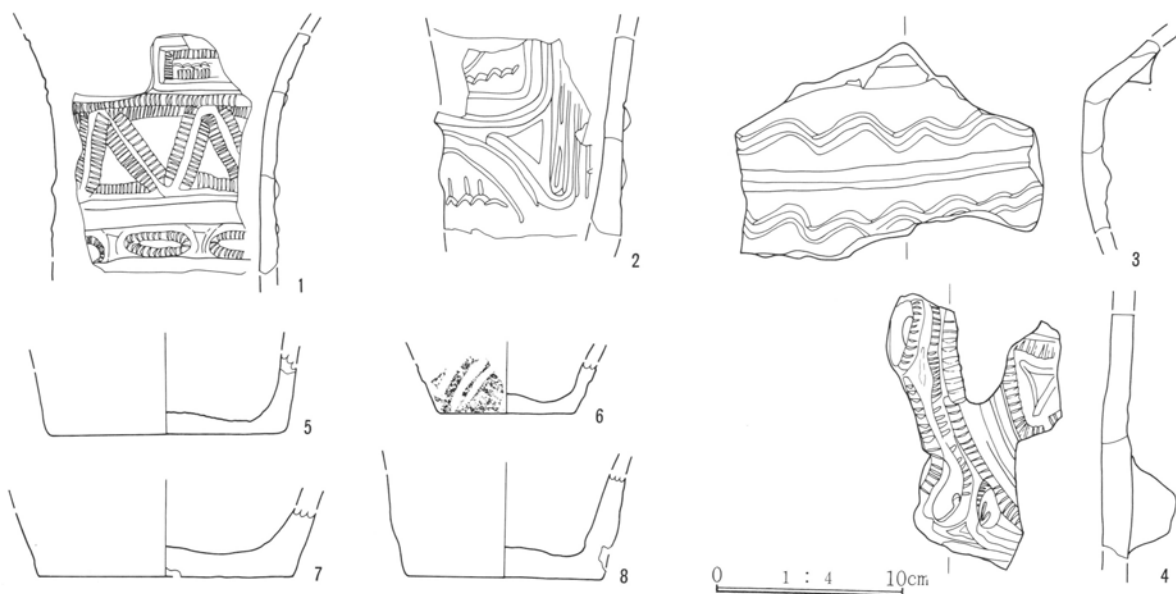
柱穴 検出できなかった。

炉 検出できなかった。

遺物 覆土第2層から出土している。中期前半の土器を主体に、口縁部片29点、胴部片318点、底部片18点が出土している。この他に弥生土器片62点、土師器片2点、礫・剥片等10点が出土した。

時期 出土遺物から判断して、当住居跡は縄文時代中期前半勝坂式土器の段階に相当する。





第41図 J-12号住居跡出土遺物

J-12号住居跡遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)		成形・器面調整の特徴と色調			文 様 (その他)	出土状況	
41-1 126	胴下半 部	①金雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴下半部。器厚6~9mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は明赤褐色、内面は褐灰色。			隆帯による区画。 区画内を幅広の竹管による刺突、ペン先 状の刺突が施されている。	住居跡北 西部		
41-2 126	胴下半 部	①雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴下半部。器厚10~15mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調はにぶい赤褐色、内面は褐灰色。			隆帯による区画。 区画内を棒状工具による沈線が施されて いる。	住居跡東 部		
41-3 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~10mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は暗赤褐色、内面はにぶい橙色。			断面三角形の横位の隆帯。 半截竹管による波状沈線が施されている。	住居跡北 部		
41-4 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は赤褐色、内面はにぶい赤褐色。			隆帯による文様、隆帯に沿って幅広の竹 管による刺突、棒状工具による沈線が施 されている。	住居跡北 東部		
41-5 126	底部片	①金雲母を含む ②良	深鉢形土器の底部片。底径12.5cm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調はにぶい赤褐色。			底面は磨耗している。 内外面に煤が付着している。	住居跡南 西部		
41-6 126	底部片	①雲母を含む ②良	深鉢形土器の底部片。底径7cm。 内面はやや丁寧な調整が行われている。 外面の色調は赤褐色、内面は黒褐色。			隆帯と棒状工具による沈線が施されてい る。	住居跡東 南部		
41-7 126	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。底径13.5cm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は明赤褐色。			底面は磨耗している。	住居跡南 西部		
41-8 126	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。底径10.3cm。 内面はやや丁寧な調整が行われている。 内外面の色調はにぶい橙色。			胴部外面は剥落している。 底面は磨耗している。	住居跡東 南部		
41-9 126	口縁部 片	①金雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚11mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は暗赤褐色。			口縁部は内湾する。 棒状工具による結節沈線が施されてい る。	覆 土		
41-10 126	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の口縁部片。器厚11~13mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面はにぶい黄褐色、内面は暗赤褐色。			口縁部は内湾する。 隆帯による楕円区画。 区画内は刺突が施されている。	覆 土		
41-11 126	口縁部 片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 内外面の色調は黒褐色。			口唇部に刺突。 棒状工具による沈線が施されている。	覆 土		
41-12 126	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10~14mm。 内面は横ミガキが行われている。 内外面はオリブ黒色。			内湾する口縁部。 半截竹管による平行沈線が施されてい る。	覆 土		
41-13 126	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10~13mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面は褐色、内面は灰黄色。			波状口縁。 半截竹管による区画。区画内に斜位の平 行沈線、刺突が施されている。	覆 土		
41-14 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~16mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は黒褐色、内面は橙色。			断面三角形の隆帯、半截竹管による平行 沈線、刺突が施されている。	覆 土		
41-15 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚12~15mm。 内面は横方向の調整が行われている。 外面の色調は褐色、内面は暗黄灰色。			半截竹管による平行沈線、波状沈線が施 されている。	覆 土		
41-16 126	胴部片	①中粒の砂を混入 雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~13mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は黒褐色。			断面三角形の隆帯。 棒状工具による結節沈線、波状の沈線が 施されている。	覆 土		
41-17 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~14mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 外面の色調は黒褐色、内面は褐色。			隆帯による区画。半截竹管による沈線と 刺突が施されている。	覆 土		
41-18 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~15mm。 内面は丁寧な調整が行われている。 内外面の色調は明赤褐色。			隆帯と棒状工具による沈線が施されてい る。 縄文施文。原体はR仕。	覆 土		
41-19 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。 内面は横方向のミガキが行われている。 外面の色調は暗赤褐色、内面は黒褐色。			棒状工具による縦位・横位の沈線。 ペン先状の刺突が施されている。	覆 土		
図番 PL	器種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm, g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
41-20 126	凹 石	完 形	砂 岩	10.4	7.5	2.4	212	片面にわずかな凹みが認められる。	覆 土
41-21 126	打製石斧	基・刃部 欠損	熱変成岩	(8.3)	5.4	1.9	(91.1)	上部の折れは素材時と思われる。(二次加工で 切られている)	覆 土

〔2〕

列石・配石遺構

1号配石（列石）（第42～52図、PL.12～15・126・127）

Ch-22・23、Ci-22～24、Cj-22～24グリッドにかけて検出された。弧状列石として把握できる遺構である。列石の東部分が検出されていないために環状列石となるかは不明である。環状と考えた場合の推定径は約16mとなる。石の分布には粗密があるが、列石下から土壌が6基検出されている。列石内部から8基、列石外から1基の検出であった。これら15基の土壌は明らかに墓と考えられる。土壌上面に確実に配石されていたものは6基を数えた。墓標の可能性が考えられるが、使用石器は多孔石・石皿を主体とするものであった。また1号土壌の配石のあり方から、土壌には盛土があった可能性が指摘できる。さらに6・10号土壌の覆土中の土器片や石の出土から、遺体上に置かれていたものと考えられた。

1号配石（列石）下土壌**1号土壌（第44・48図、PL.13・14・126・127）**

Cj-22グリッドにおいて検出された。2号土壌に接して構築されている。長径144cm、短径130cm、深さ22cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれ、縄文中期土器片1点が出土している。土壌上面には列石を構成する配石が認められる。この中には石皿2点、多孔石3点、凹石1点が含まれていた。配石の状態は土壌中央部に落ち込んでおり、土壌上には盛土があったものと考えられる。盛土から土壌底面までの深さは50cmを有する。

2号土壌（第44・49図、PL.14・127）

Cj-22グリッドにおいて検出された。1号土壌に接して構築されている。長径92cm、短径90cm、深さ27cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれ、縄文中期土器片が出土している。土壌上面には列石を構成する配石が認められる。この中には多孔石1点が含まれていた。

3号土壌（第44・49図、PL.14・127）

Cj-22グリッドにおいて検出された。1号土壌の北約50cmの所に位置している。長径100cm、短径80cm、深さ36cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれ、縄文中期土器片3点が出土している。土壌上面には列石を構成する配石が認められる。多孔石2点であり、墓標となっていたものであろう。

4号土壌（第44図、PL.14・126）

Cj-23グリッドにおいて検出された。5号土壌に接して構築されている。長径・短径ともに60cm、深さ12cmのほぼ円形を呈する。覆土は2層に分かれ、縄文中期土器片2点が出土している。土壌上面には配石は認められなかった。

5号土壌（第44・49図、PL.14・126）

Cj-23グリッドにおいて検出された。6号土壌の南西60cmの所に位置している。長径106cm、短径92cm、深さ41cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれ、縄文中期土器片1点が出土している。土壌上面には配石が認められた。

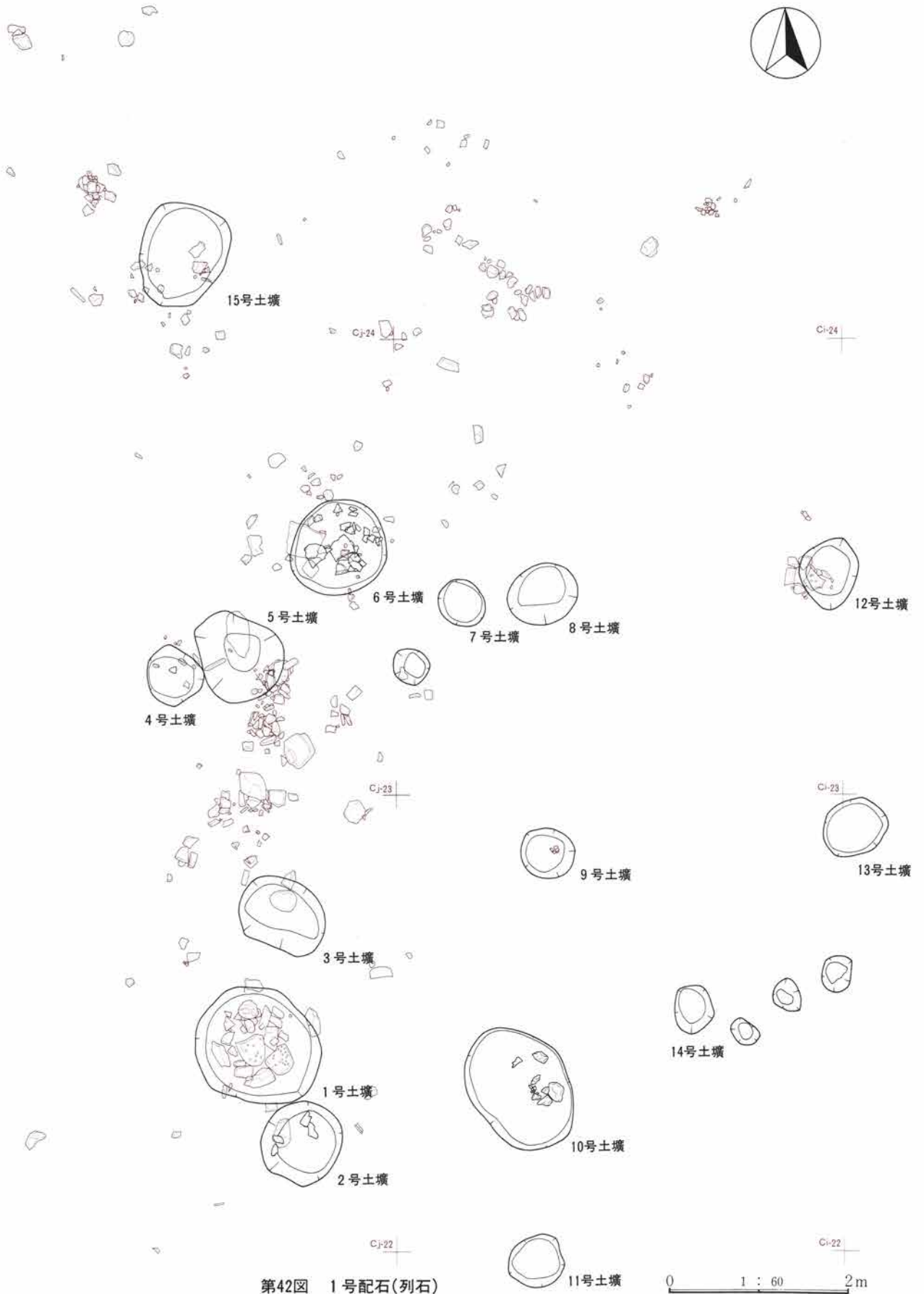
6号土壌（第45図、PL.14・126）

Cj-23グリッドにおいて検出された。7号土壌の北西70cmの所に位置している。長径112cm、短径100cm、深さ25cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれ、底面から4cm～10cmの所に大形の中期土器片が出土した。遺体の上に敷き並べたものと考えられる。土壌上面には列石を構成する配石が認められた。

7号土壌（第46図、PL.14）

Ci-23グリッドにおいて検出された。8号土壌の西26cmの所に位置している。長径54cm、短径50cm、深さ27cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれ、遺物の出土はなかった。土壌上面には列石を構成する配石は認められなかった。

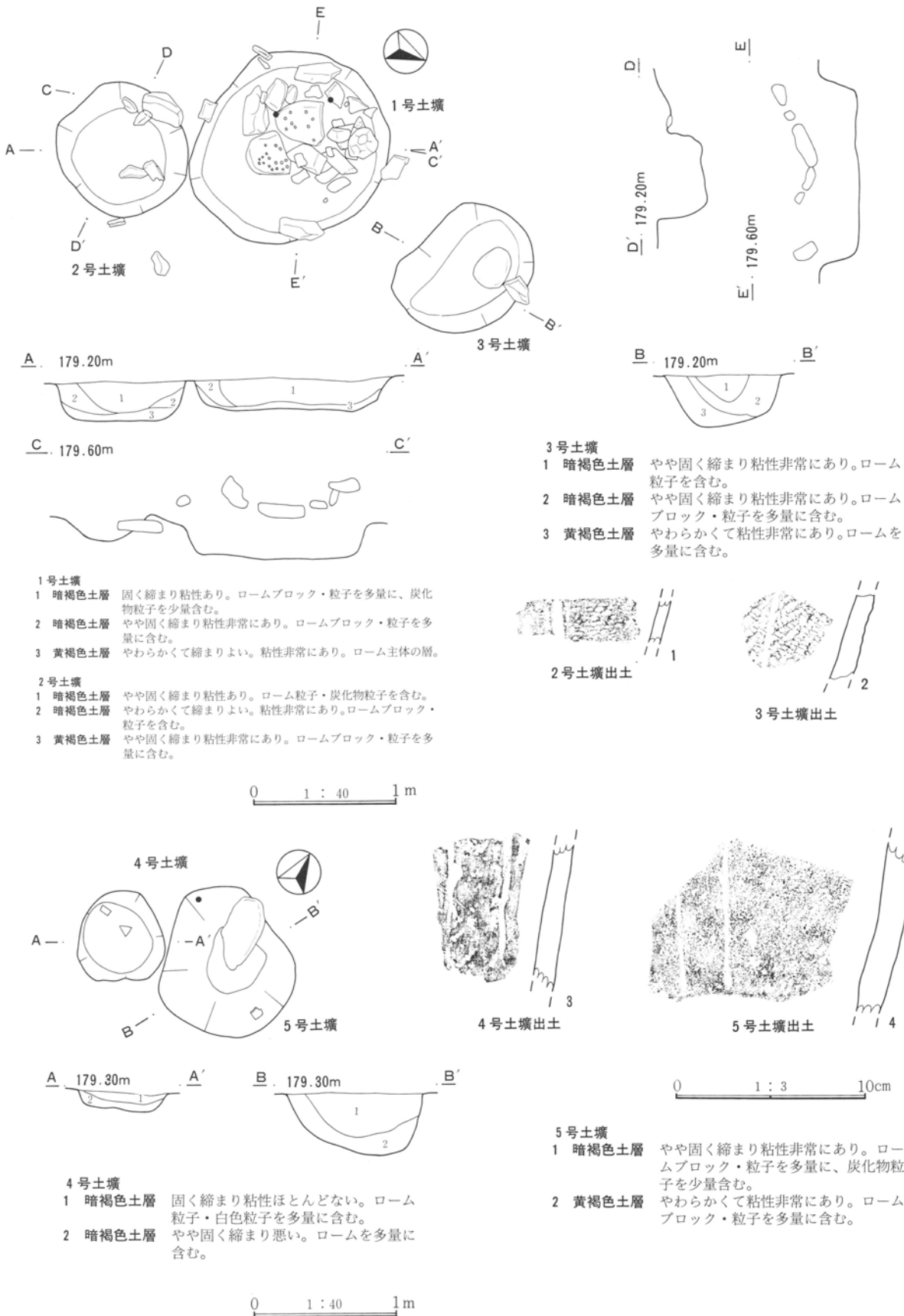
8号土壌（第46図、PL.14）



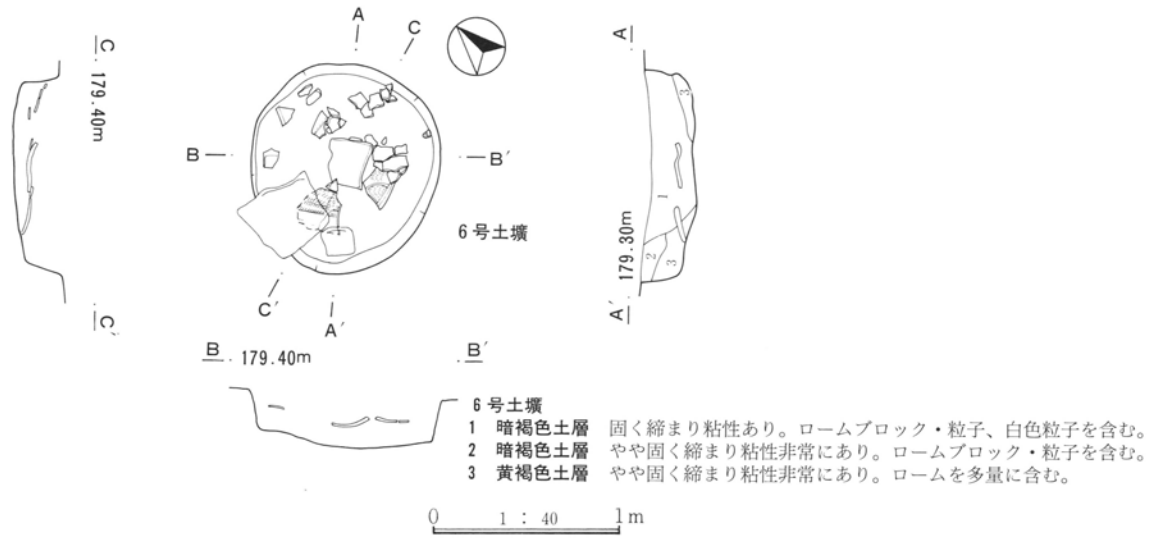
第42図 1号配石(列石)



第43図 1号配石(列石)遺物分布

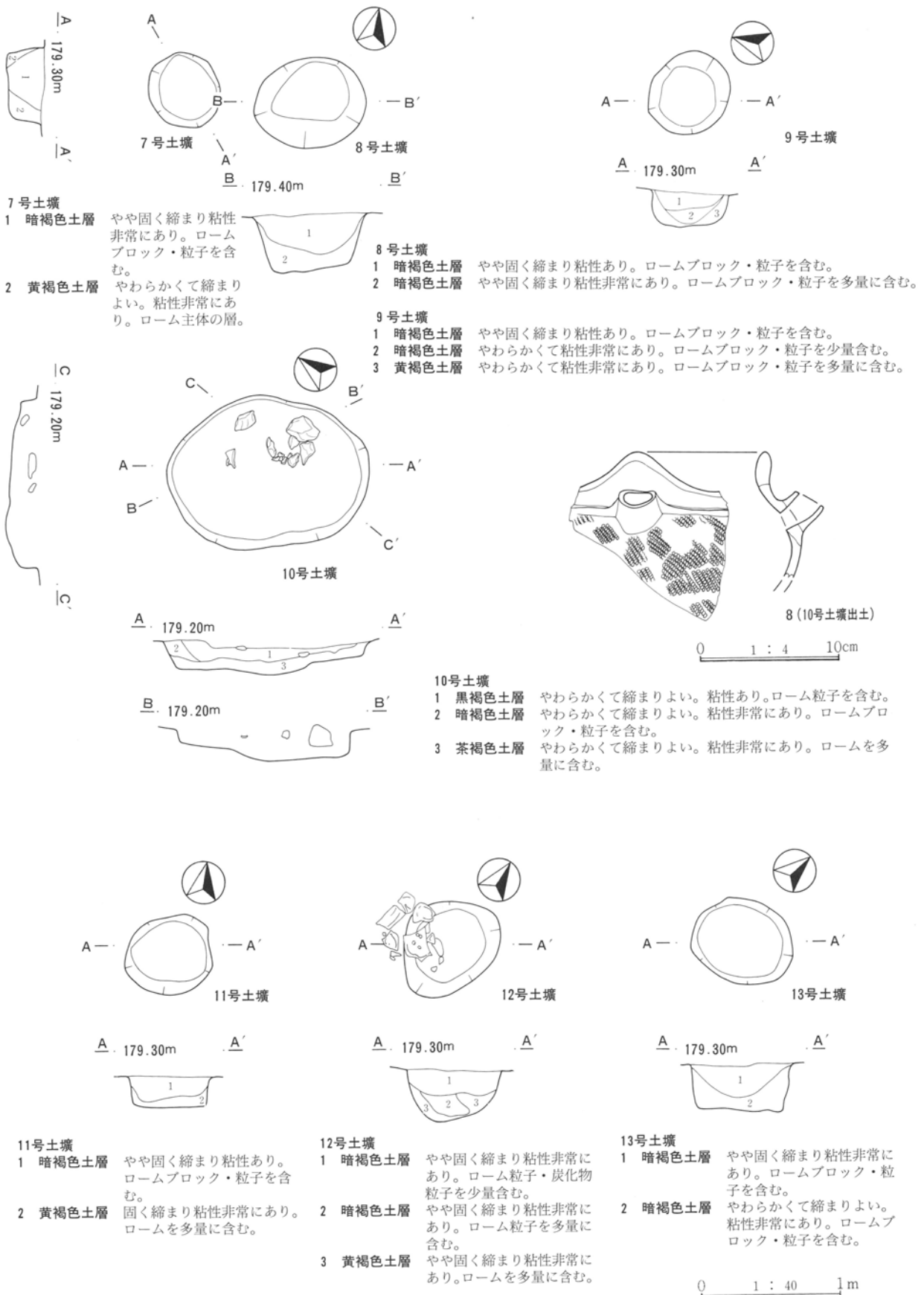


第44図 1号配石(列石)下土壌(1~5号)

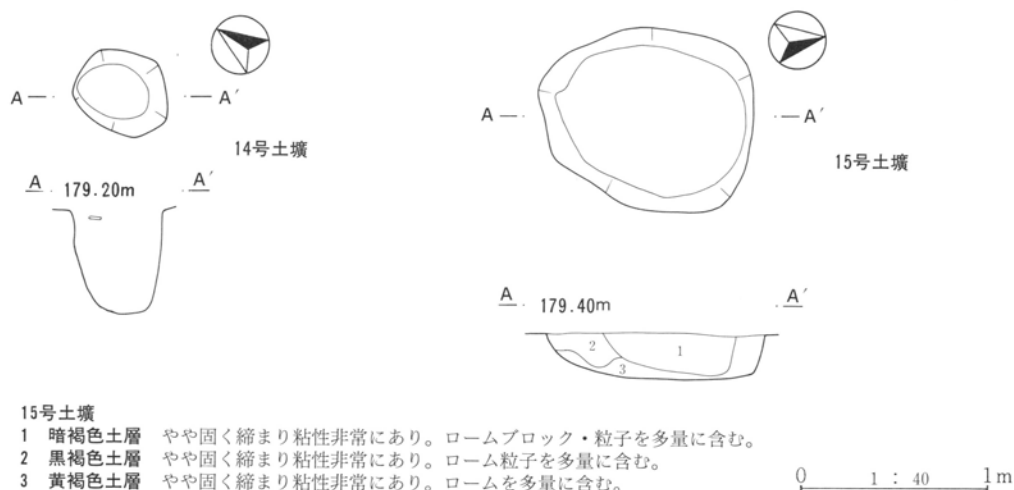


第45図 1号配石(列石)下土壌(6号)

0 1 : 4 10cm



第46図 1号配石(列石)下土坑(7~13号)



15号土壌

- 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を多量に含む。
- 2 黒褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームを多量に含む。

0 1 : 40 1m

第47図 1号配石(列石)下土壌(14・15号)

Ci-23グリッドにおいて検出された。7号土壌の東26cmの所に位置している。長径80cm、短径66cm、深さ40cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は2層に分かれ、遺物の出土はなかった。土壌上面には列石を構成する配石は認められなかった。

9号土壌(第46図)

Ci-22グリッドにおいて検出された。10号土壌の北170cmの所に位置している。長径60cm、短径54cm、深さ24cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれ、縄文中期土器片2点が出土した。土壌上面には列石を構成する小規模な配石が認められた。

10号土壌(第46図、PL.14・126)

Ci-22グリッドにおいて検出された。11号土壌の北90cmの所に位置している。長径146cm、短径110cm、深さ20cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は3層に分かれ、縄文中期土器片10点、礫5点が出土した。抱石葬が考えられる。土壌上面には列石を構成する配石は認められなかった。

11号土壌(第46図、PL.14)

Ci-21・22グリッドにかけて検出された。10号土壌の南90cmの所に位置している。長径62cm、短径56cm、深さ21cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれ、遺物の出土はなかった。土壌上面には列石を構成する配石は認められなかった。

12号土壌(第46・50図、PL.15・127)

Ch・Ci-23グリッドにかけて検出された。13号土壌の北東210cmの所に位置している。長径70cm、短径66cm、深さ37cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれ、遺物の出土はなかった。土壌上面には列石を構成する配石が認められ、多孔石2点が出土した。墓標となったものと考えられる。

13号土壌(第46図、PL.15)

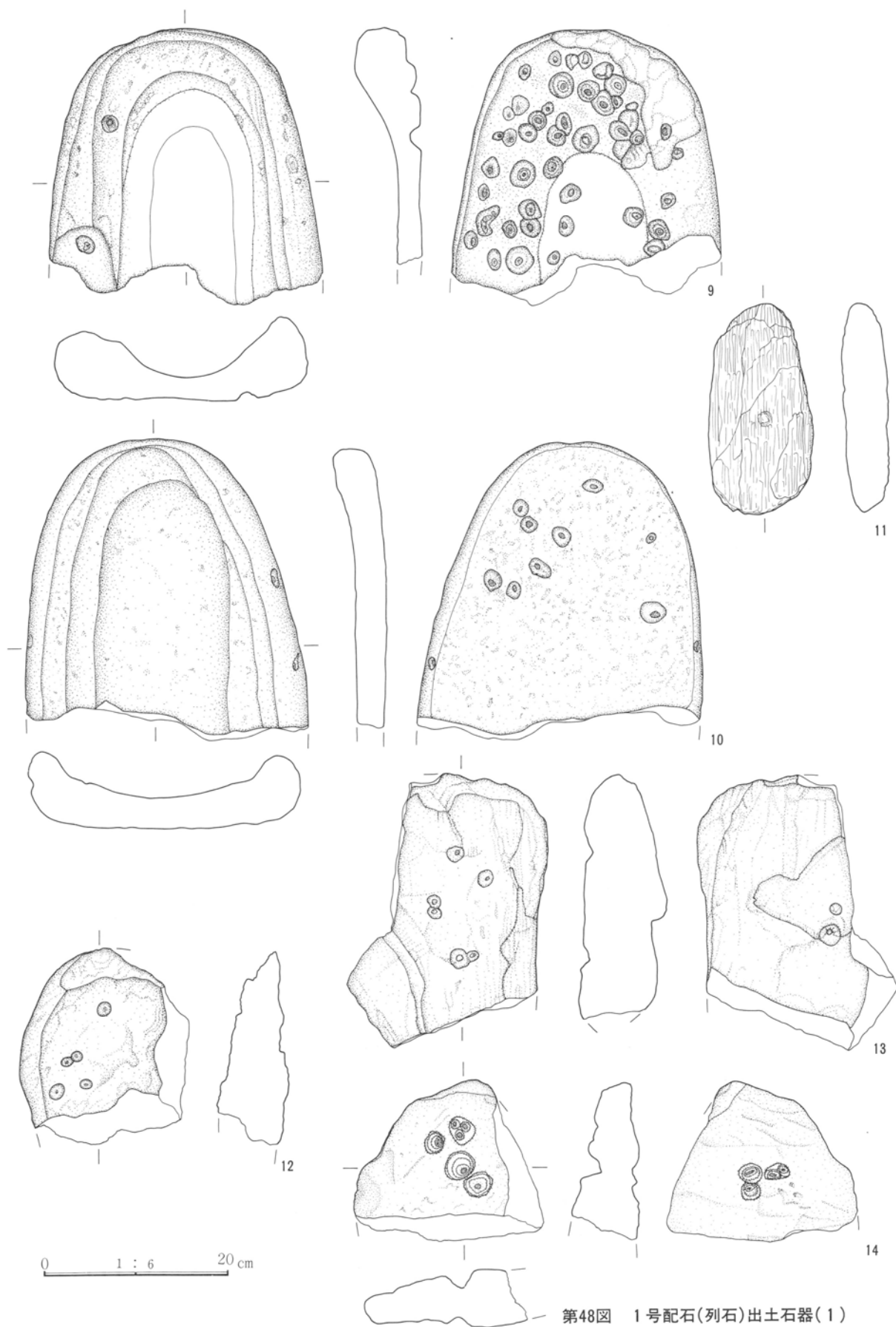
Ch・Ci-22グリッドにかけて検出された。12号土壌の南210cmの所に位置している。長径70cm、短径60cm、深さ34cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれ、遺物の出土はなかった。土壌上面には列石を構成する配石は認められなかった。

14号土壌(第47図)

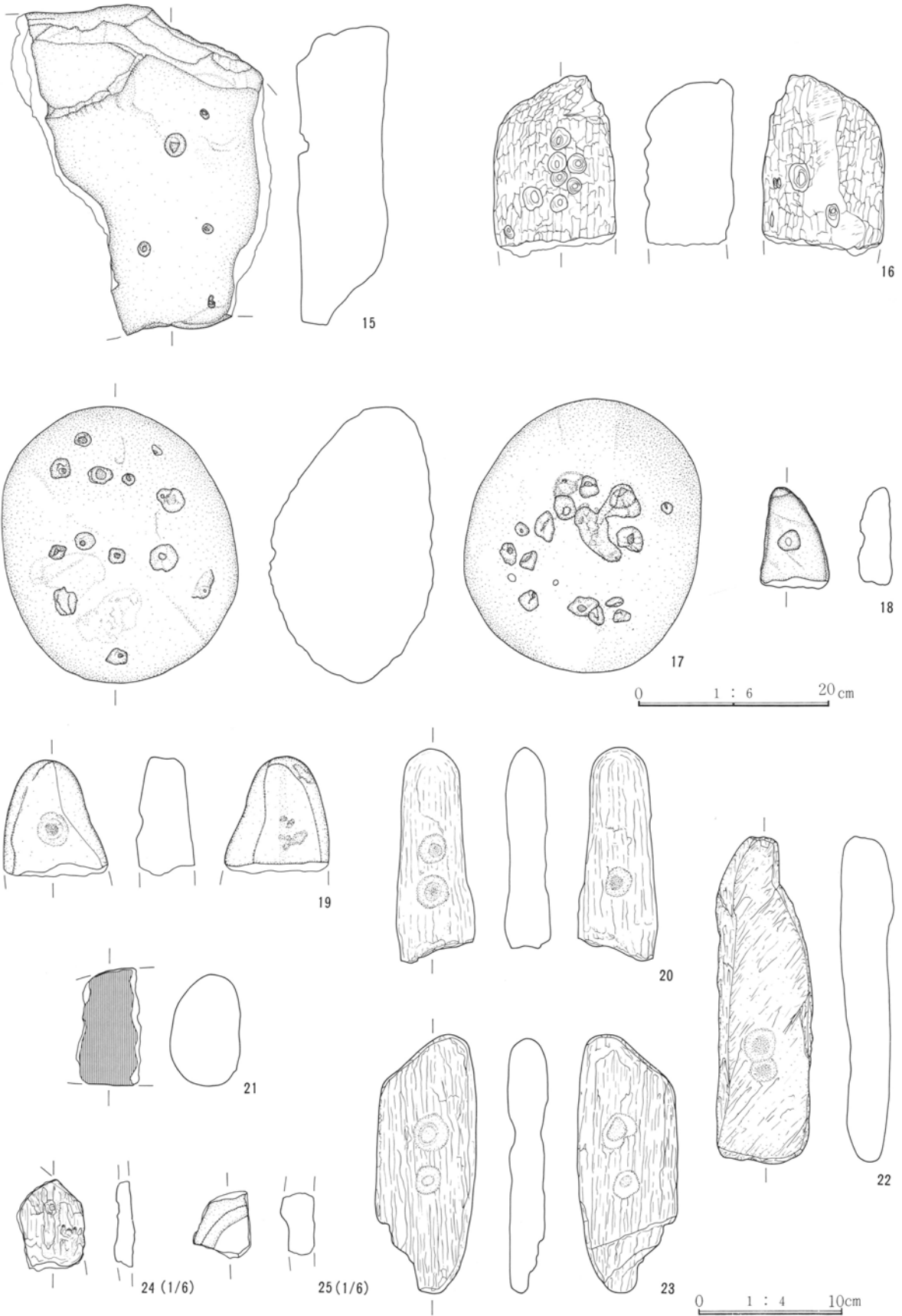
Ci-22グリッドにおいて検出された。10号土壌の北東130cmの所に位置している。長径50cm、短径42cm、深さ54cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。縄文中期土器片1点が出土した。土壌上面には列石を構成する配石は認められなかった。

15号土壌(第47図、PL.15)

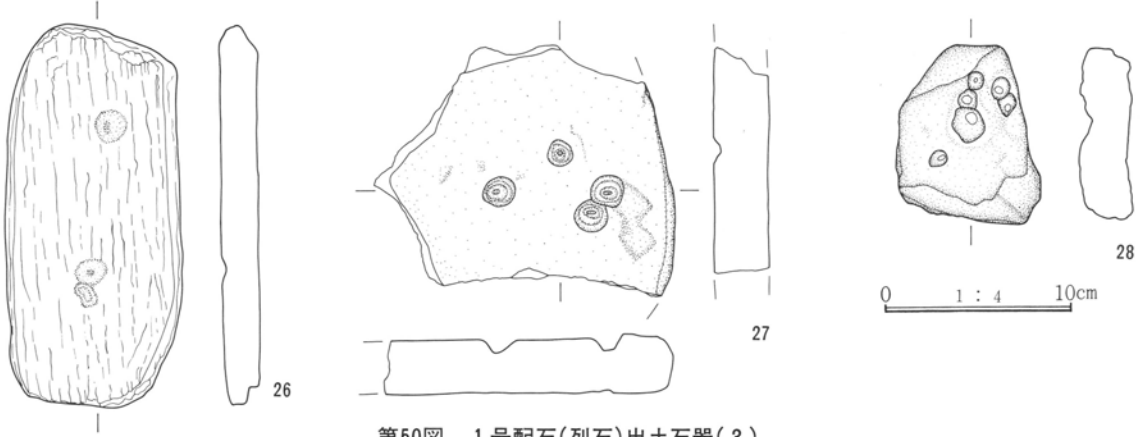
Cj-24グリッドにおいて検出された。6号土壌の北西260cmの所に位置している。長径114cm、短径96cm、深さ25cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれ、縄文中期土器片6点が出土した。土壌上面には列石を構成する小規模な配石が認められた。



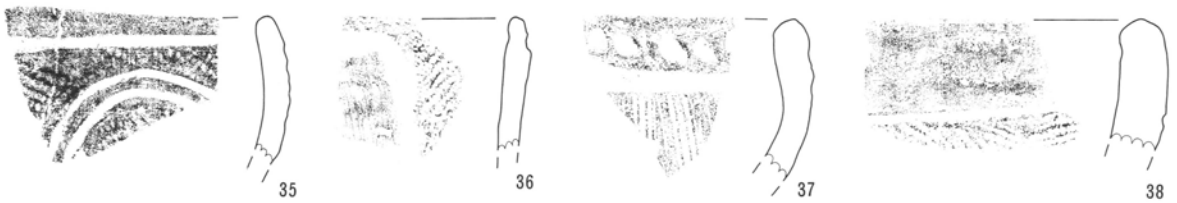
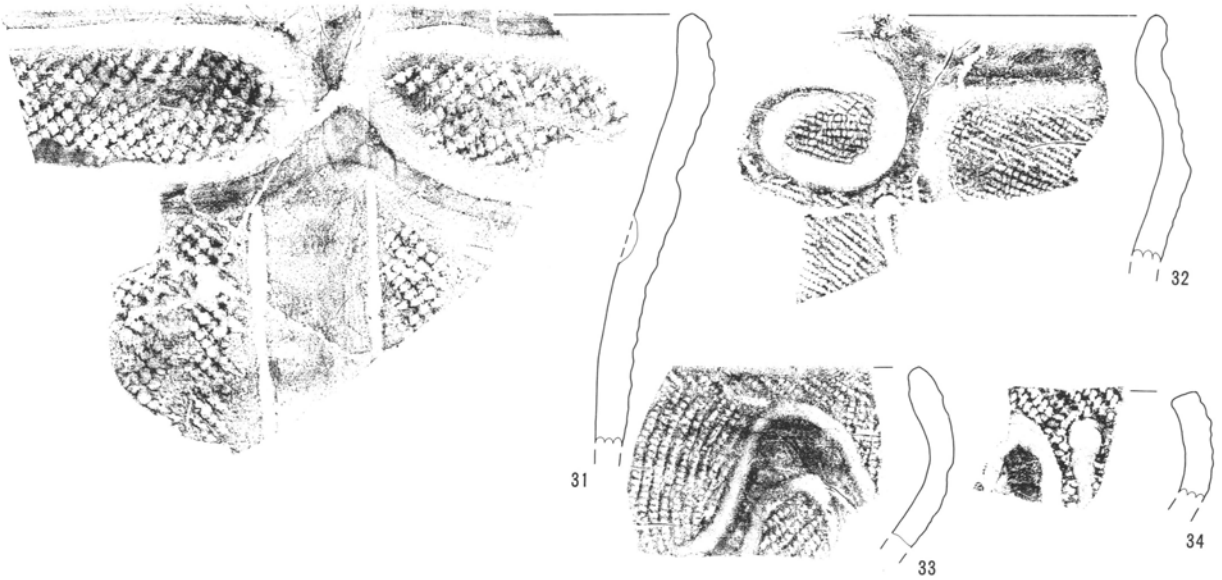
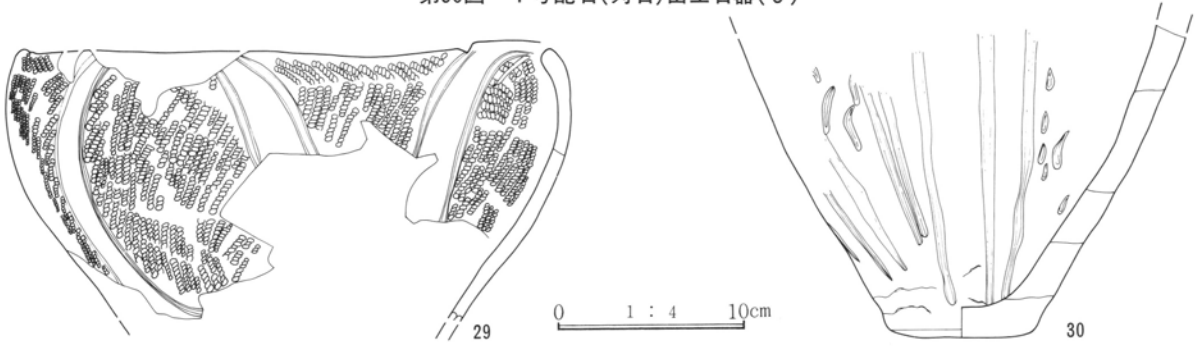
第48図 1号配石(列石)出土石器(1)



第49図 1号配石(列石)出土石器(2)

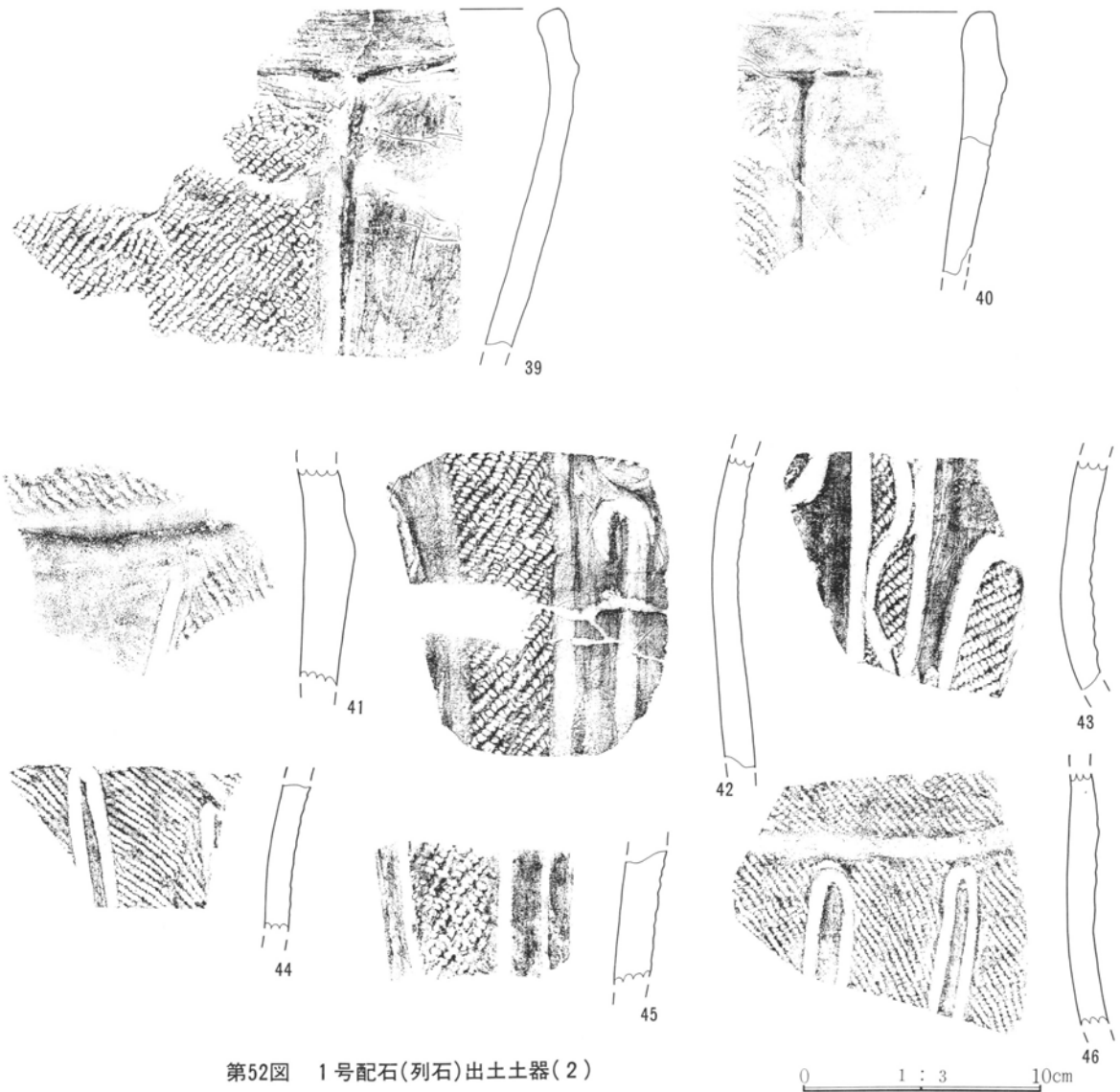


第50図 1号配石(列石)出土石器(3)



第51図 1号配石(列石)出土土器(1)

0 1 : 3 10cm



第52図 1号配石(列石)出土土器(2)

1号配石(列石)下土壌遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
44-1 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚6mm。 内面は縦ミガキ。外面色調はにぶい橙色。	沈線を垂下。 縄文施文。原体はR(レ)縦転がし。	2号土壌
44-2 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~11mm。 内面は縦ミガキ。外面色調は明赤褐色。	沈線を垂下。 縄文施文。原体はR(レ)。炭化物付着。	3号土壌
44-3 126	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~12mm。 内面は縦ミガキ。外面色調は明赤褐色。	沈線を垂下。 縄文施文。原体はR(レ)。内面炭化物付着。	4号土壌
44-4 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②不良	深鉢形土器の胴部片。器厚12~14mm。 内面は丁寧な調整。外面色調はにぶい黄橙色。	沈線を垂下。 縄文施文。原体はR(レ)。	5号土壌
45-5 126	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12~20mm。 内面は横・縦ミガキ。色調は赤褐色。	口縁部に隆帯と沈線による楕円区画。 縄文原体L(レ)。沈線を垂下。炭化物付着。	6号土壌
45-6 126	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	5・7と同一個体。		6号土壌
45-7 126	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	5・6と同一個体。		6号土壌
46-8 126	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	注口土器。口縁部は波状。器厚5~8mm。 内面は横調整。外面の色調は明赤褐色。	口縁部に無文帯、横位の微隆起、以下縄 文施文。原体はR(レ)。	10号土壌

1号配石(列石)遺物観察表

図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
48-9 126	石皿	2/3	砂岩	(25.6)	27.5	9.0	(6,446)	楕円形で表面は2段の深い窪み。裏面に41個の深い凹み穴。中央部に磨面が認められる。	1号土壌
48-10 127	石皿	2/3	砂岩	(30.2)	29.7	6.9	(6,856)	楕円形で表面は2段の窪み。裏面に10個の凹み穴が認められる。	1号土壌
48-11 126	凹石	完形	絹雲母石墨片岩	22.6	11.2	4.9	1,884	片面に1個の凹み穴が認められる。	1号土壌
48-12 126	多孔石	1/3	砂岩	(21)	(18)	6.5	(3,073)	片面に5個の凹み穴が認められる。	1号土壌
48-13 127	多孔石	2/3	砂岩	(28.0)	20.7	8.2	(5,257)	両面に計8個の凹み穴が認められる。	1号土壌
48-14 127	多孔石	部分	砂岩	(16.9)	(20.2)	7.2	(1,943)	両面に計7個の凹み穴が認められる。全面焼けている。	1号土壌
49-15 127	多孔石	部分	砂岩	34.2	(25.5)	9.0	(11,821)	片面に5個の凹み穴が認められる。	2号土壌
49-16 127	多孔石	1/4	絹雲母石墨片岩	(17.6)	(12.6)	19.1	(3,236)	両面に計10個の深い凹み穴が認められる。	3号土壌
49-17 127	多孔石	完形	安山岩	28.7	24.5	17.2	15,300	両面に計29個の凹み穴が認められる。	3号土壌
49-18 127	多孔石	部分	砂岩	(10.4)	7.3	3.4	276	片面に1個の凹み穴が認められる。	3号土壌の東
49-19 127	凹石	1/2	砂岩	(8.0)	7.2	3.9	(212)	両面に浅い凹み穴が認められる。	3号土壌の北
49-20 127	凹石	一部欠損	絹雲母石墨片岩	(14.3)	5.4	3.1	(374)	両面に計3個の浅い凹み穴が認められる。	列石中
49-21 127	磨石	部分	安山岩	(3.8)	(8.0)	4.8	(248)	全面に磨耗痕が認められる。	列石中
49-22 127	凹石	完形	絹雲母石墨片岩	22.5	6.5	3.5	891	片面に2個の浅い凹み穴が認められる。	5号土壌
49-23 127	凹石	一部欠損	絹雲母石墨片岩	17.8	6.7	2.8	(465)	両面に計4個の浅い凹み穴が認められる。	6号土壌の西
49-24 127	多孔石	部分	緑泥片岩	(9.3)	(7.1)	1.9	(207)	片面に1個の凹み穴が認められる。	列石中
49-25 127	石皿	部分	砂岩	(6.7)	(6.0)	3.4	(159)	片面に浅い窪みが認められる。焼けている。	列石中
50-26 127	凹石	完形	絹雲母石墨片岩	20.0	9.4	2.0	760	片面に3個の浅い凹み穴が認められる。	列石の北
50-27 127	多孔石	2/3	砂岩	(18.2)	(23.7)	4.4	(2,669)	片面に4個の深い凹み穴が認められる。全面焼けている。	12号土壌
50-28 127	多孔石	部分	砂岩	(14.2)	(11.6)	4.9	(843)	片面に6個の凹み穴が認められる。	12号土壌
図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文様 (その他)	出土状況	
51-29 127	口縁～ 胴上半	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の内湾する口縁部片。器厚6～9mm。内面は横調整。外面の色調は明赤褐色。				縄文施文。原体はR ₁ 横・縦転がし。沈線による文様。	列石周辺	
51-30 127	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部。底径7.5cm。内面は荒れている。外面の色調はにぶい赤褐色。				沈線を垂下。押し引き状の沈線。内面に炭化物が付着。	列石周辺	
51-31 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10～12mm。内面は横ミガキ。色調は褐色。				口縁部に隆帯と沈線による楕円区画。縄文原体はL ₁ 。沈線を垂下。	列石周辺	
51-32 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚8～12mm。内面は横ミガキ。色調はにぶい褐色。				口縁部に隆帯と沈線による渦巻・楕円。縄文原体はR ₁ 。沈線を垂下。	列石周辺	
51-33 127	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	内湾する口縁部片。器厚7～12mm。内面は横調整。色調は褐灰色。				沈線による文様。縄文施文。原体はL ₁ 。	列石周辺	
51-34 127	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②良	内湾する口縁部片。器厚8～10mm。内面は横ミガキ。色調は褐灰色。				沈線による文様。縄文施文。原体はR ₁ 。器面柔軟で押圧強い。	列石周辺	
51-35 127	口縁部片	①細粒の砂を混入 ②良	内湾する波状口縁部片。器厚6～8mm。内面は横方向の調整。色調はにぶい黄橙色。				沈線による文様。縄文施文。原体はR ₁ 。	列石周辺	
51-36 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②非常に良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7～10mm。内面は横ミガキ。色調はにぶい赤褐色。				沈線による文様。縄文施文。原体はR ₁ 。	列石周辺	

1号配石(列石)遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
51-37 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②不良	内湾する口縁部片。器厚10~15mm。 内面は横方向の調整。色調は黒褐色。	口縁部に円形刺突と1条の沈線。 条線の器面に炭化物付着。	列石周辺
51-38 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②やや良	内湾する口縁部片。器厚17mm。 内面は横方向の調整。色調は褐色。	1条の沈線。 縄文施文。原体はL位。	列石周辺
52-39 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	内湾する口縁部片。器厚10~12mm。 内面は横方向のミガキ。色調は赤褐色。	口唇部に狭い無文帯。1条の微隆起帯と接続する微隆起帯を垂下。縄文原体はR位。	列石周辺
52-40 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	内湾する口縁部片。器厚10~13mm。 内面は横方向の調整。色調は暗赤褐色。	口唇部に狭い無文帯。1条の微隆起帯と接続する微隆起帯を垂下。原体はL位。	列石周辺 炭化物付
52-41 127	口縁部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12~16mm。 内面は横方向のミガキ。色調はにぶい褐色。	口縁部に隆帯と沈線による区画。 縄文原体はL位。沈線を垂下。	列石周辺
52-42 127	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~12mm。 内面は縦方向のミガキ。色調はにぶい黄褐色。	沈線と蕨手状の沈線垂下。 縄文原体はR位縦位。押圧が強い。	列石周辺
52-43 127	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~13mm。 内面は縦方向のミガキ。色調はにぶい黄色。	沈線による文様。 縄文原体はR位。押圧が強い。	列石周辺
52-44 127	胴部片	①粗粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~12mm。 内面は横方向のミガキ。色調は黒褐色。	沈線による文様。 縄文施文。原体はR位。	列石周辺
52-45 127	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚12~15mm。 内面は縦方向のミガキ。色調は暗赤褐色。	沈線を垂下。 縄文施文。原体はR位縦位。押圧強い。	列石周辺
52-46 127	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10mm。 内面は横方向の調整。色調はにぶい黄褐色。	沈線による文様。 縄文施文。原体はR位。	列石周辺

2号配石(第53・54図、PL.15・127)

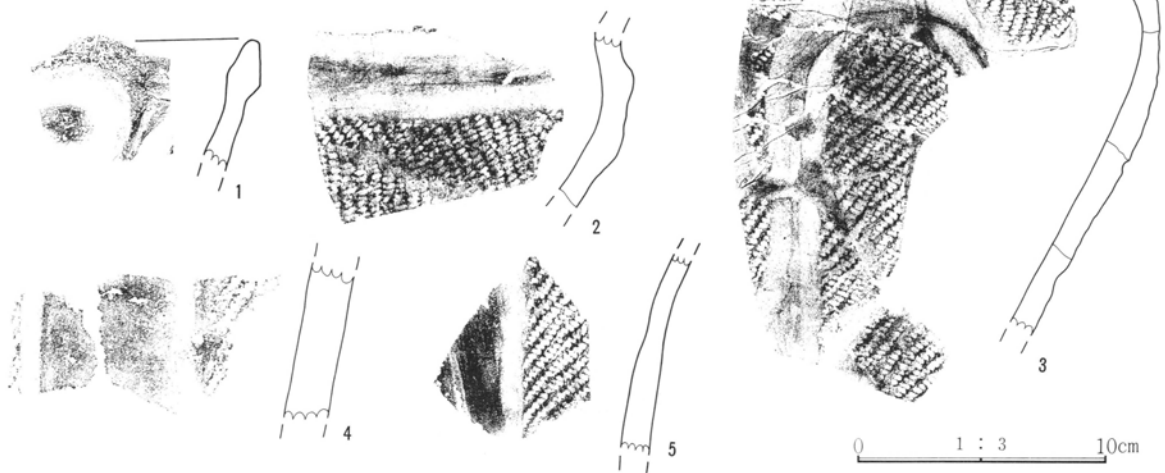
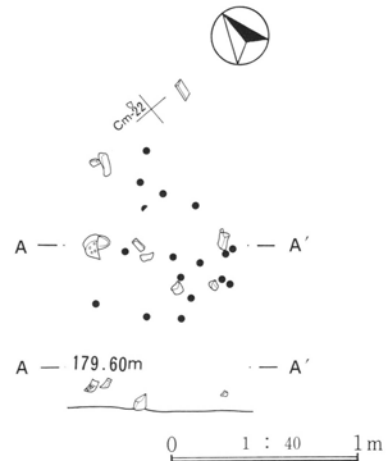
位置 CI-21、Cm-21・22グリッドにかけて検出された。1号配石(列石)の南西12mの所に位置している。

重複 なし。

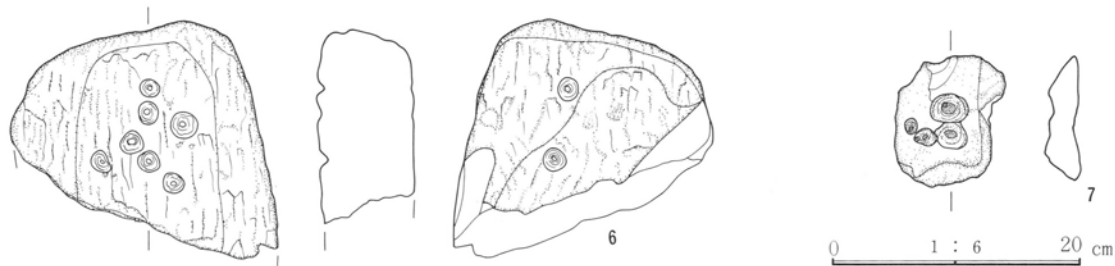
覆土 竪穴としての掘り込みが存在しないために、遺構内覆土は認められない。

配石状況 配石の規模は、長径2m、短径1.2mである。8点の石と82点の土器片から構成されていた。多孔石2点を含んでいる。

時期 縄文時代中期加曾利E3式期である。



第53図 2号配石と出土土器



第54図 2号配石出土石器

2号配石遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文 様 (その他)	出土状況	
53-1 127	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10mm。 内面は横ミガキ。色調はにぶい赤褐色。				波状口縁。 口縁部に隆帯と沈線による区画。	CI-21 グリッド	
53-2 127	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚10mm。 内面は横方向の調整。色調はにぶい赤褐色。				隆帯と沈線による区画。 縄文施文。原体はR仕横位。	CI-21 グリッド	
53-3 127	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	口縁部は内湾する。器厚7~11mm。 内面は横ミガキ。色調はにぶい褐色。				沈線による文様。縄文施文。 原体はR仕横・縦位。内面炭化物付着。	CI-21 グリッド	
53-4 127	胴部片	①粗粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚17mm。 内面は横調整。色調はにぶい黄橙色。				沈線を垂下。 縄文施文。原体はR仕縦位。	CI-21 グリッド	
53-5 127	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~12mm。 内面は横ミガキ。色調はにぶい黄橙色。				沈線を垂下。 縄文施文。原体はR仕縦位。	CI-21 グリッド	
図番 PL	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm, g)				特 徴	出土状況
54-6 127	多孔石	1/2	点紋緑泥片岩	(17.6)	19.8	7.6	(4,155)	両面に計9個の凹み穴が認められる。一部焼 けている。	CI-21 グリッド
54-7 127	多孔石	部 分	砂岩	(10.0)	7.7	2.5	(273)	片面に4個の凹み穴が認められる。赤化して いる。	CI-21 グリッド

〔3〕

屋外埋設土器

1号屋外埋設土器 (第55図、PL.15・127)

Ci-34グリッドにおいて検出された。H-24号住居跡によって遺構の半分を壊されている。土器を埋設する土坑の規模は、現状では長径53cm、短径30cm、深さ35cmである。覆土は暗褐色土層である。埋設土器は胴上半を欠損した加曾利E3式土器で、斜位状態で埋設されていた。

3号屋外埋設土器 (第55図、PL.15・127)

Cb-30グリッドにおいて検出された。土器を埋設するピットの規模は、長径32cm、短径30cm、深さ8cmである。覆土は暗褐色土層である。埋設土器は加曾利E3式土器の穿孔された底部で、正位状態で埋設

されていた。

4号屋外埋設土器 (第55図、PL.15・127)

DI-39グリッドにおいて検出された。土器を埋設する土坑の規模は、長径70cm、短径60cm、深さ15cmである。覆土は2層に分かれた。埋設土器は底部で正位状態と考えられる。

なお、2号屋外埋設土器は欠番になった。



1号屋外埋設土器

1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あまりなし。ローム粒子・白色粒子・炭化物粒子を少量含む。

1(1/4)

1(1/6)

3号屋外埋設土器

4号屋外埋設土器

1 暗褐色土層 やわらかくて締まり悪い。ローム粒子を少量含む。
2 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子・白色粒子を含む。

第55図 屋外埋設土器(1・3・4号)

0 1 : 40 1 m

屋外埋設土器観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文 様 (その他)	出土状況
55-1 127	胴下半 部	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴上半部欠損。現高22cm。 内面は剥落。内外面の色調は明赤褐色。	隆帯と沈線を垂下。 縄文施文。原体はR仕。	4号屋外 埋設土器
55-2 127	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。底径9.8cm。 内面は荒れている。外面の色調は橙色。		1号屋外 埋設土器
55-3 127	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	底面は剥離。 内面はナデ、外面の色調は橙色。		3号屋外 埋設土器

〔4〕

土 坑

18号土坑 (第56・71図、PL.16・128)

Db-26グリッドにおいて検出された。上面の規模は158×148cm、底面の規模は142×132cm、深さ44cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土上層～底面にかけて前期土器片1点、中期土器片17点が出土し、このほかに弥生後期土器片2点、剥片9点が出土している。

19号土坑 (第56・71図、PL.16・128)

Db-27グリッドにおいて検出された。上面の規模は130×113cm、底面の規模は90×75cm、深さ52cmのほぼ円形を呈する。覆土は4層に分かれた。覆土からは中期後半の土器片6点が出土している。

21号土坑 (第56図、PL.16)

Dc-27グリッドにおいて検出された。上面の規模は130×122cm、底面の規模は100×100cm、深さ17cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。14号墳周堀の内側から検出されている。覆土からは中期後半の土器片が出土している。

24号土坑 (第56・71図、PL.128)

De-27グリッドにおいて検出された。上面の規模は246×208cm、底面の規模は217×180cm、深さ36cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土からは前期土器片1点、中期土器片4点が出土し、弥生土器片2点、礫・剥片1点も出土している。

27号土坑 (第56・71図、PL.128)

Dh-28グリッドにおいて検出された。上面の規模は126×108cm、底面の規模は114×91cm、深さ31cmの不整形円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片5点、弥生後期の土器片8点、礫・剥片1点が出土している。

30号土坑 (第57・71図、PL.128)

Cp-24グリッドにおいて検出された。上面の規模は115×106cm、底面の規模は92×90cm、深さ17cmの円形を呈する。底面は平坦である。覆土は2層に分か

れた。覆土からは中期後半の土器片が出土している。

31号土坑 (第57・71図、PL.128)

Cm-22グリッドにおいて検出された。上面の規模は87×83cm、底面の規模は70×60cm、深さ26cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。覆土からは中期後半の土器片9点が出土している。

39号土坑 (第57・71図、PL.128)

Cm-22グリッドにおいて検出された。上面の規模は180×110cm、底面の規模は133×128cm、深さ37cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期後半の土器片13点が出土している。

43号土坑 (第57・71図、PL.128)

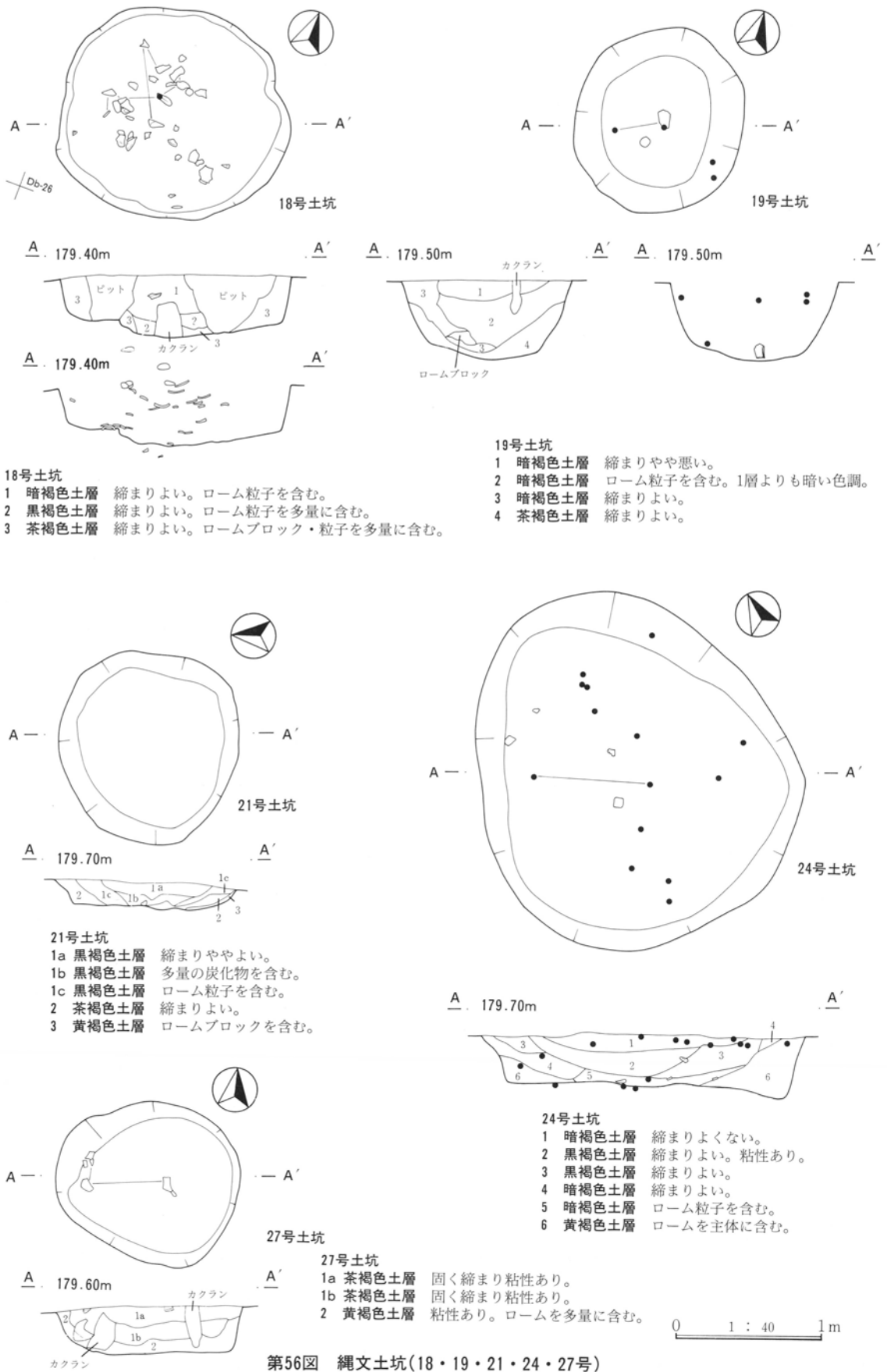
Cm-21・22グリッドにかけて検出された。風倒木によって一部壊されている。上面の規模は177×124cm、底面の規模は145×100cm、深さ37cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期後半の土器片6点、弥生後期の土器片3点が出土している。

45号土坑 (第57・71図、PL.16・128)

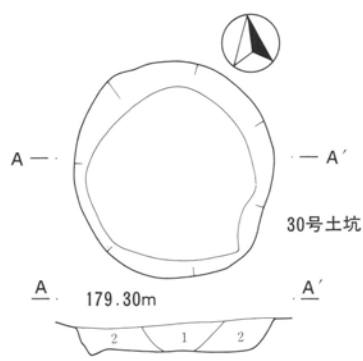
Ci・Ch-32グリッドにかけて検出された。上面の規模は111×103cm、底面の規模は105×98cm、深さ11cmの円形を呈する。底面は皿状を呈する。覆土は1層である。覆土からは中期後半の土器片と弥生後期の土器片が出土している。当初、縄文土坑と判断したが、その後比較的新しい土坑と考えられるにいった。

46号土坑 (第57図、PL.16)

Ci-32グリッドにおいて検出された。上面の規模は105×98cm、底面の規模は97×88cm、深さ19cmの円形を呈する。底面は皿状を呈する。覆土は1層である。覆土からは中期前半の土器片1点、弥生後期の土器片6点が出土している。45号土坑と同様に縄文土坑

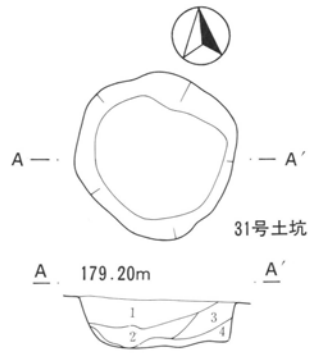


第56図 縄文土坑(18・19・21・24・27号)



30号土坑

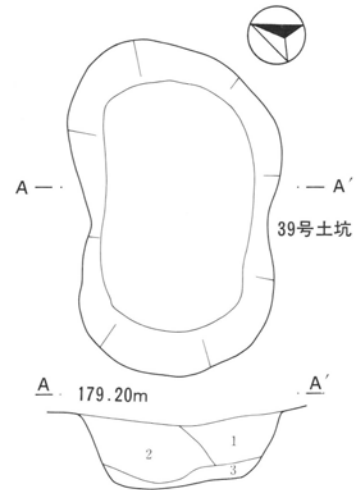
- 1 暗褐色土層 やわらかくて締まり悪い。粘性あり。ロームブロック・粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子を含む。



31号土坑

31号土坑

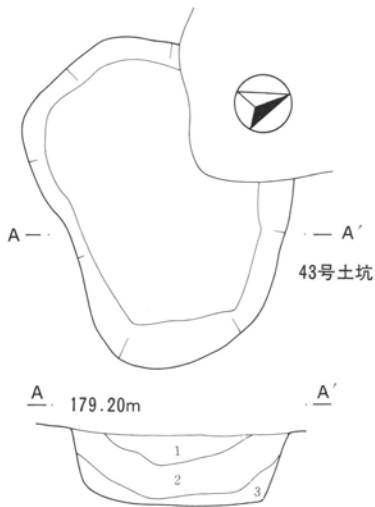
- 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を多量に含む。
- 4 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック主体の層。



39号土坑

39号土坑

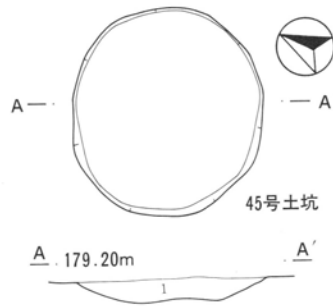
- 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロック・粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を多量に含む。



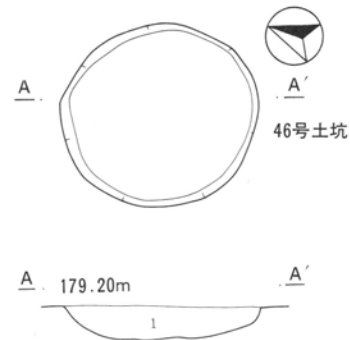
43号土坑

43号土坑

- 1 茶褐色土層 粘性あまりない。ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土層 粘性非常にあり。
- 3 茶褐色土層 やわらかくて粘性非常にあり。ローム粒子を少量含む。



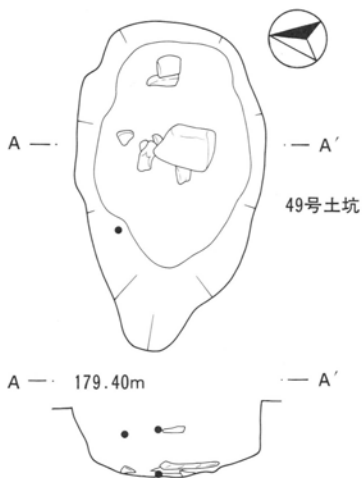
45号土坑



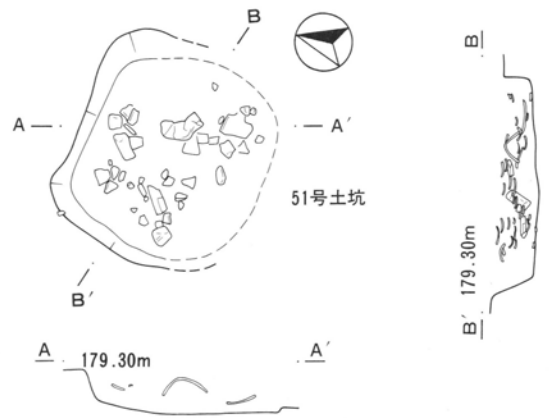
46号土坑

45・46号土坑

- 1 黒色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ローム粒子を少量含む。

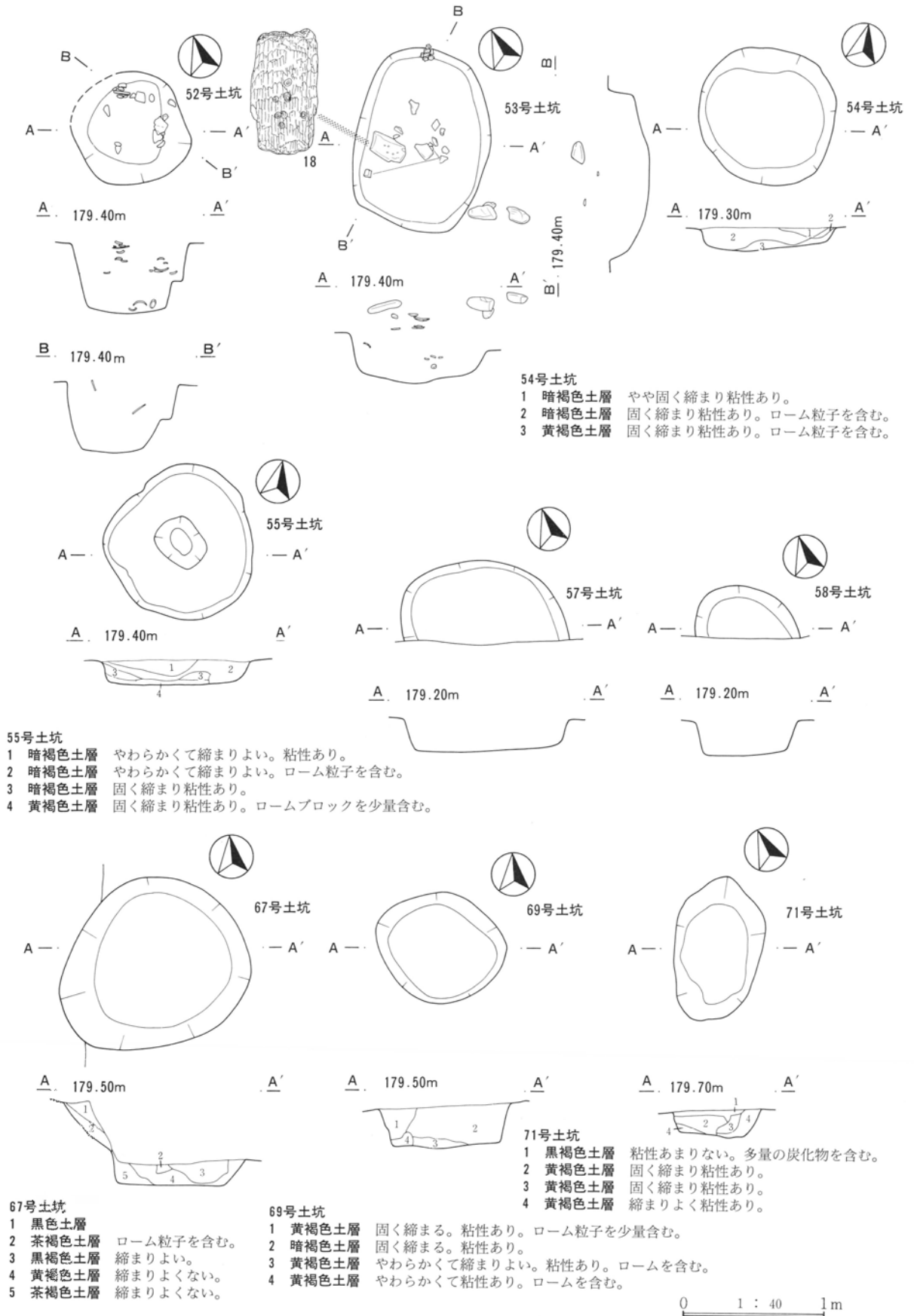


49号土坑



51号土坑

第57図 縄文土坑(30・31・39・43・45・46・49・51号)



第58図 縄文土坑(52~55・57・58・67・69・71号)

ではなく比較的新しい土坑と考えられる。

49号土坑（第57図、PL.16）

Dg-26グリッドにおいて検出された。8号方形周溝墓内に位置している。上面の規模は125×100cm、底面の規模は120×82cm、深さ41cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土から底面にかけて中期前半の土器片5点、礫・剥片が出土している。

51号土坑（第57・71図、PL.16・128）

Ck-22グリッドにおいて検出された。列石の西約5mの所に位置している。上面の規模は120×110cm、底面の規模は107×95cm、深さ23cmの方形を呈する。底面は平坦である。覆土からは中期後半の土器片37点、礫1点が出土している。列石下土壌と同様な用途が考えられる。

52号土坑（第58・71図、PL.16・128）

Ck-22グリッドにおいて検出された。列石の西約5mの所に位置している。上面の規模は81×76cm、底面の規模は59×53cm、深さ51cmの方形を呈する。底面は平坦である。覆土からは中期後半の土器片19点が出土している。当土坑も列石土壌と共通するものであろう。

53号土坑（第58・71図、PL.16・128）

Cn-22グリッドにおいて検出された。上面の規模は130×95cm、底面の規模は114×80cm、深さ30cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。土坑上面から多孔石が出土している。この他に中期後半の土器片34点も上層から出土している。多孔石の出土状況は、列石下土壌と共通している。

54号土坑（第58図）

Dg-25グリッドにおいて検出された。8号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は98×95cm、底面の規模は83×67cm、深さ16cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。

55号土坑（第58図）

Dh-26グリッドにおいて検出された。8号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は110×105cm、底面の規模は91×90cm、深さ17cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土は4層に分かれた。

57号土坑（第58図）

Di-25グリッドにおいて検出された。5号墳周堀の内側に位置している。完掘できなかったが、現状では上面の規模は117×61cm、底面の規模は95×55cm、深さ22cmの楕円形を呈するものと考えられる。底面は平坦である。

58号土坑（第58図）

Di-25グリッドにおいて検出された。5号墳周堀の内側に位置している。完掘できなかったが、現状では上面の規模は71×38cm、底面の規模は56×30cm、深さ24cmである。底面は平坦である。

67号土坑（第58・71図）

Dd-27・28グリッドにかけて検出された。Y-8号住居跡によって壊されている。現状では上面の規模は137×121cm、底面の規模は99×93cm、深さ60cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土は5層に分かれた。覆土からは前期の土器片5点、弥生後期の土器片3点が出土している。

69号土坑（第58図、PL.16）

Dn-27グリッドにおいて検出された。4号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は84×77cm、底面の規模は70×59cm、深さ30cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土は4層に分かれた。

71号土坑（第58図、PL.16）

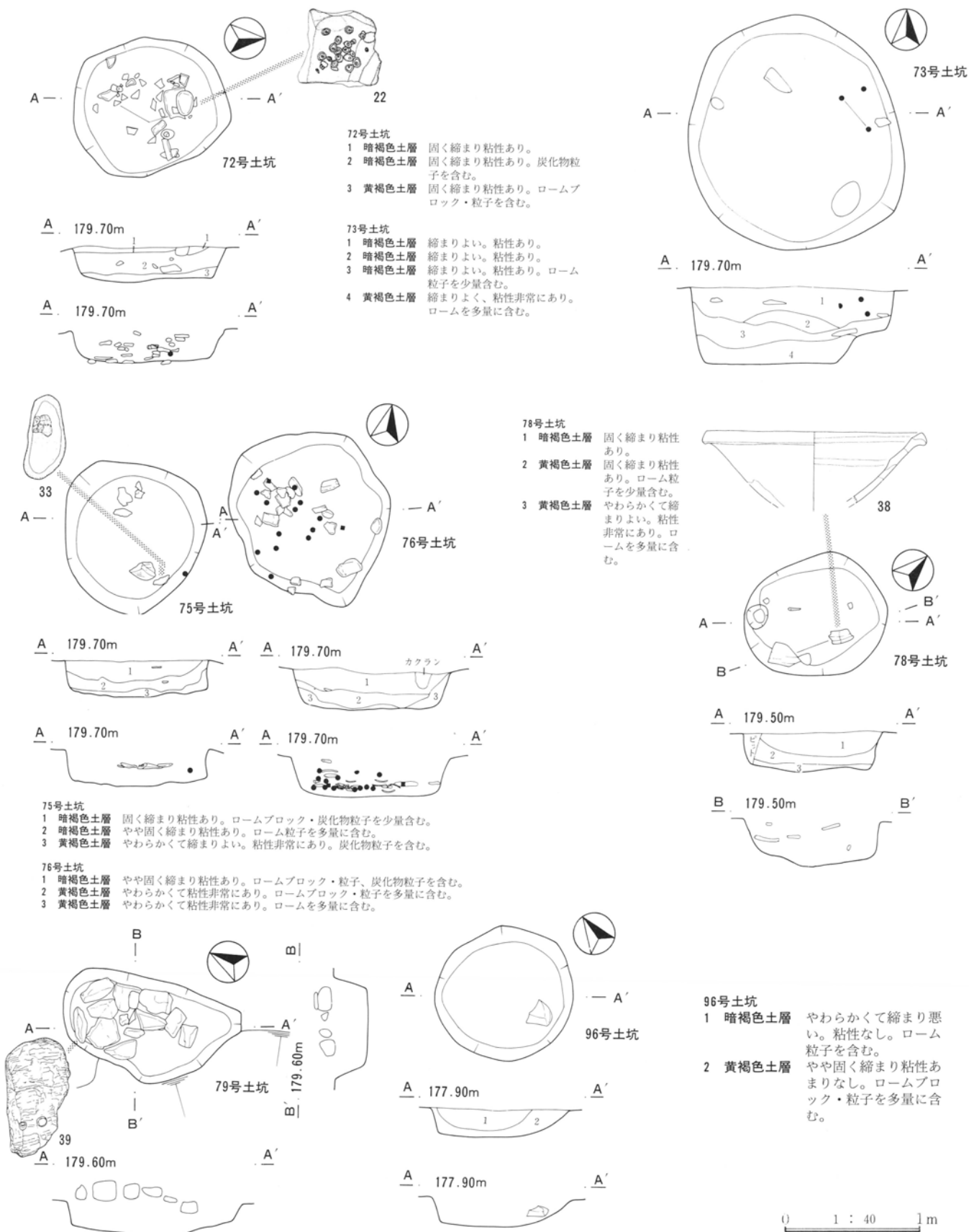
Dh-32グリッドにおいて検出された。Y-21住居跡と6号方形周溝墓の間に位置している。上面の規模は103×61cm、底面の規模は70×44cm、深さ20cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。

72号土坑（第59・72図、PL.16・128）

Dh-32・33グリッドにかけて検出された。上面の規模は113×96cm、底面の規模は93×88cm、深さ26cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは、前期後半の土器片1点、中期前半の土器片11点が出土した。また多孔石・打製石斧も出土している。

73号土坑（第59・72図、PL.16・128）

Dg・Dh-33グリッドにかけて検出された。上面の



0 1 : 40 1m

規模は173×63cm、底面の規模は154×140cm、深さ56cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。覆土からは中期の土器片7点、礫・剥片2点が出土している。

75号土坑 (第59・72図、PL.16・128)

Df・Dg-33グリッドにかけて検出された。76号土坑と接している。上面の規模は110×105cm、底面の規模は88×83cm、深さ26cmの円形を呈する。底面は平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片10点、凹石・礫・剥片が出土している。

76号土坑 (第59・72・73図、PL.17・128)

Df-33グリッドにおいて検出された。75号土坑と接している。上面の規模は130×122cm、底面の規模は110×100cm、深さ31cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片30点、凹石・打製石斧が出土している。

78号土坑 (第59・73図、PL.17・128)

Df-33グリッドにおいて検出された。76号土坑に近接している。上面の規模は104×90cm、底面の規模は88×70cm、深さ30cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片5点、礫・剥片等が出土している。

79号土坑 (第59・73図、PL.17)

Co-26グリッドにおいて検出された。6号墳の周堀によって壊されている。上面の規模は134×70cm、底面の規模は120×58cm、深さ27cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。土坑上面には配石されている。このなかには多孔石1点が含まれていた。覆土からは中期前半の土器片8点、中期後半の土器片1点、弥生後期の土器片10点が出土している。

96号土坑 (第59図、PL.17)

Bs・Bt-25グリッドにかけて検出された。上面の規模は100×99cm、底面の規模は90×89cm、深さ21cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片と弥生後期の土器片等が出土している。

97号土坑 (第60図、PL.17)

Bk-27グリッドにおいて検出された。上面の規模

は114×108cm、底面の規模は95×94cm、深さ21cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片と弥生後期の土器片等が出土している。

101号土坑 (第60図、PL.17)

Di-35グリッドにおいて検出された。13号墳周堀の内側に位置している。現状では、上面の規模は150×110cm、底面の規模は141×88cm、深さ27cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土上層と底面から礫が出土している。

106号土坑 (第60・73図、PL.17・128)

Dh・Di-30グリッドにかけて検出された。7号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は135×110cm、底面の規模は120×94cm、深さ27cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は4層に分かれた。覆土からは中期前半の土器と礫・剥片が出土している。

107号土坑 (第60図)

Dh・Di-30グリッドにかけて検出された。7号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は163×109cm、底面の規模は152×101cm、深さ16cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

108号土坑 (第60図)

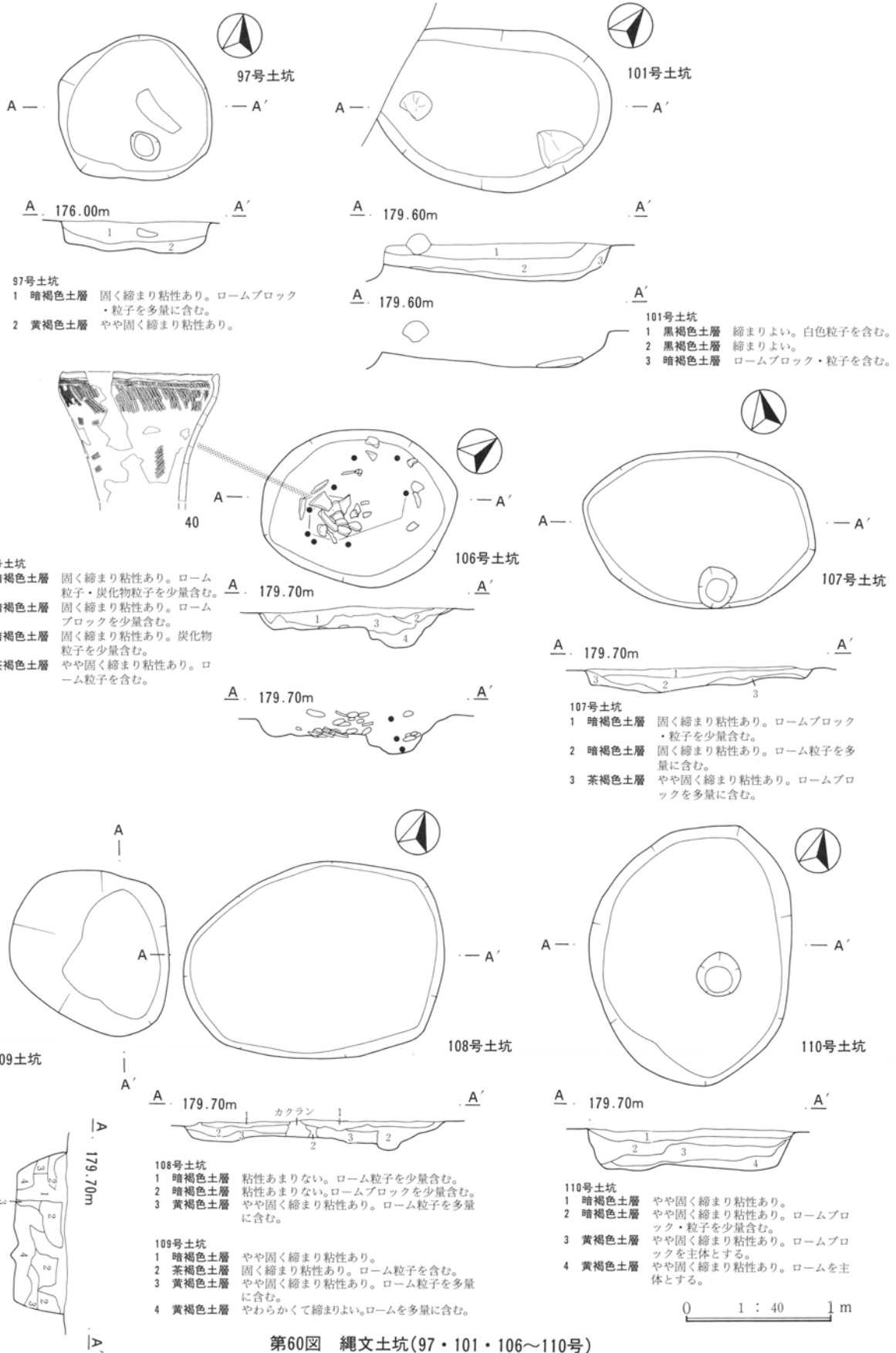
Di-29グリッドにおいて検出された。7号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は180×136cm、底面の規模は170×124cm、深さ12cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

109号土坑 (第60図)

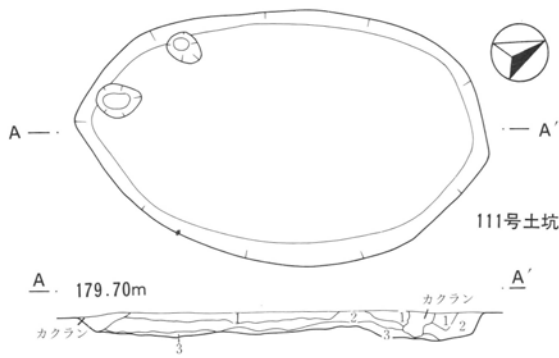
Di-29グリッドにおいて検出された。7号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は110×105cm、底面の規模は88×61cm、深さ37cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土は4層に分かれた。

110号土坑 (第60図)

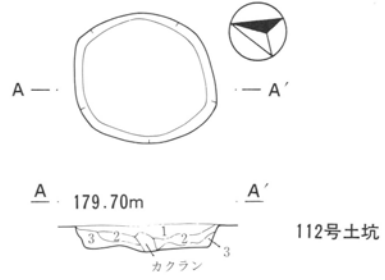
Di-29・30グリッドにかけて検出された。7号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は181×139cm、底面の規模は165×120cm、深さ28cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分



第60図 縄文土坑(97・101・106~110号)



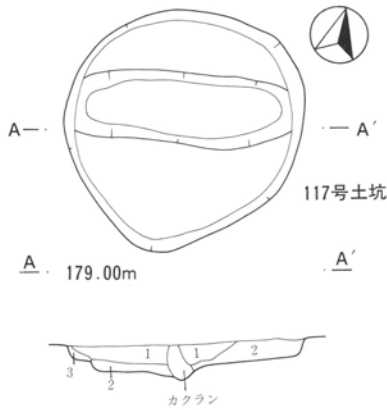
111号土坑



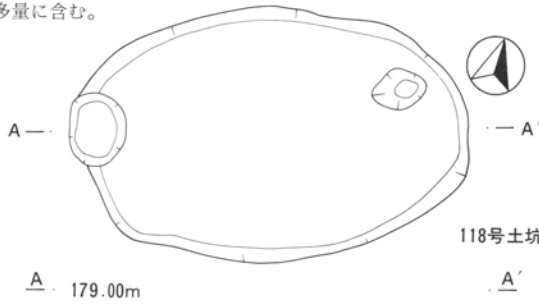
112号土坑

- 112号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
 3 黄褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

- 111号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロック・粒子を多量に含む。
 3 茶褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。



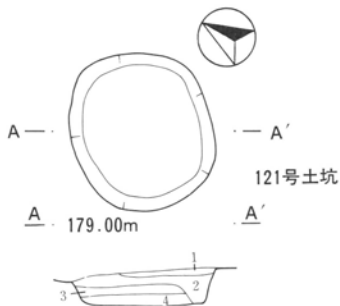
117号土坑



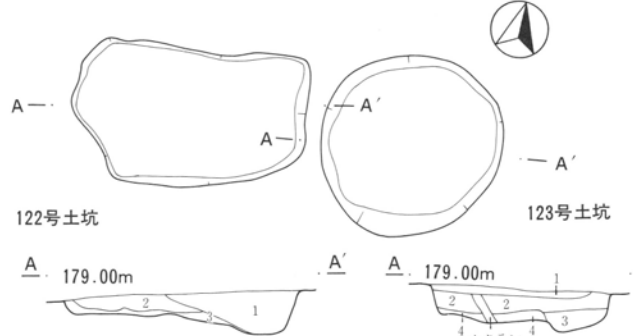
118号土坑

- 117号土坑
 1 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。
 2 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックを少量含む。
 3 黄褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

- 118号土坑
 1 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。
 2 茶褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロック・粒子を含む。
 3 黄褐色土層 固く締まり粘性あり。ロームブロック・粒子を主体とする。



121号土坑



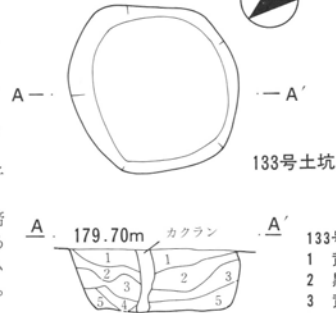
122号土坑

123号土坑

- 122号土坑
 1 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。
 2 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を含む。
 3 茶褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

- 123号土坑
 1 茶褐色土層 やや固く締まり粘性あり。
 2 茶褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロックを含む。
 3 茶褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
 4 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロック・粒子を多量に含む。

- 121号土坑
 1 茶褐色土層 固く締まり粘性あり。
 2 茶褐色土層 固く締まり粘性あり。
 3 黄褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子を含む。
 4 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を含む。

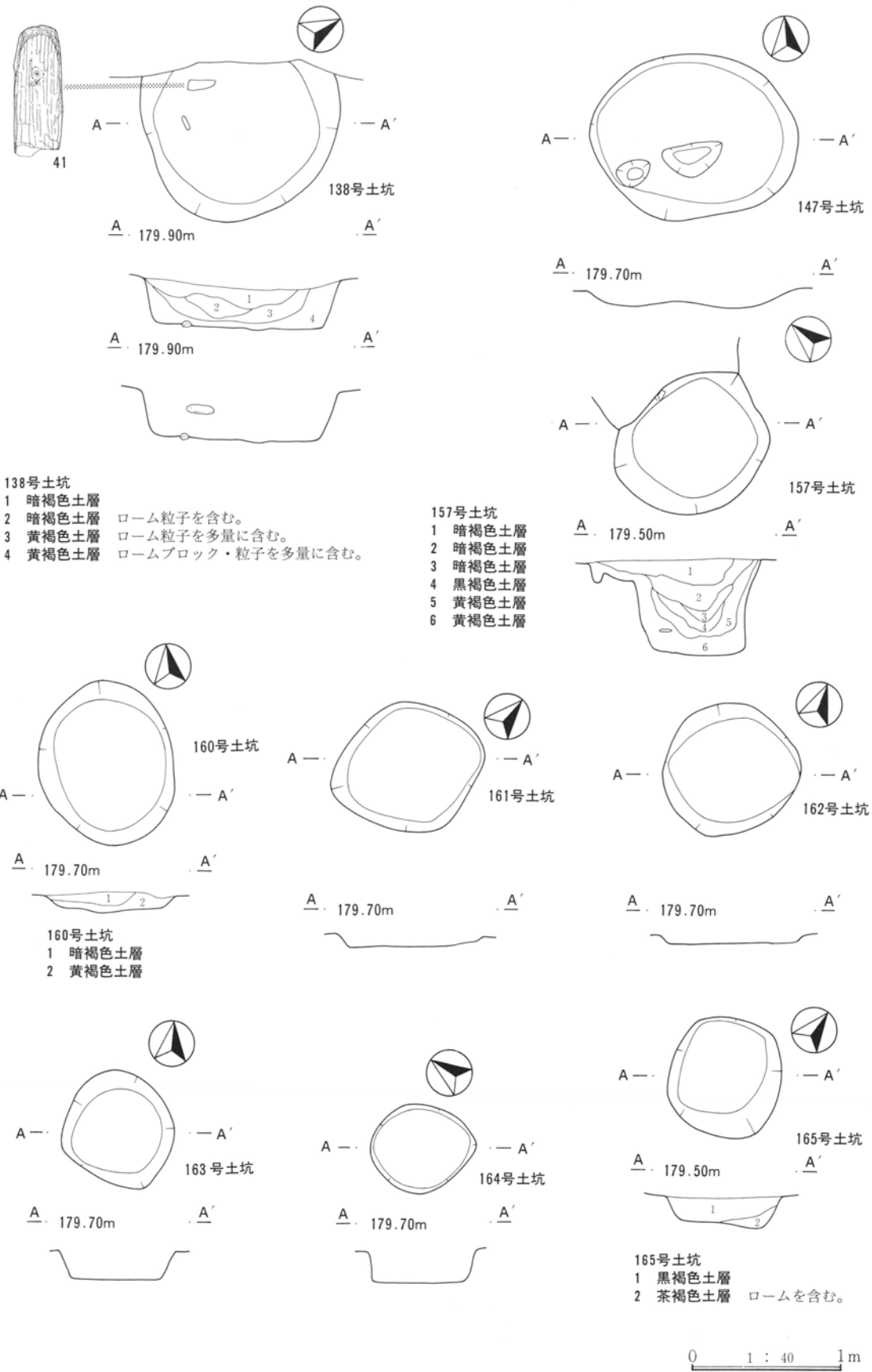


133号土坑

- 133号土坑
 1 黄褐色土層 締まりよく粘性あり。
 2 黒褐色土層 締まりよく粘性あり。
 3 黄褐色土層 ローム粒子を含む。
 4 黄褐色土層
 5 暗褐色土層 ロームブロックを含む。

0 1 : 40 1m

第61図 縄文土坑(111・112・117・118・121～123・133号)



第62図 縄文土坑(138・147・157・160~165号)

かれた。覆土からは前期中葉の土器片1点、弥生中期の土器片1点、剝片1点が出土している。

111号土坑 (第61図)

Di-30グリッドにおいて検出された。7号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は220×136cm、底面の規模は200×116cm、深さ14cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

112号土坑 (第61図)

Di-30グリッドにおいて検出された。7号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は74×70cm、底面の規模は64×62cm、深さ14cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。

117号土坑 (第61図)

Dj-39グリッドにおいて検出された。12号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は130×124cm、底面の規模は117×114cm、深さ11cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。攪乱が土坑上面から底面まで及んでいる。

118号土坑 (第61図、PL.17)

Dj-38・39グリッドにかけて検出された。12号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は208×136cm、底面の規模は195×120cm、深さ13cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片3点、弥生後期の土器片8点、礫・剝片等が出土している。

121号土坑 (第61図、PL.17)

Dk-38グリッドにおいて検出された。12号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は85×74cm、底面の規模は70×61cm、深さ20cmの方形を呈する。底面は平坦である。覆土は4層に分かれた。

122号土坑 (第61図)

Dj-38グリッドにおいて検出された。12号方形周溝墓の内側に位置し、123号土坑に接している。上面の規模は124×74cm、底面の規模は116×67cm、深さ16cmの長方形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

123号土坑 (第61図)

Dj-38グリッドにおいて検出された。12号方形周

溝墓の内側に位置し、122号土坑に接している。上面の規模は98×96cm、底面の規模は87×80cm、深さ19cmの円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は4層に分かれた。

133号土坑 (第61図)

Db-32グリッドにおいて検出された。14号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は90×90cm、底面の規模は76×70cm、深さ31cmの方形を呈する。底面は平坦である。覆土は5層に分かれた。

138号土坑 (第62・73図、PL.128)

Da・Db-32グリッドにかけて検出された。14号方形周溝墓によって壊されている。現状での上面の規模は135×109cm、底面の規模は112×96cm、深さ30cmの円形を呈するものと考えられる。底面は平坦である。覆土は4層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片2点、凹石1点等が出土している。

147号土坑 (第62図)

Db・Dc-33グリッドにかけて検出された。14号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は139×112cm、底面の規模は125×92cm、深さ8cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。

157号土坑 (第62・73図、PL.128)

Ct-26グリッドにおいて検出された。158号土坑に接している。上面の規模は106×89cm、底面の規模は79×71cm、深さ65cmの円形を呈する。底面は平坦である。覆土は6層に分かれた。覆土からは前期中葉の土器片1点、中期前半の土器片4点、剝片1点等が出土している。

160号土坑 (第62図)

Cr・Cs-30グリッドにかけて検出された。15号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は111×91cm、底面の規模は88×73cm、深さ12cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。

161号土坑 (第62図)

Cr-30グリッドにおいて検出された。15号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は89×86cm、底面の規模は77×73cm、深さ10cmの方形を呈する。底面は平坦である。

162号土坑 (第62図)

Cr-30・31グリッドにかけて検出された。15号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は90×90cm、底面の規模は76×70cm、深さ6cmの円形を呈する。底面は平坦である。

163号土坑 (第62図)

Cr-31グリッドにおいて検出された。15号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は75×71cm、底面の規模は58×54cm、深さ18cmのほぼ円形を呈する。底面は平坦である。

164号土坑 (第62図)

Cs-30グリッドにおいて検出された。15号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は62×60cm、底面の規模は56×53cm、深さ21cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。

165号土坑 (第62図)

Co-31グリッドにおいて検出された。8号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は80×74cm、底面の規模は62×54cm、深さ18cmの方形を呈する。底面は平坦である。覆土は2層に分かれた。

166号土坑 (第63図)

Cn-31グリッドにおいて検出された。8号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は100×73cm、底面の規模は86×40cm、深さ19cmの長方形を呈する。底面は平坦である。覆土は2層に分かれた。

167号土坑 (第63図)

Cn-30・31グリッドにかけて検出された。8号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は100×74cm、底面の規模は90×60cm、深さ25cmの不整形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は2層に分かれた。

169号土坑 (第63図、PL.17)

Cm-30グリッドにおいて検出された。8号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は135×76cm、底面の規模は112×54cm、深さ33cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。

170号土坑 (第63・73図、PL.17・128)

Dc-36グリッドにおいて検出された。3号墳周堀の内側に位置している。171号土坑と接している。上

面の規模は112×105cm、底面の規模は90×86cm、深さ30cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は4層に分かれた。土坑上面には配石が施され、覆土からは中期前半の土器片13点、弥生後期の土器片11点等が出土している。

171号土坑 (第63・73図、PL.17・128)

Dc-36グリッドにおいて検出された。3号墳周堀の内側に位置している。170号土坑と接している。上面の規模は123×116cm、底面の規模は104×96cm、深さ18cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は4層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片6点が出土している。

177号土坑 (第63図、PL.17)

Cq-33グリッドにおいて検出された。2号墳の墳丘下から検出された。178号土坑に近接している。上面の規模は120×77cm、底面の規模は80×50cm、深さ25cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。土坑上面には配石が施されている。覆土からは中期前半の土器片6点が出土している。

178号土坑 (第63図、PL.17)

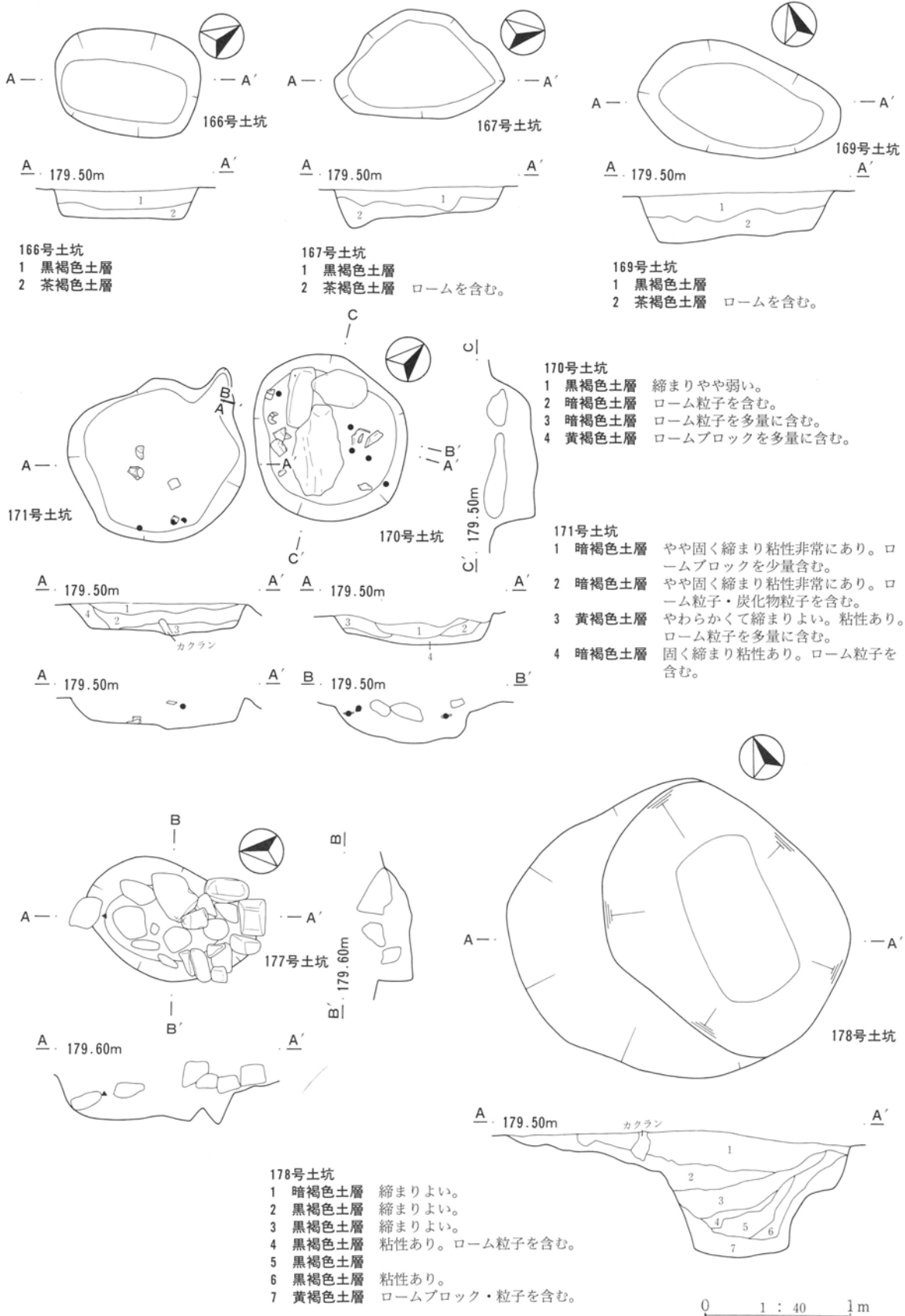
Cp・Cq-33グリッドにかけて検出された。2号墳周堀の内側から検出された。177号土坑に近接している。上面の規模は214×202cm、底面の規模は115×59cm、深さ85cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は7層に分かれた。

179号土坑 (第64・73図、PL.17・128)

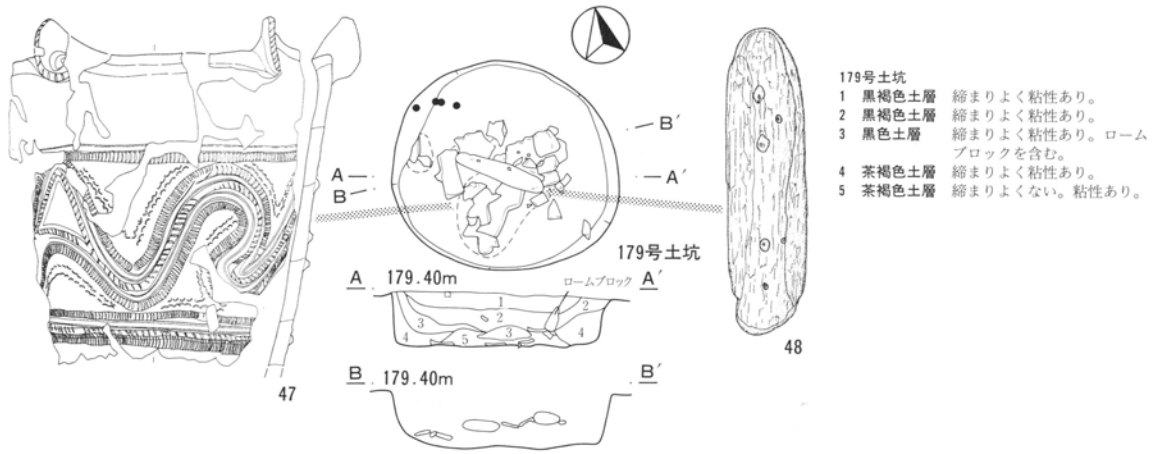
Da-36グリッドにおいて検出された。3号墳周堀の内側から検出された。上面の規模は121×112cm、底面の規模は107×106cm、深さ29cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は5層に分かれた。覆土中層から底面にかけて中期前半の大型土器片と多孔石1点、さらに中期前半の土器片11点、弥生後期の土器片4点が出土している。

181号土坑 (第64図)

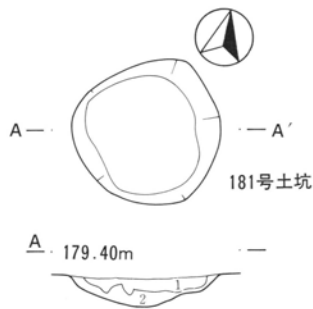
Db-37グリッドにおいて検出された。3号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は76×75cm、底面の規模は62×56cm、深さ15cmのほぼ円形を呈する。底面は皿状を呈する。覆土は2層に分かれた。



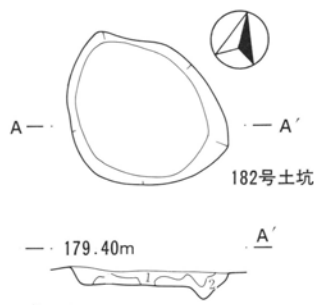
第63図 縄文土坑(166・167・169～171・177・178号)



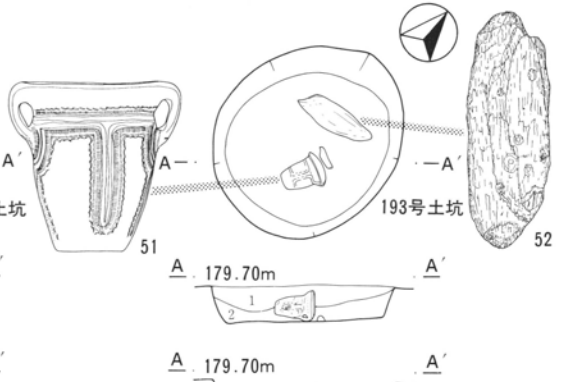
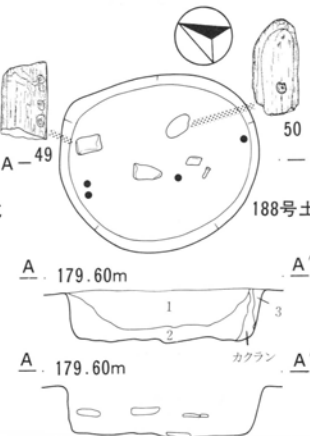
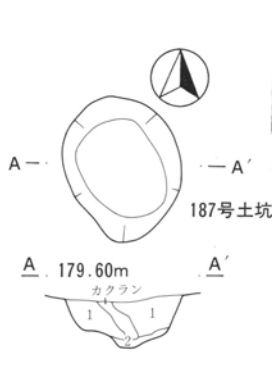
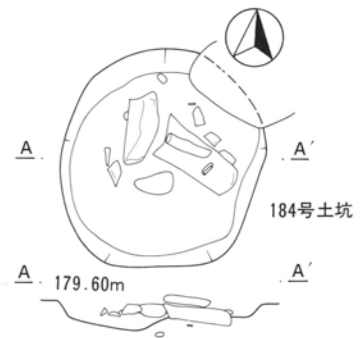
- 179号土坑
 1 黒褐色土層 締まりよく粘性あり。
 2 黒褐色土層 締まりよく粘性あり。
 3 黒色土層 締まりよく粘性あり。ロームブロックを含む。
 4 茶褐色土層 締まりよく粘性あり。
 5 茶褐色土層 締まりよくない。粘性あり。



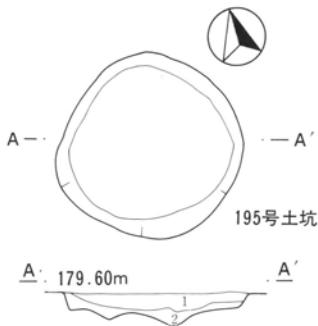
- 181号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 やわらかくて締まりよい。ローム粒子を多量に含む。



- 182号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。



- 184号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 やわらかくて粘性非常にあり。ローム粒子を多量に含む。
- 187号土坑
 1 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームを主体とする。
- 188号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 やわらかくて粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を多量に含む。
 3 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム主体の層。
- 193号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。
 2 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームを主体とする。
- 195号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を含む。
 2 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を多量に含む。



0 1 : 40 1 m

第64図 縄文土坑(179・181・182・184・187・188・193・195号)

182号土坑（第64図）

Db-37グリッドにおいて検出された。3号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は94×78cm、底面の規模は78×64cm、深さ9cmの不整形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は2層に分かれた。

184号土坑（第64・75図、PL.18）

Da-33グリッドにおいて検出された。14号方形周溝墓の東に位置している。上面の規模は119×105cm、底面の規模は100×92cm、深さ14cmのほぼ円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片と礫が出土している。

187号土坑（第64図）

Ct-33グリッドにおいて検出された。2号墳の周堀に接している。上面の規模は78×61cm、底面の規模は53×51cm、深さ25cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片が出土している。

188号土坑（第64・74図、PL.18）

Da・Db-33グリッドにかけて検出された。14号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は107×93cm、底面の規模は97×81cm、深さ25cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片と多孔石が出土している。

193号土坑（第64・74図、PL.18・128）

Df-33グリッドにおいて検出された。上面の規模は110×94cm、底面の規模は86×80cm、深さ20cmのほぼ円形を呈する。底面は平坦である。覆土は2層に分かれた。土坑底面からは完形土器1点と多孔石が出土している。

195号土坑（第64図、PL.18）

Df・Dg-34グリッドにかけて検出された。9号墳周堀の南に位置している。上面の規模は96×93cm、底面の規模は82×81cm、深さ17cmのほぼ円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は2層に分かれた。

199号土坑（第65・74図、PL.18・128）

Da-34グリッドにおいて検出された。3号墳周堀に接している。上面の規模は117×104cm、底面の規

模は105×88cm、深さ47cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は6層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片9点、弥生後期の土器片1点、剥片1点が出土している。

202号土坑（第65・74図、PL.128）

Db-32グリッドにおいて検出された。14号方形周溝墓の溝によって壊されている。上面の規模は110×99cm、底面の規模は105×84cm、深さ30cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片3点、弥生後期の土器片1点、礫1点が出土している。

203号土坑（第65図）

Co-33グリッドにおいて検出された。8号墳の周堀に接している。上面の規模は160×111cm、底面の規模は130×68cm、深さ28cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。

204号土坑（第65図）

Dg-33グリッドにおいて検出された。上面の規模は145×113cm、底面の規模は121×88cm、深さ21cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。

205号土坑（第65図、PL.18）

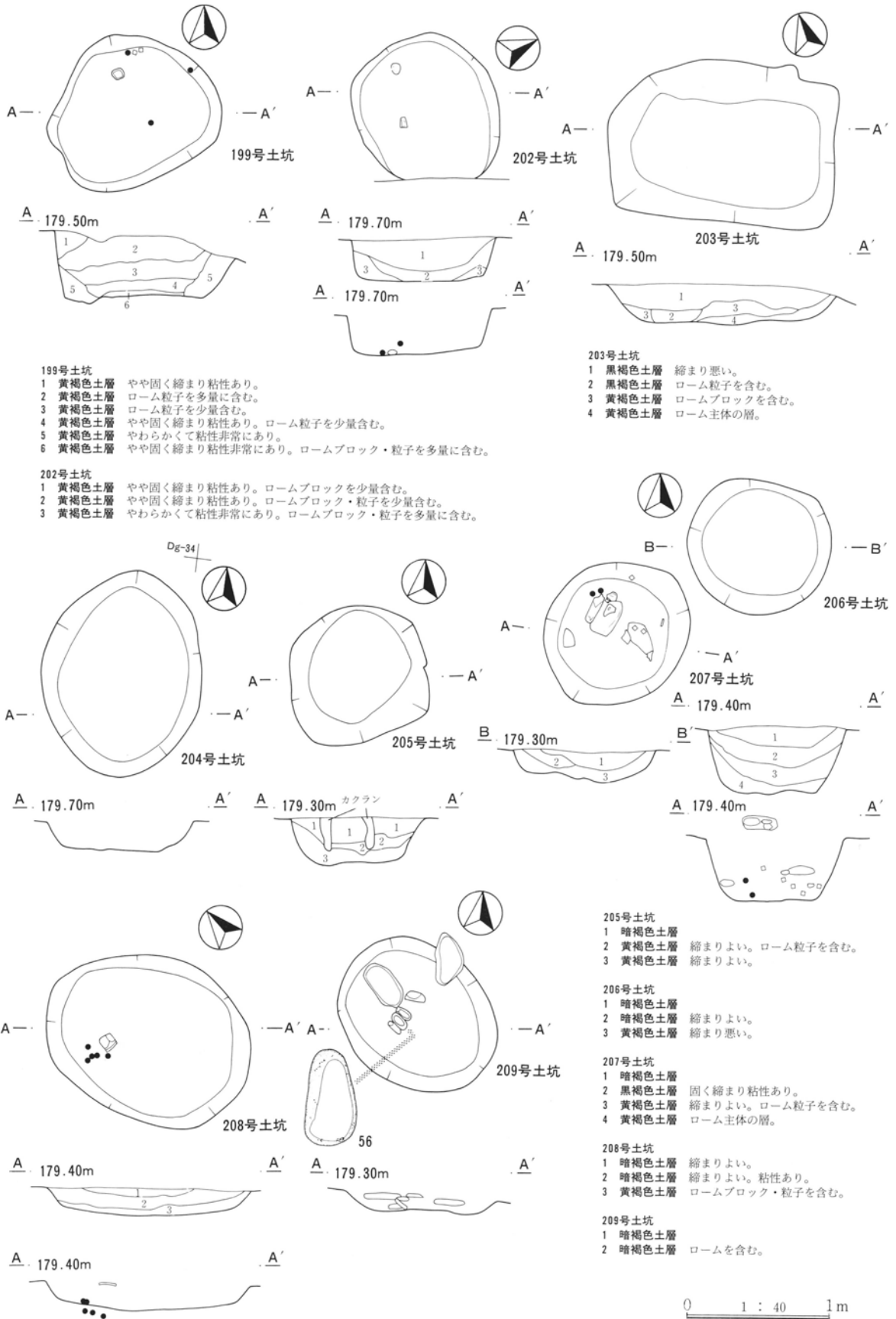
De-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は110×107cm、底面の規模は77×64cm、深さ31cmの方形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは前期後半の土器片1点、中期前半の土器片6点、弥生後期の土器片1点、剥片1点等が出土している。

206号土坑（第65図、PL.18）

De-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置し、207号土坑と接している。上面の規模は100×94cm、底面の規模は80×73cm、深さ21cmの円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

207号土坑（第65図、PL.18）

Df-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置し、206号土坑に接している。上面の規模は110×96cm、底面の規模は78×76cm、深さ48cmの



第65図 縄文土坑(199・202~209号)

円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片と礫等が出土している。礫の一部は墓標の役割を果たしていたものであろう。

208号土坑 (第65・74図、PL.18・128)

De-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は150×115cm、底面の規模は126×98cm、深さ19cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片6点が出土している。

209号土坑 (第65・74図、PL.18)

Dd・De-38グリッドにかけて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は118×98cm、底面の規模は100×75cm、深さ12cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土からは磨石と礫・剥片が出土している。

211号土坑 (第66・74図、PL.18・128)

Df-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は148×129cm、底面の規模は126×110cm、深さ35cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。覆土から底面にかけて中期前半の土器片42点、石皿等が出土している。墓壇の可能性はある。

212号土坑 (第66図、PL.18)

Dg-37グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。他の土坑によって上面の一部が壊されている。上面の規模は134×120cm、底面の規模は105×93cm、深さ25cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片2点、礫2点が出土している。

214号土坑 (第66・75図、PL.18)

Df-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は87×83cm、底面の規模は78×63cm、深さ23cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは礫が出土している。

215号土坑 (第66・74図、PL.18・128)

Df-37グリッドにおいて検出された。12号墳周堀

の内側に位置している。上面の規模は100×96cm、底面の規模は73×71cm、深さ44cmの円形を呈する。底面は平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片10点、弥生後期の土器片3点等が出土している。

218号土坑 (第66・74図、PL.19・128)

Dg-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は97×88cm、底面の規模は71×61cm、深さ28cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片14点、礫が出土している。

219号土坑 (第66・74図、PL.19・128)

De-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は103×86cm、底面の規模は80×70cm、深さ10cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土からは中期前半の土器片5点、弥生後期の土器片1点等が出土している。

222号土坑 (第66図、PL.19)

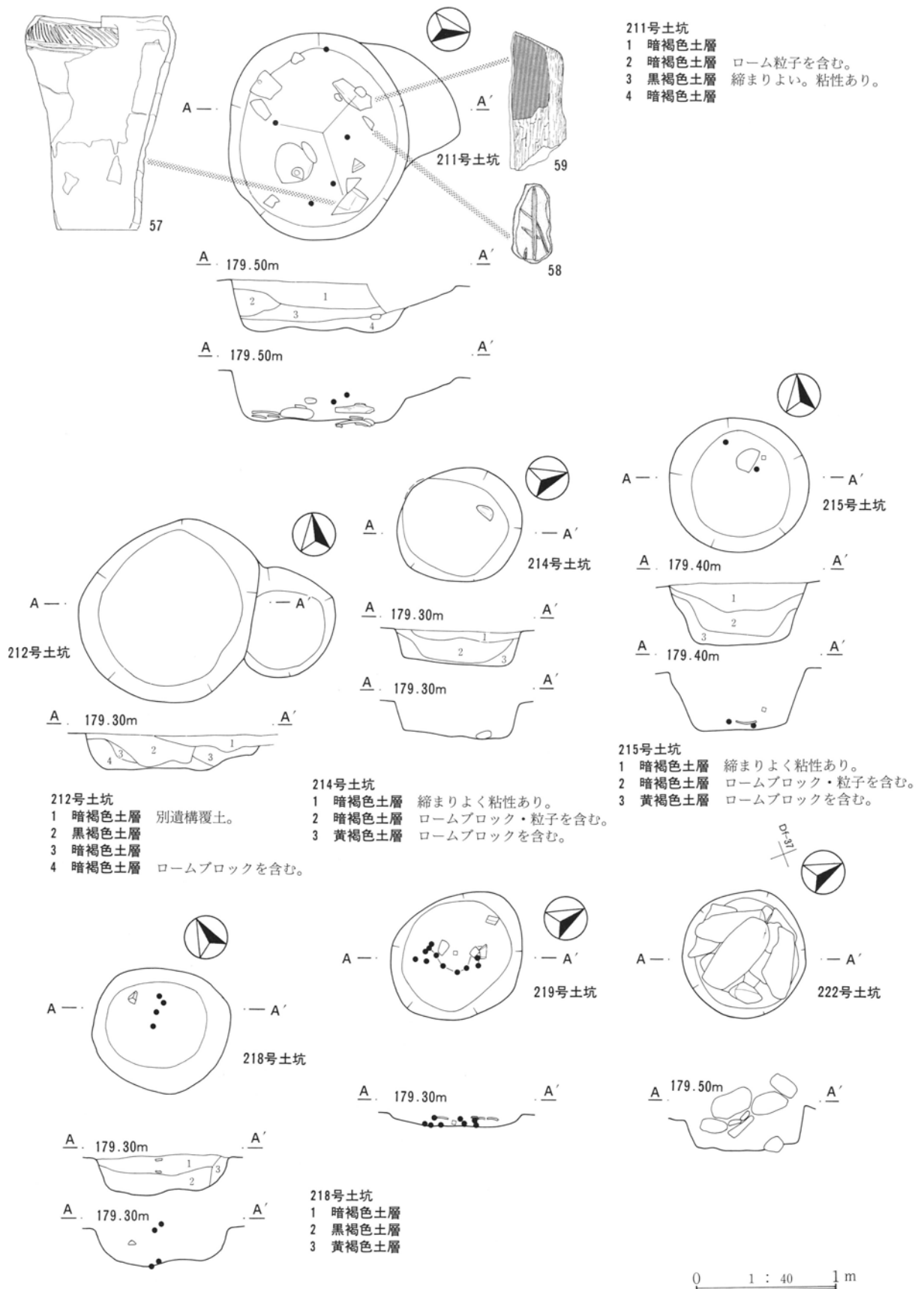
De-36グリッドにおいて検出された。12号墳の周堀内側に位置している。上面の規模は89×87cm、底面の規模は77×73cm、深さ26cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土上面からは礫が出土している。配石墓の可能性はある。

217号土坑 (第67・75図、PL.19)

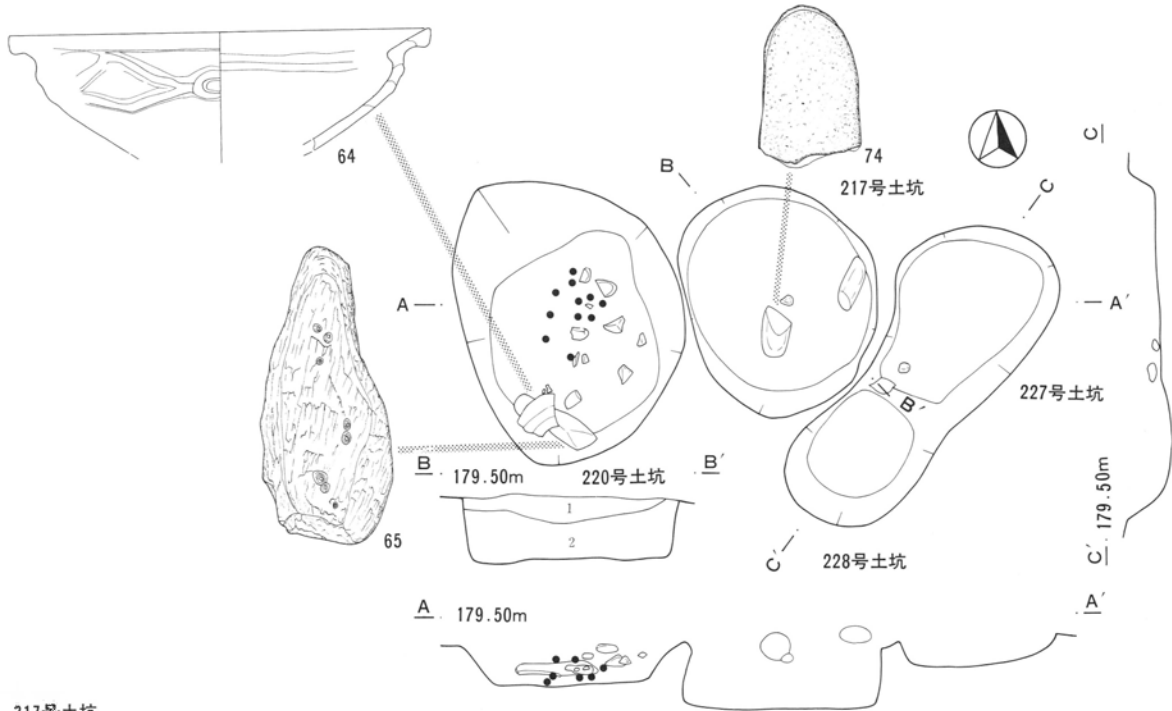
De-37グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。220・227号土坑に接している。上面の規模は121×102cm、底面の規模は103×94cm、深さ31cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土上層から礫が出土している。墓標の可能性はある。

220号土坑 (第67・75図、PL.19・128)

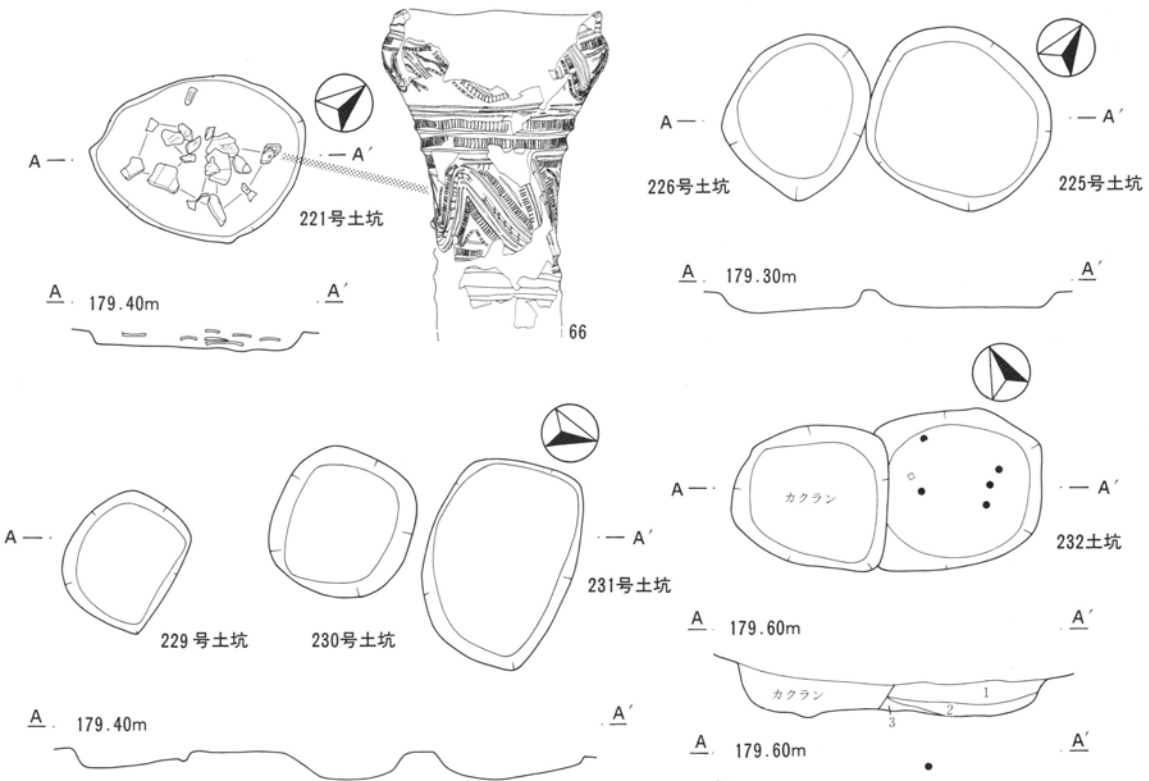
De-37グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。217号土坑に接している。上面の規模は156×118cm、底面の規模は97×88cm、深さ33cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片10点、多孔石等が出土している。墓壇の可能性はある。



第66図 縄文土坑(211・212・214・215・218・219・222号)



217号土坑
 1 暗褐色土層
 2 黒褐色土層 縮まりよく粘性あり。ローム粒子を含む。



232号土坑
 1 暗褐色土層 固く縮まり粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。
 2 暗褐色土層 やや固く縮まり粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。
 3 黄褐色土層 ローム主体の層。

0 1 : 40 1m

第67図 縄文土坑(217・220・221・225~227・229~232号)

227号土坑 (第67図、PL.19)

De-37グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。228号土坑に接している。上面の規模は110×84cm、底面の規模は94×65cm、深さ16cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。

221号土坑 (第67・75図、PL.19・128)

Dg-37グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は105×90cm、底面の規模は100×82cm、深さ10cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土からは中期前半の土器が出土している。墓墳の可能性はある。

225号土坑 (第67図、PL.19)

De・Df-38グリッドにかけて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。226号土坑に接している。上面の規模は98×90cm、底面の規模は84×78cm、深さ10cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。

226号土坑 (第67図、PL.19)

Df-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。225号土坑に接している。上面の規模は89×70cm、底面の規模は71×58cm、深さ10cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。

229号土坑 (第67図、PL.19)

Df-37グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。230号土坑に近接している。上面の規模は70×60cm、底面の規模は60×47cm、深さ12cmの方形を呈する。底面はほぼ平坦である。

230号土坑 (第67図、PL.19)

Df-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。231号土坑に接している。上面の規模は78×73cm、底面の規模は63×54cm、深さ14cmの方形を呈する。底面はほぼ平坦である。

231号土坑 (第67図、PL.19)

Df-38グリッドにおいて検出された。12号墳周堀の内側に位置している。上面の規模は110×80cm、底面の規模は100×70cm、深さ14cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。

232号土坑 (第67・75図、PL.19・128)

Da-36グリッドにおいて検出された。3号墳周堀

の内側に位置している。上面の規模は94×85cm、底面の規模は76×70cm、深さ20cmの方形を呈する。西部分を攪乱によって壊されている。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片7点等が出土している。

233号土坑 (第68・75図、PL.19・128)

Da-35グリッドにおいて検出された。3号墳の墳丘下から検出された。上面の規模は110×92cm、底面の規模は92×83cm、深さ20cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片11点、礫が出土している。墓墳の可能性はある。

234号土坑 (第68・75図、PL.19・128)

Da-35グリッドにおいて検出された。3号墳の墳丘下から検出された。上面の規模は106×94cm、底面の規模は92×87cm、深さ28cmの円形を呈する。底面は平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは中期前半の土器片13点、礫・剥片9点が出土している。

235号土坑 (第68・75図、PL.19・128)

Da・Db-34・35グリッドにかけて検出された。3号墳の墳丘下から検出された。上面の規模は119×108cm、底面の規模は108×92cm、深さ32cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。覆土からは中期前半の完形土器と17点の土器片、弥生後期の土器片2点、礫・剥片8点が出土している。墓墳の可能性はある。

236号土坑 (第68図)

Dn-29グリッドにおいて検出された。4号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は80×69cm、底面の規模は62×58cm、深さ44cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。

237号土坑 (第68図)

Dm-29グリッドにおいて検出された。4号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は119×77cm、底面の規模は88×59cm、深さ48cmの不整形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は4層に分かれた。

238号土坑 (第68図)

Dn-32グリッドにおいて検出された。5号方形周

溝墓の内側に位置している。上面の規模は88×54cm、底面の規模は84×46cm、深さ28cmの不整形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は2層に分かれた。

239号土坑（第68図）

Dn-31グリッドにおいて検出された。5号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は99×52cm、底面の規模は86×37cm、深さ28cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

240号土坑（第68図）

Dn-31・32グリッドにかけて検出された。5号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は90×59cm、底面の規模は54×28cm、深さ39cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

241号土坑（第69図）

Dn-31グリッドにおいて検出された。5号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は141×62cm、底面の規模は126×42cm、深さ25cmの長楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

242号土坑（第69図）

Dn-32グリッドにおいて検出された。5号方形周溝墓内に位置している。上面の規模は200×172cm、底面の規模は172×154cm、深さ22cmの不整形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。

243号土坑（第69図）

Di・Dj-33グリッドにかけて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は152×97cm、底面の規模は130×122cm、深さ18cmの長楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは土器片・礫が出土している。

244号土坑（第69図）

Dj-33グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は102×85cm、底面の規模は86×66cm、深さ11cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。

245号土坑（第69図）

Di-32グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置し、246号土坑によって壊されてい

る。上面の規模は84×78cm、底面の規模は65×58cm、深さ14cmの方形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。底面に礫が置かれている。

246号土坑（第69図）

Dj-32グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置し、245号土坑を壊している。上面の規模は84×81cm、底面の規模は70×62cm、深さ24cmの方形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分かれた。覆土からは土器片・礫・剝片等が出土している。

247号土坑（第69図）

Dj-32グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。248号土坑に近接している。上面の規模は100×97cm、底面の規模は82×80cm、深さ29cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは土器片・剝片等が出土している。

248号土坑（第69図）

Dj-32グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。247号土坑に近接している。上面の規模は88×78cm、底面の規模は60×55cm、深さ22cmの円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は4層に分かれた。

249号土坑（第69図）

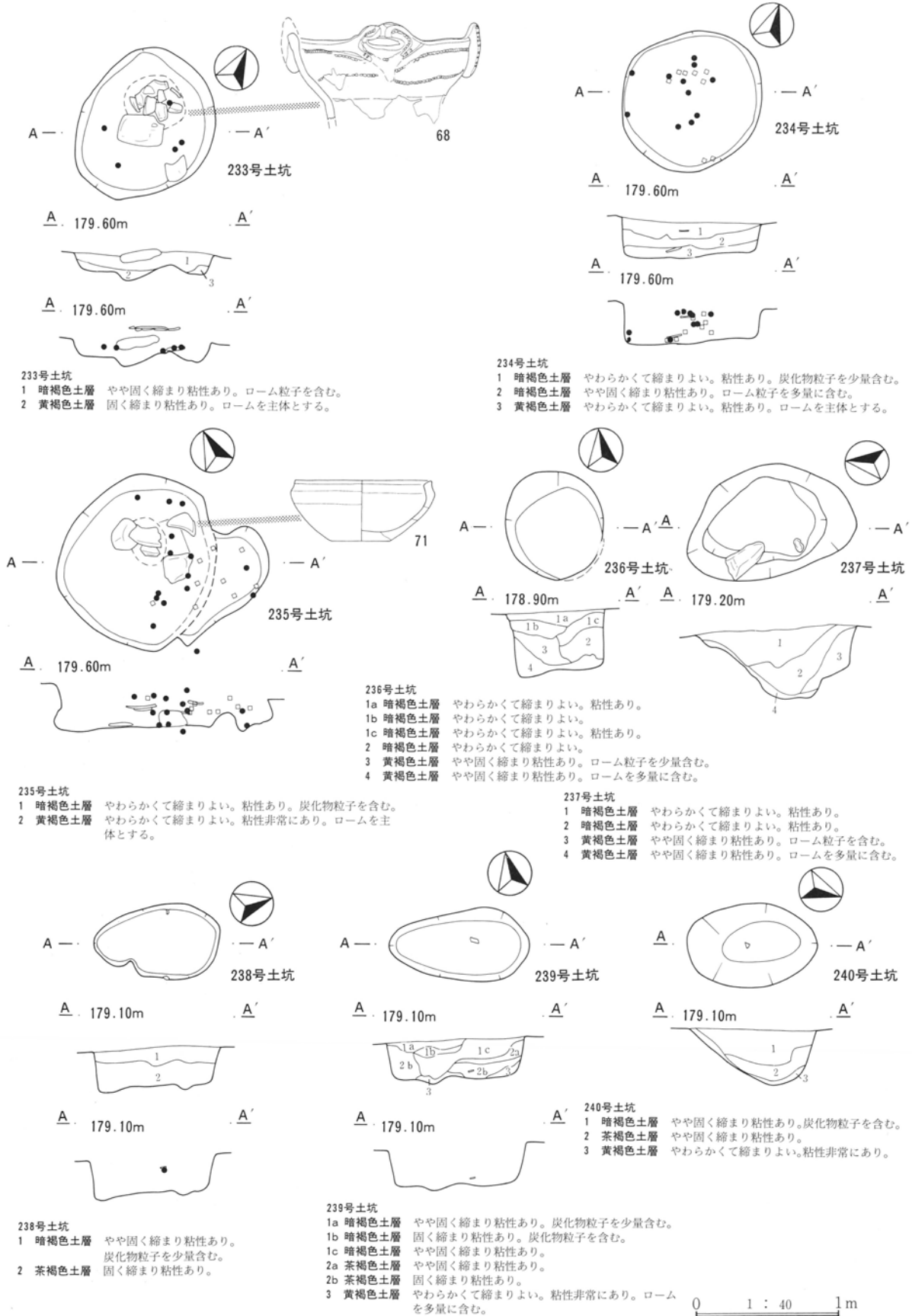
Dj-32グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は98×78cm、底面の規模は80×58cm、深さ13cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれた。

250号土坑（第69図）

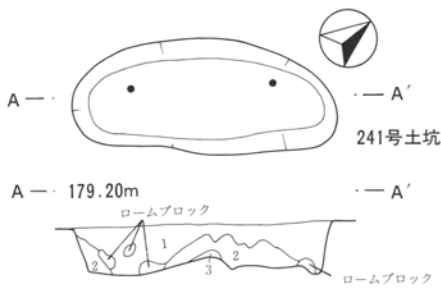
Dj-32グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は105×98cm、底面の規模は80×70cm、深さ20cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は2層に分かれた。覆土からは土器片・剝片等が出土している。

251号土坑（第70図）

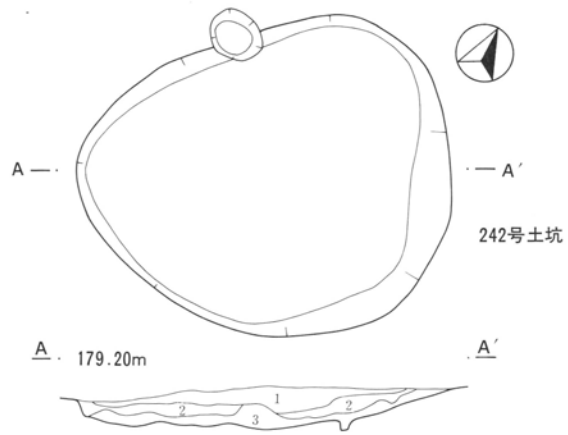
Dj-32・33グリッドにかけて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は107×104cm、底面の規模は86×86cm、深さ40cmの円形を呈



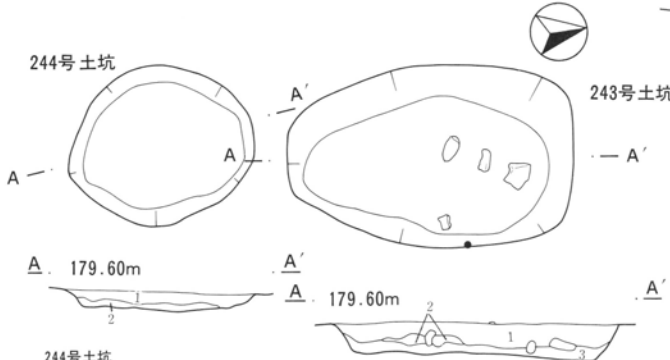
第68図 縄文土坑(233~240号)



241号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
 2 茶褐色土層 固く締まり粘性あり。
 3 黄褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。

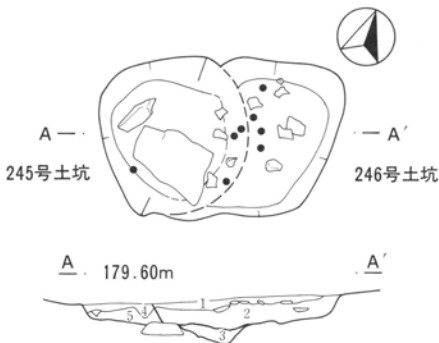


242号土坑
 1 暗褐色土層 締まりよい。粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
 2 暗褐色土層 締まりよい。粘性あり。ロームブロックを含む。
 3 茶褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ロームブロック・粒子を含む。



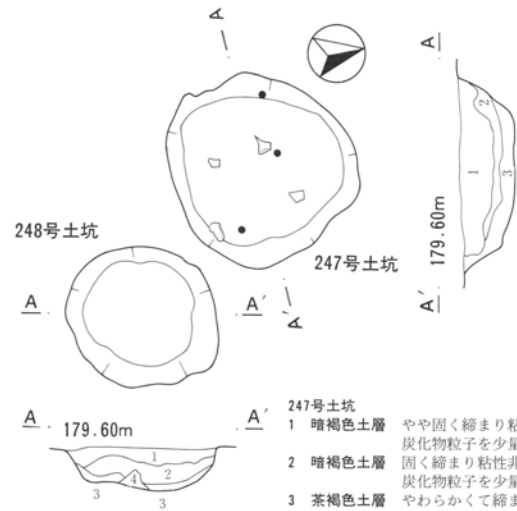
243号土坑
 1 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。炭化物粒子を少量含む。
 2 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ローム粒子を少量含む。
 3 茶褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。

244号土坑
 1 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
 2 茶褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。

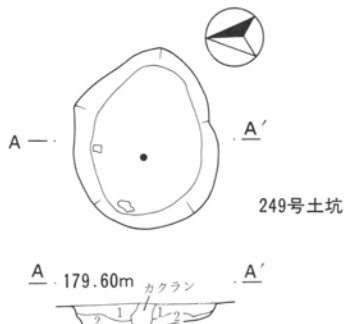


245号土坑
 1 暗褐色土層 締まりよい。粘性非常にあり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。
 2 暗褐色土層 締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロックを含む。
 3 茶褐色土層 締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。

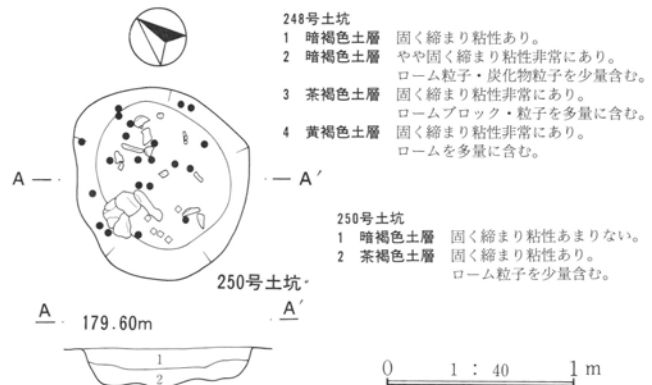
246号土坑
 4 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。
 5 黄褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。



247号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
 2 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。炭化物粒子を少量含む。
 3 茶褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。



249号土坑
 1 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。
 2 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。



250号土坑
 1 暗褐色土層 固く締まり粘性あまりない。
 2 茶褐色土層 固く締まり粘性あり。ローム粒子を少量含む。

0 1 : 40 1 m

第69図 縄文土坑(241~250号)※246号は弥生

する。底面はやや凹凸がある。覆土は4層に分かれた。覆土からは土器片・剥片等が出土している。

252号土坑 (第70図)

Dj-33グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。253号土坑と接している。上面の規模は106×78cm、底面の規模は90×67cm、深さ11cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。

253号土坑 (第70図)

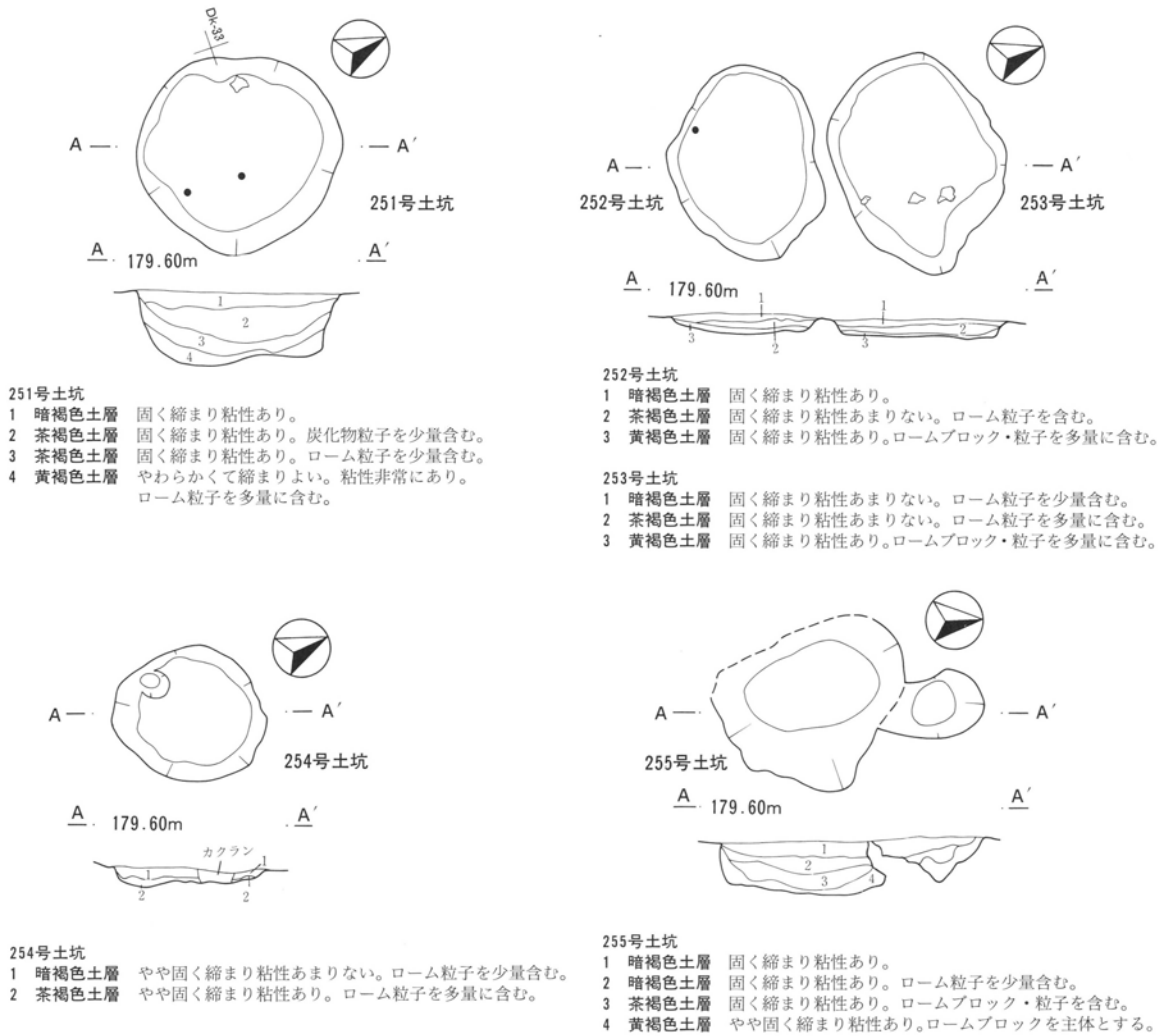
Dj-33グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。252号土坑と接している。上面の規模は110×87cm、底面の規模は80×72cm、深さ9cmの方形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。

254号土坑 (第70図)

Dj-33グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の内側に位置している。上面の規模は80×72cm、底面の規模は60×54cm、深さ11cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は2層に分かれた。

255号土坑 (第70図)

Dk-32グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓の溝によって壊されている。上面の規模は102×80cm、底面の規模は70×44cm、深さ30cmの楕円形を呈すると考えられる。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。

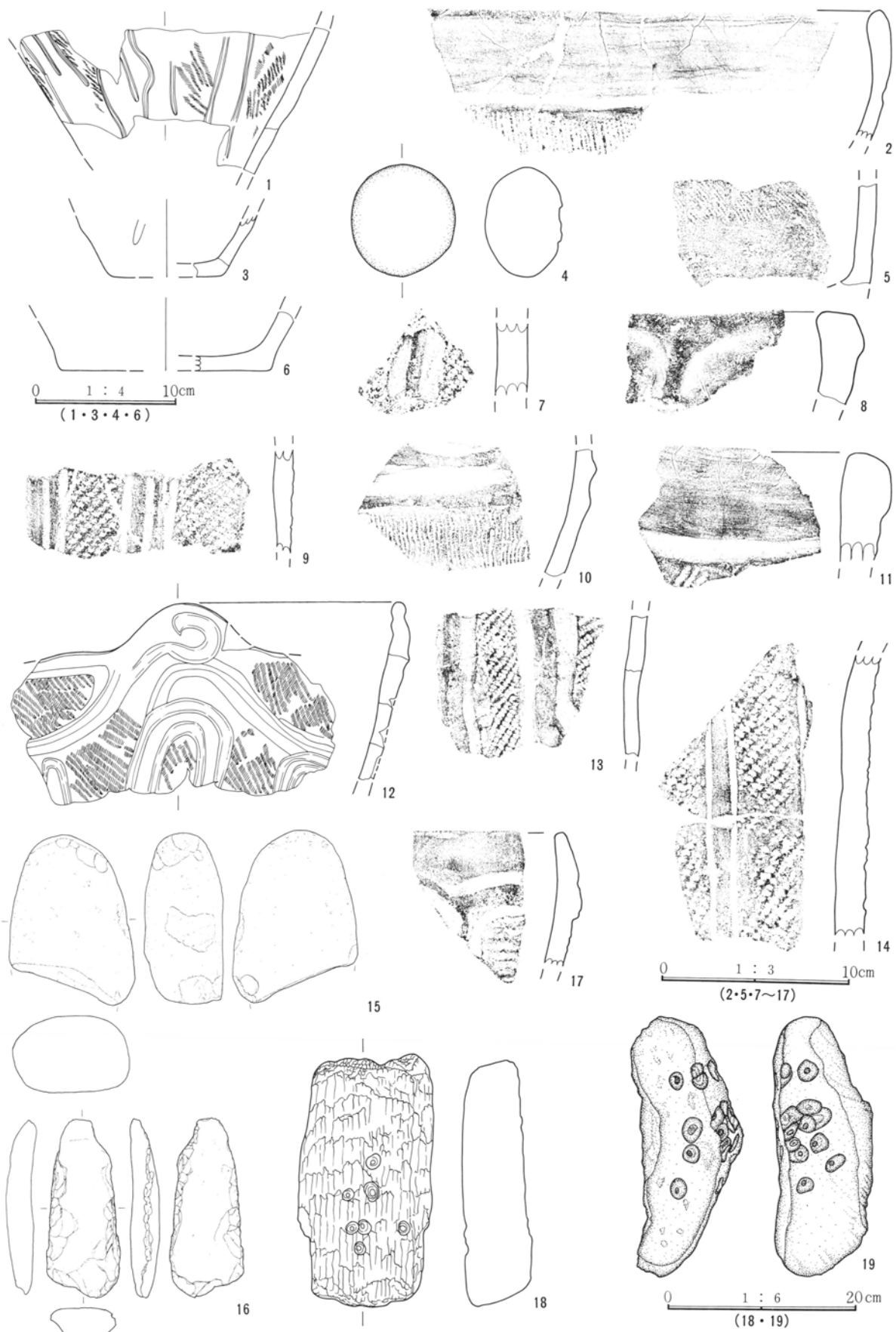


0 1 : 40 1m

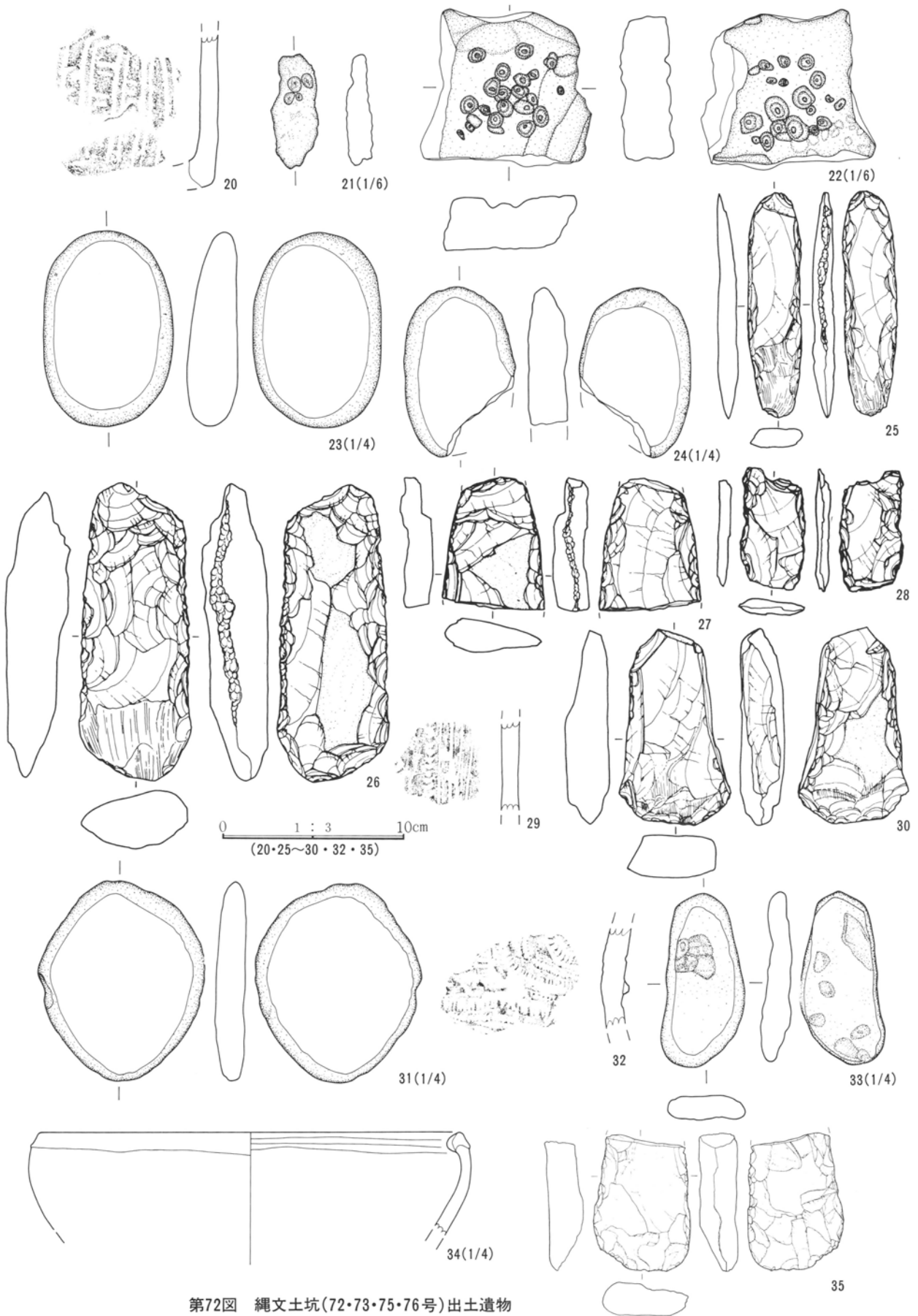
第70図 縄文土坑(251~255号)

縄文土坑出土遺物観察表

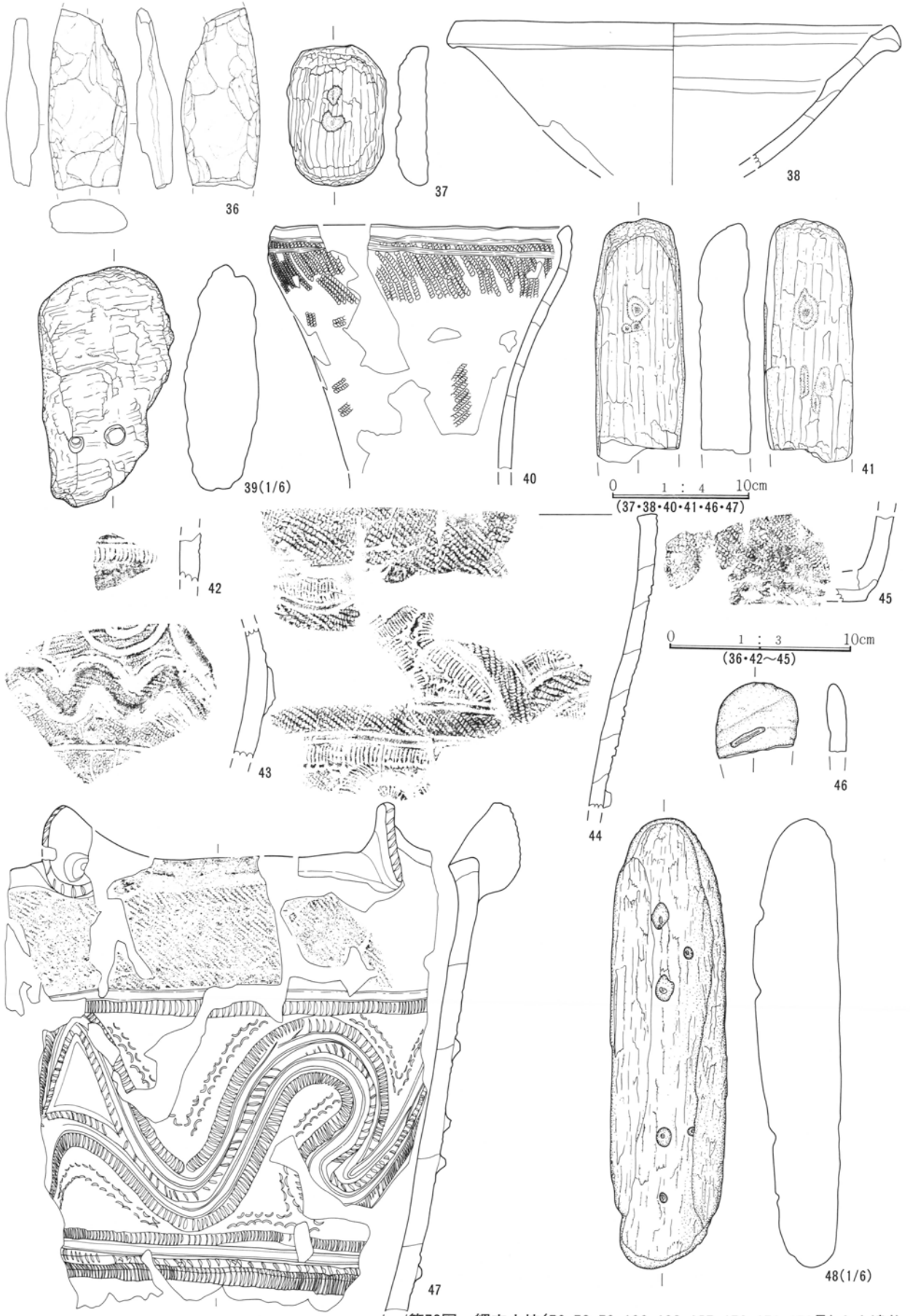
図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
71-1 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部片。器厚11mm。 内面は横ミガキ。外面の色調は暗赤褐色。	縄文施文。原体はL ₁ 。沈線を垂下。 内面に炭化物が付着している。	18号土坑
71-2 128	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の内湾する口縁部片。器厚10~13 mm。内面は横調整。外面の色調は褐灰色。	横位の沈線。 縦位の条線。	18号土坑
71-3 128	底部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。底径8cm。 内面は丁寧な調整。外面の色調はにぶい橙色。	底面は磨耗している。	19号土坑
71-5 128	胴下半 部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部片。器厚10mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は明赤褐色。	縄文施文。原体はR ₁ 。横転がし。	24号土坑
71-6 128	底部片	①中粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の底部片。底径14.6cm。 内面はやや丁寧な調整。外面の色調は赤褐色。	底面は磨耗している。	27号土坑
71-7 128	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚13mm。 内面は荒れている。外面の色調はにぶい橙色。	縄文施文。原体はR ₁ 。縦転がし。 隆帯を垂下。	30号土坑
71-8 128	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の口縁部片。器厚14~17mm。 内面は横調整。外面の色調はにぶい黄褐色。	口縁部に隆帯による楕円区画。	31号土坑
71-9 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚8~10mm。内面は 丁寧な調整。外面の色調はにぶい黄褐色。	縄文施文。原体はR ₁ ^{LR} _{LR} 。 沈線を垂下。	39号土坑

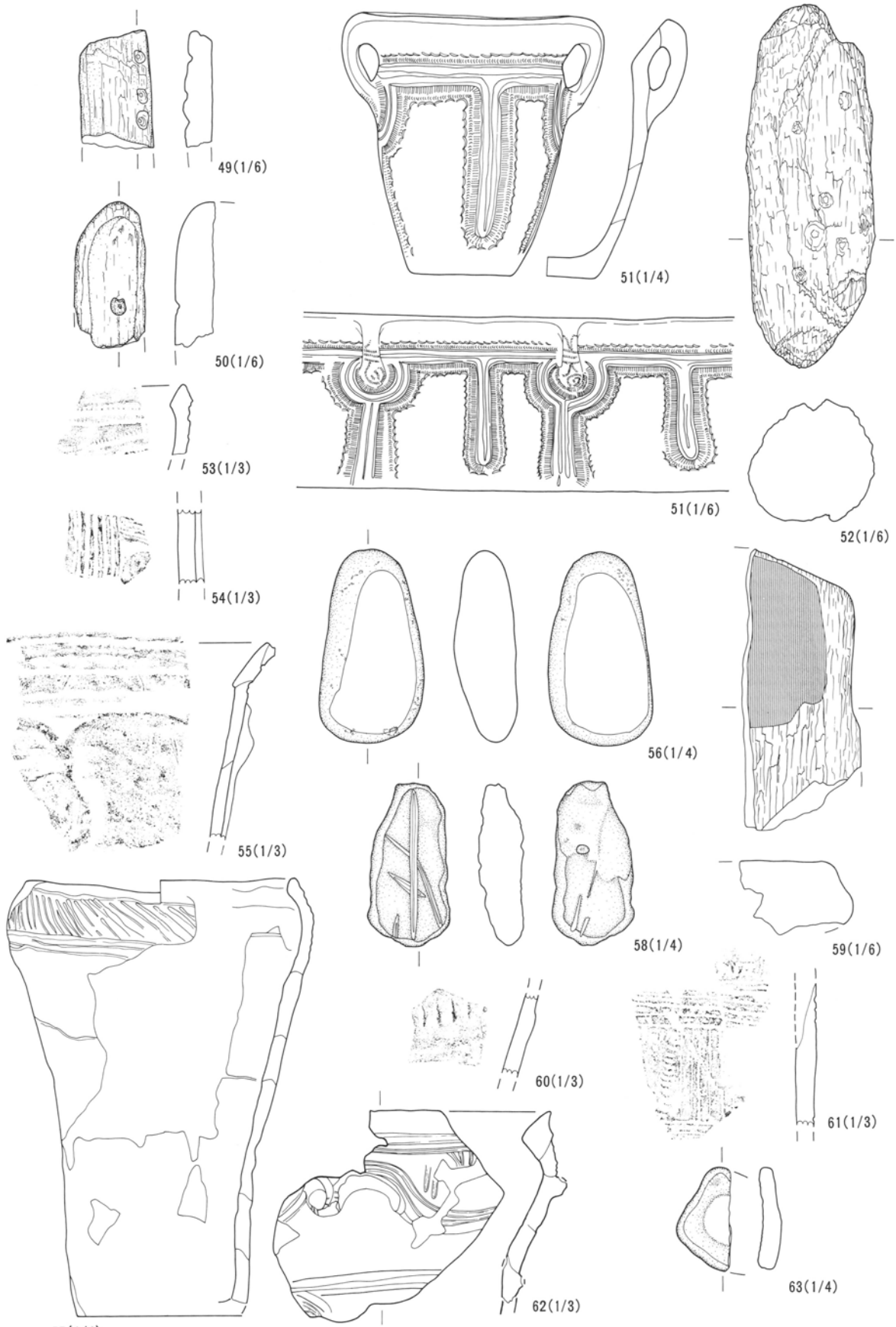


第71図 縄文土坑(18・19・24・27・30・31・39・43・45・51~53・67号)出土遺物

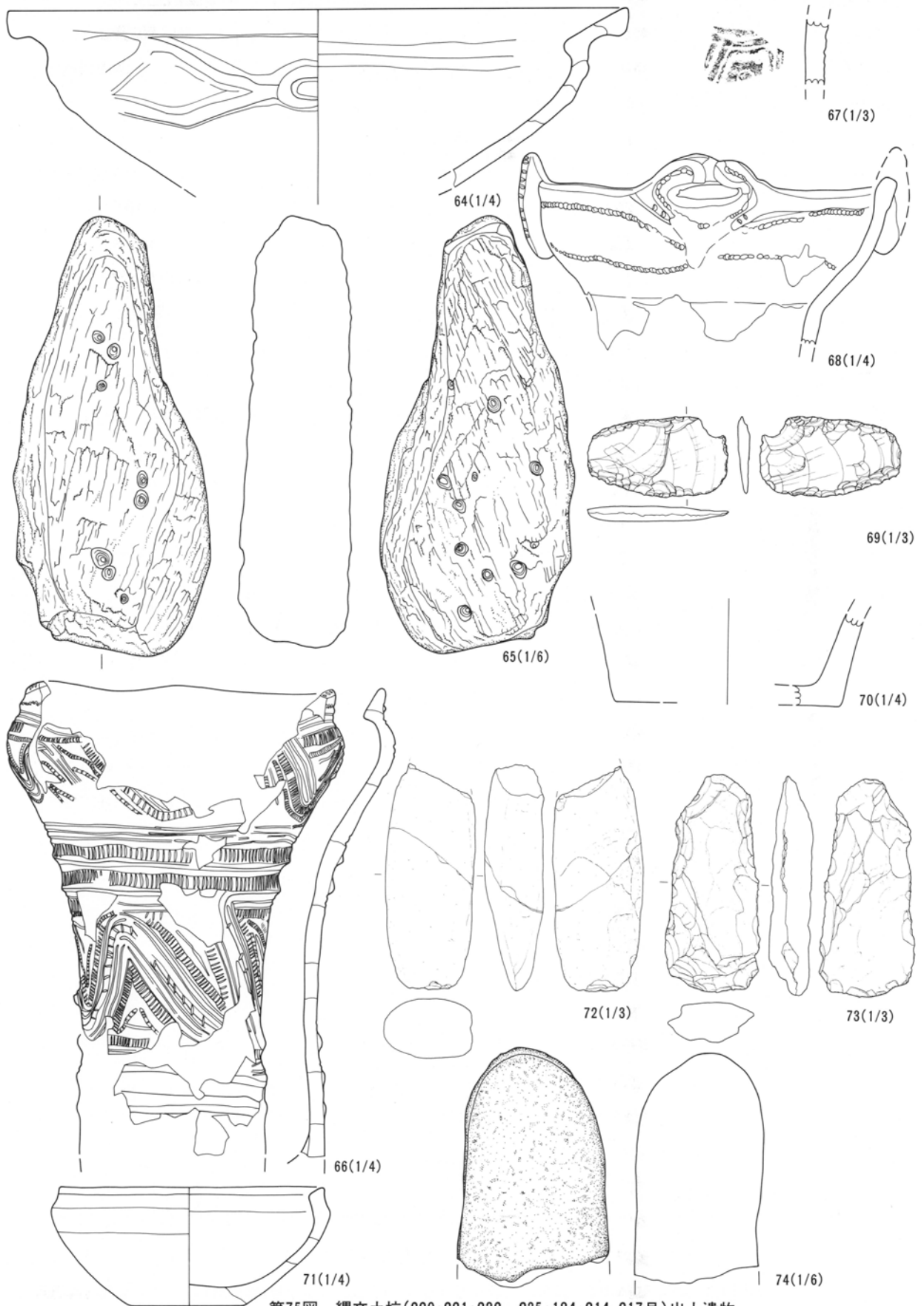


第72図 縄文土坑(72・73・75・76号)出土遺物





第74図 縄文土坑(188・193・199・202・208・209・211・215・218・219号)出土遺物



第75図 縄文土坑(220・221・232~235・184・214・217号)出土遺物

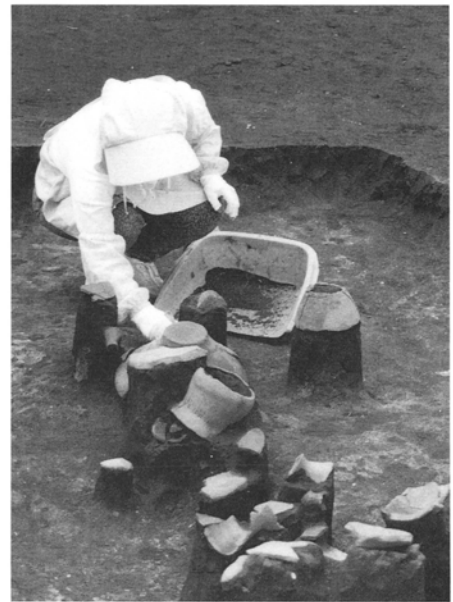
縄文土坑出土遺物観察表

図番 PL	部位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文 様 (その他)	出土状況
71-10 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9mm。 内面は横ミガキ。外面の色調はにぶい黄褐色。	胴部に縦位の条線が施されている。	43号土坑
71-11 128	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚19~26mm。 内面は横調整。外面の色調は明赤褐色。	太い沈線による楕円区画。 縄文施文。原体はL{横転がし。	45号土坑
71-12 128	口縁部 片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12mm。 内面は横ミガキ。外面の色調は暗赤褐色。	口縁部に突起。隆帯と沈線による区画。 縄文施文。原体はR{。	51号土坑
71-13 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9mm。 内面は横調整。外面の色調は暗褐色。	縄文施文。原体はR{縦転がし。 沈線を垂下。	51号土坑
71-14 128	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚13mm。 内面は横調整。外面の色調は黒褐色。	縄文施文。原体はR{縦転がし。 沈線を垂下。	52号土坑
71-17 128	口縁部 片	①雲母片を含む ②やや良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9~11mm。 内面は横調整。外面の色調は黒褐色。	隆帯による区画。 縄文施文。原体はR{。	53号土坑
72-20 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚9mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は明赤褐色。	半截竹管による縦位。横位の区画。	72号土坑
72-29 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10mm。 内面は横ミガキ。外面の色調はにぶい赤褐色。	半截竹管による縦位の沈線。 刺突が施されている。	73号土坑
72-32 128	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11mm。 内面は荒れている。外面の色調は暗赤褐色。	隆帯を巡らせ、幅広の竹管文。ペン先状 の刺突が施されている。	75号土坑
72-34 128	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	浅鉢形土器の口縁部片。器厚8~12mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は灰褐色。	無文。	76号土坑
73-38 128	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	浅鉢形土器の口縁部片。器厚10~17mm。 内面はミガキ。外面の色調は赤褐色。	無文。	78号土坑
73-40 128	口縁~ 胴部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴下半部欠損。器厚8~10mm。 内面は横調整。外面の色調は暗赤褐色。	縄文施文。原体はR{横・縦転がし。口 縁部に横位の沈線2条が施されている。	106号 土坑
73-42 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚10mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は赤褐色。	幅広の刺突が施されている。	138号 土坑
73-43 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚12mm。 内面は横ミガキ。外面の色調はにぶい褐色。	縄文施文。原体はR{縦・横転がし。 隆帯と沈線を施している。	157号 土坑
73-44 128	口縁~ 胴部	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁~胴上半部。器厚10mm。 内面は横ミガキ。外面の色調は暗赤褐色。	縄文施文。原体はR{。半截竹管による 区画。幅広の刺突が施されている。	170号 土坑
73-45 128	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。器厚10~12mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は赤褐色。	縄文施文。原体はR{横転がし。 外面に煤が付着している。	171号 土坑
73-47 128	口縁~ 胴下半	①片岩粒を多量に含む ②良	深鉢形土器の大形破片。器厚15mm。 内面は横ミガキ。内外面の色調は暗赤褐色。	口縁部突起。縄文原体はR{横位。胴部 は隆帯による区画。半截竹管の沈線。刺突。 内面炭化物	179号土坑 内面炭化物
74-51 128	完 形	①細粒の砂を混入 ②良	小形土器の完形品。器高18cm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は暗赤褐色。	口縁部に把手。胴部は棒状工具による沈 線区画。幅広の竹管。半截竹管による刺突。	193号土坑 内面炭化物
74-53 128	口縁部 片	①雲母片を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚7~13mm。 内面は横ミガキ。外面の色調は明赤褐色。	ペン先状の刺突が施されている。	199号 土坑
74-54 128	胴部片	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚11mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は暗赤褐色。	隆帯と半截竹管による縦位・横位の沈線 が施されている。	202号 土坑
74-55 128	口縁部 片	①金雲母を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚6~9mm。内面 は丁寧な調整。外面の色調はにぶい赤褐色。	口唇部に刺突、口縁部に結節沈線。 隆帯。	208号 土坑
74-57 128	口縁~ 胴下半	①中粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁の一部と底部欠損。現高30 cm。内面は丁寧な調整。外面色調は明赤褐色。	口縁部に棒状、半截竹管による区画。 区画内は斜位の沈線、胴部は無文。	211号 土坑
74-60 128	胴部片	①金雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は黒色。	幅広の刻みが施されている。	215号 土坑
74-61 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9~11mm。内面は 縦方向のミガキ。外面の色調は明赤褐色。	半截竹管による横位・縦位の区画。 刺突が施されている。	218号 土坑
74-62 128	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚12mm。 内面横ミガキ。外面の色調は暗赤褐色。	隆帯による区画。棒状工具による沈線が 施されている。	219号 土坑
75-64 128	口縁部 片	①細粒の砂を混入 ②良	浅鉢形土器の口縁部1/4。器厚10~18mm。 内面は横ミガキ。外面の色調は暗赤色。	隆帯による文様。 外面に赤色塗彩の痕跡がある。	220号 土坑
75-66 128	口縁~ 胴下半	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の波状口縁と胴下半の一部欠損。 現高34cm。内面は横ミガキ。外面は暗赤褐色。	隆帯による区画。半截竹管による平行沈線、 刺突。幅広の竹管による刺突、ペン先状刺突。	221号 土坑
75-67 128	胴部片	①細粒の砂を混入 ②やや良	深鉢形土器の胴部片。器厚10~12mm。 内面は丁寧な調整。外面の色調は明赤褐色。	半截竹管による縦位・横位の施文。円形 竹管。刺突が施されている。	232号 土坑

縄文土坑出土遺物観察表

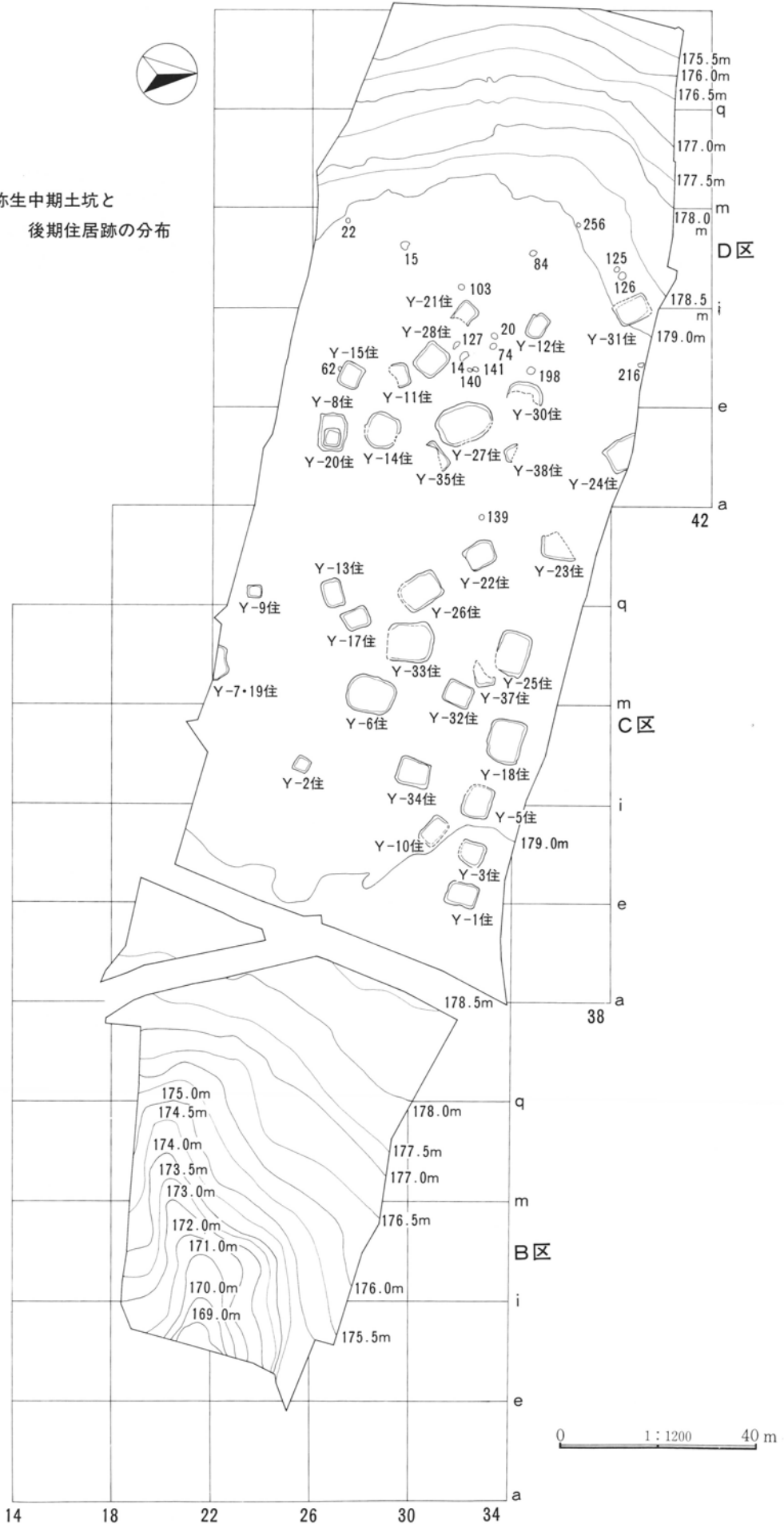
図番 PL	部位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調				文 様 (その他)		出土状況
75-68 128	口縁～ 胴上半	①雲母を含む ②良	深鉢形土器の胴上半部。内面はやや丁寧な調整。内外面の色調はにぶい赤褐色。				口縁部に4個の突起。竹管による刺突が施されている。		233号 土坑
75-70 128	底部片	①細粒の砂を混入 ②良	深鉢形土器の底部片。内面はやや丁寧な調整。内外面の色調はにぶい赤褐色。				底面は磨耗している。		234号 土坑
75-71 128	口縁～ 底部	①細粒の砂を混入 ②良	浅鉢形土器。口縁部を一部欠損している。内面は丁寧な調整。外面の色調は灰褐色。				無文。 底面は磨耗している。		235号 土坑
図番 PL	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm、g)				特 徴	出土状況
71-4・128	敲 石	完 形	安 山 岩	7.9	7.4	5.4	355	片面に敲打痕が認められる。	19土坑
71-15・128	磨製石斧	基 部	輝 岩	8.9	6.5	4.1	389.4		52土坑
71-16・128	打製石斧	完 形	熱 変 成 岩	9.3	3.9	1.5	58.1	撥型。	53土坑
71-18	多 孔 石	完 形	絹雲母石墨片岩	25.7	14.0	7.0	5,104	片面に7個の凹み穴が認められる。	53土坑
71-19	多 孔 石	1/2	砂 岩	27.0	(10.7)	9.5	(2,837)	2面に計16個の凹み穴が認められる。	67土坑
72-21	多 孔 石	部 分	砂 岩	(4.9)	(12.5)	(2.7)	(178)	4個の凹み穴が認められる。一部赤化している。	72土坑
72-22・128	多 孔 石	完 形	砂 岩	16.2	18.0	5.6	2,129	両面に計31個の凹み穴。部分的に焼けている。	72土坑
72-23・128	磨 石	完 形	安 山 岩	14.2	9.5	3.7	679	両面に磨耗痕が認められる。	72土坑
72-24・128	磨 石	3/4	砂 岩	(12.1)	8.2	2.8	(306)	両面に磨耗痕が認められる。	72土坑
72-25・128	打製石斧	完 形	輝 岩	12.1	3.0	1.2	55.8	短冊型。	72土坑
72-26・128	打製石斧	完 形	安 山 岩	15.9	6.0	3.4	355.9	短冊型。	72土坑
72-27・128	打製石斧	刃部欠損	粘 板 岩	(7.1)	5.5	1.8	(76.5)	短冊型。	72土坑
72-28・128	スクレイパー	完 形	紅 簾 片 岩	6.6	3.5	0.8	19.6		72土坑
72-30・128	打製石斧	完 形	熱 変 成 岩	10.5	6.0	2.4	169.4	撥型。	73土坑
72-31・128	磨 石	完 形	砂 岩	14.4	12.2	2.1	461	両面に磨耗痕が認められる。	73土坑
72-33・128	凹 石	完 形	砂 岩	12.3	5.7	2.2	168	両面に不明瞭な凹みが認められる。	75土坑
72-35・128	打製石斧	基部欠損	熱 変 成 岩	(7.4)	5.2	2.1	(85.5)	撥型。	76土坑
73-36・128	打製石斧	基・刃部欠損	熱 変 成 岩	(9.7)	4.2	1.9	(82.1)	短冊型。	76土坑
73-37・128	凹 石	2/3	絹雲母石墨片岩	10.2	7.1	(2.3)	(266)	片面に2個の浅い凹みが認められる。	76土坑
73-39	多 孔 石	完 形	紅簾絹雲母片岩	24.1	14.0	8.0	3,814	片面に2個の浅い凹み穴が認められる。	79土坑
73-41・128	凹 石	3/4	点紋緑泥片岩	(17.5)	6.4	3.5	(766)	両面に計2個の凹み。部分的に焼けている。	138土坑
73-46・128	砥 石	1/2	砂 岩	(5.0)	5.8	1.4	(55)	片面に太い条痕が認められる。	171土坑
73-48・128	多 孔 石	完 形	点紋緑泥片岩	49.0	12.5	9.2	8,914	片面に6個の凹み穴。部分的に焼けている。	179土坑
74-49	多 孔 石	部 分	点紋緑泥片岩	(12.4)	7.5	(3.0)	(661)	片面に3個の凹み穴が直線的に施されている。	188土坑
74-50	多 孔 石	部 分	点紋緑泥片岩	(15.1)	7.4	(4.0)	(797)	片面に1個の凹み穴が認められる。一部赤化。	188土坑
74-52・128	多 孔 石	3/4	絹雲母石墨片岩	(37.7)	13.0	12.0	(8,263)	片面に9個の凹み穴。部分的に焼けている。	193土坑
74-56	磨 石	完 形	安 山 岩	13.5	7.3	4.3	592	両面に磨耗痕が認められる。	209土坑
74-58・128	砥 石	完 形	砂 岩	11.4	5.8	3.1	204	両面に太い条痕が認められる。	211土坑
74-59・128	石 皿	1/3	緑 泥 片 岩	(29.3)	(11.4)	7.6	(4,659)	片面に浅い磨面が認められる。	211土坑
74-63・128	凹 石	1/2	砂 岩	(3.7)	(7.2)	1.3	(37)	片面に浅い凹みが認められる。	219土坑
75-65	多 孔 石	完 形	点紋緑泥片岩	46.5	18.7	11.3	17,300	両面に計18個の凹み穴が認められる。	220土坑
75-69・128	石 匙	ほぼ完形	熱 変 成 岩	4.3	7.4	0.6	25		234土坑
75-72・128	磨製石斧	基部欠損	輝 岩	(11.9)	4.8	3.1	(295.4)		184土坑
75-73・128	打製石斧	完 形	粘 板 岩	11.5	5.0	2.2	142	短冊型。	214土坑
75-74	台 石	1/2	安 山 岩	(25.7)	15.5	13.5	(9,380)	墓標として使用されたものか。焼けている。	217土坑

3章 弥生時代の 遺構と遺物



Y-2号住居跡の調査

第76図 弥生中期土坑と
後期住居跡の分布



〔1〕

竪穴住居跡

Y-1号住居跡（第77～81図、PL.20・21・129）

位置 Cd-31・32、Ce-31・32グリッドにかけて検出された。Y-3号住居跡の東約3mの所に位置している。

重複 なし。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長辺6.2m、短辺4.5mの長方形を呈する。

方位 N-14°-E。

壁高 住居跡確認面より約26～50cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約21.5㎡である。

周溝 検出できなかった。

柱穴 総計7個のピットが検出された。このうちP1～P4は支柱穴になる。P1の深さ38cm、P2深

さ39cm、P3深さ42cm、P4深さ58cmである。P5～P7は出入り口部施設になり、P5深さ60cm、P6深さ51cmで、その間隔は50cmを測る。いずれも壁よりに傾いている。P7は壁に接して深さ38cmである。

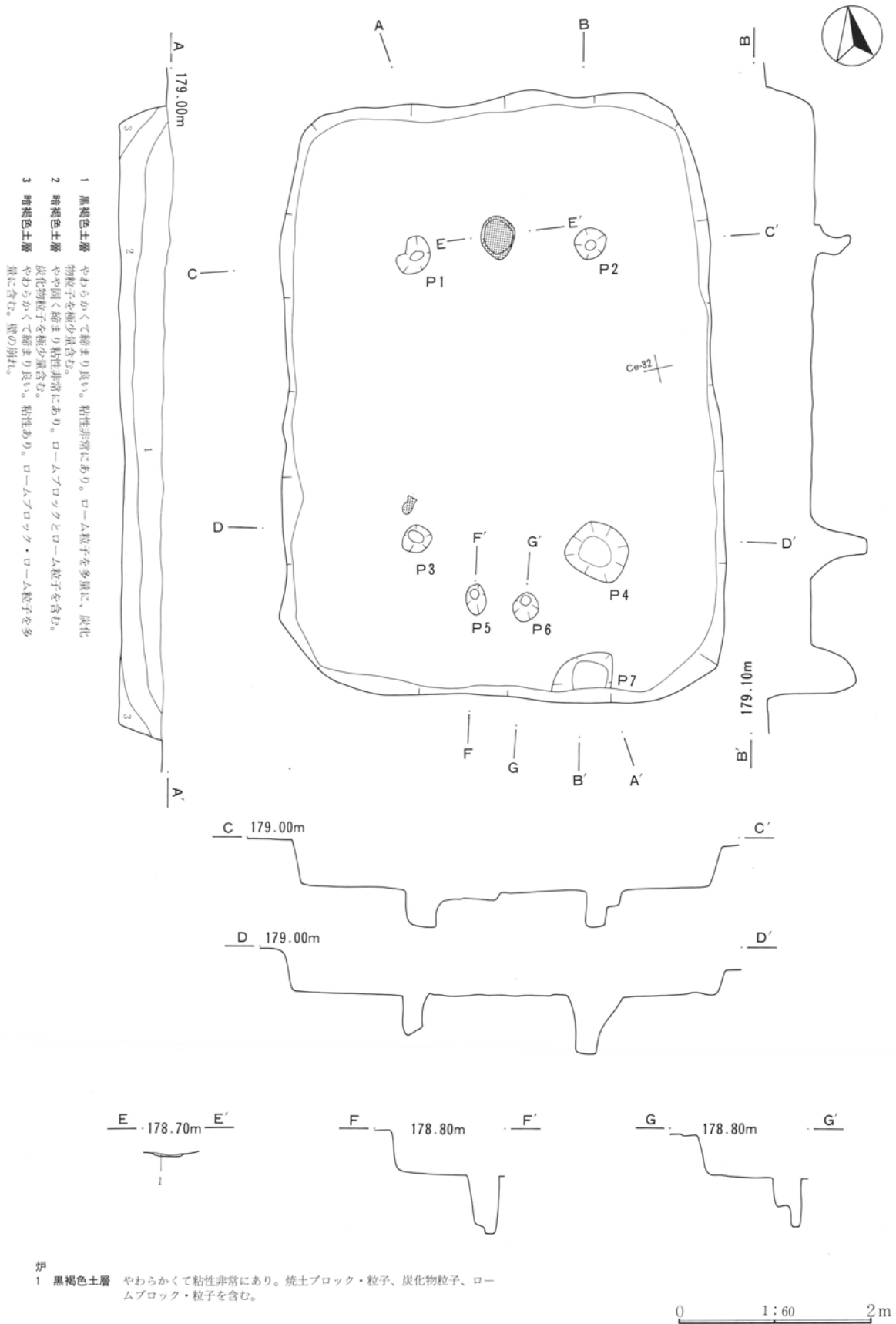
炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径44cm、短径36cmの楕円形を呈し、支柱穴P1・P2の中間やや北側に位置している。

遺物 覆土第1層から土器片が多量に出土し、第2層からは完形品にちかい土器も出土している。P4内上層からは第79図2の土器が出土した。この他に口縁部片33点、頸部片14点、胴部片389点、底部片40点等の土器片が出土している。

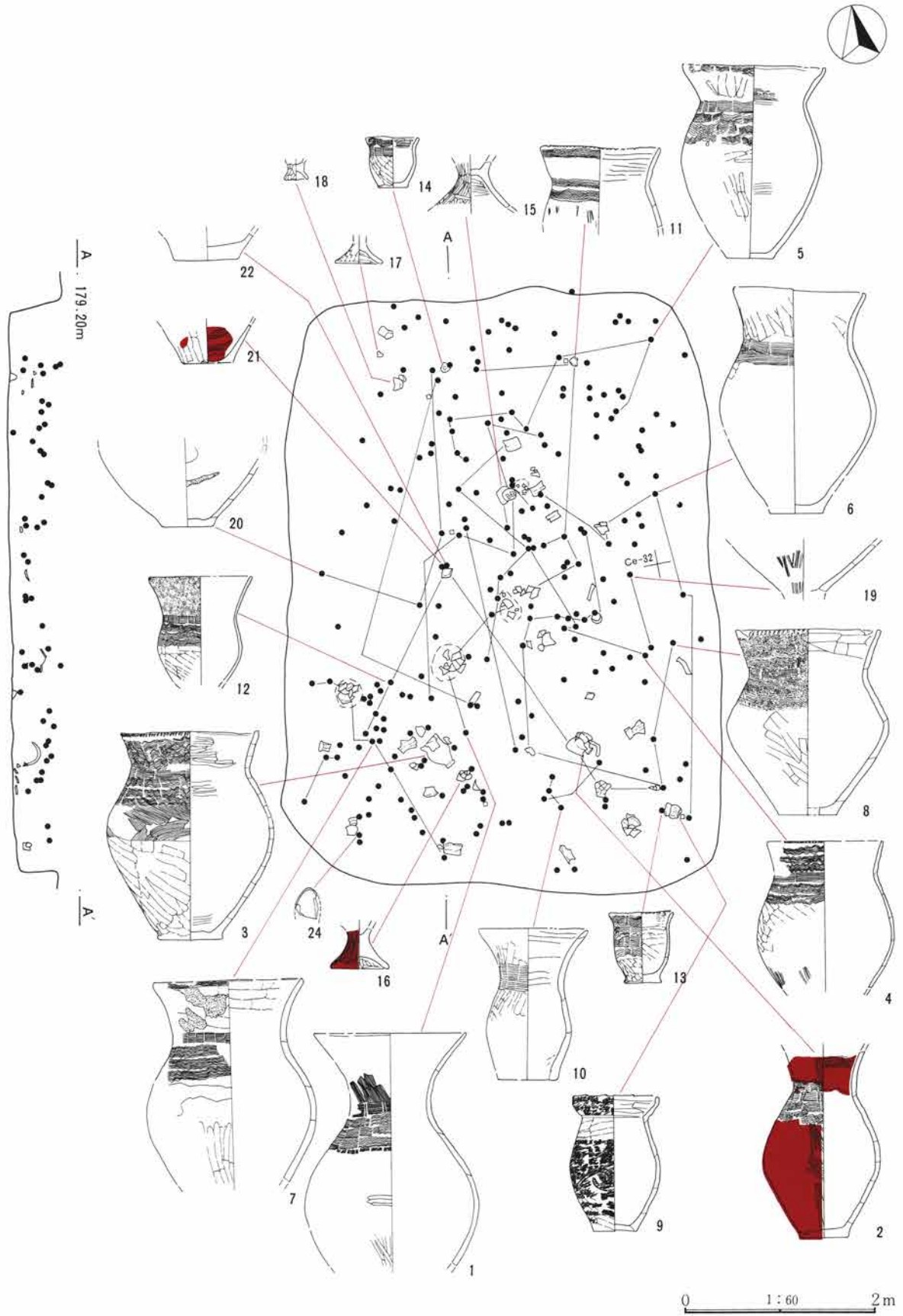
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

Y-1号住居跡遺物観察表（①口径 ②器高 ③底径）

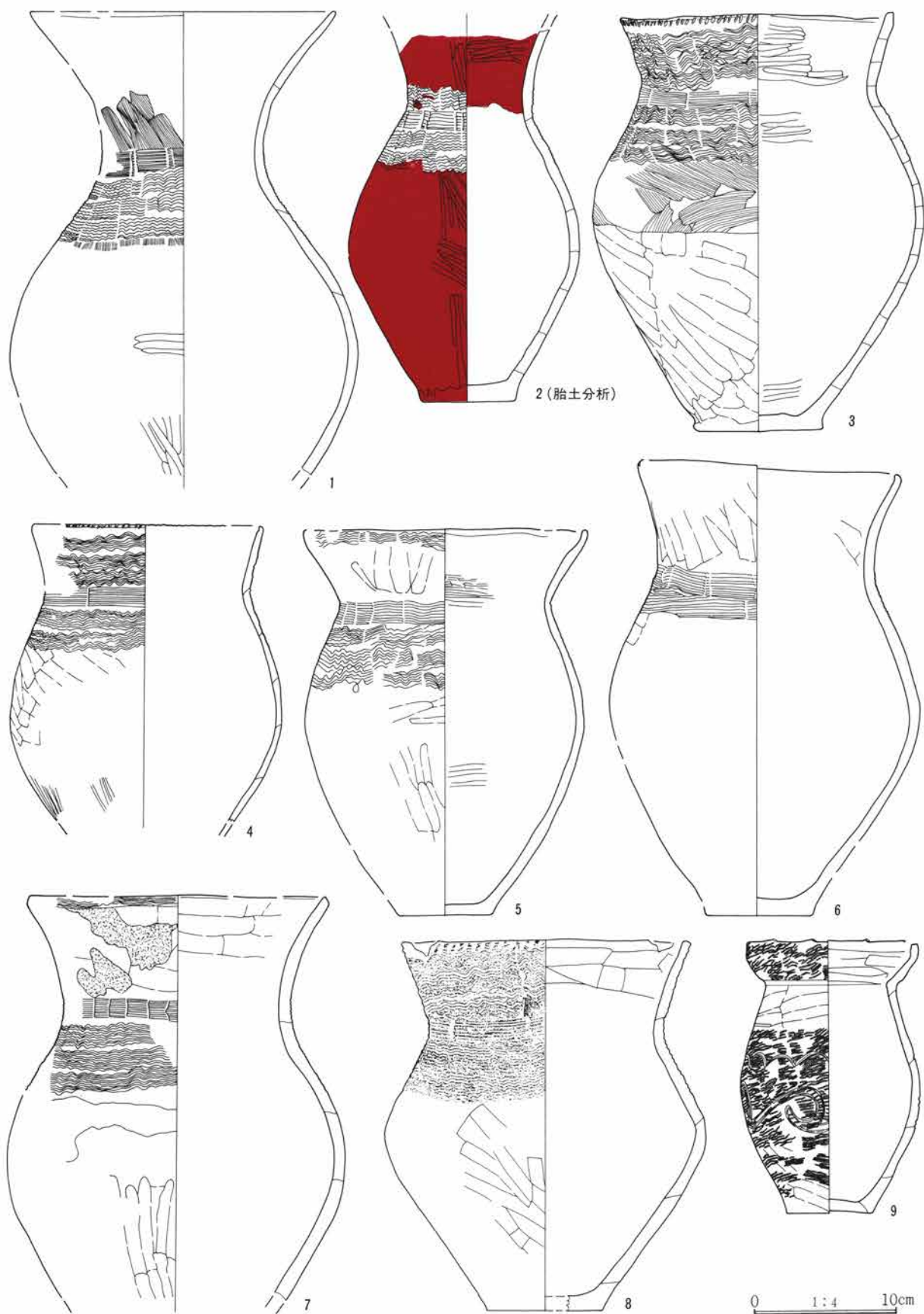
図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
79-1 129	壺	①21.2 ②32.3		外 口辺部はハケメ、ミガキ。頸部は2連止め←簾状文、波状文。胴部はミガキ。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 胴下半欠損
79-2 129	壺	①26.0 ③6.5		外 波状文。頸部は2連止め←簾状文、波状文。赤色塗彩、ミガキ。内 頸部まで赤色塗彩。	細粒の砂を混入 非常に良 ぶい黄橙色	P4上面 口縁部欠損
79-3 129	甕	①28.8 ②29.2 ③8.7		外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、炭化物付着。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 灰黄色	住居跡南壁寄り 口縁一部欠
79-4 129	甕	①16.0 ②20.8		外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡中央部 半完形
79-5 129	甕	①20.0 ②27.0 ③6.5	口縁部はやや受け口状	外 口辺部に波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、炭化物付着。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡北壁寄り ほぼ完形
79-6 129	甕	①18.3 ②31.5	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に刻み目。頸部は2連止め←簾状文、波状文。内 ハケメ。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡東南コーナー ほぼ完形
79-7 129	甕	①20.2 ②28.3		外 口辺部波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、炭化物付着。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡南壁寄り
79-8 129	甕	①20.0 ②26.1 ③4.0	口縁部は受け口状	外 口唇部刺突、波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡東壁寄り 半完形
79-9 129	甕 (天王山式)	①11.7 ②19.0 ③6.0		外 口縁部は波状。頸部を除く器面に縄文。原体はL ₁ 横、斜位、沈線、炭化物付。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 ぶい褐色	住居跡東南コーナー 完形
80-10 129	甕	①17.0 ②21.0 ③8.5	口縁部は外反する	外 頸部に等間隔止め→簾状文、炭化物付着。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	住居跡南壁寄り 底部欠損
80-11 129	甕	①16.7 ②11.2	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に刻み目、波状文。頸部～胴上部は波状文、ミガキ。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	覆土 胴下半欠 炭化物付
80-12 129	甕	①14.2 ②14.7		外 口縁～胴上部は波状文。頸部は等間隔止め←簾状文。内 横ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	覆土
80-13 129	小型甕	①9.0 ②10.0 ③5.2		外 口唇部に刻み目、波状文、ハケメ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい褐色	住居跡東南コーナー 半完形
80-14 129	小型甕	①7.2 ②7.2 ③4.0		外 波状文。頸部は等間隔止め←簾状文。内 ミガキ、輪積み痕が残る。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡北壁寄り 口縁一部欠



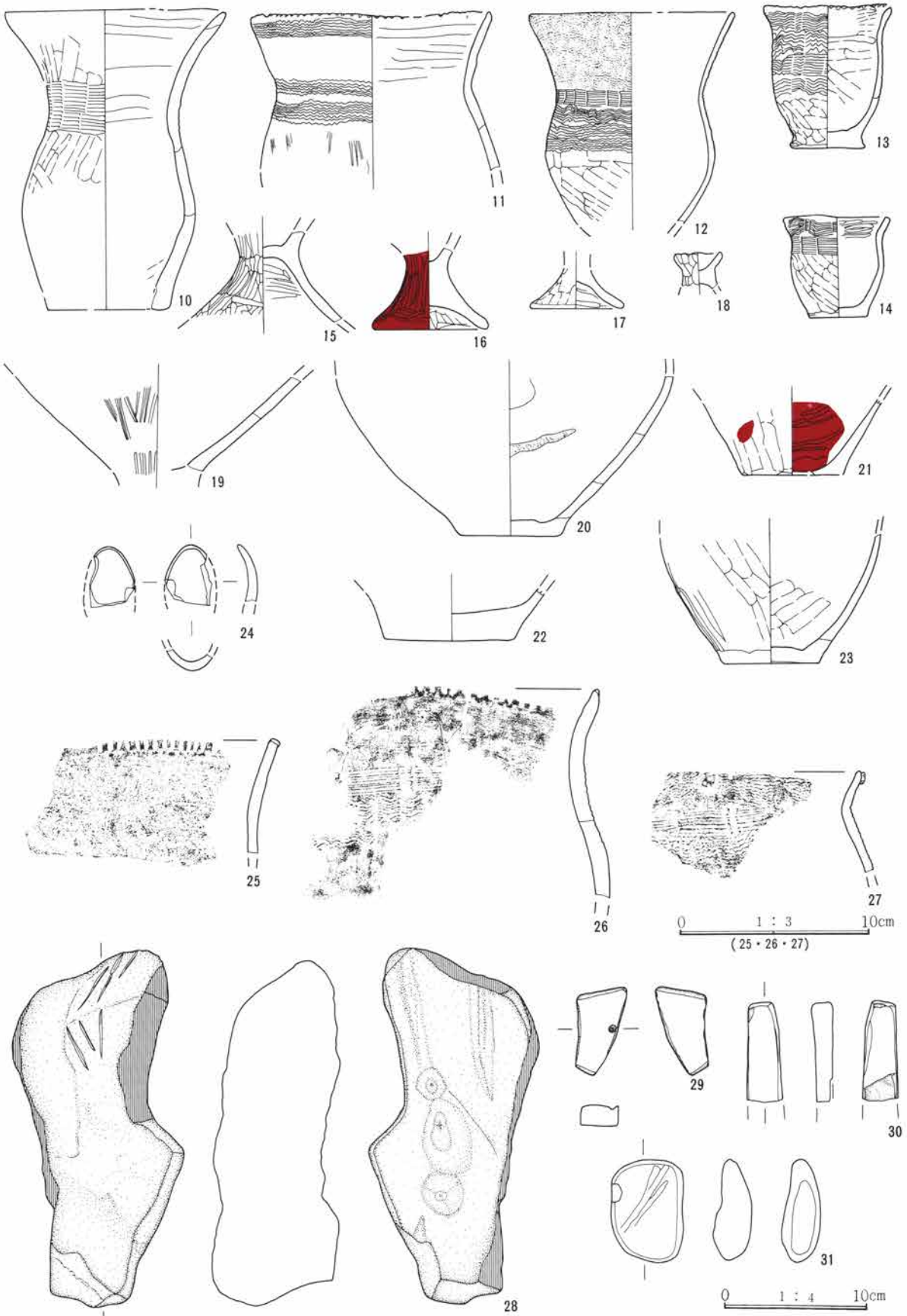
第77図 Y-1号住居跡



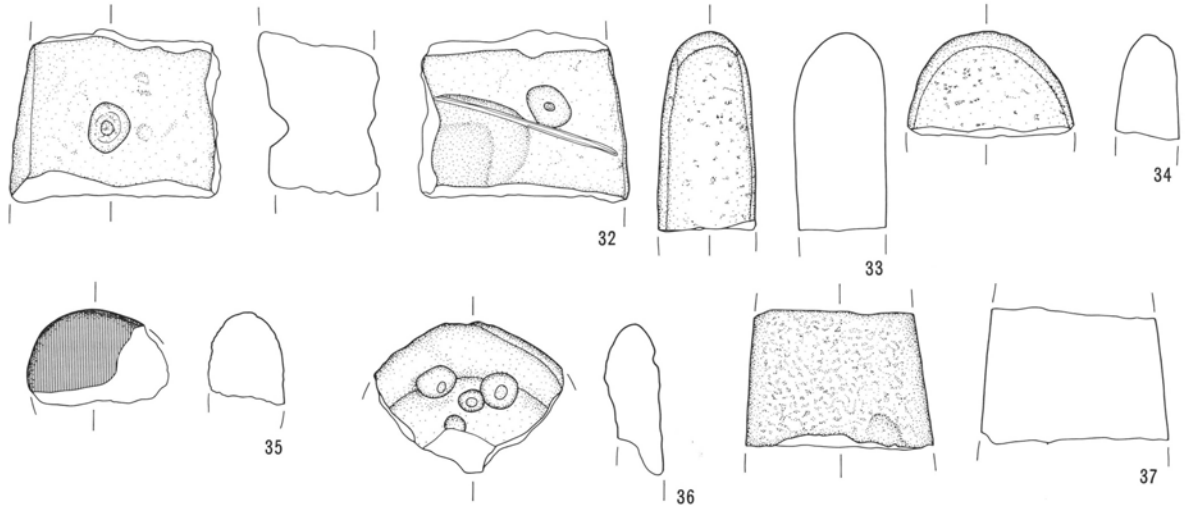
第78图 Y-1号住居跡遺物分布



第79図 Y-1号住居跡出土遺物(1)



第80图 Y-1号住居跡出土遺物(2)



第81図 Y-1号住居跡出土遺物(3)

0 1 : 4 10cm

Y-1号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
80-15 129	高坏	②6.2		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡中央部 脚部全周			
80-16 129	高坏	②5.6 ③8.4		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 赤色塗彩。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡南壁寄 り 脚部全周			
80-17 129	蓋	②2.8 ③6.5		外 ナデ、赤色塗彩の痕跡。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡北西コー ナー 一部欠損			
80-18 129		①3.1 ②2.5		外 ナデ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡北西コー ナー 一部欠損			
80-19 129	甕	②6.8	底部	外 ミガキ、炭化物付着。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡東壁寄 り			
80-20 129	甕	②11.0 ③7.3		外 ミガキ、炭化物付着。 内 荒れている、炭化物付着。	中粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡中央部			
80-21 129	壺	②5.3 ③7.2	底部	外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ミガキ、赤色塗彩。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡中央部			
80-22 129	甕	②3.6 ③9.2	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 明褐色	住居跡中央部 底部全周			
80-23 129	甕	②9.2 ③6.6	底部	外 ミガキ、炭化物付着、底面磨耗。 内 粗い調整。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	覆土			
80-24 129	匙	長4.0 幅3.5 厚0.4~0.7		外 ナデ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡南西コー ナー 一部欠損			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
80-25 129	甕	厚5~6		外 口唇部刻み目。 内 ミガキ。	粗砂を含む	良	黒褐色	覆土	
80-26 129	甕	厚5~8		外 口唇部刻み目。頸部2連止め簾状文、波状文。	細砂を含む	良	にぶい橙	覆土	
80-27 129	台付甕	厚3~6		外 波状文、貼付文。頸部簾状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	良	暗褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g) 全長 幅 厚 重量				特徴	出土状況
80-28 129	砥石	完形	砂岩	24.5	10.0	8.5	2,325	片面に凹みと敲打痕、条痕が認められる。	覆土
80-29 129	砥石	部分	砂岩	(6.1)	3.5	1.6	(30)	片面に凹み穴が認められる。	覆土
80-30 129	砥石	3/4	砂岩	(7.0)	2.5	1.5	(29)	使用面は小口を除き4面。	覆土
80-31 129	砥石	完形	砂岩	7.1	5.0	2.7	40	片面、側面に使用面。	覆土
81-32 129	砥石	部分	砂岩	(8.7)	10.6	5.0	(755)	両面に凹み穴と太い条痕が認められる。	覆土

Y-1号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
81-33 129	磨石	2/3	安山岩	(10.5)	5.2	4.8	(428)	全面に磨耗痕が認められる。	覆土
81-34 129	磨石	1/2	安山岩	(5.6)	8.9	3.4	(208)	両面に磨耗痕が認められる。	覆土
81-35 129	磨石	1/2	砂岩	(4.9)	(7.6)	4.0	(145)	全面に磨耗痕が認められる。	覆土
81-36 129	多孔石 (縄文)	部分	砂岩	(11.9)	15.0	3.9	(815)	両面に4個の凹みが認められる。全面に赤化している。	覆土
81-37 129	石棒 (縄文)	両端欠損	安山岩	(7.2)	9.2	9.3	(1,165)		覆土

Y-2号住居跡 (第82~85図、PL.22・23・129・130)

位置 Cj-25グリッドにおいて検出された。Y-34号住居跡の南約17mの所に位置している。

重複 なし。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

形状 長辺3.3m、短辺3.2mの方形を呈する。

方位 N-26°-E。

壁高 住居跡確認面より約8~20cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約5.3m²である。

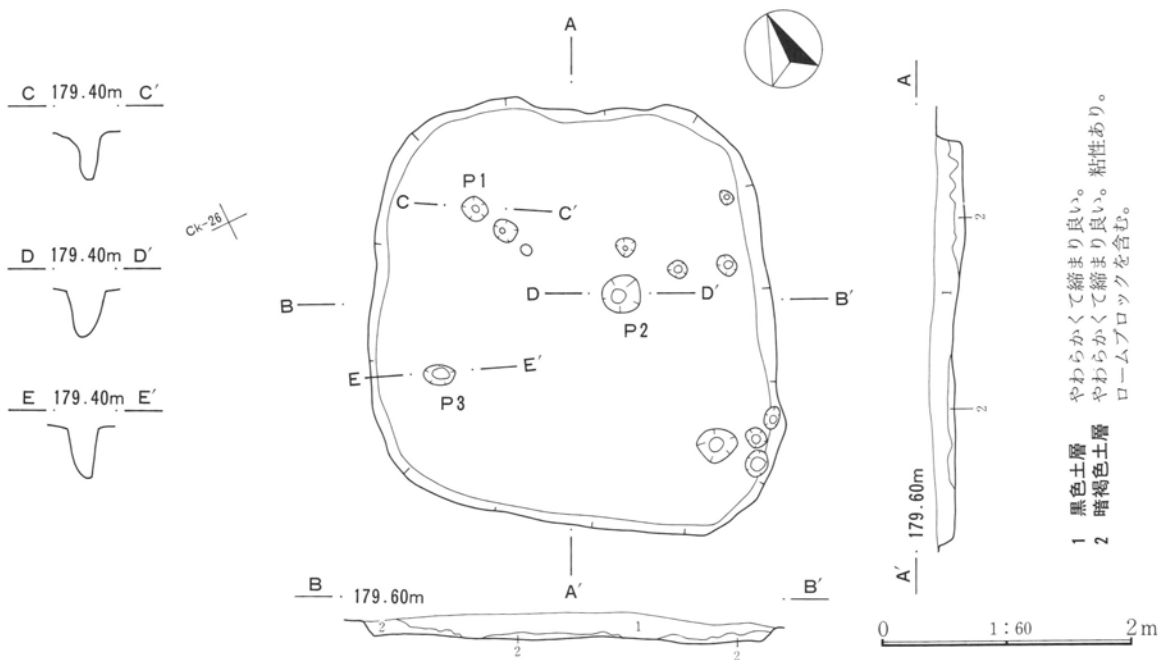
周溝 検出できなかった。

柱穴 総計13個のピットが検出された。この内、確実に柱穴と考えられるピットはP1~P3である。P1の深さは38cm、P2深さ36cm、P3深さ40cmである。

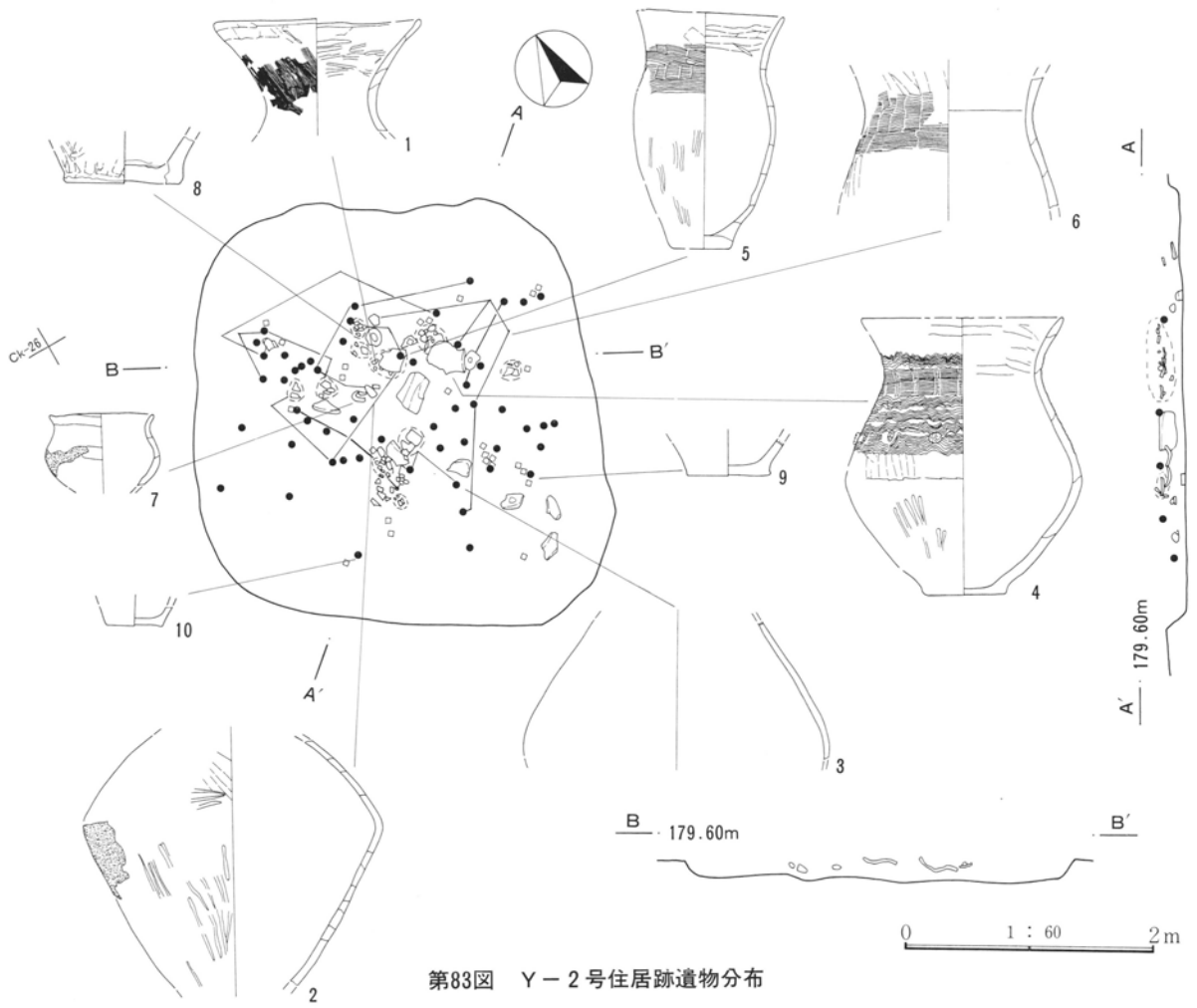
炉 床面からは焼土等の痕跡を確認することはできなかった。

遺物 覆土第1層から多量の遺物が出土している。口縁部片32点、胴部片142点、底部片9点等である。この他に縄文中期土器片47点、礫7点も出土した。

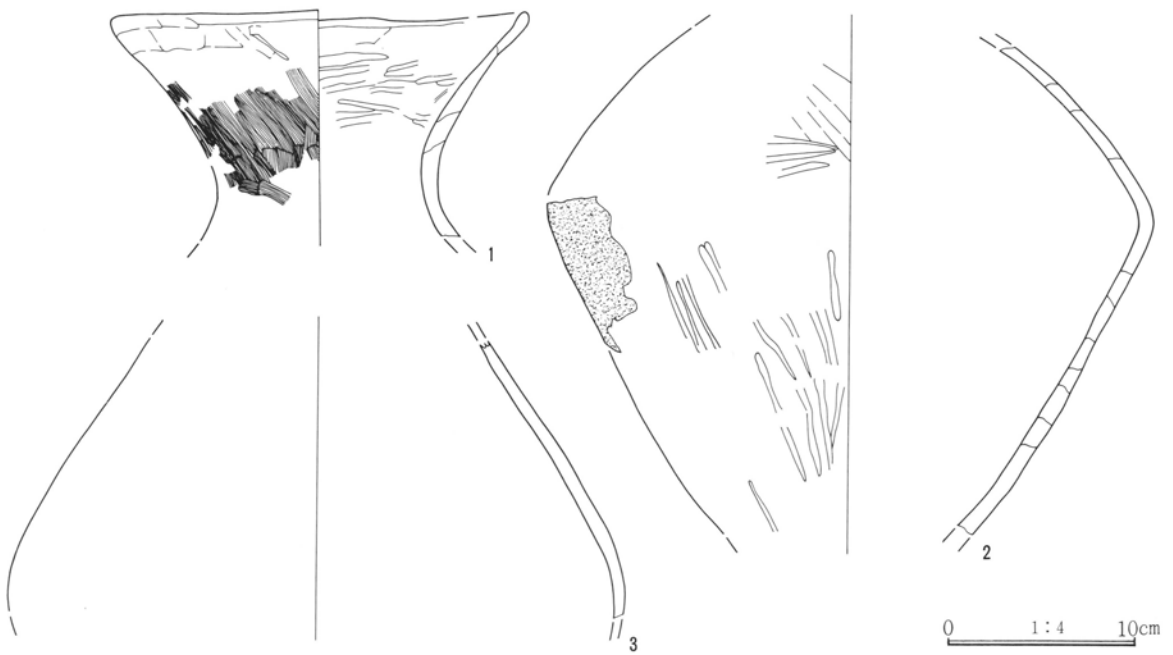
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



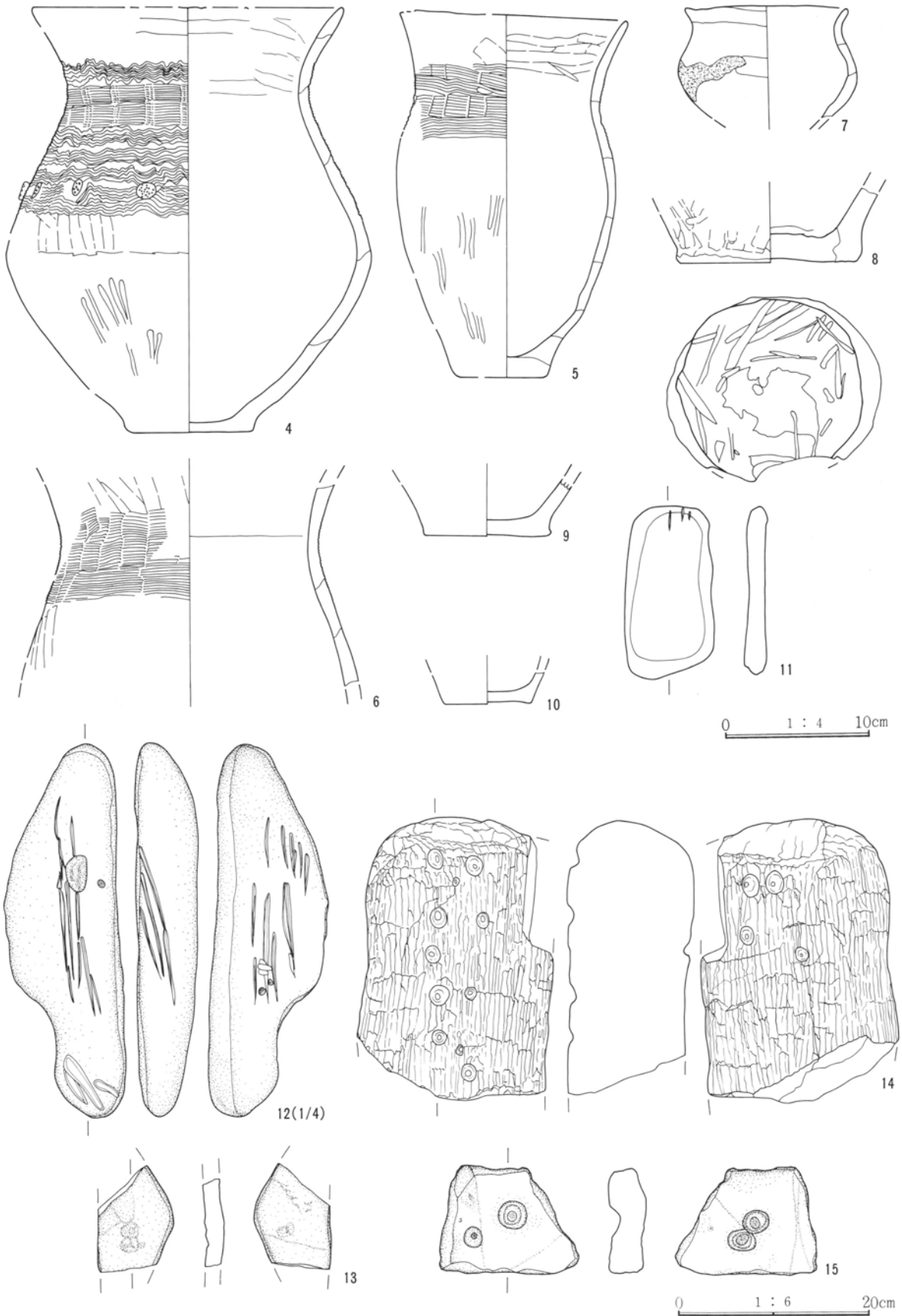
第82図 Y-2号住居跡



第83図 Y-2号住居跡遺物分布



第84図 Y-2号住居跡出土遺物(1)



第85图 Y-2号住居跡出土遺物(2)

Y-2号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
84-1 129	壺	①22.0 ②12.0	口縁部はやや受け口状	外 ナデ、ハケメ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 胴部欠損			
84-2 129	壺	②30.0		外 ミガキ、煤が付着している。 内 剥落している。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡南部 胴部1/3			
84-3 129	壺	②16.0		外 ミガキ、剥落している。 内 剥落している。	細粒の砂を混入 やや良 橙色	住居跡南部 胴部1/3			
85-4 129	甕	①21.6 ②29.3③8.6		外 頸部は3連止め←簾状文、波状文、刺突をもつ円形浮文。胴部ミガキ。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡中央部 半完形			
85-5 130	甕	①15.5 ②24.7③5.9		外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。胴部ミガキ、炭化物付着。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗褐色	住居跡中央部 ほぼ完形			
85-6 130	甕	②13.3		外 頸部は等間隔止め←簾状文。胴部ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 やや良 黒褐色	住居跡中央部 頸部～胴部			
85-7 129	台付甕	①11.2 ②8.0		外 ナデ、炭化物付着。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡中央部 脚部欠損			
85-8 129	壺	②5.5	底部	外 ナデ、底面は柔軟。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡中央部 底部全周			
85-9 129	壺	②3.9 ③9.0	底部	外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡東壁寄り 底部1/3			
85-10 129	甕	②2.0 ③6.0	底部	外 ミガキ。 内 ミガキ、炭化物付着。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡南壁寄り			
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
85-11 130	砥石	完形	砂岩	11.8	6.1	1.5	157	両面使用。	覆土
85-12 130	砥石	完形	砂岩	25.8	7.8	4.2	804	全面使用。細い条痕が多数認められる。	覆土
85-13 130	凹石	部分	砂岩	(10.5)	7.9	2.1	(224)	両面に凹みが認められる。	覆土
85-14 130	多孔石 (縄文)	一部欠損	絹雲母石墨片岩	(29.1)	19.7	13.2	(12,200)	両面に計14個の凹み穴が認められる。	覆土
85-15 130	多孔石 (縄文)	部分	砂岩	(11.0)	(14.5)	3.7	(778)	両面に4個の凹み穴が認められる。	覆土

Y-3号住居跡 (第86図、PL.23・130)

位置 Cf-31・32、Cg-32グリッドにかけて検出された。Y-1号住居跡の西約3mの所に位置している。

重複 H-2号住居跡によって南側部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

形状 現状では長辺(5.5)m、短辺5.4mの楕円形を呈する。

方位 N-13°-E。

壁高 住居跡確認面より約20~25cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約13.4m²である。

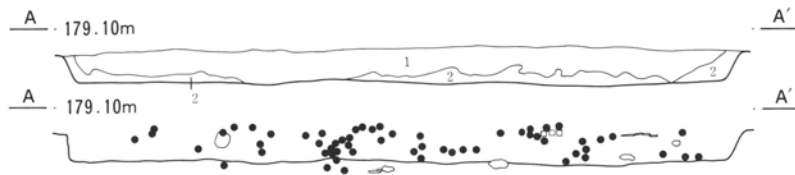
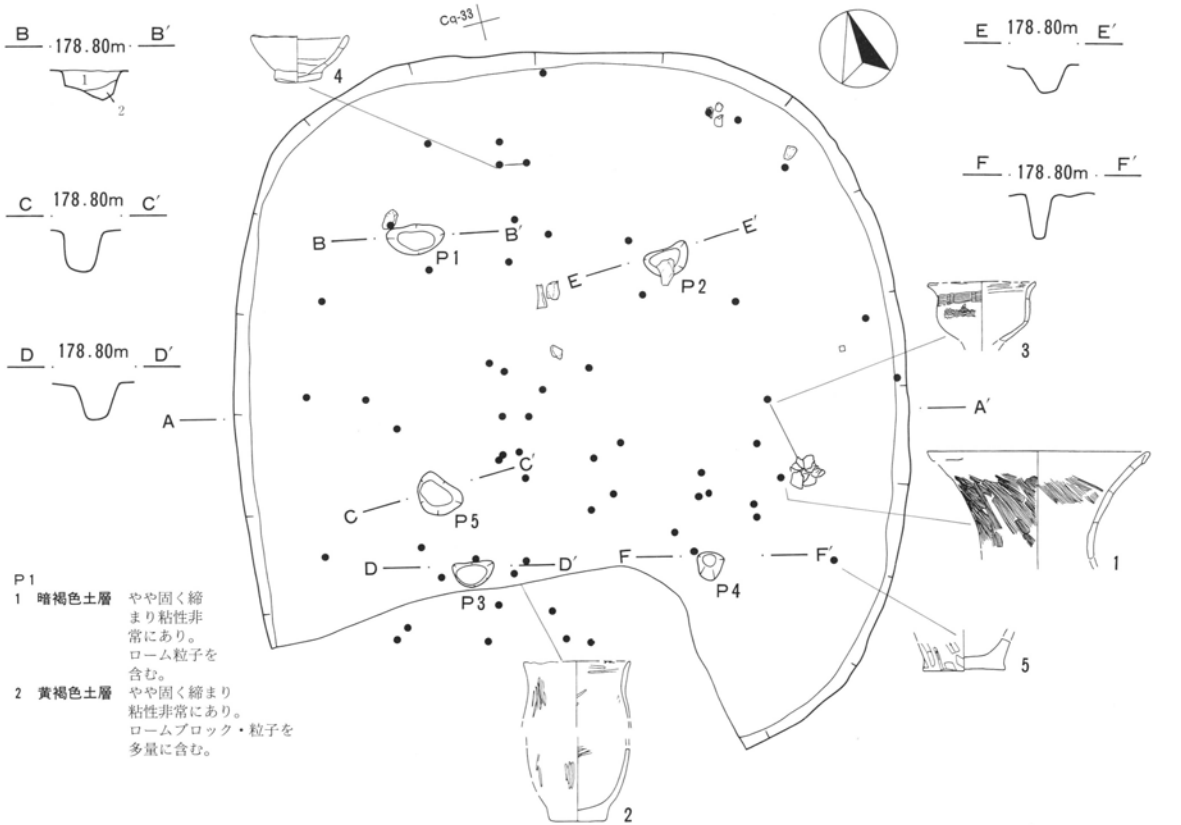
周溝 検出できなかった。

柱穴 総計5個のピットが検出された。この内、主柱穴と考えられるピットはP1~P4である。P1の深さは36cm、P2深さ22cm、P3深さ26cm、P4深さ34cmである。P5の深さは32cmである。

炉 床面からは焼土等の痕跡を確認することはできなかった。

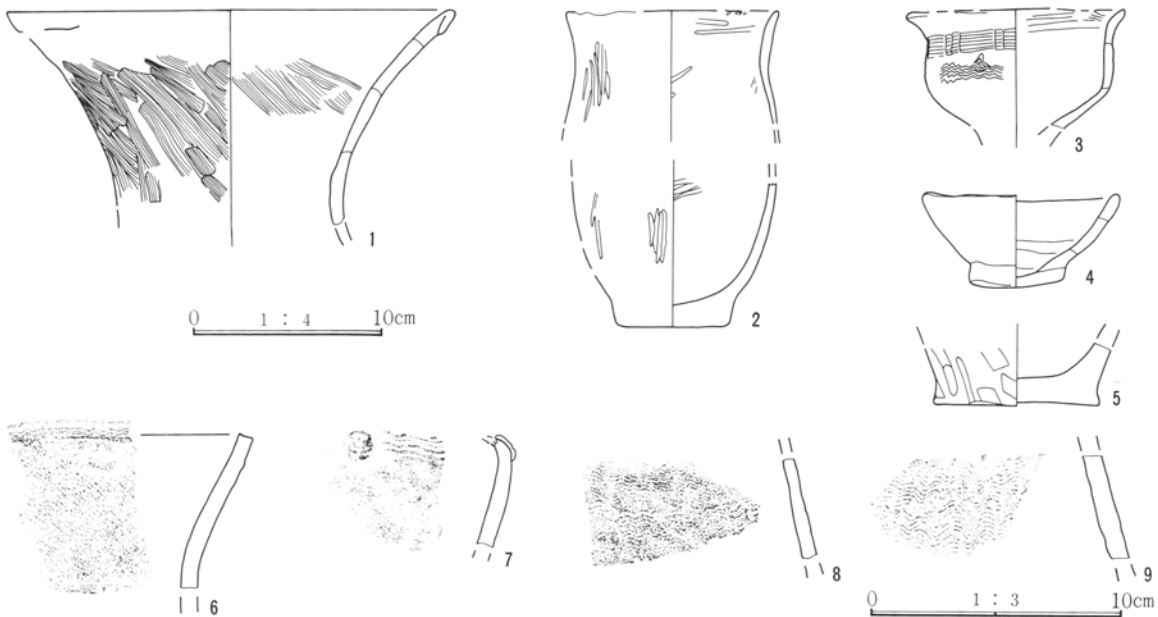
遺物 覆土第1層から遺物が出土している。口縁部片20点、胴部片224点、底部片6点である。この他に縄文中期土器片72点、土師器・須恵器片68点も出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



- 1 黒色土層 やわらかくて締まり良くない。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロックを含む。

0 1 : 60 2m



第86図 Y-3号住居跡と出土遺物

Y-3号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
86-1 130	壺	①23.7 ②10.6	折り返し口 縁	外 口縁部は外反、ハケメ、簾状文。 内 ハケメ、剥落。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡東壁寄り 頸部以下欠		
86-2 130	甕	①11.1 ③6.0		外 口唇部に刻み目、ミガキ。底面は磨耗。 内 ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	P3周辺		
86-3 130	台付甕	①11.3 ②6.3		外 頸部は2連止め、簾状文、波状文。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 やや良 黒褐色	住居跡東壁寄り 口縁～胴下半		
86-4 130	鉢	①10.0 ②4.9③4.8		外 ミガキ。 内 ナデ、ミガキ、輪積み痕が残る。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡北壁寄り 完形		
86-5 130	甕	②3.3 ③18.7	底部	外 ミガキ。底面は磨耗。 内 丁寧なミガキ。	中粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡東壁寄り		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
86-6 130	甕	厚6～7		外 口唇部波状文。頸部簾状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	にぶい黄 褐色	覆土
86-7 130	甕	厚5～7		外 口唇部波状文、貼付文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土
86-8 130	壺	厚5～6		外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	橙色	覆土
86-9 130	壺	厚7～8		外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	やや良	灰色	覆土

Y-5号住居跡 (第87～92図、PL.24・130・131)

位置 Ch-32・33、Ci-32・33グリッドにかけて検出された。Y-3号住居跡の西約5mの所に位置している。

重複 H-25号住居跡によって南西部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

形状 現状では長辺6.8m、短辺5.7mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-77°-W。

壁高 住居跡確認面より約22～34cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約18.7㎡である。

周溝 検出できなかった。

柱穴 総計8個のピットが検出された。この内、主

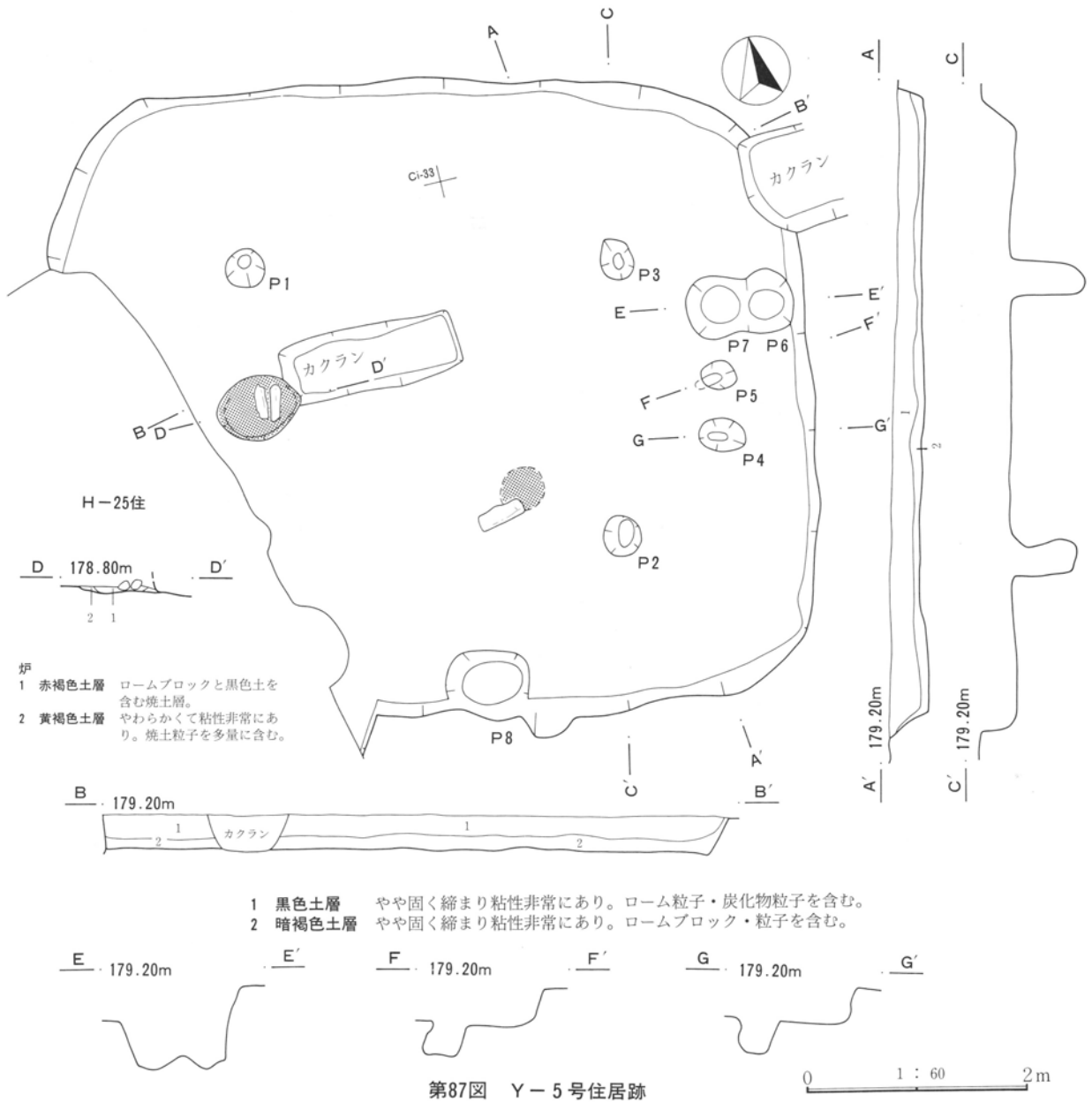
柱穴と考えられるピットはP1～P3である。P1の深さは60cm、P2深さ58cm、P3深さ66cmである。P4～P7は出入り口部の施設になり、P4深さ30cm、P5深さ30cmで、その間隔は50cmを測る。いずれも壁よりに傾いている。P6深さ38cm、P7深さ39cm、P8深さ35cmである。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径78cm、短径58cm、深さ6cmの楕円形を呈する。支柱穴P1の南80cmの所に位置している。東端に礫2個を配置している。覆土は2層に分かれた。また床面中央南東寄りに焼土の堆積が認められた。

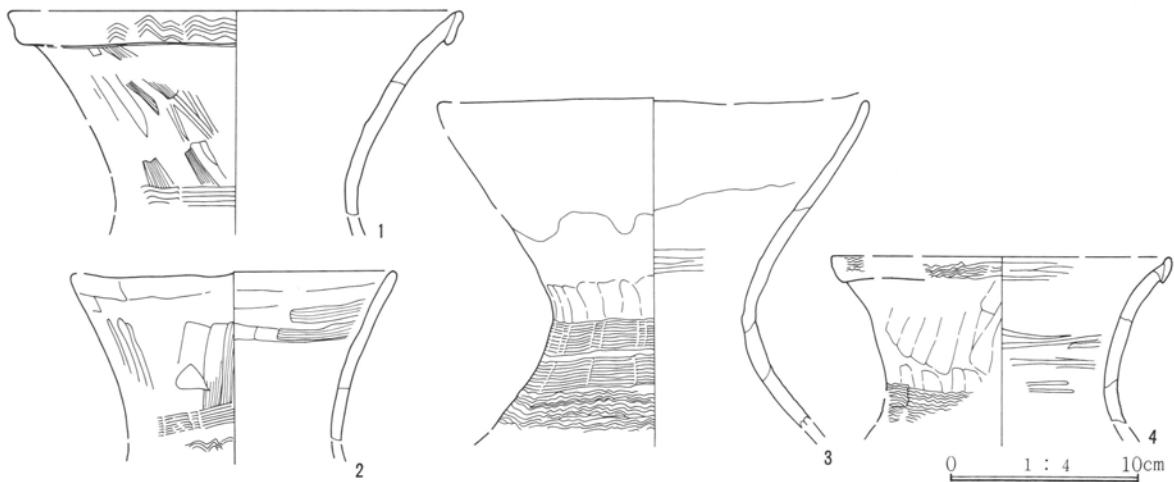
遺物 覆土第1層から多量の遺物が出土している。口縁部片163点、胴部片1,259点、底部片等99点である。この他に縄文前期から中期土器片96点、土師器・須恵器片14点、礫35点である。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

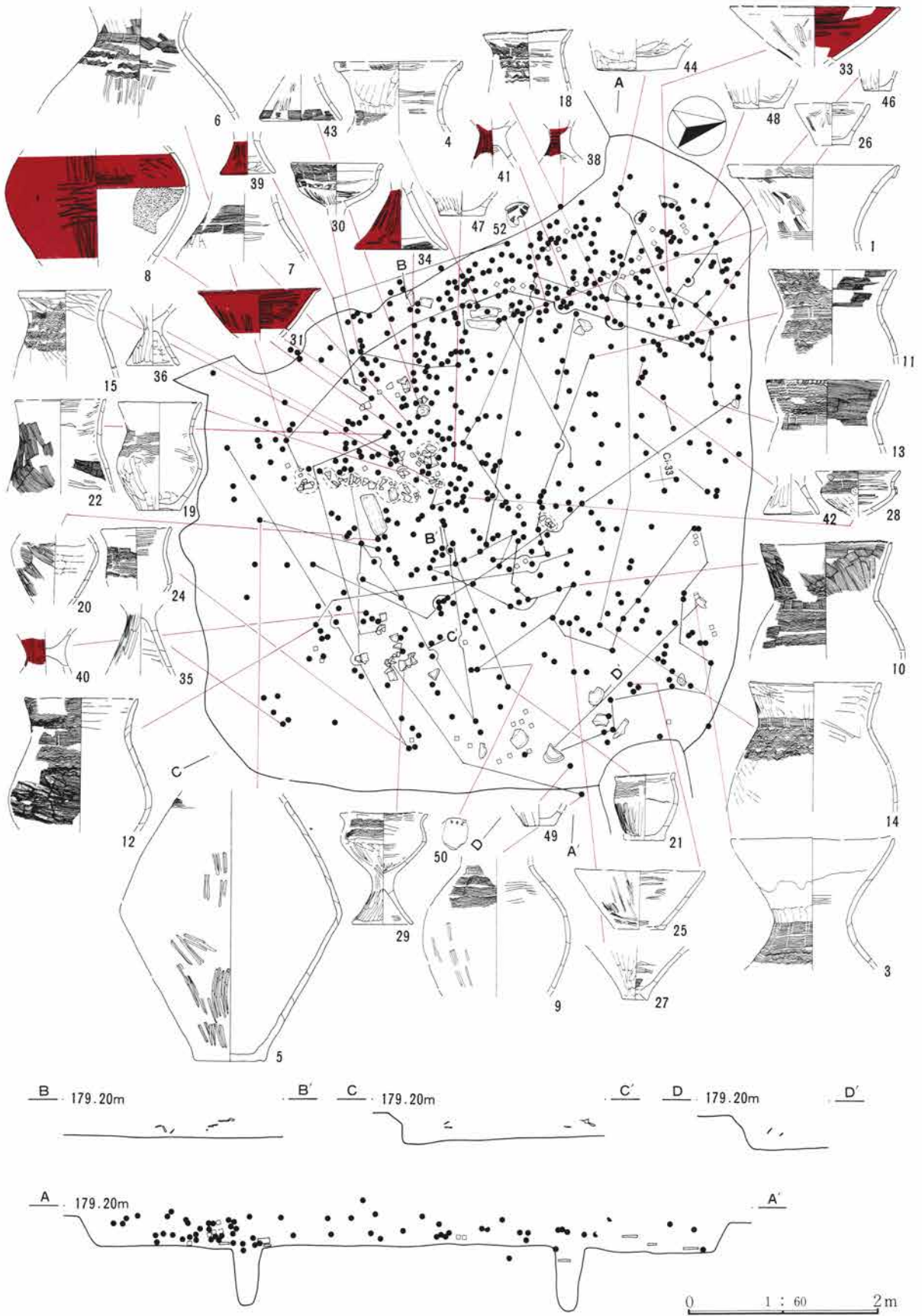
(1) 竪穴住居跡



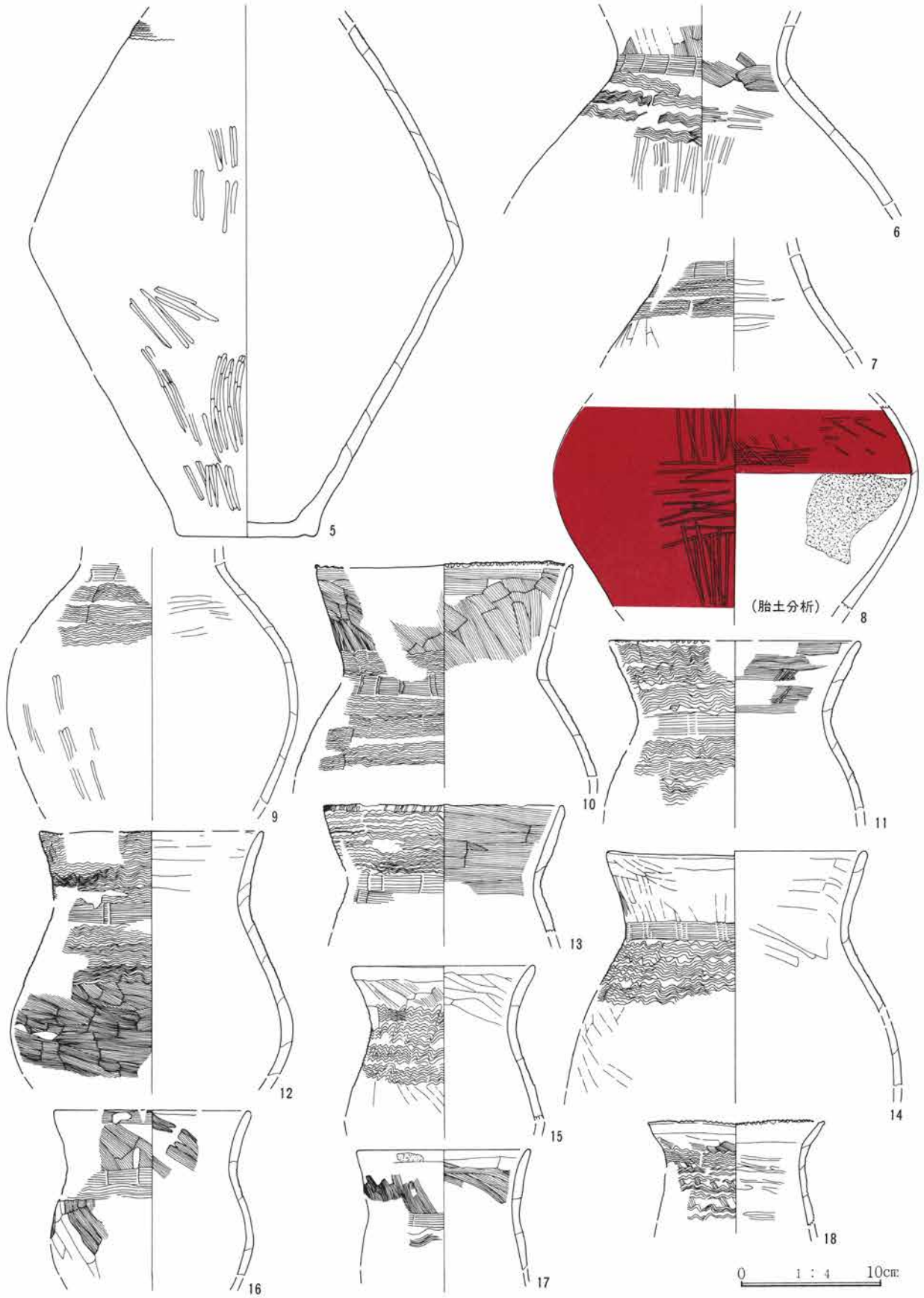
第87図 Y-5号住居跡



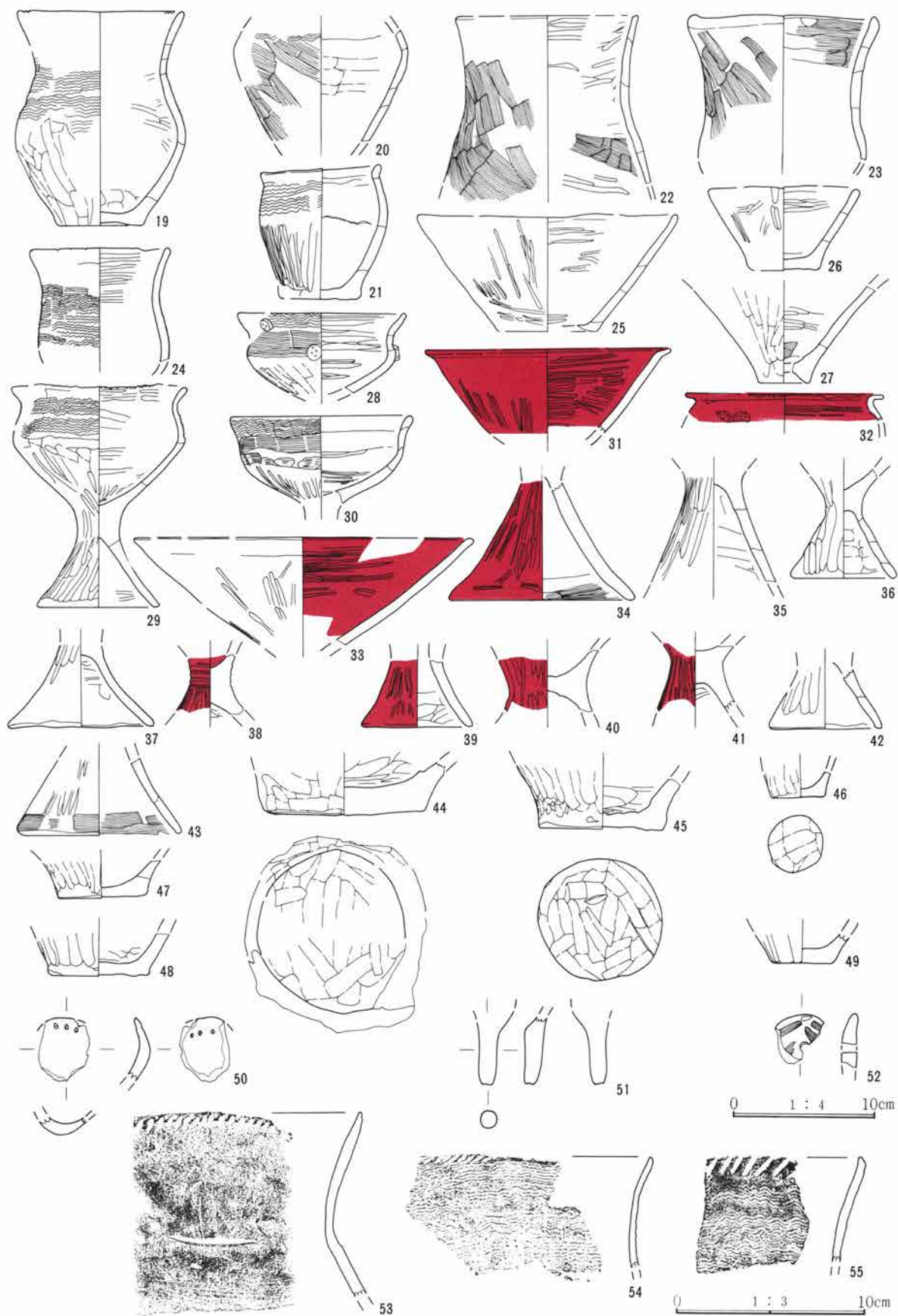
第88図 Y-5号住居跡出土遺物(1)



第89図 Y-5号住居跡遺物分布



第90图 Y-5号住居跡出土遺物(2)



第91図 Y-5号住居跡出土遺物(3)



第92図 Y-5号住居跡出土遺物(4)

Y-5号住居跡遺物観察表(①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法 量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
88-1 130	壺	①24.2 ②11.0	折り返し口 縁	外 口縁部波状文、ハケメ後ミガキ。頸部は等間隔止 め←簾状文。内 ミガキ、剥落。	中粒の砂を混入 やや良 におい橙色	炉周辺 頸部以下欠損
88-2 130	壺	①16.7 ②9.1		外 ハケメ。頸部は2連止め→簾状文、波状文、炭化 物付着。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	覆土 口縁～ 頸部1/2
88-3 130	壺	①23.3 ②17.8	口縁部はや や受け口状	外 ハケメ。頸部は2連止め等間隔止め←簾状文、波 状文。内 ミガキ、荒れている。	中粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡北東コー ナー 口縁～頸部
88-4 130	壺	①18.0 ②8.7	折り返し口 縁	外 波状文、ハケメ。頸部は波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	炉周辺 口縁部1/3
90-5 130	壺	②36.5 ③9.6		外 波状文、ミガキ。 内 ミガキ、荒れている。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡南部分 口縁～頸部欠損
90-6 130	壺	②12.6		外 ハケメ。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ミ ガキ。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡南壁寄り 頸部～胴部1/2
90-7 130	壺	②7.0		外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 頸部～胴上半
90-8 130	壺	②14.3		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ミガキ、赤色塗彩、煤が付着。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡中央部 胴部1/2
90-9 130	壺	②17.1		外 頸部は2連止め→簾状文、波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 浅黄橙色	住居跡東部 頸部～胴部1/2

3章 弥生時代の遺構と遺物

Y-5号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
90-10 130	甕	①18.4 ②15.2		外 口唇部に刻み目、ハケメ、ナデ。頸部は2連止め ←簾状文、波状文。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡中央部 胴下半欠損
90-11 130	甕	①18.0 ②14.0		外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は2連止め←簾状 文、波状文。内 ハケメ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡中央部 口縁~胴上半1/2
90-12 130	甕	①15.8 ②17.2		外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は2連止め←簾状 文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡東部分 口縁~胴上半
90-13 130	甕	①17.2 ②9.0		外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は2連止め←簾状 文。内 ハケメ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡北壁寄 り 口縁部1/2
90-14 130	甕	①18.5 ②16.8		外 口辺部ナデ。頸部は3連止め←簾状文、波状文。 胴部ミガキ、炭化物付着。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北壁寄 り 口縁~胴上半1/2
90-15 130	甕	①13.0 ②10.8	口縁部はや や外反	外 口辺部ハケメ。頸部は波状文。胴部ミガキ。炭化 物付着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡中央部 口縁~胴上半
90-16 130	甕	①13.8 ②11.7		外 ハケメ、ナデ。頸部は等間隔止め←簾状文、波状 文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	覆土 口縁~胴部1/3
90-17 130	甕	①12.4 ②8.8		外 ハケメ。頸部は簾状文、波状文、炭化物付着。 内 ハケメ、ナデ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	覆土 口縁~頸部片
90-18 130	甕	①12.5 ②7.5	口縁部はや や受け口状	外 口唇部に刻み目、波状文。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡西壁寄 り 口縁~胴上半1/2
91-19 130	甕	①11.5 ②15.0③6.0		外 口唇部に刻み目。頸部は等間隔止め←簾状文、波 状文、ミガキ。内 ナデ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡中央部 半完形
91-20 130	甕	②7.5		外 波状文、ハケメ。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡中央部 胴部全周
91-21 130	甕	①8.3 ②9.5③5.1		外 波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡東部 底部一部欠損
91-22 130	甕	①12.6 ②12.4		外 ハケメ、ナデ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡中央部 口縁~胴上半1/3
91-23 130	甕	①12.6 ②10.0	口縁部はや や受け口状	外 ハケメ。 内 ハケメ、ミガキ。	中粒の砂を混入 やや良 にぶい赤褐色	住居跡中央部 口縁~胴上半
91-24 130	甕	①9.8 ②7.2		外 口唇部に刻み目、波状文。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡東壁寄 り 口縁~胴上半
91-25 130	鉢	①19.2 ②8.2		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡東壁寄 り 口縁~底部1/3
91-26 130	鉢	①10.2 ②5.9③5.0		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡北壁寄 り 1/2
91-27 130	甕	②6.8 ③3.4		外 ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡東部 底部全周
91-28 130	台付甕	①11.6 ②5.5		外 波状文、刺突のある円形浮文。頸部は等間隔止め 簾状文、波状文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡中央部 口縁部片
91-29 130	台付甕	①12.1 ②15.4③8.6		外 口唇部に刻み目、波状文、ミガキ。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡東壁寄 り ほぼ完形
91-30 130	台付甕	①13.0 ②6.1		外 波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡中央部 口縁部1/2
91-31 130	高杯	①17.2 ②6.0		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡中央部 口縁部1/4
91-32 130	台付甕	①13.6 ②1.9		外 口唇部に刻み目、赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	覆土 口縁部1/3
91-33 130	高杯	①23.5 ②7.4		外 ナデ、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡西壁寄 り 口縁部1/3
91-34 130	高杯	②8.2 ③12.6		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	覆土 脚部1/3
91-35 130	台付甕	②7.7		外 ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡南東コー ナー 脚部全周
91-36 130	台付甕	②7.5 ③7.0		外 ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 不良 灰白色	住居跡中央部 脚部全周
91-37 130	台付甕	②5.7 ③10.0		外 ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	中粒の砂を混入 やや良 黒褐色	覆土 脚部2/3
91-38 130	高杯	②4.5		外 赤色塗彩、ミガキ、横位の沈線。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡西壁寄 り 脚部全周

Y-5号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
91-39 130	高坏	②4.6 ③7.8		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ケズリ。	中粒の砂を混入 良 赤色	住居跡南部分 脚部全周			
91-40 130	高坏	②4.4	脚部方形	外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤色	覆土 脚部全周			
91-41 130	高坏	②5.9		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡西部分 脚部全周			
91-42 130	台付甕	②4.2 ③7.7		外 ミガキ、荒れている。 内 ナデ、ミガキ。	中粒の砂を混入 やや良 ぶい橙色	住居跡北壁寄り 脚部3/4			
91-43 130	高坏	②5.2 ③11.7		外 ハケメ、ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	住居跡中央部 脚部全周			
91-44 130	壺	②3.0 ③11.0	底部	外 ケズリ、ナデ、底部はケズリ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 浅黄橙色	住居跡西壁寄り 底部全周			
91-45 130	壺	②4.5 ③8.7	底部	外 ナデ、底面はケズリ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	覆土 底部全周			
91-46 130	ミニチュ ア 甕	②2.3 ③3.8		外 ケズリ、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	住居跡西部分 底部全周			
91-47 130	甕	②2.6 ③6.0	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	覆土 底部全周			
91-48 130	甕	②3.1 ③7.2	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北西コー ナー 底部全周			
91-49 131	小型甕	②2.1 ③2.1	底部	外 ミガキ、底面の磨耗少ない。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	住居跡東壁寄り 底部全周			
91-50 131	匙	長4.5幅3.4 厚0.2~0.7		外 径3mmの孔が3個穿たれている。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	住居跡東部 一部欠損			
91-51 131	匙	長4.6幅2.0 厚0.6~1.2		外 ナデ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	覆土 柄部			
91-52 131	土製紡錘 車	長3.1幅1.5 厚0.5~1.1		外 ミガキ、孔径は7mm。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	住居跡 西部1/3			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
91-53 131	甕	厚2~6		外 口唇部刻み目。 内 ハケメ。	細砂を含む	良	暗灰黄色	覆土	
91-54 131	甕	厚4		外 口唇部刻み目、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	明赤褐色	覆土	
91-55 131	甕	厚2~3		外 口唇部刻み目、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
92-56 131	砥石	2/3	砂岩	全長	幅	厚	重量	両面使用。細い条痕が認められる。	覆土
92-57 131	砥石	完形	砂岩	10.5	6.2	2.2	198	両面使用。両面に凹みが認められる。	覆土
92-58 131	砥石	2/3	砂岩	(6.4)	5.8	2.1	(77)	両面使用。片面に太い条痕が認められる。	覆土
92-59 131	砥石	完形	砂岩	11.6	6.0	2.1	175	両面使用。太い条痕が認められる。	覆土
92-60 131	磨製石斧	一部欠損	輝緑岩	11.4	4.3	3.3	(200)		覆土
92-61 131	凹石 (縄文)	2/3	安山岩	(11.7)	(9.9)	5.3	(708)	片面に3個の凹み穴が認められる。	覆土
92-62 131	凹石 (縄文)	完形	紅簾網雲母 片岩	17.8	8.7	3.5	838	片面に2個の凹み穴が認められる。	覆土
92-63 131	磨石	完形	安山岩	8.0	9.5	7.5	887	敲打痕と磨耗痕が認められる。	覆土
92-64 131	石包丁	一部欠損	緑泥片岩	3.9	(6.8)	0.4	(21.9)	径6mmの穿孔が認められる。	覆土

Y-6号住居跡 (第93~96図、PL.25・131)

位置 Cl-27~29、Cm-27~29、Cn-27・28グリッドにかけて検出された。Y-33号住居跡の南東約5mの所に位置している。

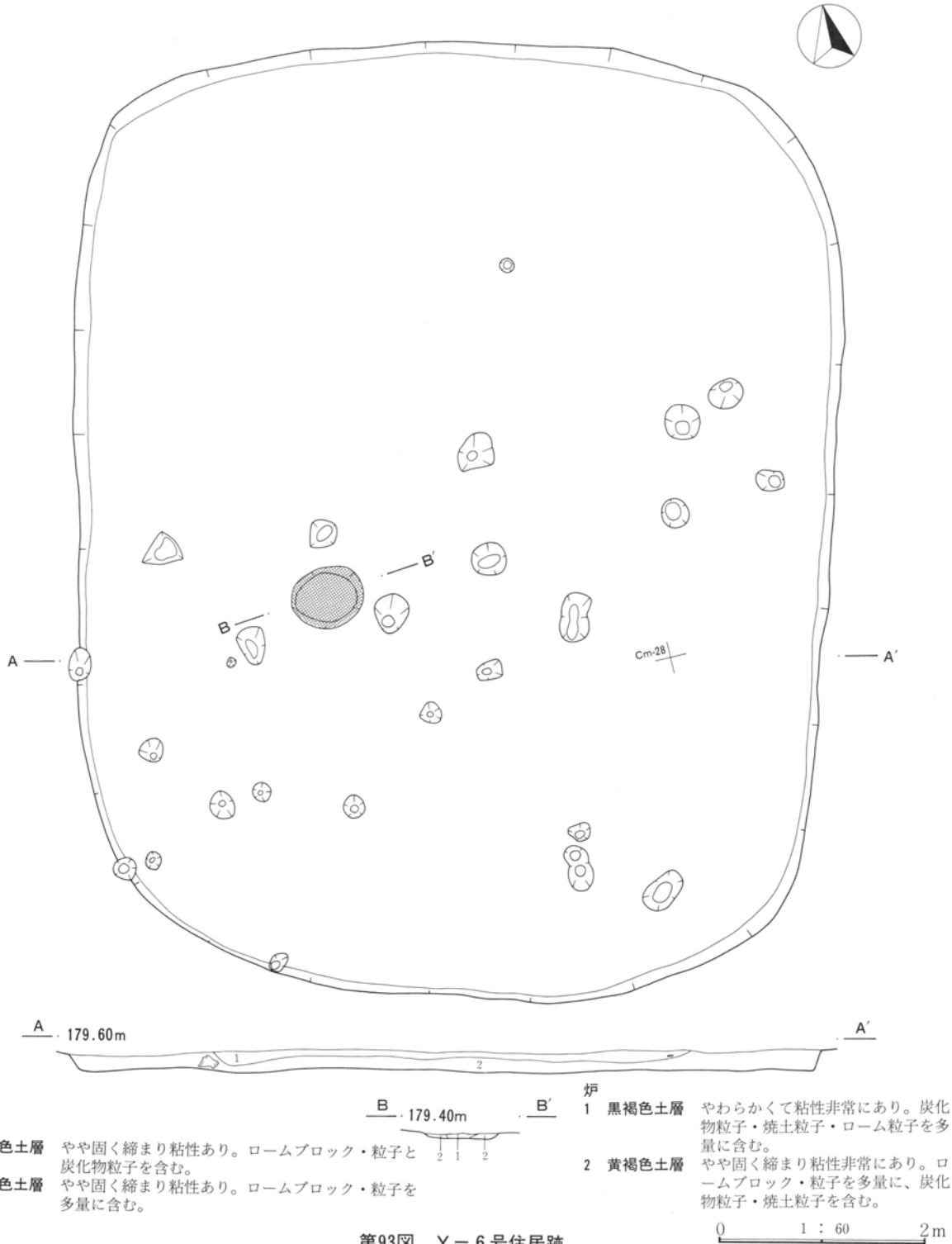
重複 なし。J-12号住居跡に接している。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

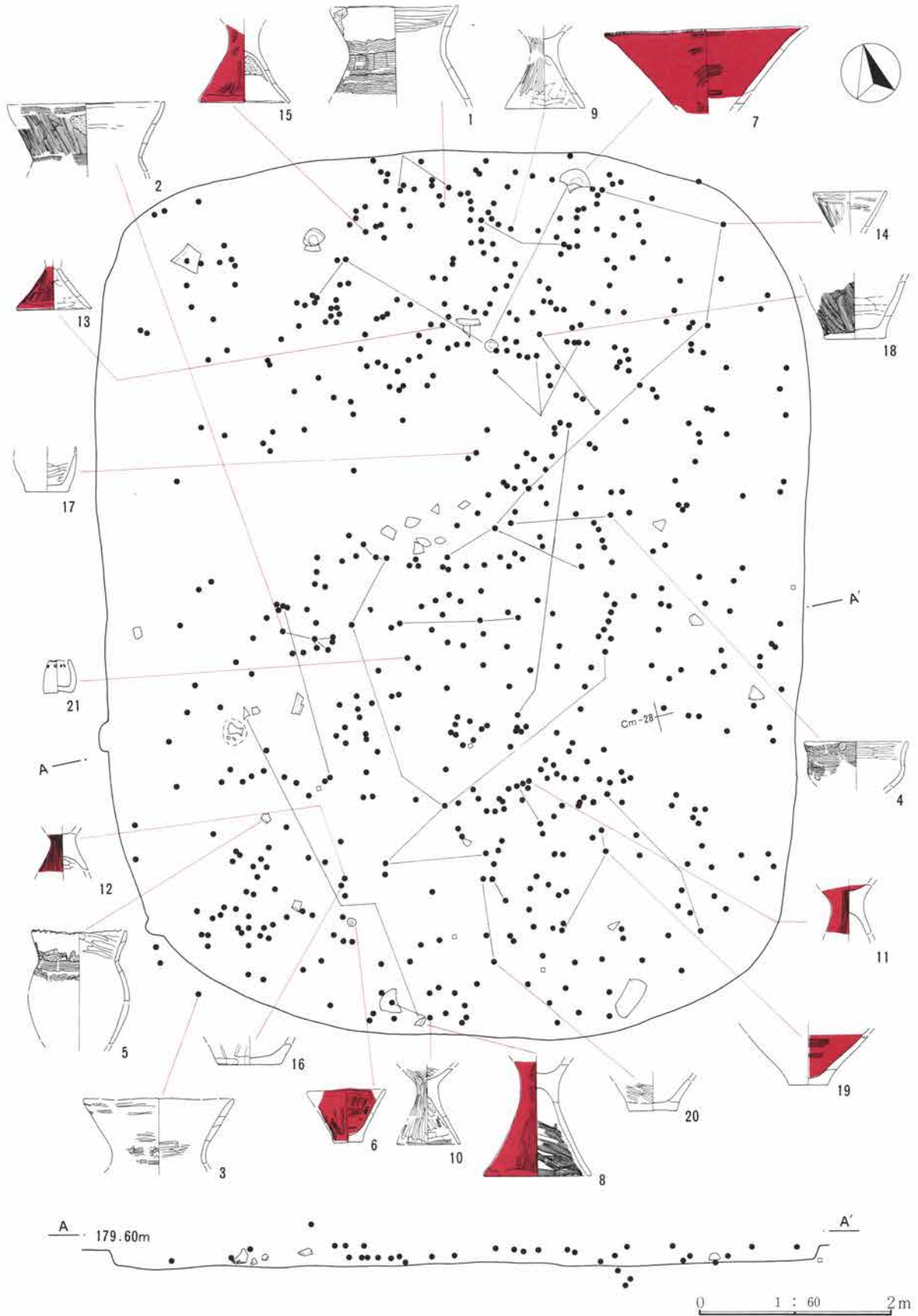
形状 長辺9.2m、短辺7.3mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-16°-E。

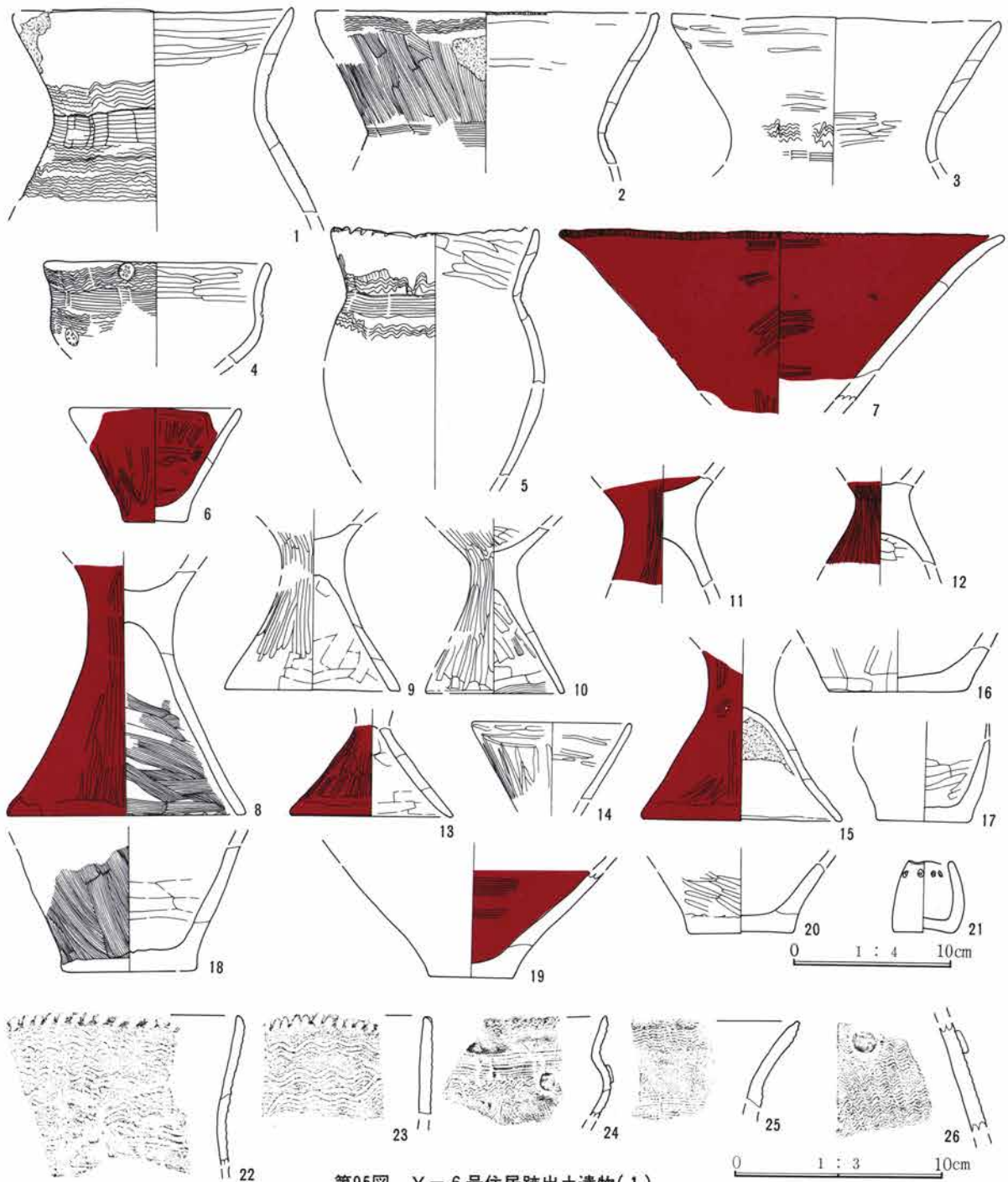
壁高 住居跡確認面より約14~20cmで床面に達す



第93図 Y-6号住居跡



第94图 Y-6号住居跡遺物分布



第95図 Y-6号住居跡出土遺物(1)

る。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約60.7m²である。

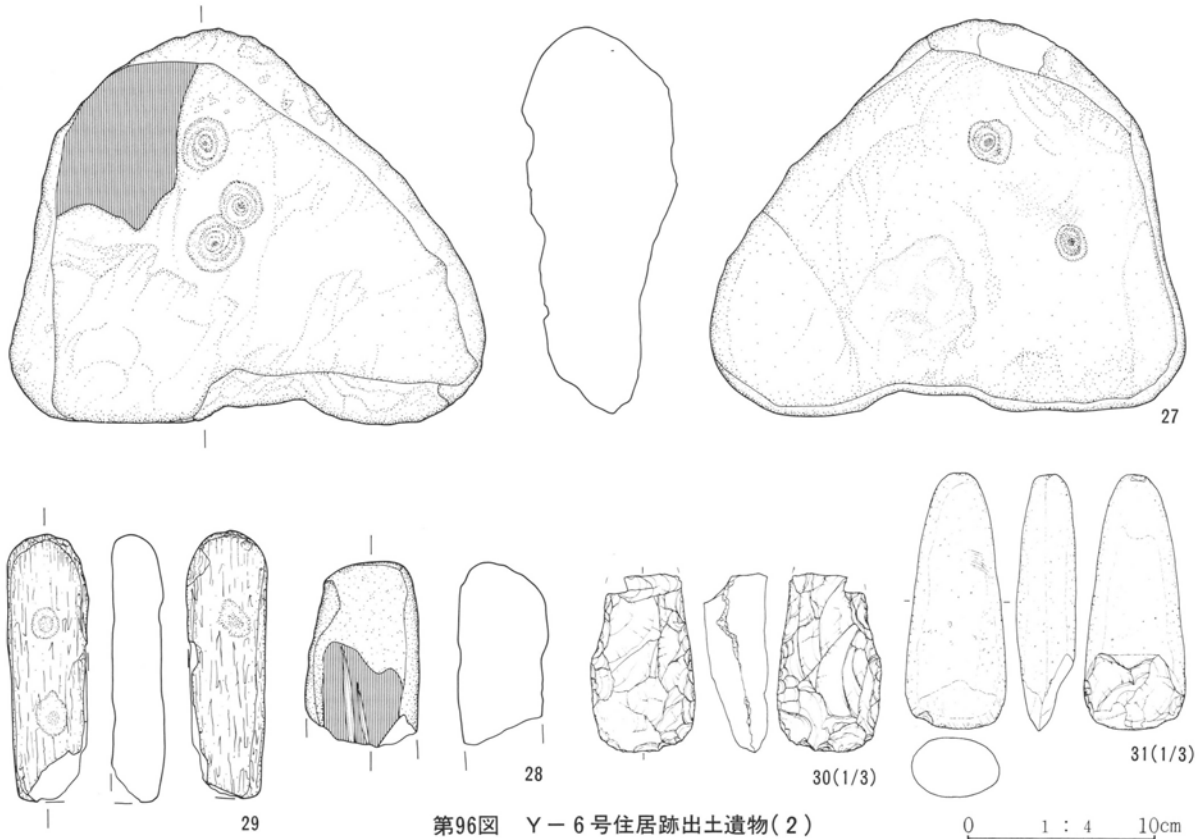
周溝 検出できなかった。

柱穴 多数のピットが検出されたが、明確な柱穴は検出することができなかった。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径70cm、短径60cm、深さ5cmの楕円形を呈する。

遺物 覆土第1・2層から遺物が出土している。口縁部片79点、頸部片168点、胴部片676点、底部片50点等である。この他に縄文前期から中期土器片38点、土師器・須恵器片36点、礫20点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第96図 Y-6号住居跡出土遺物(2)

Y-6号住居跡遺物観察表(①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
95-1 131	甕	①16.3 ②13.9	口縁部はやや受け口状	外 波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、炭化物附着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡北壁寄り 胴下半欠
95-2 131	甕	①21.8 ②9.5	口縁部はやや受け口状	外 口辺部は波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、炭化物附着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄褐色	住居跡西部分 口縁～頸部1/2
95-3 131	甕	①21.0 ②9.9		外 ミガキ、波状文。頸部は等間隔止め←簾状文。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	住居跡西部 口縁～頸部1/3
95-4 131	台付甕	①14.2 ②5.9		外 波状文、2連止め←簾状文。刺突のある円形浮文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡中央部 口縁部ほぼ全周
95-5 131	甕	①13.2 ②15.0	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい赤褐色	住居跡西部分 胴下半欠損
95-6 131	鉢	①10.8 ②7.2③4.2		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 暗赤色	住居跡南壁寄り ほぼ完形
95-7 131	高坏	①28.0 ②11.4		外 口唇部に刻み目、赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡北壁寄り 脚部欠
95-8 131	高坏	②15.7 ③15.2		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡南壁寄り 脚部全周
95-9 131	高坏	②10.7 ③11.2		外 ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡北壁寄り 脚部全周
95-10 131	高坏	②11.3 ③9.0		外 ミガキ。 内 ハケメ、ナデ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡南壁寄り 脚部2/3
95-11 131	高坏	②6.8		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡南部分 脚部全周
95-12 131	高坏	②5.0		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡南壁寄り 脚部全周
95-13 131	高坏	②5.6 ③10.5		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡北部分 脚部1/2
95-14 131	柑	①4.8 ②10.1	口辺部は弱く内湾	外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄褐色	住居跡北東コーナー 口縁1/2
95-15 131	高坏	②10.6 ③12.6		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤色	住居跡北壁寄り 脚部全周

Y-6号住居跡遺物観察表(①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
95-16 131	壺	②2.7 ③8.4	底部	外 ミガキ。底面の磨耗少ない。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡南壁寄り 底部2/3			
95-17 131	甕	②5.2 ③5.8	底部	外 ミガキ。磨面の磨耗少ない。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡中央部 底部全周			
95-18 131	壺	②7.9 ③8.6	底部	外 ハケメ。底面ケズリ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡北部 底部全周			
95-19 131	壺	②6.8 ③5.4	底部	外 ミガキ。底面の磨耗は少ない。 内 赤色塗彩、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡南壁寄り 底部全周			
95-20 131	甕	②4.0 ③7.0	底部	外 ミガキ。底面磨耗。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡南壁寄り 底部全周			
95-21 131	小型	①2.7 ②4.4③3.8		外 ナデ。 内 ナデ。	雲母を含む 良 褐色	住居跡中央部 完形			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
95-22 131	甕	厚 4		外 口唇部刻み目。波状文、簾状文。器面荒。	粗砂を含む	やや良	赤褐色	覆土	
95-23 131	甕	厚 5		外 口唇部刻み目。波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	におい赤褐色	覆土	
95-24 131	台付甕	厚 3		外 波状文、2連止め簾状文、貼付文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	暗褐色	覆土	
95-25 131	甕	厚 6		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	黒褐色	覆土	
95-26 131	壺	厚 6		外 波状文、貼付文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	におい橙 色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
96-27 131	凹石 (台石)	完形	砂岩	21.0	25.0	8.0	4,459	両面に4個の凹みが認められる。	覆土
96-28 131	砥石	2/3	砂岩	(9.7)	5.8	4.7	(358)	両面に太い条痕が認められる。	覆土
96-29 131	凹石 (縄文)	一部欠損	石墨絹雲母片 岩	(14.0)	4.0	2.6	(286)	両面に3個の凹みが認められる。	覆土
96-30 131	打製石斧	基部欠損	熱変成岩	(9.6)	5.6	3.3	(173.5)	撥型。	覆土
96-31 131	磨製石斧	完形	輝岩	13.6	5.3	3.1	317.9		覆土

Y-7号住居跡(第97・98図、PL.26・131)

位置 Cm・Cn・Co-22グリッドにかけて検出された。

Y-11号住居跡の東南約11mの所に位置している。

重複 Y-11号住居跡と重複している。また1号墳の周堀によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築されている。

形状 路線外に住居跡が延びているために完掘することはできなかった。現状では長辺6.2m、短辺3.5mであり、隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 N-110°-W。

壁高 住居跡確認面より約60cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。全体的に非常に硬い貼床面

である。面積は現状で約13.4m²である。

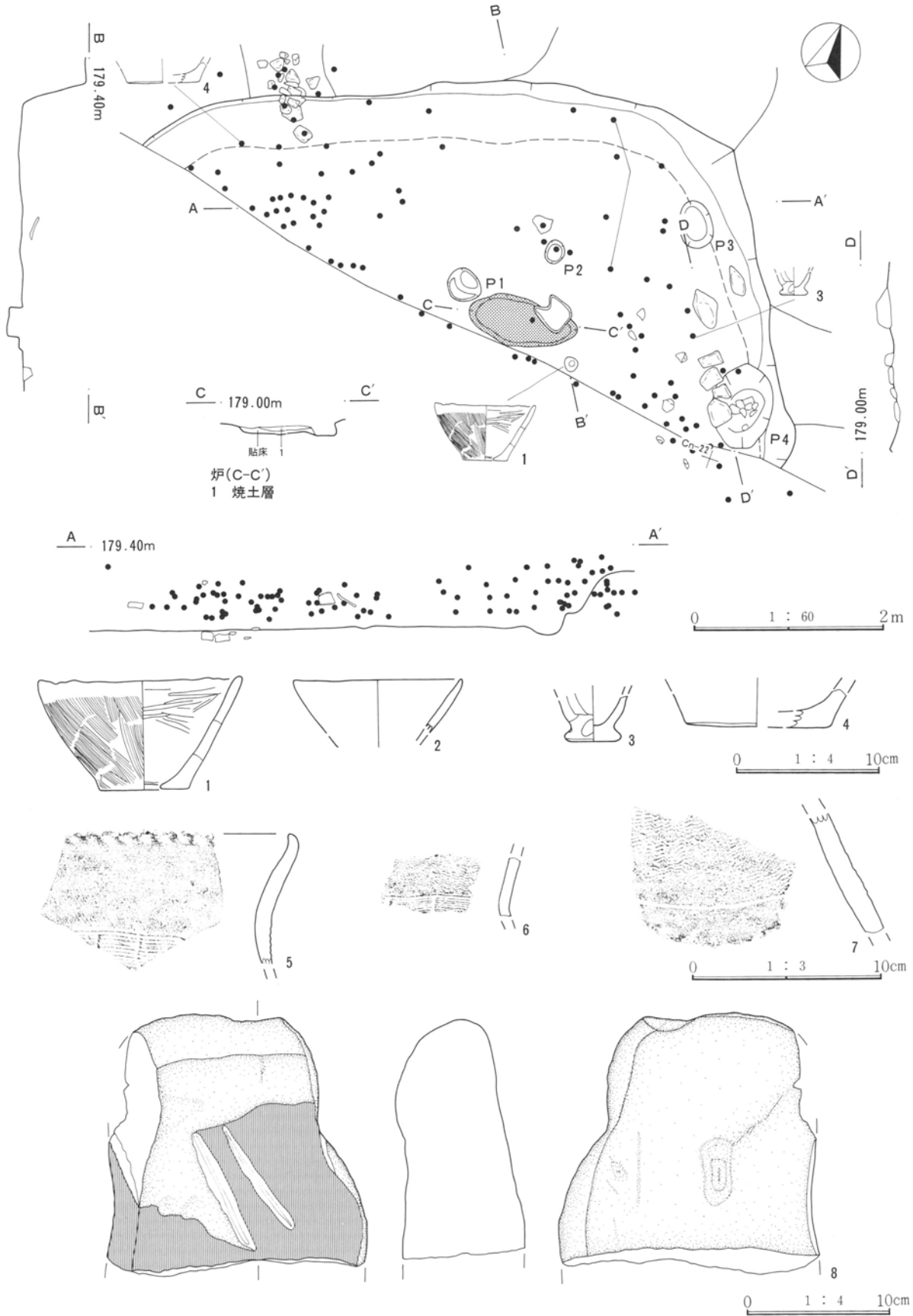
周溝 検出できなかった。

柱穴 総計4個のピットが検出された。P1は炉に接し、またP3・P4は東壁に接している。P1の深さは21cm、P2深さ30cm、P3深さ14cm、P4深さ36cmである。P4は出入り口部の施設になる可能性がある。

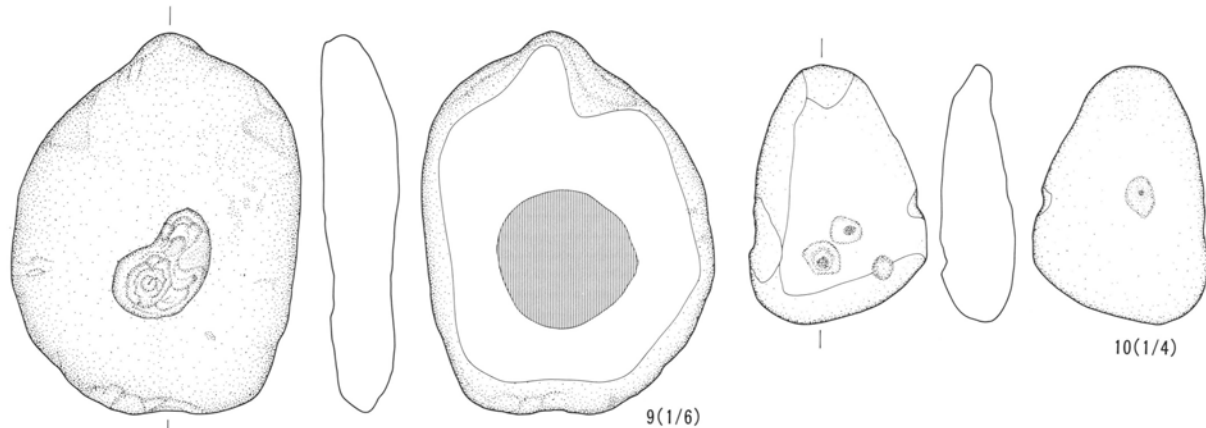
炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径116cm、短径50cm、深さ8cmの長楕円形を呈する。

遺物 覆土上層から遺物が出土している。口縁部片21点、頸部片53点、胴部片224点、底部片6点等が出土し、この他に縄文中期土器片289点、礫15点も出土した。また東壁寄り床面に礫6個が配置されていた。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第97图 Y-7号住居跡と出土遺物(1)



第98図 Y-7号住居跡出土遺物(2)

Y-7号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
97-1 131	鉢	①14.0 ②7.8③6.1		外 ハケメ、ナデ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	床直上 逆位 底部穿孔			
97-2 131	高坏	①11.8 ②3.2		外 赤色塗彩の痕跡。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄褐色	覆土 口縁部1/3			
97-3 131	手捏	②3.4 ③3.0		外 ナデ、指オサエ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	覆土 1/2			
97-4 131	甕	②2.6 ③10.2	底部	外 ミガキ。底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい赤褐色	住居跡北西コー ナー 底部全周			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
97-5 131	甕	厚6~8	受け口状口 縁	外 口唇部刻み目。頸部簾状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に 良	におい赤 褐色	覆土	
97-6 131	甕	厚5~6		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	やや良	橙色	覆土	
97-7 131	壺	厚10~11		外 波状文、沈線。 内 ミガキ。	粗砂を含む	やや良	におい黄 褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g) 全長 幅 厚 重量				特徴	出土状況
97-8 131	砥石	2/3	砂岩	(18.0)	18.0	8.5	(3,300)	大型の置砥と考えられる。太い条痕が認められる。	覆土
98-9 131	台石	完形	安山岩	30.0	22.5	5.5	6,292	片面に敲打痕と磨面が認められる。	覆土
98-10 131	凹石	完形	砂岩	13.6	9.4	3.9	443	両面に3個の凹みと磨面が認められる。	覆土

Y-8号住居跡 (第99~102図、PL.27・131・132)

位置 Dc-26・27、Dd-26・27グリッドにかけて検出された。Y-14号住居跡の南約4mの所に位置している。

重複 Y-20号住居跡と重複している。また2号掘立によって部分的に壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

形状 長辺7.7m、短辺5.7mの長方形を呈する。

方位 N-89°-W。

壁高 住居跡確認面より約16~40cmで床面に達す

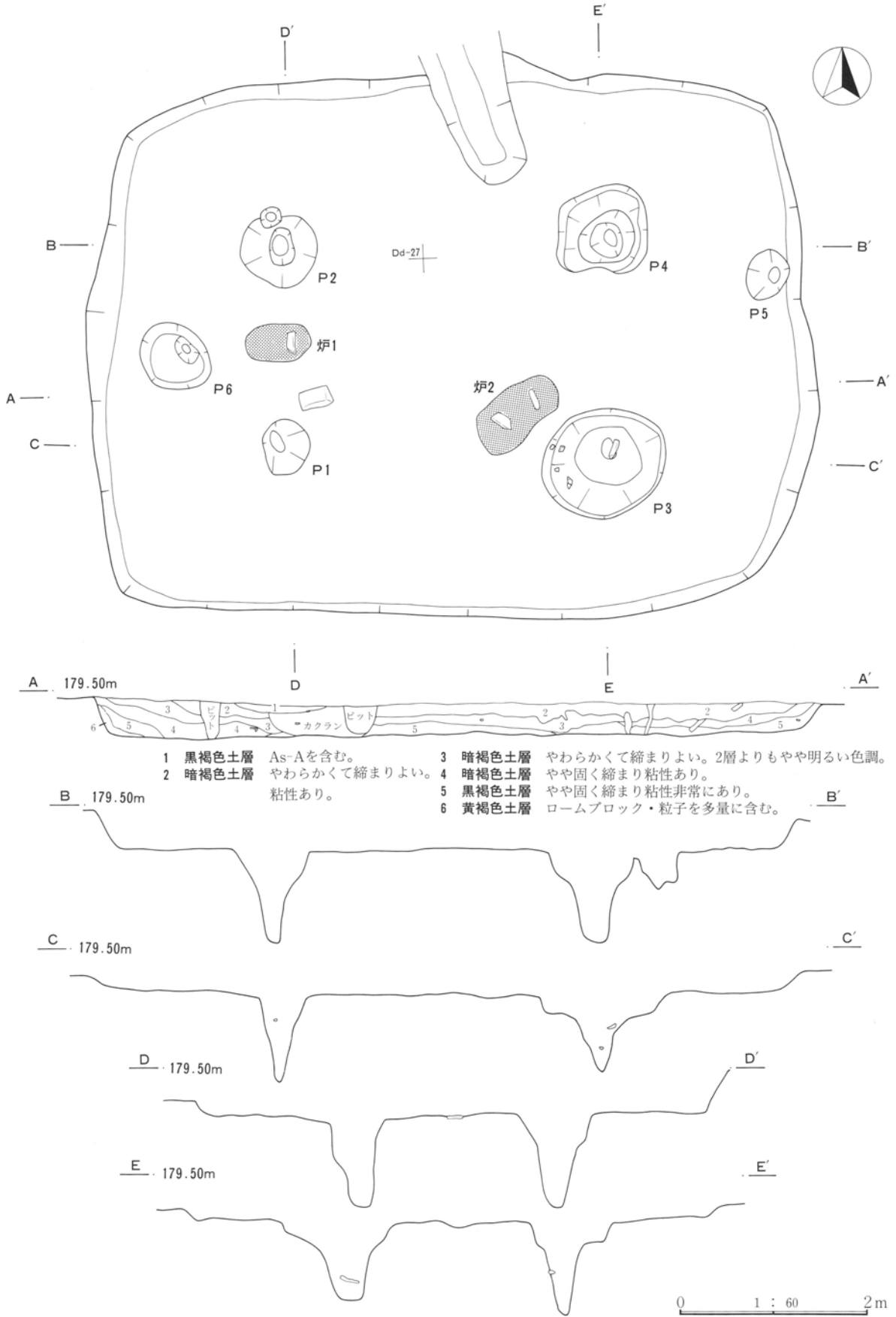
る。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。貼床である。面積は約37.3m²である。

周溝 検出できなかった。

柱穴 総計6個のピットが検出された。この内、主柱穴はP1~P4である。P1の深さは92cm、P2深さ100cm、P3深さ84cm、P4深さ98cmである。P5深さ48cmで東壁に接している。P6は炉の西約40cmの所に位置し、深さは39cmである。

炉 2箇所検出された。いずれも床面を掘り窪めた地床炉である。1は長径70cm、短径40cm、深さ5



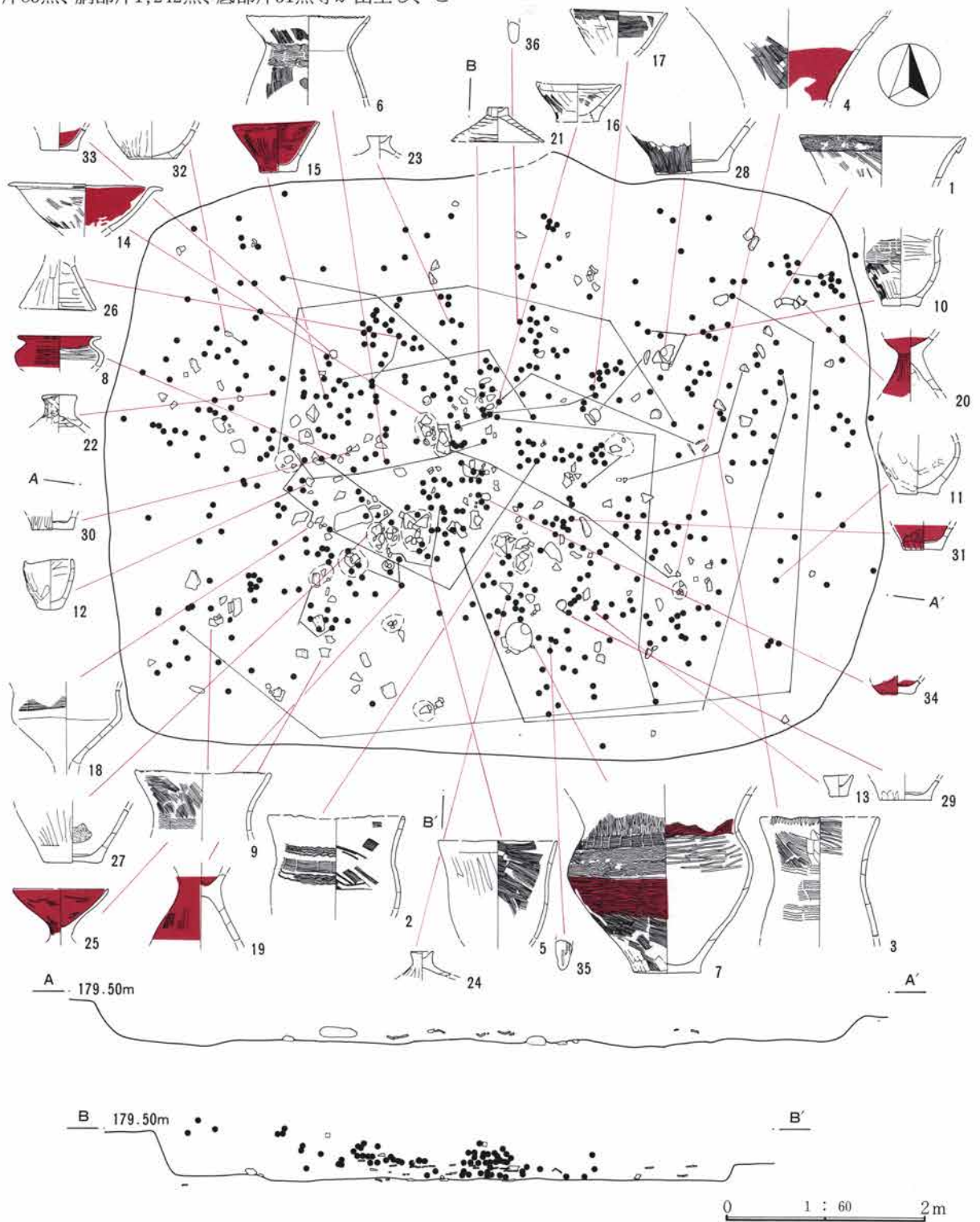
第99図 Y-8号住居跡

cmの長楕円形を呈する。東端に礫1個を配置している。2は長径100cm、短径54cm、深さ3cmの長楕円形を呈する。礫2個を配置している。

遺物 覆土から多量の遺物が出土している。口縁部片83点、胴部片1,242点、底部片51点等が出土し、こ

の他に縄文前期から中期土器片36点、土師器・須恵器片21点、礫37点が出土した。

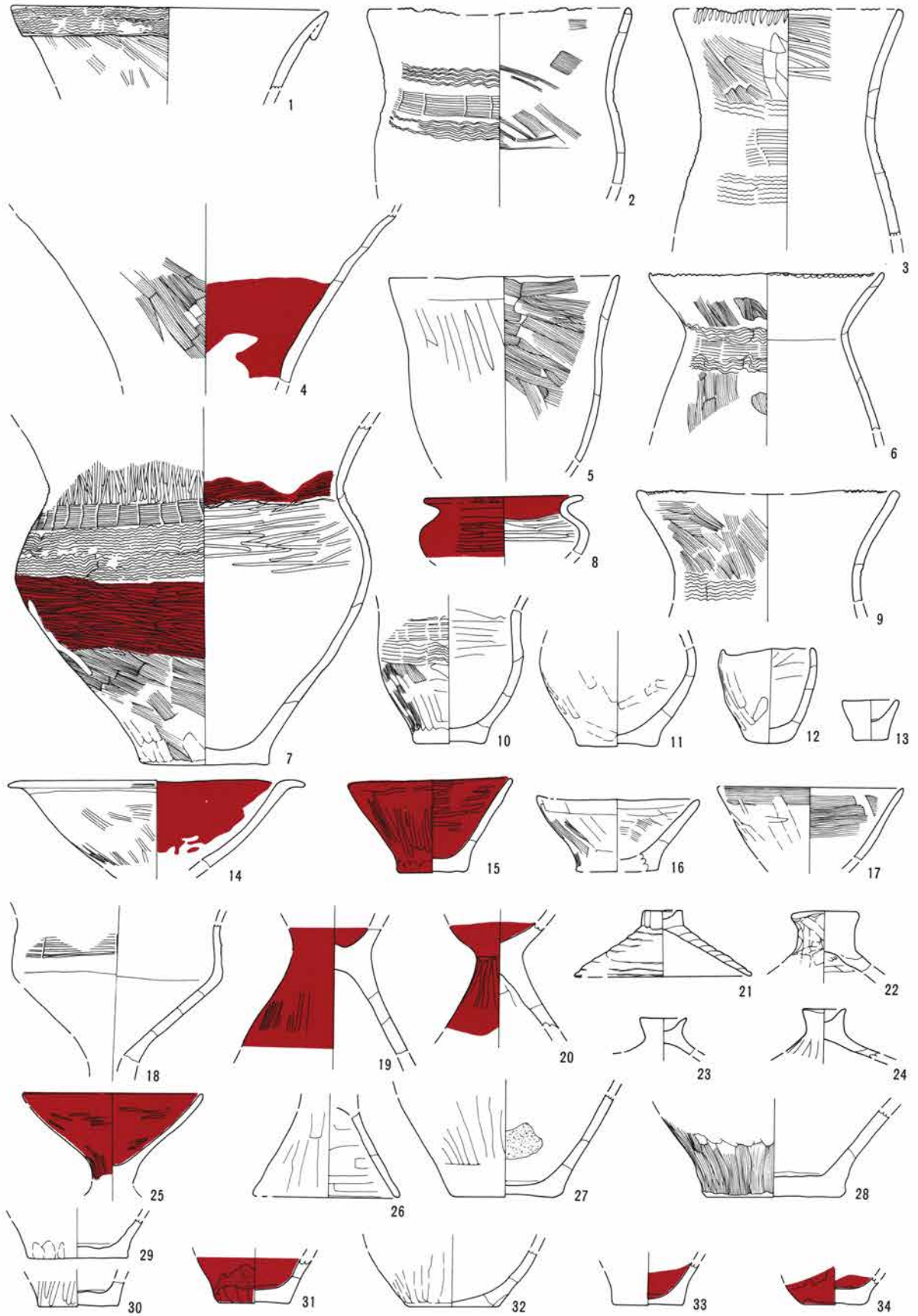
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第100図 Y-8号住居跡遺物分布

Y-8号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

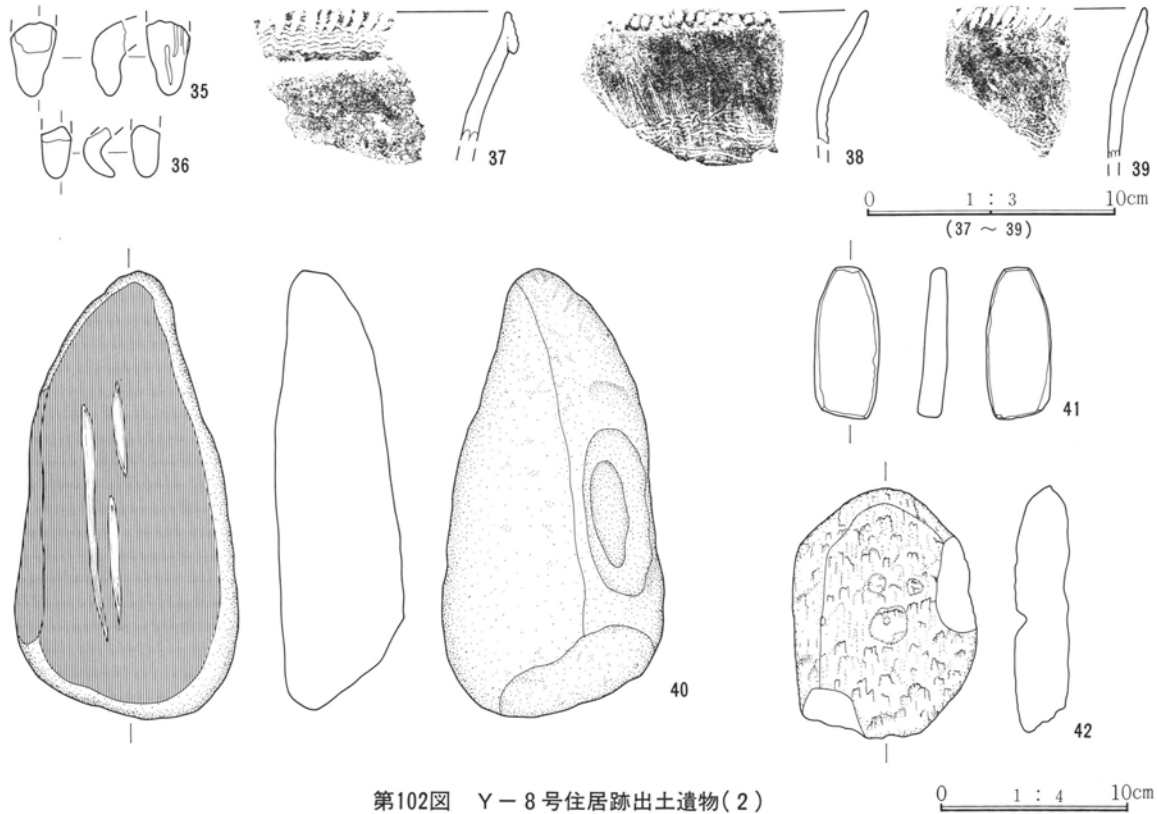
図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
101-1 131	壺	①22.0 ②5.4	折り返し口 縁	外 波状文、ハケメ、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡東壁寄 り 口縁部1/2
101-2 131	甕	①18.0 ②12.0		外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は等間隔止め←籐 状文、波状文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡中央部 口縁部1/2
101-3 131	甕	①15.7 ②16.3		外 口唇部に刻み目、ハケメ。頸部は等間隔止め←籐 状文、波状文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡東部 口縁部1/4
101-4 131	壺	②12.1		外 ハケメ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 やや良 にぶい橙色	住居跡中央部 口縁部1/3
101-5 131	甕	①15.7 ②12.9		外 ナデ、ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡中央部 口縁~胴部1/3
101-6 131	甕	①16.2 ②10.8		外 口唇部に刻み目、ハケメ。頸部は等間隔止め←籐 状文、波状文、炭化物付着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗褐色	住居跡中央部 口縁部1/2
101-7 131	甕	②23.5 ③9.0		外 頸部は等間隔止め←籐状文、波状文。胴部は赤色 塗彩、ハケメ、ミガキ。内 赤色塗彩、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 褐色	住居跡南部 口縁部欠損
101-8 132	台付甕	①10.8 ②4.1		外 口唇部に刻み目、赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡西部 口縁部片
101-9 131	甕	①18.0 ②7.2		外 口唇部に刻み目、ハケメ。頸部は波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡南西コー ナー 口縁部1/3
101-10 131	甕	②9.0 ③5.0		外 頸部は等間隔止め←籐状文、波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北東部 胴部全周
101-11 132	甕	②7.0 ③5.3		外 ミガキ。底面はあまり磨耗しない。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡東壁寄 り 底部全周
101-12 132	手捏	①6.2 ②6.7③3.2		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡西部 完形
101-13 132	ミニチュ ア	①4.0 ②2.8③2.4		外 ナデ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡南部 完形
101-14 132	高坏	①19.3 ②6.0		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡中央部 口縁部2/3
101-15 131	鉢	①11.3 ②6.5③4.6		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡西部口 縁部一部欠損
101-16 131	鉢	①11.1 ②5.4③5.1		外 ハケメ、ナデ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡中央部 半完形
101-17 132	鉢	①12.8 ②5.0		外 ナデ、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡中央部 口縁部1/2
101-18 132	台付甕	②9.8		外 頸部は等間隔止め←籐状文、ミガキ。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡西部 1/2
101-19 132	台付甕	②8.5		外 ミガキ、赤色塗彩、隆起帯を垂下。 内 ナデ、赤色塗彩。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡南部 脚部1/2
101-20 132	高坏	②7.0		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡北東コー ナー 脚部全周
101-21 132	蓋	②2.8 ③4.6④12.5		外 輪積み痕が残る。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 褐色	住居跡中央部 1/3
101-22 132	蓋	②4.5 ③4.1		外 ナデ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡南部
101-23 132	蓋	②3.2 ③2.3		外 ハケメ、ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡北部
101-24 132	蓋	②3.0 ③3.5		外 ナデ。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡南部
101-25 132	高坏	②6.3 ③12.5		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡中央部 脚部欠損
101-26 132	台付甕	②5.9 ③9.9		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡中央部 脚部1/2
101-27 132	甕	②7.0 ③7.7	底部	外 ミガキ、底面周辺磨耗。 内 ミガキ、炭化物が付着。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡中央部 底部全周
101-28 132	壺	②4.8 ③10.0	底部	外 ハケメ、底面周辺は磨耗。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡東部 底部全周
101-29 132	壺	②2.6 ③6.8	底部	外 ミガキ。 内 ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡南部 底部全周



第101図 Y-8号住居跡出土遺物(1)

0 1:4 10cm

[1] 竪穴住居跡



第102図 Y-8号住居跡出土遺物(2)

Y-8号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
101-30 132	甕	②1.6 ③5.6	底部	外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡中央部 底部2/3			
101-31 132	壺	②2.9 ③5.0	底部	外 赤色塗彩、ミガキ、炭化物付着。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡中央部 底部全周			
101-32 132	甕	②4.7 ③6.4	底部	外 ミガキ、底面の磨耗は少ない。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡西壁寄 り 底部全周			
101-33 132	鉢	②2.9 ③4.8	底部	外 ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡西部 底部全周			
101-34 132	鉢	②2.6 ③4.4	底部	外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡中央部 底部全周			
102-35 132	土製勾玉	長3.9幅2.2 厚1.7		外 ナデ、縦位の短沈線。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡南部 頭部欠損			
102-36 132	土製勾玉	長2.8幅1.5 厚0.9		外 ナデ、尾端部はやや平坦に作られる。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡北部 頭部欠損			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
102-37 132	壺	厚5~6	折り返し口 縁	外 口唇部刻み目、波状文。 内 赤色塗彩。	粗砂を含む	良	橙色	覆土	
102-38 132	甕	厚4~5		外 口唇部刻み目、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に 良	黒褐色	覆土	
102-39 132	甕	厚5~6		外 口唇部刻み目。 内 ミガキ、炭化物付着。	細砂を含む	非常に 良	暗褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
102-40 132	砥石	完形	砂岩	全長	幅	厚	重量	炉石として転用されている。片面に太い条痕が認められる。一部赤化している。	炉石
102-41 132	砥石	完形	砂岩	8.0	3.4	1.3	55	全面使用。	覆土
102-42 132	凹石 (縄文)	一部欠損	点紋緑泥片岩	(13.0)	9.5	2.8	(611)	片面に1個の凹みが認められる。全面赤化している。	覆土

Y-9号住居跡 (第103~105図、PL.28・132)

位置 Cq-23グリッドにおいて検出された。Y-13号住居跡の南約11.5mの所に位置している。

重複 なし。J-3号住居跡と接している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長辺3.3m、短辺2.6mの長方形を呈する。

方位 N-1°-E。

壁高 住居跡確認面より約16~26cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦で全体的に軟弱である。面積は約6.2

m²である。

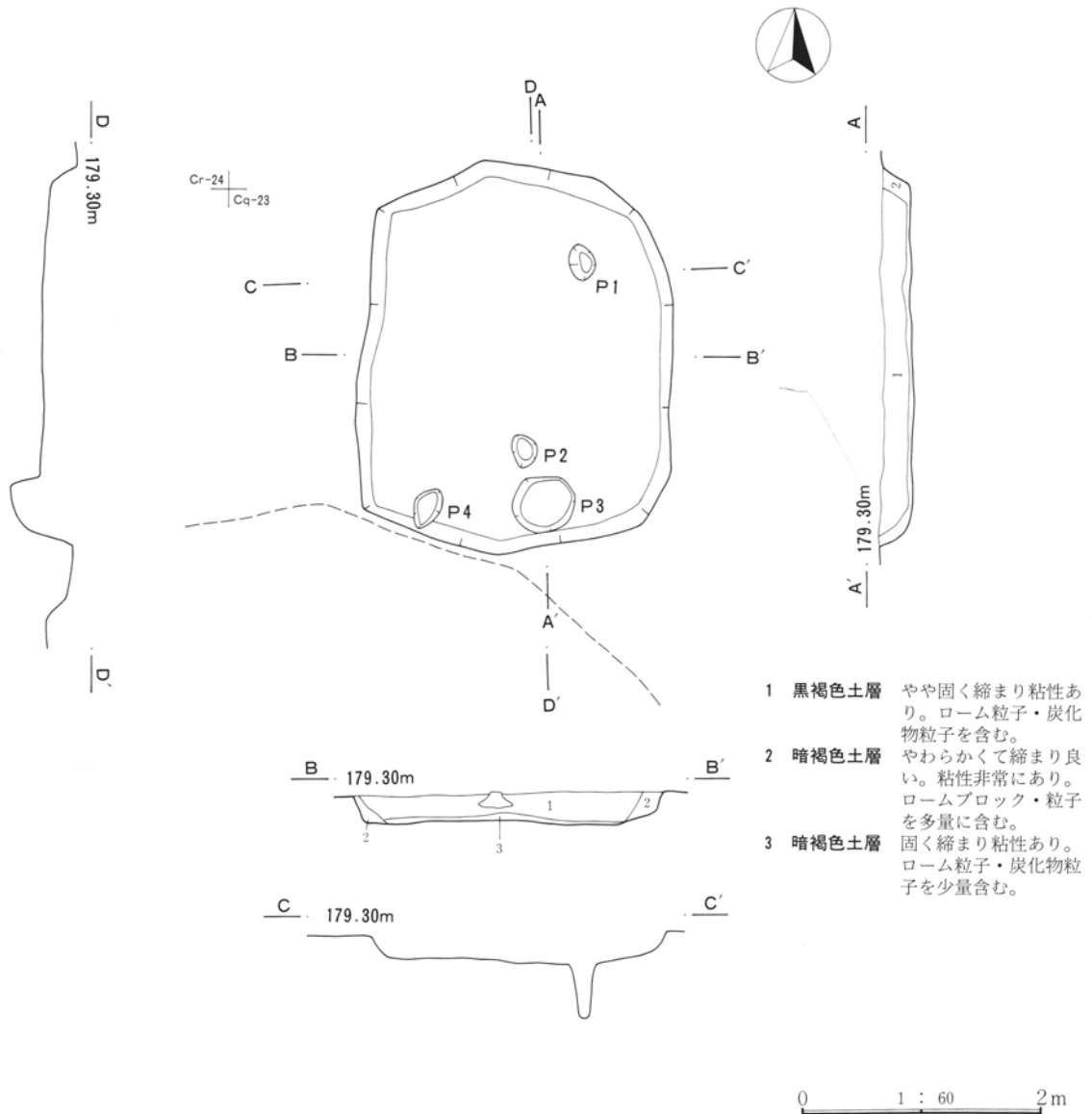
周溝 検出できなかった。

柱穴 総計4個のピットが検出された。この内、P3・P4は南壁に接している。P1の深さは44cm、P2深さ13cm、P3深さ25cm、P4深さ18cmである。

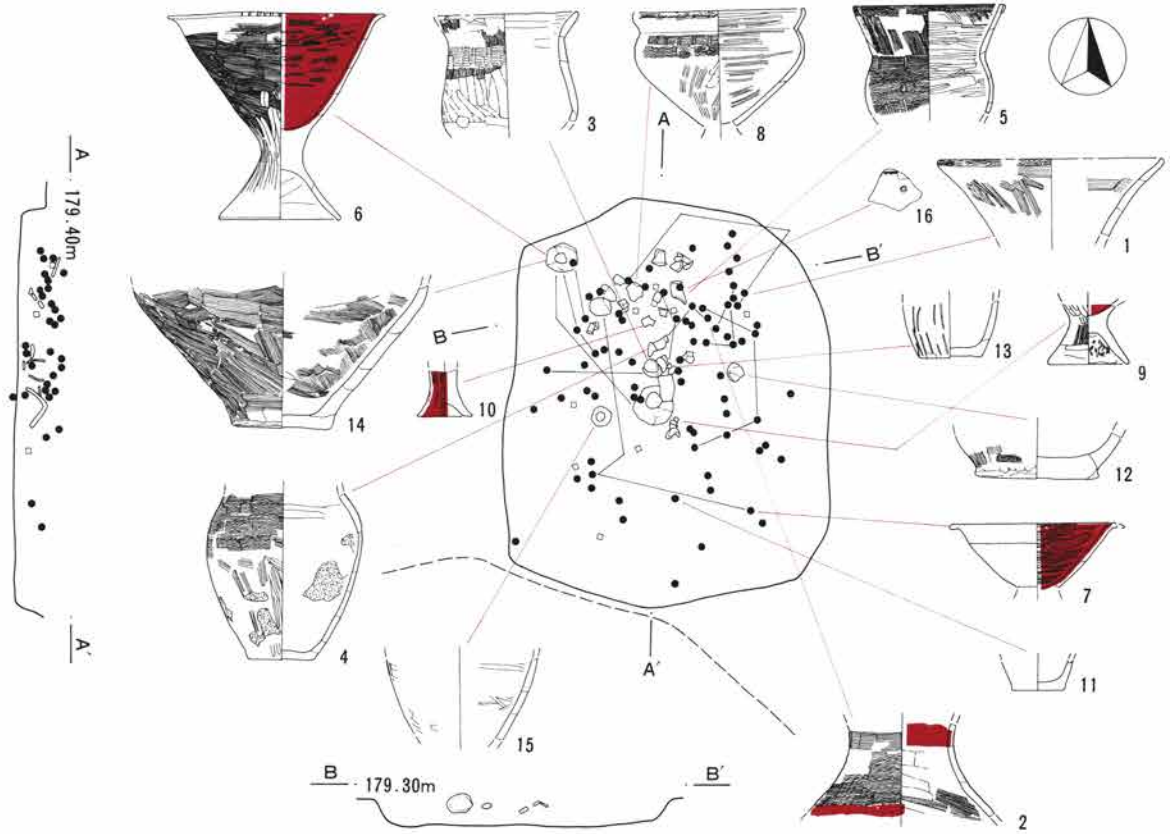
炉 床面からは焼土等の痕跡は検出できなかった。

遺物 覆土第1層から多量の遺物が出土している。口縁部片8点、胴部片145点、底部片7点等が出土し、この他に縄文中期土器片32点、礫7点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第103図 Y-9号住居跡

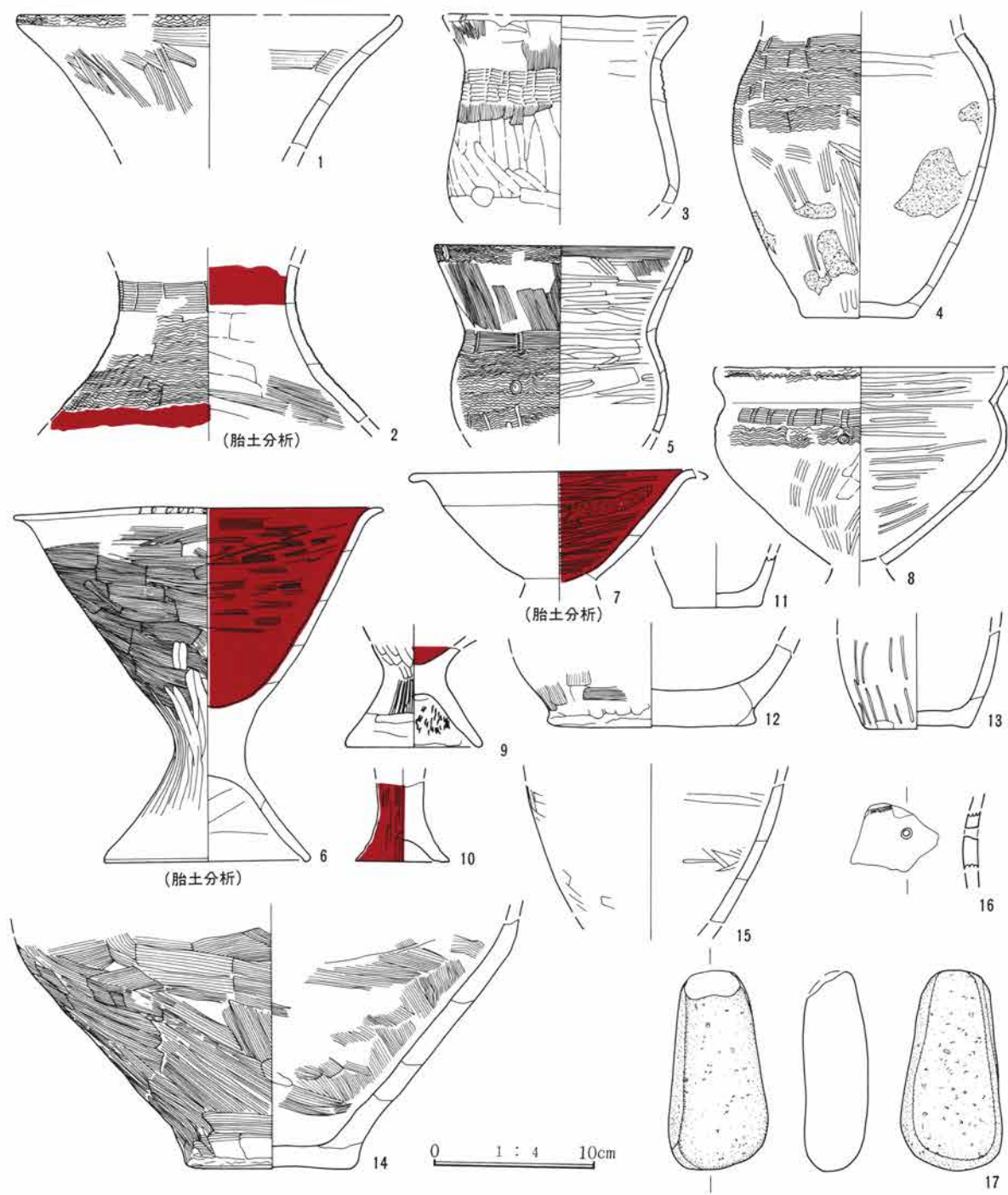


第104図 Y-9号住居跡遺物分布

0 1 : 60 2m

Y-9号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
105-1 132	壺	①23.7 ②8.1	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に波状文、ハケメ。 内 ハケメ。	中粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	住居跡北壁寄り 口縁部1/4
105-2 132	壺	②10.4		外 頸部は等間隔止め←籐状文、波状文、赤色塗彩。 内 頸部は赤色塗彩、ハケメ。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	住居跡南壁寄り
105-3 132	甕	①15.2 ②12.3	口縁部はやや外反	外 口辺部はハケメ。頸部は2連止め、等間隔止め←籐状文。胴部はケズリ。内 ハケメ。	中粒の砂を混入 良 ぶい褐色	住居跡中央部 胴下半欠損
105-4 132	甕	②17.3 ③6.7		外 頸部は2連止め←籐状文、波状文、炭化物付着。底面は磨耗。内 丁寧なミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡北壁寄り 口縁～頸部欠
105-5 132	甕	①15.8 ②11.6		外 口唇部に波状文、円形浮文、ハケメ。頸部は2連止め←籐状文、波状文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡北壁寄り 口縁部1/2
105-6 132	高坏	①23.3 ②22.0③13.0		外 口唇部に刻み目、ハケメ、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡北西コーナー 完形
105-7 132	高坏	①17.5 ②6.7		外 ナデ、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡南部分 脚部欠損
105-8 132	台付甕	①18.4 ②12.2	口縁部は内湾	外 口唇部に波状文。頸部は2連止め←籐状文、波状文、円形浮文、ミガキ。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	住居跡北部 口縁部1/3
105-9 132	高坏	②6.4 ③8.5		外 ミガキ。 内 赤色塗彩、刺突。	中粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡中央部 脚部全周
105-10 132	高坏	②4.9 ③5.9		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡中央部 脚部全周
105-11 132	甕	②3.2 ③5.3	底部	外 ミガキ。底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡南部分
105-12 132	壺	②4.5 ③13.0	底部	外 ハケメ。底面はケズリ。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	住居跡中央部



第105図 Y-9号住居跡出土遺物

Y-9号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
105-13 132	甕	②5.9 ③6.3	底部	外 ナデ、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡中央部 底部全周			
105-14 132	壺	②15.5 ③10.8	底部	外 ハケメ。底面周辺磨耗。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡中央部 底部全周			
105-15 132	甕	②8.5		外 ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡中央部 胴上・底部欠損			
105-16 132	甕	長3.9幅4.2 厚0.9		外 頸部は←簾状文、径5mm補修孔。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡北壁寄り 頸部片			
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g) 全長 幅 厚 重量			特徴	出土状況	
105-17 132	磨石	一部欠損	安山岩	(18.4)	6.2	4.0	(450)	一部赤化している。	覆土

Y-10号住居跡 (第106・107図、PL.29・132)

位置 Cg-30、Ch-30・31グリッドにかけて検出された。Y-5号住居跡の南東約3.5mの所に位置している。

重複 H-2号住居跡によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築されている。

形状 現状では長辺6.1m、短辺(3.8)mで長方形を呈すると考えられる。

方位 N-48°-W。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約12.3m²である。

周溝 検出できなかった。

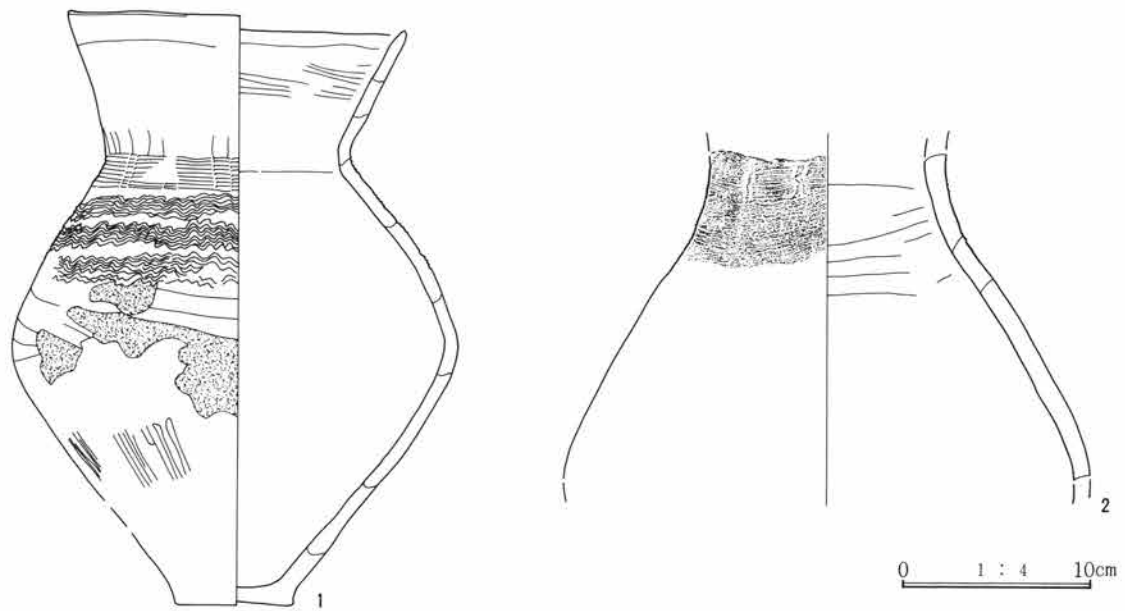
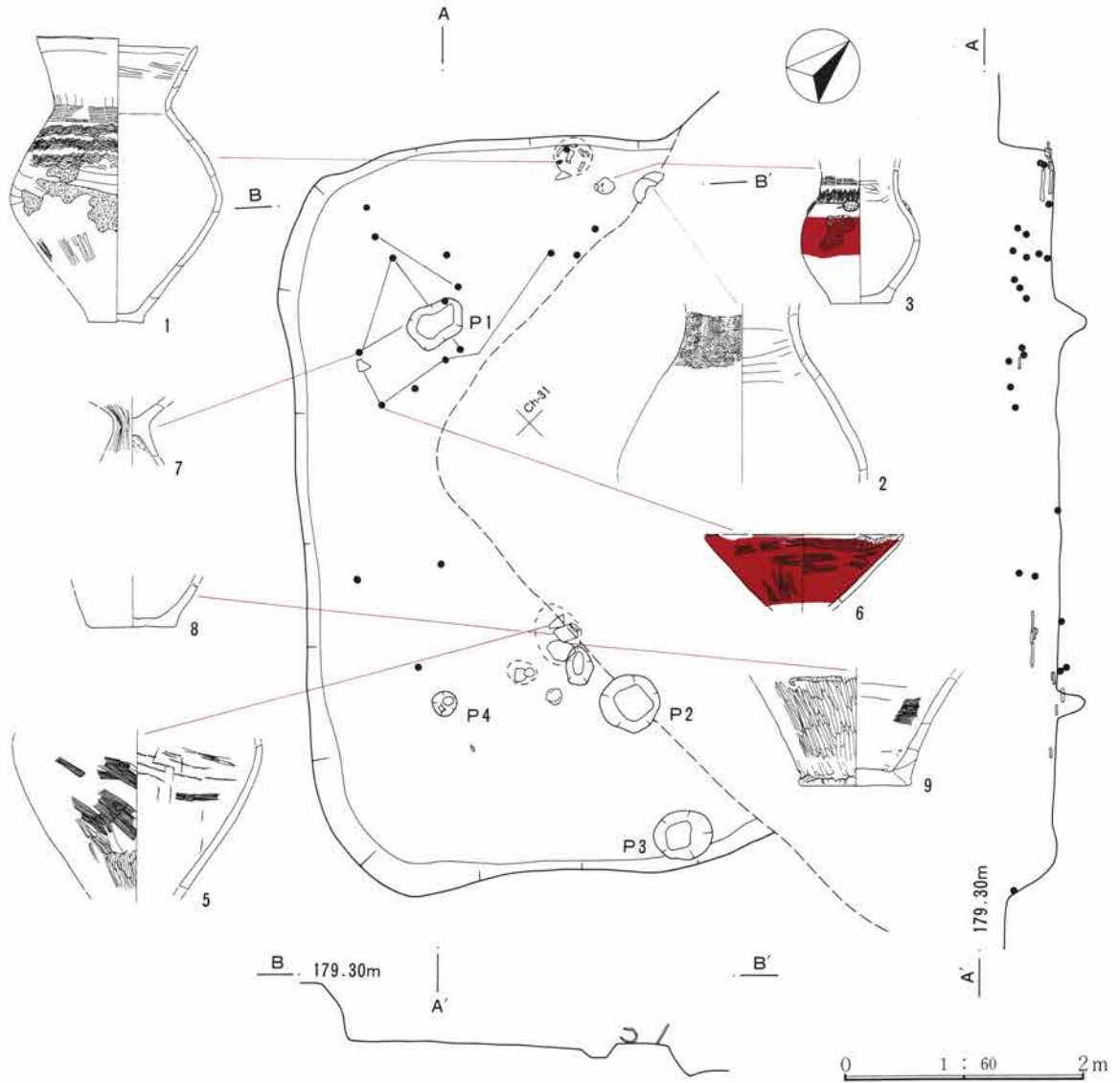
柱穴 総計5個のピットが検出された。P1の深さは20cm、P2深さ35cm、P3深さ30cm、P4深さ20cmである。

炉 床面からは焼土等の痕跡は検出できなかった。

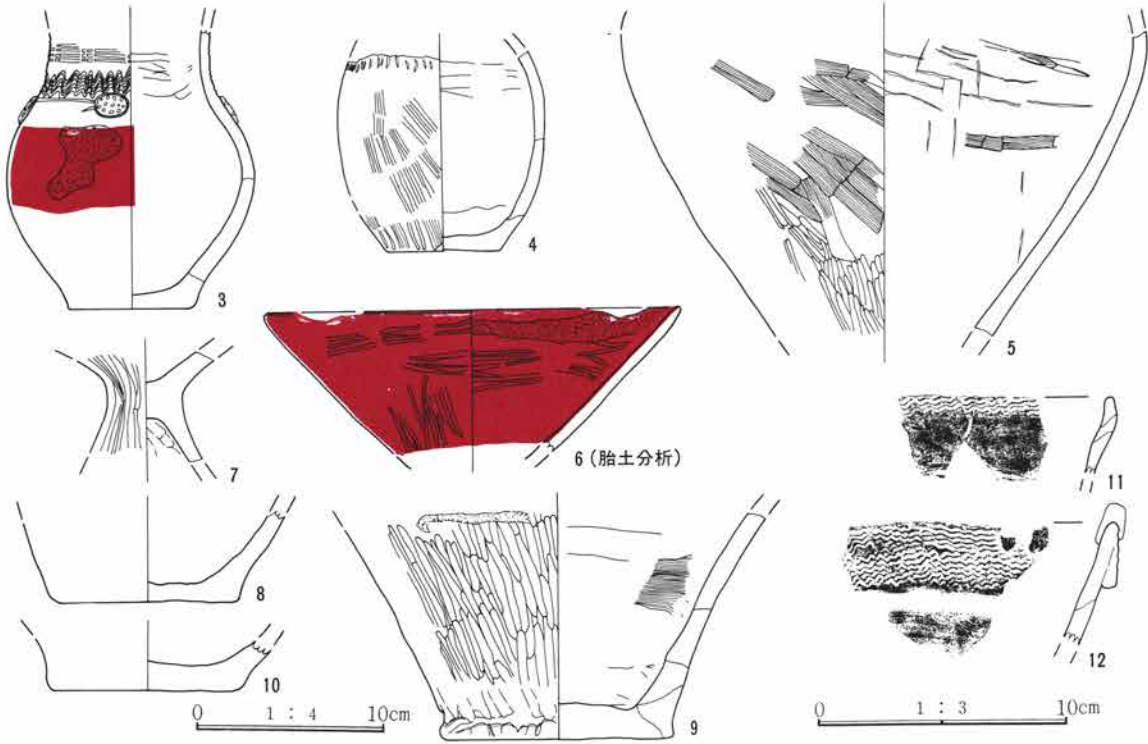
遺物 覆土上層と床面からも遺物が出土している。口縁部片6点、頸部片20点、胴部片62点、底部片6点等が出土し、縄文中期土器片25点、礫4点が出土した。

備考 当住居跡内には水道管が埋設されていたために、この部分については掘り残してある。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第106図 Y-10号住居跡と出土遺物(1)



第107図 Y-10号住居跡出土遺物(2)

Y-10号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
106-1 132	甕	①18.1 ②31.4③6.2		外 口辺部はミガキ。頸部は2連止め+簾状文、波状文、炭化物付着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 暗褐色	住居跡北壁下 ほぼ完形		
106-2 132	壺	②17.7		外 頸部は2連止め+簾状文、波状文。胴部はミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡北壁寄り 頸~胴部1/2		
107-3 132	壺	②14.8 ③6.5		外 頸部は4連止め+簾状文、波状文、刺突のある円形浮文。胴部は赤色塗彩、ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡南部 口縁部欠損		
107-4 132	甕	②10.5 ③6.0		外 爪形の刺突、ミガキ。底面の磨耗は少ない。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	覆土 底部全周		
107-5 132	壺	②16.0		外 ハケメ、ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡南部 胴部片		
107-6 132	高坏	①22.0 ②7.5		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡西部 口縁部1/3		
107-7 132	台付甕	②5.7		外 ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡西壁寄り 脚部全周		
107-8 132	壺	②4.5 ③9.3	底部	外 ミガキ。底面は荒れている。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡南部 底部全周		
107-9 132	壺	②12.2 ③12.5	底部	外 ナデ、ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡南部 底部3/4		
107-10 132	壺	②2.5 ③10.0	底部	外 ミガキ。底面は荒れている。 内 剥落している。	粗粒の砂を混入 良 赤褐色	住居跡西壁寄り 底部全周		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
107-11 132	甕	厚3~6	受け口状口縁	外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	にぶい黄褐色	覆土
107-12 132	壺	厚7	折り返し口縁	外 波状文、貼付。 内 ミガキ。	粗砂を含む	やや良	明赤褐色	覆土

Y-11号住居跡 (第108・109図、PL.29・132)

位置 De・Df-29グリッドにかけて検出された。Y-28住居跡の南東約1.5mの所に位置している。

重複 7号墳周堀によって南部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

形状 現状では長辺(3.4)m、短辺4.8mで隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 N-17°-W。

壁高 住居跡確認面より約32cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約12.4㎡で

ある。

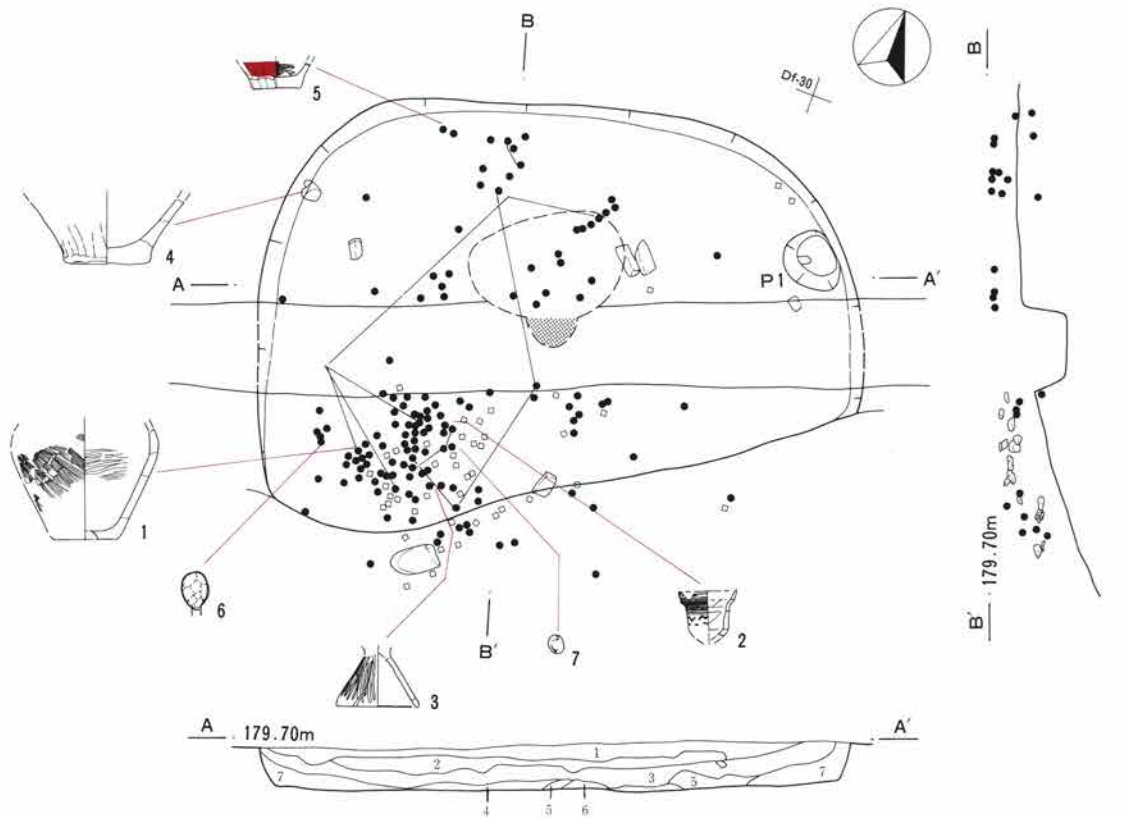
周溝 検出できなかった。

柱穴 1個のピットが検出された。これの深さは19cmである。東壁に接している。

炉 床面から焼土の痕跡が認められた。溝によって壊されている。

遺物 覆土上層から遺物が出土している。口縁部片4点、胴部片206点、底部片8点等である。ただし南部分から出土している礫は、7号墳の周堀に伴うものであろう。

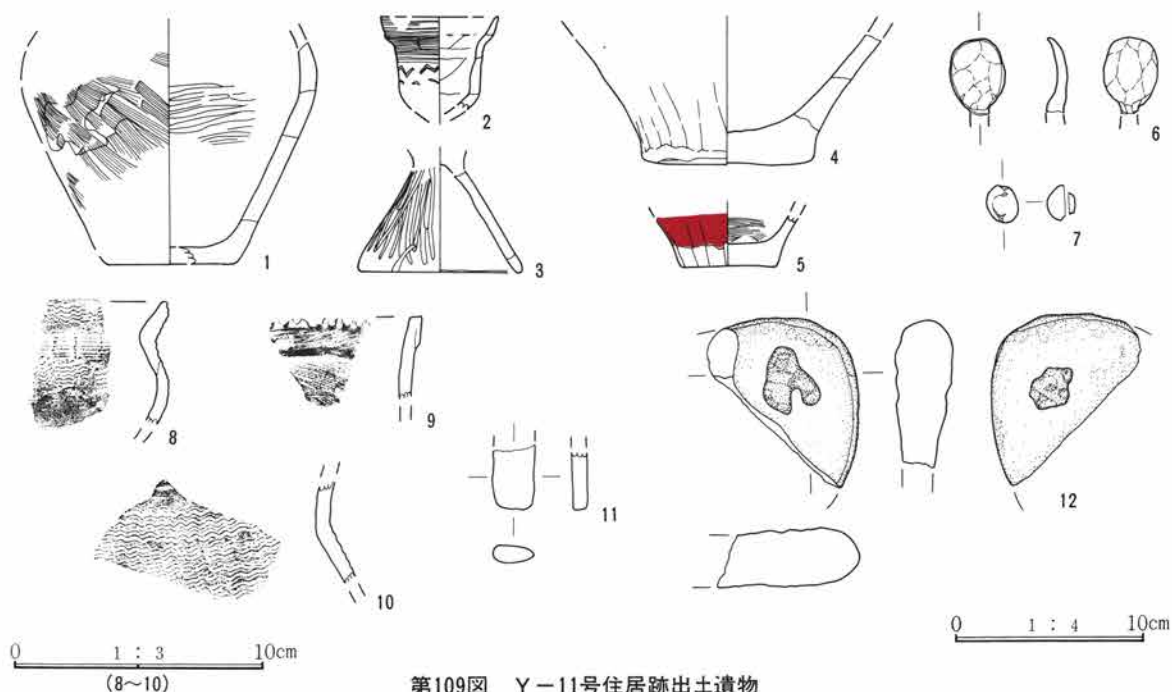
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



- 1 暗褐色土層 締まり良い。やや黒味がかっている。
- 2 暗褐色土層 締まり良く粘性あり。ローム粒子を含む。1層よりやや明るい色調。
- 3 暗褐色土層 締まり良く粘性あり。1・2層よりも黒色味を増す。
- 4 暗褐色土層 ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 締まりややあり。ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土層 ロームブロックを多量に含む。
- 7 暗褐色土層 ローム粒子を含む。

0 1 : 60 2m

第108図 Y-11号住居跡



第109図 Y-11号住居跡出土遺物

Y-11号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
109-1 132	甕	②11.4 ③6.9		外 ハケメ、ミガキ、炭化物付着。底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡西部 底部全周			
109-2 132	小型	①6.4 ②4.9	口縁部は受け口状	外 口縁部は横位の沈線。胴部は山形の沈線。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡西部 口縁～胴部1/2			
109-3 132	高坏	②5.5 ③8.7		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡西部 脚部全周			
109-4 132	壺	②7.6 ③9.2	底部	外 ミガキ。底面周辺は磨耗。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡北壁寄り 底部全周			
109-5 132	甕	②2.5 ③5.0	底部	外 赤色塗彩の痕跡。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡北壁寄り 底部全周			
109-6 132	匙	長4.1幅2.9 厚0.5		外 ナデ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡西壁寄り 一部欠損			
109-7 132		長1.9幅1.6 厚1.6		外 ナデ、長軸にそって穿孔。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡西部 完形			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
109-8 132	台付甕	厚4～5		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	灰黄褐色	覆土	
109-9 132	甕	厚5	折り返し口縁	外 口唇部刻み目。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	赤褐色	覆土	
109-10 132	甕	厚5～7		外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	にぶい黄橙色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
109-11 132	砥石	2/3	砂岩	(3.1)	2.3	0.8	(8)	両面使用。	覆土
109-12 132	凹石	1/3	砂岩	(8.1)	(7.6)	3.2	(194)	両面に敲打痕が認められる。	覆土

Y-12号住居跡 (第110~112図、PL.30・132・133)

位置 Dg-34・35、Dh-34・35グリッドにかけて検出された。Y-21号住居跡の北約11mの所に位置している。

重複 土坑によってその一部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

形状 長辺5.3m、短辺3.6mで隅丸長方形を呈する。

方位 N-58°-W。

壁高 住居跡確認面より約30~54cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約16m²である。

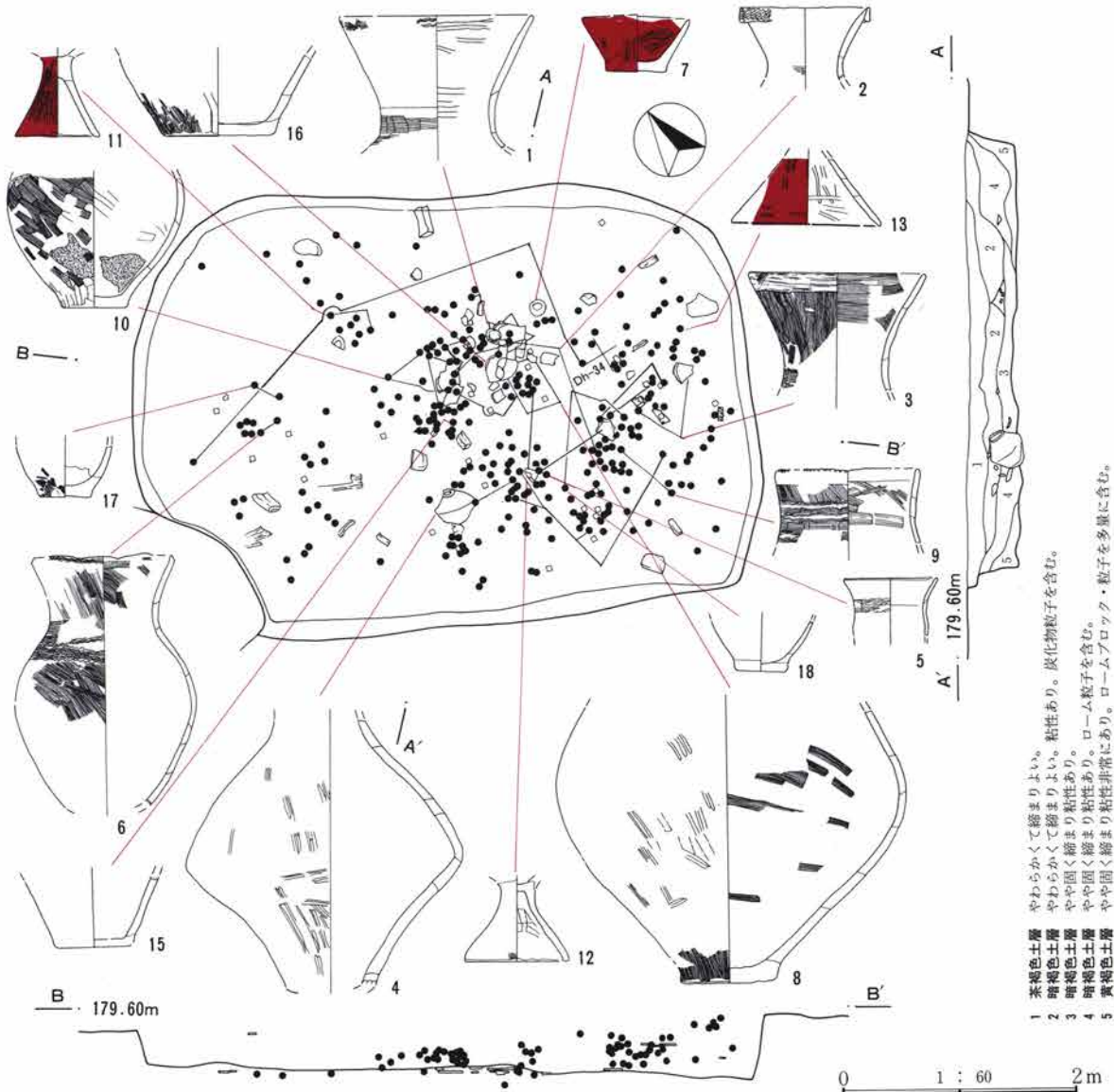
周溝 検出できなかった。

柱穴 明瞭なピットは検出できなかった。

炉 床面からは焼土等の痕跡は検出できなかった。

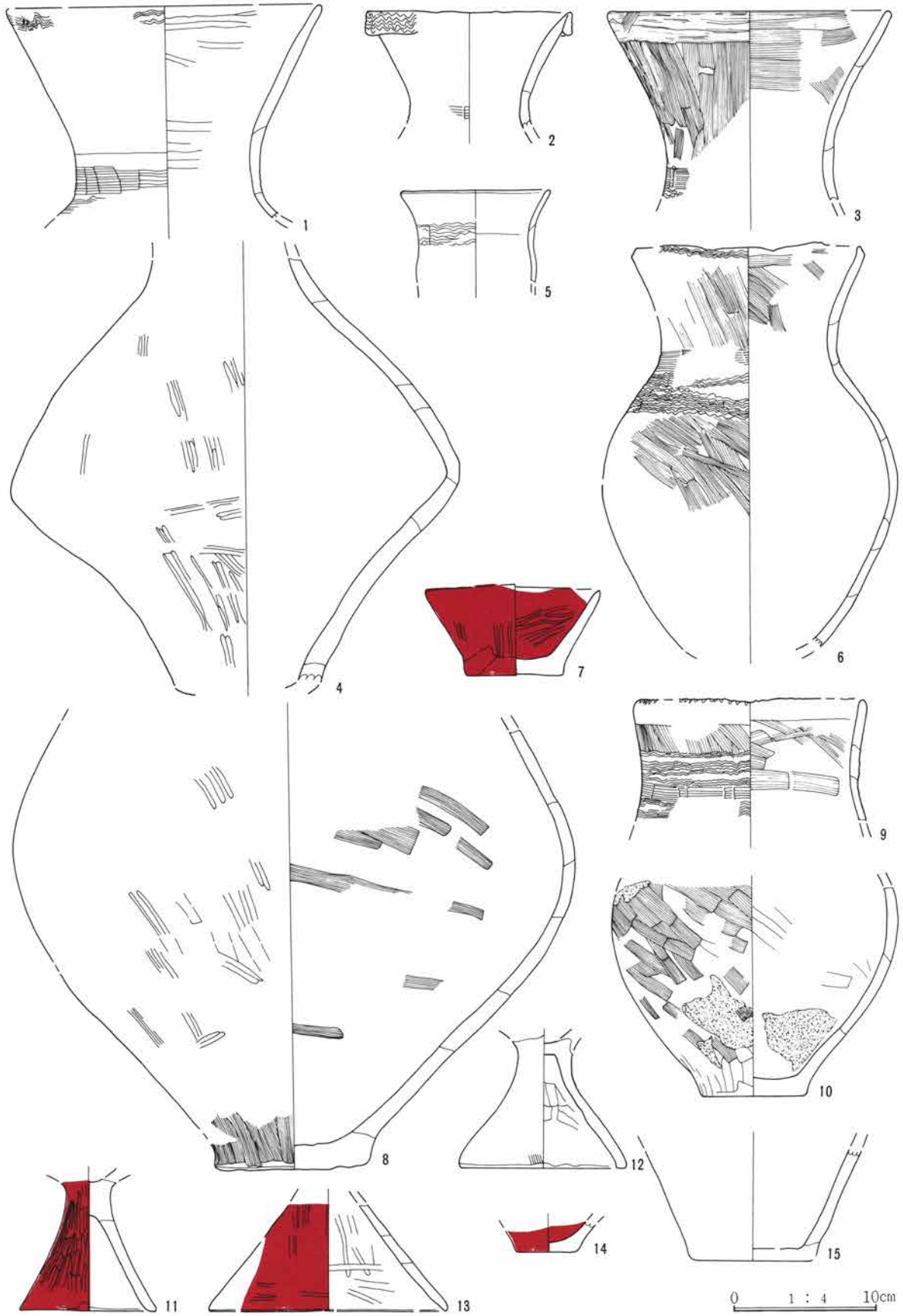
遺物 覆土第2・3層を中心に遺物が出土している。口縁部片24点、頸部片34点、胴部片364点、底部片6点等が出土し、この他に縄文中期土器片13点、礫27点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



- 1 茶褐色土層 やわらかく締まりよい。炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やわらかく締まりよい。粘性あり。炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 5 黄褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームアロック・粒子を多量に含む。

第110図 Y-12号住居跡

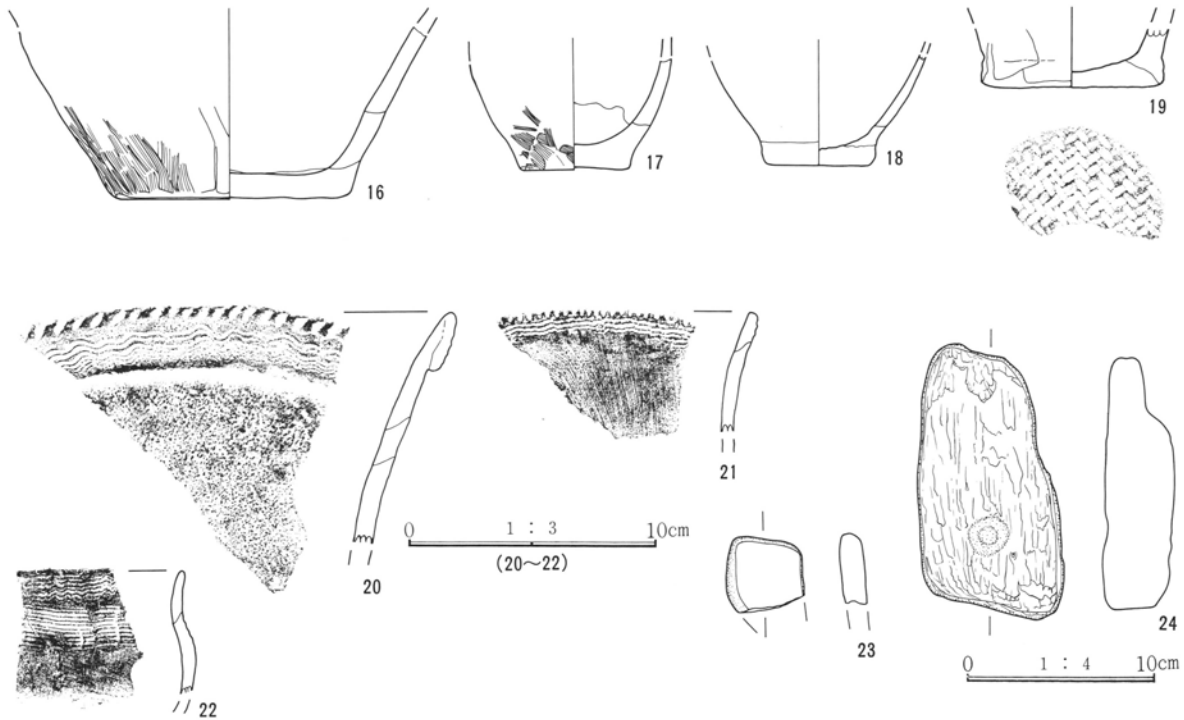


第111图 Y-12号住居跡出土遺物(1)

3章 弥生時代の遺構と遺物

Y-12号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
111-1 132	壺	①11.8 ②14.5		外 口唇部に波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 口縁部1/3			
111-2 132	壺	①14.3 ②7.6	折り返し口縁	外 波状文、頸部は等間隔止め←簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡東部 口縁部1/3			
111-3 132	壺	①20.0 ②13.0		外 ハケメ、ナデ、頸部は2連止め→簾状文、波状文。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 におい黄褐色	住居跡東壁寄り 口縁部1/3			
111-4 132	壺	②29.8		外 ハケメ、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 におい橙色	住居跡南部口縁 ～頸部欠損			
111-5 132	甕	①10.6 ②5.6		外 口唇部に刻み目、頸部は波状文。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 不良 におい褐色	住居跡中央部 口縁部1/2			
111-6 133	甕	①16.2 ②28.0	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に波状文、頸部は2連止め←簾状文、波状文。胴部はハケメ、ミガキ。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡西部 底部欠損			
111-7 133	鉢	①12.3 ②6.4③7.0		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡中央部 完形			
111-8 133	壺	②32.5 ③10.4		外 ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 口縁 ～胴上半欠損			
111-9 133	甕	①15.5 ②8.3	口縁部は直立ぎみ	外 口唇部に刻み目、波状文。頸部は2連止め←簾状文、波状文。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡東壁寄り 口縁部1/2			
111-10 133	甕	②14.6 ③7.0		外 ハケメ、炭化物付着。 内 ハケメ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい赤褐色	住居跡中央部 底部全周			
111-11 133	高坏	②8.9 ③9.5		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡西部 脚部1/2			
111-12 133	台付甕	②8.8 ③11.8		外 ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡中央部 脚部全周			
111-13 133	高坏	②7.4 ③16.6		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡東壁寄り 脚部1/4			
111-14 133	鉢	②2.0 ③4.3	底部	外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入	覆土 底部全周			
111-15 133	壺	②7.5 ③8.5	底部	外 ナデ、底面は剥落。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 底部全周			
112-16 133	壺	②9.0 ③12.0	底部	外 ハケメ、ミガキ、底面の磨耗は少ない。 内 剥落している。	中粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 底部全周			
112-17 133	甕	②5.8 ③5.6	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡西部 底部全周			
112-18 133	甕	②5.6 ③5.5	底部	外 ナデ、底面は磨耗。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 やや良 灰褐色	住居跡東部 底部全周			
112-19 133	壺	②2.2 ③6.3	底部	外 ナデ、底面網代。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 良 におい赤褐色	覆土 底部1/2			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
112-20 133	壺	厚7～8	折り返し口縁	外 口唇部刻み目、波状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	やや良	浅黄褐色	覆土	
112-21 133	甕	厚5	受け口状口縁	外 口唇部刻み目、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	灰黄褐色	覆土	
112-22 133	台付甕	厚5		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	明赤褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
112-23 133	砥石	2/3	砂岩	(4.0)	4.1	1.2	(23)	片面使用。	覆土
112-24 133	凹石	完形	絹雲母石墨片岩	13.5	7.5	3.5	619	片面に1個の凹み。	覆土



第112図 Y-12号住居跡出土遺物(2)

Y-13号住居跡 (第113・114図、PL.30・31・133)

位置 Cp-26・27、Cq-26・27、Cr-26グリッドにかけて検出された。Y-17号住居跡の南西約1.5mの所に位置している。

重複 6号墳の周堀によってその一部を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

形状 長辺5.5m、短辺4.2mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-99°-W。

壁高 住居跡確認面より約20~34cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約19.8m²である。

周溝 検出できなかった。

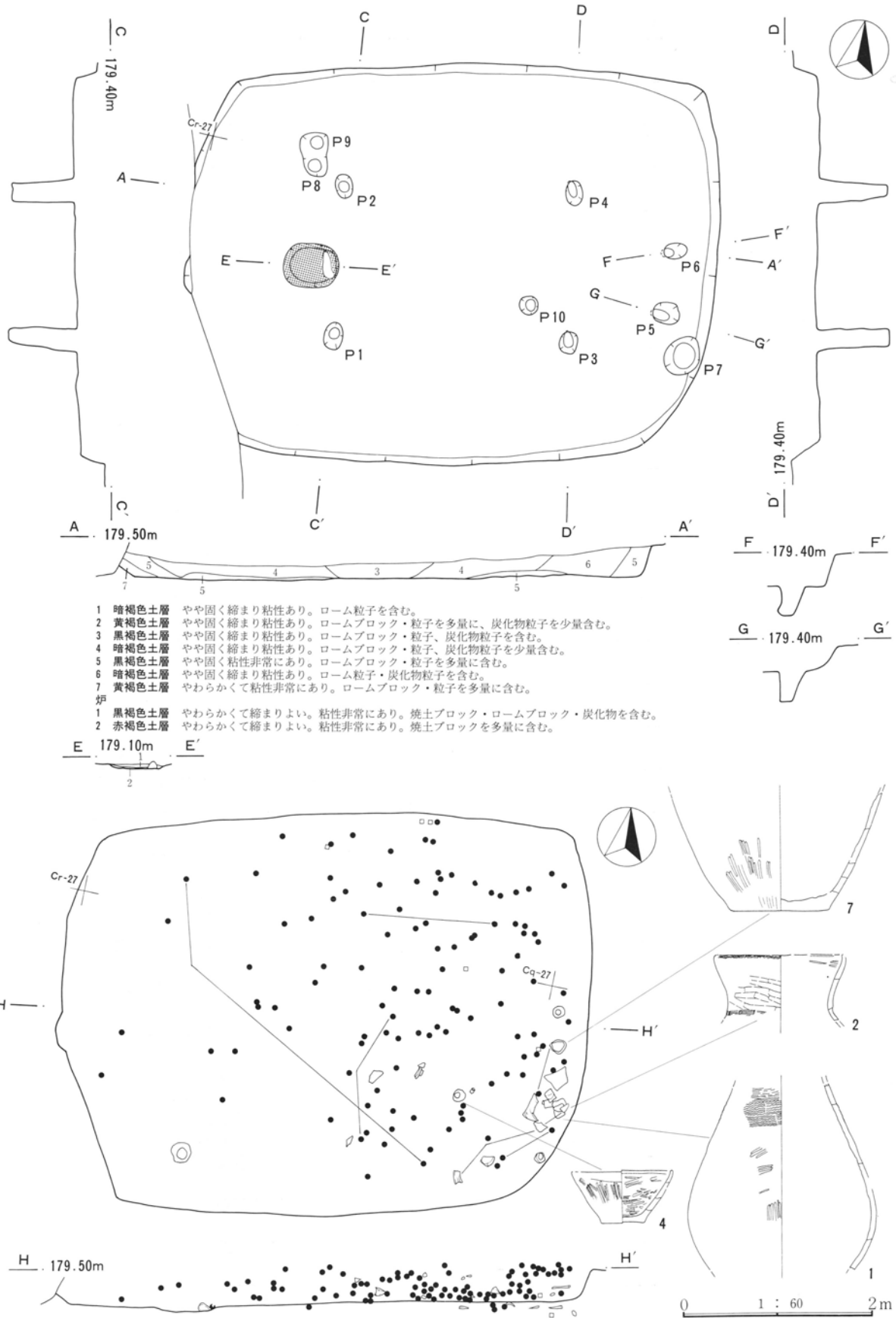
柱穴 総計10個のピットが検出された。P 1~P 4

は支柱穴になる。P 1の深さは72cm、P 2深さ65cm、P 3深さ74cm、P 4深さ72cmである。P 5~P 7は出入り口部の施設になり、P 5深さ31cm、P 6深さ30cmで、その間隔は70cmを測る。P 7は深さ27cmで東壁に接している。P 8深さ25cm、P 9深さ46cm、P 10深さ18cmである。

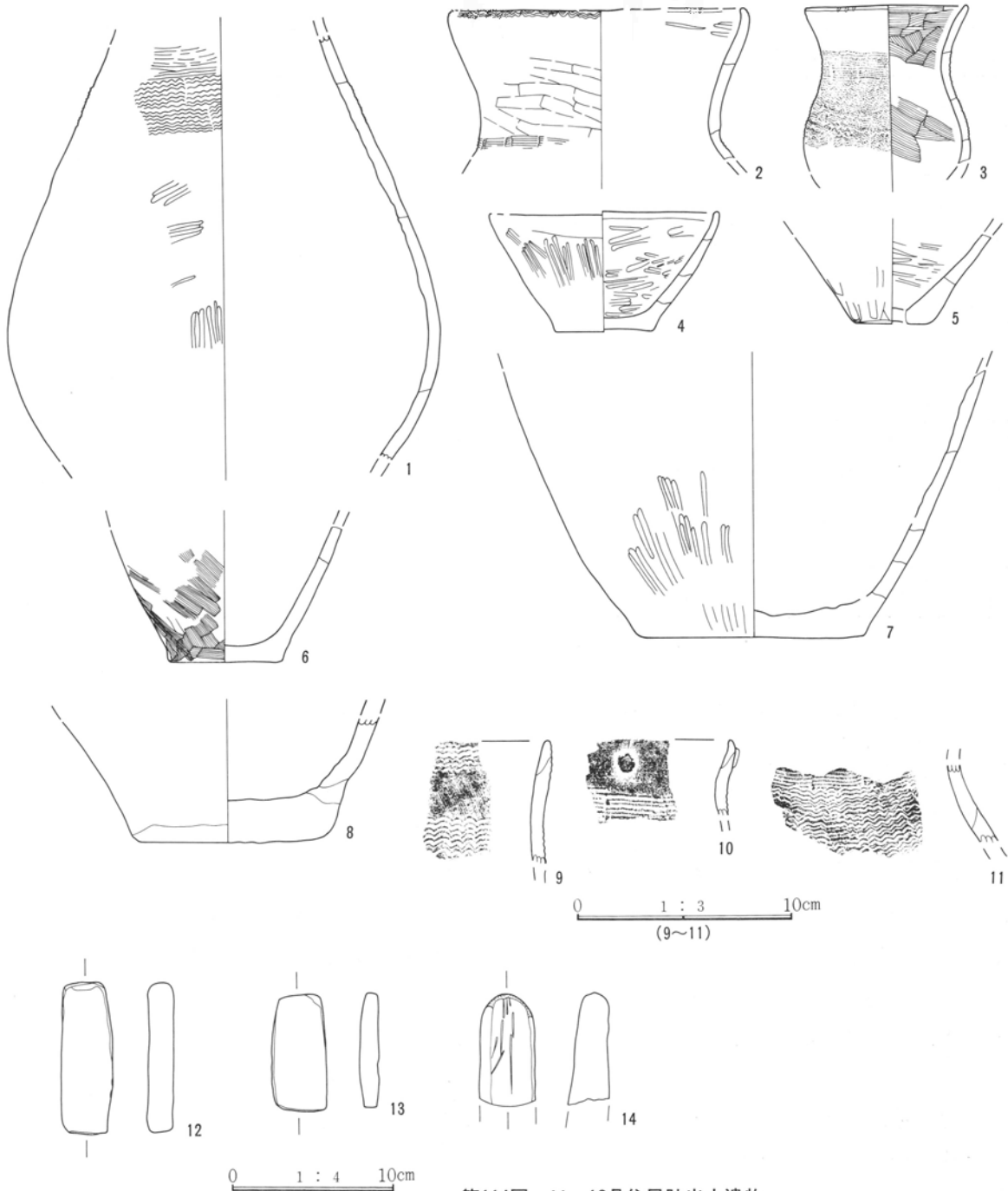
炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径60cm、短径46cmの楕円形を呈し、支柱穴P 1・P 2の中間やや西寄りに位置している。また東端に礫1個を配置し、覆土は2層に分かれた。

遺物 覆土から遺物が出土している。口縁部片12点、胴部片173点、底部片6点等が出土し、この他に縄文中期土器片64点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第113図 Y-13号住居跡と遺物分布



第114図 Y-13号住居跡出土遺物

Y-13号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
114-1 133	壺	②25.7		外 頸部は波状文、ミガキ。 内 荒れている。	中粒の砂を混入 良 橙色	住居跡東部 胴部1/3
114-2 133	甕	①18.0 ②9.1	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に波状文、頸部は2連止め←簾状文、波状文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡東壁 頸部以下欠損
114-3 133	甕	①9.8 ②9.4	口縁部はやや外反	外 口唇部に刻み目、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ミガキ。内 ハケメ、黒褐色。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	覆土 胴下半欠損
114-4 133	鉢	①14.3 ②7.3③6.0	口縁部はやや内湾	外 丁寧なミガキ。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 褐灰色	覆土 完形
114-5 133	甕	②5.3 ③4.5		外 ミガキ。 内 丁寧なミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	覆土 底部全周

Y-13号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
114-6 133	甕	②8.4 ③7.0	底部	外 ハケメ、底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい赤褐色	住居跡覆土 胴上半欠損			
114-7 133	壺	②16.4 ③14.0	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 剥落している。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡東壁 底部全周			
114-8 133	壺	②7.5 ③12.0	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 剥落している。	中粒の砂を混入 やや良 におい褐色	覆土 底部全周			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
114-9 133	甕	厚5~7		外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	明赤褐色	覆土	
114-10 133	甕	厚4~6		外 簾状文、貼付文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土	
114-11 133	甕	厚6~8		外 簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	におい黄 橙色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g) 全長 幅 厚 重量				特徴	出土状況
114-12 133	砥石	完形	砂岩	9.3	3.2	1.6	70	全面使用。	覆土
114-13 133	砥石	完形	砂岩	7.1	3.3	1.2	48	全面使用。	覆土
114-14 133	砥石	2/3	砂岩	(6.9)	3.5	2.5	(70)	小口を除き4面使用。	覆土

Y-14号住居跡 (第115~117図、PL.32・133)

位置 Dc-28・29、Dd-28・29グリッドにかけて検出された。Y-8号住居跡の北約3.5mの所に位置している。

重複 14号墳の周堀によって住居跡中央部を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長辺7.1m、短辺6.8mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-76°-W。

壁高 住居跡確認面より約24~32cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 凹凸が認められる。面積は約36.7m²である。

周溝 検出できなかった。

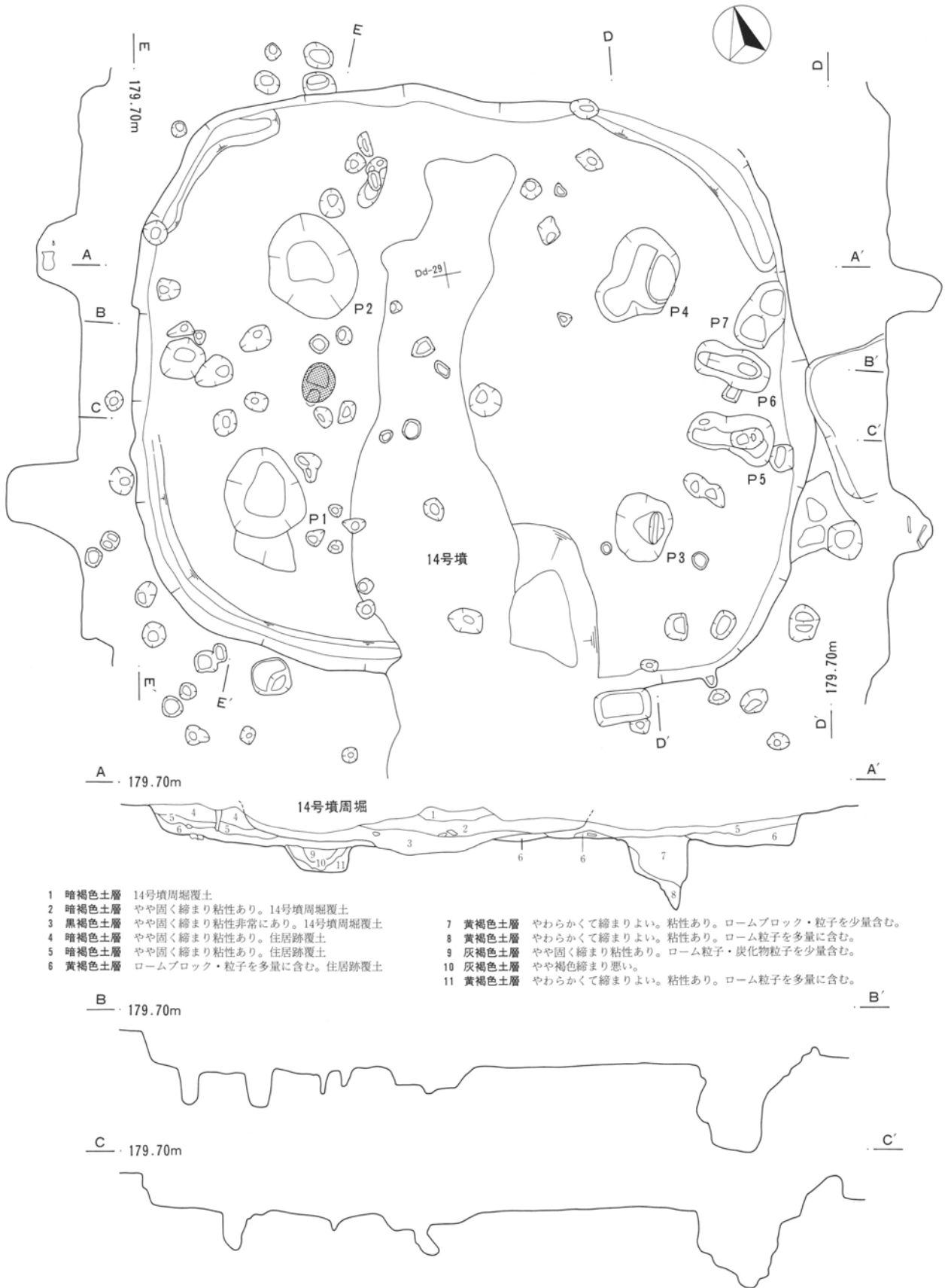
柱穴 P1~P4は支柱穴になる。P1の深さは74

cm、P2深さ42cm、P3深さ42cm、P4深さ54cmである。P5~P7は出入り口部の施設になり、P5深さ70cm、P6深さ80cmで、その間隔は70cmを測る。P7は深さ36cmで東壁に接している。他の小ピットは住居跡に伴うものかは不明である。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径44cm、短径34cmの楕円形を呈し、支柱穴P1・P2の中間やや東寄りに位置している。また西端に礫1個を配置している。

遺物 覆土から遺物が出土している。口縁部片31点、頸部片52点、胴部片544点、底部片14点等が出土し、この他に土師器片6点、礫17点が出土した。P2・P3内から土器が出土している。

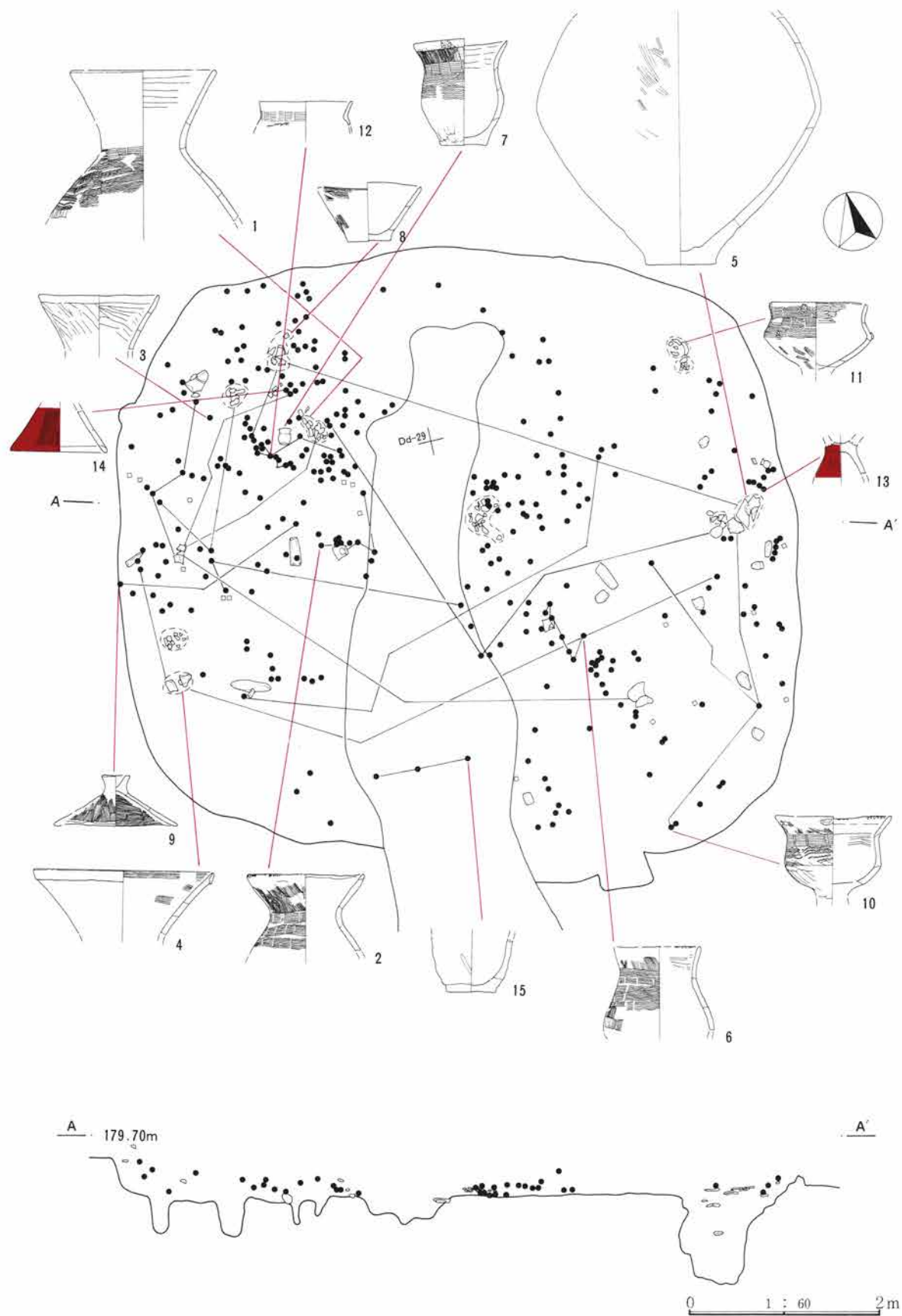
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



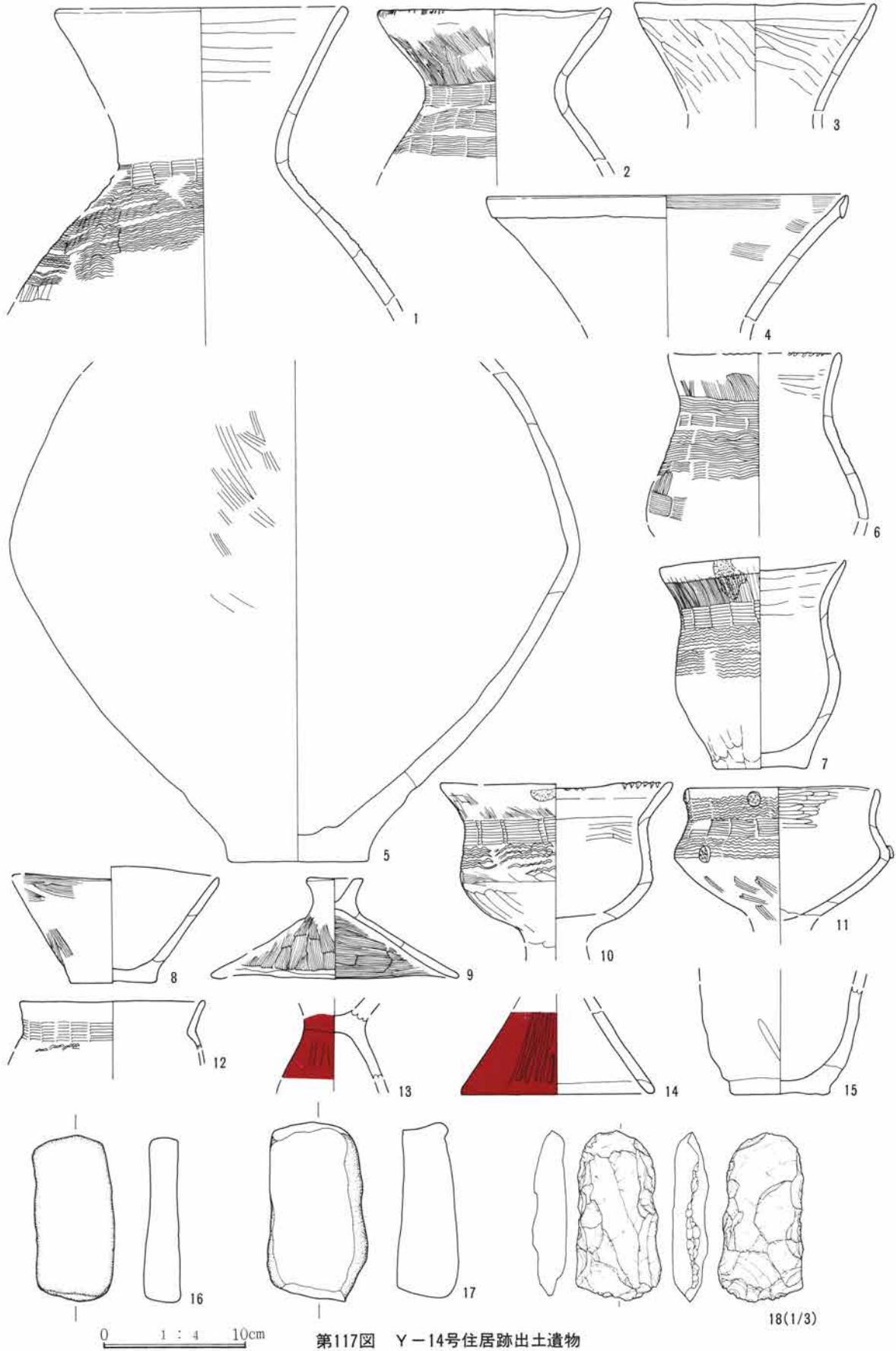
- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 14号墳周堀覆土 | 7 黄褐色土層 | やわらかくて締まりよい。粘性あり。ロームブロック・粒子を少量含む。 |
| 2 暗褐色土層 | やや固く締まり粘性あり。14号墳周堀覆土 | 8 黄褐色土層 | やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子を多量に含む。 |
| 3 黒褐色土層 | やや固く締まり粘性非常にあり。14号墳周堀覆土 | 9 灰褐色土層 | やや固く締まり粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。 |
| 4 暗褐色土層 | やや固く締まり粘性あり。住居跡覆土 | 10 灰褐色土層 | やや褐色締まり悪い。 |
| 5 暗褐色土層 | やや固く締まり粘性あり。住居跡覆土 | 11 黄褐色土層 | やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子を多量に含む。 |
| 6 黄褐色土層 | ロームブロック・粒子を多量に含む。住居跡覆土 | | |

第115図 Y-14号住居跡

0 1 : 60 2m



第116図 Y-14号住居跡遺物分布



第117图 Y-14号住居跡出土遺物

Y-14号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法 量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
117-1 133	壺	①20.0 ②20.9		外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。 内 ナデ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡西壁寄り 胴下半欠損			
117-2 133	壺	①16.5 ②10.5	口縁部は受け口状	外 口唇部に刻み目、ハケメ、頸部は2連止め←簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡中央部 胴下半欠損			
117-3 133	壺	①17.8 ②7.4		外 ハケメ、ナデ。 内 ハケメ、ナデ。	中粒の砂を混入 良 橙色	住居跡西壁寄り 口縁部1/3			
117-4 133	壺	①13.2 ②8.3	折り返し口縁	外 ナデ。 内 ナデ、ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 浅黄橙色	住居跡西壁寄り 口縁部1/2			
117-5 133	壺	②22.3 ③9.5		外 ミガキ、底面はあまり磨耗していない。 内 剥落している。	中粒の砂を混入 やや良 におい黄橙色	住居跡東壁寄り 底部全周			
117-6 133	甕	①12.0 ②12.1		外 口唇部に刻み目、ハケメ、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡中央部 口縁部3/4			
117-7 133	甕	①13.0 ②14.7③6.4		外 口辺部はハケメ、ナデ、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	P 2 完形			
117-8 133	鉢	①14.5 ②7.2③6.0		外 ナデ。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡北西コーナー 完形			
117-9 133	蓋	③3.9 ②7.0③7.5		外 ハケメ、ミガキ。 内 ハケメ。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡西壁寄り 1/2			
117-10 133	台付甕	①16.2 ②11.0		外 口唇部に押捺、頸部は2連止め←簾状文、波状文、炭化物付着。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 灰赤色	住居跡東壁寄り 2/3			
117-11 133	台付甕	①13.3 ②8.3	口縁部はやや内湾	外 波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、刺突のある円形浮文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡北東コーナー 口縁全周			
117-12 133	台付甕	①13.0 ②3.4		外 頸部は等間隔止め←簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡西壁寄り 口縁部1/2			
117-13 133	高坏	②4.7		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 良 暗赤色	住居跡東壁寄り 脚部全周			
117-14 133	高坏	②5.8 ③13.6		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 赤色	住居跡西壁寄り 脚部2/3			
117-15 133	甕	②7.8 ③6.2		外 ナデ、ケズリ。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 褐色	住居跡南壁寄り 古墳時代			
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g) 全長 幅 厚 重量				特徴	出土状況
117-16 133	砥石	完形	砂岩	11.4	5.5	2.0	187	全面使用。	覆土
117-17 133	砥石	完形	砂岩	12.2	7.0	4.3	422	両面使用。	覆土
117-18 133	打製石斧	完形	熱変成岩	8.7	4.4	1.8	85.6	短冊型。	覆土

Y-15号住居跡 (第118・119図、PL.33・133)

位置 De-26・27、Df-26～28グリッドにかけて検出された。Y-8号住居跡の西約6mの所に位置している。

重複 62号土坑と重複している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長辺5.3m、短辺4.5mの隅丸方形を呈する。

方位 N-64°-W。

壁高 住居跡確認面より約20～46cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約20㎡である。

周溝 幅6cmから20cmの溝が全周している。北壁下

の溝はやや幅広である。

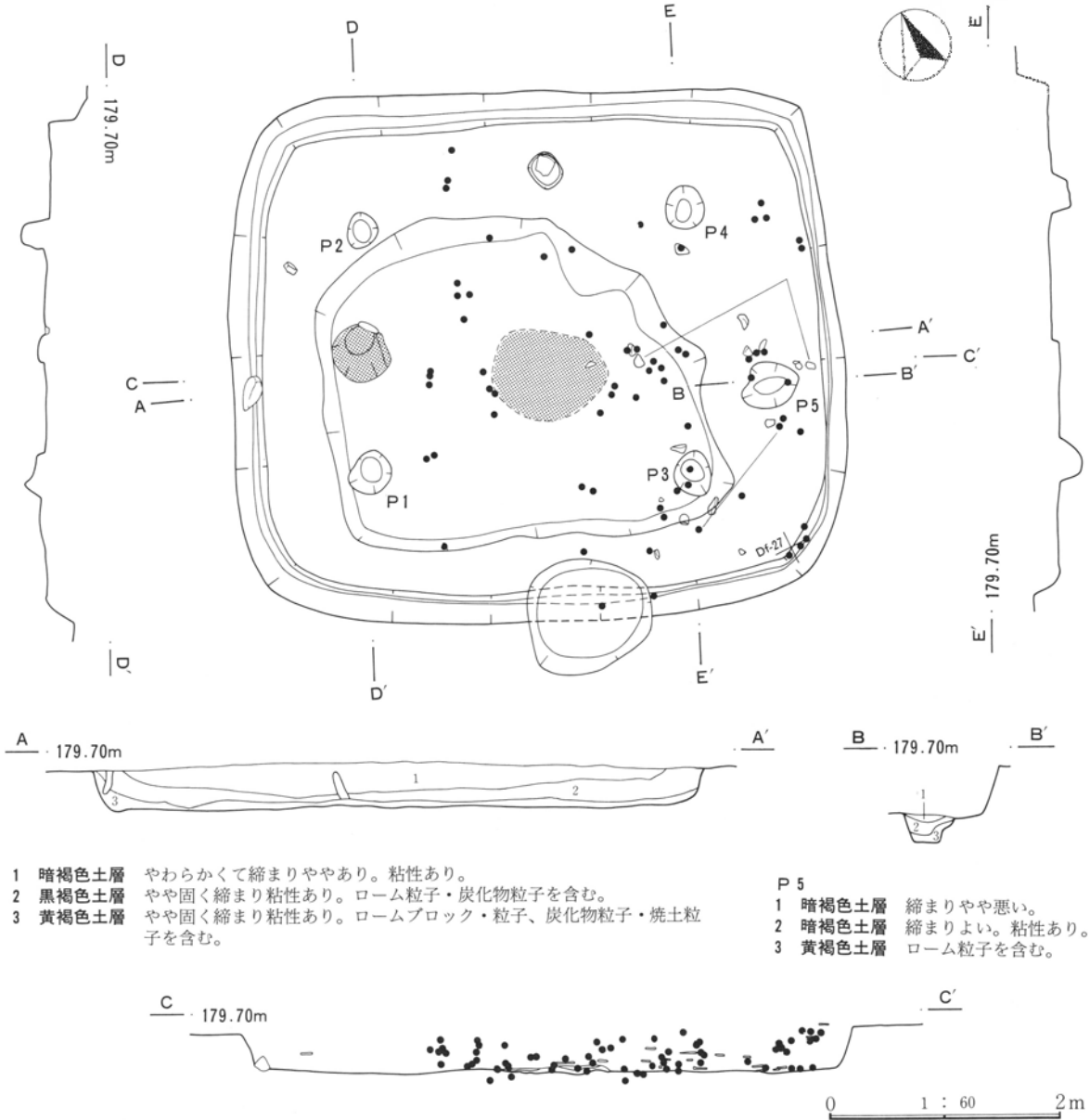
柱穴 P1～P4は主柱穴になる。P1の深さは74cm、P2深さ42cm、P3深さ42cm、P4深さ54cmである。P5は出入り口部の施設になる。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径50cm、短径46cmのほぼ円形を呈し、主柱穴P1・P2の中間に位置している。また東端に礫2個を配置している。覆土は2層に分かれた。

遺物 覆土から遺物が出土している。口縁部片1点、胴部片51点、底部片2点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片26点、礫6点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

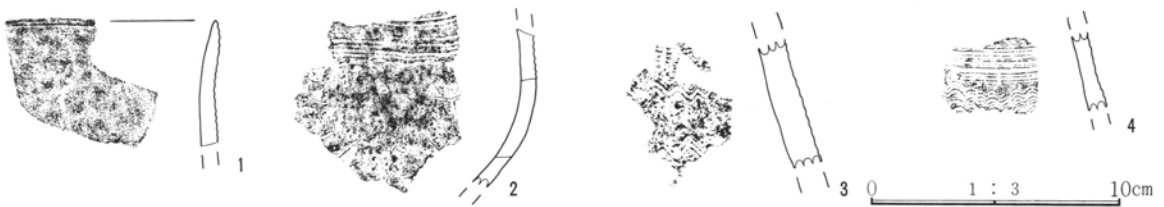
(1) 竪穴住居跡



- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | やわらかくて締まりややあり。粘性あり。 |
| 2 黒褐色土層 | やや固く締まり粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。 |
| 3 黄褐色土層 | やや固く締まり粘性あり。ロームブロック・粒子、炭化物粒子・焼土粒子を含む。 |

- P 5
- | | |
|---------|-------------|
| 1 暗褐色土層 | 締まりやや悪い。 |
| 2 暗褐色土層 | 締まりよい。粘性あり。 |
| 3 黄褐色土層 | ローム粒子を含む。 |

第118図 Y-15号住居跡



第119図 Y-15号住居跡出土遺物

Y-15号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
119-1 133	甕	厚6		外 ハケメ。 内 赤色塗彩。	細砂を含む	良	橙色	覆土
119-2 133	甕	厚6		外 波状文、炭化物附着。 内 ミガキ。	粗砂を含む	良	黒褐色	覆土
119-3 133	甕	厚11		外 波状文、簾状文。 内 ナデ。	粗砂を含む	不良	赤黒色	覆土
119-4 133	甕	厚6		外 簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	にぶい黄色	覆土

Y-17号住居跡 (第120~123図、PL.34・133・134)

位置 Co-27、Cp-27・28グリッドにかけて検出された。Y-13号住居跡の北東約1.5mの所に位置している。

重複 J-6号住居跡を壊している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

形状 長辺5m、短辺4mの長方形を呈する。

方位 N-24°-W。

壁高 住居跡確認面より約20~26cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約17.6㎡である。

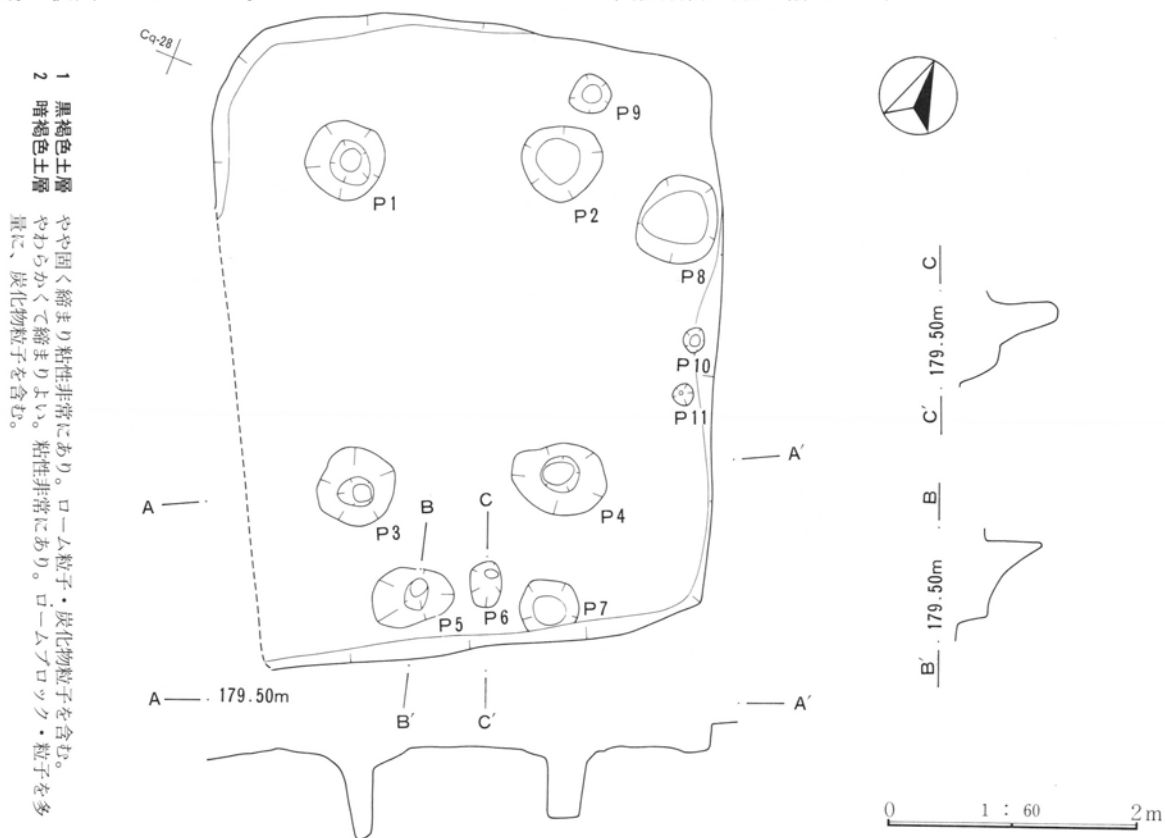
周溝 検出できなかった。

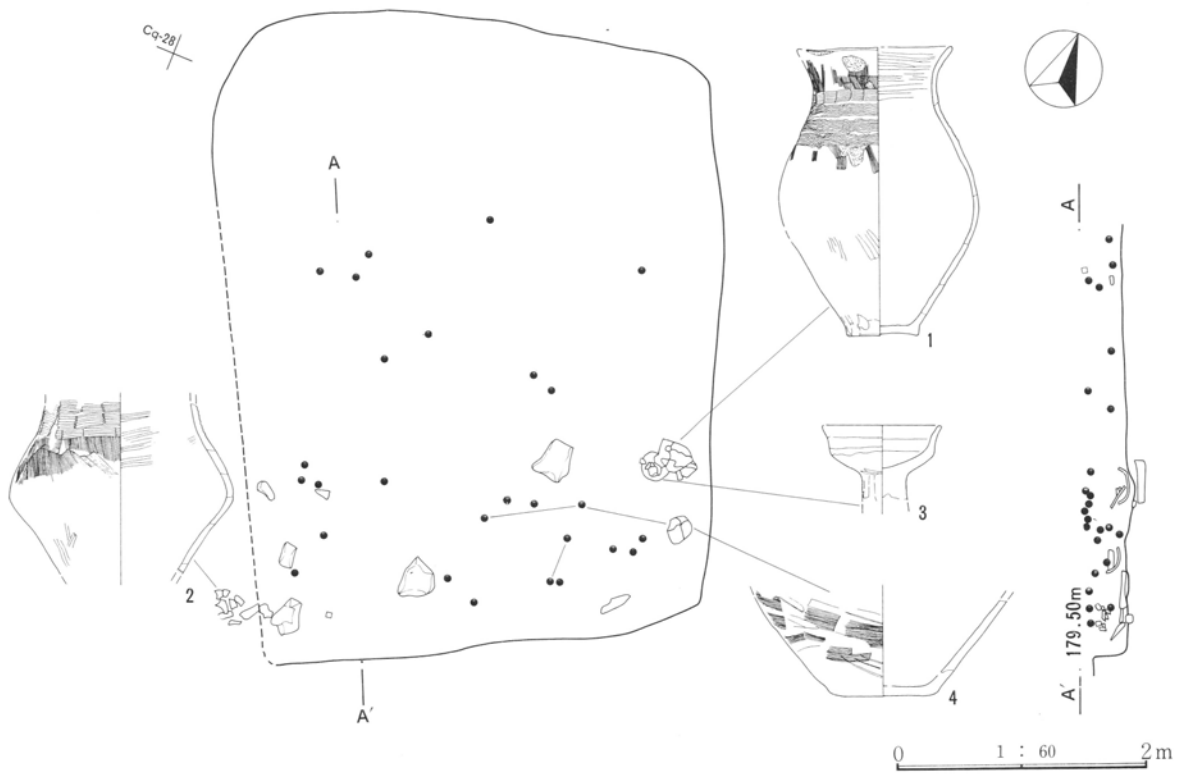
柱穴 総計11個のピットが検出された。このうち、P1~P4は主柱穴になる。P1の深さは39cm、P2深さ24cm、P3深さ70cm、P4深さ57cmである。P5~P7は出入り口部の施設になり、P5深さ50cm、P6深さ42cmで、その間隔は60cmを測る。P7は深さ35cmで南壁に接している。P8深さ20cm、P9深さ10cm、P10深さ20cm、P11深さ6cmである。

炉 床面に焼土等の痕跡を確認することはできなかった。

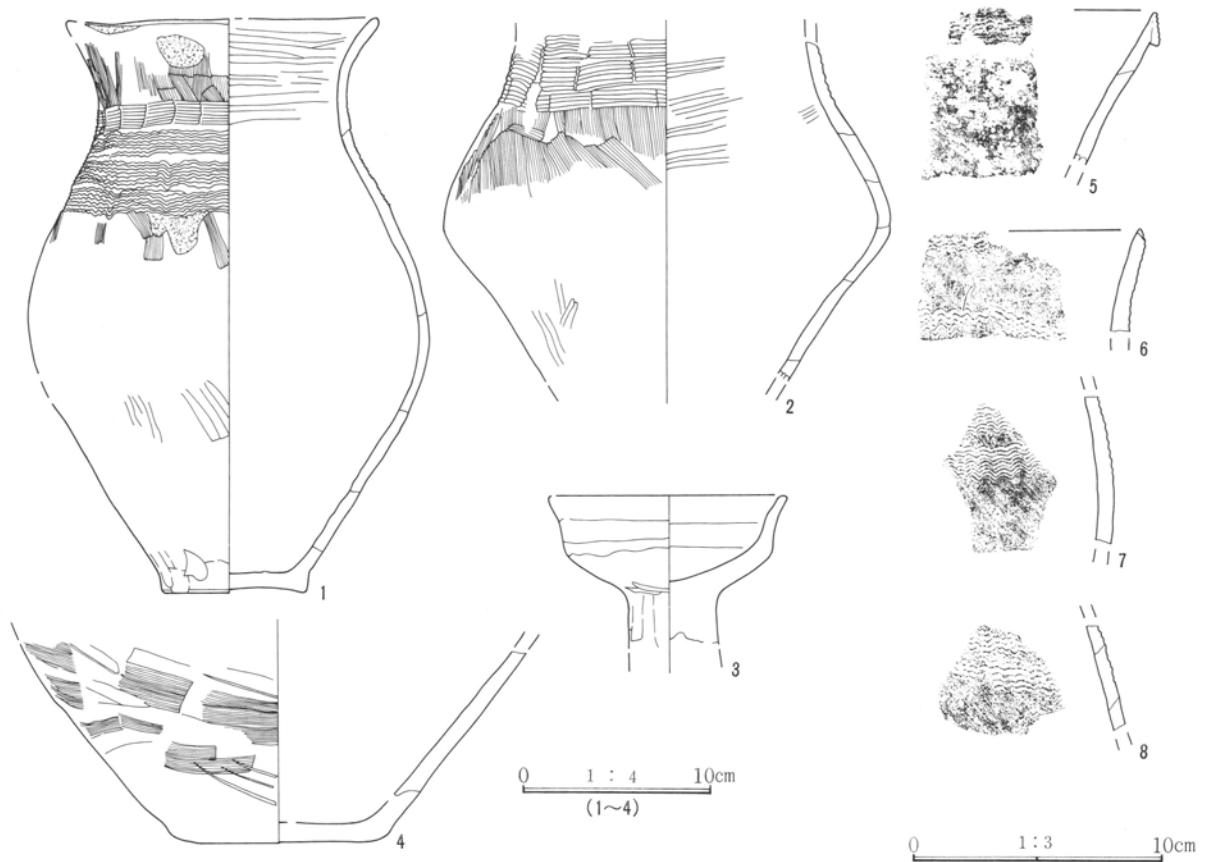
遺物 床面直上と覆土から遺物が出土している。口縁部片8点、胴部片47点等が出土し、この他に縄文中期土器片22点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

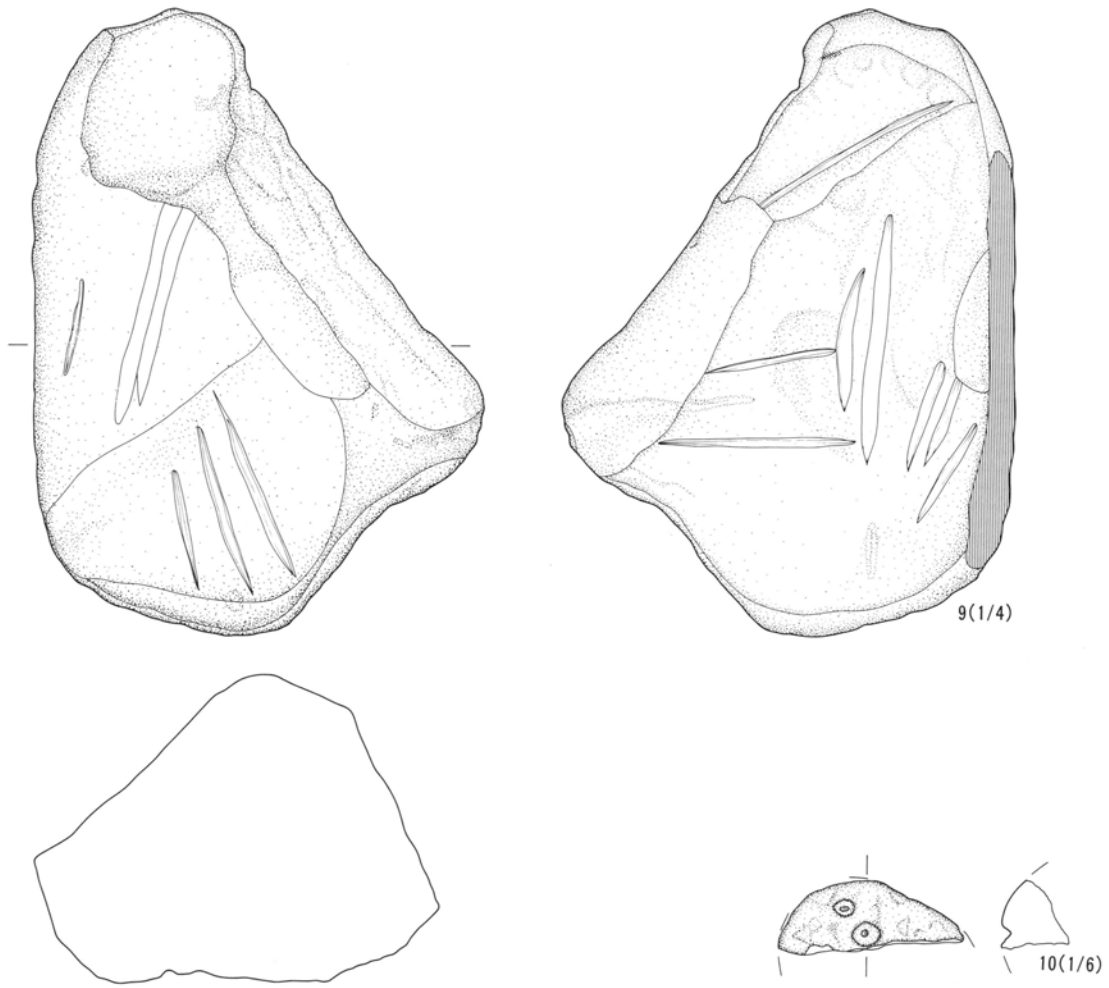




第121图 Y-17号住居跡遺物分布



第122图 Y-17号住居跡出土遺物(1)



第123図 Y-17号住居跡出土遺物(2)

Y-17号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
122-1 134	甕	①16.6 ②30.6③0.8	口縁部は外反	外 口辺部ハケメ、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、炭化物付着、底面周辺磨耗。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	床直上 完形		
122-2 134	甕	②16.8		外 頸部は等間隔止め←簾状文、胴部はハケメ、ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤褐色	住居跡南西コーナ ー 頸部・底部欠損		
122-3 134	高坏	①12.7 ②8.2		外 ナデ、ケズリ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡南壁寄り 6世紀		
122-4 134	壺	②11.3 ③11.2	底部	外 ハケメ、底面は磨耗。 内 荒れている。	細粒の砂を混入 やや良 橙色	住居跡南壁寄り 底部全周		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
122-5 133	壺	厚5	折り返し口縁	外 波状文。 内 赤色塗彩、器面剝落。	粗砂を含む	不良	灰黄色	覆土
122-6 133	甕	厚7		外 波状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	良	赤色	覆土
122-7 133	甕	厚6		外 ハケメ、波状文。 内 ハケメ。	細砂を含む	良	黒色	覆土
122-8 133	甕	厚5		外 ハケメ、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	赤色	覆土

Y-17号住居跡遺物観察表

図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
123-9 134	砥石	完形	砂岩	32.5	23.9	16.0	9,280	大型の置砥で3面を使用している。部分的に沈線状の太い削痕がある。	覆土
123-10 134	多孔石	部分	砂岩	(5.5)	14.8	5.4	(425)	両面に3個の凹み。赤化している。	覆土

Y-18号住居跡 (第124~127図、PL.35・134)

位置 Cj-33、Ck-33・34、Cl-33・34グリッドにかけて検出された。Y-5号住居跡の北西約5.5mの所に位置している。

重複 新しい土坑と攪乱によって部分的に壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長辺8.6m、短辺6.8mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-74°-W。

壁高 住居跡確認面より約30~50cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約51.3㎡である。

周溝 北壁下、西壁下、南壁下では全周するが、東壁下では部分的に検出されただけであった。

柱穴 P1~P4は支柱穴になる。P1の深さは76cm、P2深さ80cm、P3深さ82cm、P4深さ95cmである。P5~P7は出入り口部の施設になり、P5深さ80cm、P6深さ85cmで、その間隔は40cmを測る。P7は深さ44cmで南壁際に掘られていた。

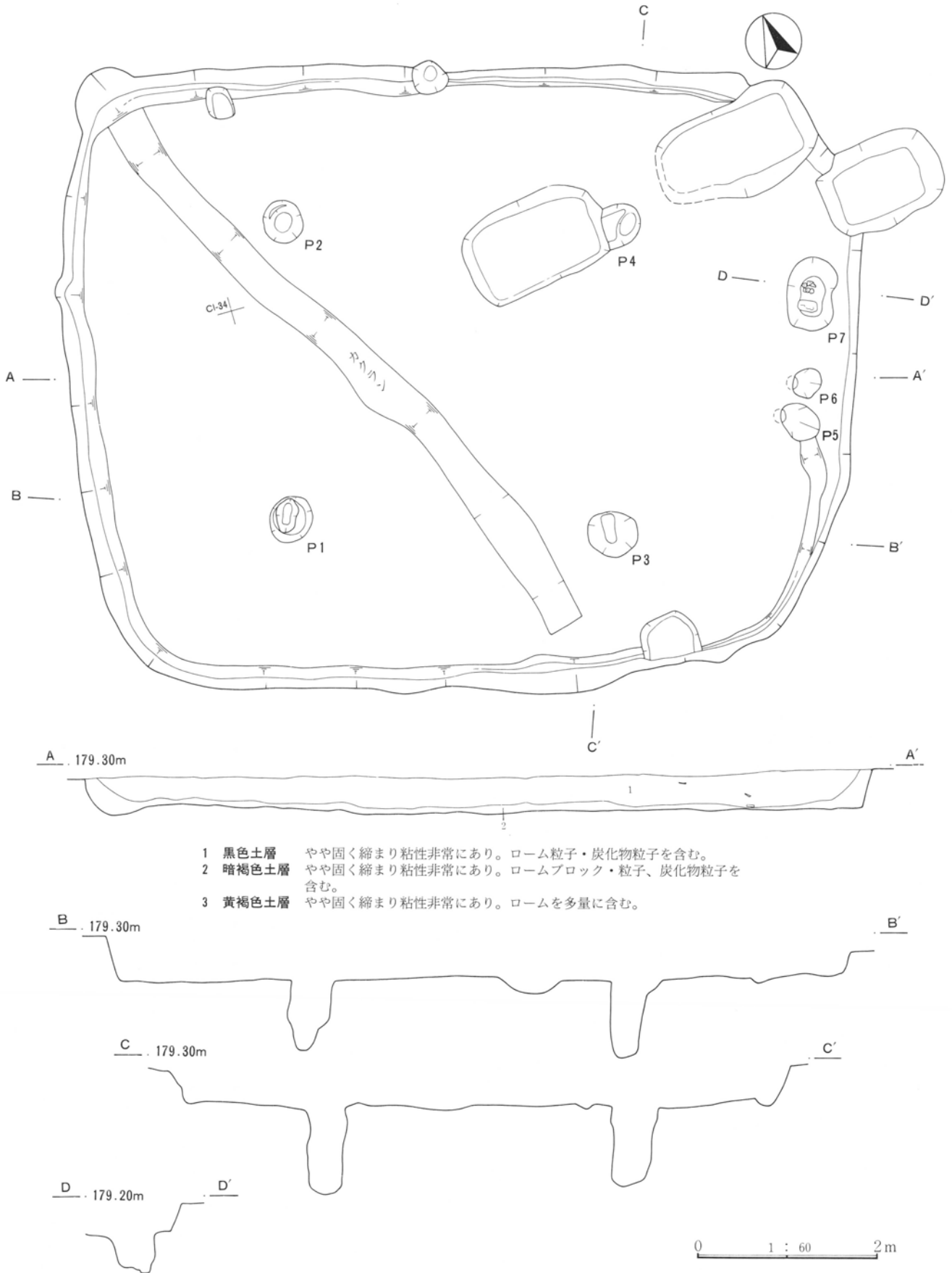
炉 床面に焼土等の痕跡を確認することはできなかった。水道管理設が行われていたために炉跡は壊されてしまったものであろう。

遺物 床面直上と覆土第1層から遺物が出土している。口縁部片101点、頸部片184点、胴部片1,019点、底部片84点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片248点、土師器・須恵器片10点、礫33点が出土した。

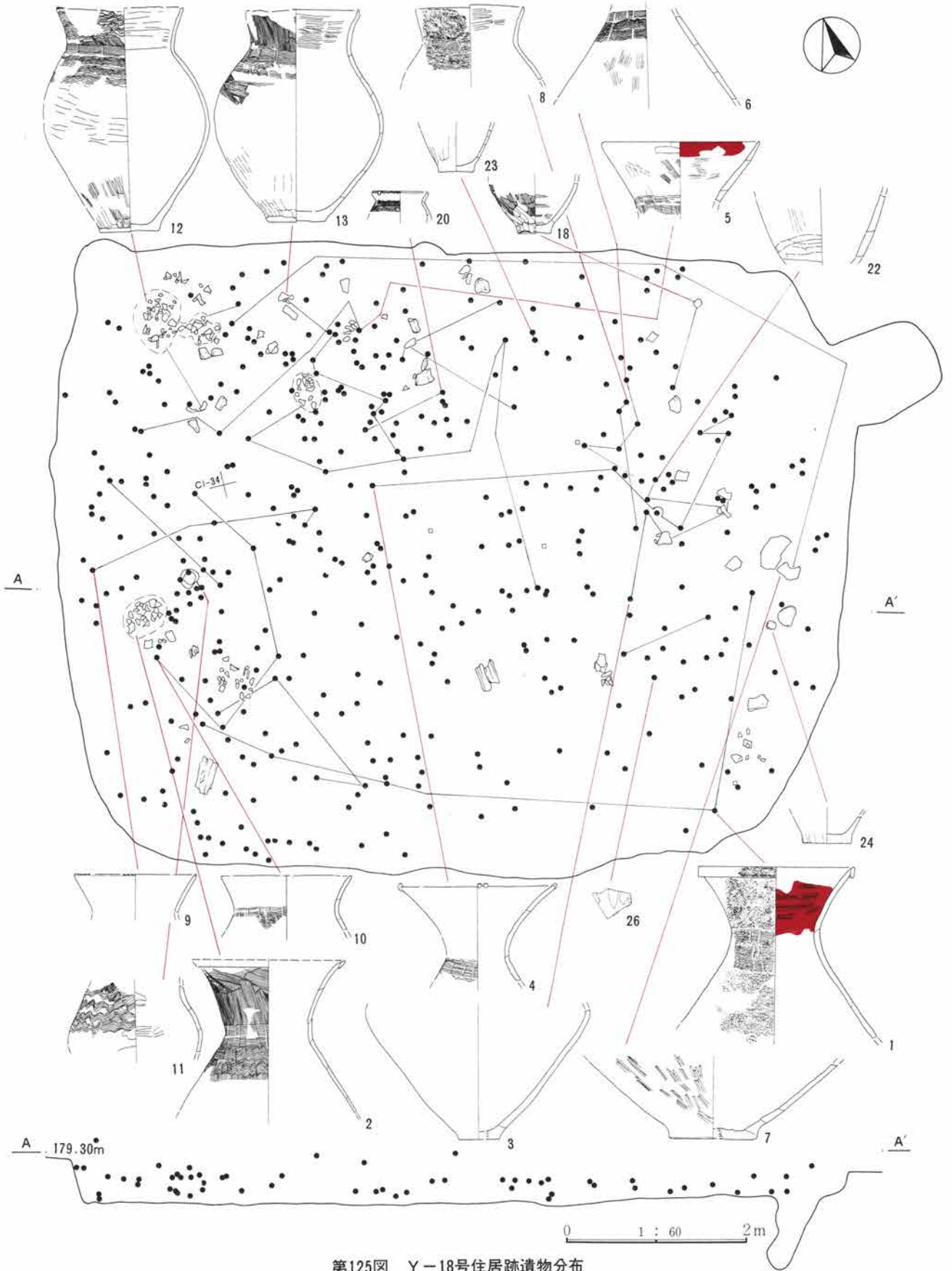
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

Y-18号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

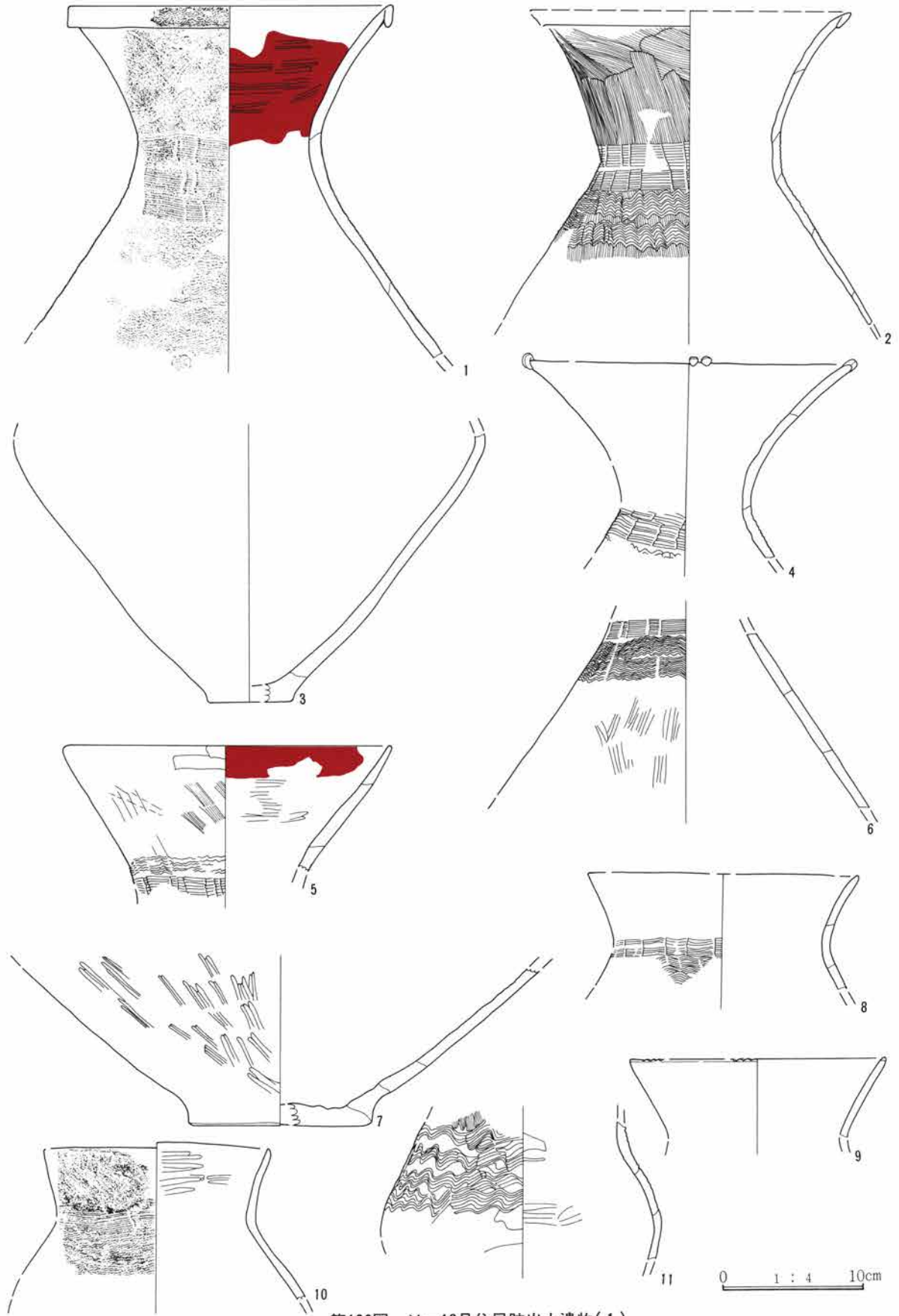
図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
126-1 134	壺	①22.6 ②24.5	折り返し口縁	外 波状文、ハケメ、頸部は2連止め←簾状文、波状文、刺突のある円形浮文。内 ミガキ、赤色塗彩。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	住居跡南壁寄り 口縁~胴上半
126-2 134	壺	②21.6	口縁部はやや外反	外 ハケメ、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ミガキ。内 剥落している。	細粒の砂を混入 やや良 ぶい橙色	住居跡西壁寄り 胴下半欠
126-3 134	壺	②18.8 ③6.0		外 ミガキ。 内 ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 やや良 橙色	住居跡東部 胴部1/4
126-4 134	壺	①23.0 ②13.8	口縁部は外反	外 口唇部に貼付、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 不良 橙色	住居跡東壁寄り 胴下半欠損
126-5 134	壺	①22.8 ②10.6	口縁部はやや受け口状	外 ミガキ、波状文、頸部は2連止め←簾状文。 内 ミガキ、赤色塗彩。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡西壁寄り 頸部以下欠損
126-6 134	壺	②13.9		外 頸部は2連止め←簾状文、波状文、ミガキ。 内 ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	住居跡北部 頸部~胴上半全周
126-7 134	壺	②13.6 ③12.8	底部	外 ミガキ。 内 荒れている。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	住居跡東壁寄り 底部1/2
126-8 134	甕	①19.0 ②8.3		外 口唇部刻み目、口辺部ナデ、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡西壁寄り
126-9 134	甕	①18.0 ②5.5		外 口唇部に刻み目、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	住居跡西壁寄り 口縁部1/3
126-10 134	甕	①16.0 ②11.1		外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。 内 ミガキ、炭化物が付着している。	中粒の砂を混入 やや良 ぶい赤褐色	住居跡東壁寄り 胴下半欠
126-11 134	甕	②10.2		外 波状文。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 ぶい褐色	住居跡西壁寄り 胴上半残
127-12 134	甕	①18.5 ②32.5③8.7		外 口唇部に刻み目、波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、胴部ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	住居跡北西コーナー ほぼ完形



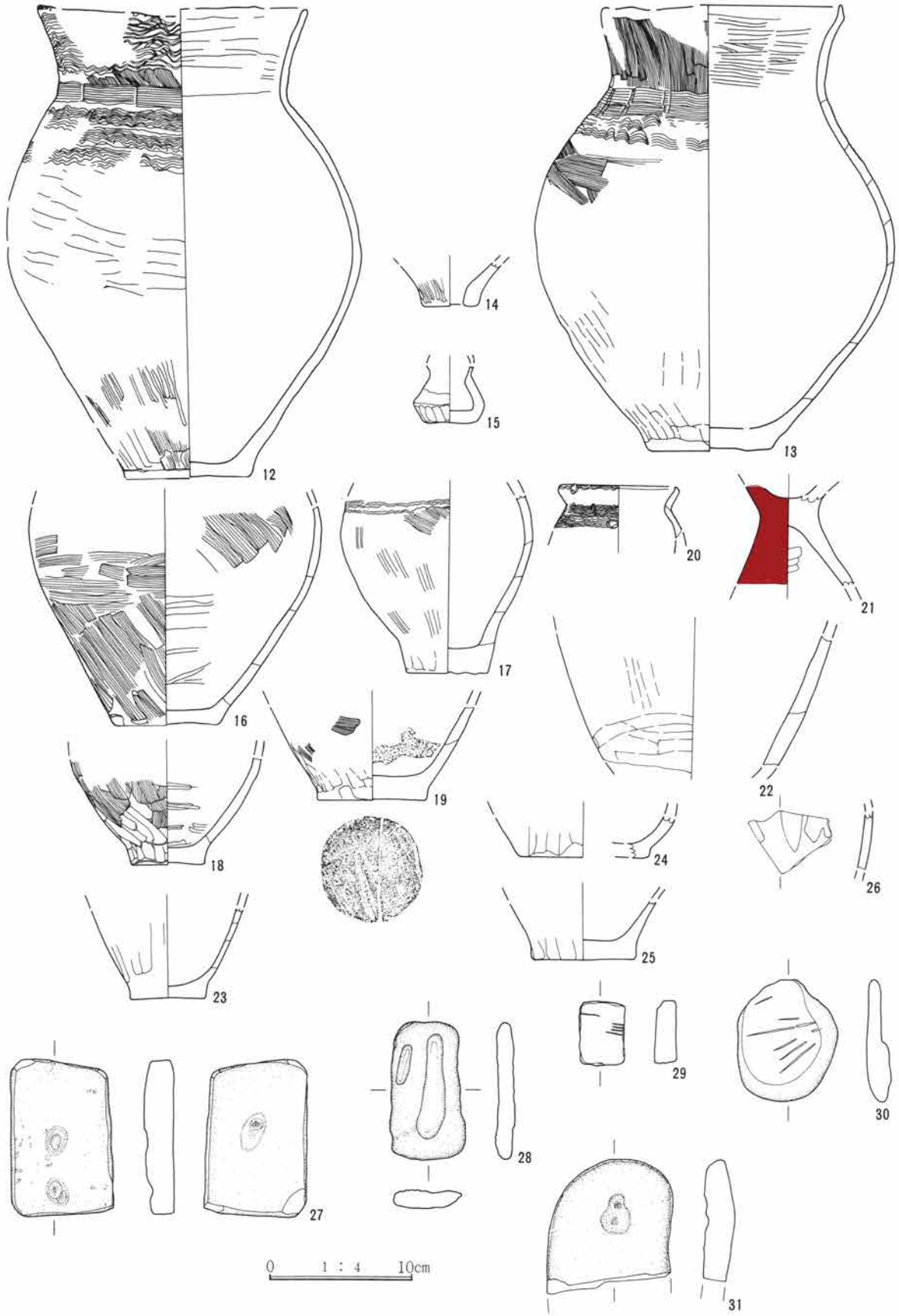
第124図 Y-18号住居跡



第125图 Y-18号住居跡遺物分布



第126図 Y-18号住居跡出土遺物(1)



第127图 Y-18号住居跡出土遺物(2)

Y-18号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文 様 ・ 整 形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
127-13 134	甕	①16.4 ②30.9③8.4	口縁部はやや受け口状	外 口辺部はハケメ、頸部は2連止め←籐状文、波状文、炭化物付着、底面磨耗。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	住居跡北壁寄り ほぼ完形			
127-14 134	甕	②2.9 ③3.5		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	覆土 底部全周			
127-15 134	ミニチュア甕	②4.0 ③3.2		外 指オサエ。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 良 灰褐色	覆土 口縁部欠損			
127-16 134	甕	②15.6 ③7.2		外 ハケメ、底面の磨耗少ない。 内 ハケメ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい橙色	覆土 胴上半欠損			
127-17 134	甕	②13.2 ③5.5		外 波状文、ハケメ、ミガキ、底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	覆土 胴上半欠損			
127-18 134	甕	②7.4 ③5.2		外 ハケメ、ナデ、底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	覆土 胴上半欠損			
127-19 134	甕	②6.4 ③7.5		外 ハケメ、ナデ、底面に木葉痕。 内 ミガキ、炭化物が付着。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	覆土 胴上半欠損			
127-20 134	台付甕	①7.8 ②3.0	口縁部はやや受け口状	外 波状文、刺突の施された円形浮文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	住居跡北壁寄り 口縁部全周			
127-21 134	高坏	②6.1		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ナデ。	中粒の砂を混入 良 赤褐色	覆土 脚部全周			
127-22 134	甕	②9.0		外 ケズリ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡東壁寄り 胴部1/2			
127-23 134	甕	②5.1 ③5.2	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北壁寄り 底部全周			
127-24 134	甕	②2.7 ③9.0	底部	外 ナデ。 内 ミガキ、炭化物が付着。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	覆土			
127-25 134	甕	②5.0 ③7.0	底部	外 ミガキ。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡東壁寄り 底部全周			
127-26 134	甕	長4.2幅5.3 厚0.5		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡東部 胴部片			
図番 PL	器種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm, g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
127-27 134	砥石	完形	砂岩	10.9	7.0	2.1	259	全面使用、両面に3個の凹みが認められる。	覆土
127-28 134	砥石	完形	砂岩	9.6	5.0	1.2	80	両面使用。	覆土
127-29 134	砥石	完形	砂岩	4.3	3.0	1.4	34	全面使用。	覆土
127-30 134	砥石	完形	砂岩	8.5	7.0	1.5	87	1面使用。細かい条痕が認められる。	覆土
127-31 134	砥石	2/3	砂岩	(8.4)	8.5	2.0	(219)	2面使用。片面に2個の凹みが認められる。	覆土

Y-19号住居跡 (第128図、PL.36・134)

位置 Cm・Cn・Co-22グリッドにかけて検出された。Y-7号住居跡の直下に位置している。

重複 Y-7号住居跡の貼床下から検出された。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築されている。

形状 現状では長辺(5.1)m、短辺(3.6)mの隅丸長方形を呈するものと考えられる。

方位 N-108°-W。

壁高 Y-7号住居跡床面より約9~18cmで床面に達する。

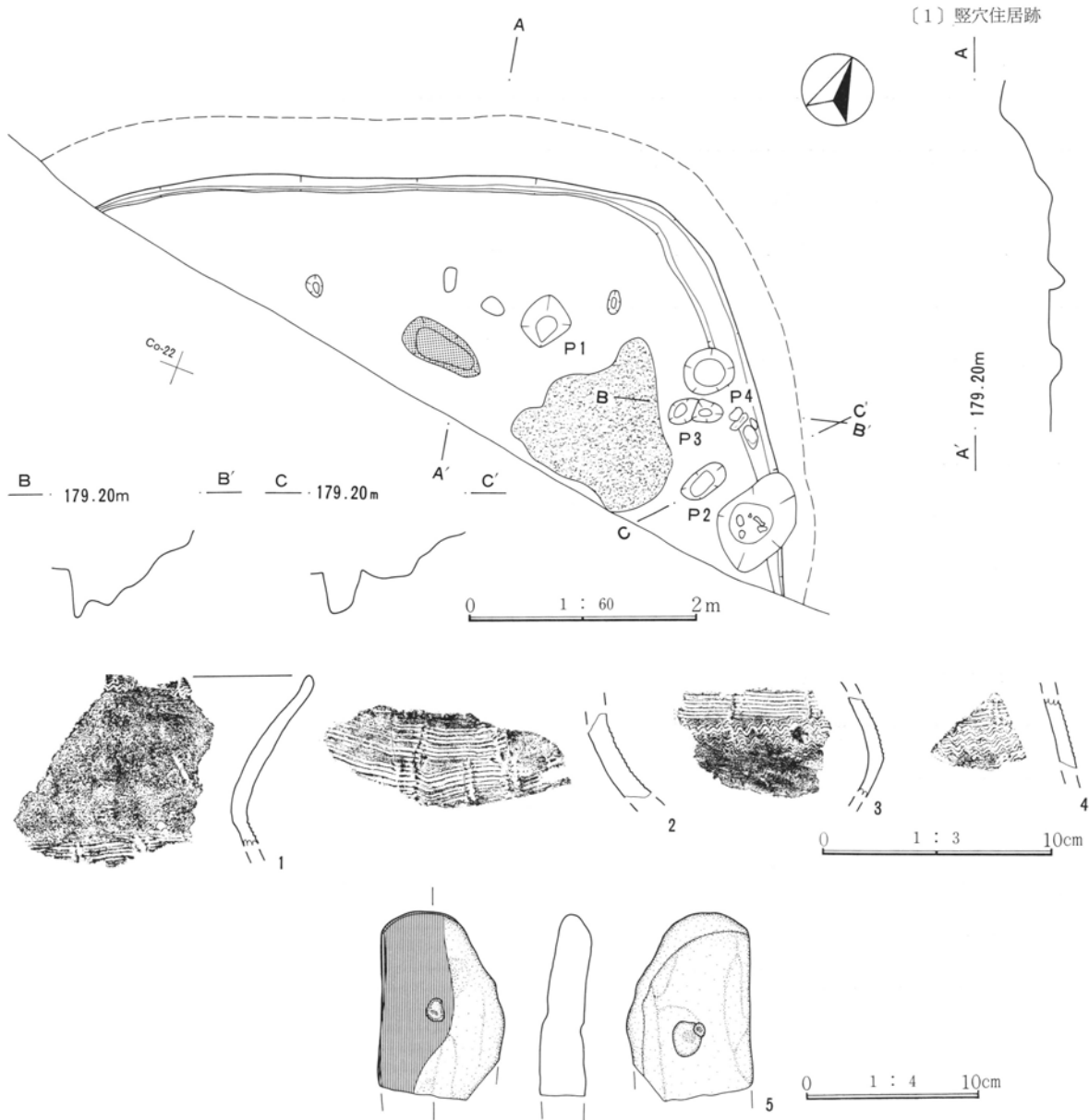
床面 ほぼ平坦であり、非常に硬い。現状での面積は約10.7㎡である。

周溝 北壁下、東壁下で検出されている。

柱穴 P1は主柱穴になる。P1の深さは50cm、P2~P4は出入り口部の施設になり、P2深さ35cm、P3深さ40cmで、その間隔は70cmを測る。P4は深さ26cmで東壁際に掘られていた。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。長径74cm、短径35cmの楕円形を呈する。

遺物 ほとんど出土していない。口縁部片1点、頸部片3点、胴部片9点であり、この他に縄文中期土器



第128図 Y-19号住居跡と出土遺物

片17点が出土した。

代後期樽式期に相当する。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時

Y-19号住居跡遺物観察表

図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
128-1 134	甕	厚4~7	受け口状口縁	外 横ナデ、波状文、簾状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	良	黒褐色	覆土	
128-2 134	壺	厚9~10		外 2連止め←簾状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	良	灰オリーブ色	覆土	
128-3 134	台付甕	厚3~6		外 2連止め←簾状文、波状文、貼付文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	暗褐色	覆土	
128-4 134	甕	厚6~7		外 2連止め、簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	明赤褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)		特徴		出土状況	
128-5 134	凹石	2/3	砂岩	全長 (10.4)	幅 7.1	厚 2.6	重量 (222)	両面に2個の凹みが認められる。器面は平滑ですり面に使用したと考えられる。	覆土

Y-20号住居跡 (第129図、PL.36・134)

位置 Dc-26・27、Dd-26・27グリッドにかけて検出された。Y-8号住居跡の直下に位置している。

重複 Y-8号住居跡によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築されている。

形状 長辺4.4m、短辺3.7mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-90°-W。

壁高 Y-8号住居跡の床面下約20cmで床面に達す。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約14.1㎡。

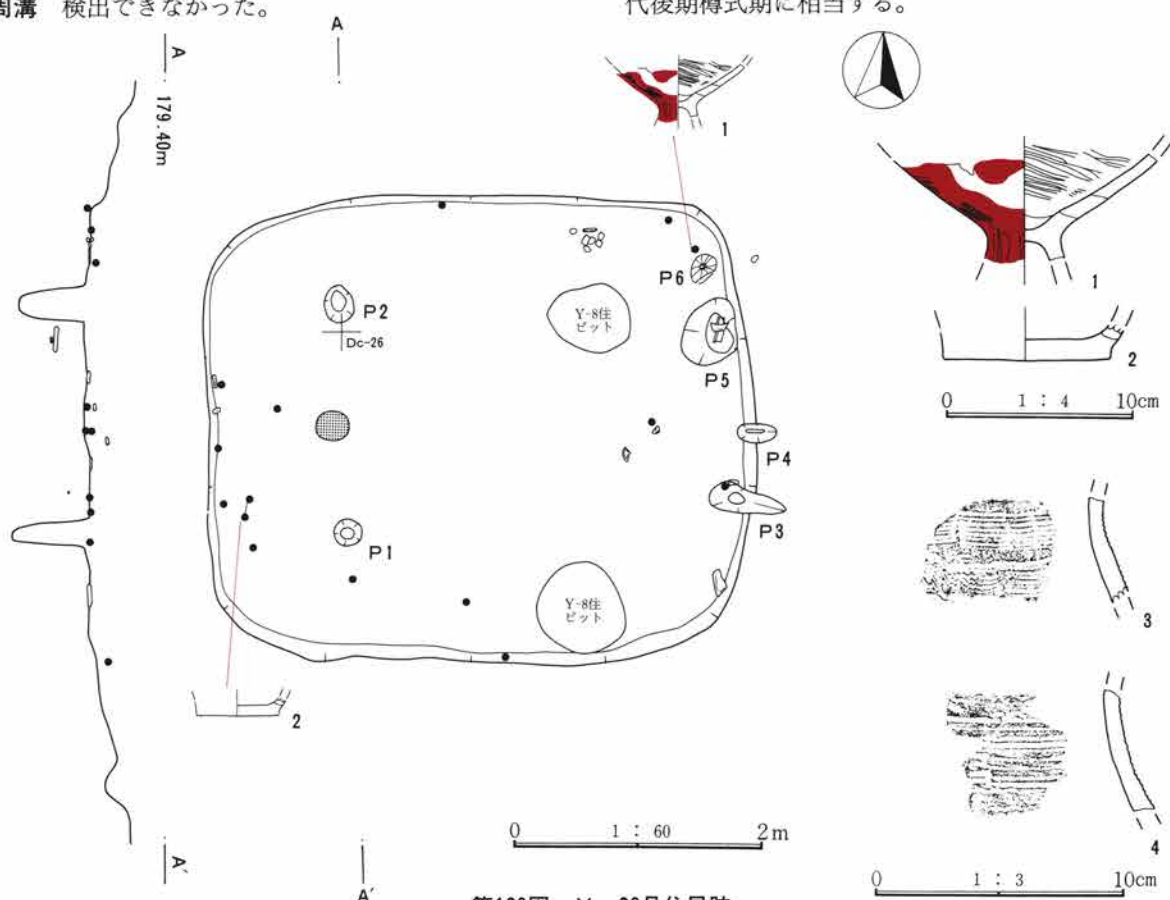
周溝 検出できなかった。

柱穴 P1・P2は主柱穴になる。P1の深さは60cm、P2深さ50cmである。P3～P5は出入り口部の施設になり、P3深さ30cm、P4深さ35cmで、その間隔は50cmを測る。P5深さ30cm、P6深さ20cmである。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。主柱穴P1とP2の間に位置している。

遺物 床面直上からわずかに遺物が出土している。口縁部片4点、頸部片4点、胴部片22点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片6点が出土した。

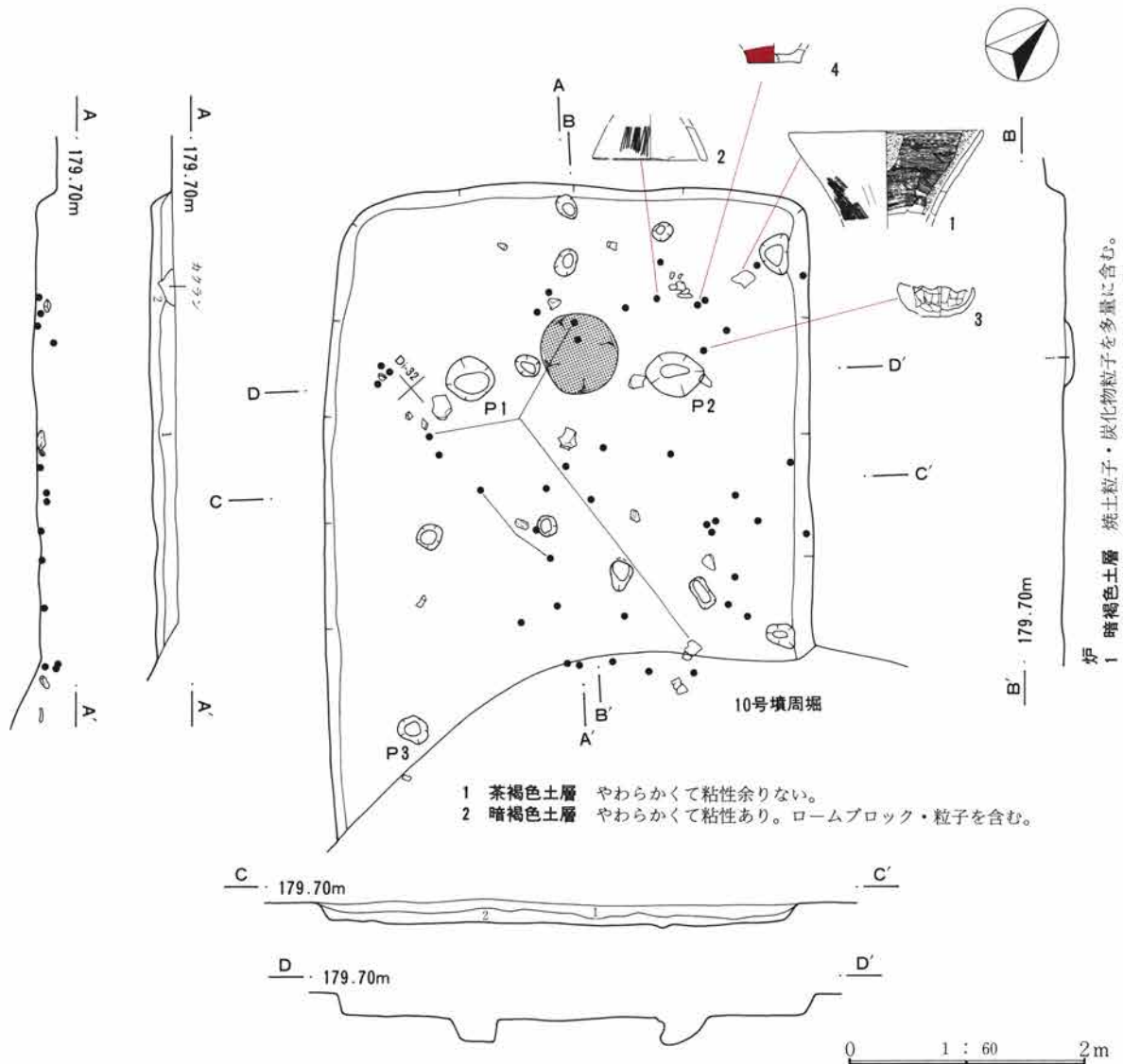
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第129図 Y-20号住居跡

Y-20号住居跡遺物観察表 (②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
129-1 134	高坏	②6.4		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡北東コーナー		
129-2 134	甕	②1.9 ③8.8	底部	外 ミガキ、底面は磨耗している。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	覆土		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
129-3 134	甕	厚6~8		外 簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	灰黄褐色	覆土
129-4 134	甕	厚6~7		外 波状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	不良	にぶい黄褐色	覆土



第130図 Y-21号住居跡

Y-21号住居跡 (第130・131図、PL.37・134)

位置 Dh-31・32、Di-31・32グリッドにかけて検出された。Y-12号住居跡の南約12mの所に位置。

重複 10号墳の周堀によって住居跡の東南部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 現状では長辺(5.4)m、短辺4.1mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-48°-W。

壁高 住居跡確認面より約14~18cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約15.8㎡。

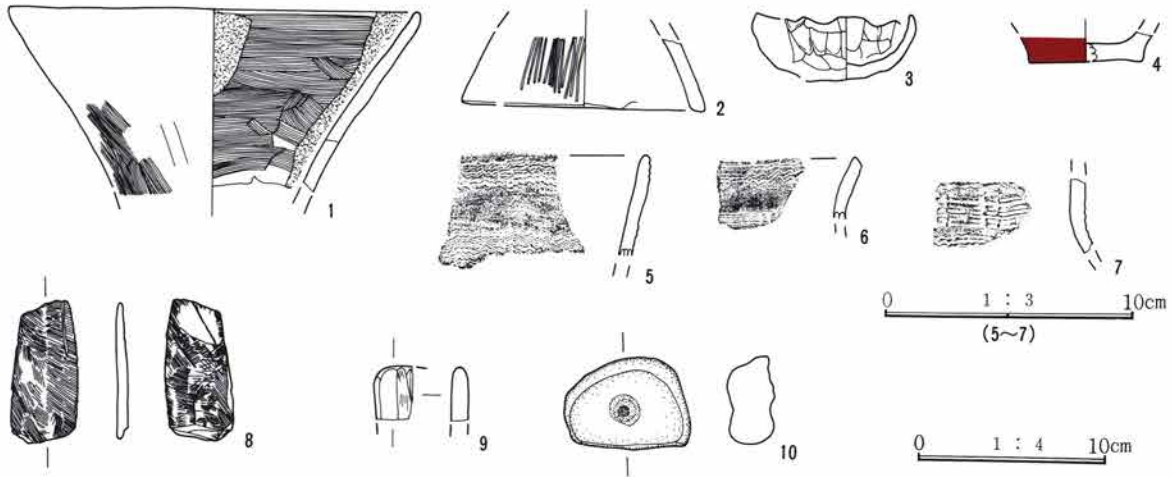
周溝 検出できなかった。

柱穴 P1~P3は主柱穴になる。P1の深さは18cm、P2深さ22cm、P3深さ17cmである。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。主柱穴P1とP2の間に位置している。長径58cm、短径54cmのほぼ円形を呈する。

遺物 覆土第2層を中心に遺物が出土している。口縁部片14点、頸部片8点、胴部片74点等が出土し、この他に縄文中期土器片3点、礫6点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第131図 Y-21号住居跡出土遺物

Y-21号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
131-1 134	壺	①21.8 ②9.5		外 ハケメ。 内 ハケメ。	中粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡北西コー ナー 口縁部1/3			
131-2 134	高環	②3.7		外 赤色塗彩の痕跡、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	炉周辺 脚部1/4			
131-3 134	手捏	②3.5		外 指頭圧痕。 内 指頭圧痕。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	P 2 周辺 1/3			
131-4 134	鉢	②1.5 ③6.0	底部	外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤褐色	住居跡北西部 底部1/4			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
131-5 134	甕	厚 5~6		外 波状文。 内 ハケメ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土	
131-6 134	甕	厚 4~5		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に 良	黒色	覆土	
131-7 134	甕	厚 5~6		外 2連止め簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	明赤褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
131-8 134	石包丁	一部欠損	千枚岩	7.3	3.5	0.6	(20)	全面はよく研磨されている。	覆土
131-9 134	砥石	部分	砂岩	(3.0)	(2.1)	0.9	(7)	両面使用。太い条痕が認められる。	覆土
131-10 134	凹石	完形	砂岩	4.9	6.6	2.4	102	片面に凹みが認められる。	覆土

Y-22号住居跡 (第132~135図、PL. 38・135)

位置 Cr-31~33、Cs-31~33グリッドにかけて検出された。Y-26号住居跡の北西約7mの所に位置している。

重複 15号墳の周堀によって住居跡の東南部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

形状 現状では長辺(6.2)m、短辺4.8mの隅丸長方形を呈する。

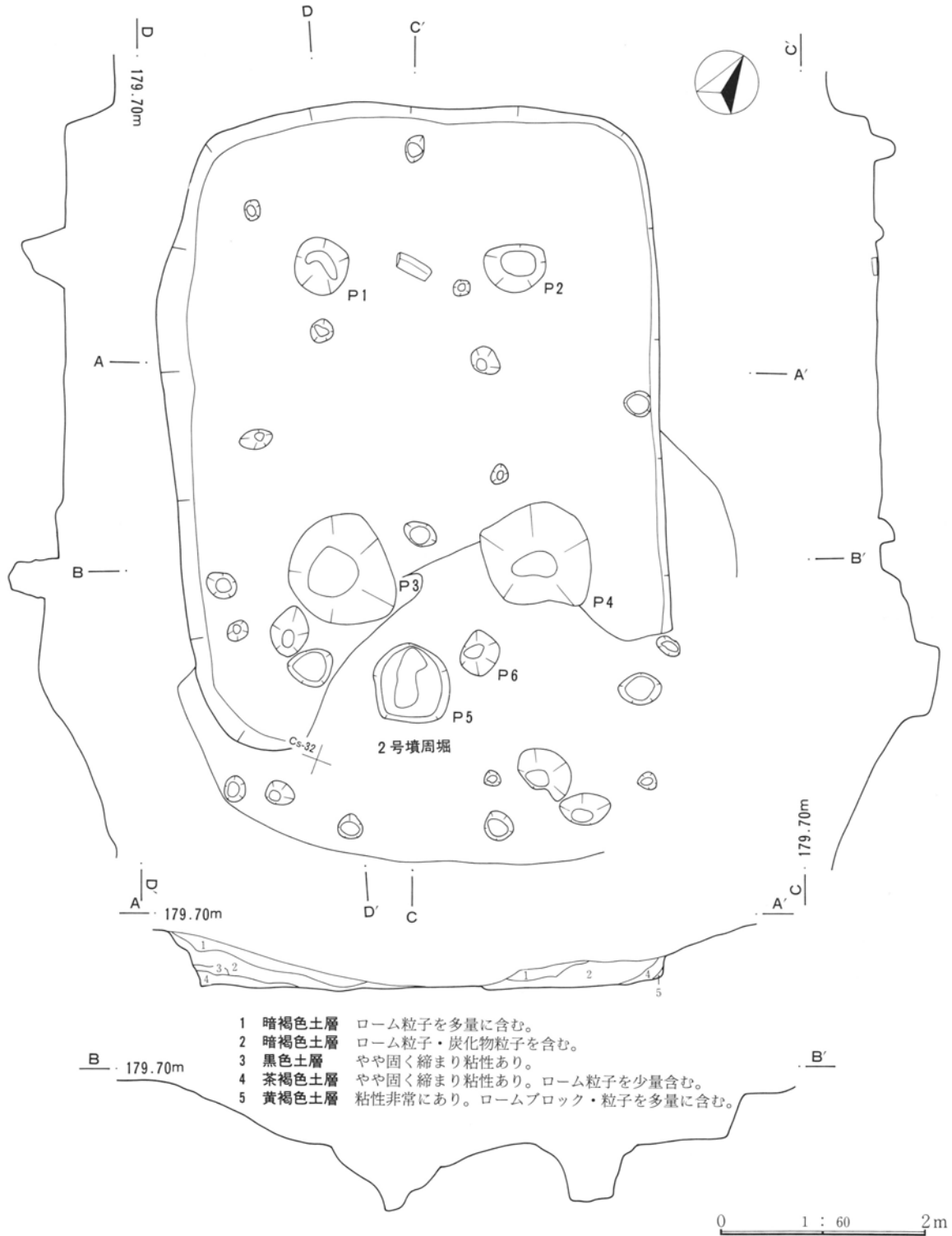
方位 N-21°-W。

壁高 住居跡確認面より約20~50cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。推定面積は約26.4m²である。

周溝 検出できなかった。

柱穴 P 1~P 4 は支柱穴になる。P 1の深さは40cm、P 2深さ46cm、P 3深さ50cm、P 4深さ67cmである。P 5・P 6 は出入り口部分の施設になるが、上面を古墳の周堀によって削平されているために現



第132図 Y-22号住居跡

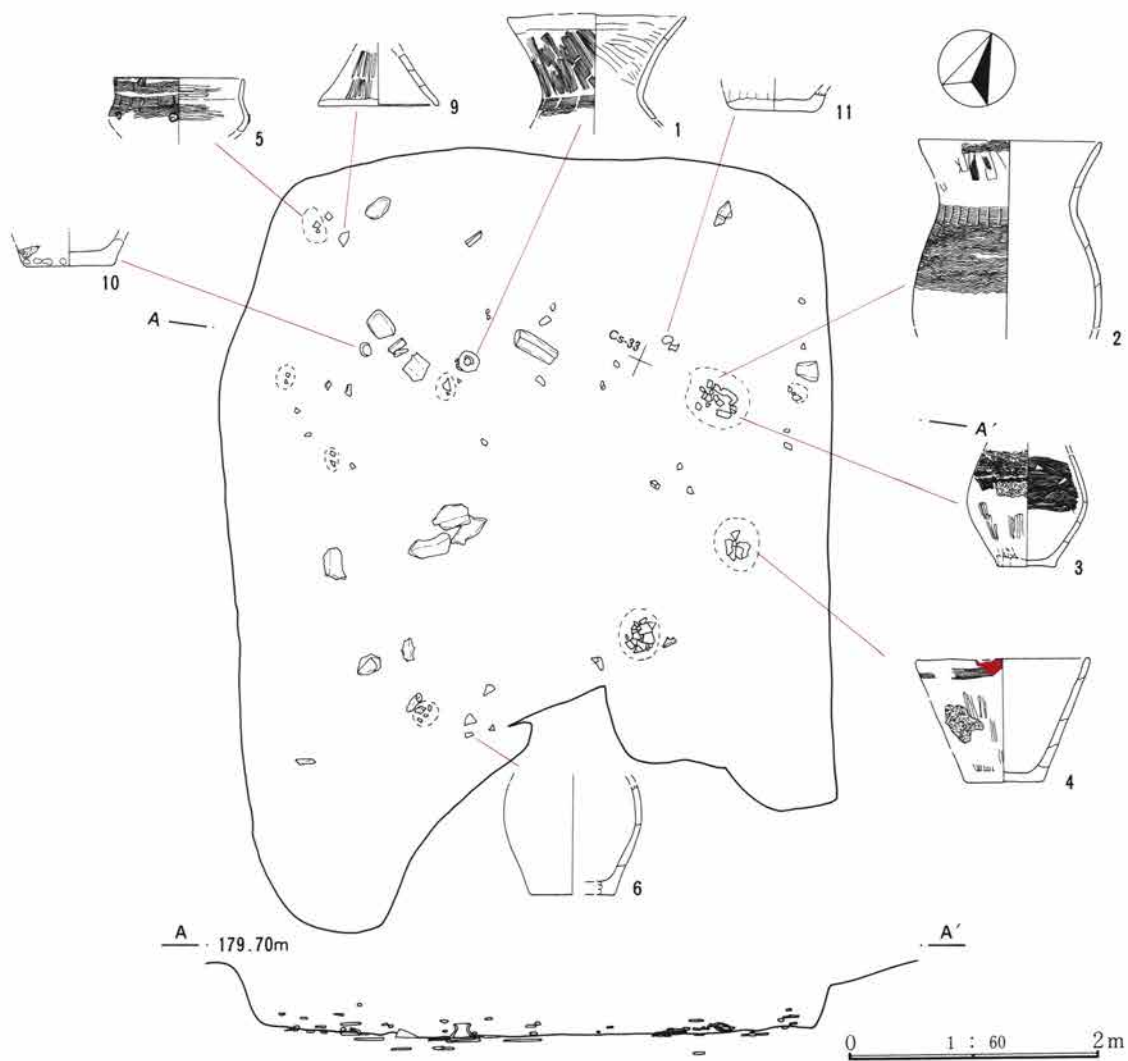
状でのP5深さは32cm、P6の深さ28cmである。しかし、床面からの深さを復元すると、P5・57cm、P6・63cmになる。

炉 床面を掘り窪めた地床炉である。支柱穴P1

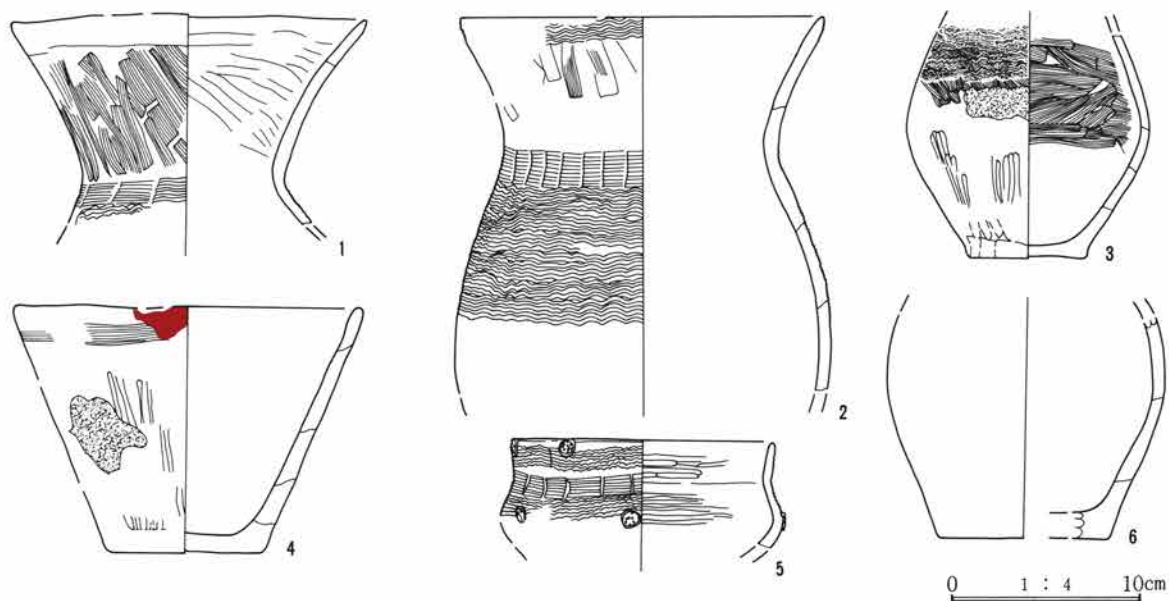
とP2の中間に位置している。

遺物 床面直上を中心に遺物が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

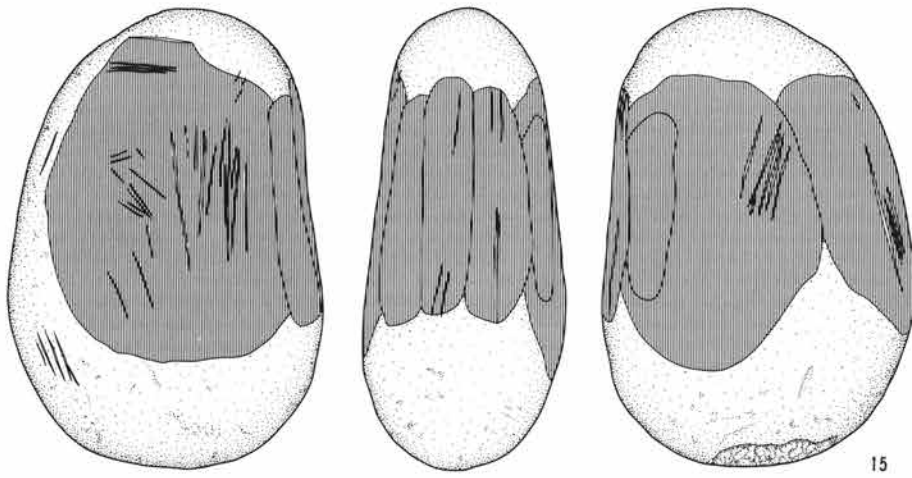
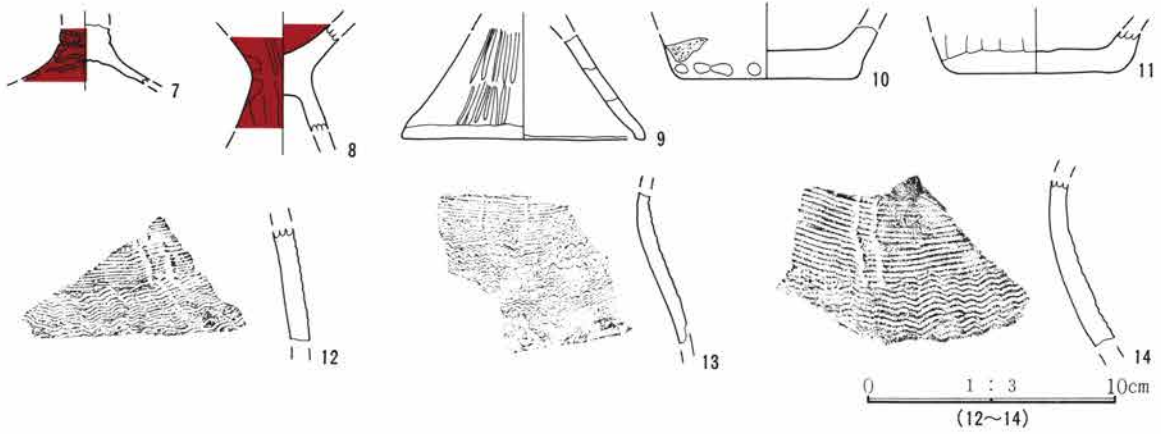


第133図 Y-22号住居跡遺物分布

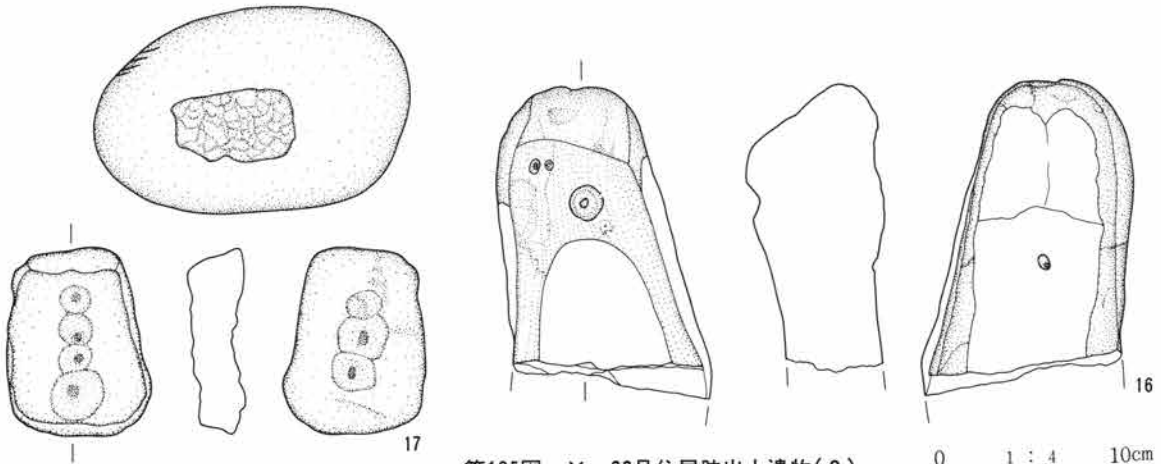


第134図 Y-22号住居跡出土遺物(1)

〔1〕 竪穴住居跡



15



第135図 Y-22号住居跡出土遺物(2)

0 1:4 10cm

Y-22号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
134-1 135	壺	①18.8 ②11.4		外 口辺部横ナデ、ハケメ、頸部は等間隔止め←簾状文。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	床直上 頸部以下欠
134-2 135	壺	①19.3 ②19.8		外 口縁端部は波状文、ハケメ、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北東部 床直 胴下半欠
134-3 135	壺	①12.3 ③6.2		外 波状文、ミガキ、炭化物付着。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡北東部 床直 胴上半欠
134-4 135	鉢	①18.6 ②13.0③8.0		外 横ナデ、ミガキ、炭化物付着。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡東壁寄り 1/2

Y-22号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
134-5 135	台付甕	①13.8 ②5.5	口縁部はほぼ直立する。	外 波状文、円形浮文を貼付。頸部は櫛描直線文の上に縦の沈線、波状文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入良 黒褐色	住居跡北西コーナー			
134-6 135	甕	②11.8 ③9.0		外 荒れている。 内 剥落している。	細粒の砂を混入不良 にぶい橙色	住居跡南壁寄り			
135-7 135	高坏	②3.1		外 赤色塗彩、横位の沈線2条。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入良 にぶい橙色	覆土			
135-8 135	高坏	②5.6		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ミガキ、赤色塗彩。	細粒の砂を混入良 赤褐色	覆土			
135-9 135	高坏	②5.6 ③12.9		外 ミガキ。 内 やや粗い調整。	細粒の砂を混入良 赤褐色	住居跡北西コーナー			
135-10 135	壺	②2.3 ③9.4	底部	外 指頭圧痕。 内 やや粗い調整。	細粒の砂を混入良 にぶい黄褐色	住居跡北西部			
135-11 135	壺	②2.2 ③9.0	底部	外 底面が磨耗している。 内 荒れている。	細粒の砂を混入良 にぶい褐色	ピット内			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
135-12 135	甕	厚8		外 2連止め←籬状文、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	明褐色	覆土	
135-13 135	甕	厚5~6		外 籬状文、波状文。 内 ハケメ。	細砂を含む	良	暗褐色	覆土	
135-14 135	壺	厚6~9		外 2連止め←籬状文、波状文。 内 ミガキ。	粗砂を含む	やや良	橙色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
135-15 135	砥石	完形	安山岩	24.4	16.7	10.8	6,297	大型の置砥で、3面を使用している。一部に沈線状の削痕と敲打痕が認められる。	覆土
135-16 135	砥石	1/2	砂岩	(22.6)	15.7	10.7	(4,829)	大型の置砥で、3面を使用している。両面に凹み穴が認められる。	覆土
135-17 135	凹石	完形	砂岩	9.9	7.3	3.0	279	両面に7個の凹みが認められる。	覆土

Y-23号住居跡 (第136~139図、PL.39・135)

位置 Cr-35・36、Cs-35・36グリッドにかけて検出された。Y-22号住居跡の北約9.5mの所に位置している。

重複 2号墳の周堀によって住居跡の北西部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 現状では長辺(7.2)m、短辺(6.3)mの隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 N-1°-W。

壁高 住居跡確認面より約30~60cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約34.4㎡で

ある。

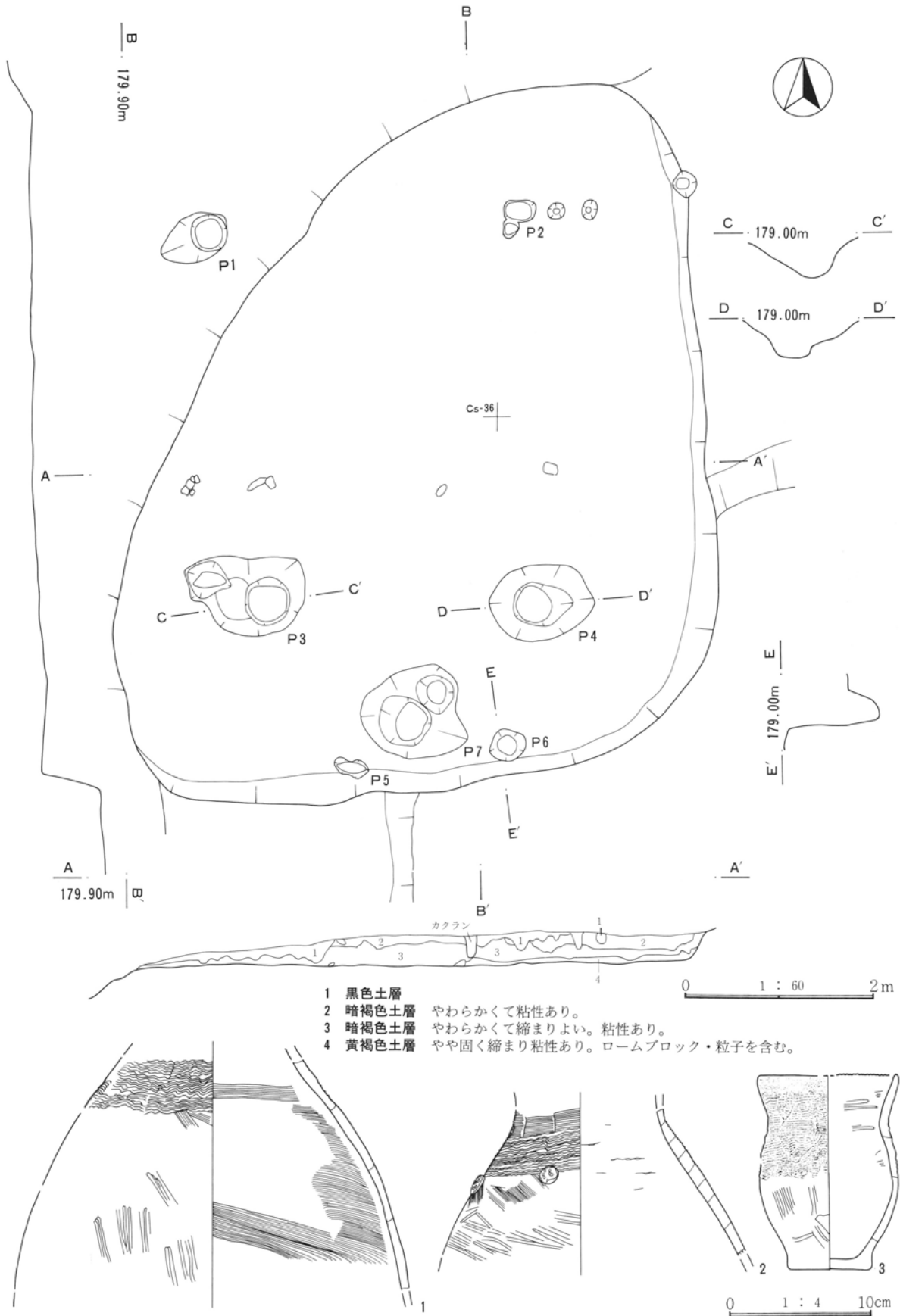
周溝 検出できなかった。

柱穴 P1~P4は支柱穴になる。P1の深さは推定92cm、P2深さ54cm、P3深さ58cm、P4深さ87cmである。P5・P6は出入り口部分の施設になる。P5深さは30cm、P6深さ40cmである。P7深さ70cmである。

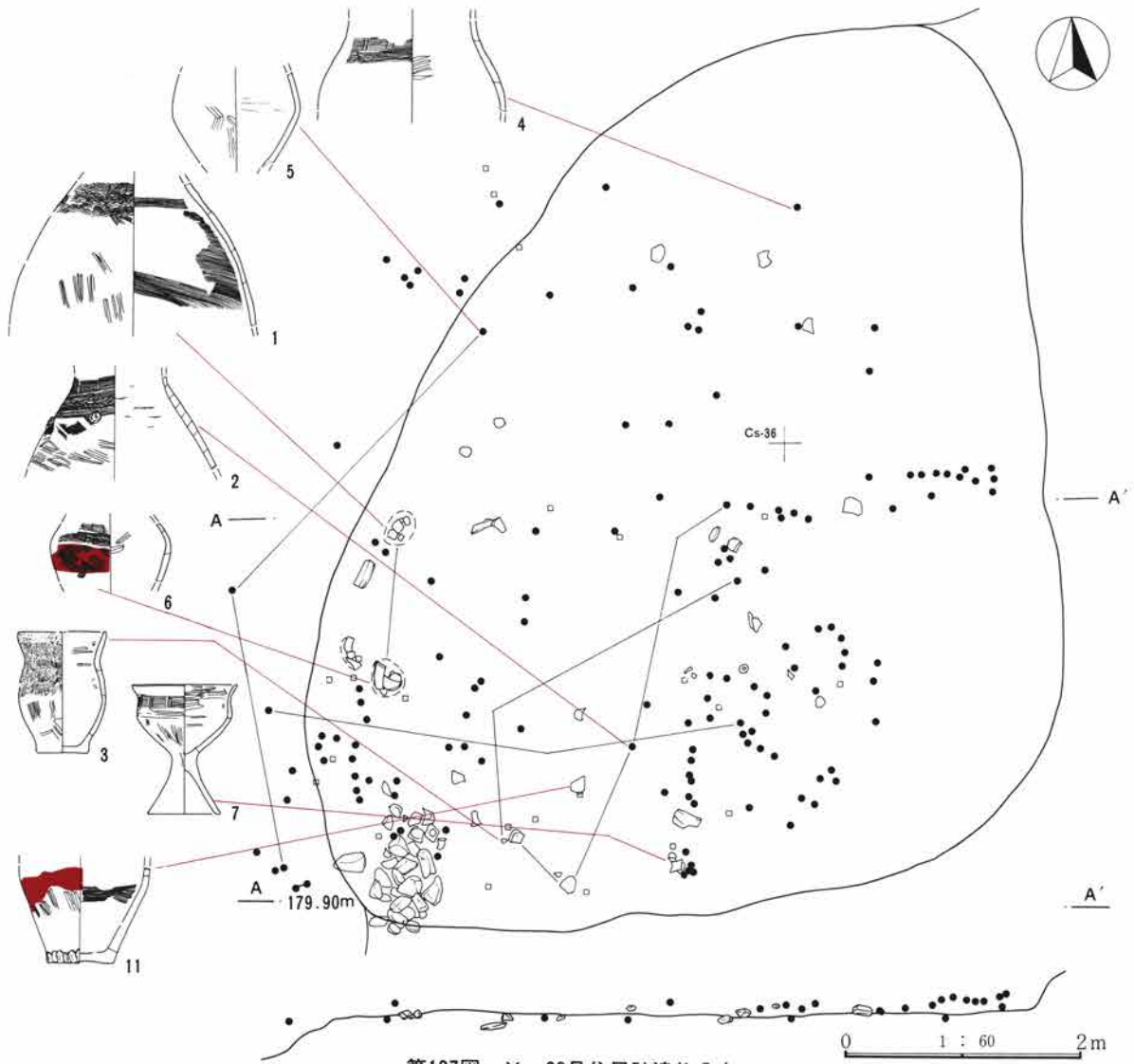
炉 床面から焼土等の痕跡は検出できなかった。

遺物 床面直上を中心に遺物が出土している。口縁部片37点、胴部片276点、底部片23点等が出土し、この他に縄文中期土器片34点、土師器・須恵器片6点が出土した。また、第138図7の土器がP7底面から出土している。

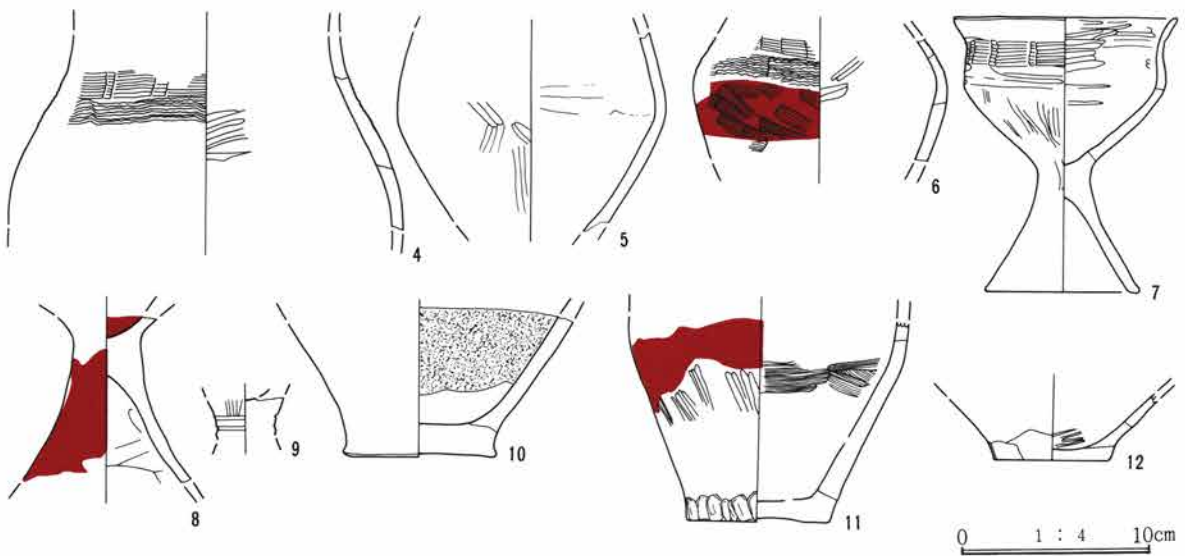
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



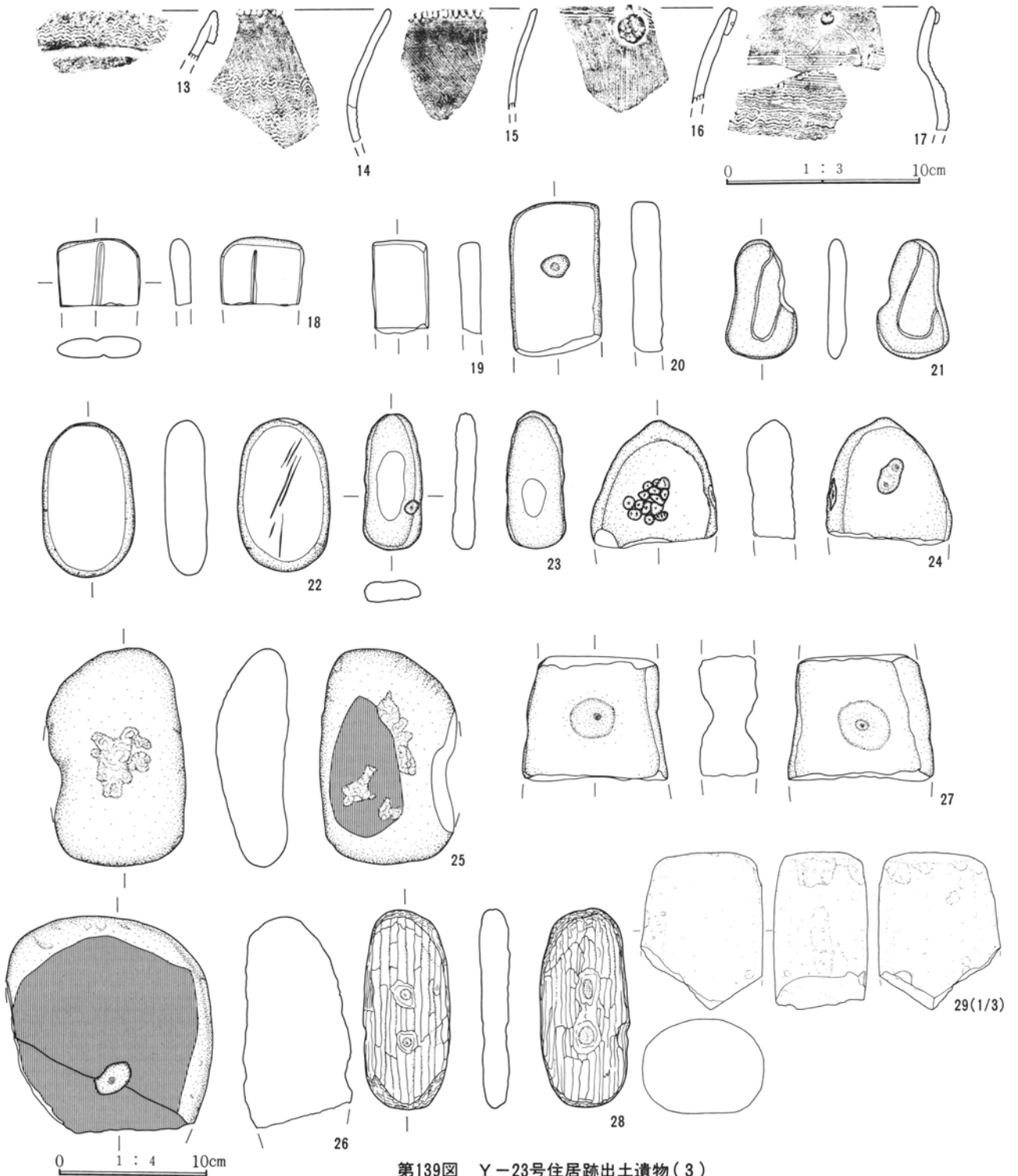
第136図 Y-23号住居跡と出土遺物(1)



第137図 Y-23号住居跡遺物分布



第138図 Y-23号住居跡出土遺物(2)



第139図 Y-23号住居跡出土遺物(3)

Y-23号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
136-1 135	壺	②16.0		外 波状文、ハケメ、ミガキ。 内 ハケメ。	中粒の砂を混入 良 赤褐色	住居跡西壁寄り 胴上半全周
136-2 135	壺	②9.8		外 頸部は等間隔止め←籐状文、波状文、刺突のある 円形浮文、ミガキ。内 ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡南壁寄り 頸~胴上半
136-3 135	甕	①9.7 ②13.1③6.0	口縁部はや や受け口状	外 口唇部に刻み目、波状文、頸部は等間隔止め←籐 状文、波状文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡南壁寄り 1/2

3章 弥生時代の遺構と遺物

Y-23号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
138-4 135	甕	②10.3		外 頸部は2連止め←簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北壁寄り 胴部1/3			
138-5 135	壺	②10.5		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ミガキ、輪積み痕が残る。	細粒の砂を混入 良 明褐色	住居跡西壁寄り 胴部1/2			
138-6 135	台付甕	②6.3		外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ハケメ、赤色塗彩。内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡南部 胴部1/3			
138-7 135	台付甕	①11.9 ②14.5③8.3	口縁部は外 反する	外 口縁部は横ナデ、頸部は2連止め←簾状文、胴部はミガキ、炭化物付着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡南壁寄り			
138-8 135	高坏	②8.8		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	覆土 脚部全周			
138-9 135	高坏	②2.0		外 ミガキ、横位の沈線2条。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤褐色	覆土 部分			
138-10 135	甕	②7.3 ③8.1	底部	外 ハケメ。 内 ミガキ、炭化物が付着している。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	覆土 底部全周			
138-11 135	壺	②10.8 ③7.6		外 ミガキ、赤色塗彩。 内 ハケメ、底部は粗い調整。	細粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡南壁寄り 胴上半欠			
138-12 135	壺	②3.5 ③6.0	底部	外 ミガキ。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	覆土			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
139-13 135	壺	厚5~9	折り返し口 縁	外 波状文。 内 ミガキ、剥落。	粗砂を含む	やや良	にぶい黄 橙色	覆土	
139-14 135	甕	厚4~5		外 口唇部刻み目、波状文、炭化物付着。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土	
139-15 135	甕	厚3~4		外 口唇部刻み目、ハケメ。 内 ハケメ。	細砂を含む	非常に 良	灰褐色	覆土	
139-16 135	甕	厚6~8		外 ハケメ、波状文、貼付文、炭化物付着。 内 ハケメ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土	
139-17 135	台付甕	厚4~6		外 波状文、2連止め←簾状文、貼付文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
139-18 135	砥石	1/2	砂岩	(4.4)	5.4	1.4	(51)	両面使用。両面に太い条痕が認められる。	覆土
139-19 135	砥石	2/3	砂岩	(6.3)	3.2	1.5	(54)	小口を除き4面使用。	覆土
139-20 135	砥石	完形	砂岩	10.2	6.0	2.0	203	全面使用。凹み穴が認められる。	覆土
139-21 135	砥石	一部欠損	砂岩	8.0	4.6	1.2	(53)	両面使用。	覆土
139-22 135	磨石	完形	安山岩	10.4	6.2	2.8	259	全面に磨面と一部に細かい条線、敲打痕が認められる。	覆土
139-23 135	砥石	完形	砂岩	9.2	3.9	1.5	69	両面使用。	覆土
139-24 135	凹石	1/2	砂岩	(8.2)	8.6	3.1	(281)	両面に凹みが認められる。	覆土
139-25 135	台石	一部欠損	砂岩	22.0	(13.5)	7.4	(2,762)	磨面と敲打痕が認められる。	覆土
139-26 135	台石	一部欠損	砂岩	(14.6)	13.5	7.2	(1,792)	片面に磨面と凹み穴が認められる。	覆土
139-27 135	凹石	完形	砂岩	9.5	9.7	4.0	490	両面に2個の凹み穴が認められる。	覆土
139-28 135	凹石 (縄文)	完形	絹雲母緑泥片 岩	13.5	5.9	2.0	260	両面に4個の凹み穴が認められる。	覆土
139-29 135	磨製石斧	基部	花崗閃緑岩	(7.8)	6.1	4.7	(380)		覆土

Y-24号住居跡 (第140~144図、PL.40・135)

いる。

位置 Db-37・38、Dc-37・38グリッドにかけて検出された。Y-31号住居跡の東約22mの所に位置して

重複 新しい溝によって住居跡の中央部を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 路線外に伸びているために完掘できなかった。現状では長辺(7.7)m、短辺5.8mの隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 N-34°-W。

壁高 住居跡確認面より約26~30cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約29.8㎡である。

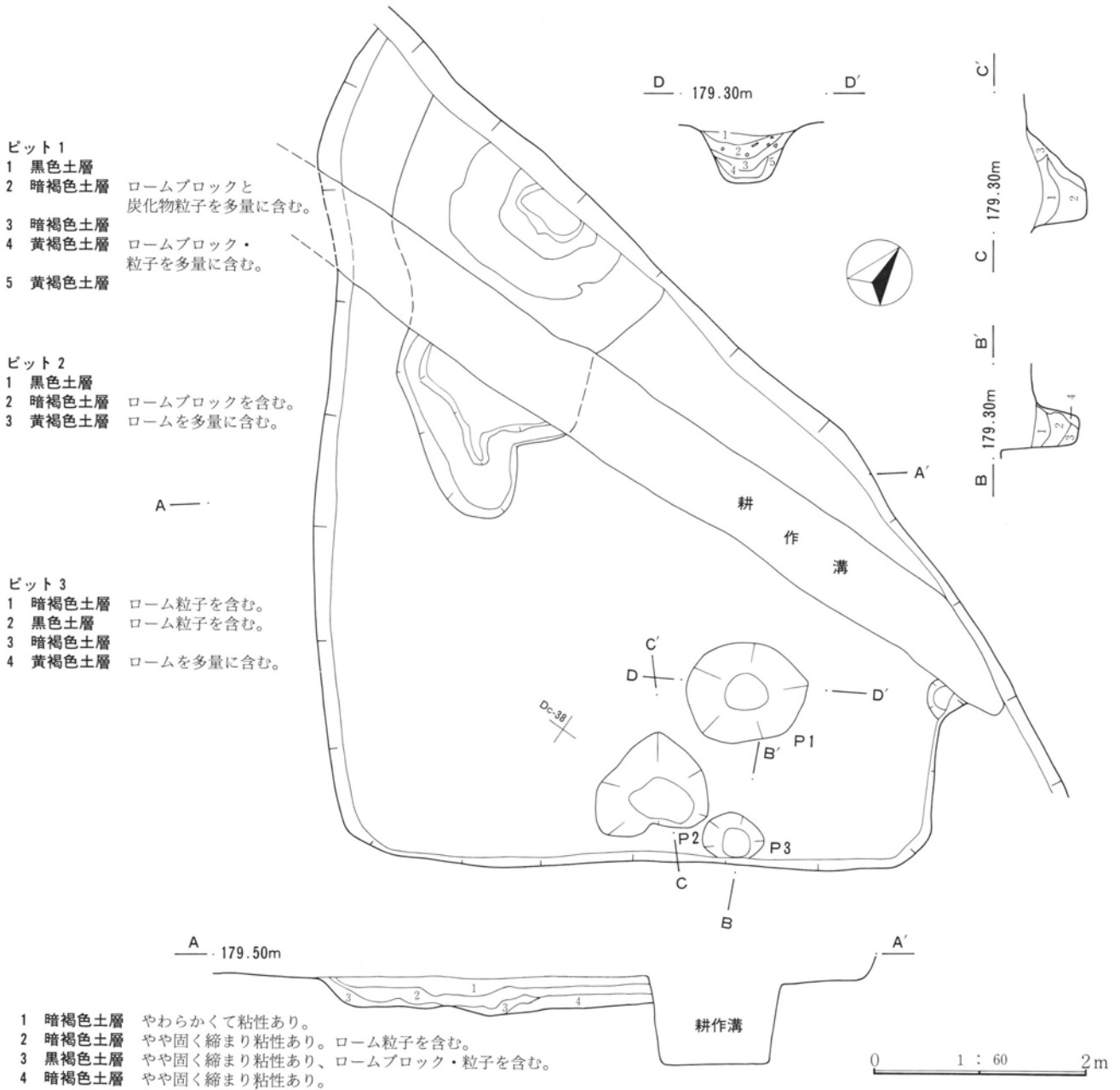
周溝 検出できなかった。

柱穴 3個のピットが検出された。P1の深さは56cm、P2深さ57cm、P3深さ43cmである。

炉 床面から焼土等の痕跡は検出できなかった。

遺物 床面直上を中心に遺物が出土している。口縁部片12点、頸部片31点、胴部片197点、底部片12点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片105点、土師器・須恵器片11点、礫13点が出土している。

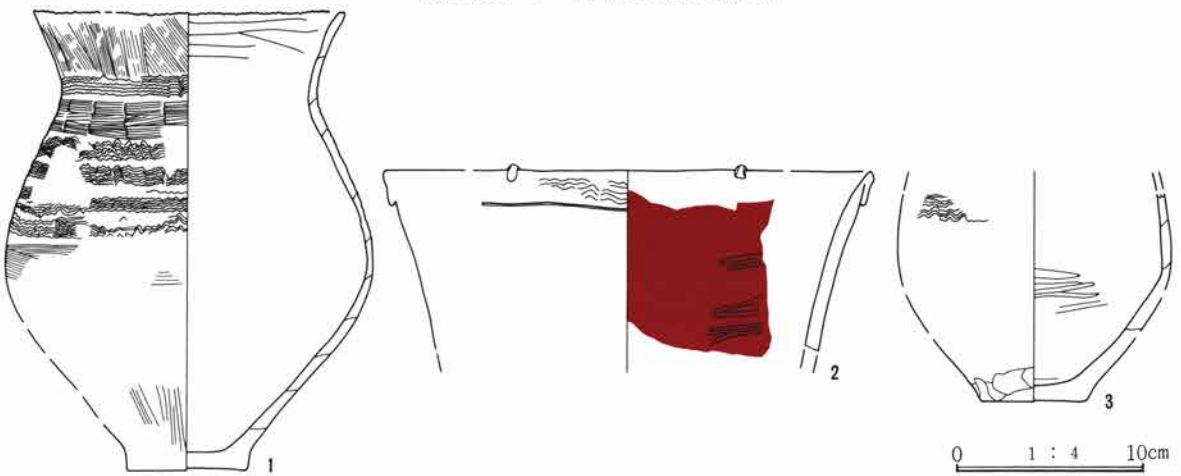
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



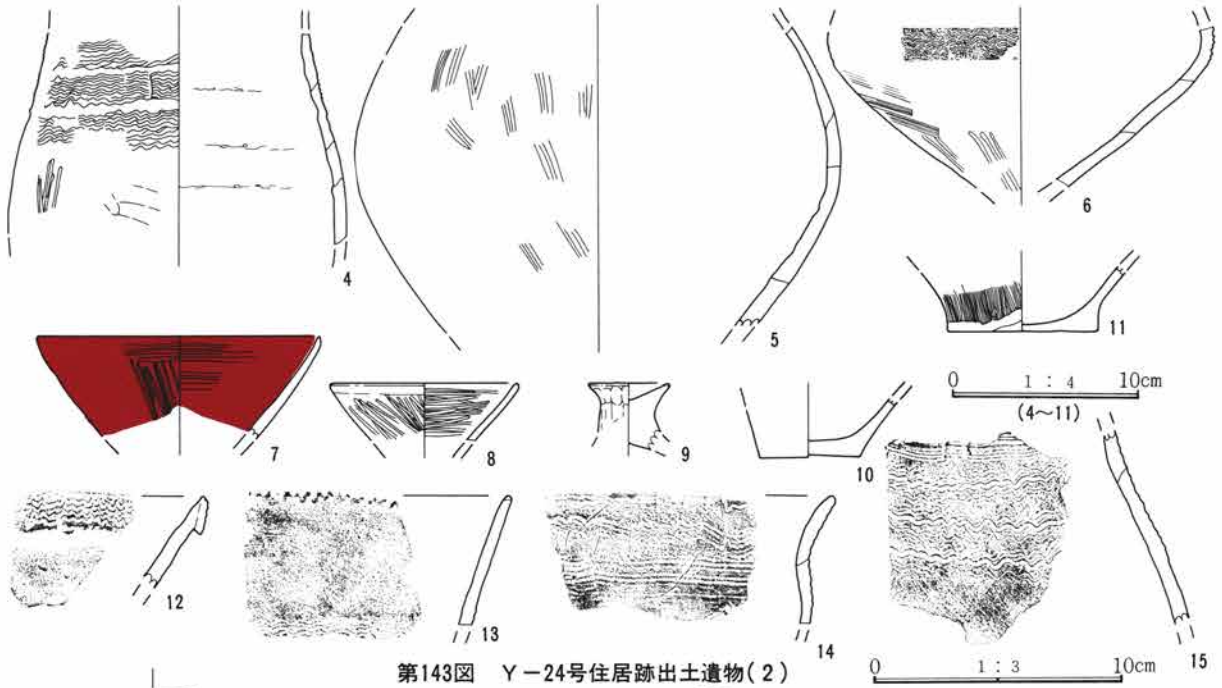
第140図 Y-24号住居跡



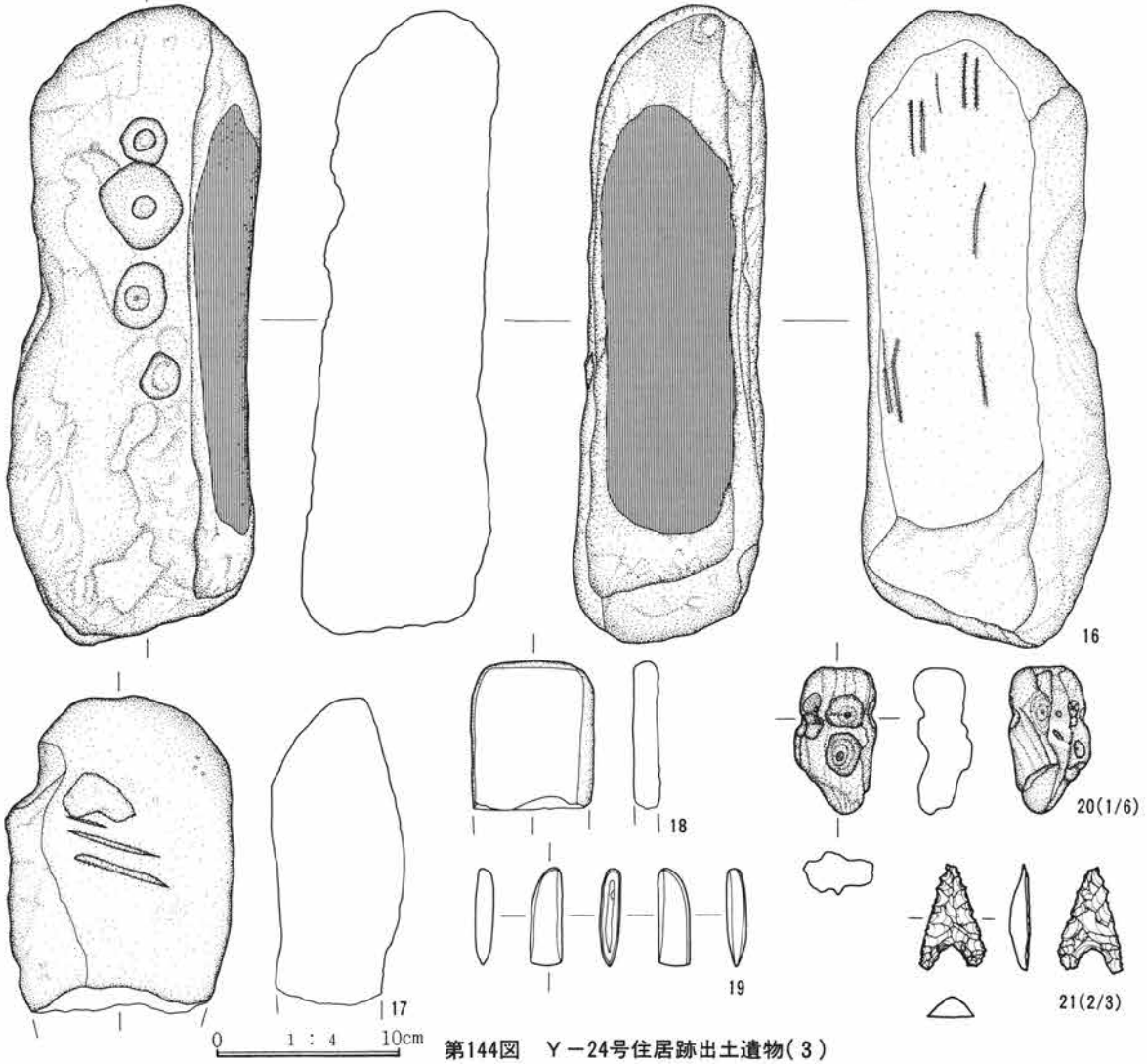
第141図 Y-24号住居跡遺物分布



第142図 Y-24号住居跡出土遺物(1)



第143图 Y-24号住居跡出土遺物(2)



第144图 Y-24号住居跡出土遺物(3)

Y-24号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
142-1 135	甕	①16.6 ②24.3③6.4	口縁部はやや外反	外 口唇部に刻み目、口辺部ハケメ、波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、胴ミガキ。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡北東コーナー ほぼ完形			
142-2 135	壺	①25.8 ②9.9	折り返し口縁	外 口唇部に貼り付け、波状文。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 やや良 橙色	住居跡南部 口縁部1/4			
142-3 135	甕	②11.3 ③0.9		外 波状文、炭化物付着。 内 ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡南壁寄り			
143-4 135	甕	②11.2		外 波状文、ミガキ。 内 荒れている。輪積み痕が残る。	細粒の砂を混入 やや良 褐灰色	住居跡南壁寄り			
143-5 135	壺	②16.3		外 ミガキ。 内 剥落している。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡北東コーナー 胴部1/2			
143-6 135	台付甕	②8.6		外 波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡南壁寄り 脚部欠損			
143-7 135	高坏	①15.0 ②5.4		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡南壁寄り 口縁部1/3			
143-8 135	高坏	①10.0 ②3.0		外 ミガキ、ナデ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡南壁寄り 口縁部1/3			
143-9 135	蓋	①4.4 ②3.4		外 ナデ、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡南壁寄り			
143-10 135	甕	②3.9 ③5.4	底部	外 ミガキ、底面磨耗。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡中央部 底部全周			
143-11 135	甕	②3.0 ③8.0	底部	外 ハケメ。 内 丁寧なミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡北壁寄り 底部全周			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
143-12 135	甕	厚5	折り返し口縁	外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	非常に良	暗灰黄色	覆土	
143-13 135	甕	厚5		外 口唇部刻み目。波状文、炭化物付着。 内 ナデ。	細砂を含む	やや良	明黄褐色	覆土	
143-14 135	甕	厚4		外 波状文、簾状文。 内 ナデ。	粗砂を含む	やや良	橙色	覆土	
143-15 135	甕	厚5		外 簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g) 全長 幅 厚 重量				特徴	出土状況
144-16 135	砥石	完形	砂岩	34.5	13.0	9.5	5,450	大型の置砥。3面使用。 1面には4個の浅い凹みが認められる。	覆土
144-17 135	砥石	一部欠損	砂岩	(16.9)	12.3	6.9	(1,737)	大型の置砥で、1面使用。太い条痕が認められる。	覆土
144-18 135	砥石	2/3	砂岩	(8.1)	6.7	1.3	(122)	両面使用。	覆土
144-19 135	磨製石斧	完形	蛇紋岩	5.3	1.6	1.0	18	全面よく研磨されている。	覆土
144-20 135	凹石	完形	砂岩	11.7	5.7	4.2	316	全面に10個の凹み穴が認められる。	覆土
144-21 135	石鏃	完形	黒曜石	2.2	0.9	0.5	1	側縁はほぼ直線的で、基部の挟りは逆U字状を呈す。	覆土

Y-25号住居跡 (第145~147図、PL.40・41・136)

位置 Cn-33・34、Co-33・34グリッドにかけて検出された。Y-18号住居跡の西約9mの所に位置している。

重複 Y-37号住居跡に接し、8号墳周堀によって住居跡の南壁と東壁の一部を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長辺8.9m、短辺6.6mの隅丸長方形を呈する。

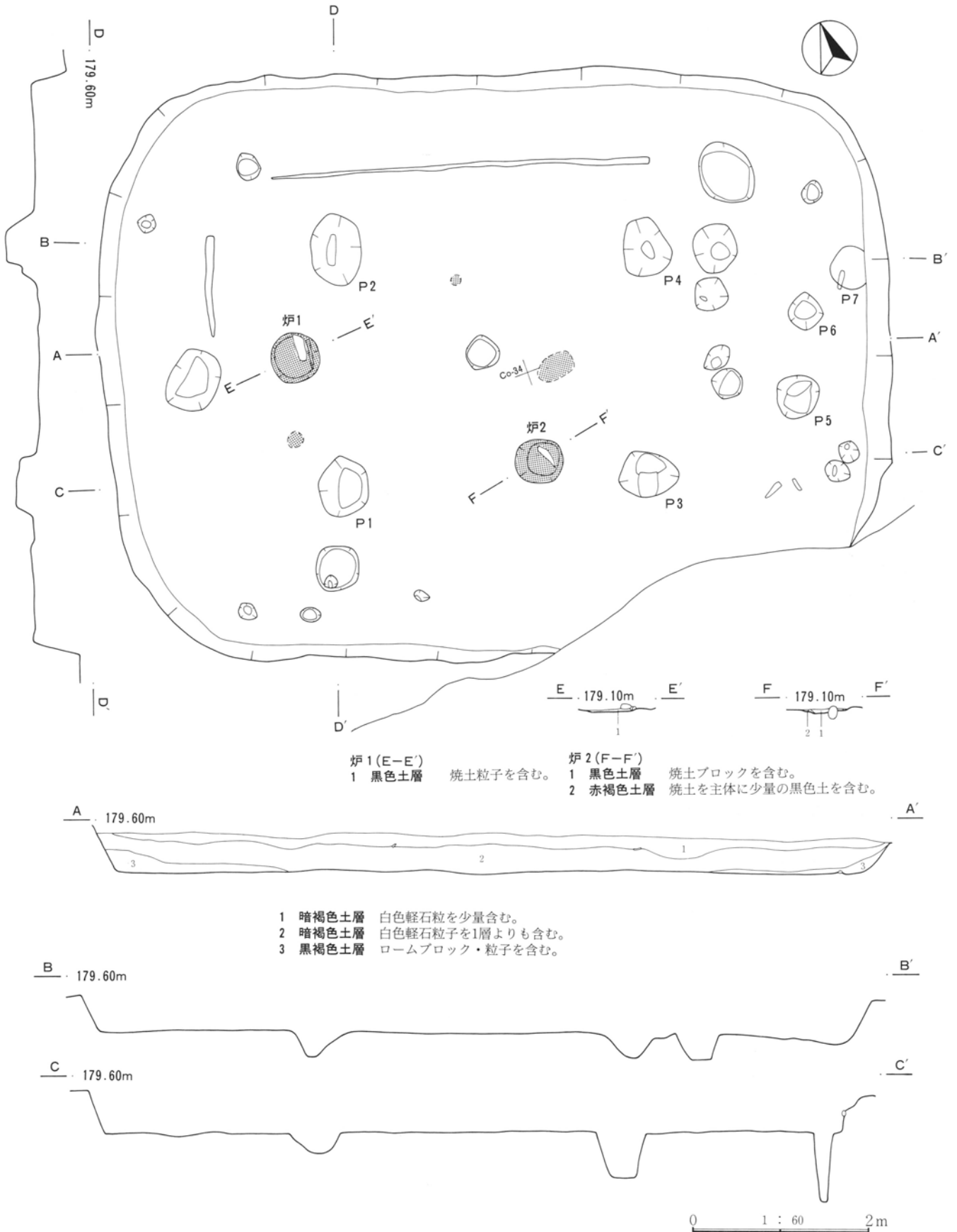
方位 N-71°-W。

壁高 住居跡確認面より約40~50cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

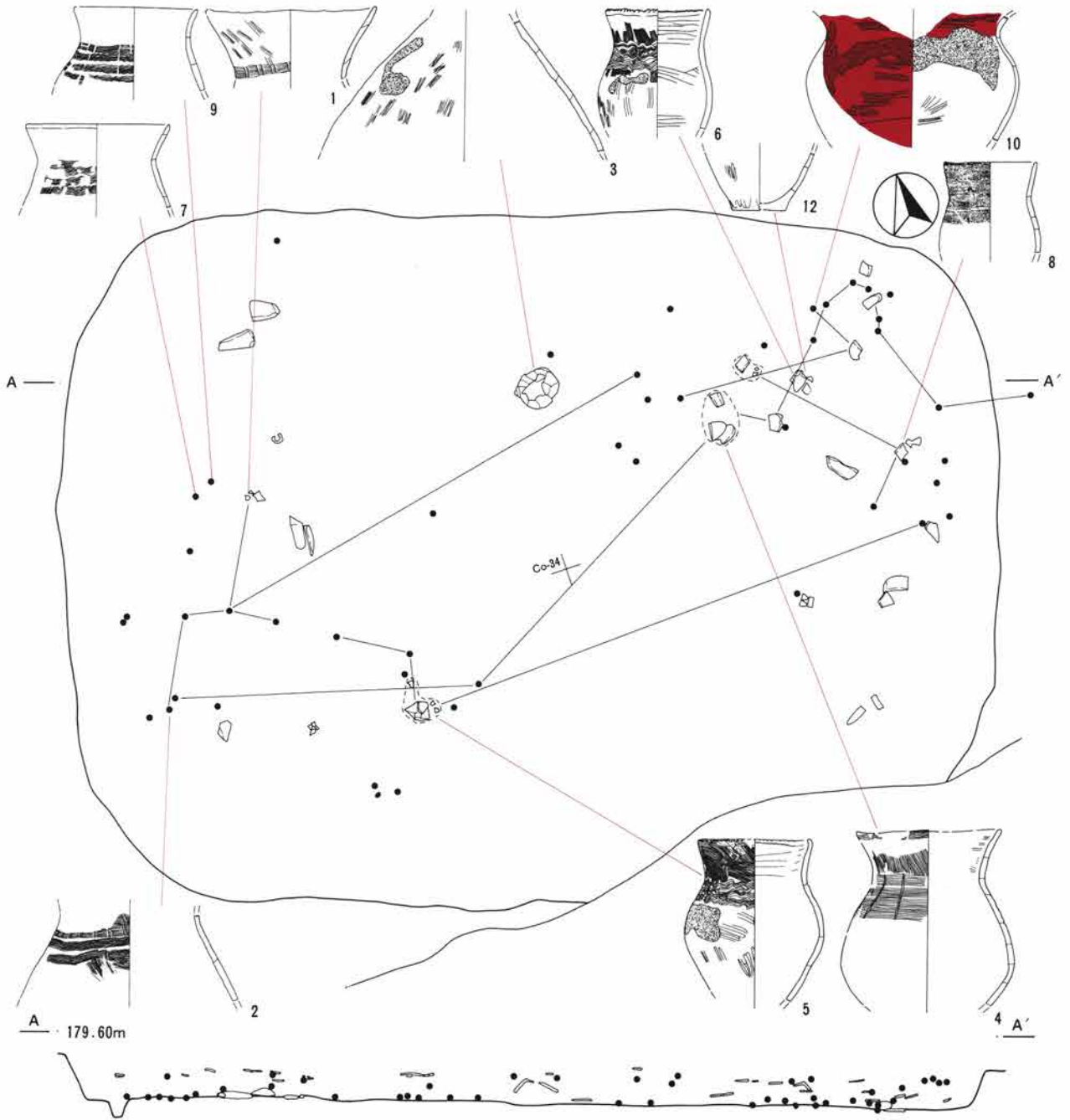
床面 ほぼ平坦である。推定面積は約49m²である。

周溝 検出できなかった。

柱穴 P1~P4は支柱穴になる。P1の深さは23cm、P2深さ30cm、P3深さ50cm、P4深さ24cmで



第145図 Y-25号住居跡



第146図 Y-25号住居跡遺物分布

0 1 : 60 2m

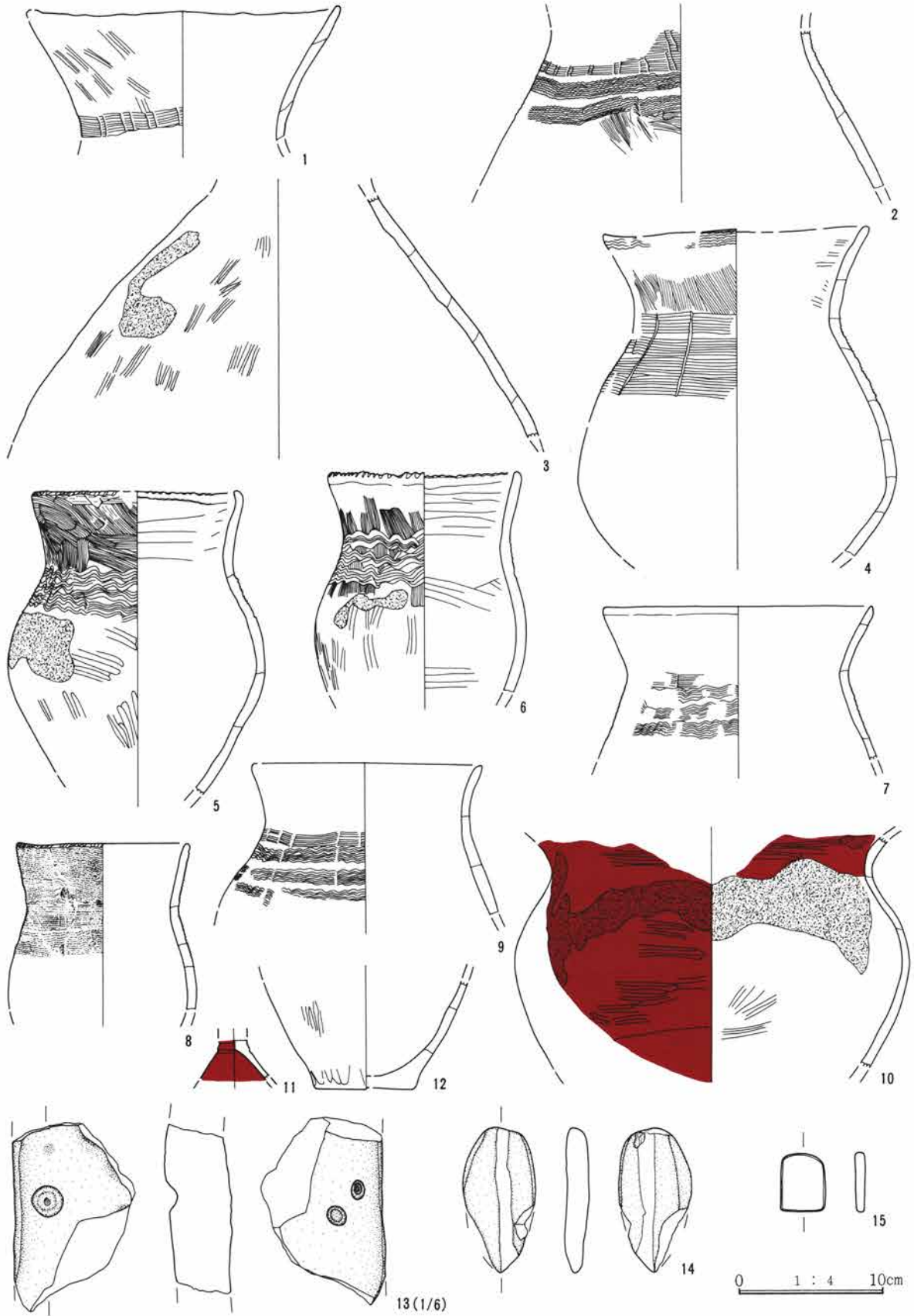
ある。P 5～P 7は出入り口部の施設になる。P 5 深さ20cm、P 6 深さ21cm、P 7 深さ40cmである。他のピットはこの住居に伴うものか判然としない。

炉 2箇所検出された。炉1は主柱穴P 1・P 2の中間やや西寄りから検出された。長径58cm、短径56cmの円形を呈する。東端に礫2個を配置している。炉2は主柱穴P 3寄りに位置しており、長径56cm、短径52cmのほぼ円形を呈する。礫1個を配置してい

る。

遺物 覆土第2層、床面直上を中心に遺物が出土している。口縁部片4点、頸部片45点、胴部片114点、底部片9点等が出土し、この他に縄文中期土器片46点、礫13点等が出土した。また、P 4内から第147図4の土器が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第147图 Y-25号住居跡出土遺物

Y-25号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
147-1 136	壺	②9.2	口縁部はやや受け口状	外 ミガキ、頸部は2連止め←簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡西壁寄り 1/2			
147-2 136	壺	②10.5		外 頸部は2連止め←簾状文、波状文、胴部はミガキ。 内 剥落している。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡西壁寄り			
147-3 136	壺	②16.5		外 ミガキ。 内 ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	床直上 胴上半全周			
147-4 136	甕	①18.0 ②22.7		外 ハケメ、口辺部波状文、頸部は櫛描直線文に縦の沈線。内 ミガキ、胴下半荒れている。	細粒の砂を混入 やや良 灰褐色	P 4 内 胴下半欠損			
147-5 136	甕	①14.0 ②20.8	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に刻み目、ハケメ、波状文、炭化物が付着している。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	P 1 周辺 底部欠損			
147-6 136	甕	①12.8 ②15.0	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に刻み目、ハケメ、波状文、炭化物が付着している。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	P 4 周辺 胴下半欠損			
147-7 136	甕	①18.3 ②10.5		外 口唇部に刻み目、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤褐色	住居跡西壁寄り 口縁部片			
147-8 136	甕	①11.6 ②11.3		外 口唇部に刻み目、波状文、頸部は2連止め←簾状文、波状文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡東壁寄り 口縁～胴1/2			
147-9 136	甕	①15.7 ②10.3	口縁部はやや外反	外 口辺部ナデ、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、炭化物が付着している。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	住居跡西壁寄り			
147-10 136	台付甕	②17.3	口縁部は外反	外 赤色塗彩、ミガキ、炭化物付着。 内 赤色塗彩、ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡北東コーナー 胴部1/3			
147-11 136	高坏	②2.7		外 赤色塗彩、ミガキ、沈線が施されている。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	覆土 脚部2/3			
147-12 136	甕	②7.4 ③6.6	底部	外 ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	P 4 周辺 底部1/2			
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
147-13 136	多孔石 (縄文)	部分	砂岩	(18.5)	(12.4)	6.4	(1,633)	両面に3個の凹み穴が認められる。	覆土
147-14 136	砥石	2/3	砂岩	(10.0)	5.1	1.5	(85)	両面使用。	覆土
147-15 136	砥石	完形	砂岩	3.9	3.1	0.7	14	全面使用。	覆土

Y-26号住居跡 (第148・149図、PL.42・136)

位置 Cp-29・30、Cq-29・30・31、Cr-30グリッドにかけて検出された。Y-33号住居跡の西約2mの所に位置している。

重複 攪乱土坑によって住居跡の南壁の一部を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

形状 長辺8.1m、短辺6.3mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-32°-W。

壁高 住居跡確認面より約18~38cmで床面に達す

る。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。推定面積は約45.7㎡である。

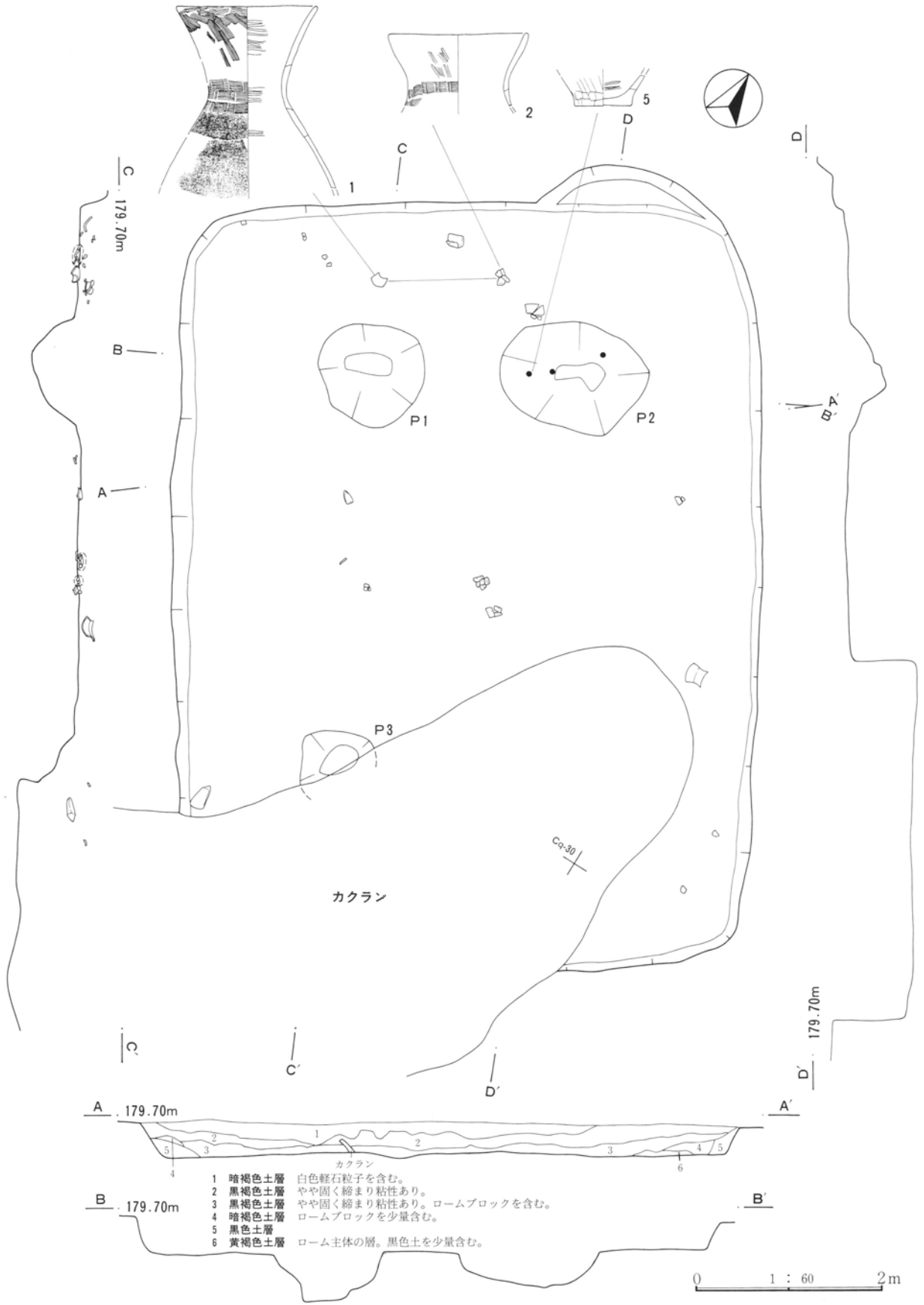
周溝 検出できなかった。

柱穴 P1~P3は支柱穴になる。P1の深さは57cm、P2深さ61cm、P3深さ36cmである。

炉 床面からは焼土等の痕跡を検出することはできなかった。

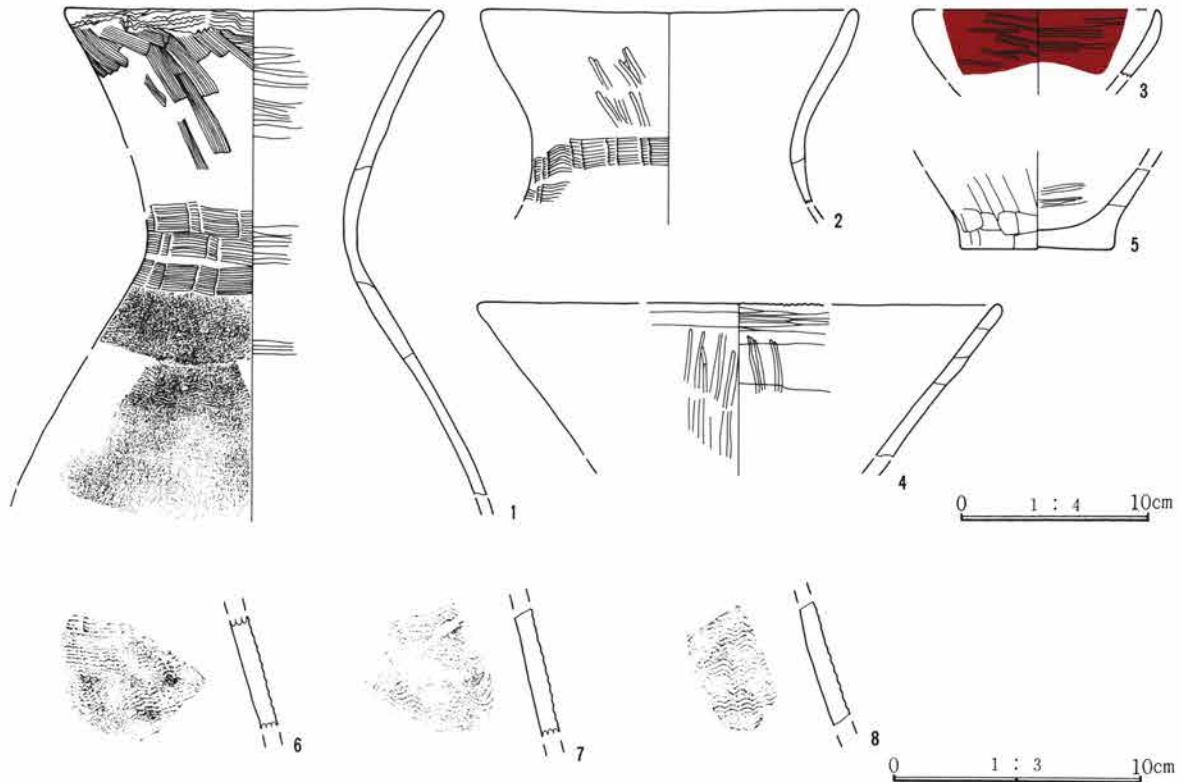
遺物 床面直上を中心に少量の遺物が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



- | | | |
|-----------------------------------|--|---|
| <p>A 179.70m</p> <p>B 179.70m</p> | <p>1 暗褐色土層</p> <p>2 黒褐色土層</p> <p>3 黒褐色土層</p> <p>4 暗褐色土層</p> <p>5 黒色土層</p> <p>6 黄褐色土層</p> | <p>白色軽石粒子を含む。
やや固く締まり粘性あり。</p> <p>やや固く締まり粘性あり。ロームブロックを含む。</p> <p>ロームブロックを少量含む。</p> <p>ローム主体の層。黒色土を少量含む。</p> |
|-----------------------------------|--|---|

第148図 Y-26号住居跡



第149図 Y-26号住居跡出土遺物

Y-26号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
149-1 136	壺	①20.0 ②25.6		外 口唇部に波状文、ハケメ、頸部は2連止め←籐状文、波状文、ミガキ。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄橙色	住居跡北壁寄り 口縁部1/2		
149-2 136	甕	①19.5 ②10.4	口縁部はやや受け口状	外 口辺部はミガキ、頸部は2連止め←籐状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	住居跡北壁寄り 口縁部1/2		
149-3 136	高坏	①13.0 ②3.6		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	覆土 口縁部1/4		
149-4 136	壺	①28.0 ②8.0		外 ミガキ。 内 ミガキ、輪積み痕残る。	細粒の砂を混入 良 におい黄橙色	覆土 口縁部1/2		
149-5 136	甕	②4.5 ③8.0	底部	外 底部周辺ケズリ。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい赤褐色	P2周辺 底部1/2		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
149-6 136	壺	厚7		外 籐状文、波状文。 内 荒れている。	細砂を含む	やや良	灰黄褐色	覆土
149-7 136	甕	厚7		外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	灰白色	覆土
149-8 136	甕	厚7		外 波状文。 内 ミガキ。	細砂を含む	良	黒褐色	覆土

Y-27号住居跡 (第150~152図、PL.42・136)

位置 Dc-31・32、Dd-31・32、De-32グリッドにかけて検出された。Y-35号住居跡の北西約1.5mの所に位置している。

重複 14号方形周溝墓、10号墳周堀によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10層に分かれた。

形状 現状では長辺(11)m、短辺7.4mの隅丸長方

形を呈する。

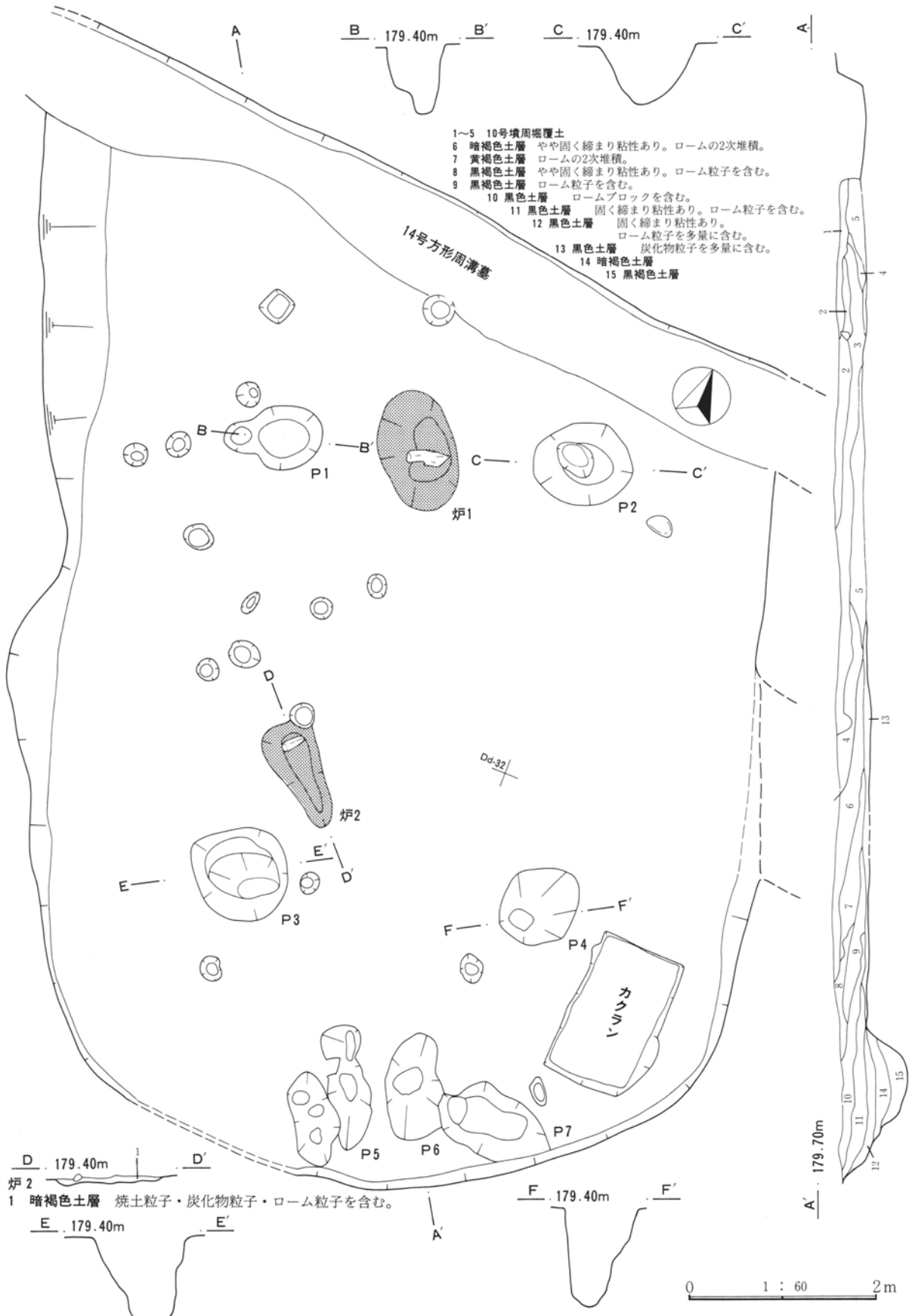
方位 N-21°-W。

壁高 住居跡確認面より約24~34cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

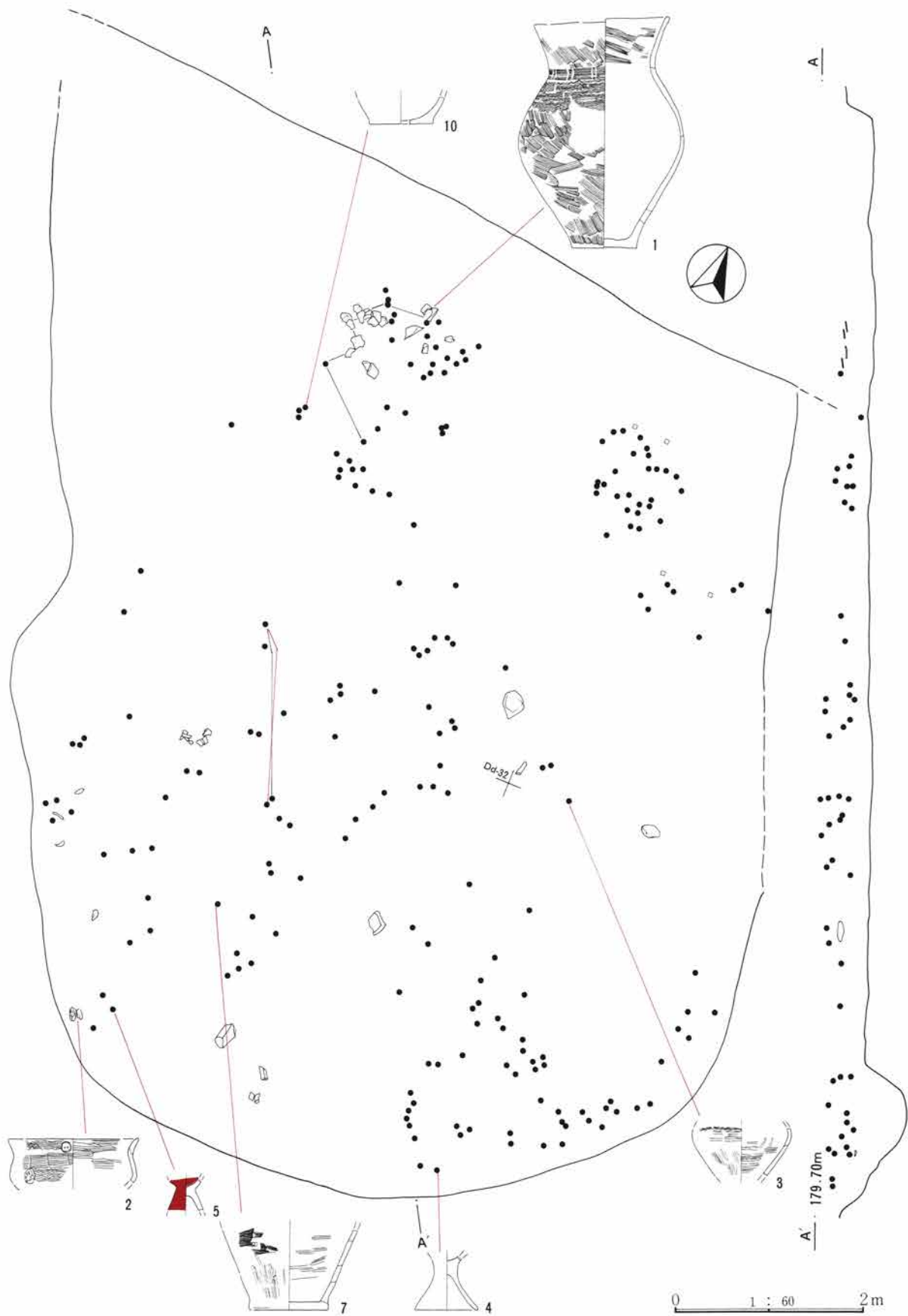
床面 ほほ平坦である。現状での面積は約62.5m²である。

周溝 検出できなかった。

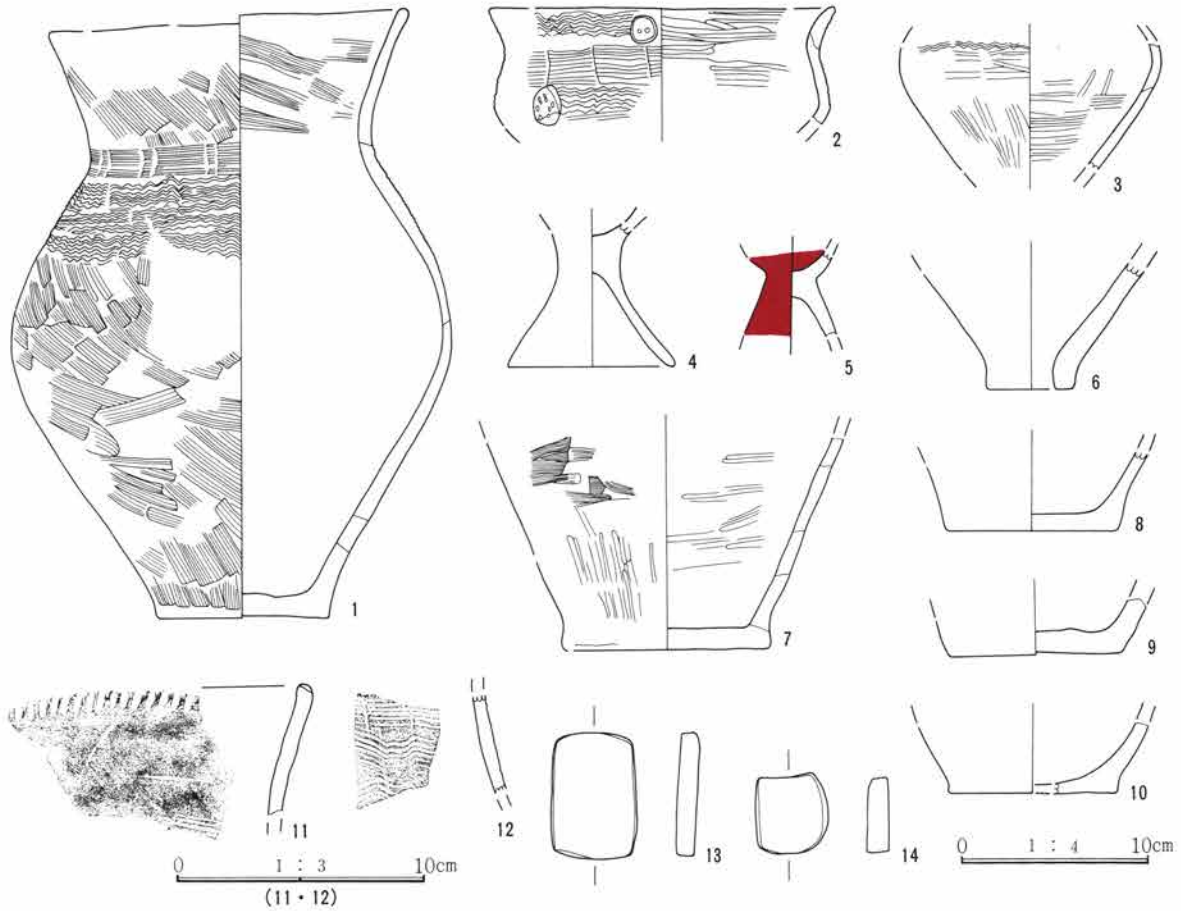
柱穴 P1~P4は主柱穴になる。P1の深さは80cm、P2深さ80cm、P3深さ89cm、P4深さ102cmで



第150図 Y-27号住居跡



第151図 Y-27号住居跡遺物分布



第152図 Y-27号住居跡出土遺物

Y-27号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
152-1 136	甕	①18.8 ②32.4③9.1		外 口辺部ハケメ、頸部は2連止め+簾状文、波状文、ハケメ、炭化物付着。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 暗褐色	住居跡北壁寄り ほぼ完形
152-2 136	台付甕	①13.8 ②4.6		外 波状文、頸部は等間隔止め+簾状文、刺突のある円形浮文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡南西コーナー 口縁部片
152-3 136	台付甕	②6.6		外 波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡中央部
152-4 136	台付甕	②7.5 ③9.0		外 ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	住居跡南壁寄り 脚部1/2
152-5 136	高坏	②4.5		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤褐色	住居跡南西コーナー 脚部
152-6 136	甕	②6.5 ③4.5		外 ミガキ。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい橙色	覆土 底部全周
152-7 136	甕	②11.3 ③10.8		外 ミガキ、炭化物付着。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡南壁寄り 胴下半1/3
152-8 136	甕	②4.2 ③9.0		外 ハケメ、ミガキ、底面は磨耗。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	覆土 底部全周
152-9 136	甕	②2.7 ③9.2		外 ナデ、底面は磨耗。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	覆土 底部全周
152-10 136	甕	②3.7 ③9.0		外 ナデ、底面は磨耗。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡北壁寄り 底部1/3

ある。P5～P7は出入り口部の施設になり、P5深さ64cm、P6深さ73cmでその間隔は60cmを測る。P7深さ46cmである。

炉 2箇所検出されている。炉1は主柱穴P1とP2の中間に位置している。長径126cm、短径80cmの楕円形を呈する。中央に礫1個を配置している。炉2はP3に近接し、長径116cm、短径56cmの不正形を

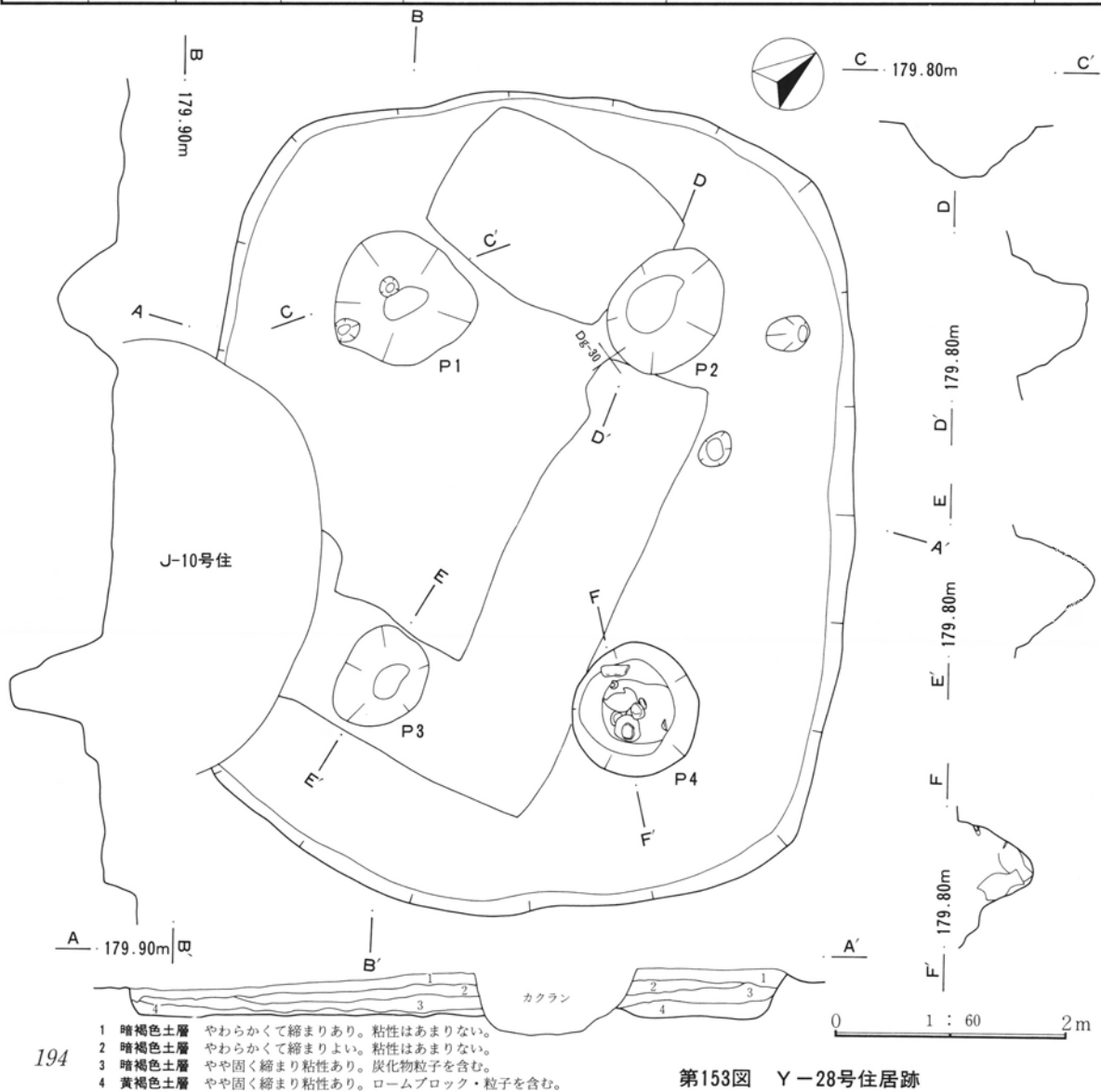
呈する。北端に礫1個を配置している。

遺物 覆土を中心に遺物が出土している。口縁部片35点、頸部片120点、胴部片392点、底部片34点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片39点、礫23点等が出土した。

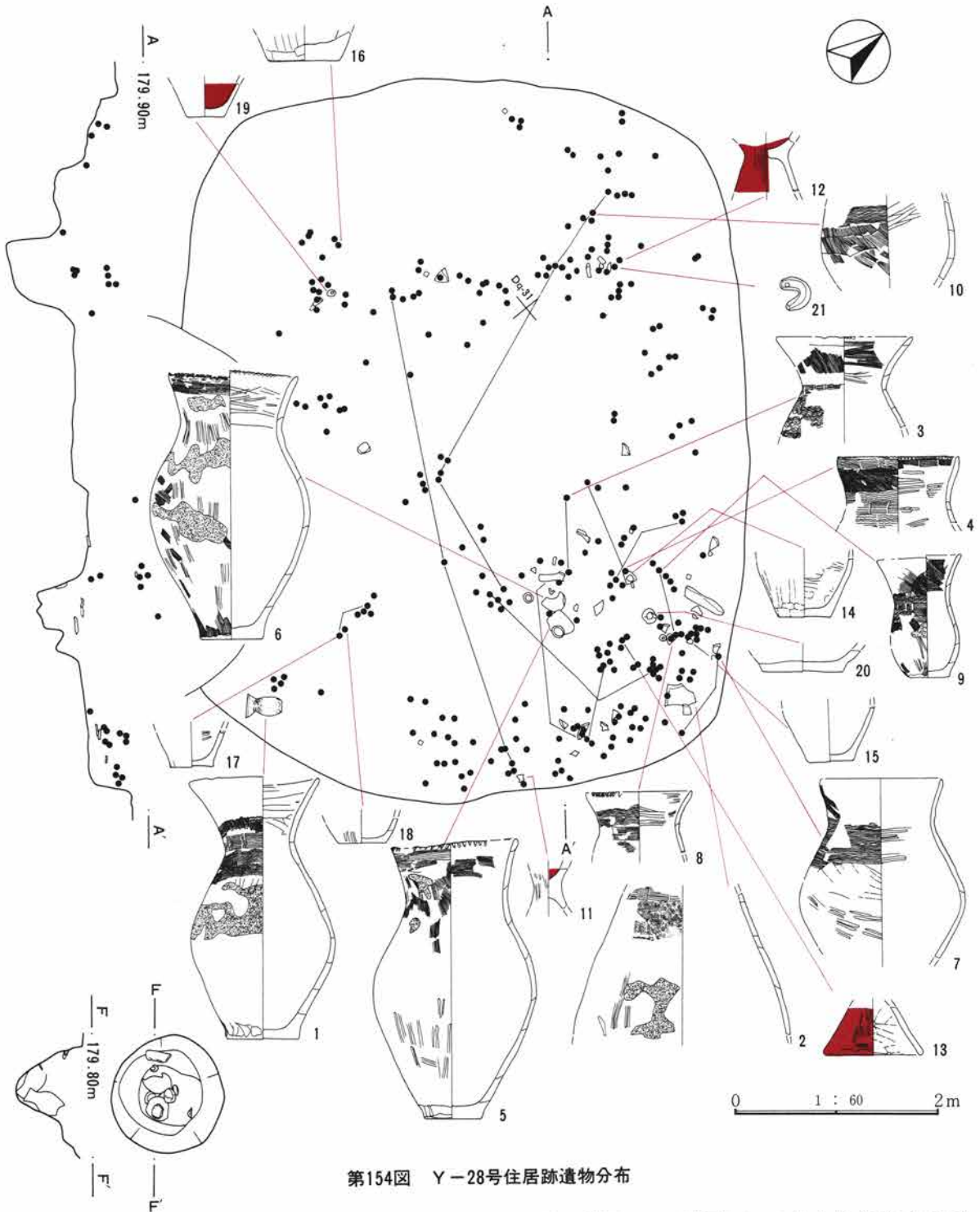
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

Y-27号住居跡遺物観察表

図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
152-11 136	甕	厚5～6	受け口状口縁	外 口唇部刻み目、波状文、炭化物附着。 内 ミガキ。	細粒を含む	良	赤褐色	覆土	
152-12 136	壺	厚4～6		外 波状文、櫛描横・縦線。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	良	にぶい黄褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
152-13 136	砥石	完形	砂岩	6.7	4.6	0.5	53	全面使用。	覆土
152-14 136	砥石	完形	砂岩	4.0	3.8	0.7	28	全面使用。	覆土



第153図 Y-28号住居跡



第154図 Y-28号住居跡遺物分布

Y-28号住居跡 (第153~156図、PL.43・136)

位置 Df-30・31、Dg-30・31グリッドにかけて検出された。Y-11号住居跡の北西約1.5mの所に位置。

重複 J-10号住居跡を壊し、攪乱土坑によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

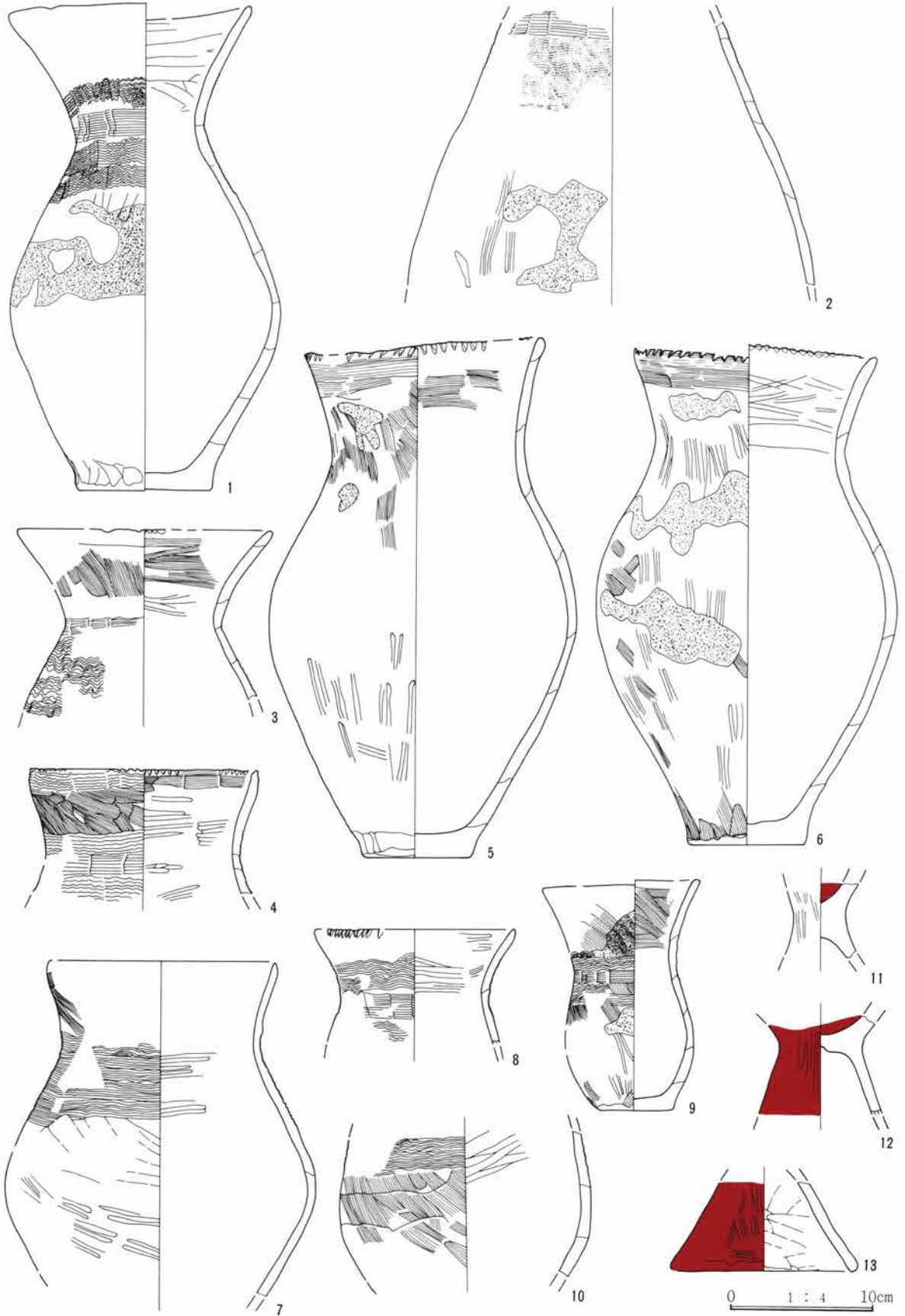
形状 長辺7m、短辺5.5mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-49°-W。

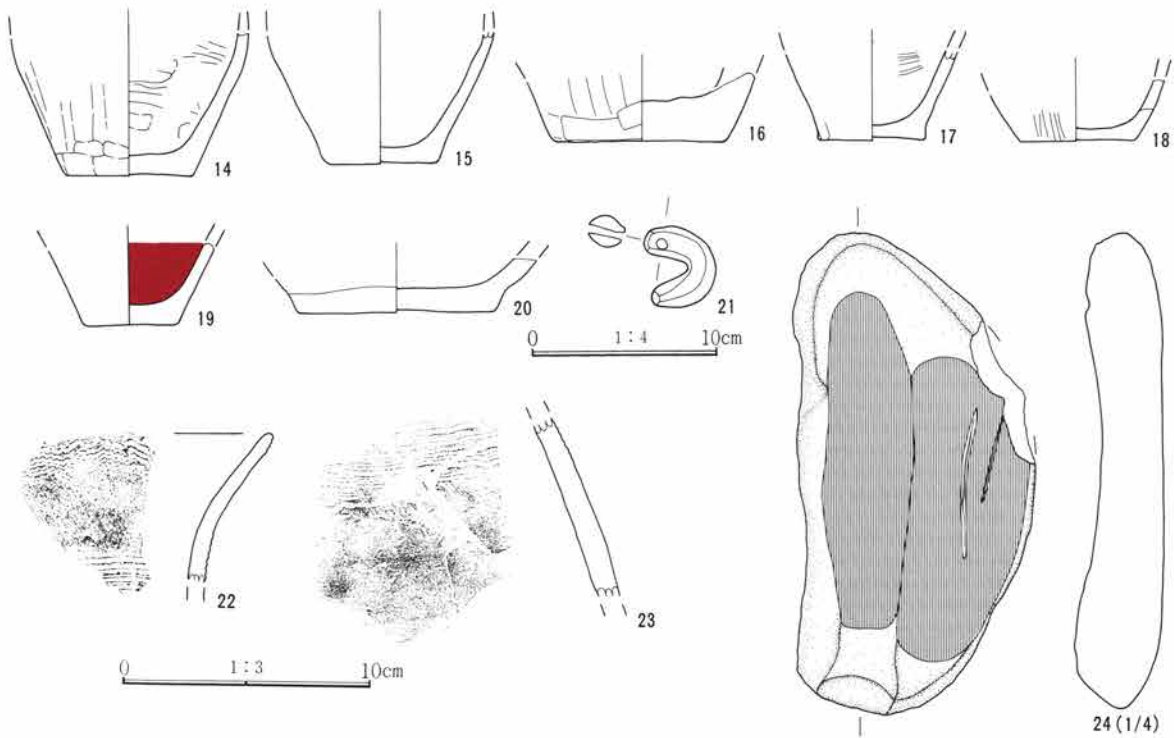
壁高 住居跡確認面より約24~44cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。推定面積は約31.7㎡である。

周溝 検出できなかった。



第155図 Y-28号住居跡出土遺物(1)



第156図 Y-28号住居跡出土遺物(2)

Y-28号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
155-1 136	壺	①16.7 ②33.7③9.1		外 波状文、頸部は2連止め+簾状文、波状文、胴部はミガキ、炭化物付着。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡南東コーナー 完形
155-2 136	壺	②19.9		外 頸部は等間隔止め+簾状文、波状文、ミガキ、炭化物付着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡北東コーナー 胴部1/3
155-3 136	甕	①18.0 ②11.5		外 口唇部に刻み目、ハケメ、頸部は2連止め+簾状文、波状文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	P 4 周辺 口縁部1/3
155-4 136	甕	①15.7 ②9.2	口縁部は受け口状	外 口唇部に刻み目、波状文、ハケメ、頸部は等間隔止め+簾状文、波状文。内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡北東部 口縁部1/3
155-5 136	甕	①16.7 ②35.6③7.5		外 口唇部に刻み目、口辺~胴上半はナデ、ハケメ。胴下半ミガキ、炭化物付着。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	P 4 内 完形
155-6 136	甕	①16.8②34.5 ③8.0		外 口唇部に刻み目、ナデ、ハケメ、ミガキ、炭化物付着。底面磨耗。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 灰黄褐色	P 4 内 完形
155-7 136	甕	①15.8 ②23.2	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に刻み目、ハケメ、頸部~胴上半は櫛描直線文。ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡北東コーナー 1/2残
155-8 136	甕	①14.0 ②7.8		外 口唇部に刻み目、波状文、頸部は等間隔止め+簾状文、波状文。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北東コーナー 口縁部1/3
155-9 136	甕	①10.9②15.7 ③5.2	口縁部はやや外反	外 ハケメ、ナデ、頸部は波状文、2連止め+簾状文、ミガキ、炭化物付着。内 ハケメ。	中粒の砂を混入 良 褐色	住居跡北東コーナー ほぼ完形
155-10 136	甕	②10.5		外 波状文、ハケメ、炭化物付着。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡中央部 胴部1/2
155-11 136	高坏	②5.2		外 ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡東壁寄り 脚部
155-12 136	高坏	②6.9		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	P 2 周辺 脚部全周
155-13 136	高坏	②6.2 ③12.4		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡北東コーナー 脚部1/2
156-14 136	甕	②4.2 ③6.5		外 ケズリ、底面はあまり磨耗していない。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 灰黄褐色	P 4 周辺 底部全周
156-15 136	甕	②7.0 ③5.5	底部	外 ハケメ、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 やや良 黒褐色	住居跡北東コーナー 底部全周

柱穴 P1～P4は支柱穴になる。P1の深さは50cm、P2深さ62cm、P3深さ78cm、P4深さ46cmである。

炉 床面からは焼土等の痕跡を確認することはできなかった。攪乱によって壊されてしまったものであろう。

遺物 覆土を中心に遺物が出土している。口縁部片

Y-28号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
156-16 136	壺	②4.2 ③8.6	底部	外 ケズリ、ミガキ、底面はあまり磨耗していない。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 ぶい褐色	P1内 底部全周			
156-17 136	甕	②4.7 ③4.9	底部	外 ハケメ、ミガキ、底面磨耗。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	P3周辺 底部全周			
156-18 136	甕	②3.2 ③5.4	底部	外 ミガキ、底面周辺磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	P3周辺 底部全周			
156-19 136	壺	②4.2 ③4.9	底部	外 ミガキ。 内 赤色塗彩。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	P1周辺 底部全周			
156-20 136	壺	②2.7 ③10.4	底部	外 ナデ、底面磨耗。 内 剥落している。	細粒の砂を混入 良 ぶい褐色	住居跡北東コー ナー 底部全周			
156-21 136	勾玉	長4.2幅1.5 厚1.6		胴断面はほぼ円形、孔径5mm。 全体的にミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	P4内 一部欠損			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
156-22 136	甕	厚5～7		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	良	橙色	覆土	
156-23 136	壺	厚9～10		外 波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	良	灰黄色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
156-24 136	砥石	ほぼ完形	砂岩	全長	幅	厚	重量	大型の置砥。 2面使用している。	覆土

Y-30号住居跡 (第157図、PL.44・137)

位置 De-33～35グリッドにかけて検出された。Y-27号住居跡の北西約7mの所に位置している。

重複 3号墳の周堀によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

形状 長辺8m、短辺(5.5)mの隅丸長方形を呈するものと考えられる。

方位 N-7°-W。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

Y-30号住居跡遺物観察表

図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
157-1 137	壺	厚5～8		外 波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	良	灰黄色	覆土

30点、胴部片285点、底部片9点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片15点、礫15点等が出土した。またP4からは完形土器2点と土製勾玉が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。

床面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約14.5㎡である。

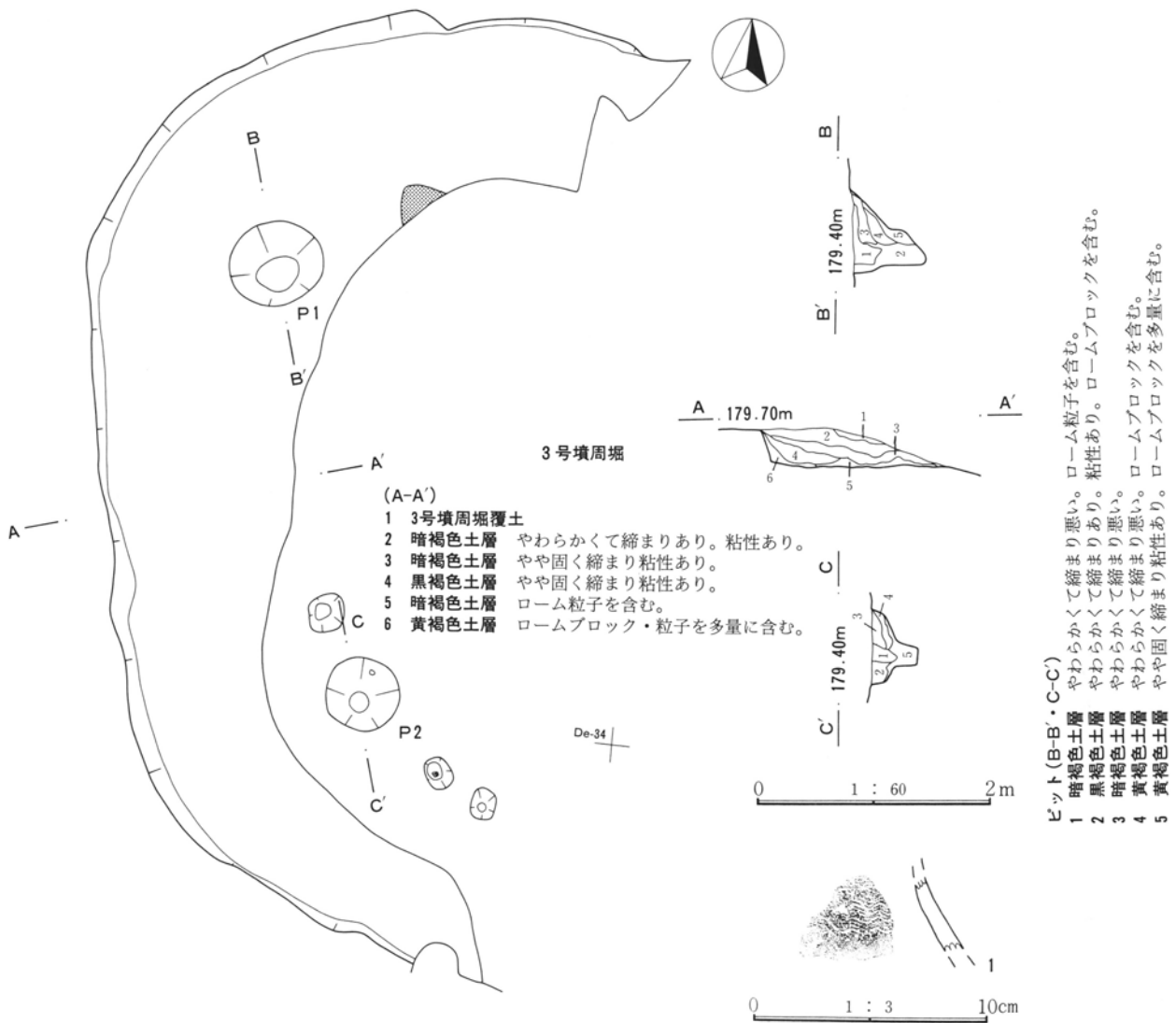
周溝 検出できなかった。

柱穴 P1・P2は支柱穴になる。P1の深さは60cm、P2深さ54cmである。

炉 P1の北東床面から焼土の痕跡を確認することができた。

遺物 遺物はほとんど出土していない。

時期 わずかな遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第157図 Y-30号住居跡

Y-31号住居跡 (第158図、PL.44・137)

位置 Dh-38・39、Di-38・39グリッドにかけて検出された。Y-24号住居跡の西約22mの所に位置している。

重複 12号方形周溝墓、12号墳周堀によって壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

形状 長辺6.5m、短辺5.5mの方形を呈するものと考えられる。

方位 N-15°-W。

壁高 住居跡確認面より約20~30cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約32.7m²である。

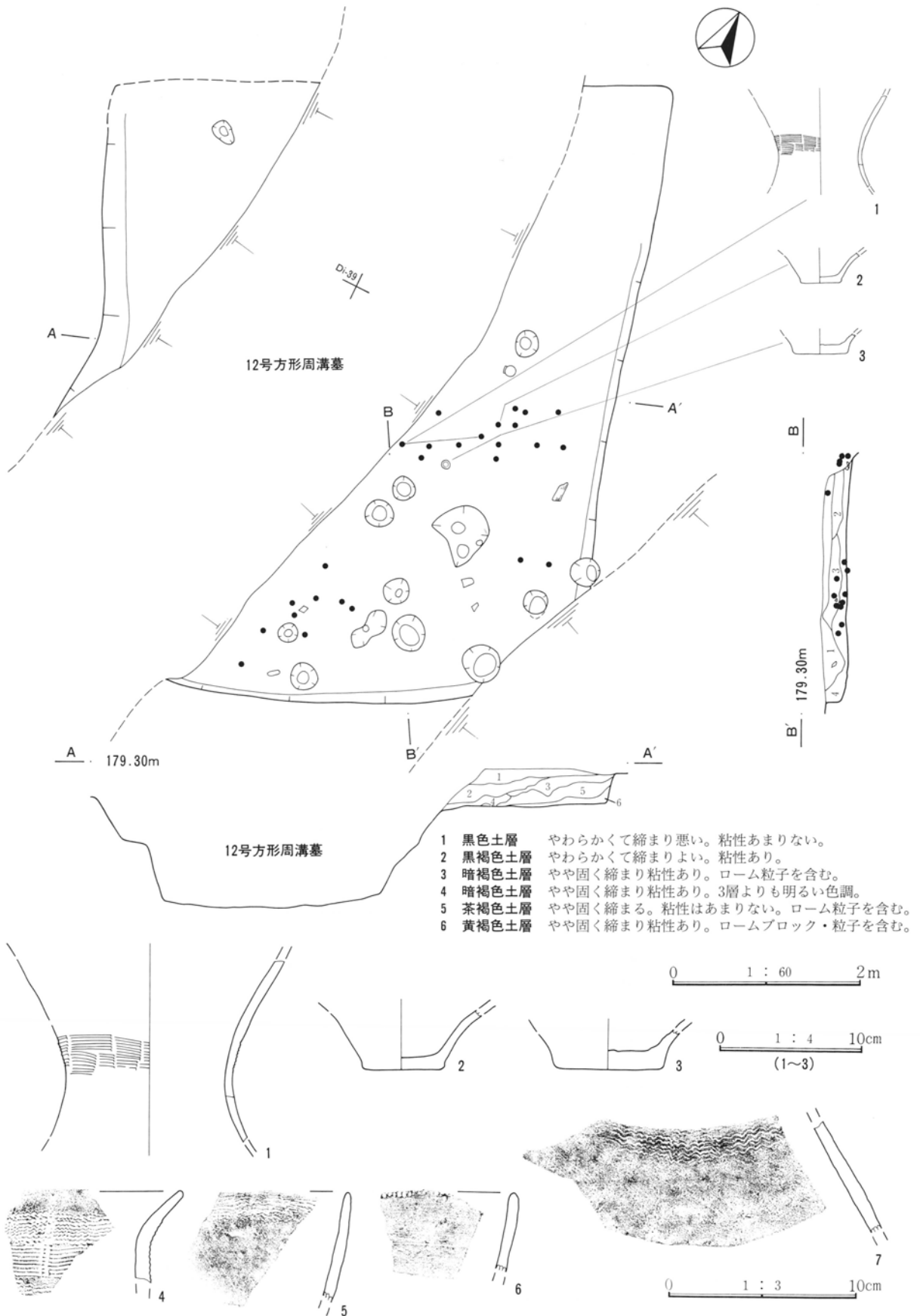
周溝 検出できなかった。

柱穴 総計12個のピットが検出されたが、支柱穴等は不明である。

炉 床面からは焼土等の痕跡を確認することはできなかった。12号方形周溝墓によって壊されてしまったものであろう。

遺物 覆土を中心に遺物が出土している。口縁部片2点、頸部片3点、胴部片71点、底部片3点等が出土し、この他に縄文中期土器片、礫が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第158図 Y-31号住居跡と出土遺物

Y-31号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
158-1 137	壺	②13.6		外 頸部は等間隔止め←簾状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡中央部 口縁～頸部		
158-2 137	甕	②4.2 ③5.6	底部	外 ミガキ、底面磨耗。 内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰黄褐色	住居跡東壁寄り 底部全周		
158-3 137	壺	②2.8 ③7.4	底部	外 ミガキ、底面はあまり磨耗していない。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	住居跡中央部 底部全周		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
158-4 137	甕	厚3～8		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	非常に 良	灰色	覆土
158-5 137	壺	厚3～6		外 波状文。 内 ハケメ、赤色塗彩。	細粒の砂を含む	良	にぶい黄 橙色	覆土
158-6 137	甕	厚4～6		外 口唇部刻み目、炭化物附着。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	非常に 良	黒褐色	覆土
158-7 137	壺	厚6～7		外 波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	良	明褐色	覆土

Y-32号住居跡 (第159～163図、PL.45・137)

位置 Cl-31・32、Cm-31・32グリッドにかけて検出された。Y-37号住居跡の南東約1mの所に位置。

重複 なし。8号墳周堀に接している。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

形状 長辺5.7m、短辺4.6mの隅丸方形を呈する。

方位 N-23°-E。

壁高 住居跡確認面より約26～36cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約22.3m²である。

周溝 検出できなかった。

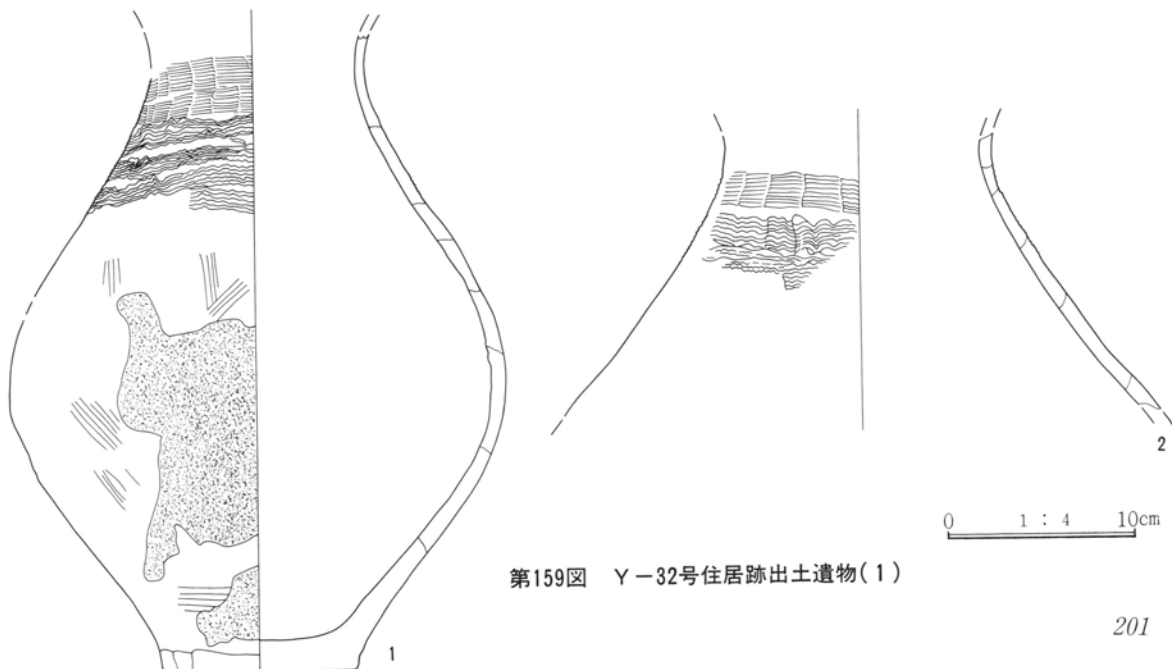
柱穴 P1～P4は支柱穴になる。P1の深さは20cm、P2深さ20cm、P3深さ32cm、P4深さ78cmで

ある。P5～P7は出入り口部の施設になり、P5深さ40cm、P6深さ34cmで、その間隔は70cmを測る。P7は深さ28cmであり東部分に床面の高まりが認められる。

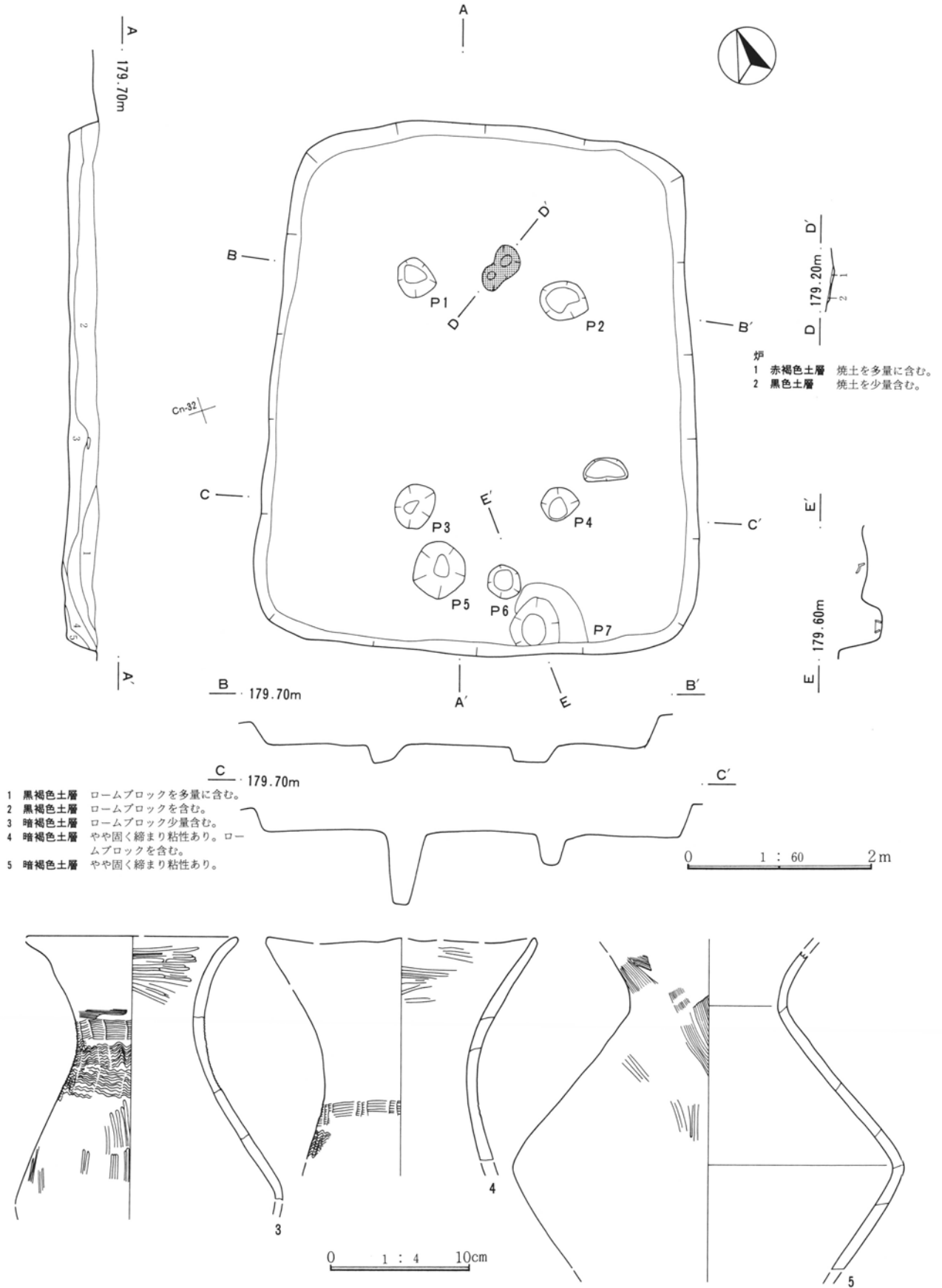
炉 支柱穴P1・P2の中間やや北寄りに位置している。長径50cm、短径30cmの不整形を呈している。覆土は2層に分かれた。

遺物 覆土第1・2層を中心に多量の遺物が出土している。口縁部片55点、頸部片55点、胴部片246点、底部片21点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片68点、土師器・須恵器片25点、礫10点が出土した。また、P7内から土器が出土している。

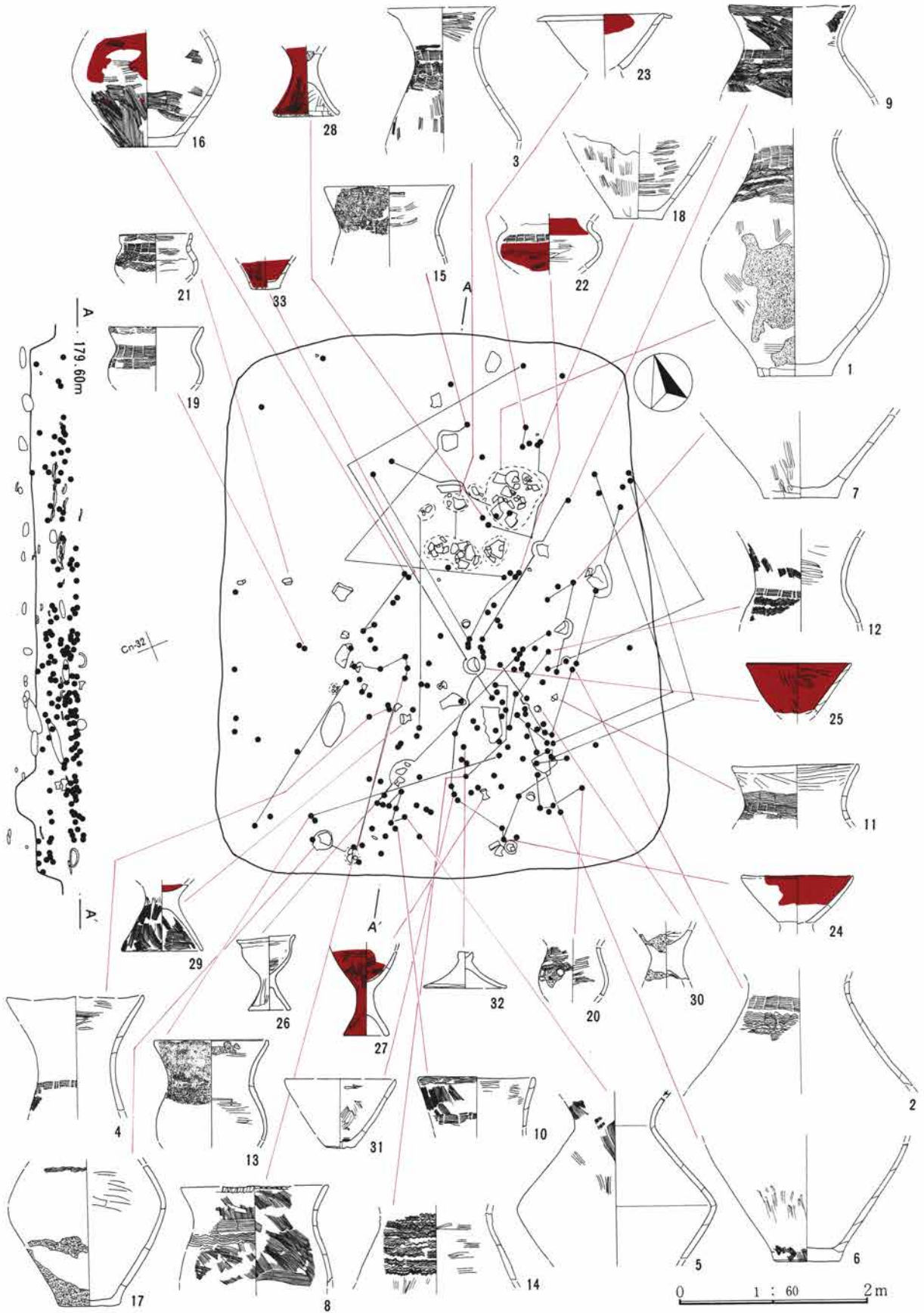
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



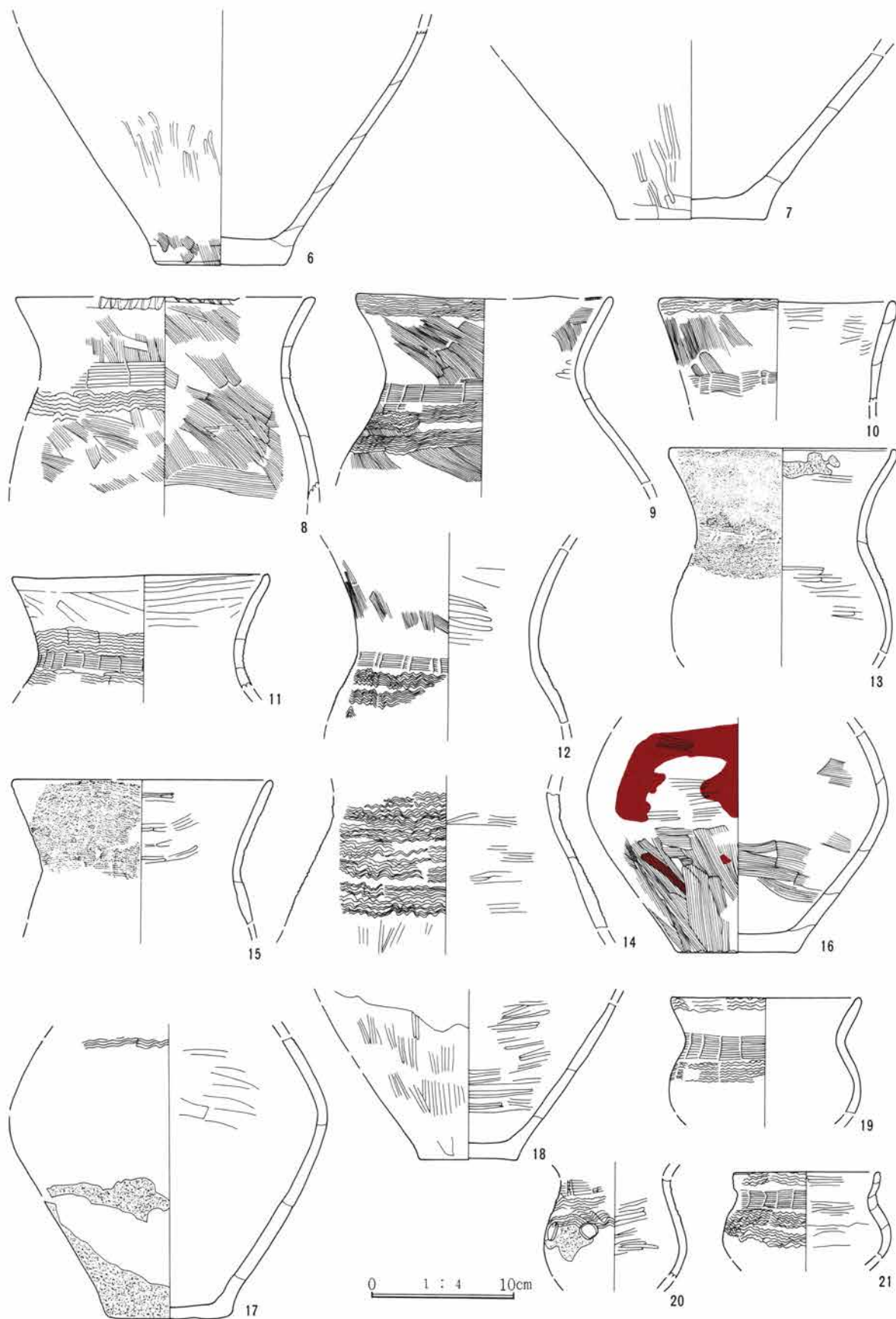
第159図 Y-32号住居跡出土遺物(1)



第160図 Y-32号住居跡と出土遺物(2)

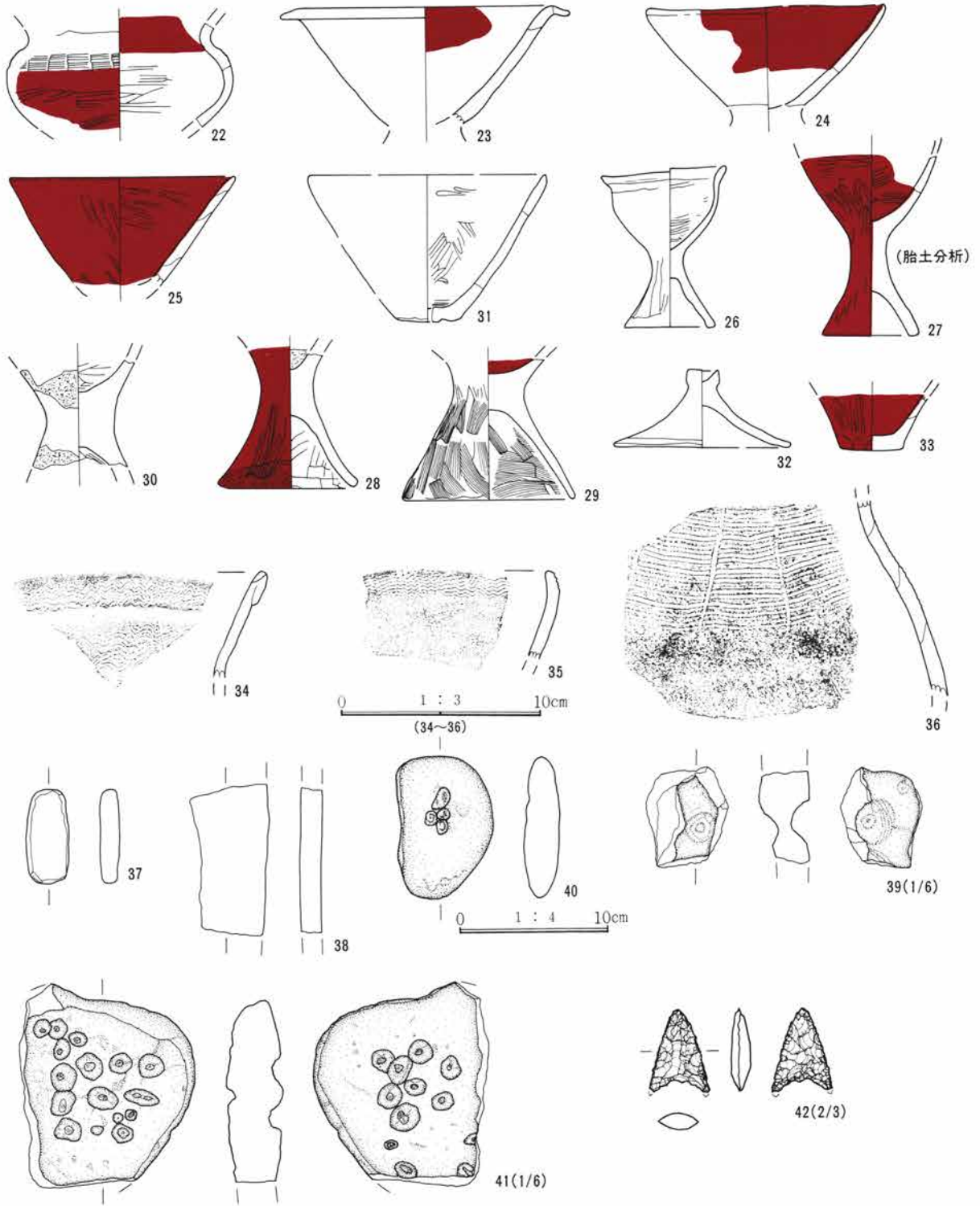


第161图 Y-32号住居跡遺物分布



第162図 Y-32号住居跡出土遺物(3)

〔1〕 竖穴住居跡



第163图 Y-32号住居跡出土遺物(4)

Y-32号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
159-1 137	壺	②33.7 ③10.0		外 頸部は←簾状文、波状文、ミガキ。 内 頸部に赤色塗彩、ハケメ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡中央部 口縁部欠損
159-2 137	壺	②13.6		外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡南部 頸部1/3
160-3 137	壺	①15.2 ②19.0	口縁部は外 反	外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、ミガキ。 内 丁寧なミガキ。	中粒の砂を混入 良 明赤褐色	住居跡中央部 口縁～胴上半
160-4 137	壺	①19.3 ②16.4	口縁部はや や受け口状	外 頸部は3連止め←簾状文。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 やや良 明赤褐色	住居跡中央部 口縁～頸部残
160-5 137	壺	②22.4		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡南壁寄 り 胴部1/2
162-6 137	壺	②16.5 ③9.0	底部	外 ハケメ、ミガキ。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡南壁寄 り
162-7 137	壺	②11.6 ③10.5	底部	外 ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	覆土
162-8 137	甕	①20.8 ②14.1		外 口唇部に刻み目、頸部は等間隔止め←簾状文、波 状文、ハケメ。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 赤褐色	住居跡中央部 胴部1/3
162-9 137	甕	①18.0 ②13.0	口縁部はや や受け口状	外 波状文。頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。 内 ハケメ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 橙色	住居跡中央部 口縁～胴上半
162-10 137	甕	①16.7 ②6.5		外 波状文、頸部は2連止め←簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡南壁寄 り 口縁部のみ
162-11 137	甕	①17.8 ②7.9		外 波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、炭化物付着。 内 ハケメ、輪積み痕残る。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡東南部 口縁部のみ
162-12 137	甕	②12.2		外 ハケメ、頸部は2連止め←簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡東部 頸部1/2
162-13 137	甕	①15.8 ②14.2	口縁部はや や受け口状	外 口唇部に波状文、頸部は2連止め←簾状文、波状 文、ミガキ。内 ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡南壁寄 り 口縁部1/2
162-14 137	甕	②11.7		外 波状文、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡南壁寄 り 頸部1/3
162-15 137	甕	①17.7 ②7.3		外 波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡北部 口縁部1/3
162-16 137	壺	②15.2 ③9.0		外 ハケメ、ミガキ、赤色塗彩。 内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡中央部 胴上半欠損
162-17 137	壺	②19.4 ③8.2		外 波状文、ミガキ、炭化物付着、底面周辺は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡南壁寄 り 胴上半欠損
162-18 137	甕	②12.3 ③6.3	底部	外 ミガキ、炭化物付着、底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡東部 底部2/3
162-19 137	台付甕	①13.0 ②8.0		外 口唇部に波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、波 状文、ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡西壁寄 り 口縁部1/2
162-20 137	甕	②7.4		外 頸部は3連止め←簾状文、波状文、円形浮文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡南壁寄 り 1/2
162-21 137	台付甕	①10.2 ②6.0		外 波状文、頸部は等間隔止め←簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡西壁寄 り 口縁部1/3
163-22 137	台付甕	②6.9		外 頸部は等間隔止め←簾状文、赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 にぶい赤褐色	住居跡中央部 胴部1/2
163-23 137	高坏	①19.2 ②7.5		外 剥落している。 内 赤色塗彩、ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡北壁寄 り 口縁部1/2
163-24 137	高坏	①15.6 ②6.5		外 赤色塗彩、ミガキ、剥落している。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	P7内 脚部欠損
163-25 137	高坏	①15.0 ②7.2		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡中央部 口縁部全周
163-26 137	台付甕	①8.2 ②10.4③5.4		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡南壁寄 り 完形
163-27 137	台付甕	②12.0 ③6.2		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡南壁寄 り
163-28 137	台付甕	②9.2 ③8.4		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡北部 脚部全周
163-29 137	台付甕	②9.4 ③11.5		外 ハケメ、赤色塗彩の痕跡。 内 赤色塗彩、ミガキ、ハケメ。	細粒の砂を混入 良 にぶい橙色	住居跡南部 脚部全周

Y-32号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
163-30 137	台付甕	②7.0		外 ナデ、炭化物付着。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡南部 脚部全周			
163-31 137	甕	①15.7 ②9.6③4.0		外 ナデ、ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい褐色	住居跡南部 1/2			
163-32 137	蓋	摘み2.0 ②5.1③11.4		外 ナデ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄褐色	住居跡南部 縁部欠損			
163-33 137	小型甕	②3.5 ③4.0	底部	外 赤色塗彩、ミガキ。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡中央部			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
163-34 137	甕	厚5~6	折り返し口 縁	外 口唇部刻み目、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含 む	非常に 良	黒褐色	覆土	
163-35 137	壺	厚6	受け口状口 縁	外 波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含 む	良	橙色	覆土	
163-36 137	甕	厚6~8		外 櫛描横・縦線、炭化物付着。 内 ミガキ。	粗粒の砂を含 む	良	黒褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
163-37 137	砥石	完形	砂岩	6.2	1.8	1.3	31	全面使用。	覆土
163-38 137	砥石	一部欠損	砂岩	(9.4)	(4.2)	1.4	(109)	両面使用。	覆土
163-39 137	多孔石 (縄文)	2/3	砂岩	(9.2)	(8.2)	5.0	(346)	両面に2個の凹み穴が認められる。	覆土
163-40 137	磨石	完形	砂岩	9.4	6.0	2.3	162	片面に敲打痕が認められる。	覆土
163-41 137	多孔石 (縄文)	2/3	砂岩	(20.0)	16.5	5.5	(2,330)	両面に33個の凹み穴が認められる。	覆土
163-42 137	石鏃	完形	黒曜石	2.1	1.0	0.5	1	側線は中央部で外側にやや湾曲し、基部の扶りは逆U字形をなす。	覆土

Y-33号住居跡 (第164~167図、PL.46・137・138)

位置 Cn-29・30、Co-29・30、Cp-29・30グリッドにかけて検出された。Y-26号住居跡の東約2mの所に位置している。

重複 8号墳周堀によって東部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 現状では長辺9.4m、短辺7.5mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-10°-E。

壁高 住居跡確認面より約30~40cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。推定面積は約62.3m²である。

周溝 検出できなかった。

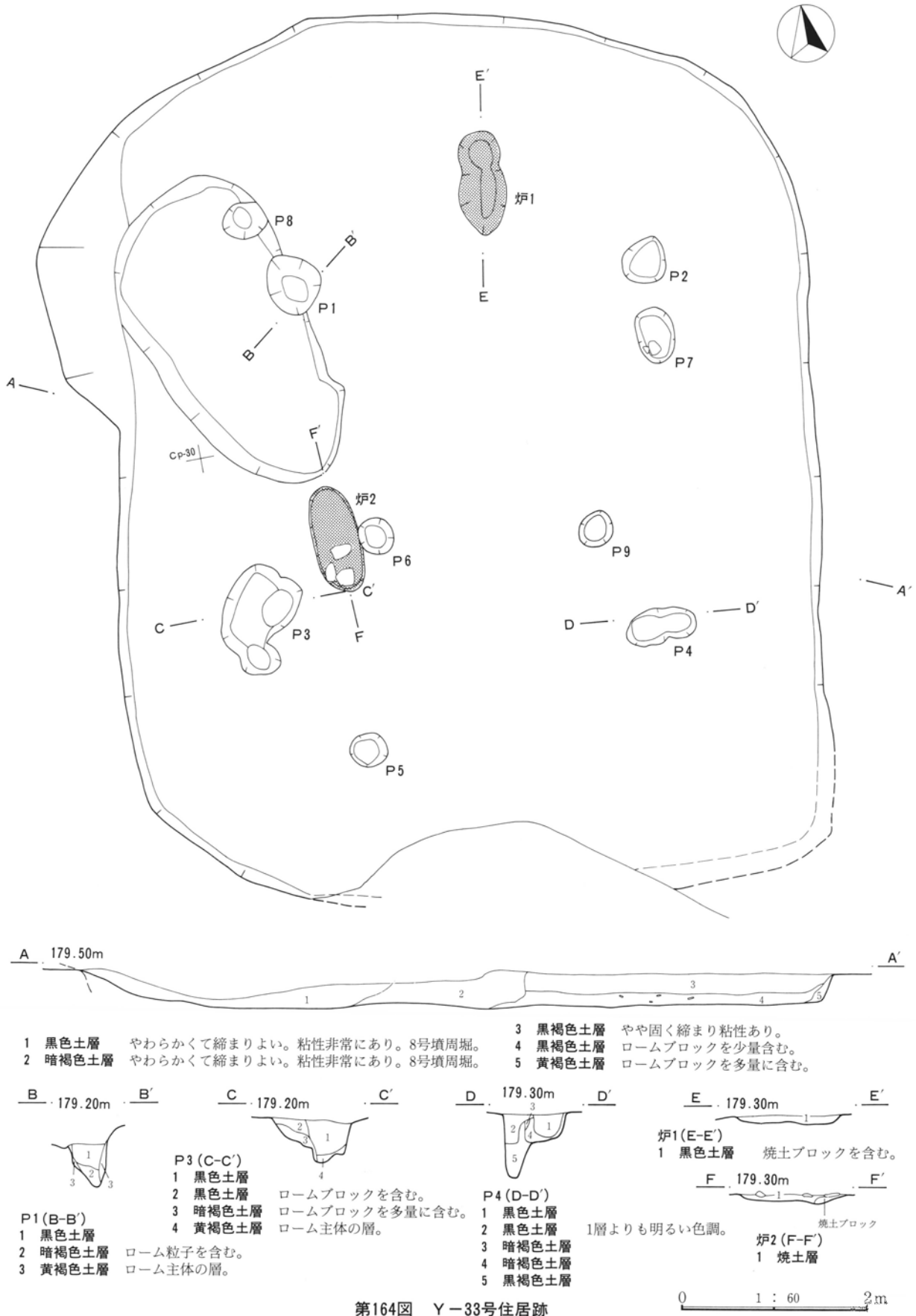
柱穴 総計8個のピットが検出された。この内、P

1~P4は主柱穴になる。P1の深さは75cm、P2深さ11cm、P3深さ50cm、P4深さ32cmである。P5は出入り口部の施設になり、深さ22cm。P6深さ36cm、P7深さ20cm、P8深さ85cmである。

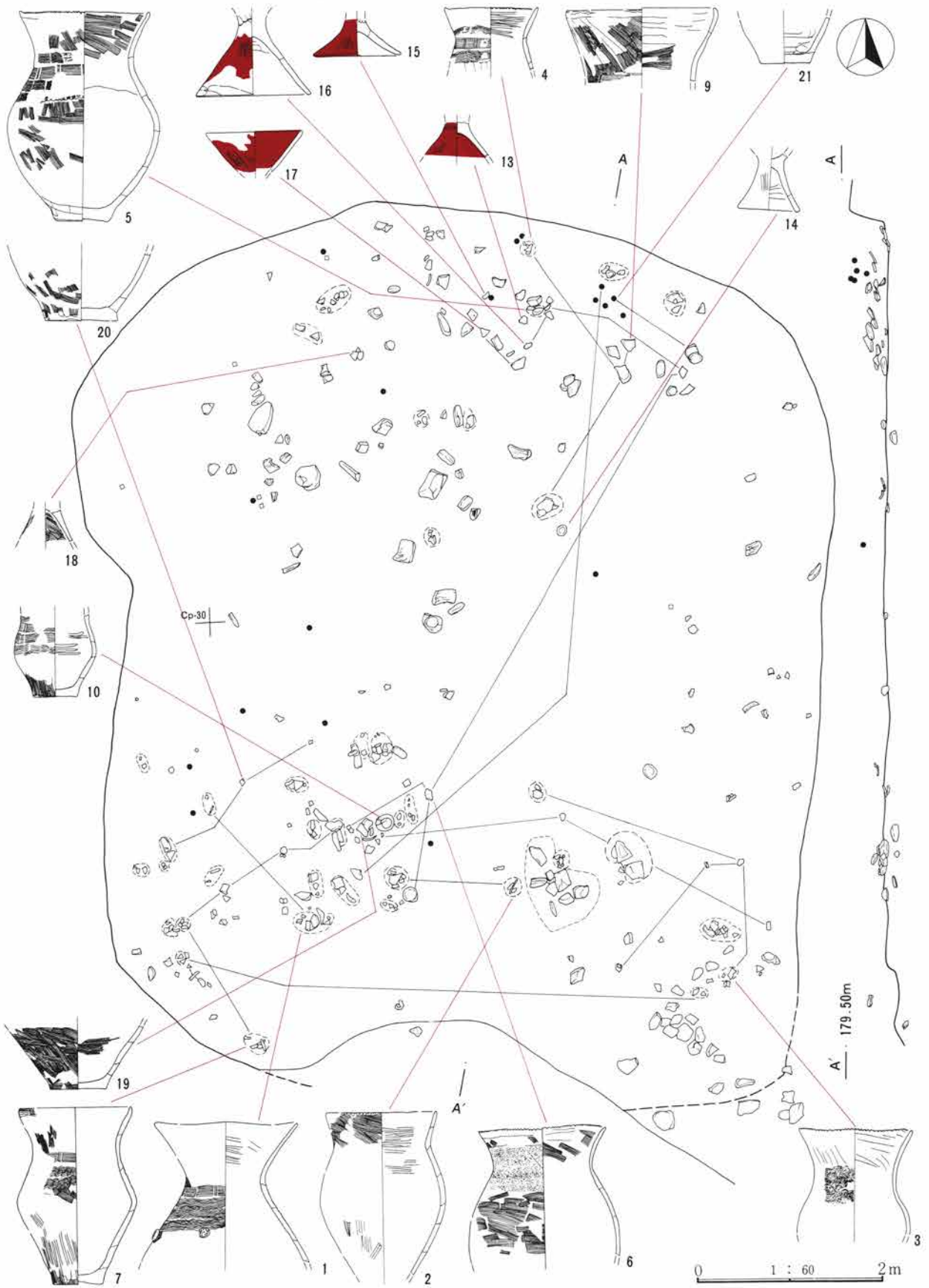
炉 2箇所検出された。炉1は主柱穴P1・P2の中間北寄りに位置している。長径110cm、短径50cmの長楕円形を呈している。炉2は長径114cm、短径50cmの長楕円形を呈し、南端に礫を使用している。

遺物 覆土から遺物が出土している。口縁部片82点、頸部片152点、胴部片628点、底部片51点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片62点、土師器・須恵器片9点、礫34点が出土した。

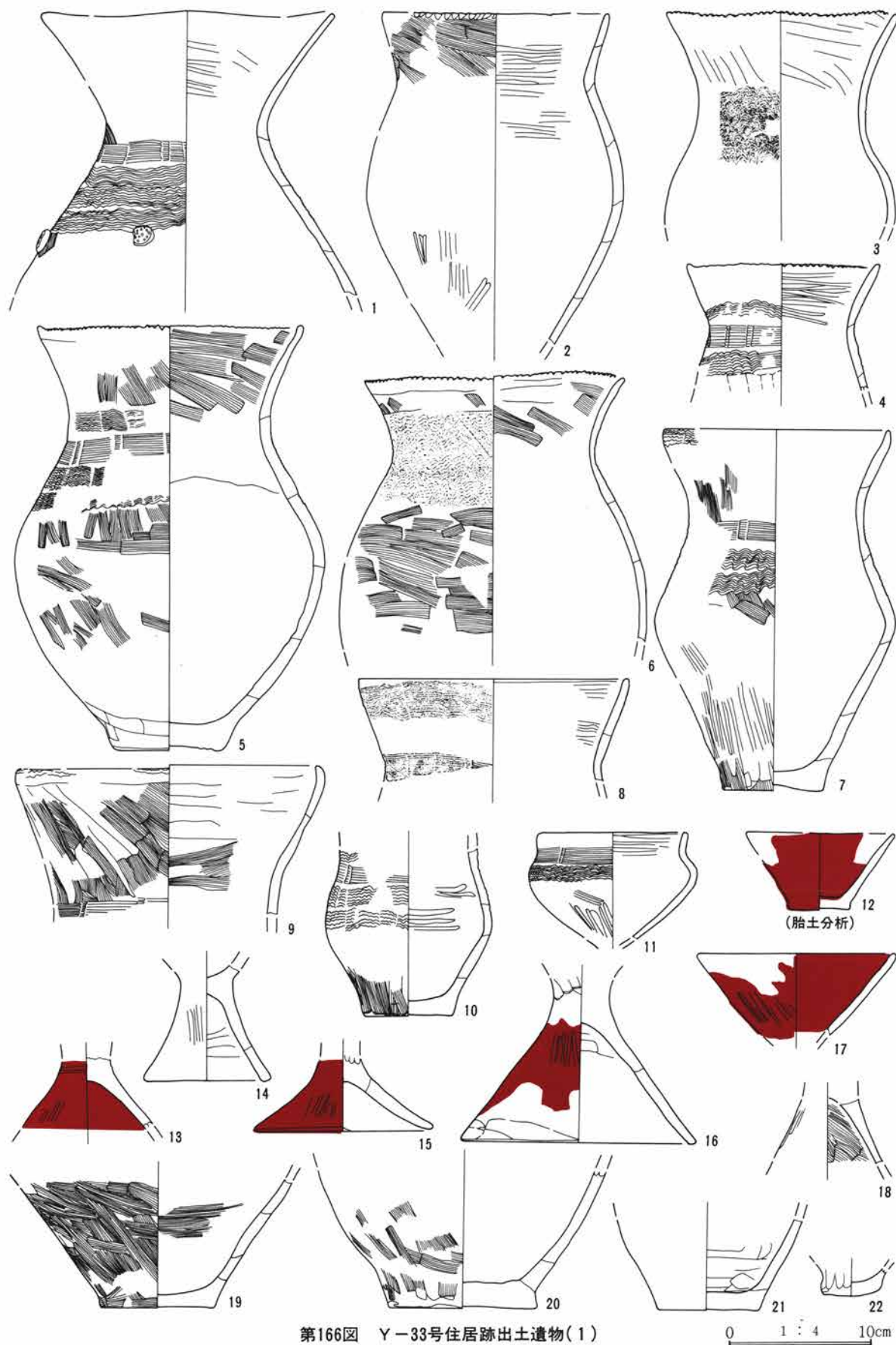
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



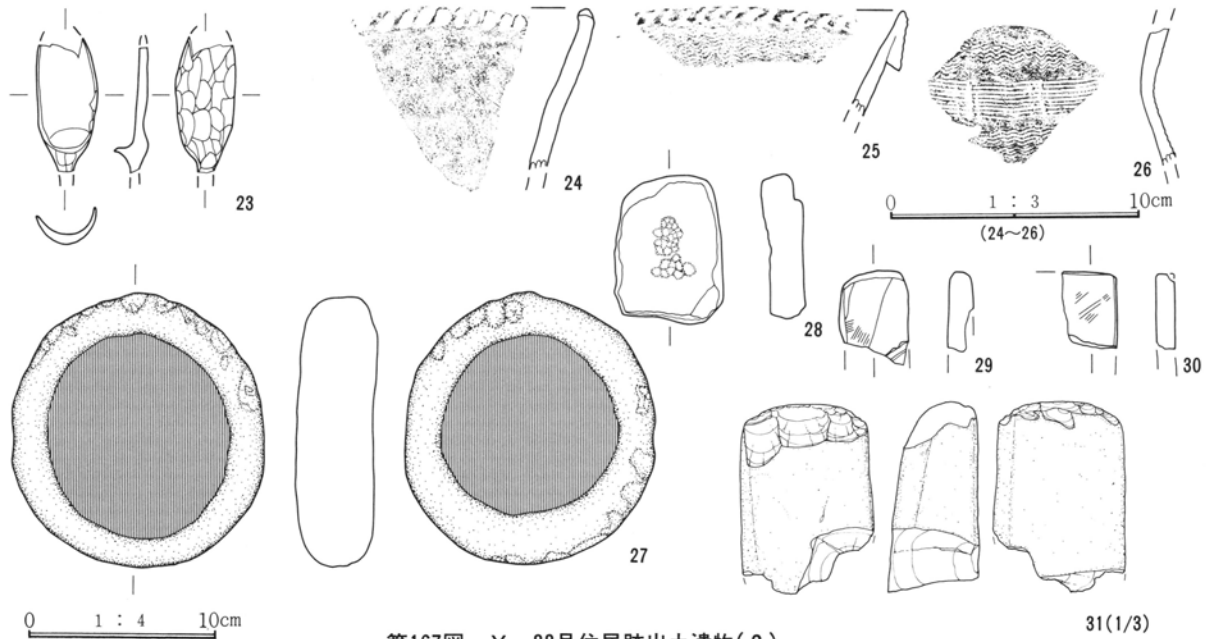
第164図 Y-33号住居跡



第165图 Y-33号住居跡遺物分布



第166図 Y-33号住居跡出土遺物(1)



第167図 Y-33号住居跡出土遺物(2)

31(1/3)

Y-33号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
166-1 137	壺	①20.2 ②19.8		外 頸部は等間隔止め←簾状文、波状文、刺突のある円形浮文、ミガキ。内 ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 やや良 橙色	住居跡南壁寄り 1/2
166-2 137	甕	①16.0 ②23.2		外 口唇部に刻み目、ハケメ、ミガキ、炭化物附着。内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡南壁寄り 1/2
166-3 137	甕	①16.2 ②15.0		外 口唇部に刻み目、頸部は波状文、ハケメ。内 ハケメ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい橙色	住居跡東壁寄り 胴下半欠損
166-4 138	甕	①13.7 ②8.5		外 口唇部に刻み目、頸部は2連止め←簾状文、波状文。内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北壁寄り 口縁部1/2
166-5 138	甕	②37.7 ③10.0	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に刻み目、口辺部はハケメ、ナデ、波状文。頸部は2連止め←簾状文、波状文、炭化物附着。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 良 におい黄褐色	住居跡南・北壁寄り 胴部一部欠損
166-6 137	甕	①18.3 ②19.3		外 口唇部に刻み目、ハケメ、頸部は波状文、ハケメ、炭化物附着。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 におい褐色	住居跡南壁寄り 胴下半欠損
166-7 137	甕	①16.0 ②25.5③7.1	口縁部は受け口状	外 口唇部に波状文、ハケメ、頸部は2連止め←簾状文、波状文、ミガキ。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄褐色	住居跡南壁寄り 口縁部欠損
166-8 138	甕	①19.0 ②7.0		外 波状文、頸部は等間隔止め←簾状文。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 非常に良 灰褐色	覆土 口縁部1/2
166-9 138	甕	①20.8 ②10.1	口縁部はやや受け口状	外 口唇部に波状文、口辺部はハケメ、頸部は2連止め←簾状文。内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい赤褐色	住居跡北壁寄り 口縁部3/4
166-10 138	甕	②11.5 ③6.0		外 頸部は2連止め←簾状文、波状文、ハケメ、ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗赤褐色	住居跡南壁寄り 底部全周
166-11 138	台付甕	①10.4 ②7.4		外 頸部に2連止め←簾状文、波状文、ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐色	覆土 口縁部全周
166-12 138	鉢	①10.2 ②5.4③4.0		外 赤色塗彩、ミガキ、底面は磨耗。内 赤色塗彩、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 赤色	覆土 1/2
166-13 138	高坏	②4.9		外 赤色塗彩、ミガキ、横位の微隆起。内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤褐色	覆土 脚部全周
166-14 138	台付甕	②7.1 ③8.4		外 ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい赤褐色	住居跡中央部 脚部全周
166-15 138	高坏	②5.6 ③12.7		外 赤色塗彩、ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡北壁寄り 脚部全周
166-16 138	高坏	②11.5 ③16.5		外 赤色塗彩、ミガキ。内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡北壁寄り 脚部2/3
166-17 138	高坏	②6.0 ③13.2		外 赤色塗彩、ミガキ。内 赤色塗彩、ミガキ、剥落している。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡北壁寄り 1/2
166-18 138	高坏	②4.6		外 赤色塗彩、ミガキ。内 ハケメ。	細粒の砂を混入 非常に良 赤色	住居跡北壁寄り 脚部全周

Y-33号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
166-19 138	甕	②8.8 ③8.0	底部	外 ハケメ、底面の磨耗は少ない、炭化物付着。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 暗褐色	覆土 底部全周			
166-20 138	壺	②9.7 ③10.3	底部	外 ハケメ、ミガキ、底面の磨耗は少ない。 内 剥落している。	細粒の砂を混入 やや良 にぶい黄橙色	住居跡西壁寄り 底部全周			
166-21 138	甕	②6.0 ③7.0	底部	外 ミガキ、底面は磨耗。 内 ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	住居跡北壁寄り 底部全周			
166-22 138	ミニチュ ア	②2.0 ③3.7		外 指オサエ、ナデ、底面はケズリ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	覆土 底部全周			
167-23 138	匙	長7.2 幅3.2 厚2.1		外 ナデ。 内 ナデ。	細粒の砂を混入 良 にぶい黄橙色	覆土 一部欠損			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
167-24 138	甕	厚6~7	受け口状口 縁	外 口唇部刻み目。 内 ハケメ。	細粒の砂を含 む	良	明褐色	覆土	
167-25 138	壺	厚5~10	折り返し口 縁	外 口唇部刻み目、波状文。 内 ハケメ。	細粒の砂を含 む	良	浅黄褐色	覆土	
167-26 138	甕	厚5~6		外 2連止め←籐状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含 む	良	黒褐色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
167-27 138	磨石 (縄文)	完形	安山岩	14.4	13.2	4.0	1,210	両面に磨面と側面に敲打痕が認められる。	覆土
167-28 138	砥石	一部欠損	砂岩	7.9	6.0	2.2	(138)	両面使用。片面に敲打痕が認められる。	覆土
167-29 138	砥石	2/3	砂岩	(5.0)	3.7	1.3	(29)	両面使用。	覆土
167-30 138	砥石	2/3	砂岩	(4.0)	3.0	1.0	(20)	小口を除く3面使用。	覆土
167-31 138	磨製石斧	部分	硬砂岩	(7.4)	5.3	3.5	(187.2)		覆土

Y-34号住居跡 (第168・169図、PL.46・138)

位置 Ci-29・30、Cj-29・30グリッドにかけて検出された。Y-32号住居跡の東南約13mの所に位置している。

重複 8号墳周堀によって西部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

形状 長辺6.6m、短辺5.1mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-15°-E。

壁高 住居跡確認面より約32~46cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約30.9m²である。

周溝 検出できなかった。

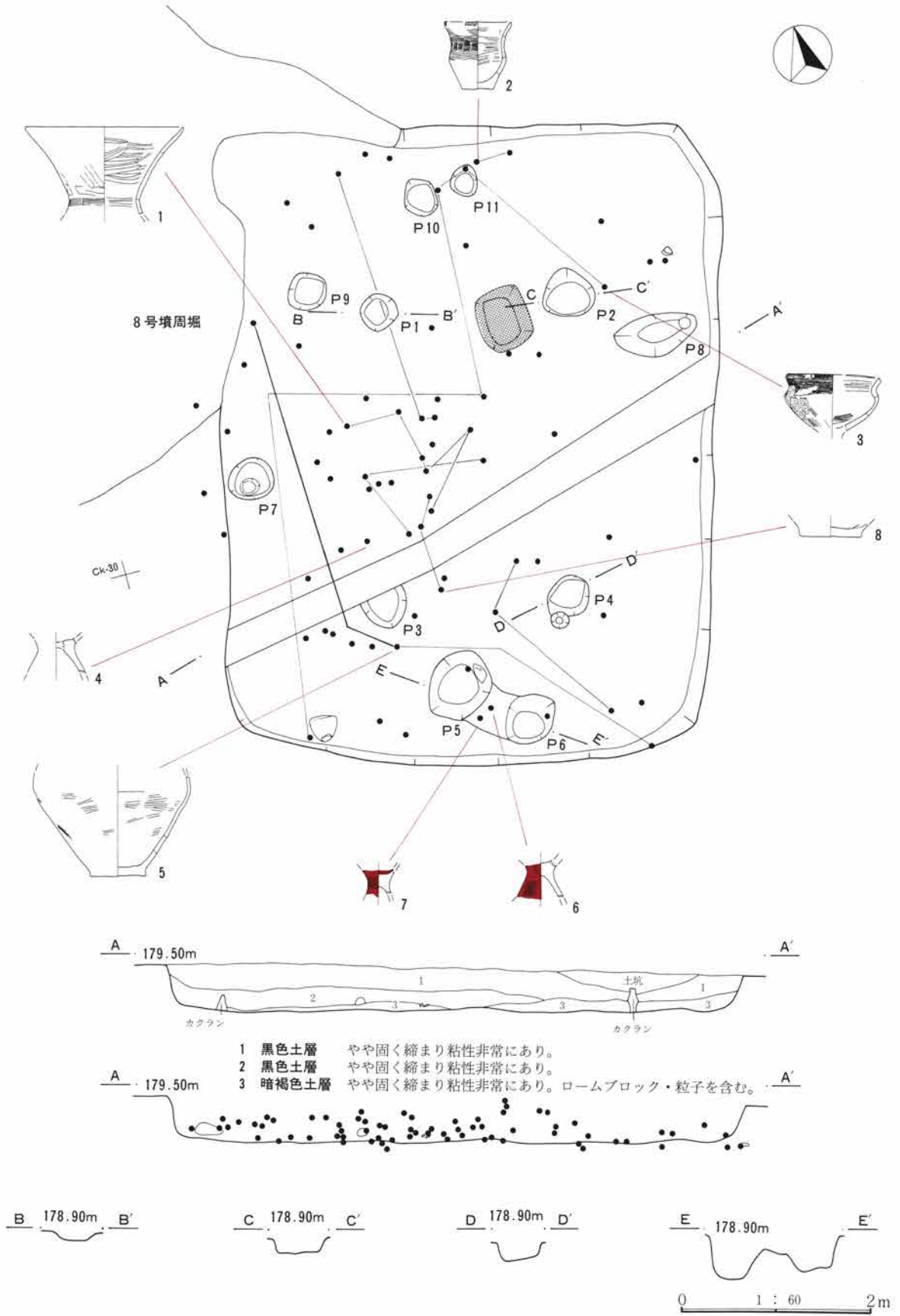
柱穴 総計11個のピットが検出された。この内、P

1~P4は支柱穴になる。P1の深さは15cm、P2深さ18cm、P3深さ16cm、P4深さ18cmである。P5・P6は出入り口部の施設になり、P5深さ40cm、P6深さ38cmでその間隔は80cmを測る。P7深さ62cm、P8深さ17cm、P9深さ14cm、P10深さ13cm、P11深さ23cmである。

炉 支柱穴P1・P2の中間P2寄りに位置している。長径64cm、短径52cmの楕円形を呈する。

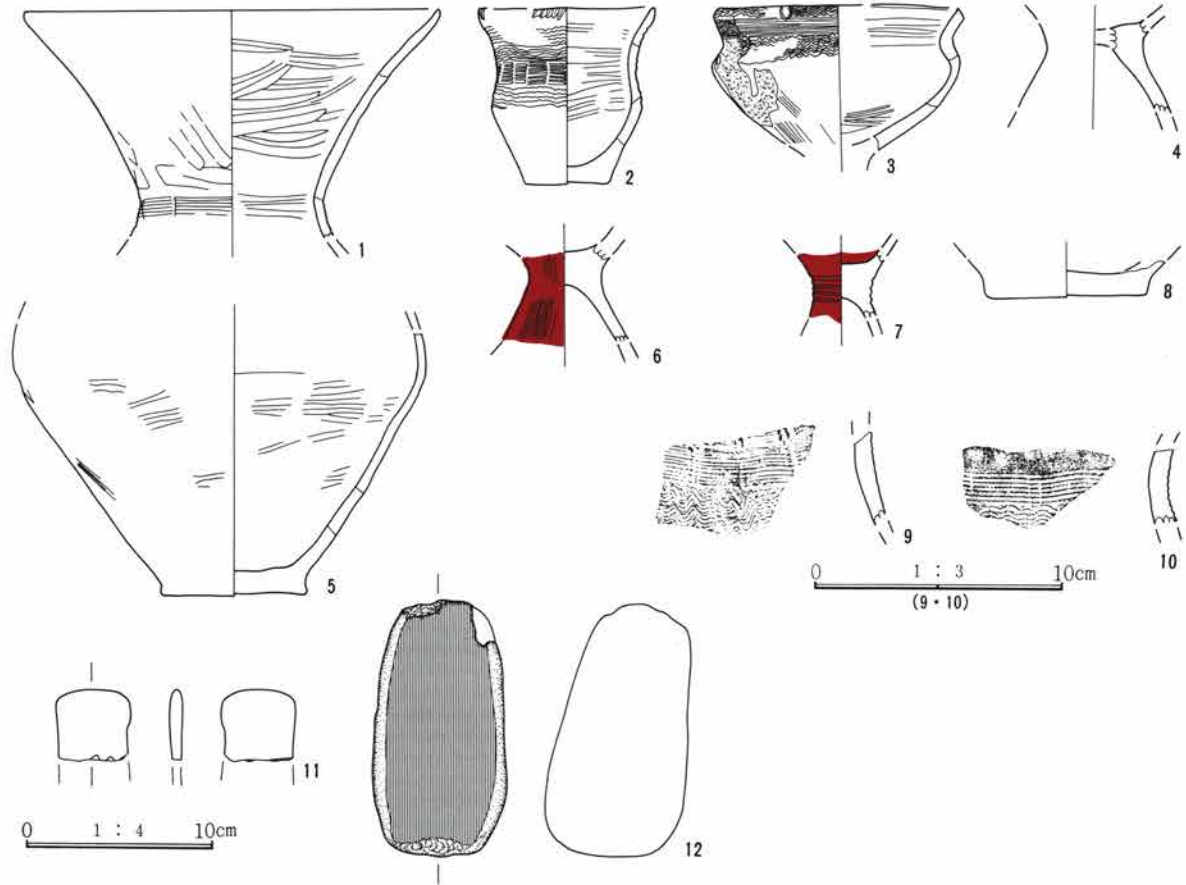
遺物 覆土から遺物が出土している。口縁部片12点、頸部片31点、胴部片197点、底部片12点等が出土し、この他に縄文前期から中期土器片105点、土師器・須恵器片11点、礫13点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第168図 Y-34号住居跡

3章 弥生時代の遺構と遺物



第169図 Y-34号住居跡出土遺物

Y-34号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
169-1 138	壺	①21.9 ②12.1		外 頸部は等間隔止め←籐状文。 内 ミガキ。	中粒の砂を混入 良 におい赤褐色	住居跡中央部 口縁部1/2		
169-2 138	小型甕	①9.2 ②9.3③4.2	口縁部はや や受け口状	外 口唇部に刻み目、波状文、頸部は等間隔止め←籐 状文、波状文、ミガキ。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡北壁寄 り 半完形		
169-3 138	台付甕	①13.0 ②7.8		外 口唇部に波状文、頸部は波状文、円形浮文、ミガ キ。内 丁寧なミガキ。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡西部分 脚部欠損		
169-4 138	高坏	②4.8		外 ミガキ。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 褐灰色	住居跡中央部 脚部全周		
169-5 138	甕	②13.8 ③7.4		外 ミガキ、底面の磨耗少ない。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい褐色	住居跡南西部 胴上半欠損		
169-6 138	高坏	②5.0		外 赤色塗彩、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡南壁寄 り 脚部全周		
169-7 138	高坏	②3.7		外 赤色塗彩、ミガキ、横位の沈線4条。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	住居跡南部分 脚部全周		
169-8 138	甕	②2.1 ③8.4	底部	外 ナデ、底面は磨耗。 内 ミガキ。	細粒の砂を混入 良 におい黄褐色	住居跡中央部 底部全周		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
169-9 138	甕	厚6.5		外 波状文、2連止め←籐状文。 内 ハケメ。	細粒の砂を含 む	良	浅黄色	覆土
169-10 138	甕	厚7.5		外 2連止め←籐状文、波状文、炭化物付着。 内 ミガキ。	細粒の砂を含 む	良	褐色	覆土
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)			特徴	出土状況
169-11 138	砥石	1/2	砂岩	計測値 全長 幅 厚 重量	(3.7) 3.7 0.5~0.7 (15)		両面使用。	覆土
169-12 138	敲石	完形	安山岩	13.6 7.0 6.8 1,087			両端に敲打痕が認められる。	覆土

Y-35号住居跡 (第170・171図、PL.47・138)

位置 Db-29~31、Dc-30・31グリッドにかけて検出された。Y-27号住居跡の東南約1.5mの所に位置している。

重複 14号墳周堀によって中央部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 長辺8.9m、短辺6.5mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-32°-W。

壁高 住居跡確認面より約40~50cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。推定面積は約49.5㎡

である。

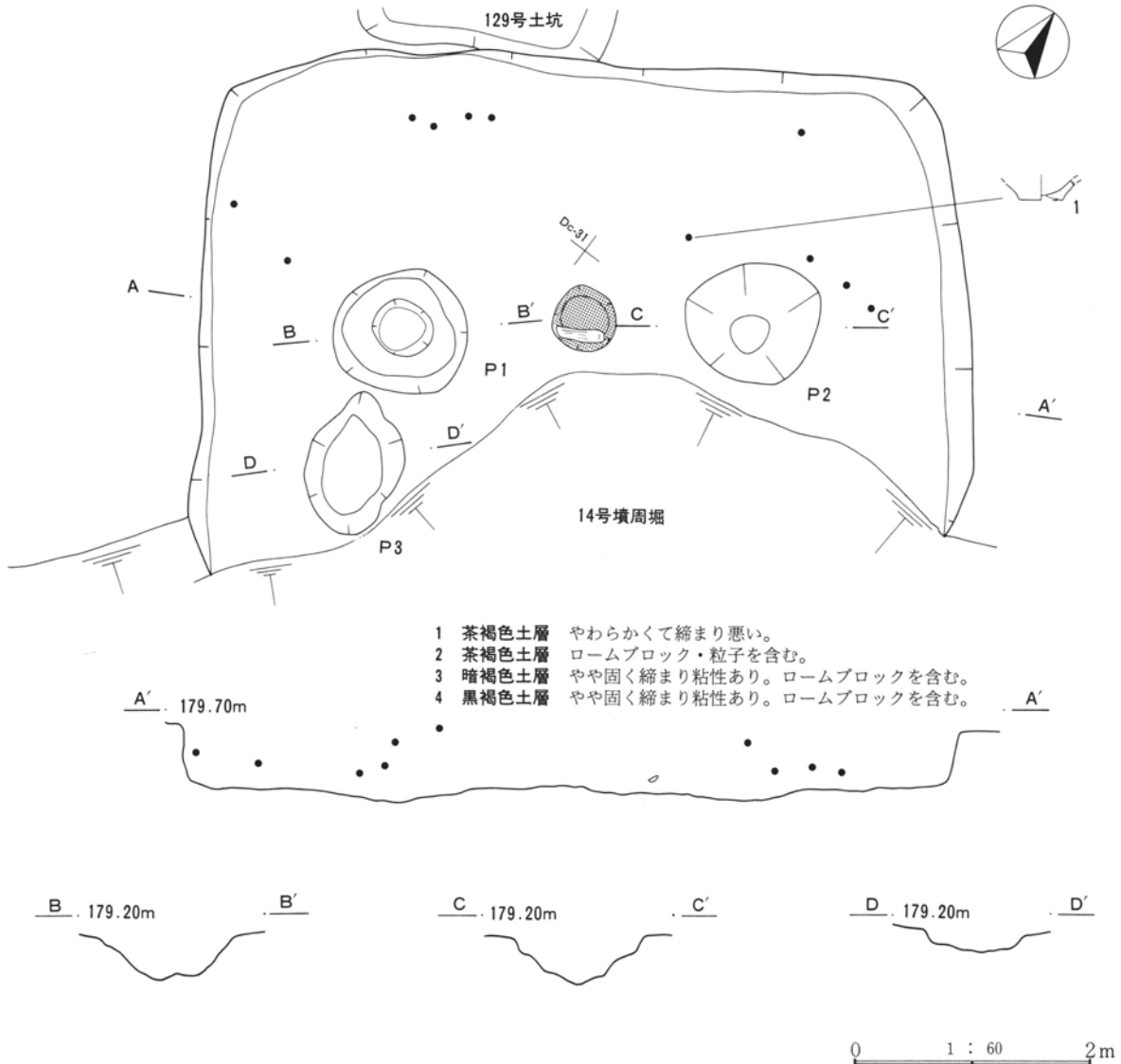
周溝 検出できなかった。

柱穴 計3個のピットが検出された。この内、P1・P2は主柱穴になる。P1の深さは50cm、P2深さ38cm、P3深さ16cmである。

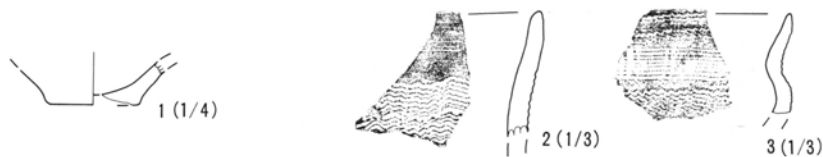
炉 主柱穴P1・P2の中間に位置している。径54cmの円形を呈する。南端に礫1個を配置している。

遺物 覆土から少量の遺物が出土している。口縁部片1点、胴部片35点であり、この他に縄文前期から中期土器片9点、礫5点等が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第170図 Y-35号住居跡



第171図 Y-35号住居跡出土遺物

Y-35号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考		
171-1 138	壺	②2.3 ③6.8	底部	外 赤色塗彩の痕跡、ミガキ。 内 丁寧なミガキ。	中粒の砂を混入 良 にふい黄橙色	P 2 周辺 底部1/2		
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況
171-2 138	甕	厚 4~8	受け口状口 縁	外 波状文、炭化物付着。 内 ミガキ。	細粒の砂を含 む	良	黒褐色	覆土
171-3 138	台付甕	厚 3~7		外 波状文、簾状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含 む	非常に 良	黒褐色	覆土

Y-37号住居跡 (第172・173図、PL138)

位置 Cm-32・33、Cn-32・33グリッドにかけて検出された。Y-32号住居跡の北西約1mの所に位置している。

重複 8号墳周堀によって西部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築されている。

形状 現状では長辺4.5m、短辺4mの隅丸方形を呈する。

方位 N-101°-W。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約9.3m²である。

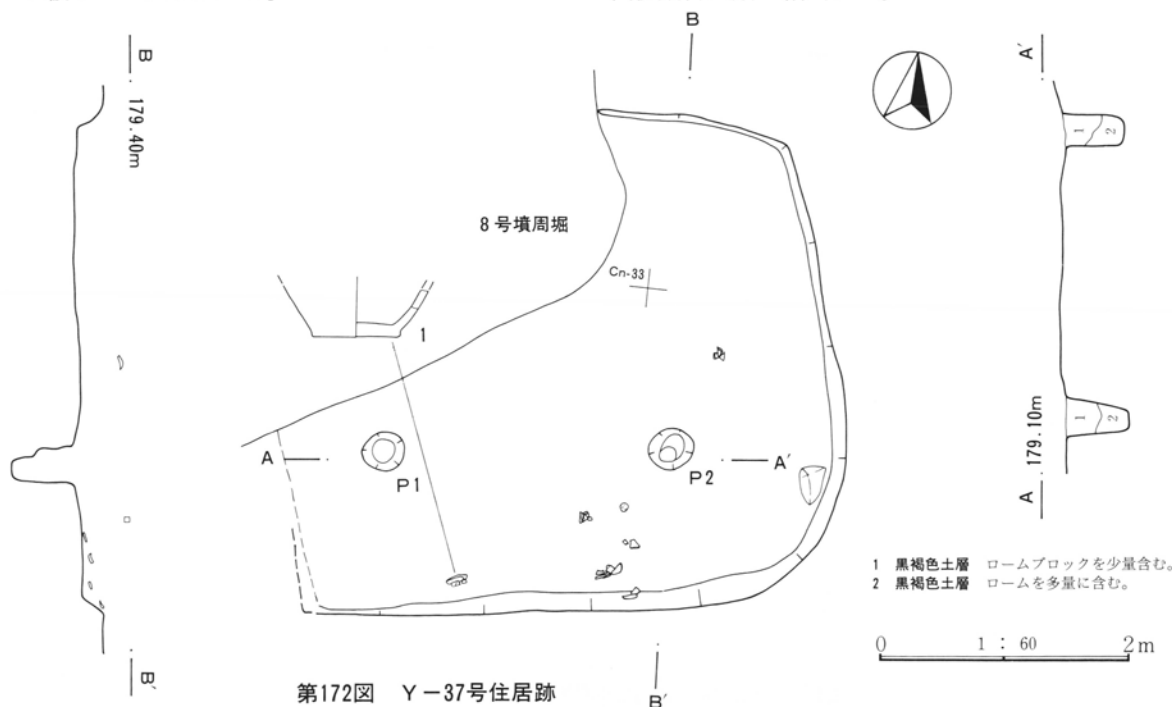
周溝 検出できなかった。

柱穴 2個のピットが検出された。P 1の深さは50cm、P 2の深さも50cmである。

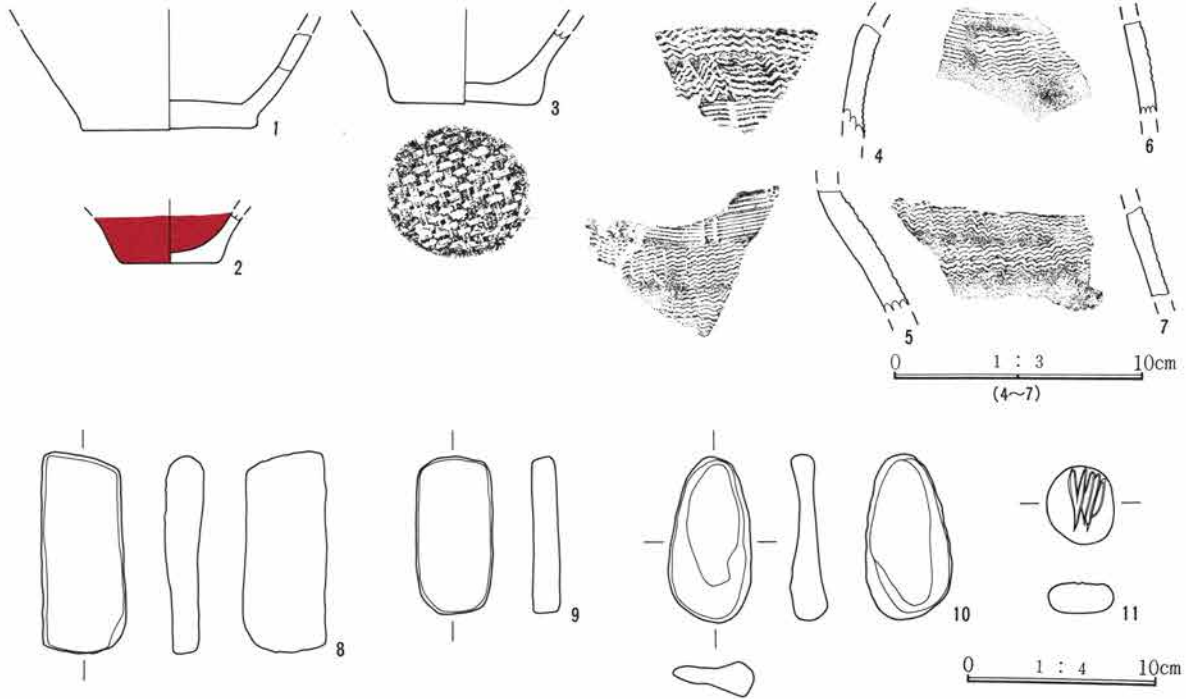
炉 床面から焼土等の痕跡を検出することはできなかった。壊されてしまったのであろう。

遺物 覆土から遺物が出土している。口縁部片6点、頸部片8点、胴部片37点、底部片4点等が出土し、この他に縄文中期土器片6点が出土した。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第172図 Y-37号住居跡



第173図 Y-37号住居跡出土遺物

Y-37号住居跡遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考			
173-1 138	甕	②4.8 ③9.3	底部	外 ハケメ、ミガキ、炭化物付着。底面は磨耗。 内 ハケメ、ミガキ、炭化物付着。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	住居跡南壁寄り 底部全周			
173-2 138	壺	②2.7 ③5.2	底部	外 赤色塗彩、ミガキ、底面は磨耗。 内 赤色塗彩、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 赤色	覆土 底部全周			
173-3 138	甕	②3.8 ③7.4	底部	外 ミガキ、網代。 内 ナデ、ミガキ。	中粒の砂を混入 良 明赤褐色	覆土 底部全周			
図番 PL	器種	法量 (mm)	器形・成形	文様・整形	胎土	焼成	色調	出土状況	
173-4 138	甕	厚8		外 簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	良	にぶい黄褐色	覆土	
173-5 138	甕	厚10		外 2連止め+簾状文、波状文。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	非常に良	赤褐色	覆土	
173-6 138	甕	厚6~7		外 波状文、炭化物付着。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	非常に良	黒褐色	覆土	
173-7 138	甕	厚7		外 波状文、炭化物付着。 内 ミガキ。	細粒の砂を含む	良	灰色	覆土	
図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm, g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
173-8 138	砥石	完形	砂岩	10.5	4.3	2.0	142	小口を除く4面使用。	覆土
173-9 138	砥石	完形	砂岩	8.4	4.1	1.4	76	全面使用。	覆土
173-10 138	砥石	完形	砂岩	8.8	4.5	1.8	75	両面使用。	覆土
173-11 138	砥石	完形	砂岩	4.1	3.6	1.6	28	片面に太い条痕が5本認められる。	覆土

Y-38号住居跡 (第174図、PL.47)

位置 Db-33・34、Dc-33・34グリッドにかけて検出された。Y-35号住居跡の北約11mの所に位置している。

重複 14号方形周溝墓によって北部分を壊されている。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

形状 現状では長辺3.9m、短辺3.3mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-23°-W。

壁高 住居跡確認面より約22~34cmで床面に達す

る。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約10.3㎡である。

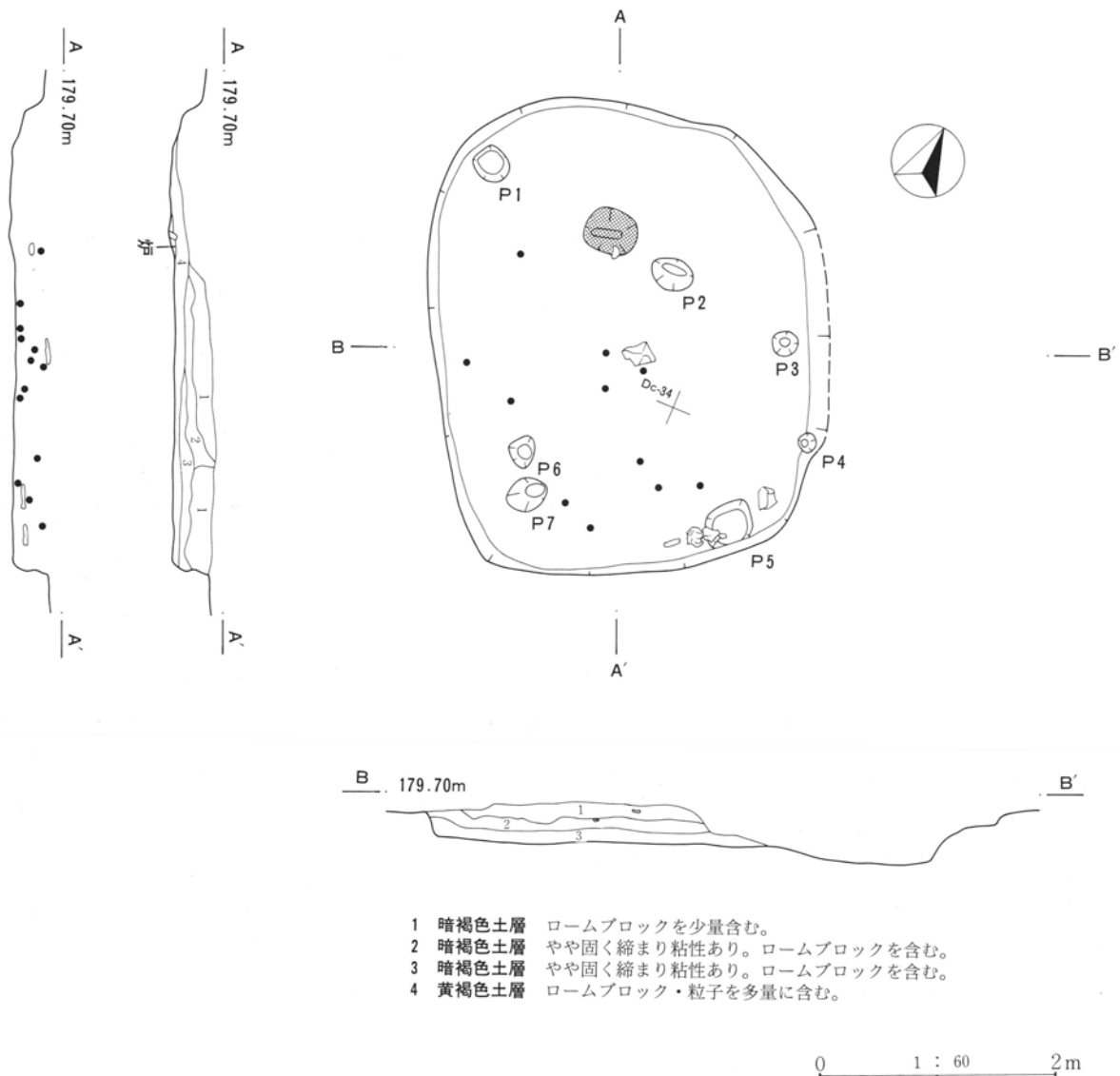
周溝 検出できなかった。

柱穴 総計7個のピットが検出された。P1の深さは19cm、P2深さ25cm、P3深さ6cm、P4深さ11cm、P5深さ11cm、P6深さ18cm、P7深さ11cmである。

炉 P2寄りに位置している。長径46cm、短径40cmの楕円形を呈する。

遺物 覆土から少量の遺物が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は弥生時代後期樽式期に相当する。



第174図 Y-38号住居跡

〔2〕

土 坑

14号土坑 (第175・180図、PL.48・138)

Df-31・32、Dg-31・32グリッドにかけて検出された。10号墳の周堀の内側に位置している。新しい土坑によって壊されている。現状での上面の規模は105×(70)cm、底面の規模は118×80cm、深さ50cmの楕円形を呈すると考えられる。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は5層に分かれた。第一層はロームの二次堆積土で、第5層は焼土と炭化物の混土である。覆土中層から土器が出土している。

15号土坑 (第175・180図、PL.48・138)

Dk-29グリッドにおいて検出された。9号墳の周堀の内側に位置している。新しい土坑によって壊されている。現状での上面の規模は180×131cm、底面の規模は165×111cm、深さ33cmの楕円形を呈すると考えられる。断面は皿状である。覆土は5層に分かれた。覆土からは弥生中期の土器片10点、弥生後期の土器片4点、縄文中期前半の土器片1点、礫・剝片4点等が出土している。

20号土坑 (第175・180・181図、PL.48・138)

Dg-33グリッドにおいて検出された。74号土坑の西125cmの所に位置している。上面の規模は154×111cm、底面の規模は173×160cm、深さ61cmの楕円形を呈する。断面はフラスコ状で、底面はほぼ平坦である。覆土は10層に分かれた。第2層はロームの二次堆積、4層と8層には炭化物が含まれていた。覆土下層からはほぼ完形の土器が出土している。この他に弥生中期の土器片120点、礫・剝片等12点が出土している。この中には74号土坑の土器と接合関係にあるものも含まれている。

74号土坑 (第175・176・181図、PL.48・138)

Dg-33グリッドにおいて検出された。20号土坑の東125cmの所に位置している。194号土坑と接している。上面の規模は160×135cm、底面の規模は165×163cm、深さ35cmの楕円形を呈する。断面はフラスコ状

で、底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。第1層から3層まで炭化物粒子が含まれていた。覆土第2層を中心に弥生中期の土器片48点、縄文前期後半の土器片1点、中期前半の土器片4点、中期後半の土器片1点、礫・剝片19点等が出土している。20号土坑の土器と接合関係にあるものも含まれている。

194号土坑 (第175・176・186図、PL.18・139)

Dg-33グリッドにおいて検出された。74号土坑の北に位置している。縄文時代の土坑である。上面の規模は100×87cm、底面の規模は85×86cm、深さ23cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土からは縄文前期中葉の土器片3点、中期の土器片が出土し、この他に弥生中期の土器片27点、弥生後期の土器片4点が含まれていた。

22号土坑 (第176・181図、PL.48・138)

DI-27グリッドにおいて検出された。上面の規模は125×79cm、底面の規模は45×31cm、深さ40cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土からは弥生中期の土器片が出土している。

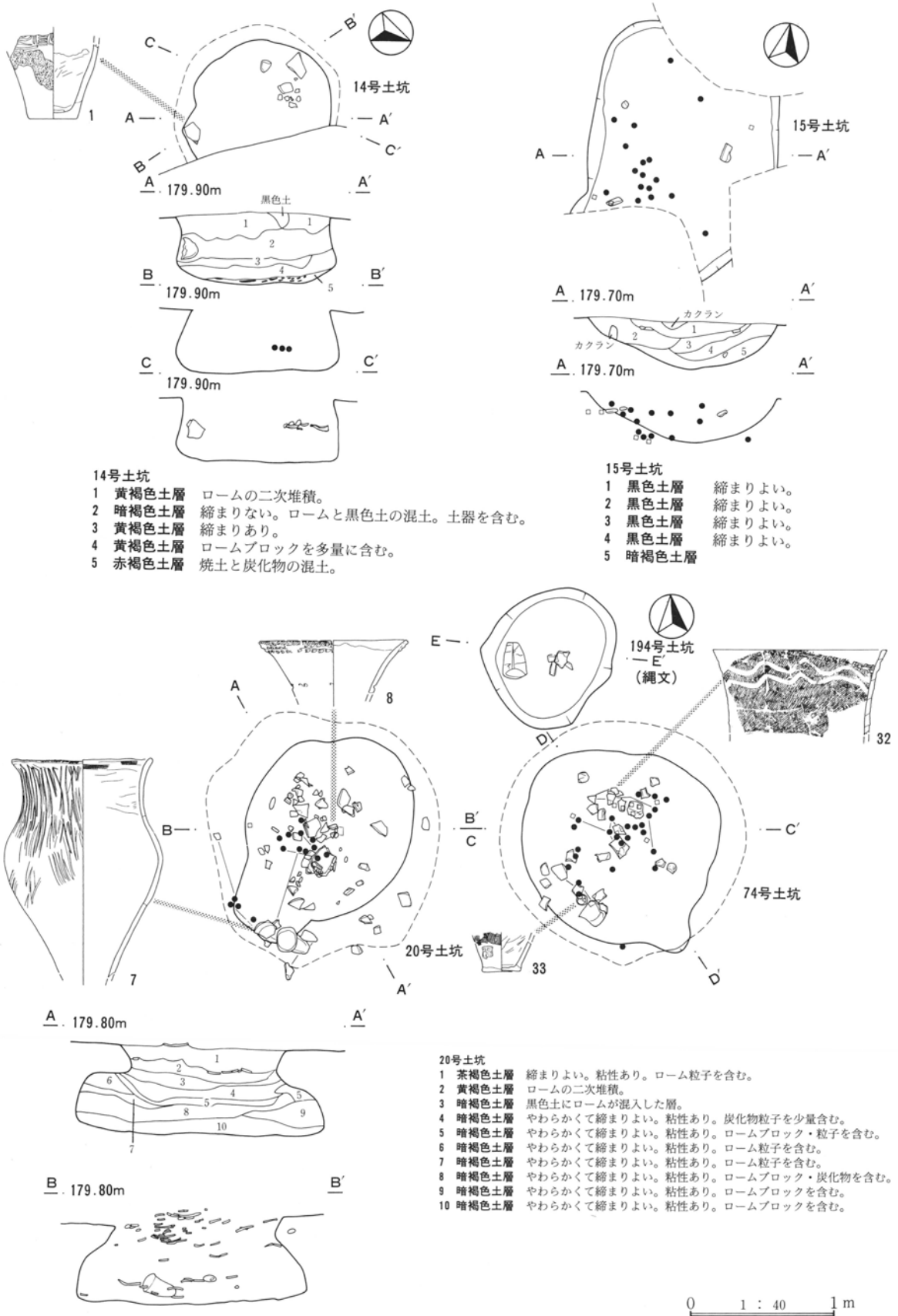
62号土坑 (第176・181図、PL.138)

Df-26・27グリッドにかけて検出された。Y-15号住居跡によって壊されている。上面の規模は105×96cm、底面の規模は86×80cm、深さ40cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。覆土からは弥生中期の土器片10点が出土している。

63号土坑 (第176・181図、PL.48・138)

Dd-26グリッドにおいて検出された。Y-8号住居跡によって壊されている。上面の規模は115×100cm、底面の規模は100×72cm、深さ40cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分かれた。覆土からは縄文中期前半の土器片59点、中期後半の土器片1点等が出土している。縄文中期の土坑である。

84号土坑 (第176・182図、PL.48・138)

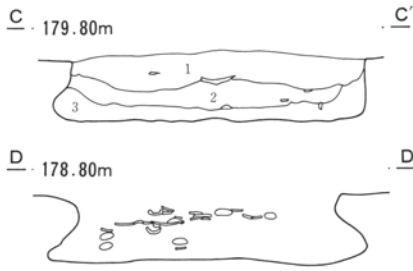


- 14号土坑**
- 1 黄褐色土層 ロームの二次堆積。
 - 2 暗褐色土層 縮まりない。ロームと黒色土の混土。土器を含む。
 - 3 黄褐色土層 縮まりあり。
 - 4 黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。
 - 5 赤褐色土層 焼土と炭化物の混土。

- 15号土坑**
- 1 黒色土層 縮まりよい。
 - 2 黒色土層 縮まりよい。
 - 3 黒色土層 縮まりよい。
 - 4 黒色土層 縮まりよい。
 - 5 暗褐色土層

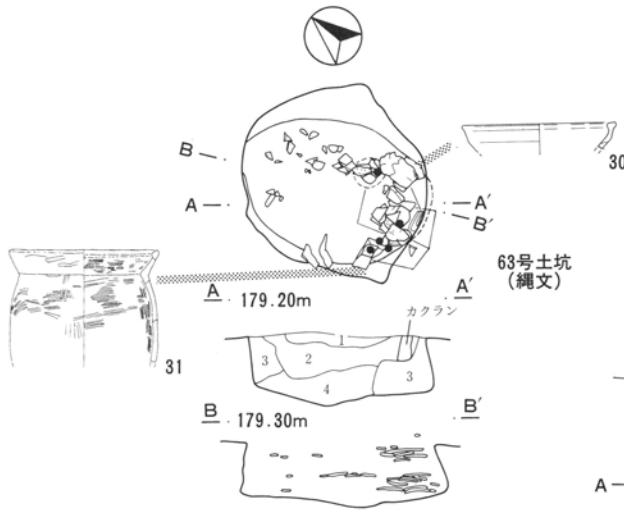
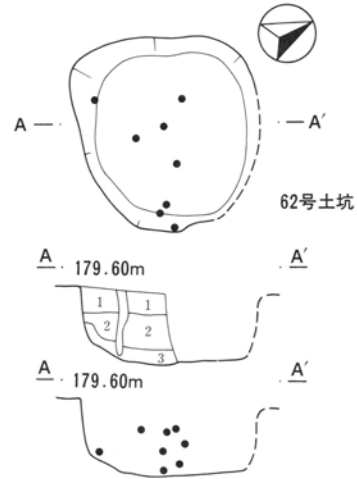
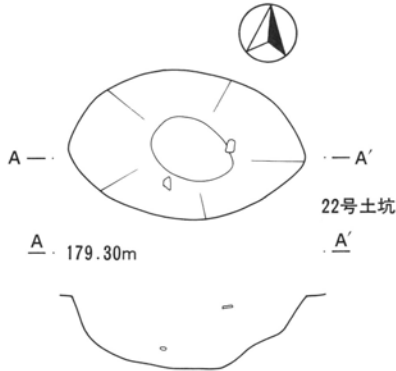
- 20号土坑**
- 1 茶褐色土層 縮まりよい。粘性あり。ローム粒子を含む。
 - 2 黄褐色土層 ロームの二次堆積。
 - 3 暗褐色土層 黒色土にロームが混入した層。
 - 4 暗褐色土層 やわらかくて縮まりよい。粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
 - 5 暗褐色土層 やわらかくて縮まりよい。粘性あり。ロームブロック・粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 やわらかくて縮まりよい。粘性あり。ローム粒子を含む。
 - 7 暗褐色土層 やわらかくて縮まりよい。粘性あり。ローム粒子を含む。
 - 8 暗褐色土層 やわらかくて縮まりよい。粘性あり。ロームブロック・炭化物を含む。
 - 9 暗褐色土層 やわらかくて縮まりよい。粘性あり。ロームブロックを含む。
 - 10 暗褐色土層 やわらかくて縮まりよい。粘性あり。ロームブロックを含む。

第175図 弥生土坑(14・15・20・74号)※194号は縄文



74号土坑

- 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。炭化物を含む。
- 2 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ロームブロック・粒子、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子、炭化物粒子を含む。

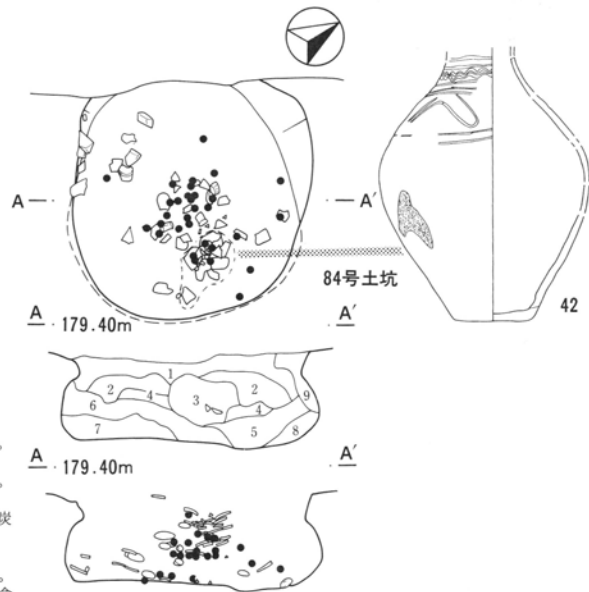


62号土坑

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 締まりよい。
- 3 黄褐色土層 締まりよい。ローム粒子を含む。

63号土坑

- 1 黒褐色土層 締まり悪い。
- 2 黒褐色土層 締まりあり。
- 3 黄褐色土層 ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 締まりよい。粘性あり。

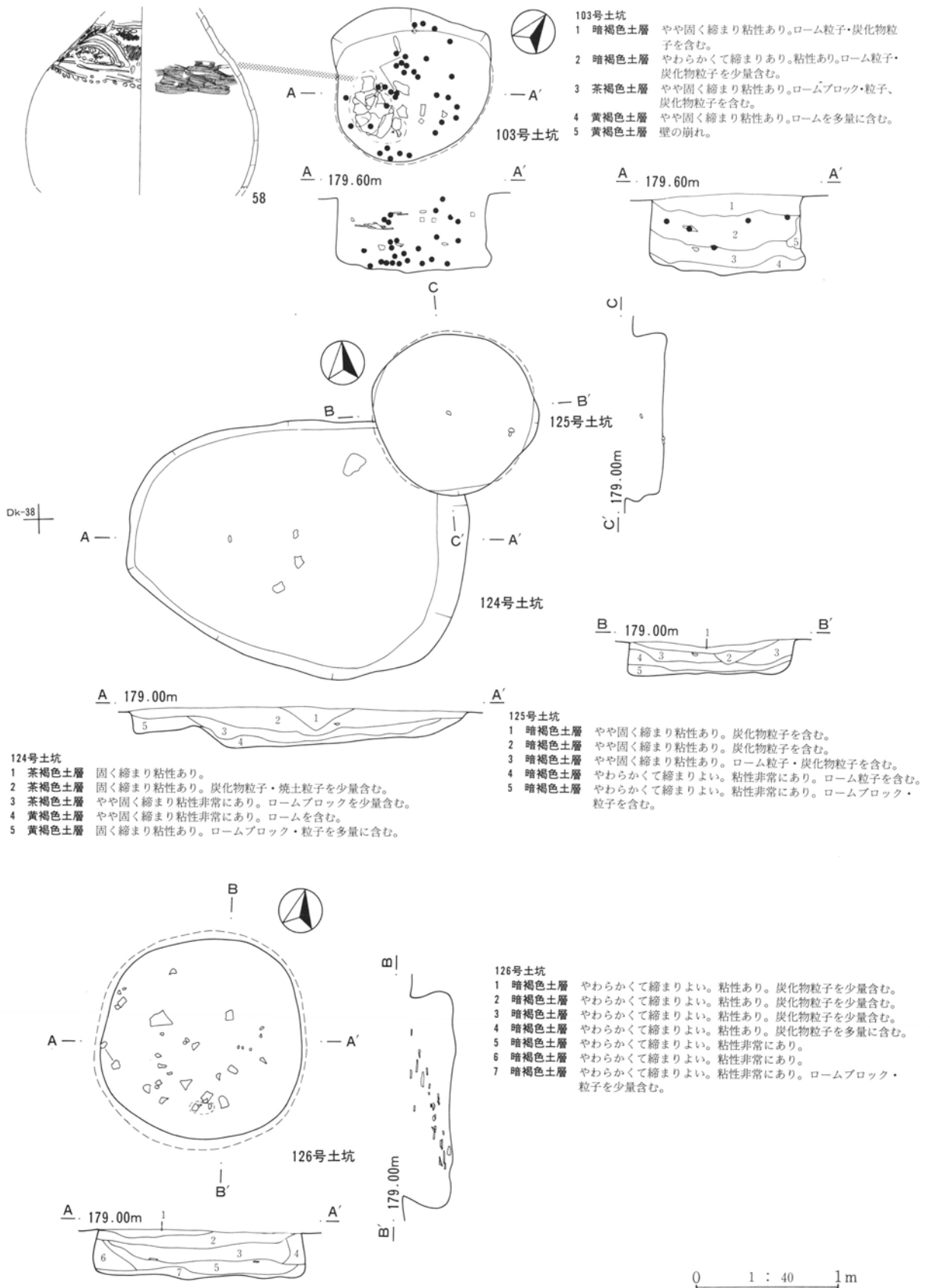


84号土坑

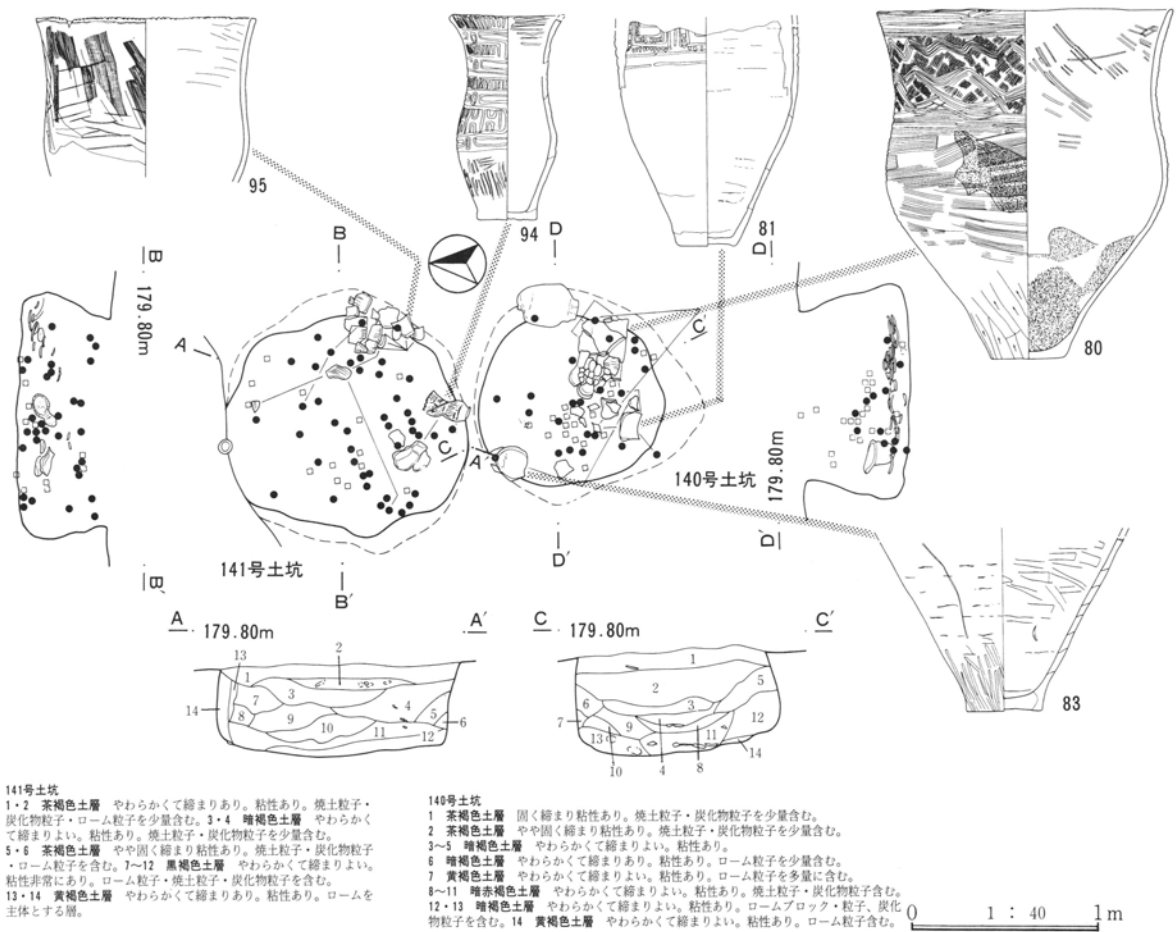
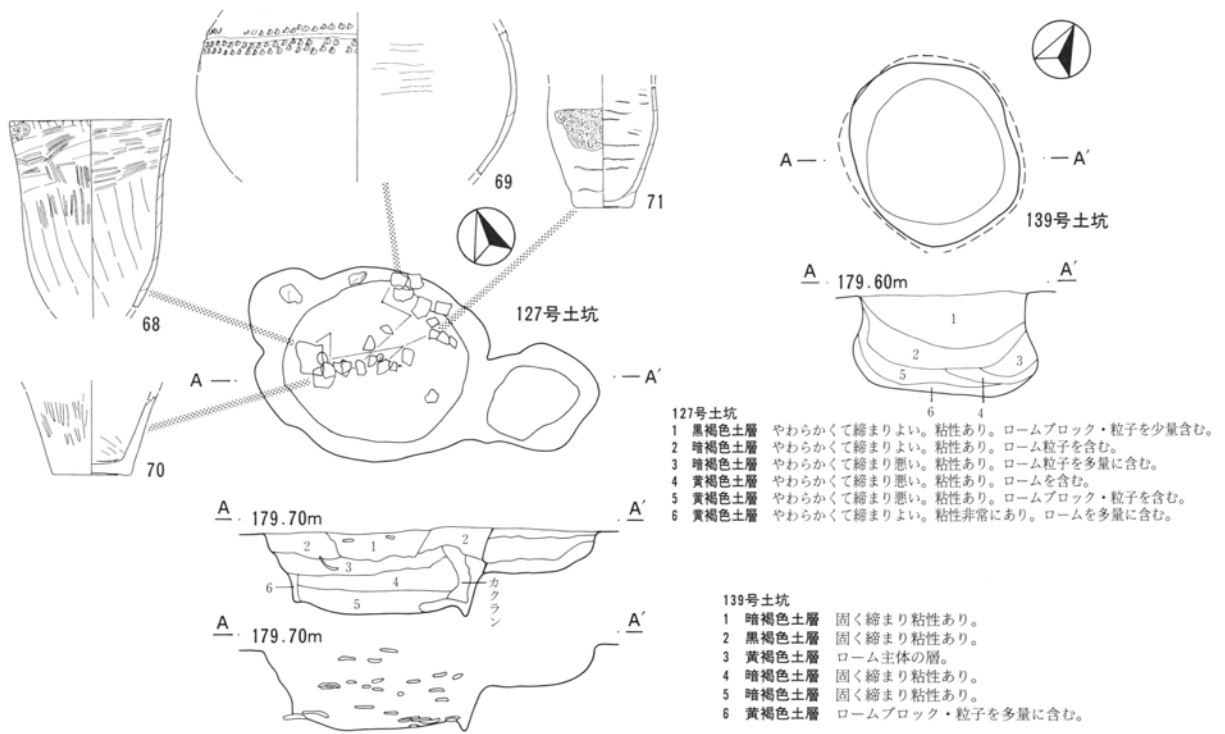
- 1 茶褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 茶褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 3 褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子を含む。
- 4 褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 5 褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子、炭化物を含む。
- 6 褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。
- 7 褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ローム粒子を多量に含む。
- 8 黄褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。
- 9 黄褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームを主体とする。

0 1 : 40 1m

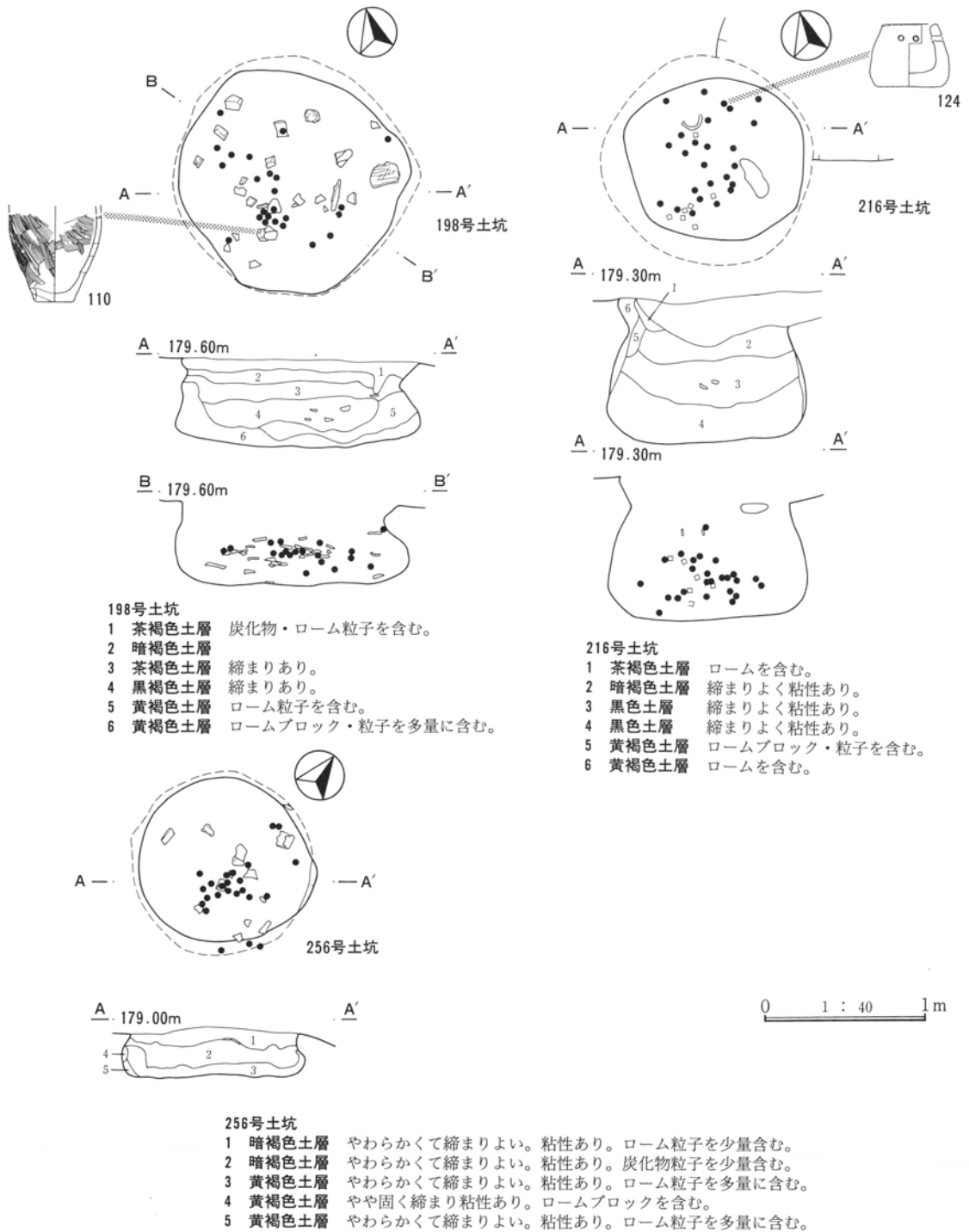
第176図 弥生土坑(74・22・62・84号) ※194号・63号は縄文



第177図 弥生土坑(103・124・125・126号)※124号は時期不明



第178図 弥生土坑(127・139・140・141号)



第179図 弥生土坑(198・216・256号)

Dj・Dk-34グリッドにかけて検出された。10号方形周溝墓によって壊されている。現状での上面の規模は140×127cm、底面の規模は126×119cm、深さ50cmの楕円形を呈する。断面は袋状、底面はほぼ平坦である。覆土は9層に分かれ、炭化物粒子を含んでいる。覆土からは弥生中期の壺と土器片57点、弥生後期の土器片2点、縄文前期後半の土器片1点、中期後半の土器片2点、礫・剥片30点が出土している。

103号土坑 (第177・182図、PL. 48・138・139)

Di-31グリッドにおいて検出された。6号方形周溝墓によって一部壊されている。上面の規模は107×106cm、底面の規模は112×91cm、深さ56cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土は5層に分かれ、第1層から3層にかけて炭化物粒子を含んでいる。覆土からは弥生中期の壺と土器片65点、縄文中期前半の土器片1点、礫・剥片8点が出土している。

124号土坑 (第177図)

Dj-37・38グリッドにかけて検出された。12号方形周溝墓の内側から検出された。上面の規模は237×180cm、底面の規模は210×165cm、深さ27cmの不整形を呈する。底面は凹凸がある。覆土は5層に分かれ、第2層は炭化物粒子と焼土粒子を含んでいる。土坑の時期は不明である。

125号土坑 (第177図、PL. 49)

Dj-38グリッドにおいて検出された。12号方形周溝墓の内側から検出された。上面の規模は112×109cm、底面の規模は115×114cm、深さ23cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は5層に分かれ、第1層から3層にかけて炭化物粒子を含んでいる。覆土からは弥生中期の土器片が出土している。

126号土坑 (第177・183図、PL. 49・139)

Dj-38グリッドにおいて検出された。12号方形周溝墓の内側から検出された。125号土坑に近接している。上面の規模は139×137cm、底面の規模は153×146cm、深さ34cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は7層に分かれ、第1層から4層にかけて炭化物粒子を含んでいる。覆土からは弥

生中期の土器片27点、弥生後期の土器片2点、礫・剥片6点が出土している。

127号土坑 (第178・183図、PL. 49・139)

Dg-31グリッドにおいて検出された。10号墳周堀の内側から検出された。上面の規模は120×115cm、深さ43cmの楕円形を呈する。断面はU字状で、底面はほぼ平坦である。覆土は6層に分かれた。覆土からは弥生中期の壺・甕と土器片13点、礫・剥片等が出土している。

139号土坑 (第178図、PL. 49)

Ct-32グリッドにおいて検出された。2号墳周堀に近接している。上面の規模は99×98cm、底面の規模は104×88cm、深さ55cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は6層に分かれた。

140号土坑 (第178・183・184図、PL. 49・139)

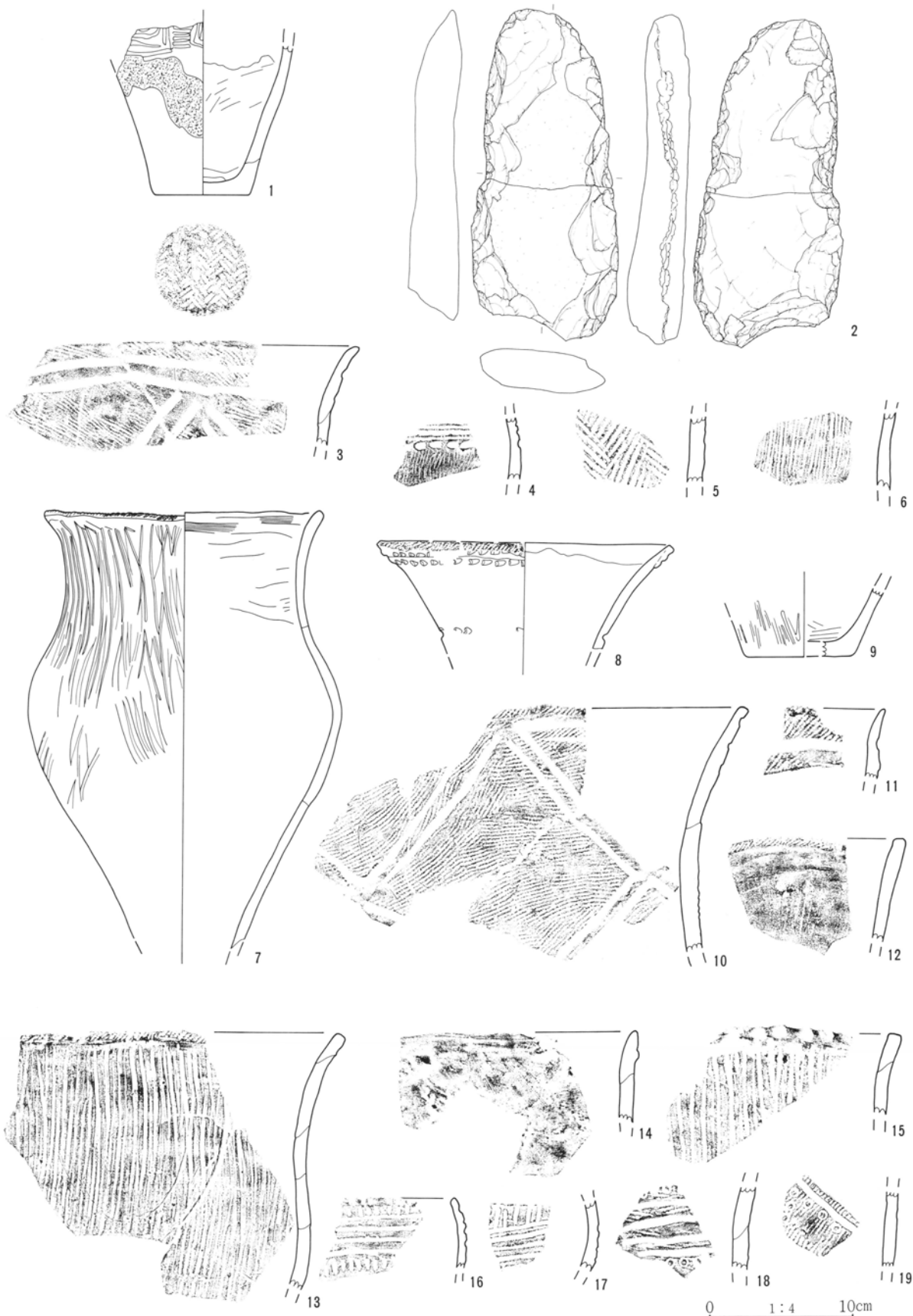
Df-32グリッドにおいて検出された。10号墳周堀の内側から検出された。141号土坑に接している。上面の規模は98×92cm、底面の規模は120×113cm、深さ61cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は14層に分かれ、第1層・2層そして第8層から13層まで炭化物粒子と焼土粒子が含まれていた。覆土下層からは弥生中期の完形土器を中心に土器片76点、弥生後期の土器片4点、礫・剥片38点が出土している。

141号土坑 (第178・184・185図、PL. 49・139)

Df-32グリッドにおいて検出された。10号墳周堀によって北端を壊されている。140号土坑に接している。上面の規模は123×116cm、底面の規模は135×127cm、深さ50cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は14層に分かれ、第1層から12層にいたるまで焼土粒子と炭化物粒子が含まれていた。覆土下層からは弥生中期の完形土器を中心に土器片135点、縄文中期前半の土器片2点、礫・剥片29点が出土している。

198号土坑 (第179・185図、PL. 49・139)

Df-34グリッドにおいて検出された。上面の規模は137×133cm、底面の規模は145×142cm、深さ53cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦で

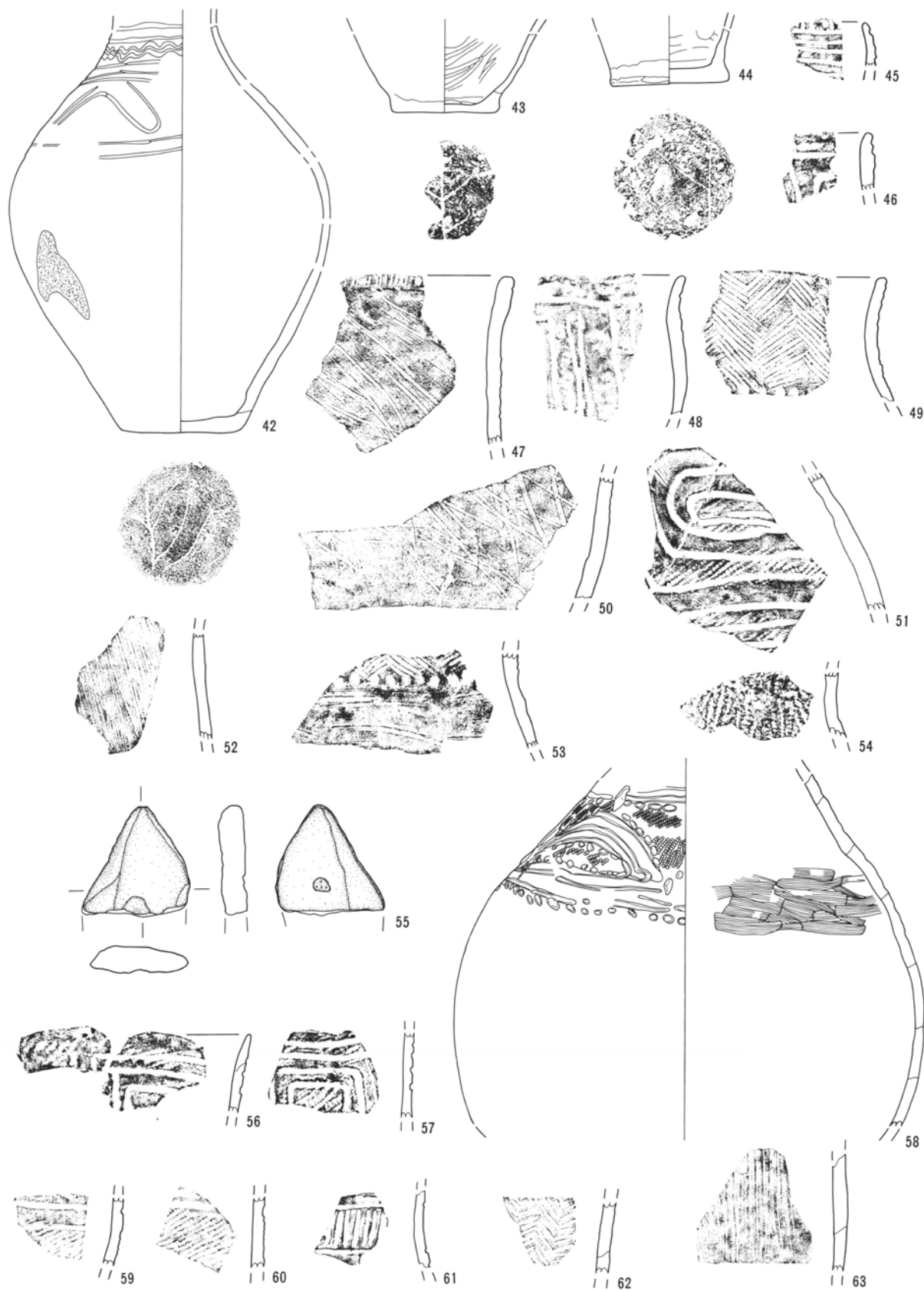


第180図 弥生土坑(14・15・20号)出土遺物

0 1:4 10cm
 (1・7~9)
 0 1:3 10cm
 (2~6・10~19)

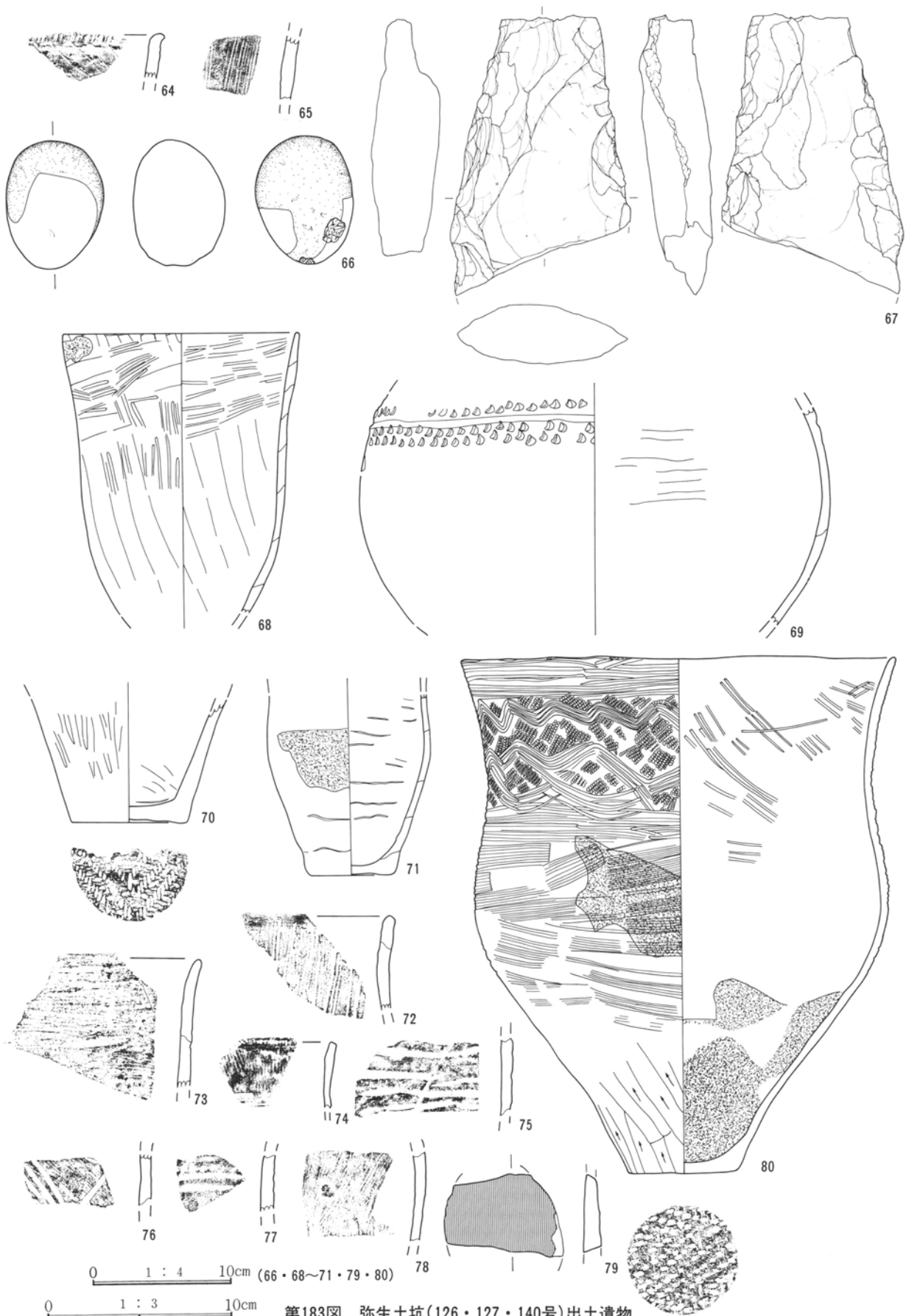


第181図 弥生土坑(20・22・62・74号)出土遺物※63号は縄文



第182図 弥生土坑(84・103号)出土遺物

0 1 : 4 10cm
 (42~44・55・58)
 0 1 : 3 10cm
 (45~54・56・57・59~63)

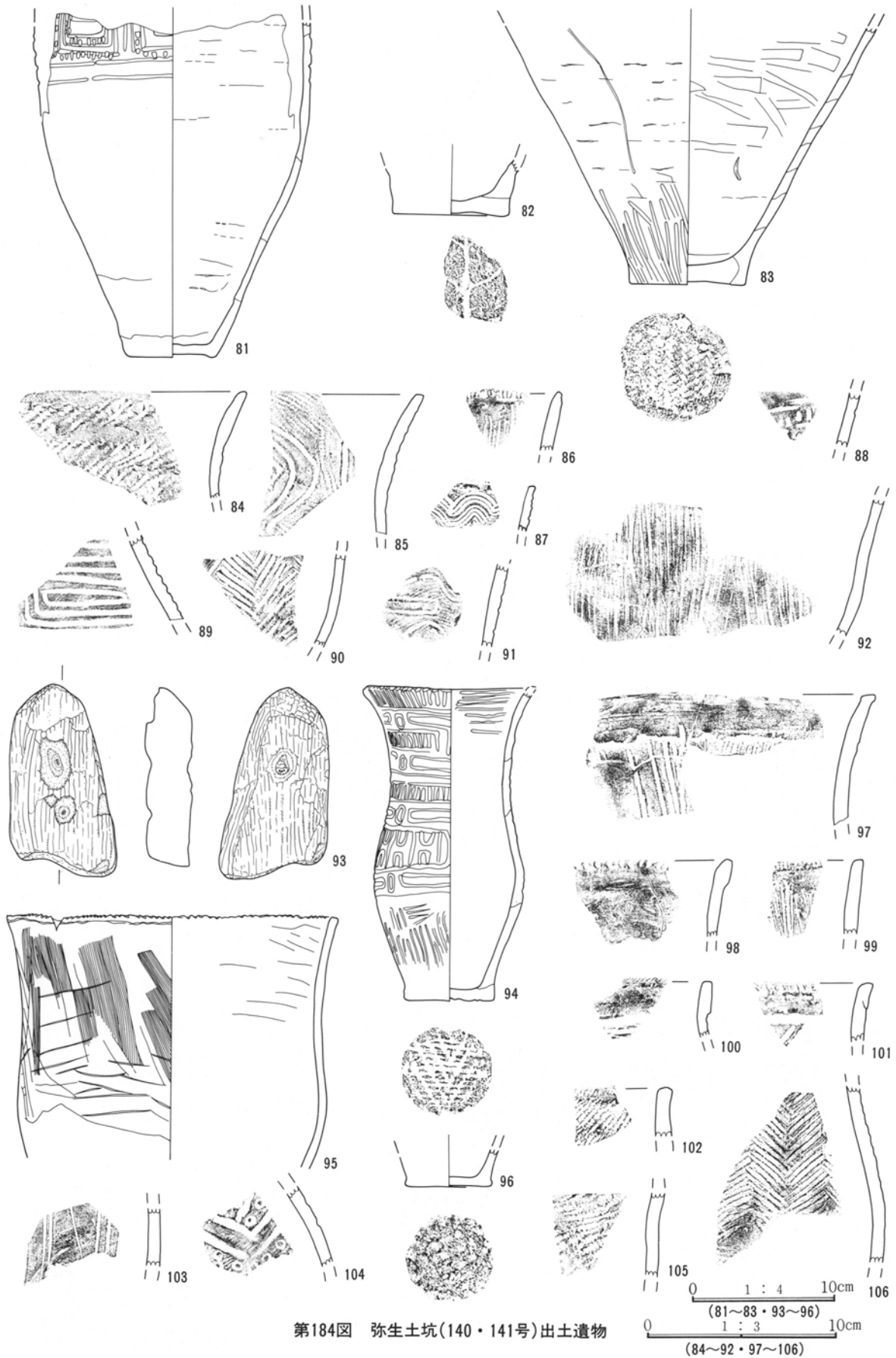


0 1 : 4 10cm

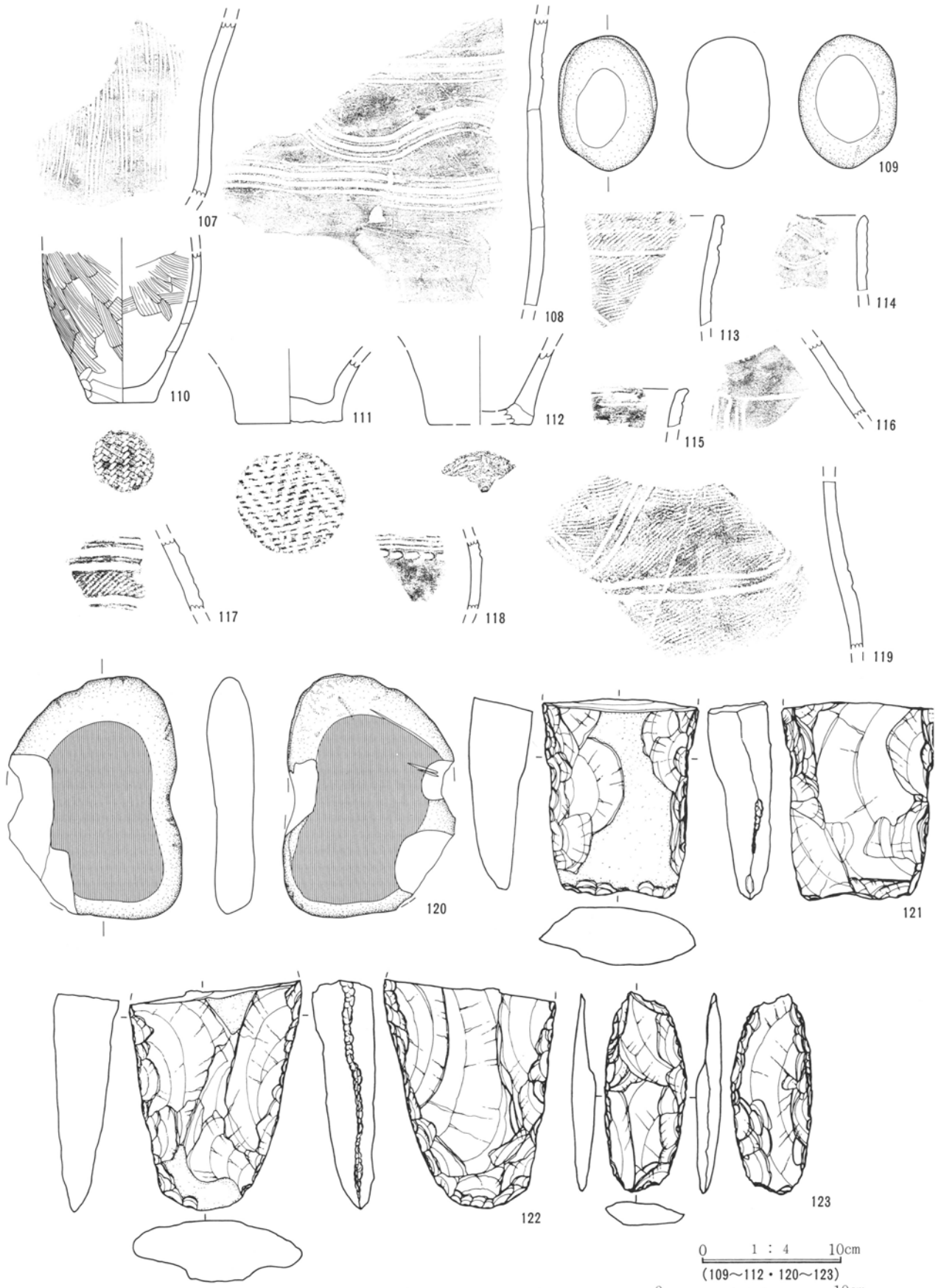
0 1 : 3 10cm

(64 · 65 · 67 · 72 ~ 78)

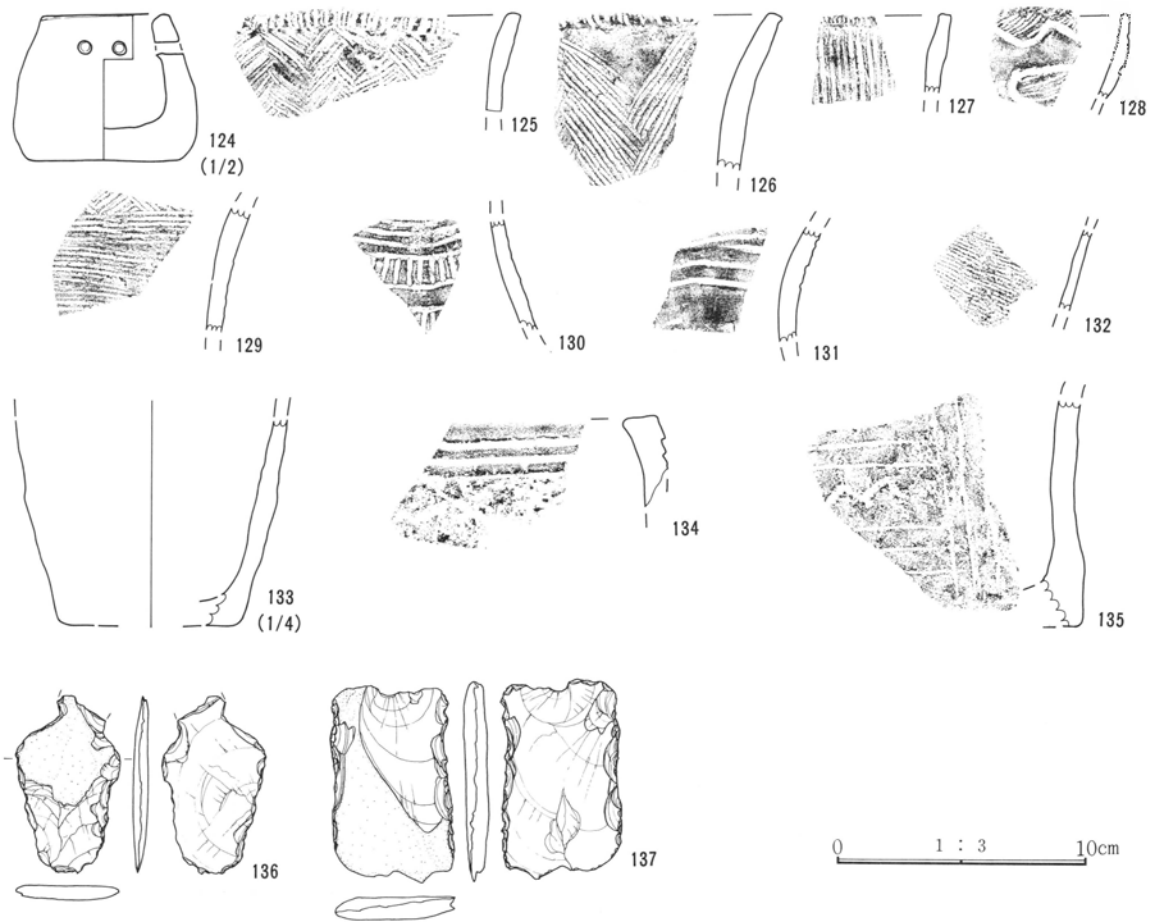
第183图 弥生土坑(126 · 127 · 140号)出土遗物



第184図 弥生土坑(140・141号)出土遺物



第185图 弥生土坑(141・198号)出土遗物



第186図 弥生土坑(216号)出土遺物 ※194号は縄文

ある。覆土は6層に分かれ、第1層に炭化物粒子が含まれていた。覆土中層から下層にかけて弥生中期の土器片36点、石器・礫・剝片32点が出土している。

216号土坑 (第179・186図、PL.49・139)

Df-39グリッドにおいて検出された。9号墳周堀の内側から検出された。土坑上面を別遺構によって壊されている。上面の規模は113×99cm、底面の規模は129×123cm、深さ90cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は6層に分かれた。

覆土中層から下層にかけて弥生中期の土器片74点、土師器片4点、礫・剝片4点が出土している。

256号土坑 (第179図)

D1-36グリッドにおいて検出された。10号方形周溝墓の内側から検出された。上面の規模は108×101cm、底面の規模は130×112cm、深さ30cmの円形を呈する。断面は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は5層に分かれた。覆土中層から下層にかけて弥生中期の土器片が出土している。

弥生土坑遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文 様 ・ 整 形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
180-1 138	甕	②12.0 ③6.5	筒形	外面は沈線による区画。以下、縦方向のミガキ。炭化物が付着。内面は丁寧な横方向の調整。網代痕。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	14土坑
180-3 138	甕	厚0.6	口縁部はや や外反	縄文施文。原体はR ₁ 横位。口縁下に2条の沈線。以下、斜位の沈線が施されている。内面横方向の調整。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	15土坑
180-4 138	壺	厚0.6		外面は横位の沈線。刺突が施されている。 内面はミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 褐色	15土坑
180-5 138	甕	厚0.8		木口の割り口を用いて条痕が施されている。 内面はミガキが行われている。	中粒の砂を混入 良 褐色	15土坑
180-6 138	甕	厚0.5~0.7		木口の割り口を用いて条痕が施されている。 内面は横方向のミガキが行われている。	中粒の砂を混入 良 褐色	15土坑
180-7 138	甕	①19.2 ②30.4	口縁部はや や外反	口唇部に縄文施文。器面には細沈線、炭化物が付着。内面は横方向の調整。底部近くに炭化物。底面欠損。	中粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	20土坑
180-8 138	壺	①20.0 ②7.2	口縁部は外反 折返し口縁	口唇部に縄文施文。原体はL ₁ 横位。竹管による刺突が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 ぶい橙色	20土坑
180-9 138	甕	②4.4 ③7.5	底部	外面は縦方向の調整が行われている。 内面は丁寧な調整。炭化物が付着している。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	20土坑
180-10 138	甕	厚0.4~1.0	口縁部はや や外反	口唇部・器面に縄文施文。原体はL ₁ 横位・斜位。斜位の沈線による菱形の文様。内外面に煤付着。	中粒の砂を混入 良 褐色	20土坑
180-11 138	甕	厚0.3~0.7	口縁部はや や外反	外面は口唇部・器面に縄文施文。原体はL ₁ 横位。横位の沈線。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	20土坑
180-12 138	甕	厚0.6~0.7	口縁部はや や内湾	外面は口唇部に縄文施文。原体はL ₁ 横位。内面は横方向のミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい黄褐色	20土坑
180-13 138	甕	厚0.6~0.8	口縁部はや や外反	口唇部に縄文施文。原体はL ₁ 横位。条痕が施されている。外面に炭化物付着。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 褐色	20土坑
180-14 138	甕	厚0.7~0.9		外面はハケメ。 内面は横方向の調整が行われている。	粗粒の砂を混入 やや良 黒褐色	20土坑
180-15 138	甕	厚0.7		外面は口唇部に押捺痕。条痕が施されている。 内面は横方向のミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 褐色	20土坑
180-16 138	壺	厚0.3~0.5	口縁部は内 湾する	外面は口唇部に刺突。口縁部に横位の沈線と刺突が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	20土坑
180-17 138	壺	厚0.5~0.6		外面は横位・斜位の沈線が施されている。 内面は丁寧な調整が施されている。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	20土坑
180-18 138	壺	厚0.7~0.9		縄文施文。原体はL ₁ 横位。横位の沈線。円形竹管による刺突が施されている。内面は丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	20土坑
180-19 138	壺	厚0.7		縄文施文。原体はL ₁ 横位。斜位の沈線。円形竹管による刺突が施されている。内面は丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	20土坑
181-20 138	甕	厚0.6~0.9		外面は縄文施文。原体はL ₁ 横位。沈線が施されている。内面に炭化物が付着している。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄褐色	20土坑
181-21 138	甕	厚0.7		外面は縄文施文。原体はL ₁ 横位。沈線が施されている。内面は丁寧な調整が行われている。	粗粒の砂を混入 良 暗赤褐色	20土坑
181-22 138	甕	厚0.4~0.6		外面はハケメ。横位の沈線。波状の沈線が施されている。内面はやや粗い調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	20土坑
181-23 138	壺	厚0.4		横位の細沈線が施されている。 内外面ともザラザラしている。	細粒の砂を混入 不良 ぶい橙色	20土坑
181-24 138	甕	厚0.6~0.7		外面は横位・波状の沈線が施されている。 内面は粗い調整。輪積痕が残る。	細粒の砂を混入 良 ぶい黄褐色	20土坑
181-27 138	筒	厚0.4~0.8		外面は縄文施文。原体はR ₁ 横位。円形の沈線が施されている。内面は剥落している。	中粒の砂を混入 やや良 ぶい褐色	22土坑
181-28 138	甕	厚0.9		外面は条痕が施されている。 内面は横方向のミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	62土坑
181-29 138	甕	厚0.8~0.9		外面は横位・縦位の沈線が施されている。 内面はミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい褐色	62土坑
181-30 138	浅鉢	①32.8 ③6.3	口縁部は内 湾する	外面は無文。 内面は横ミガキが行われている。	中粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	63土坑 (縄文)
181-31 138	深鉢	②15.5		外面は横方向のミガキが行われている。 内面は横・縦方向のミガキが行われている。	粗粒の砂を混入 やや良 明赤褐色	63土坑 (縄文)
181-32 138	甕	①24.0 ②5.4③5.0	口縁部はや や外反	口唇部・器面に縄文施文。原体はL ₁ 横位。波状文が施されている。内面は粗い調整。輪積み痕残る。	中粒の砂を混入 やや良 ぶい黄褐色	74土坑
181-33 138	壺	②5.4 ③5.0	底部	外面はハケメ、ミガキ、炭化物が付着している。 内面は斜方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 非常に良 暗赤褐色	74土坑

弥生土坑遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
181-34 138	壺	②2.6 ③6.2	底部	外面は横方向の調整。木葉痕。 内面は横方向の調整が行われている。	粗粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	74土坑
181-35 138	甕	厚0.6~0.7	口縁部はや や外反	口唇部に縄文。条痕が施されている。 内面は丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 褐色	74土坑
181-36 138	甕	厚0.7~0.8		外面は波状の沈線が施されている。 内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	74土坑
181-37 138	壺	厚0.5~0.6		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。沈線と円形竹管による刺突が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	74土坑
181-38 138	甕	厚0.5~0.7		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。横位・鋸歯状の沈線が施されている。炭化物付着。内面は横ミガキ。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	74土坑
182-42 138	壺	②28.3 ③8.0		頸部に横位の沈線内に波状文。以下、連続三角文を配す。底部は木葉痕。炭化物付着。	中粒の砂を混入 良 灰黄色	84土坑
182-43 138	壺	②5.4 ③7.0	底部	外面はハケメ。木葉痕。 内面は斜方向の調整。炭化物が付着している。	細粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	84土坑
182-44 138	壺	②3.6 ③8.0	底部	外面は縦方向の調整。木葉痕。 内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	84土坑
182-45 138	壺	厚0.3~0.5	口縁部はや や内湾	外面は横位の沈線、縦位の短沈線が施されている。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	84土坑
182-46 138	甕	厚0.5~0.8	筒形	外面は沈線による区画。 内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 暗赤褐色	84土坑
182-47 138	甕	厚0.6~0.9	口縁部はや や外傾	口唇部に刻み目。器面に斜方向の条痕が施されている。 内面は横方向の丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 灰褐色	84土坑
182-48 138	甕	厚0.5~0.7	口縁部はや や外反	口唇部、器面に縄文施文。原体はL ₁ 。沈線による区画。内面は横方向の調整。炭化物が付着。	細粒の砂を混入 良 褐色	84土坑
182-49 138	甕	厚0.6~0.7	口縁部はや や外反	口唇部に縄文施文。矢羽根状の条痕、刺突。炭化物が付着している。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	84土坑
182-50 138	甕	厚0.6~0.8		外面は斜方向の細沈線。炭化物が付着している。 内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	84土坑
182-51 138	壺	厚0.6~0.9		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。横位。沈線による区画。 内面は横方向の調整。一部に輪積み痕が残る。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	84土坑
182-52 138	甕	厚0.5~0.6		外面は縦方向の条痕が施されている。 内面は縦ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 黒色	84土坑
182-53 138	甕	厚0.6~0.8		外面は矢羽根状の条痕、刺突、横位の条痕。炭化物が付着している。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	84土坑
182-54 138	壺	厚0.5~0.7		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。 内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 ぶい橙色	84土坑
182-56 138	甕	厚0.5		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。沈線による区画が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	103土坑
182-57 138	筒	厚0.4		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。沈線による区画が施されている。炭化物が付着。内面は横方向の調整。	中粒の砂を混入 良 褐色	103土坑
182-58 139	壺	②23.7	胴部が大き く張る	外面は横位の沈線内に連続三角文を配し、モチーフ内に刺突を充填。縄文原体はL ₁ 。炭化物付。内面ハケメ、ミガキ。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	103土坑
182-59 138	甕	厚0.6		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。横位の沈線が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 褐色	103土坑
182-60 138	甕	厚0.6		外面は縄文施文。原体はL ₁ 。横位。沈線が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	103土坑
182-61 138	壺	厚0.5		外面は横位の沈線区画内に縦の短沈線が施されている。内面は丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 暗褐色	103土坑
182-62 138	甕	厚0.6		外面は矢羽根状の条痕が施されている。 内面は丁寧な調整。一部に輪積み痕が残っている。	細粒の砂を混入 良 ぶい赤褐色	103土坑
182-63 138	甕	厚0.6		外面は縦位の条痕が施されている。 内面は横方向の調整。輪積み痕が残っている。	中粒の砂を混入 良 褐色	103土坑
183-64 139	甕	厚0.6		口唇部に刺突。 内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	126土坑
183-65 139	甕	厚0.5~0.6		外面は条痕が施されている。 内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 やや良 赤褐色	126土坑
183-68 139	甕	①17.0 ②20.0		外面はハケメ、ミガキ。炭化物が付着。 内面は横・縦方向のミガキ。炭化物が付着。	中粒の砂を混入 良 暗赤褐色	127土坑
183-69 139	壺	②16.5		外面は横位の沈線。上下に刺突が施されている。炭化物が付着。内面は横方向の調整。炭化物が付着。	中粒の砂を混入 良 ぶい黄橙色	127土坑

弥生土坑遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文 様 ・ 整 形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
183-70 139	甕	②8.8 ③8.2	底部	外面は縦方向のミガキ。炭化物が付着している。網代痕。内面は斜方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	127土坑
183-71 139	甕	②13.0 ③6.0		外面は縦方向のミガキ。炭化物が付着している。内面は輪積み痕が残る、炭化物が付着。	中粒の砂を混入 良 灰褐色	127土坑
183-72 139	甕	厚0.6~0.7		口唇部に押捺痕、縦位の条痕が施されている。内面は横方向の粗い調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 赤褐色	127土坑
183-73 139	甕	厚0.5~0.6		外面は横方向の条痕が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 におい黄橙色	127土坑
183-74 139	甕	厚0.2~0.4		口唇部に刺突、外面はハケメ、横位の条痕が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 におい黄橙色	127土坑
183-75 139	甕	厚0.5~0.6		外面は横位の沈線が施されている。炭化物付着。内面は横方向の粗い調整。一部に輪積み痕が残る。	細粒の砂を混入 良 におい赤褐色	127土坑
183-76 139	甕	厚0.6~0.7		外面はハケメ、斜位の沈線が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 黒褐色	127土坑
183-77 139	壺	厚0.6~0.7		外面は横位の沈線、竹管による刺突が行われている。内面は丁寧な調整が行われている。	中粒の砂を混入 やや良 明赤褐色	127土坑
183-78 139	甕	厚0.5~0.7		外面は条痕が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 非常に良 におい黄橙色	127土坑
183-80 139	甕	①31.0 ②36.9③7.6	口縁部はや や外反	口唇部と器面に縄文施文。原体はL ₁ 横位。横位の沈線間に波状文。内面は横・縦ミガキ。炭化物付着。網代痕。	中粒の砂を混入 良 褐灰色	140土坑
184-81 139	壺	②23.9 ③5.8		外面は沈線による区画。刺突が施されている。内面は横方向の調整。輪積み痕が残っている。	粗粒の砂を混入 不良 におい赤褐色	140土坑
184-82 139	壺	②4.6 ③8.1	底部	外面は横方向の調整。木葉痕。内面は丁寧な調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 におい黄橙色	140土坑
184-83 139	甕	②18.0 ③8.0		外面は縦方向のミガキ。輪積み痕が残る。網代痕。内面は横方向の調整。炭化物が付着している。	中粒の砂を混入 良 褐灰色	140土坑
184-84 139	甕	厚0.5~0.7	口縁部はや や外反	外面は縄文施文。原体はL ₁ 横位。器面は柔軟。内面は横方向の調整、炭化物が付着している。	粗粒の砂を混入 やや良 灰褐色	140土坑
184-85 139	甕	厚0.5~0.7	口縁部はや や外反	外面は縄文施文。原体はR ₁ 横位。沈線が施されている。内面は横方向の調整。	細粒の砂を混入 非常に良 黒褐色	140土坑
184-86 139	甕	厚0.5~0.6		口唇部に刺突、条痕が施されている。内面は丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 橙色	140土坑
184-87 139	甕	厚0.4~0.5		口唇部は平坦。波状文が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 非常に良 黒褐色	140土坑
184-88 139	壺	厚0.5~0.6		外面は横位の沈線内に刺突が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 橙色	140土坑
184-89 139	壺	厚0.7		外面は沈線による区画が施されている。内面は横方向の丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入 やや良 橙色	140土坑
184-90 139	甕	厚0.5~0.6		外面は矢羽根状の条痕が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	140土坑
184-91 139	壺	厚0.5~0.7		外面は縄文施文。原体はL ₁ 横位。沈線が施されている。内面は丁寧な調整、一部に輪積み痕が残る。	細粒の砂を混入 良 明赤褐色	140土坑
184-92 139	甕	厚0.5~0.7		外面は縦位の条痕が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入 良 におい橙色	140土坑
184-94 139	壺	①12.0 ②21.8③6.3	筒形	口唇部刺突、口縁直下に縦位の短沈線。以下器面を2分割し、横位・縦位の沈線による文様。底部は網代痕。	細粒の砂を混入 良 におい赤褐色	141土坑
184-95 139	甕	①23.0 ②16.0	口縁部はや や外傾	口唇部に刺突。器面ハケメ。輪積み痕が残る。炭化物付着。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 におい赤褐色	141土坑
184-96 139	壺	②2.5 ③5.8	底部	外面は縦方向の調整が行われている。内面は横方向の調整、底面周辺は磨耗。	細粒の砂を混入 良 におい赤褐色	141土坑
184-97 139	甕	厚0.6~0.8	口縁部はや や外反	口唇部は平坦。条痕が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 非常に良 赤褐色	141土坑
184-98 139	甕	厚0.6~0.8	口縁部は肥 厚する	口唇部に刺突が施されている。内面は横方向の調整。輪積み痕が残る。	中粒の砂を混入 良 におい黄橙色	141土坑
184-99 139	甕	厚0.6~0.7	口唇部平坦	口唇部に刺突。条痕が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 橙色	141土坑
184-100 139	甕	厚0.5~0.7		口唇部に縄文。横位の条痕が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入 良 黒褐色	141土坑
184-101 139	甕	厚0.7	折り返し口 縁	口唇部に刺突。沈線が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入 良 褐灰色	141土坑

弥生土坑遺物観察表 (①口径 ②器高 ③底径)

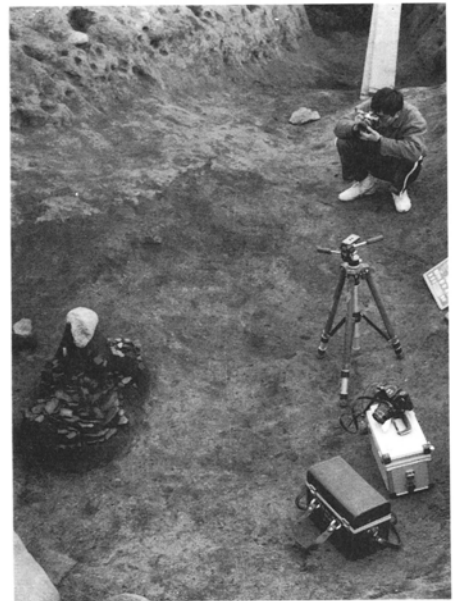
図番 PL	器種	法量 (cm)	器形・成形	文様・整形	胎土・焼成・色	出土状況・備考
184-102 139	甕	厚0.7~0.9		口唇部・器面に縄文施文。原体はLⅠ。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入良 黒褐色	141土坑
184-103 139	甕	厚0.7		外面は沈線が施されている。炭化物が付着。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入良 におい橙色	141土坑
184-104 139	壺	厚0.7		外面は縄文施文。原体不明。沈線と円形竹管による刺突が施されている。内面は横方向の丁寧な調整。	細粒の砂を混入良 におい黄橙色	141土坑
184-105 139	甕	厚0.7		外面は縄文施文。原体はLⅠ。内面は横方向の調整。一部に輪積み痕が認められる。	中粒の砂を混入良 黒褐色	141土坑
184-106 139	甕	厚0.7		外面は矢羽根状の条痕が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入良 におい褐色	141土坑
185-107 139	甕	厚0.7~0.8		外面は縦位の条痕が施されている。炭化物が付着。内面は横方向の調整。輪積み痕が残っている。	中粒の砂を混入良 褐色	141土坑
185-108 139	甕	厚0.6~0.8		外面は横位の沈線と波状文。内面は横方向の調整。輪積み痕が明瞭に残る。	粗粒の砂を混入良 黒褐色	141土坑
185-110 139	甕	②11.0 ③4.3	胴部~底部	外面はハケメ、炭化物付着。網代痕。内面はやや丁寧な調整が行われている。	中粒の砂を混入良 暗赤褐色	198土坑
185-111 139	壺	②5.4 ③1.2	底部	外面は縦ミガキが行われている。網代痕。内面は丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入良 におい橙色	198土坑
185-112 139	壺	②4.5 ③1.4	底部	外面は縦ミガキが行われている。内面は炭化物が付着している。	細粒の砂を混入良 におい橙色	198土坑
185-113 139	甕	厚0.5~0.7	口縁部は外傾	口唇部・器面に縄文施文。原体はLⅠ横位。横位・斜位の沈線。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入非常に良 褐色	198土坑
185-114 139	甕	厚0.5	口縁はやや外傾	外面は半截竹管による菱形の文様が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入良 褐色	198土坑
185-115 139	甕	厚0.4~0.7		外面は横位の条痕が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	細粒の砂を混入良 黒褐色	198土坑
185-116 139	壺	厚0.7		外面は沈線による区画が施されている。内面は横方向の丁寧な調整が行われている。	中粒の砂を混入やや良 におい橙色	198土坑
185-117 139	壺	厚0.7~0.9		外面は縄文施文。原体はLⅠ。横位の沈線が施されている。内面は横方向の丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入良 灰褐色	198土坑
185-118 139	壺	厚0.5		外面は横位の沈線、刺突が施されている。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入良 灰褐色	198土坑
185-119 139	甕	厚0.6~0.7		外面は縄文施文。原体はLⅠ。沈線による三角形の文様、炭化物付着。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入良 黒褐色	198土坑
186-124 139	小型	①3.8 ②3.9③4.0		外面はナデ、口縁部に4個の穿孔。内面は丁寧なナデ。	細粒の砂を混入良 暗褐色	216土坑
186-125 139	甕	厚0.5~0.6	口縁部はやや外反	口唇部に刻み目、矢羽根状の条痕が施されている。内面は横方向のミガキが行われている。	中粒の砂を混入良 黒褐色	216土坑
186-126 139	甕	厚0.6~1.0	口縁部はやや外反	口唇部に刻み目、矢羽根状の条痕が施されている。内面は横方向の調整が行われている。	中粒の砂を混入良 灰褐色	216土坑
186-127 139	甕	厚0.4~0.6		口唇部に刻み目、縦位の条痕が施されている。内面は横方向のミガキが行われている。	細粒の砂を混入良 橙色	216土坑
186-128 139	壺	厚0.3~0.5	口縁部は内湾	口唇部・器面に縄文施文。原体はLⅠ。沈線による文様。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入良 におい黄橙色	216土坑
186-129 139	甕	厚0.6~0.7		外面は矢羽根状、横位の条痕が施されている。炭化物が付着。内面は丁寧な調整が行われている。	細粒の砂を混入良 黒褐色	216土坑
186-130 139	壺	厚0.5~0.6		外面に横位の沈線、区画内に縦位の沈線が施されている。内面は縦ミガキが行われている。	細粒の砂を混入良 赤褐色	216土坑
186-131 139	壺	厚0.6~0.7		外面は横位の沈線が施されている。内面は縦ミガキが行われている。	中粒の砂を混入良 におい橙色	216土坑
186-132 139	甕	厚0.3~0.4		外面は縄文施文。原体はLⅠ。炭化物が付着している。内面は横ミガキが行われている。	細粒の砂を混入良 黒褐色	216土坑
186-133 139	深鉢	厚1.1~1.4	底部、平底	外面は粗い調整が行われている。炭化物付着。内面は横方向のミガキが行われている。	中粒の砂を混入良 明赤褐色	194土坑 (縄文中期)
186-134 139	深鉢	②11.0 ③8.8	口縁部は内湾	半截竹管による平行沈線が施されている。内面は横方向のミガキが行われている。	中粒の砂を混入良 におい赤褐色	194土坑 (縄文中期)
186-135 139	深鉢	厚0.8~1.1		竹管による縦位・横位の沈線、刺突が施されている。内面は丁寧な調整が行われている。	中粒の砂を混入良 明赤褐色	194土坑 (縄文中期)

弥生土坑遺物観察表

図番 PL	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm、g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
180-2 138	石鍬	ほぼ完形	安山岩	16.8	7.6	2.9	(401.5)		14土坑
181-25 138	磨石	完形	安山岩	5.8	6.0	5.8	346	敲打痕と磨耗痕が認められる。	20土坑
181-26 138	磨石	1/2	安山岩	(4.2)	3.2	2.0	(27)	磨耗痕が認められる。	20土坑
181-39 138	磨石	2/3	安山岩	(8.9)	9.4	6.2	(769)	両面に磨耗痕と敲打痕が認められる。	74土坑
181-40 138	砥石	1/2	砂岩	(5.8)	7.5	1.5	(89)	両面に太い条痕が認められる。	74土坑
181-41 138	石鍬	基部欠損	安山岩	(8.5)	7.2	2.7	(212.4)		74土坑
182-55 138	砥石	1/2	砂岩	(7.6)	7.2	1.6	(97)	両面使用。凹みも認められる。	84土坑
183-66 139	磨石・敲石	完形	安山岩	9.2	7.0	6.6	594	磨耗痕と敲打痕が認められる。	126土坑
183-67 139	石鍬	刃部欠損	安山岩	(14.8)	9.6	3.5	(454.8)		126土坑
183-79 139	磨石	部分	安山岩	(5.5)	(8.6)	(1.2)	(80)	磨耗痕が認められる。	127土坑
184-93 139	凹石	完形	絹雲母石墨片岩	12.4	7.5	3.1	477	両面に計3個の凹みが認められる。	140土坑
185-109 139	磨石	完形	安山岩	9.8	7.2	6.0	619	両面に磨耗痕が認められる。部分的に焼けている。	141土坑
185-120 139	砥石	一部欠損	砂岩	17.4 (12.3)	3.2		(734)	両面使用。	198土坑
185-121 139	石鍬	基部欠損	安山岩	(10.6)	8.3	3.2	(334)		198土坑
185-122 139	石鍬	基部欠損	安山岩	(12.1)	9.2	3.2	(349.1)		198土坑
185-123 139	打製石斧	一部欠損	安山岩	10.6	4.4	1.3	(55.1)		198土坑
186-136 139	石匙	完形	熱変成岩	6.9	4.1	0.6	15.7		194土坑
186-137 139	打製石斧	半完形	輝岩	7.8	4.7	0.9	(44)	裏面上部にある主要剥離面と45°の角度で入っている。うすいはがれは前段の剥離面による潜在的な傷と思われる。	194土坑

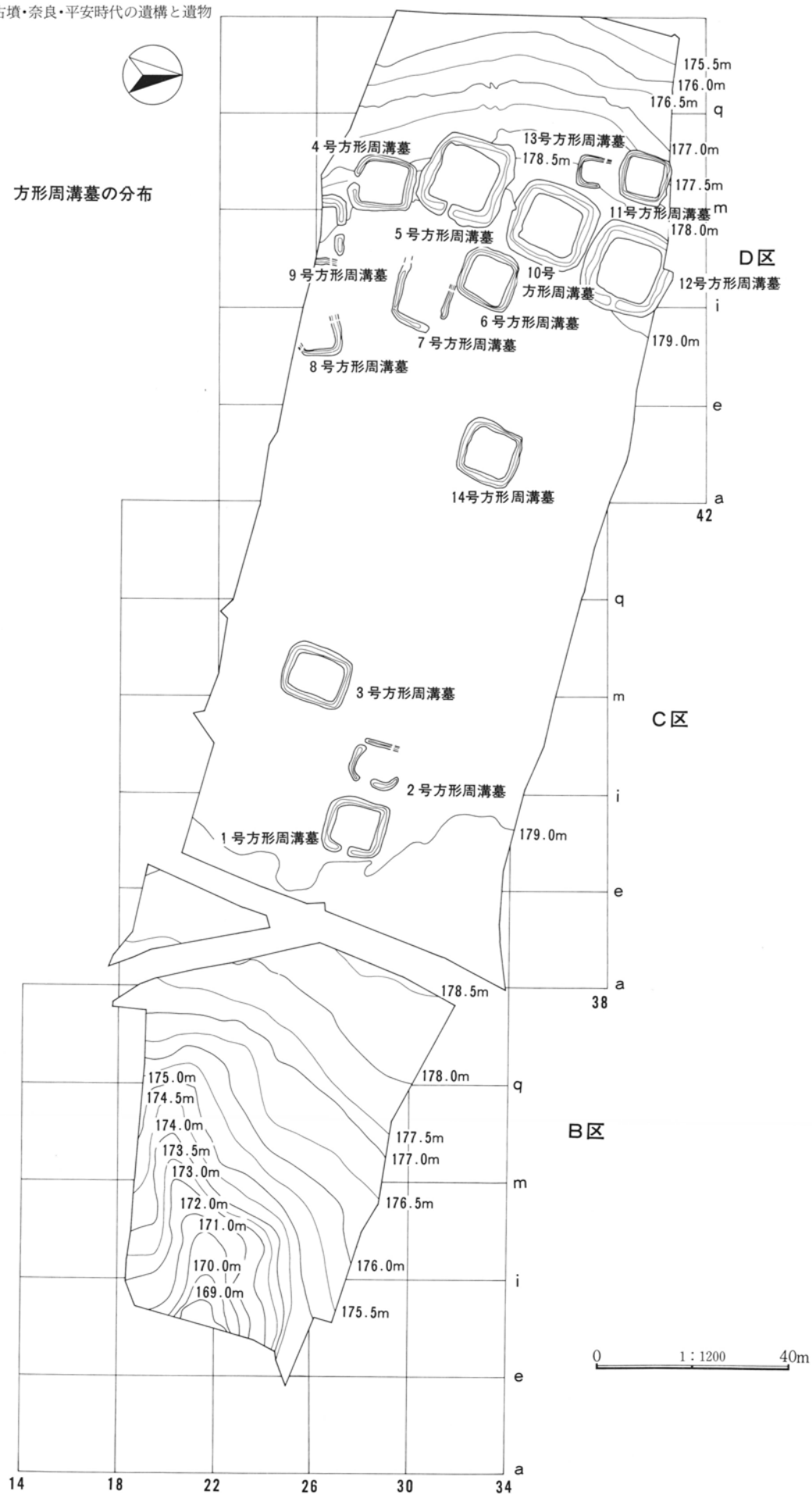
4章 古墳・奈良・平安 時代の遺構と遺物

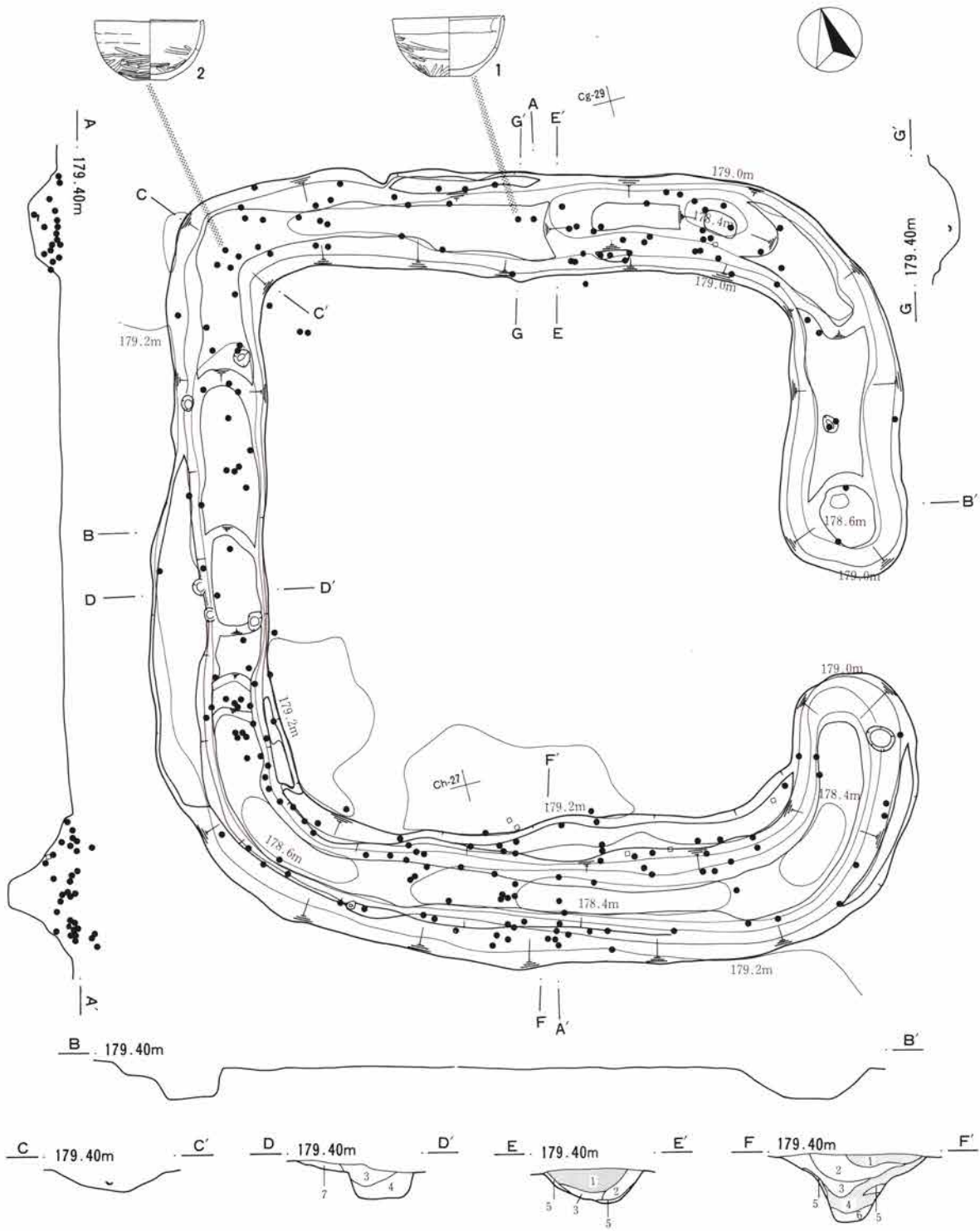
(1) 方形周溝墓



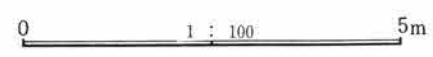
周溝内の遺物撮影

第187図 方形周溝墓の分布





- 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あまりなし。白色粒子を多量に含む。
- 2 黒褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒子・白色粒子を含む。
- 3 黒褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を含む。
- 5 黄褐色土層 壁の崩れ。
- 6 暗褐色土層 やわらかくて締まりよい。ロームブロック・粒子を含む。
- 7 暗褐色土層 固く締まり粘性あまりなし。ロームブロック・粒子を少量含む。



第188図 1号方形周溝墓

1号方形周溝墓(第188・189図、PL.50・139)

位置 Cf-26~28、Cg-26~28、Ch-26~28グリッドにかけて検出された。2号方形周溝墓の東約3mの所に位置している。

重複 なし。

形状 長軸を南北にもち、方台部および周溝を含めた全形は、ほぼ正方形を呈する。方台部は長辺8.9m、短辺8.1mで、全形は長辺12.6m、短辺12mを測る。

面積 方台部は72.1㎡、全形は140.2㎡である。

方位 N-13°-E。

主体部 検出できなかった。

周溝 上幅150~240cm、下幅36~100cm、深さ30~110cmを測る。南溝が深い。断面はU字形を呈する。溝は全周せずに、東溝中央やや南側で途切れている。

遺物 完形土器2点が北溝中央と北西コーナーから出土している。また覆土中からは縄文土器片167点、弥生土器片139点、石器・剝片等13点、その他土器片265点が出土した。



第189図 1号方形周溝墓出土遺物

1号方形周溝墓遺物観察表(①口径 ②器高 ③底径)

図番 PL	土器種別 器種	法量 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
189-1 139	埴	①11.6 ②5.8③4.0	①細粒の砂を混入 ②非常に良 ③内外面の色調はにぶい橙色	外 ナデ、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	北溝中央	完形
189-2 139	埴	①10.5 ②5.7③3.5	①細粒の砂を混入 ②非常に良 ③内外面の色調はにぶい橙色	外 ナデ、ミガキ。 内 ナデ、ミガキ。	北西コー ナー	一部欠損

2号方形周溝墓(第190図、PL.51)

位置 Ci-27~29、Cj-27~29、Ck-28グリッドにかけて検出された。1号方形周溝墓の西約3mの所に位置している。

重複 新しい溝によってその一部を壊されている。

形状 長軸を南北にもち、方台部および周溝を含めた全形は、方形を呈する。方台部は長辺8m、短辺7mで、全形は長辺15m、短辺9mを測る。

面積 方台部は52.6㎡、全形は85.1㎡である。

方位 N-23°-E。

主体部 検出できなかった。

周溝 上幅70~180cm、下幅40~150cm、深さ20~35cmを測る。断面はU字形を呈する。溝は全周せずに、東溝中央やや南側、南西コーナー、北溝中央で途切れている。

遺物 溝覆土中からは縄文中期土器片48点、弥生土器片24点、礫1点等が出土している。